

泉佐野市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

泉佐野市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. クロス集計および分析結果	182
3-1. 基本情報	182
(1) 経済状況	182
(2) 家庭状況（制度等）	201
3-2. 雇用	248
3-3. 健康	256
3-4. 家庭生活、学習	298
3-5. 対人関係	358
III 総合考察	426
1) 大阪府共同調査の意義	426
2) 単純集計	426
3) クロス集計	429
まとめ	431
IV 資料編	439

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「こどもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group（CPAG）が示している、①所得や資産など経済的資本（capital）の欠如、②健康や教育など人的資本（human capital）の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本（social capital）の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

泉佐野市では、子どもたちが積極的に自分の生き方を選択し、自立できるよう様々な施策を実施している中、今後、効果的な子どもの貧困対策を検証するために調査を実施し、得られた結果を分析することによって、支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検証することを目的としている。

2. 調査方法

泉佐野市内の調査対象の世帯に、学校を通じて調査票を配付し、回収を得たもの。

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

小学校5年生・その保護者（762世帯） 中学校2年生・その保護者（705世帯）

5. 調査実施日

泉佐野市：令和5年8月29日～令和5年9月29日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
泉佐野市	小学5年生	60.4	460	762
	小学5年生の保護者	63.3	482	762
	中学2年生	40.4	285	705
	中学2年生の保護者	44.3	312	705
	小学5年生・中学2年生合計	50.8	745	1,467
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	54.1	794	1,467
	計	52.5	1,539	2,934
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は14,626件、回収率75.0%であった。

7. 調査実施主体

泉佐野市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 教授 山野 則子（業務責任者） 特任講師 橋本 麿和 シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟
協力者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 准教授 嵯峨 嘉子
研究補助者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科 准教授 牛 冰 武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀 大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍 奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 研究員 黄 健育 渡邊 陽亮 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾 松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、泉佐野市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。泉佐野市のデータについては既に「Ⅰ 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体について

データの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「泉佐野市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

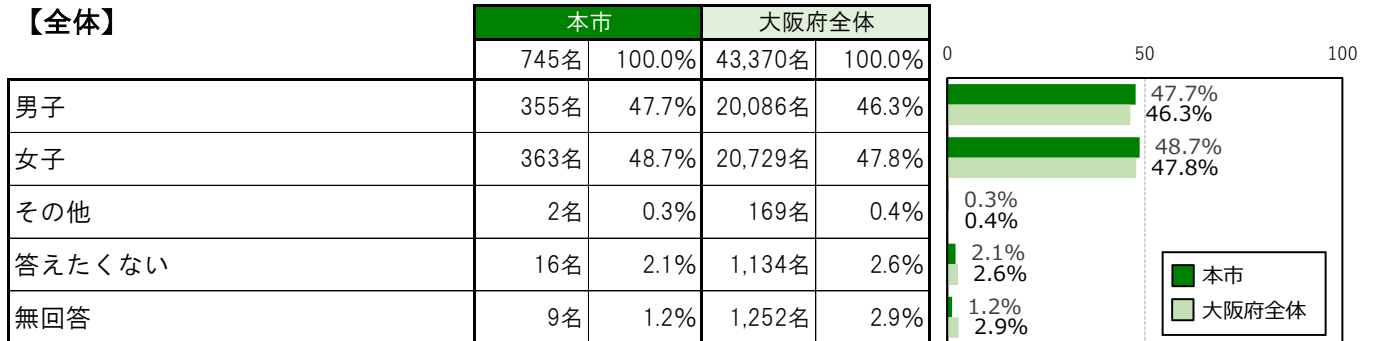
泉佐野市

回答者の属性

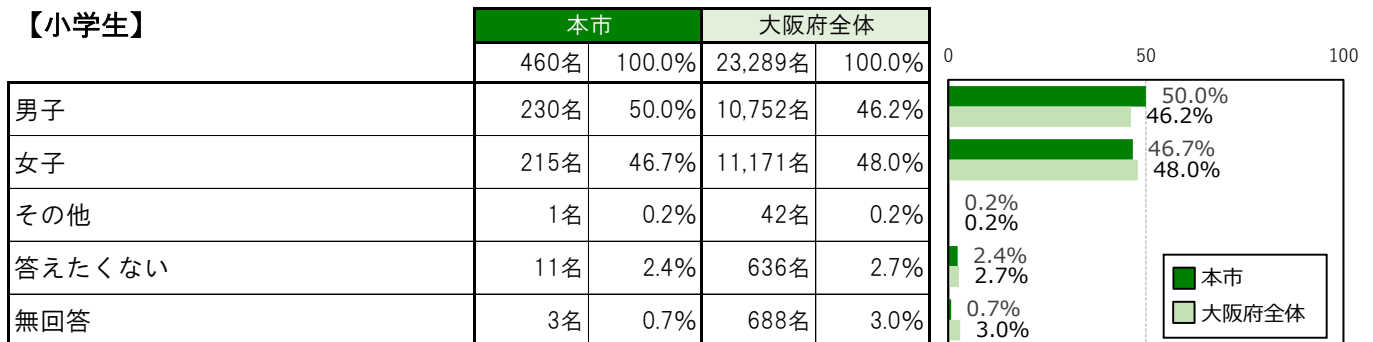
問27 性別

全体は、「男子」が47.7%、「女子」が48.7%となっている。
小学生は、「男子」が50.0%、「女子」が46.7%となっている。
中学生は、「男子」が43.9%、「女子」が51.9%となっている。

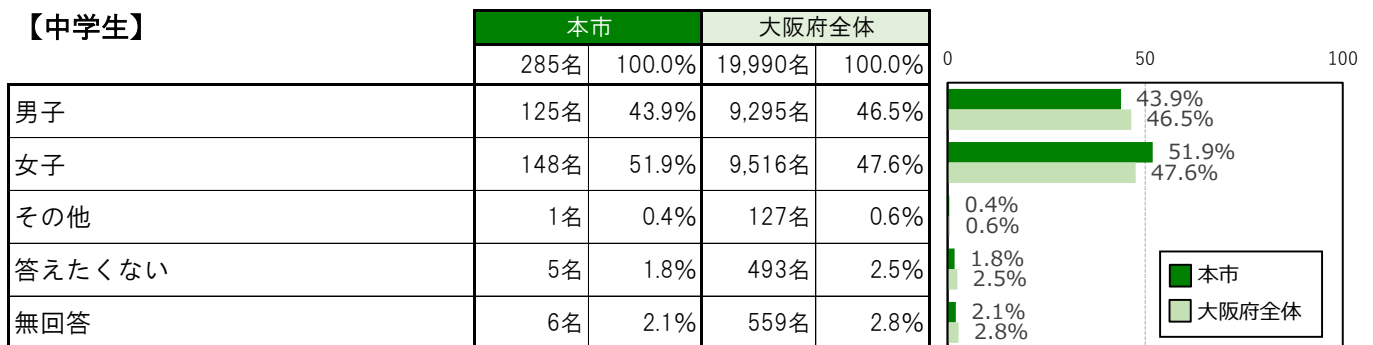
【全体】



【小学生】



【中学生】



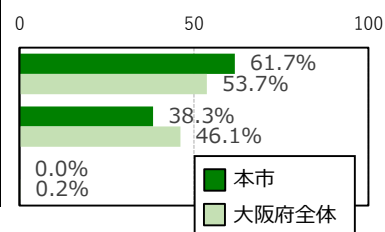
回答者の属性

問1 学年

子どもの学年は、「小学生」が460名・61.7%、「中学生」が285名・38.3%となっている。

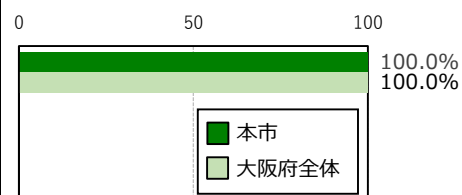
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	460名	61.7%	23,289名	53.7%
中学生	285名	38.3%	19,990名	46.1%
無回答	-	-	91名	0.2%



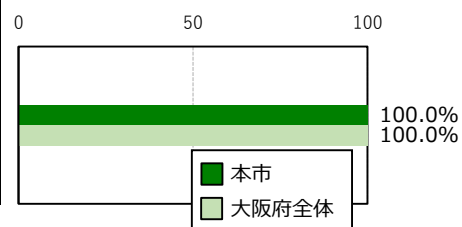
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	460名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	285名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

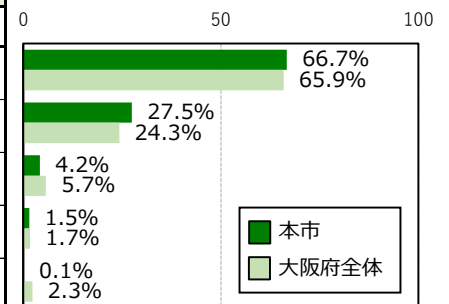
全体は、「起きている」が66.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が27.5%、「あまり、起きていない」が4.2%、「起きていない」が1.5%となっている。

小学生は、「起きている」が66.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が28.5%、「あまり、起きていない」が3.5%、「起きていない」が1.7%となっている。

中学生は、「起きている」が67.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が26.0%、「あまり、起きていない」が5.3%、「起きていない」が1.1%となっている。

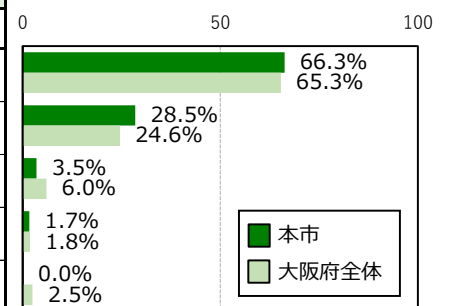
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
起きている	497名	66.7%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	205名	27.5%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	31名	4.2%	2,478名	5.7%
起きていない	11名	1.5%	741名	1.7%
無回答	1名	0.1%	1,018名	2.3%



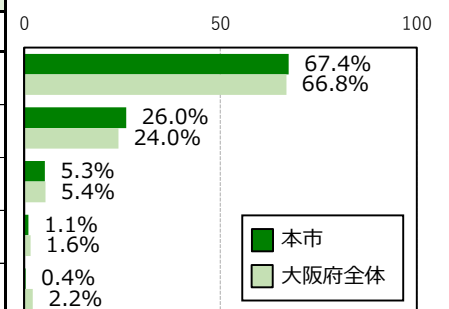
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
起きている	305名	66.3%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	131名	28.5%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	16名	3.5%	1,386名	6.0%
起きていない	8名	1.7%	410名	1.8%
無回答	-	-	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
起きている	192名	67.4%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	74名	26.0%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	15名	5.3%	1,088名	5.4%
起きていない	3名	1.1%	328名	1.6%
無回答	1名	0.4%	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

全体は、「午後10時台」が33.8%で最も多く、次いで「午後11時台」が22.8%、「午後9時台」が20.1%、「午前0時台」が9.0%となっている。

小学生は、「午後10時台」が43.0%で最も多く、次いで「午後9時台」が29.1%、「午後11時台」が14.3%、「きまっていない」が7.4%となっている。

中学生は、「午後11時台」が36.5%で最も多く、次いで「午前0時台」が21.4%、「午後10時台」が18.9%、「きまっていない」が10.9%となっている。

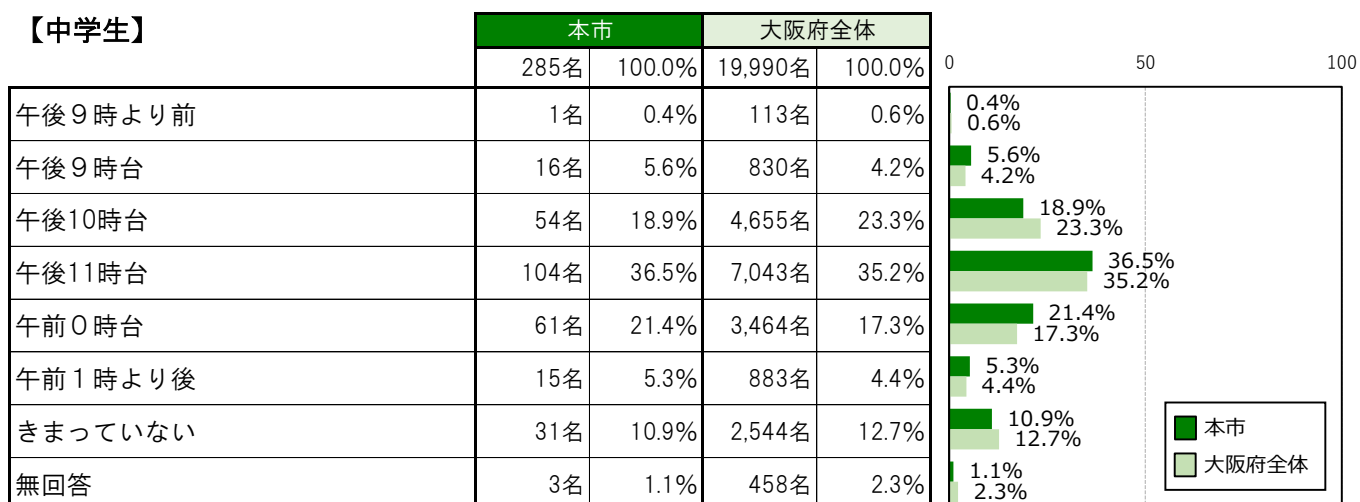
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

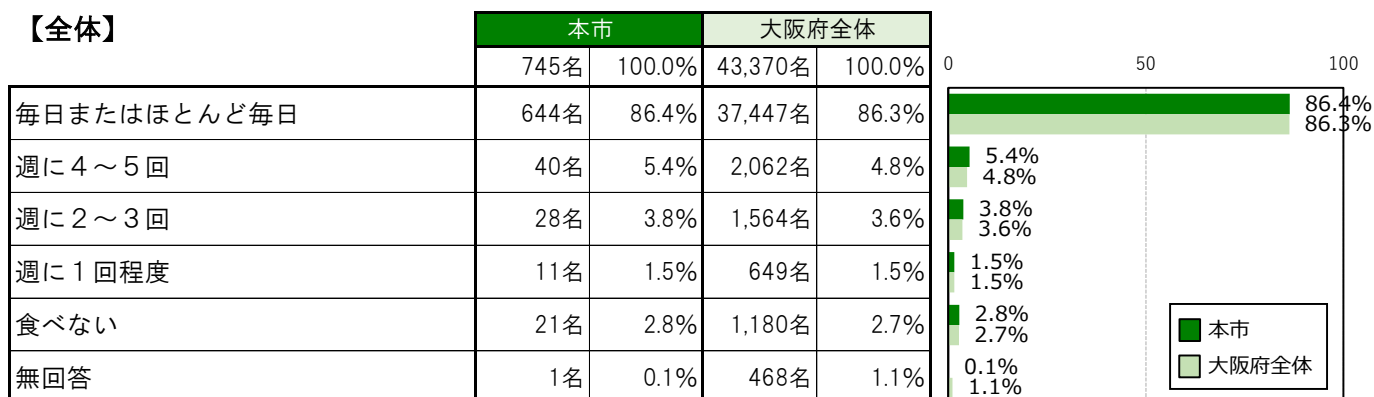
問4（1）朝食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が86.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が5.4%、「週に2～3回」が3.8%、「食べない」が2.8%となっている。

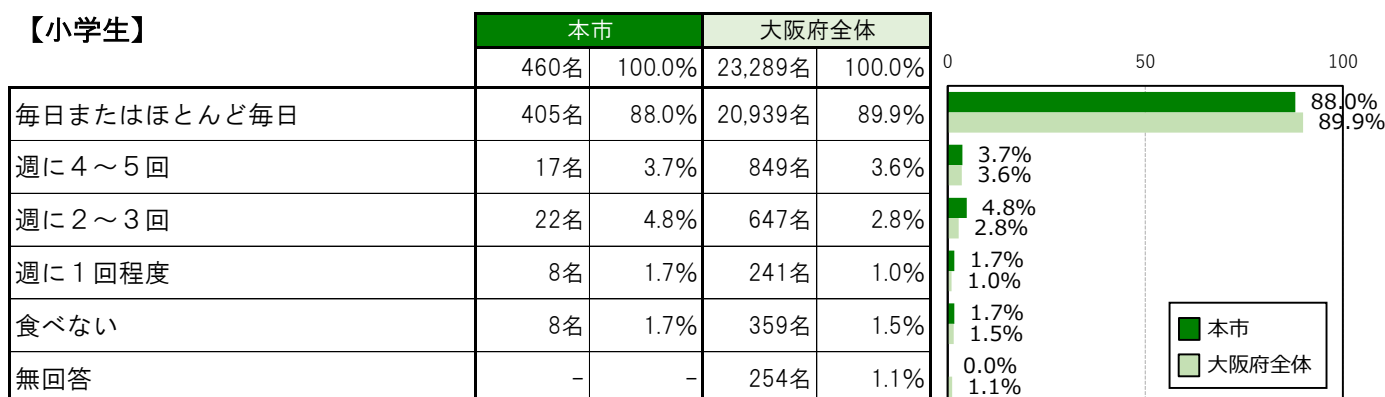
小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が88.0%で最も多く、次いで「週に2～3回」が4.8%、「週に4～5回」が3.7%、「週に1回程度」、「食べない」がそれぞれ1.7%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が83.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」が8.1%、「食べない」が4.6%、「週に2～3回」が2.1%となっている。

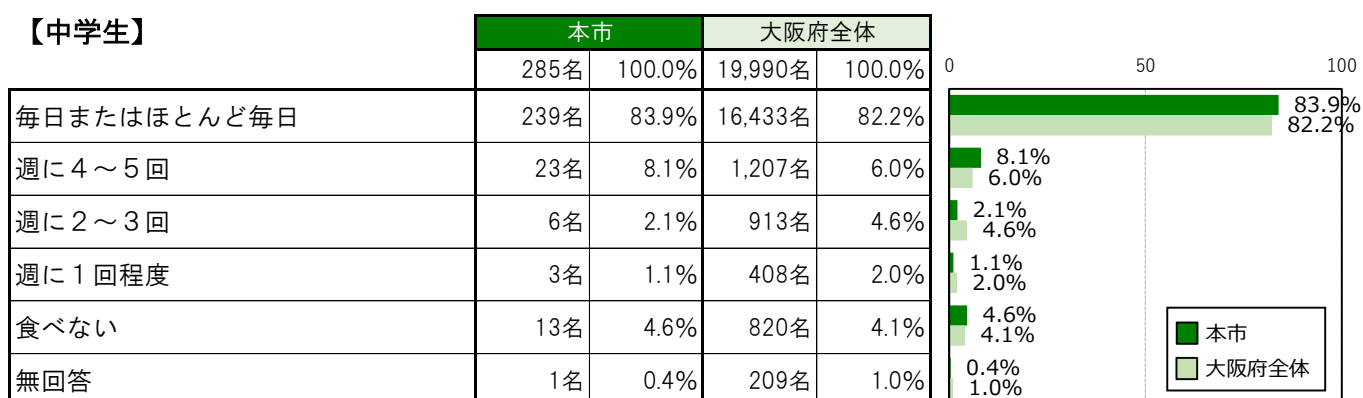
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問4（2）朝食を食べない理由

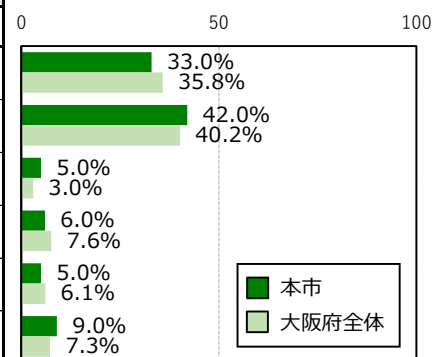
全体は、「おなかがすいていない」が42.0%で最も多く、次いで「時間がない」が33.0%、「食べる習慣がない」が6.0%、「用意されていない」が5.0%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が49.1%で最も多く、次いで「時間がない」が25.5%、「用意されていない」が9.1%、「食べる習慣がない」が3.6%となっている。

中学生は、「時間がない」が42.2%で最も多く、次いで「おなかがすいていない」が33.3%、「食べる習慣がない」が8.9%となっている。

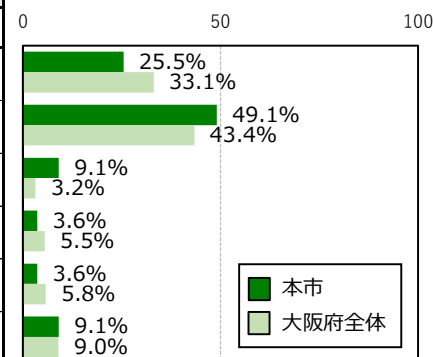
【全体】

	本市		大阪府全体	
	100名	100.0%	5,455名	100.0%
時間がない	33名	33.0%	1,954名	35.8%
おなかがすいていない	42名	42.0%	2,194名	40.2%
用意されていない	5名	5.0%	162名	3.0%
食べる習慣がない	6名	6.0%	414名	7.6%
わからない	5名	5.0%	334名	6.1%
無回答	9名	9.0%	397名	7.3%



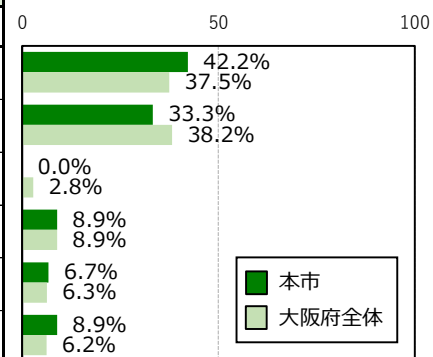
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	2,096名	100.0%
時間がない	14名	25.5%	694名	33.1%
おなかがすいていない	27名	49.1%	909名	43.4%
用意されていない	5名	9.1%	68名	3.2%
食べる習慣がない	2名	3.6%	116名	5.5%
わからない	2名	3.6%	121名	5.8%
無回答	5名	9.1%	188名	9.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	45名	100.0%	3,348名	100.0%
時間がない	19名	42.2%	1,257名	37.5%
おなかがすいていない	15名	33.3%	1,280名	38.2%
用意されていない	-	-	94名	2.8%
食べる習慣がない	4名	8.9%	298名	8.9%
わからない	3名	6.7%	212名	6.3%
無回答	4名	8.9%	207名	6.2%



ふだんの生活のことについて

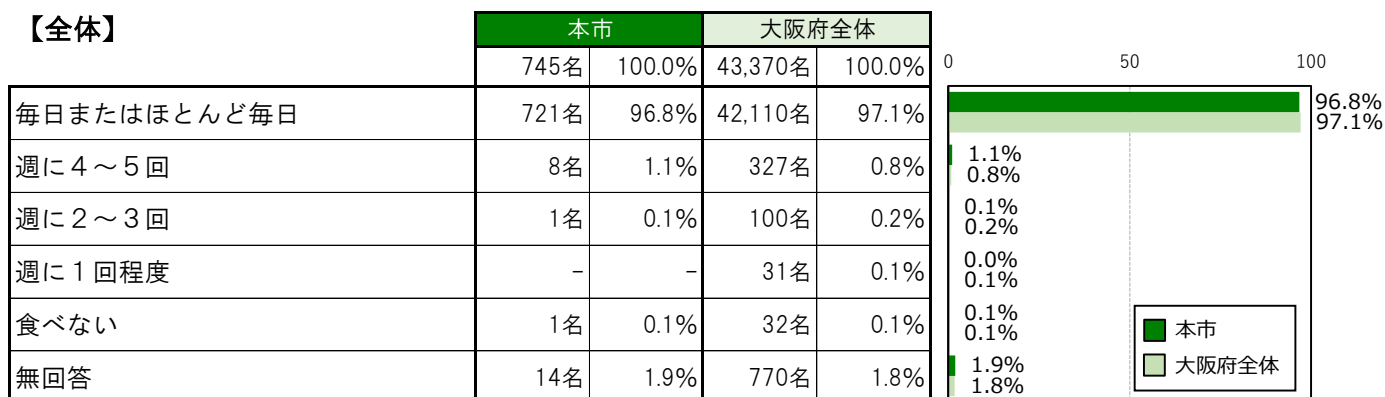
問5（1）夕食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が96.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.1%、「週に2～3回」、「食べない」がそれぞれ0.1%となっている。

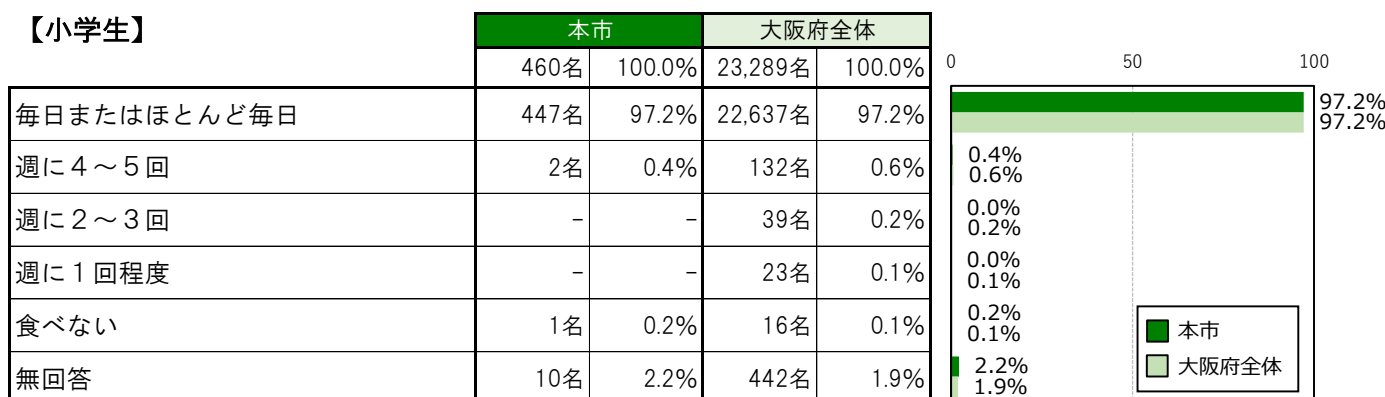
小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.4%、「食べない」が0.2%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が96.1%で最も多く、次いで「週に4～5回」が2.1%、「週に2～3回」が0.4%となっている。

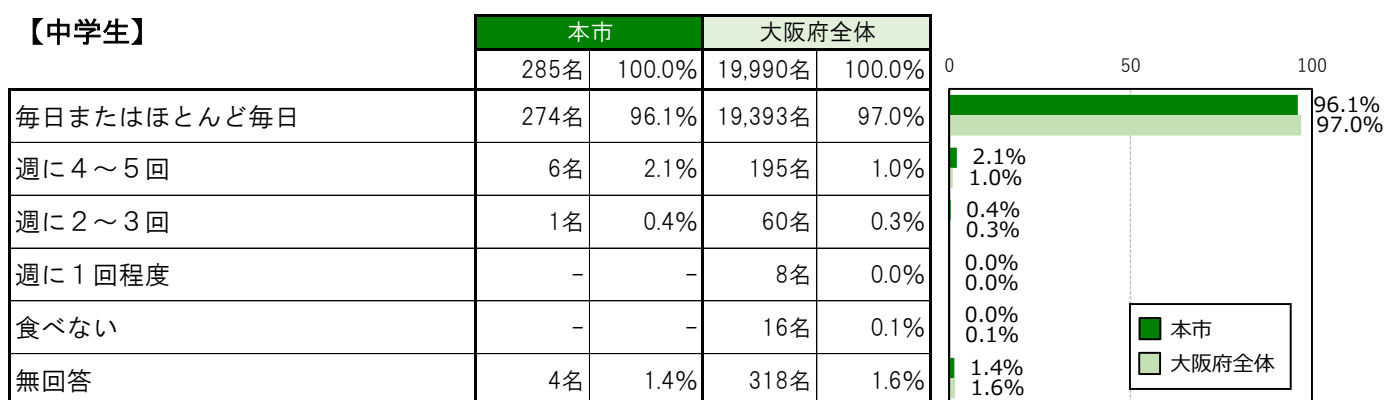
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問5（2）夕食を食べない理由

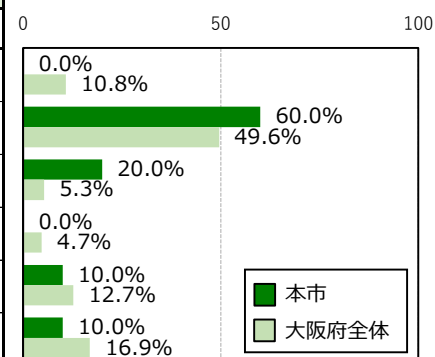
全体は、「おなかがすいていない」が60.0%（6名）で最も多く、次いで「用意されていない」が20.0%（2名）となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」、「用意されていない」がそれぞれ33.3%（1名）となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が71.4%（5名）で最も多く、次いで「用意されていない」が14.3%（1名）となっている。

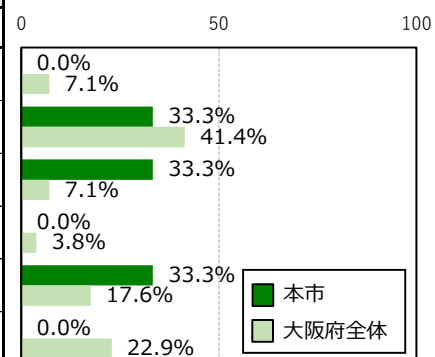
【全体】

	本市		大阪府全体	
	10名	100.0%	490名	100.0%
時間がない	-	-	53名	10.8%
おなかがすいていない	6名	60.0%	243名	49.6%
用意されていない	2名	20.0%	26名	5.3%
食べる習慣がない	-	-	23名	4.7%
わからない	1名	10.0%	62名	12.7%
無回答	1名	10.0%	83名	16.9%



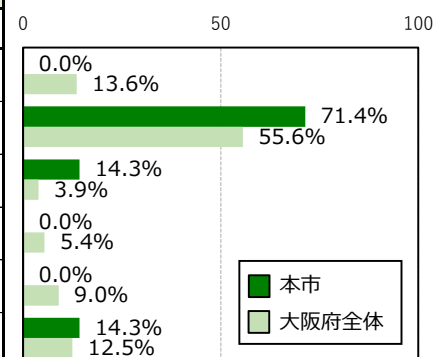
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	3名	100.0%	210名	100.0%
時間がない	-	-	15名	7.1%
おなかがすいていない	1名	33.3%	87名	41.4%
用意されていない	1名	33.3%	15名	7.1%
食べる習慣がない	-	-	8名	3.8%
わからない	1名	33.3%	37名	17.6%
無回答	-	-	48名	22.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	7名	100.0%	279名	100.0%
時間がない	-	-	38名	13.6%
おなかがすいていない	5名	71.4%	155名	55.6%
用意されていない	1名	14.3%	11名	3.9%
食べる習慣がない	-	-	15名	5.4%
わからない	-	-	25名	9.0%
無回答	1名	14.3%	35名	12.5%



ふだんの生活のことについて

問6（１）休日の昼食の頻度

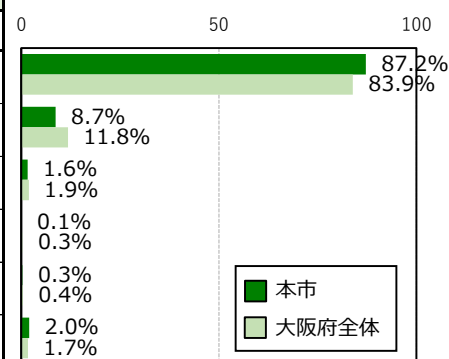
全体は、「必ず食べる」が87.2%で最も多く、次いで「食べることが多い」が8.7%、「食べないことが多い」が1.6%、「食べない」が0.1%となっている。

小学生は、「必ず食べる」が89.8%で最も多く、次いで「食べることが多い」が7.0%、「食べないことが多い」が0.9%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が83.2%で最も多く、次いで「食べることが多い」が11.6%、「食べないことが多い」が2.8%、「食べない」が0.4%となっている。

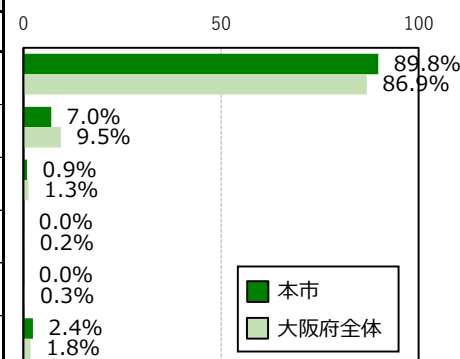
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
必ず食べる	650名	87.2%	36,388名	83.9%
食べるが多い	65名	8.7%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	12名	1.6%	830名	1.9%
食べない	1名	0.1%	117名	0.3%
わからない	2名	0.3%	180名	0.4%
無回答	15名	2.0%	737名	1.7%



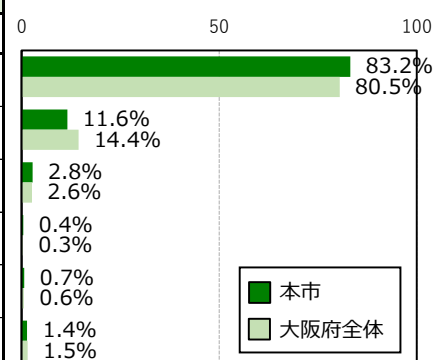
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
必ず食べる	413名	89.8%	20,227名	86.9%
食べるが多い	32名	7.0%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	4名	0.9%	306名	1.3%
食べない	-	-	51名	0.2%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	11名	2.4%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
必ず食べる	237名	83.2%	16,090名	80.5%
食べるが多い	33名	11.6%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	8名	2.8%	524名	2.6%
食べない	1名	0.4%	66名	0.3%
わからない	2名	0.7%	117名	0.6%
無回答	4名	1.4%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

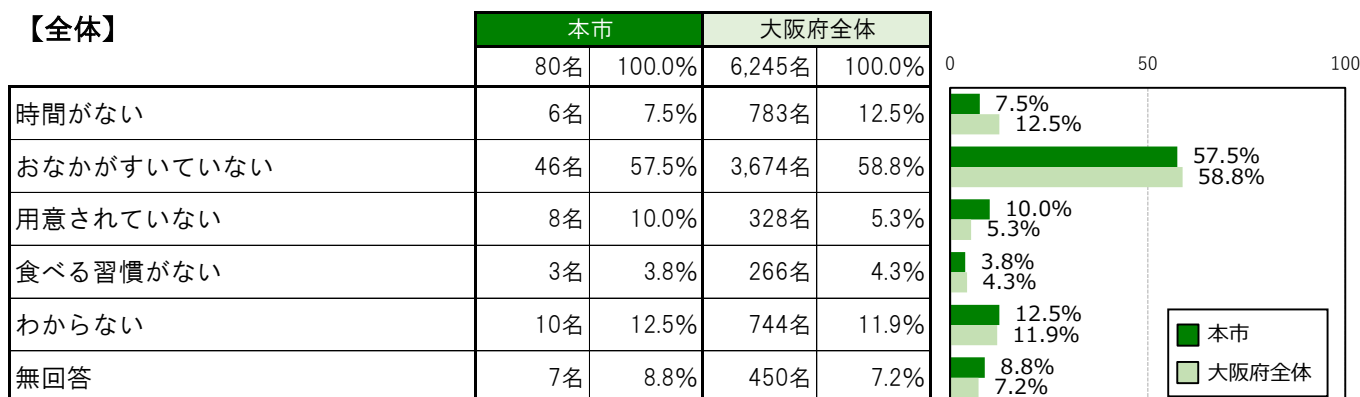
問6（2）休日に昼食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が57.5%で最も多く、次いで「用意されていない」が10.0%、「時間がない」が7.5%、「食べる習慣がない」が3.8%となっている。

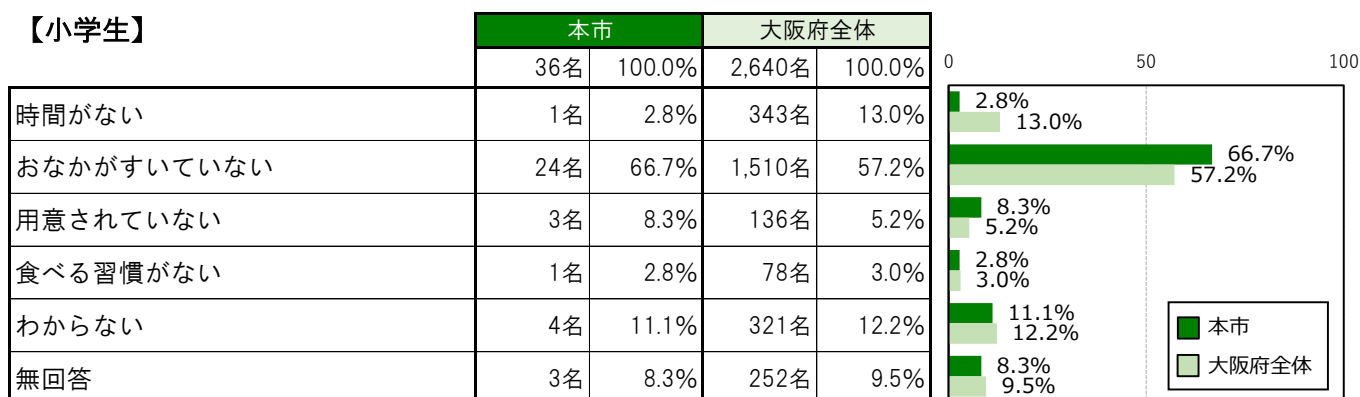
小学生は、「おなかがすいていない」が66.7%で最も多く、次いで「用意されていない」が8.3%、「時間がない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ2.8%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が50.0%で最も多く、次いで「時間がない」、「用意されていない」がそれぞれ11.4%、「食べる習慣がない」が4.5%となっている。

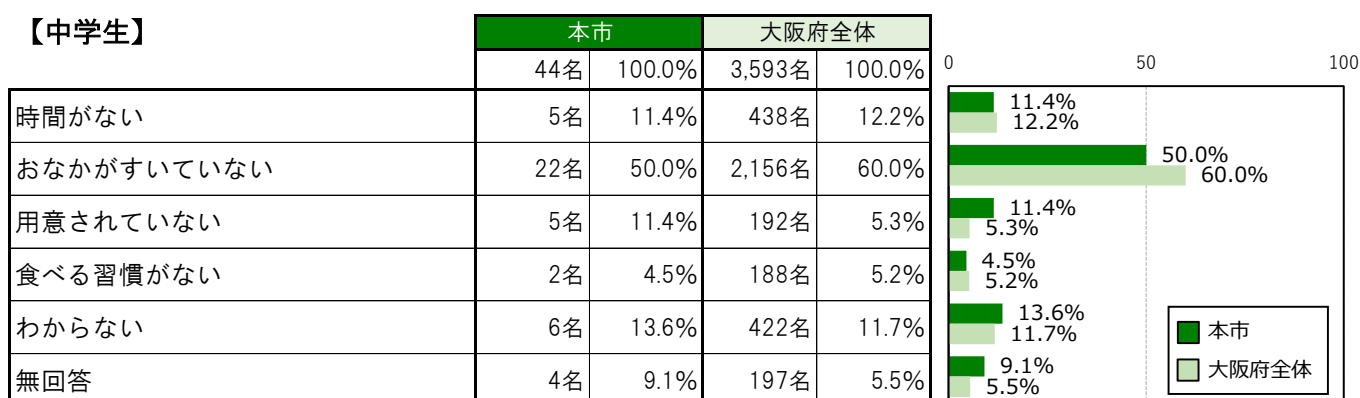
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問7 学校への遅刻

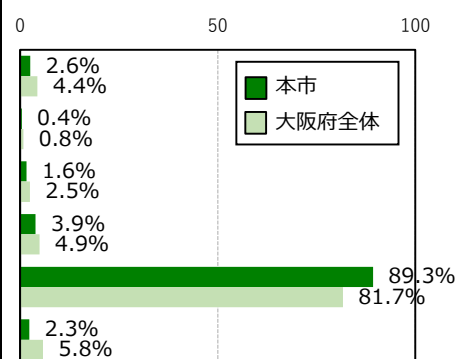
全体は、「遅刻はしない」が89.3%で最も多く、次いで「週に1回程度」が3.9%、「毎日またはほとんど毎日」が2.6%、「週に2～3回」が1.6%となっている。

小学生は、「遅刻はしない」が88.9%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」、「週に1回程度」がそれぞれ3.3%、「週に2～3回」が1.7%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が89.8%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.9%、「毎日またはほとんど毎日」、「週に2～3回」がそれぞれ1.4%となっている。

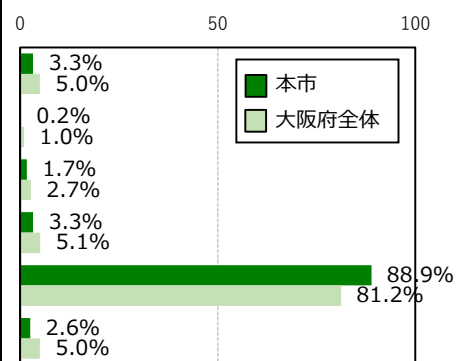
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	19名	2.6%	1,906名	4.4%
週に4～5回	3名	0.4%	333名	0.8%
週に2～3回	12名	1.6%	1,063名	2.5%
週に1回程度	29名	3.9%	2,132名	4.9%
遅刻はしない	665名	89.3%	35,435名	81.7%
無回答	17名	2.3%	2,501名	5.8%



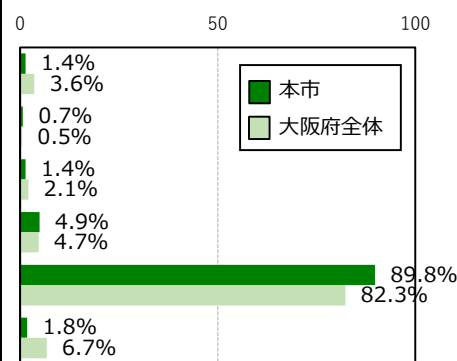
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	15名	3.3%	1,168名	5.0%
週に4～5回	1名	0.2%	223名	1.0%
週に2～3回	8名	1.7%	639名	2.7%
週に1回程度	15名	3.3%	1,194名	5.1%
遅刻はしない	409名	88.9%	18,907名	81.2%
無回答	12名	2.6%	1,158名	5.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	4名	1.4%	729名	3.6%
週に4～5回	2名	0.7%	109名	0.5%
週に2～3回	4名	1.4%	423名	2.1%
週に1回程度	14名	4.9%	935名	4.7%
遅刻はしない	256名	89.8%	16,459名	82.3%
無回答	5名	1.8%	1,335名	6.7%



ふだんの生活のことについて

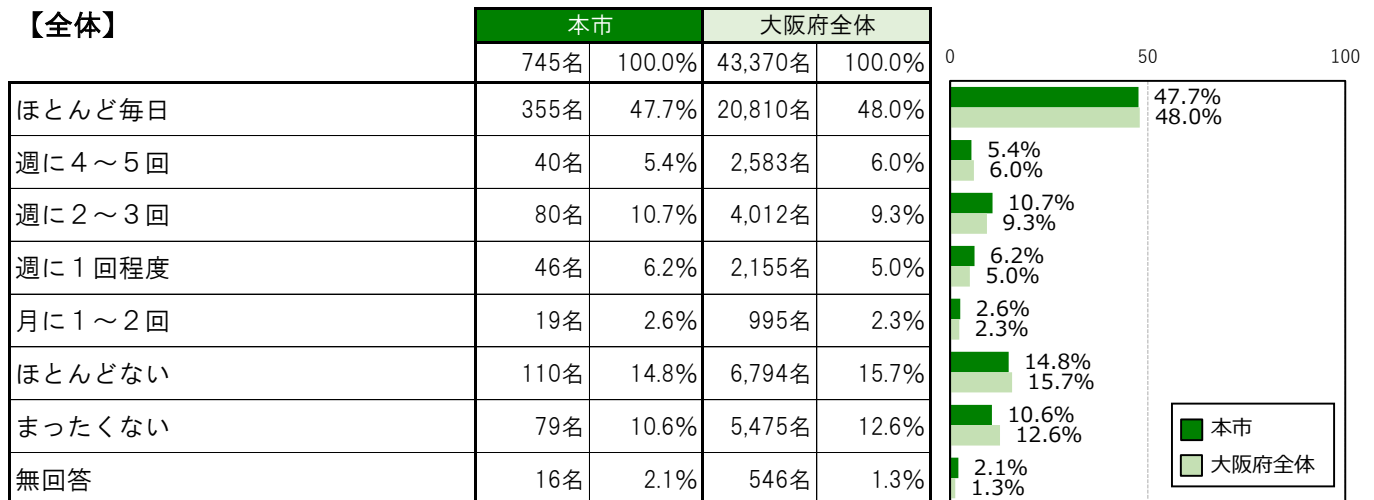
問8 保護者との関係性 ①おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか

全体は、「ほとんど毎日」が47.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.8%、「週に2～3回」が10.7%、「まったくない」が10.6%となっている。

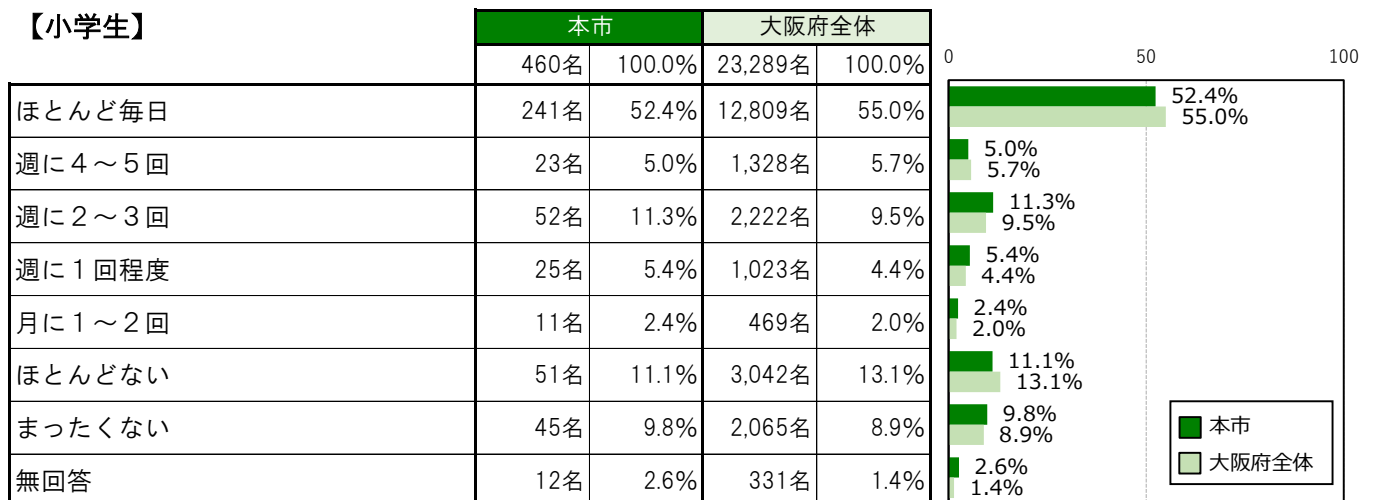
小学生は、「ほとんど毎日」が52.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」が11.3%、「ほとんどない」が11.1%、「まったくない」が9.8%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が40.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が20.7%、「まったくない」が11.9%、「週に2～3回」が9.8%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

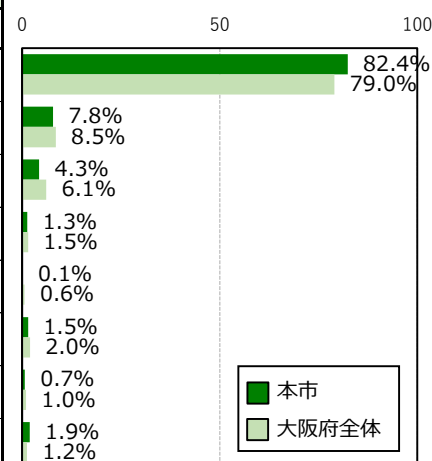
全体は、「ほとんど毎日」が82.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.8%、「週に2～3回」が4.3%、「ほとんどない」が1.5%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が85.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が5.0%、「週に2～3回」が4.1%、「ほとんどない」が1.5%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が77.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」が12.3%、「週に2～3回」が4.6%、「週に1回程度」が2.5%となっている。

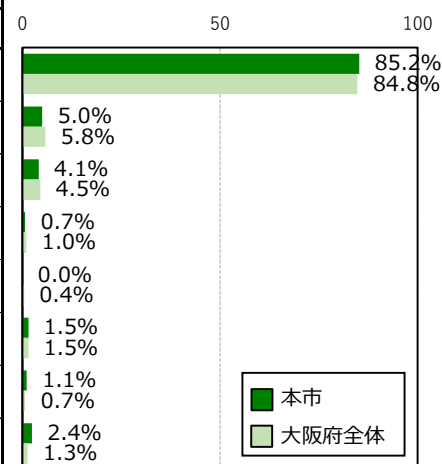
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	614名	82.4%	34,246名	79.0%
週に4～5回	58名	7.8%	3,679名	8.5%
週に2～3回	32名	4.3%	2,667名	6.1%
週に1回程度	10名	1.3%	656名	1.5%
月に1～2回	1名	0.1%	262名	0.6%
ほとんどない	11名	1.5%	889名	2.0%
まったくない	5名	0.7%	455名	1.0%
無回答	14名	1.9%	516名	1.2%



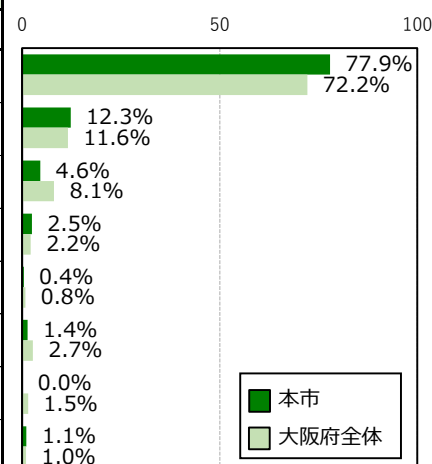
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	392名	85.2%	19,748名	84.8%
週に4～5回	23名	5.0%	1,360名	5.8%
週に2～3回	19名	4.1%	1,048名	4.5%
週に1回程度	3名	0.7%	222名	1.0%
月に1～2回	-	-	100名	0.4%
ほとんどない	7名	1.5%	349名	1.5%
まったくない	5名	1.1%	154名	0.7%
無回答	11名	2.4%	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	222名	77.9%	14,429名	72.2%
週に4～5回	35名	12.3%	2,310名	11.6%
週に2～3回	13名	4.6%	1,616名	8.1%
週に1回程度	7名	2.5%	431名	2.2%
月に1～2回	1名	0.4%	162名	0.8%
ほとんどない	4名	1.4%	539名	2.7%
まったくない	-	-	301名	1.5%
無回答	3名	1.1%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

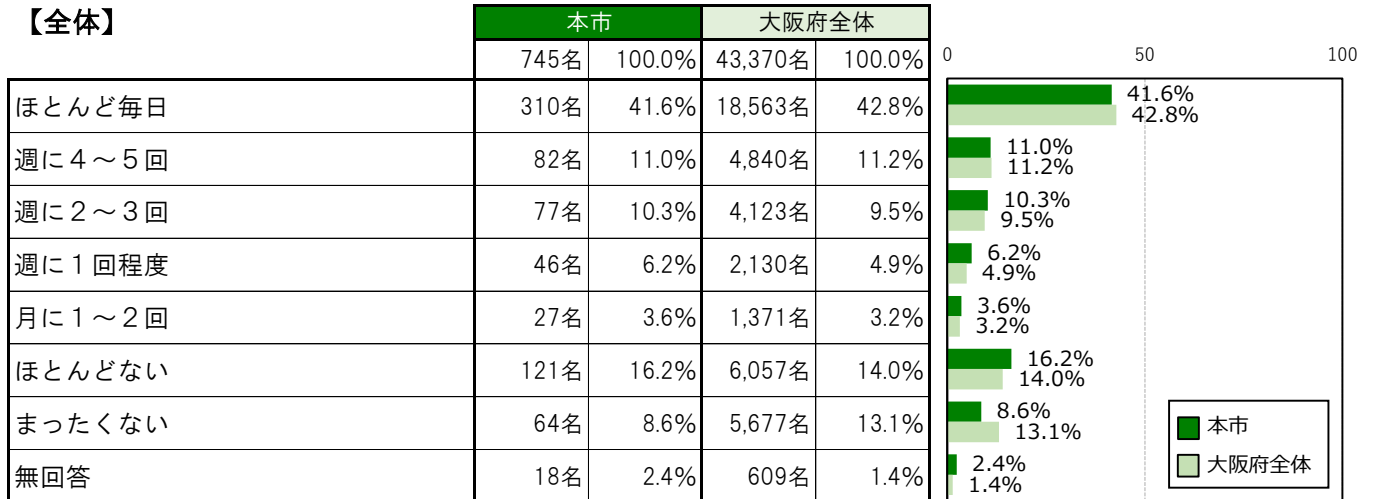
問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が41.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.2%、「週に4～5回」が11.0%、「週に2～3回」が10.3%となっている。

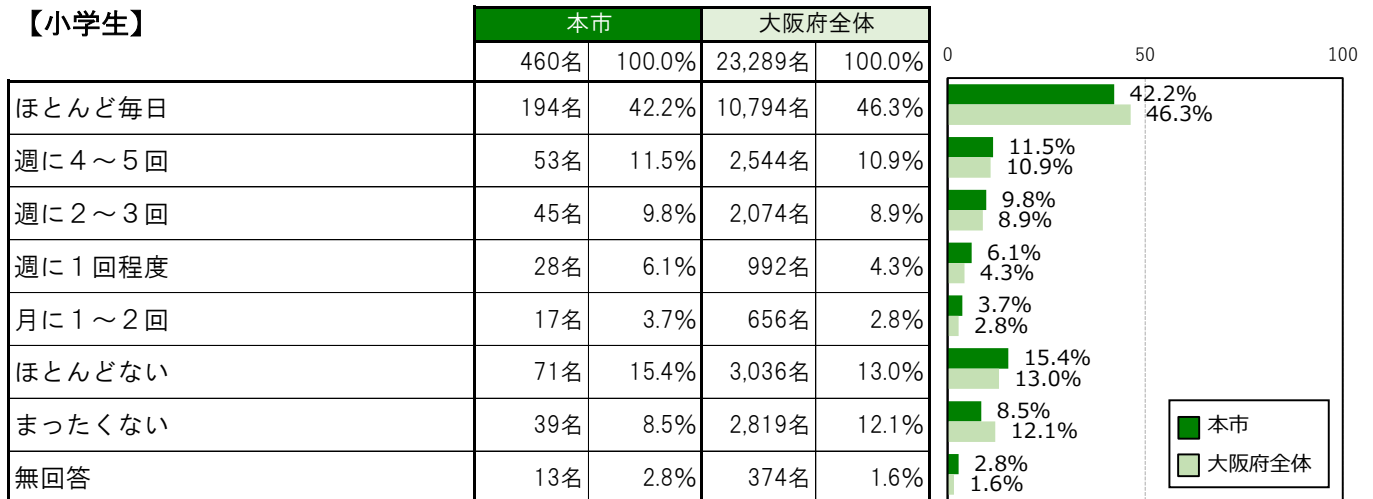
小学生は、「ほとんど毎日」が42.2%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.4%、「週に4～5回」が11.5%、「週に2～3回」が9.8%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が40.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.5%、「週に2～3回」が11.2%、「週に4～5回」が10.2%となっている。

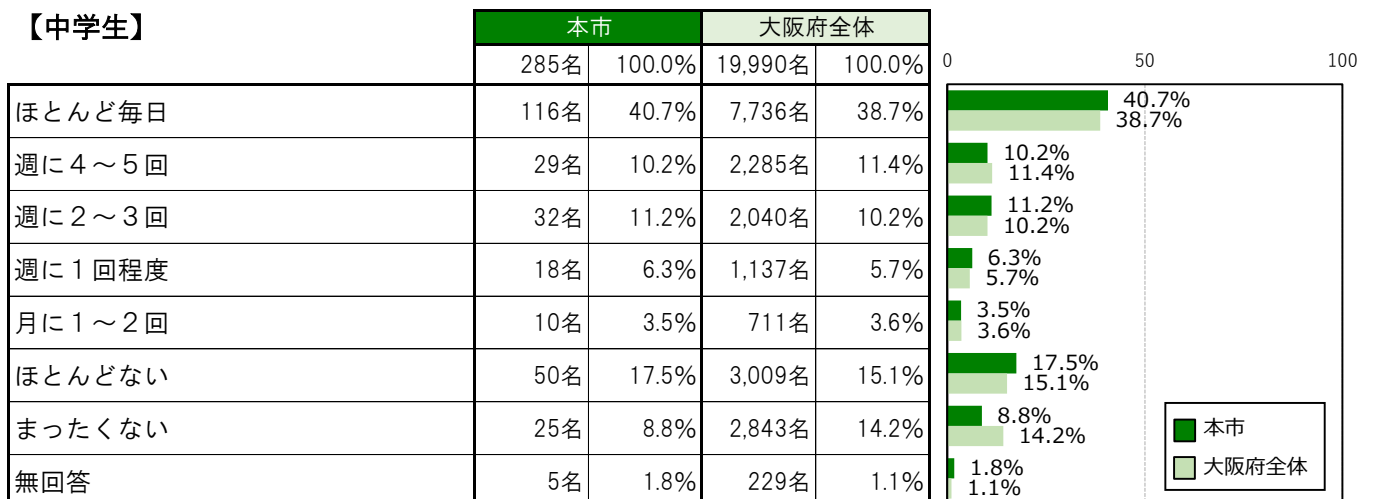
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が23.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が21.5%、「ほとんどない」が14.0%、「週に1回程度」が12.2%となっている。

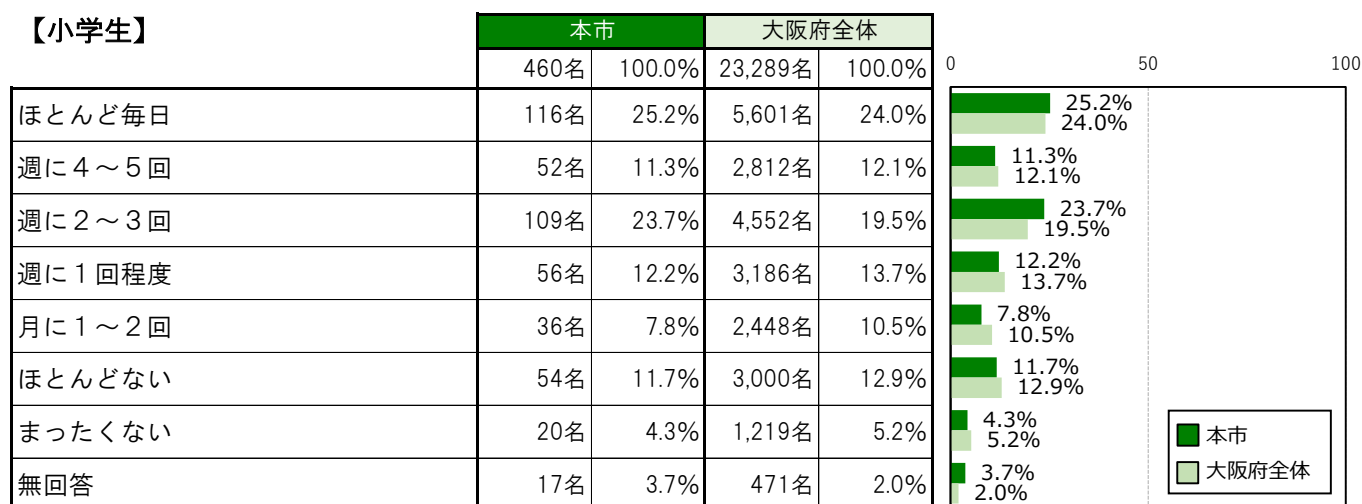
小学生は、「ほとんど毎日」が25.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が23.7%、「週に1回程度」が12.2%、「ほとんどない」が11.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が19.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.9%、「ほとんどない」が17.5%、「週に1回程度」が12.3%となっている。

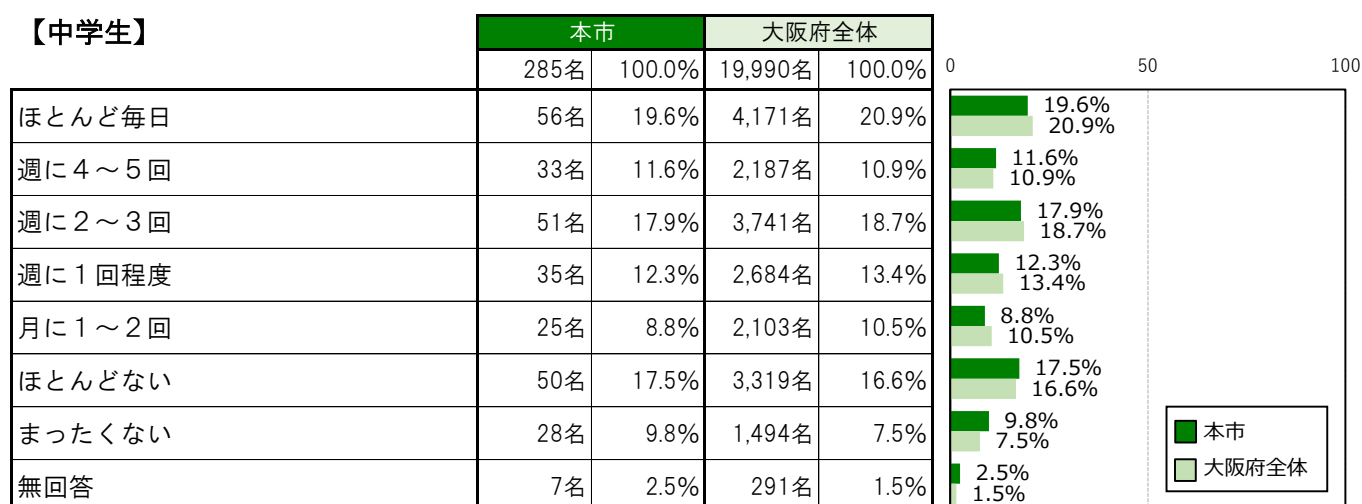
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

全体は、「ほとんどない」が27.2%で最も多く、次いで「まったくない」が25.1%、「ほとんど毎日」が13.3%、「週に2～3回」が9.5%となっている。

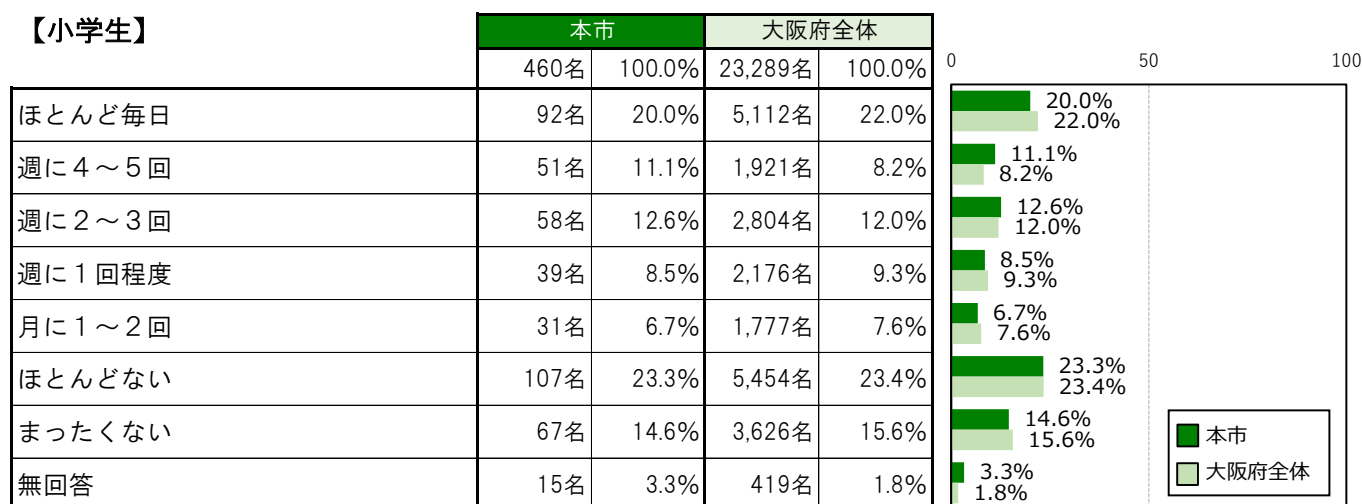
小学生は、「ほとんどない」が23.3%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が20.0%、「まったくない」が14.6%、「週に2～3回」が12.6%となっている。

中学生は、「まったくない」が42.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が33.7%、「月に1～2回」が10.9%、「週に2～3回」が4.6%となっている。

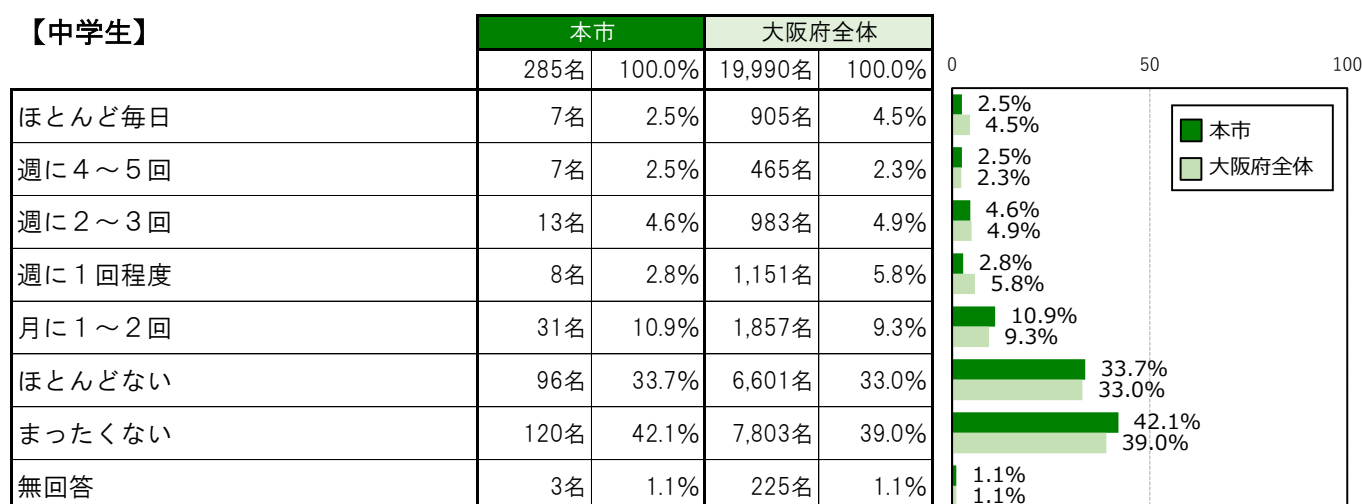
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

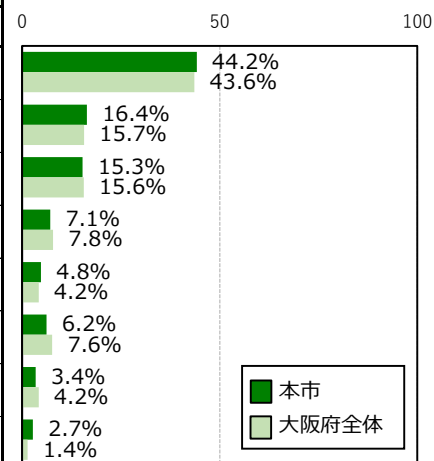
全体は、「ほとんど毎日」が44.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が16.4%、「週に2～3回」が15.3%、「週に1回程度」が7.1%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が47.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が17.2%、「週に2～3回」が12.4%、「週に1回程度」が7.0%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が38.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が20.0%、「週に4～5回」が15.1%、「ほとんどない」が7.7%となっている。

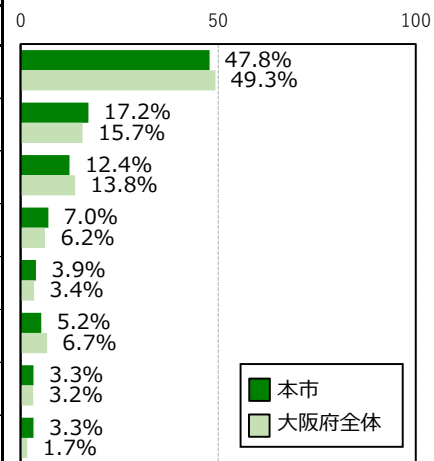
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	329名	44.2%	18,891名	43.6%
週に4～5回	122名	16.4%	6,809名	15.7%
週に2～3回	114名	15.3%	6,773名	15.6%
週に1回程度	53名	7.1%	3,386名	7.8%
月に1～2回	36名	4.8%	1,801名	4.2%
ほとんどない	46名	6.2%	3,283名	7.6%
まったくない	25名	3.4%	1,802名	4.2%
無回答	20名	2.7%	625名	1.4%



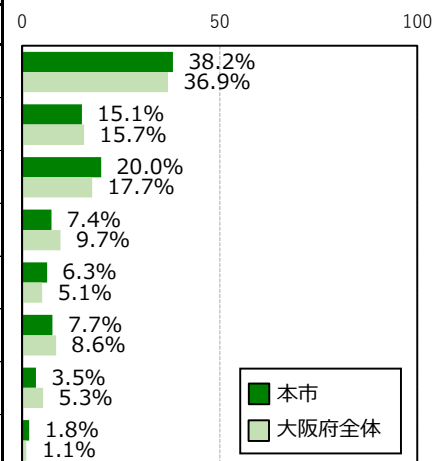
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	220名	47.8%	11,483名	49.3%
週に4～5回	79名	17.2%	3,660名	15.7%
週に2～3回	57名	12.4%	3,225名	13.8%
週に1回程度	32名	7.0%	1,447名	6.2%
月に1～2回	18名	3.9%	783名	3.4%
ほとんどない	24名	5.2%	1,558名	6.7%
まったくない	15名	3.3%	739名	3.2%
無回答	15名	3.3%	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	109名	38.2%	7,374名	36.9%
週に4～5回	43名	15.1%	3,138名	15.7%
週に2～3回	57名	20.0%	3,533名	17.7%
週に1回程度	21名	7.4%	1,933名	9.7%
月に1～2回	18名	6.3%	1,015名	5.1%
ほとんどない	22名	7.7%	1,716名	8.6%
まったくない	10名	3.5%	1,056名	5.3%
無回答	5名	1.8%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか

全体は、「ほとんどない」が22.0%で最も多く、次いで「月に1～2回」が15.3%、「週に2～3回」が15.0%、「週に1回程度」が13.8%となっている。

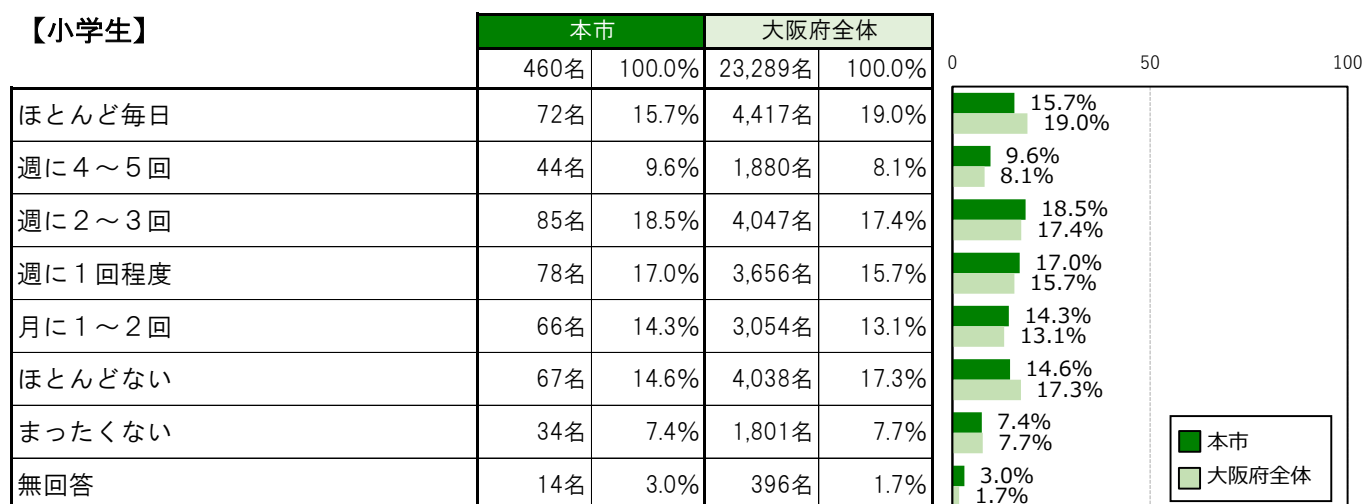
小学生は、「週に2～3回」が18.5%で最も多く、次いで「週に1回程度」が17.0%、「ほとんど毎日」が15.7%、「ほとんどない」が14.6%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が34.0%で最も多く、次いで「まったくない」が20.0%、「月に1～2回」が16.8%、「週に2～3回」が9.5%となっている。

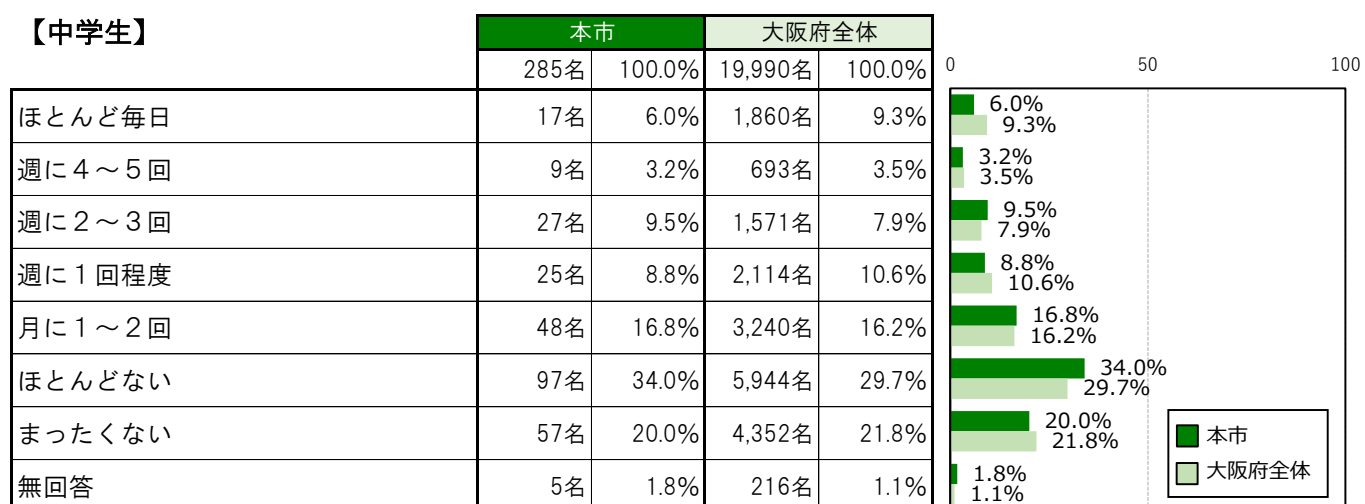
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」が19.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.4%、「ほとんど毎日」が17.0%、「週に1回程度」が12.5%となっている。

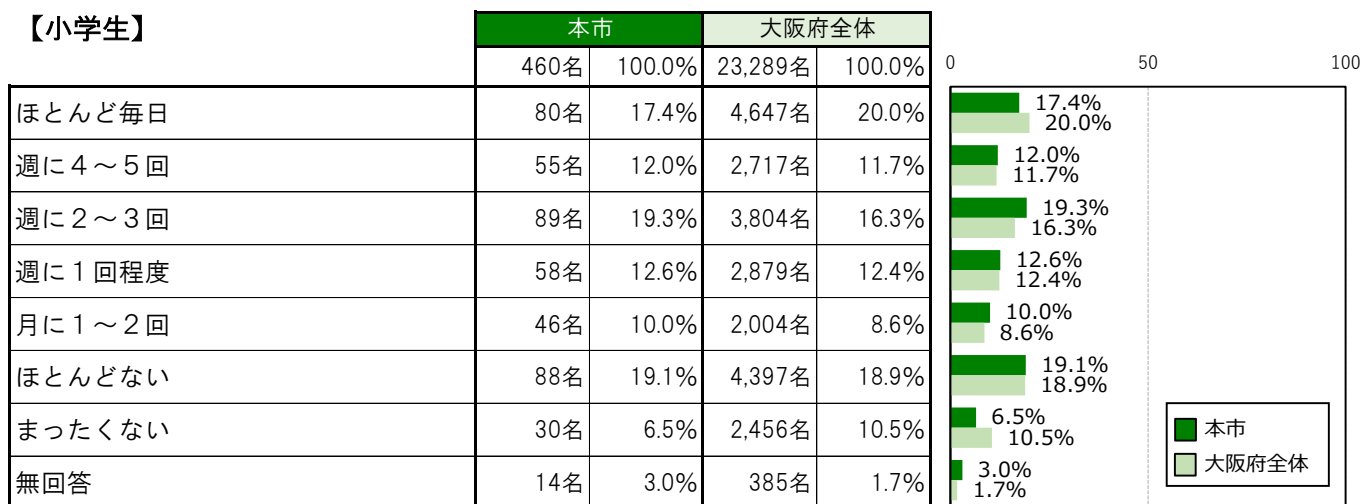
小学生は、「週に2～3回」が19.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が19.1%、「ほとんど毎日」が17.4%、「週に1回程度」が12.6%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が19.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.2%、「ほとんど毎日」が16.5%、「まったくない」が13.3%となっている。

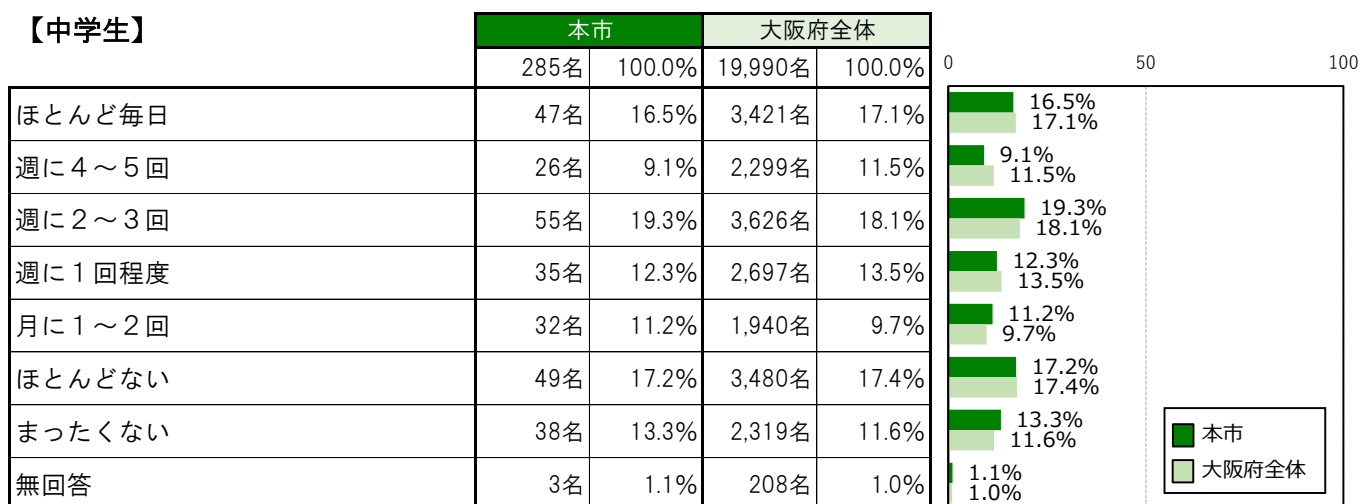
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が41.1%で最も多く、次いで「まったくない」が26.6%、「月に1～2回」が22.0%、「週に1回程度」が4.0%となっている。

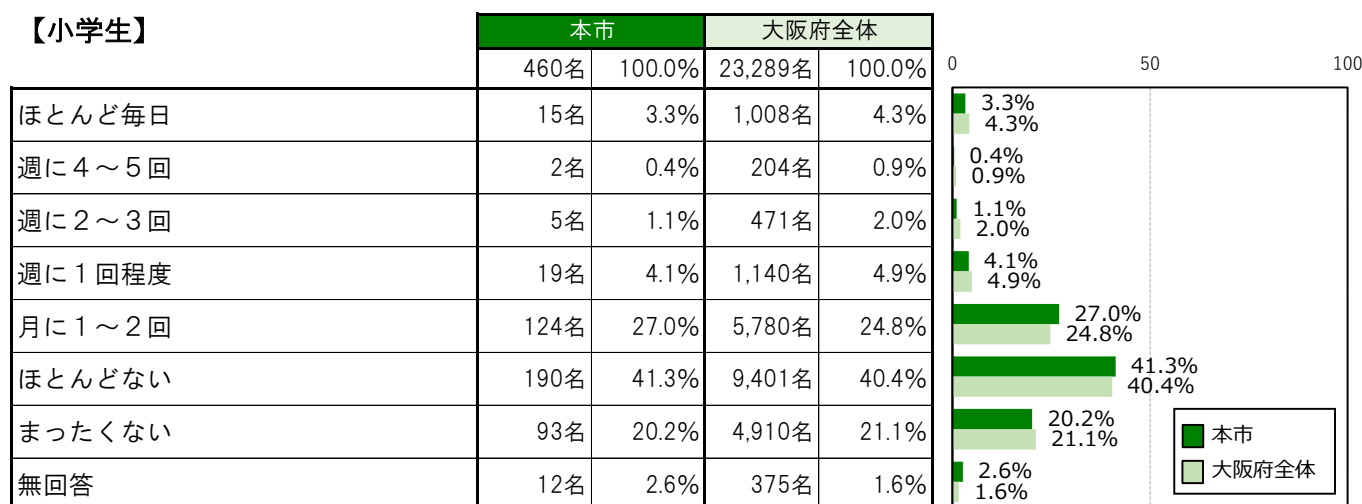
小学生は、「ほとんどない」が41.3%で最も多く、次いで「月に1～2回」が27.0%、「まったくない」が20.2%、「週に1回程度」が4.1%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が40.7%で最も多く、次いで「まったくない」が36.8%、「月に1～2回」が14.0%、「週に1回程度」が3.9%となっている。

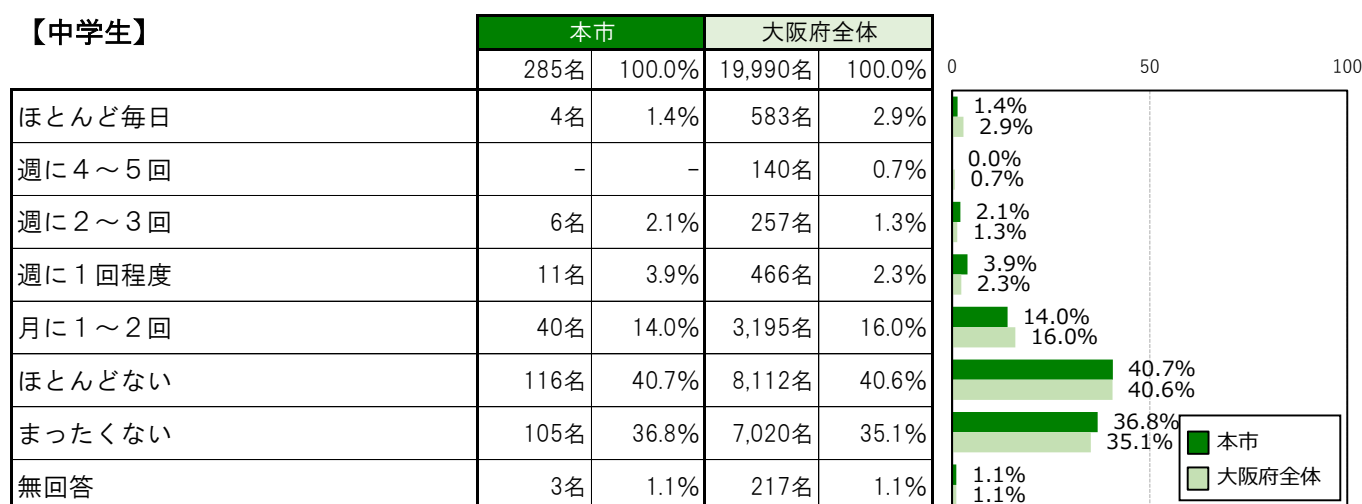
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

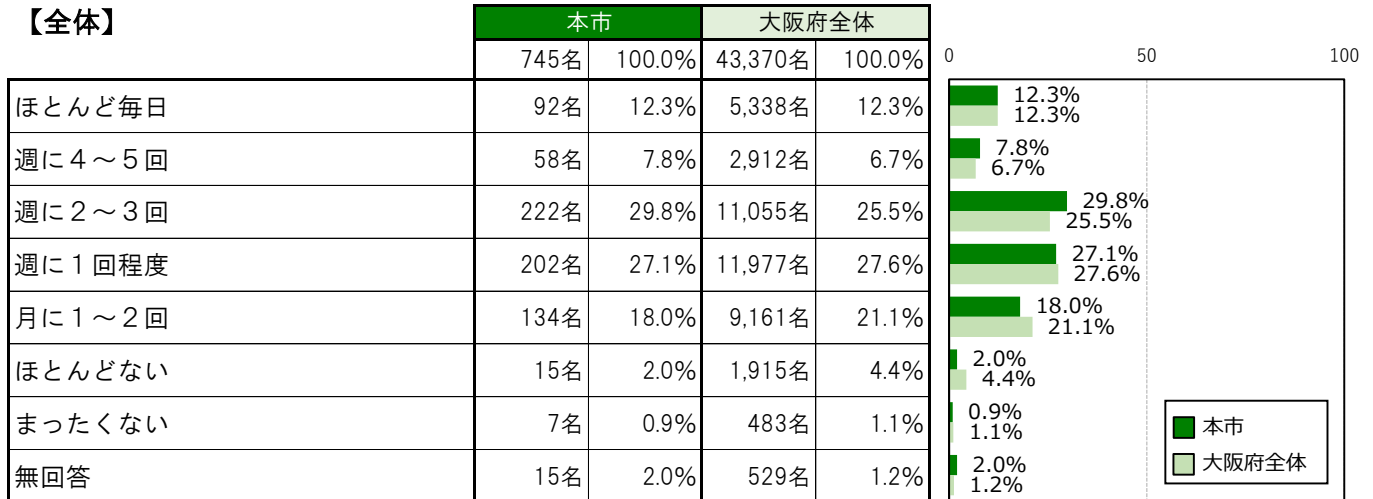
問 8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人のひとと一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に2～3回」が29.8%で最も多く、次いで「週に1回程度」が27.1%、「月に1～2回」が18.0%、「ほとんど毎日」が12.3%となっている。

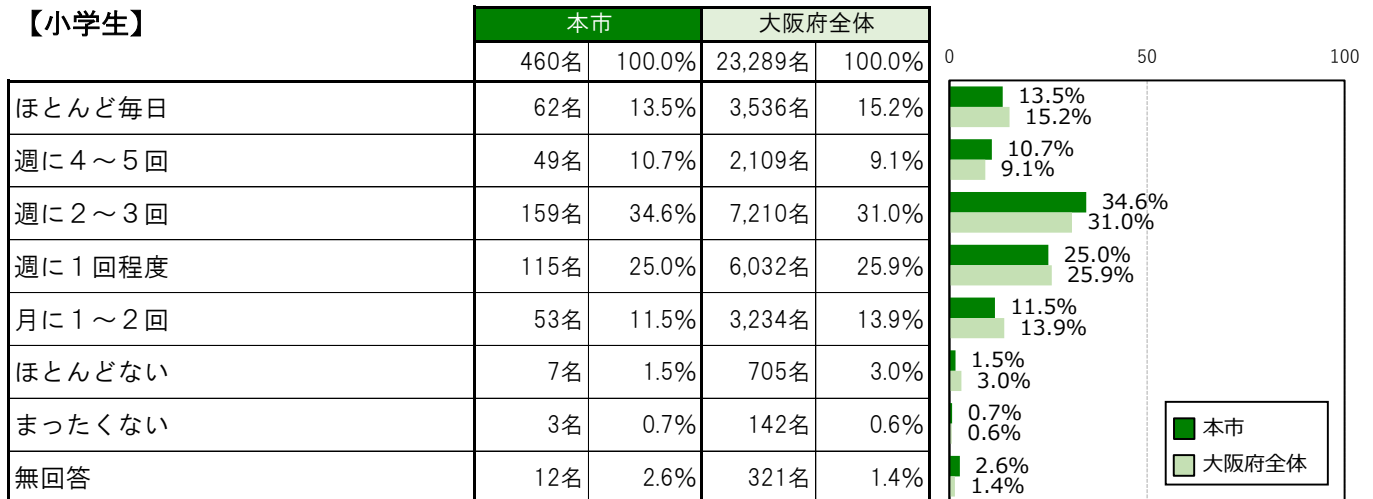
小学生は、「週に2～3回」が34.6%で最も多く、次いで「週に1回程度」が25.0%、「ほとんど毎日」が13.5%、「月に1～2回」が11.5%となっている。

中学生は、「週に1回程度」が30.5%で最も多く、次いで「月に1～2回」が28.4%、「週に2～3回」が22.1%、「ほとんど毎日」が10.5%となっている。

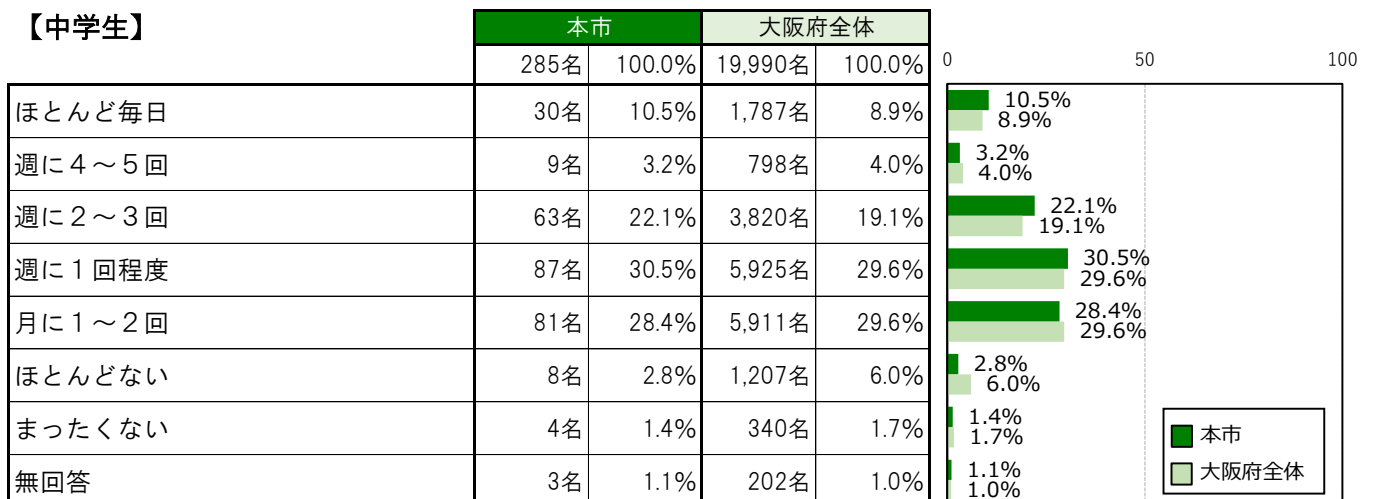
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

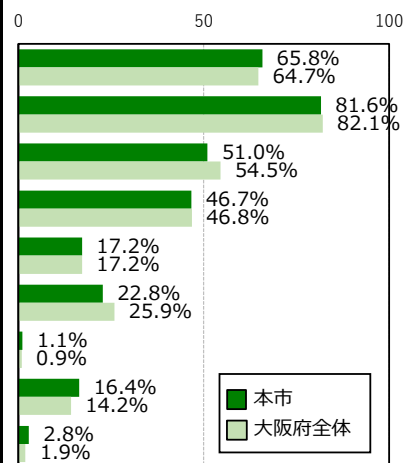
全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が81.6%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が65.8%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が51.0%、「ひとりで過ごしているとき」が46.7%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が81.1%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が69.8%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が50.4%、「ひとりで過ごしているとき」が37.4%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が82.5%で最も多く、次いで「ひとりで過ごしているとき」が61.8%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が59.3%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が51.9%となっている。

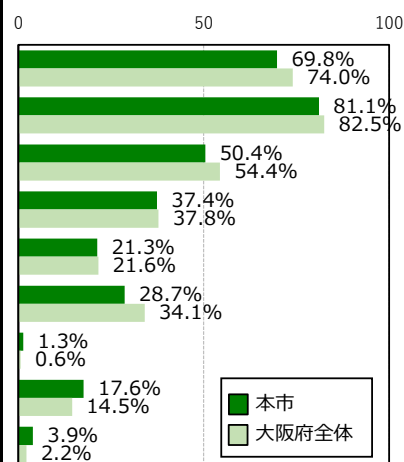
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	490名	65.8%	28,070名	64.7%
ともだちと一緒に過ごしているとき	608名	81.6%	35,599名	82.1%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	380名	51.0%	23,630名	54.5%
ひとりで過ごしているとき	348名	46.7%	20,290名	46.8%
今、住んでいる地域の行事に参加していると	128名	17.2%	7,469名	17.2%
塾や習いごとで過ごしているとき	170名	22.8%	11,215名	25.9%
特に楽しいと思うときはない	8名	1.1%	407名	0.9%
その他	122名	16.4%	6,162名	14.2%
無回答	21名	2.8%	829名	1.9%



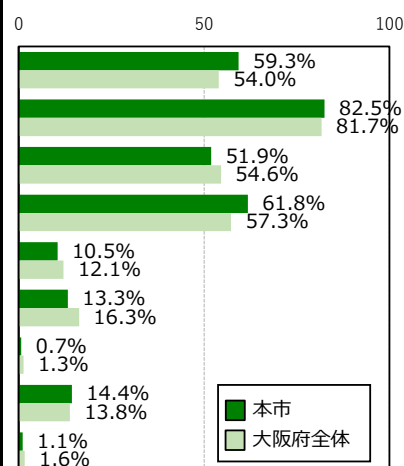
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	321名	69.8%	17,231名	74.0%
ともだちと一緒に過ごしているとき	373名	81.1%	19,212名	82.5%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	232名	50.4%	12,660名	54.4%
ひとりで過ごしているとき	172名	37.4%	8,805名	37.8%
今、住んでいる地域の行事に参加していると	98名	21.3%	5,032名	21.6%
塾や習いごとで過ごしているとき	132名	28.7%	7,944名	34.1%
特に楽しいと思うときはない	6名	1.3%	143名	0.6%
その他	81名	17.6%	3,380名	14.5%
無回答	18名	3.9%	501名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	169名	59.3%	10,789名	54.0%
ともだちと一緒に過ごしているとき	235名	82.5%	16,324名	81.7%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	148名	51.9%	10,924名	54.6%
ひとりで過ごしているとき	176名	61.8%	11,451名	57.3%
今、住んでいる地域の行事に参加していると	30名	10.5%	2,426名	12.1%
塾や習いごとで過ごしているとき	38名	13.3%	3,256名	16.3%
特に楽しいと思うときはない	2名	0.7%	264名	1.3%
その他	41名	14.4%	2,768名	13.8%
無回答	3名	1.1%	319名	1.6%



ふだんの生活のことについて

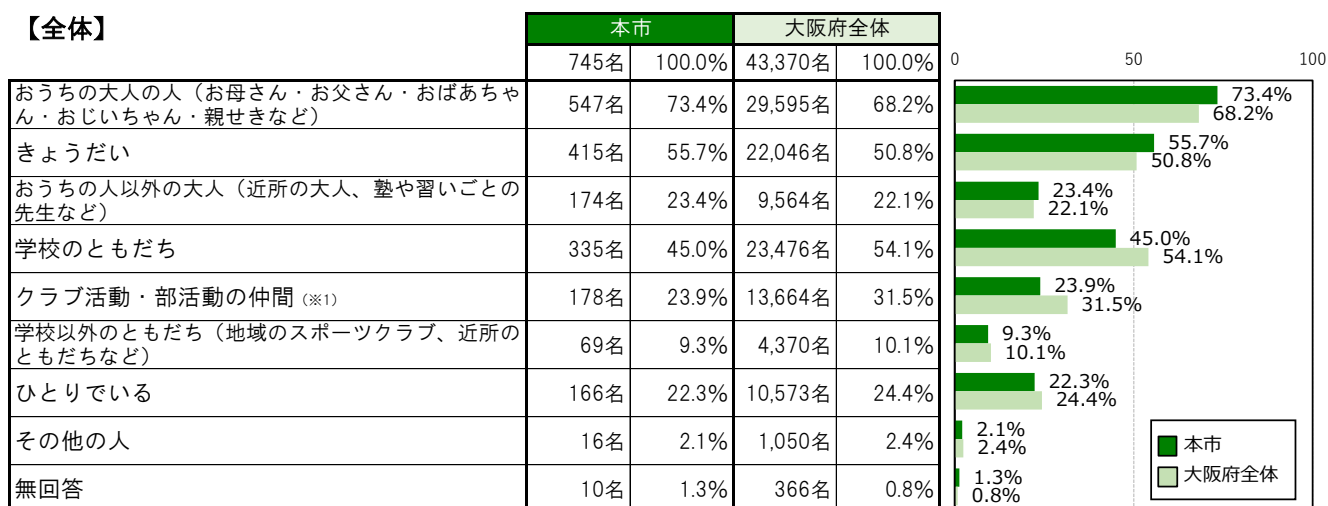
問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が73.4%で最も多く、次いで「きょうだい」が55.7%、「学校のともだち」が45.0%、「クラブ活動・部活動の仲間」が23.9%となっている。

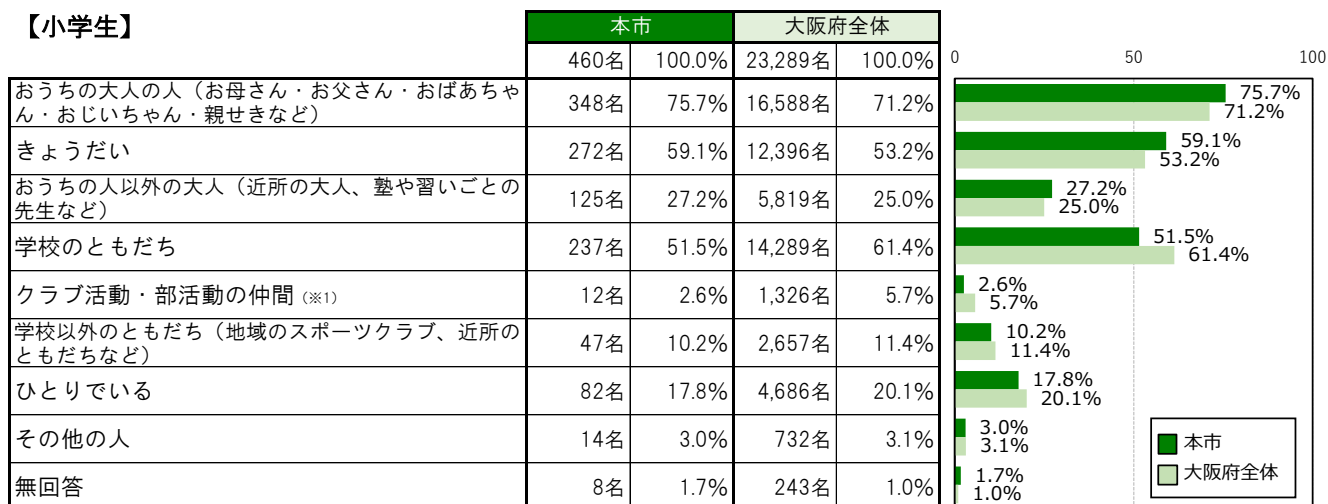
小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が75.7%で最も多く、次いで「きょうだい」が59.1%、「学校のともだち」が51.5%、「おうちの人以外の大人」が27.2%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が69.8%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が58.2%、「きょうだい」が50.2%、「学校のともだち」が34.4%となっている。

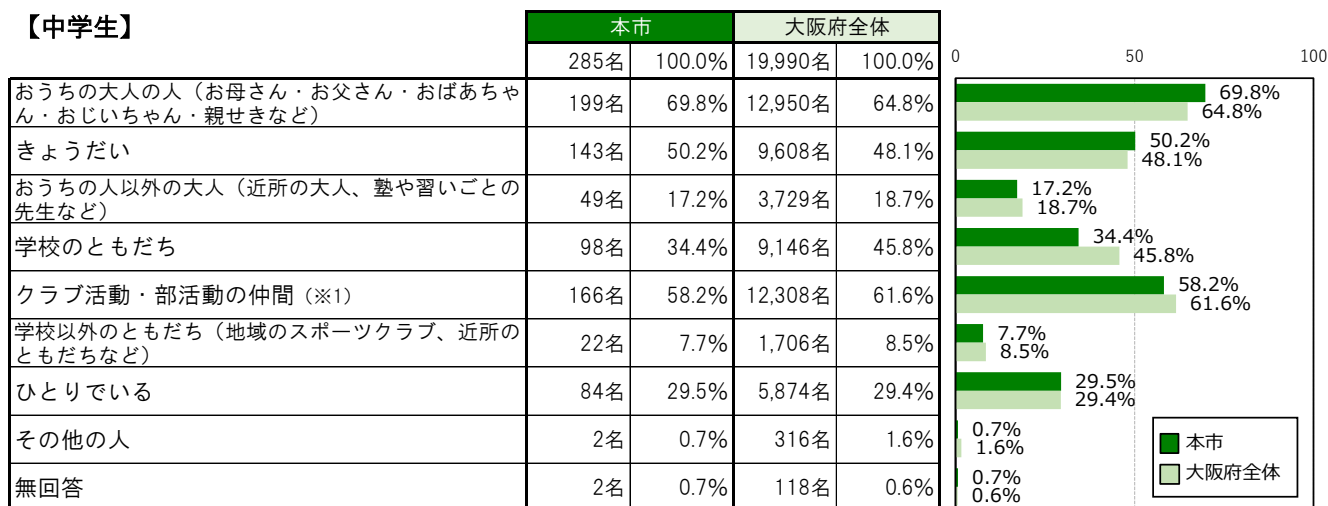
【全体】



【小学生】



【中学生】



※1 2016年調査では「クラブ活動の仲間」

●2016年度 調査結果【参考データ】

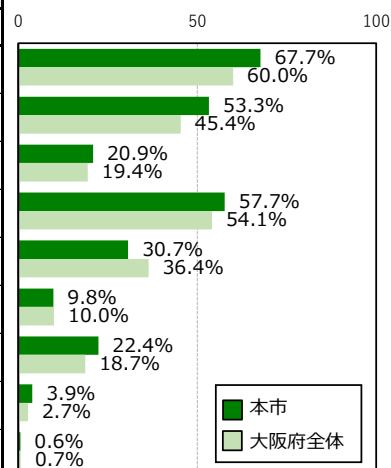
2016年度調査と比較すると、全体は、「うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が5.7ポイント高いが、「学校のともだち」が12.7ポイント低くなっている。

小学生は、「うちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」が6.0ポイント高いが、「学校のともだち」が16.8ポイント低くなっている。

中学生は、「うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が6.7ポイント高いが、「学校のともだち」が10.4ポイント低くなっている。

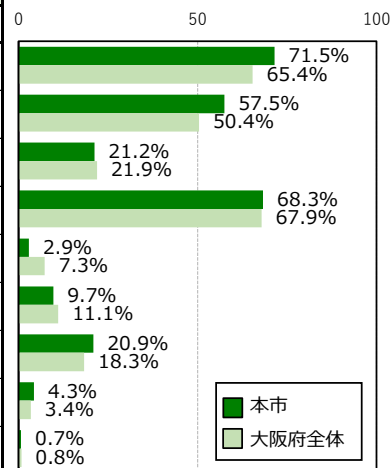
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,393名	100.0%	50,106名	100.0%
うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	943名	67.7%	30,087名	60.0%
きょうだい	743名	53.3%	22,725名	45.4%
うちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	291名	20.9%	9,699名	19.4%
学校のともだち	804名	57.7%	27,090名	54.1%
クラブ活動の仲間	428名	30.7%	18,236名	36.4%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	137名	9.8%	5,025名	10.0%
ひとりでいる	312名	22.4%	9,347名	18.7%
その他の人	55名	3.9%	1,367名	2.7%
無回答	8名	0.6%	329名	0.7%



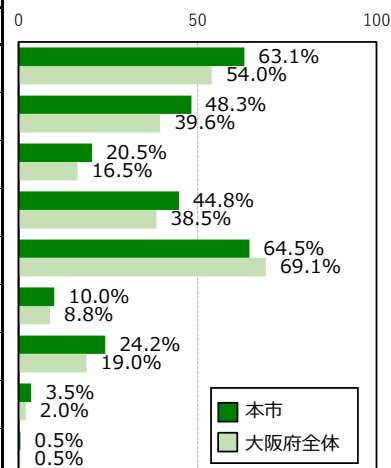
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	764名	100.0%	26,540名	100.0%
うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	546名	71.5%	17,359名	65.4%
きょうだい	439名	57.5%	13,384名	50.4%
うちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	162名	21.2%	5,810名	21.9%
学校のともだち	522名	68.3%	18,009名	67.9%
クラブ活動の仲間	22名	2.9%	1,947名	7.3%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	74名	9.7%	2,955名	11.1%
ひとりでいる	160名	20.9%	4,861名	18.3%
その他の人	33名	4.3%	895名	3.4%
無回答	5名	0.7%	203名	0.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	629名	100.0%	23,558名	100.0%
うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	397名	63.1%	12,724名	54.0%
きょうだい	304名	48.3%	9,340名	39.6%
うちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	129名	20.5%	3,887名	16.5%
学校のともだち	282名	44.8%	9,081名	38.5%
クラブ活動の仲間	406名	64.5%	16,288名	69.1%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	63名	10.0%	2,069名	8.8%
ひとりでいる	152名	24.2%	4,485名	19.0%
その他の人	22名	3.5%	470名	2.0%
無回答	3名	0.5%	124名	0.5%



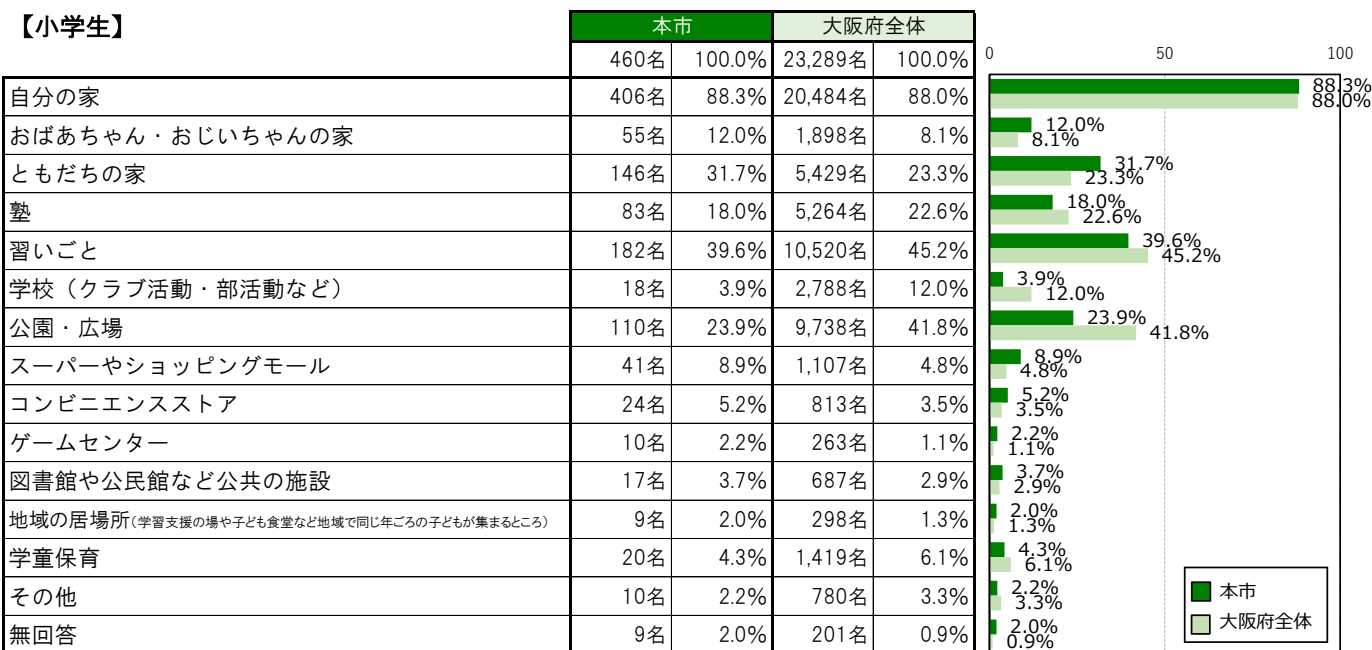
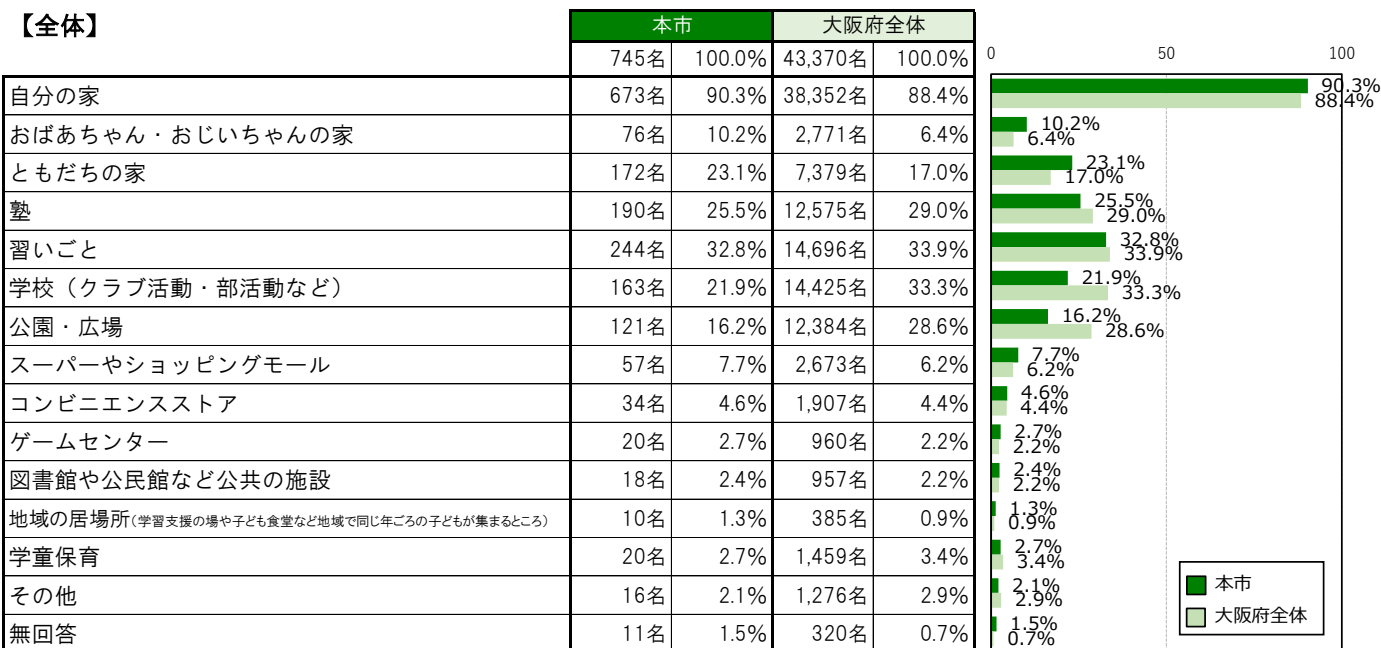
ふだんの生活のことについて

問11 放課後を過ごす場所

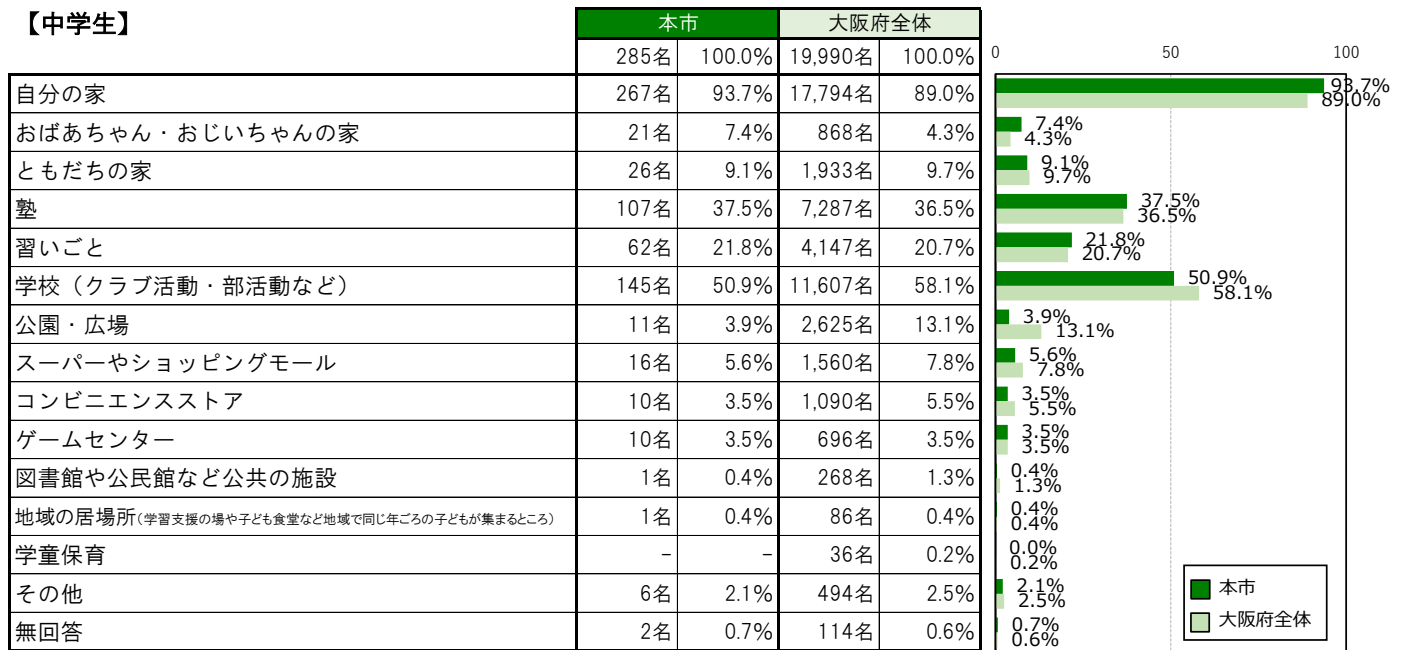
全体は、「自分の家」が90.3%で最も多く、次いで「習いごと」が32.8%、「塾」が25.5%、「ともだちの家」が23.1%となっている。

小学生は、「自分の家」が88.3%で最も多く、次いで「習いごと」が39.6%、「ともだちの家」が31.7%、「公園・広場」が23.9%となっている。

中学生は、「自分の家」が93.7%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が50.9%、「塾」が37.5%、「習いごと」が21.8%となっている。



【中学生】



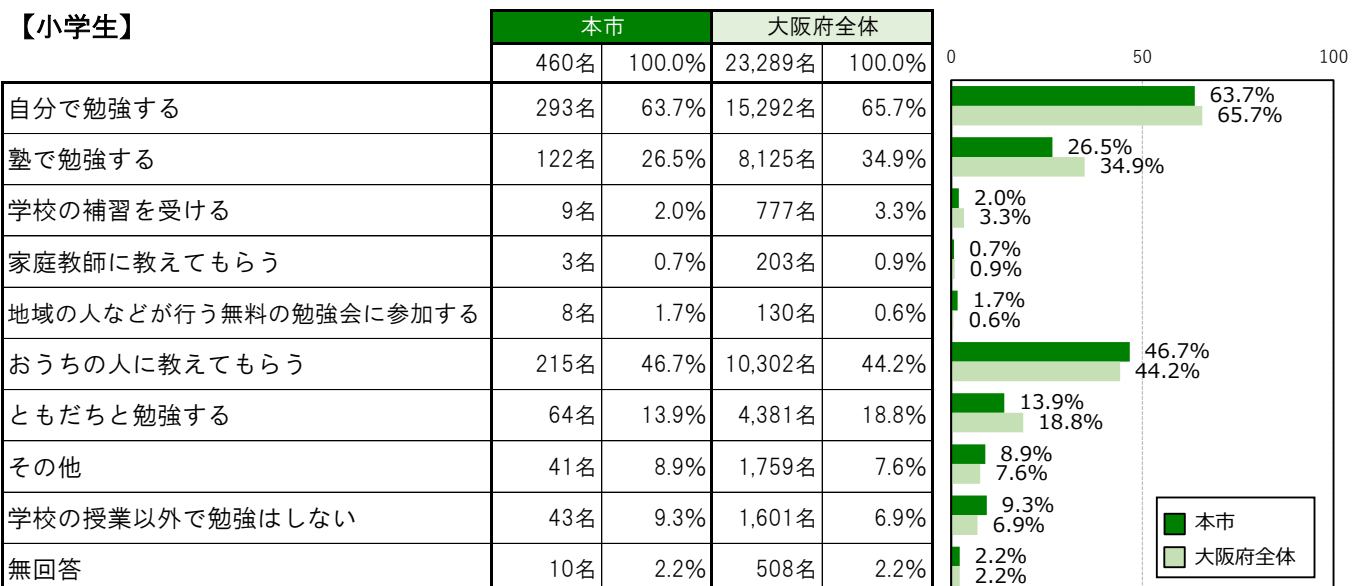
ふだんの生活のことについて

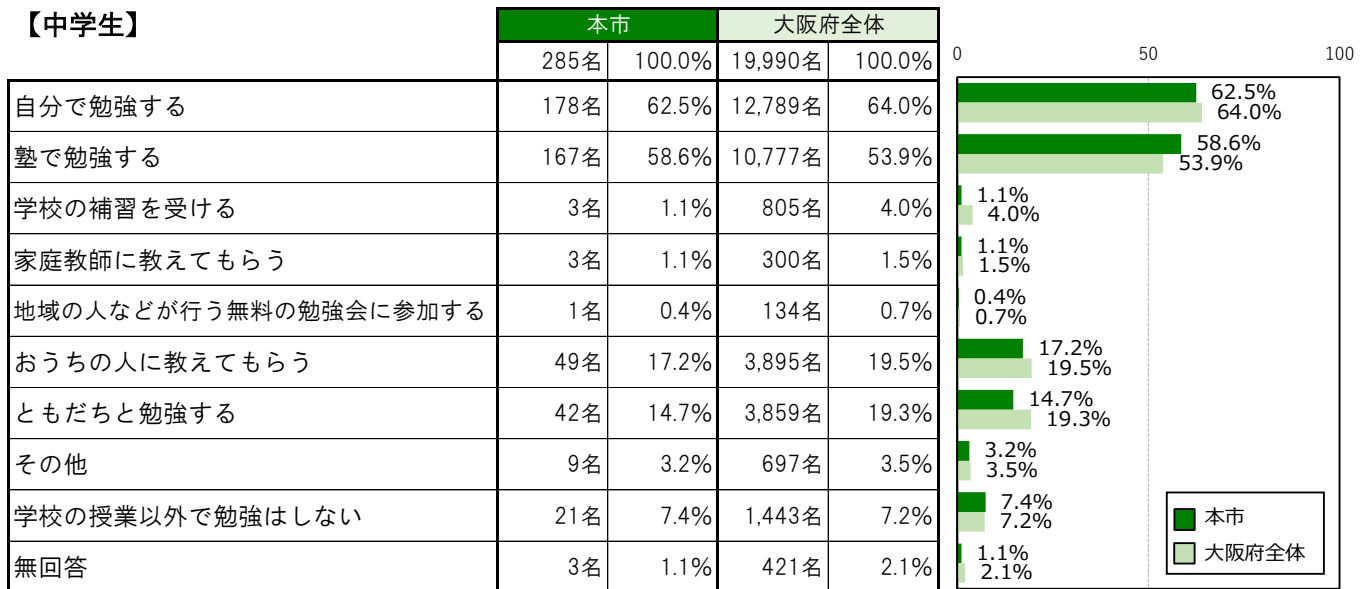
問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が63.2%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が38.8%、「おうちの人に教えてもらう」が35.4%、「ともだちと勉強する」が14.2%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が63.7%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が46.7%、「塾で勉強する」が26.5%、「ともだちと勉強する」が13.9%となっている。

中学生は、「自分で勉強する」が62.5%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が58.6%、「おうちの人に教えてもらう」が17.2%、「ともだちと勉強する」が14.7%となっている。





ふだんの生活のことについて

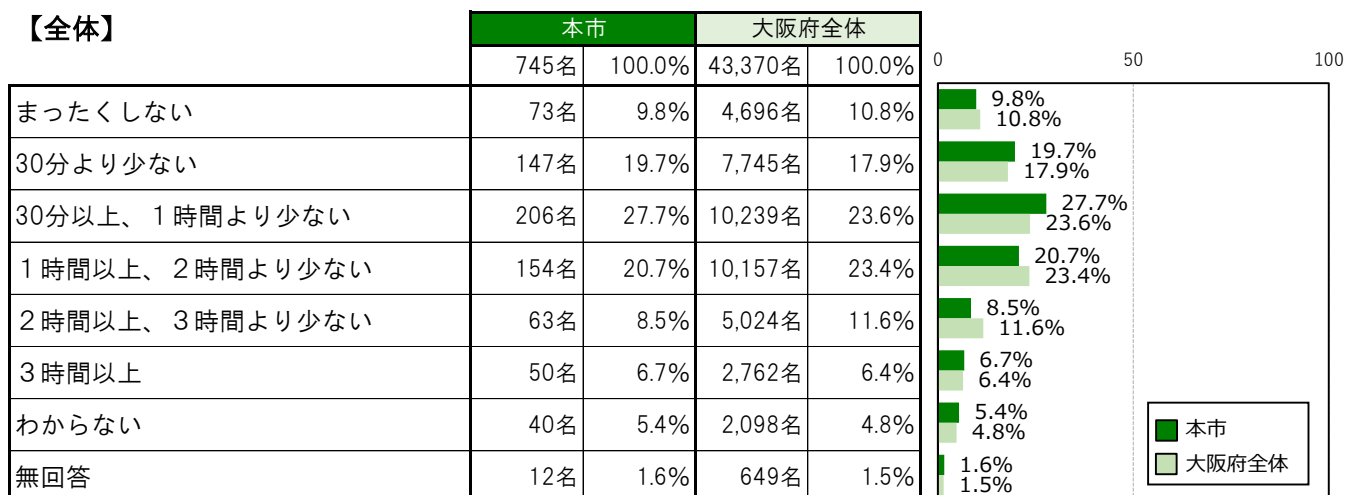
問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が27.7%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が20.7%、「30分より少ない」が19.7%、「まったくしない」が9.8%となっている。

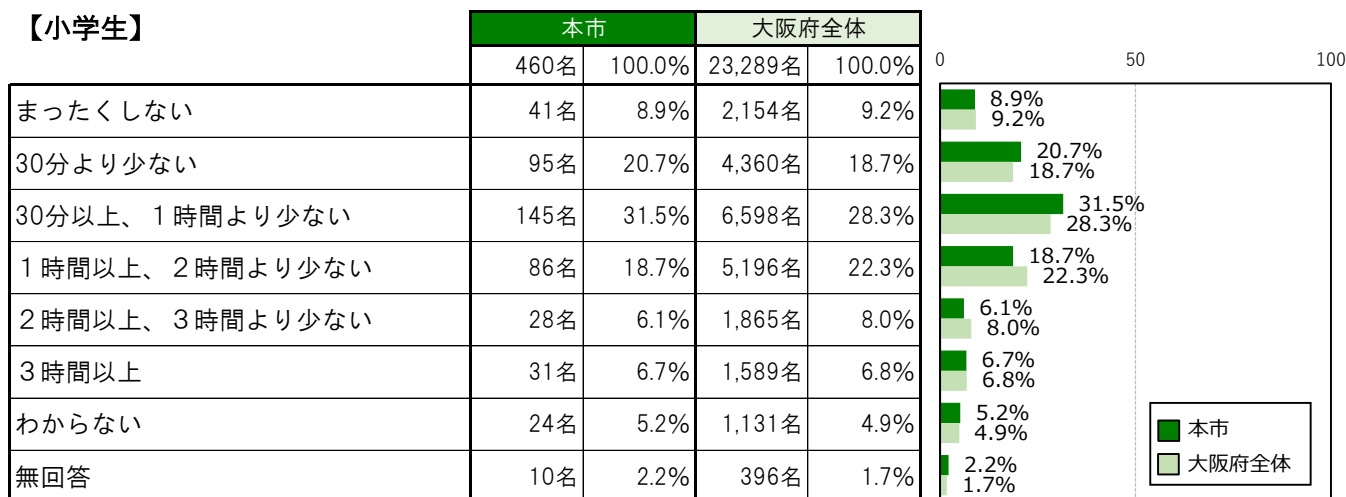
小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が31.5%で最も多く、次いで「30分より少ない」が20.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が18.7%、「まったくしない」が8.9%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が23.9%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が21.4%、「30分より少ない」が18.2%、「2時間以上、3時間より少ない」が12.3%となっている。

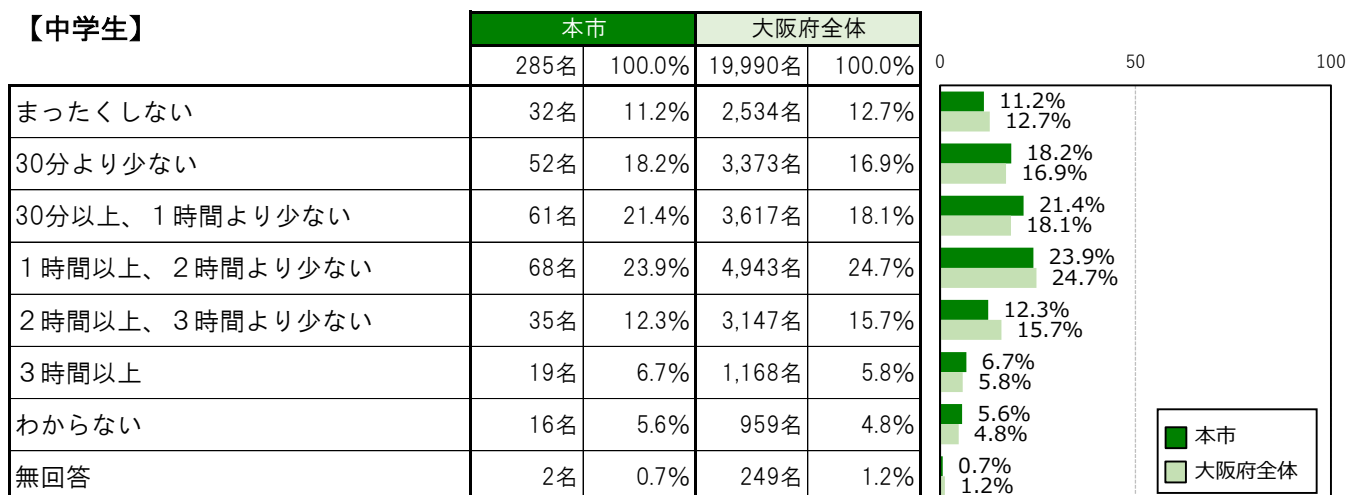
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「まったくしない」が26.7%で最も多く、次いで「30分より少ない」が23.4%、「30分以上、1時間より少ない」が21.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が11.8%となっている。

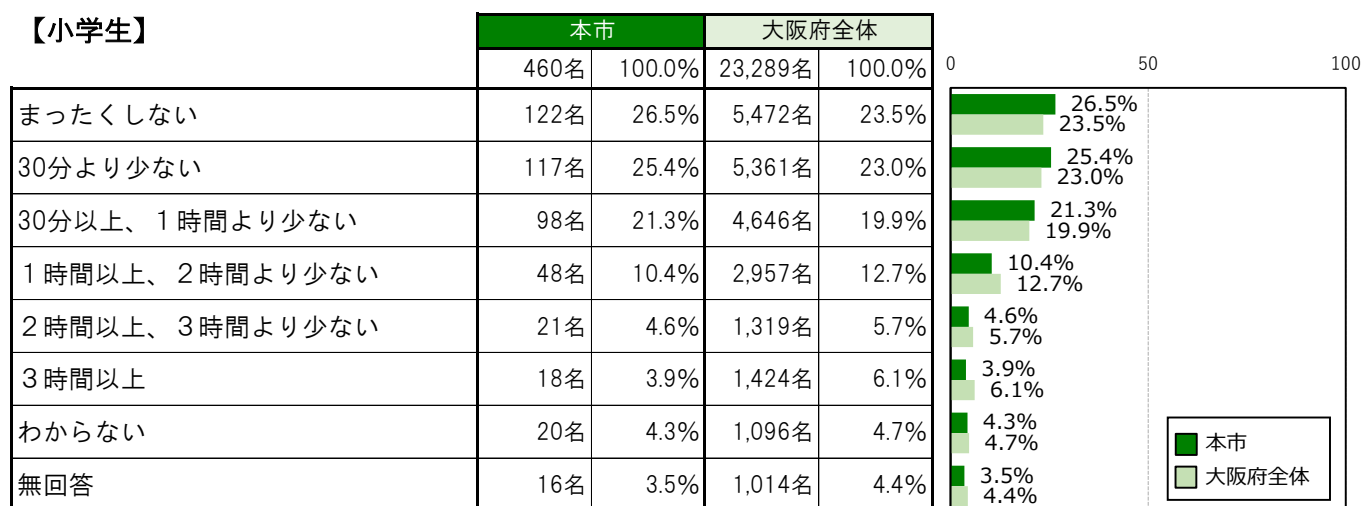
小学生は、「まったくしない」が26.5%で最も多く、次いで「30分より少ない」が25.4%、「30分以上、1時間より少ない」が21.3%、「1時間以上、2時間より少ない」が10.4%となっている。

中学生は、「まったくしない」が27.0%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が21.8%、「30分より少ない」が20.0%、「1時間以上、2時間より少ない」が14.0%となっている。

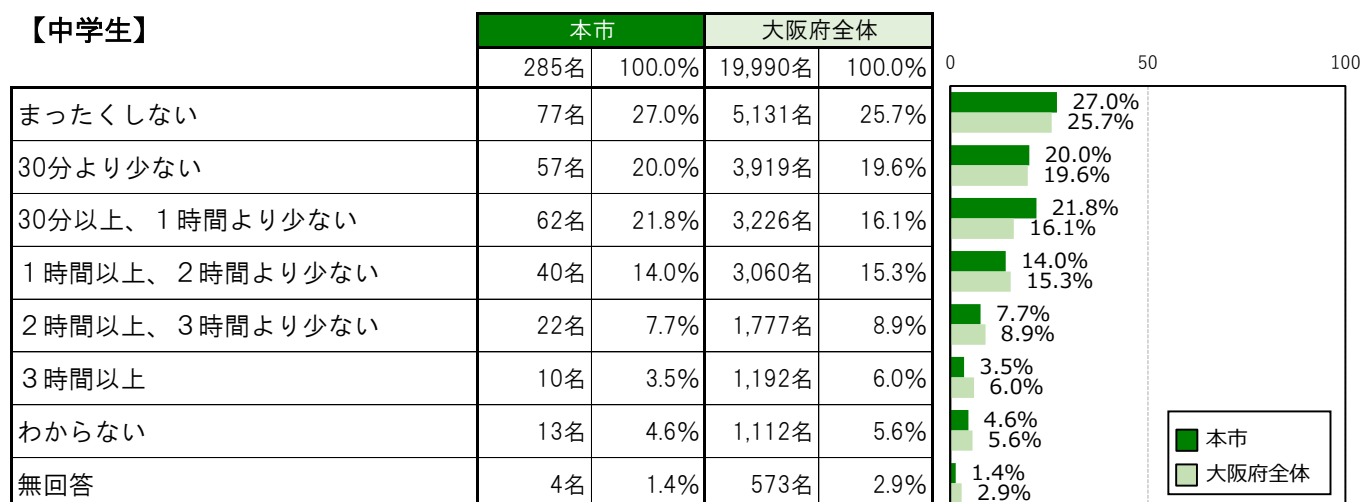
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

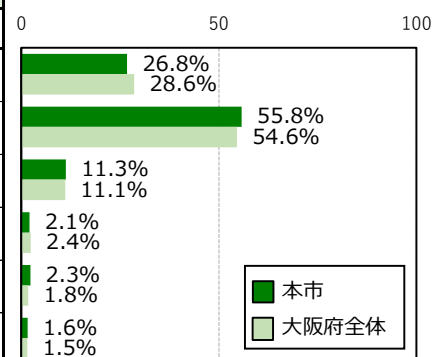
全体は、「だいたいわかる」が55.8%で最も多く、次いで「よくわかる」が26.8%、「あまりわからない」が11.3%、「ほとんどわからない」が2.1%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が51.3%で最も多く、次いで「よくわかる」が34.6%、「あまりわからない」が8.5%、「ほとんどわからない」が1.7%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が63.2%で最も多く、次いで「あまりわからない」が15.8%、「よくわかる」が14.4%、「ほとんどわからない」が2.8%となっている。

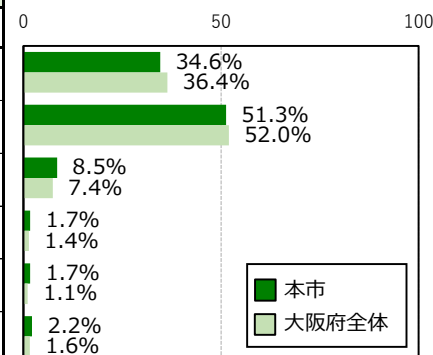
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
よくわかる	200名	26.8%	12,407名	28.6%
だいたいわかる	416名	55.8%	23,680名	54.6%
あまりわからない	84名	11.3%	4,834名	11.1%
ほとんどわからない	16名	2.1%	1,047名	2.4%
わからない	17名	2.3%	762名	1.8%
無回答	12名	1.6%	640名	1.5%



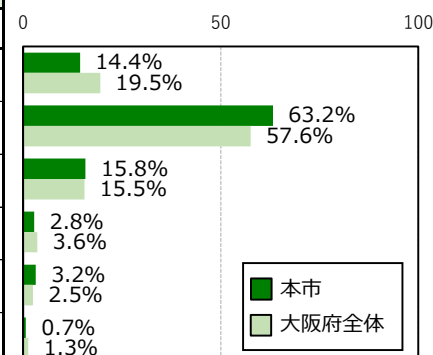
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
よくわかる	159名	34.6%	8,481名	36.4%
だいたいわかる	236名	51.3%	12,116名	52.0%
あまりわからない	39名	8.5%	1,721名	7.4%
ほとんどわからない	8名	1.7%	331名	1.4%
わからない	8名	1.7%	258名	1.1%
無回答	10名	2.2%	382名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
よくわかる	41名	14.4%	3,902名	19.5%
だいたいわかる	180名	63.2%	11,516名	57.6%
あまりわからない	45名	15.8%	3,103名	15.5%
ほとんどわからない	8名	2.8%	715名	3.6%
わからない	9名	3.2%	500名	2.5%
無回答	2名	0.7%	254名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問14（2）授業がわからなくなった時期

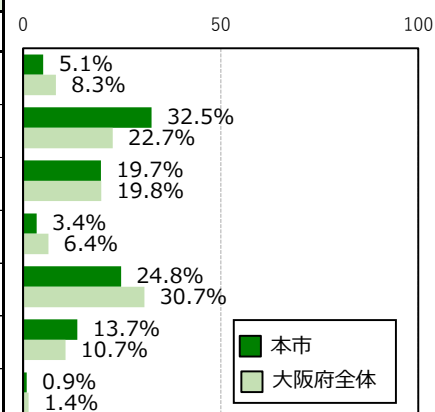
全体は、「小学3・4年生のころ」が32.5%で最も多く、次いで「中学1年生のころ」が24.8%、「小学5年生になってから」が19.7%、「中学2年生になってから」が13.7%となっている。

小学生は、「小学3・4年生のころ」が56.4%で最も多く、次いで「小学5年生になってから」が36.4%、「小学1・2年生のころ」が7.3%となっている。

中学生は、「中学1年生のころ」が46.8%で最も多く、次いで「中学2年生になってから」が25.8%、「小学3・4年生のころ」が11.3%、「小学6年生のころ」が6.5%となっている。

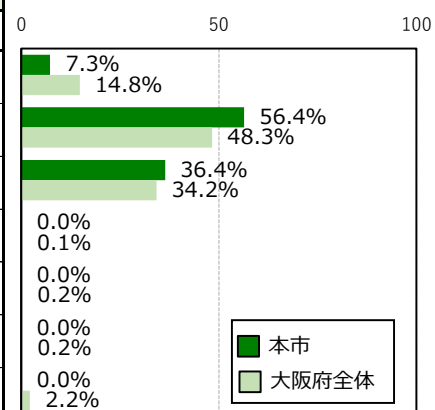
【全体】

	本市		大阪府全体	
	117名	100.0%	6,577名	100.0%
小学1・2年生のころ	6名	5.1%	547名	8.3%
小学3・4年生のころ	38名	32.5%	1,494名	22.7%
小学5年生になってから	23名	19.7%	1,301名	19.8%
小学6年生のころ	4名	3.4%	420名	6.4%
中学1年生のころ	29名	24.8%	2,022名	30.7%
中学2年生になってから	16名	13.7%	701名	10.7%
無回答	1名	0.9%	92名	1.4%



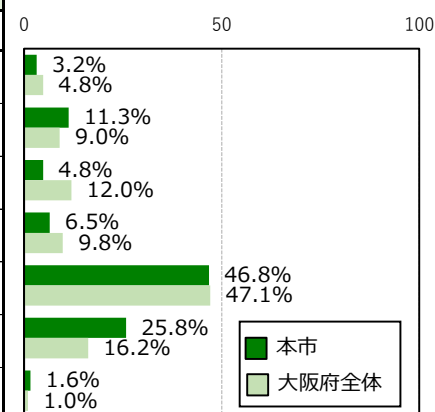
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	2,291名	100.0%
小学1・2年生のころ	4名	7.3%	339名	14.8%
小学3・4年生のころ	31名	56.4%	1,106名	48.3%
小学5年生になってから	20名	36.4%	784名	34.2%
小学6年生のころ	-	-	3名	0.1%
中学1年生のころ	-	-	5名	0.2%
中学2年生になってから	-	-	4名	0.2%
無回答	-	-	50名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	62名	100.0%	4,272名	100.0%
小学1・2年生のころ	2名	3.2%	206名	4.8%
小学3・4年生のころ	7名	11.3%	386名	9.0%
小学5年生になってから	3名	4.8%	513名	12.0%
小学6年生のころ	4名	6.5%	417名	9.8%
中学1年生のころ	29名	46.8%	2,014名	47.1%
中学2年生になってから	16名	25.8%	694名	16.2%
無回答	1名	1.6%	42名	1.0%



ふだんの生活のことについて

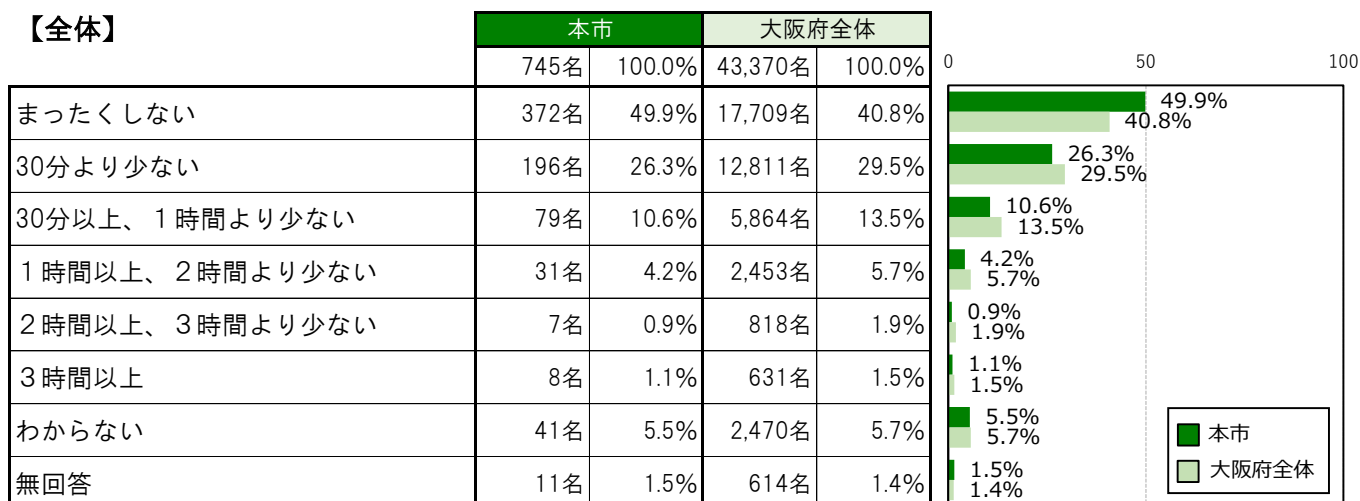
問15 授業以外の読書時間

全体は、「まったくしない」が49.9%で最も多く、次いで「30分より少ない」が26.3%、「30分以上、1時間より少ない」が10.6%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.2%となっている。

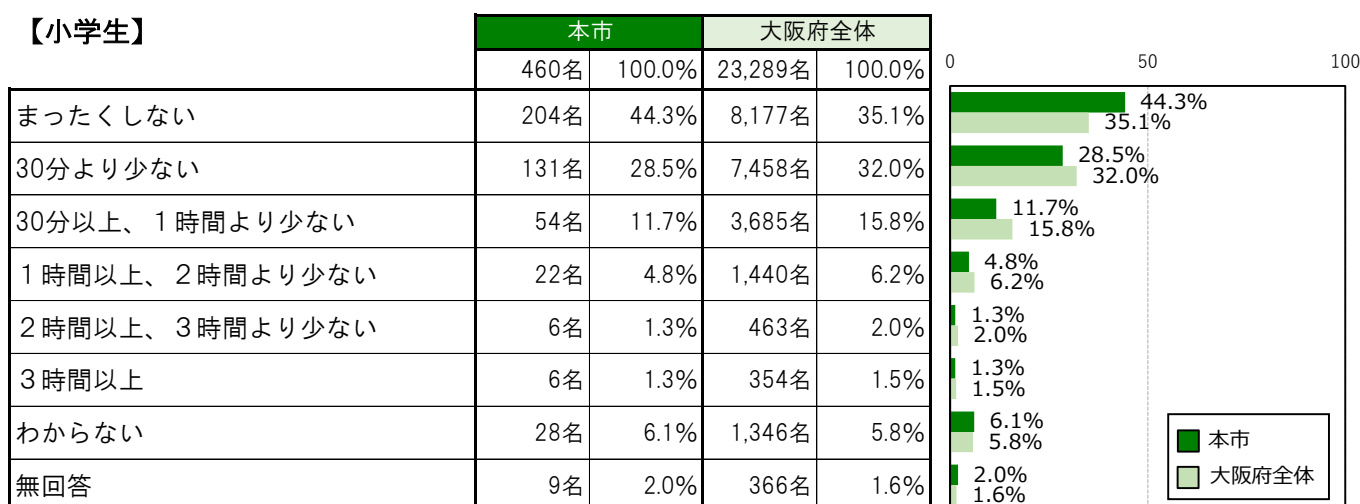
小学生は、「まったくしない」が44.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が28.5%、「30分以上、1時間より少ない」が11.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.8%となっている。

中学生は、「まったくしない」が58.9%で最も多く、次いで「30分より少ない」が22.8%、「30分以上、1時間より少ない」が8.8%、「1時間以上、2時間より少ない」が3.2%となっている。

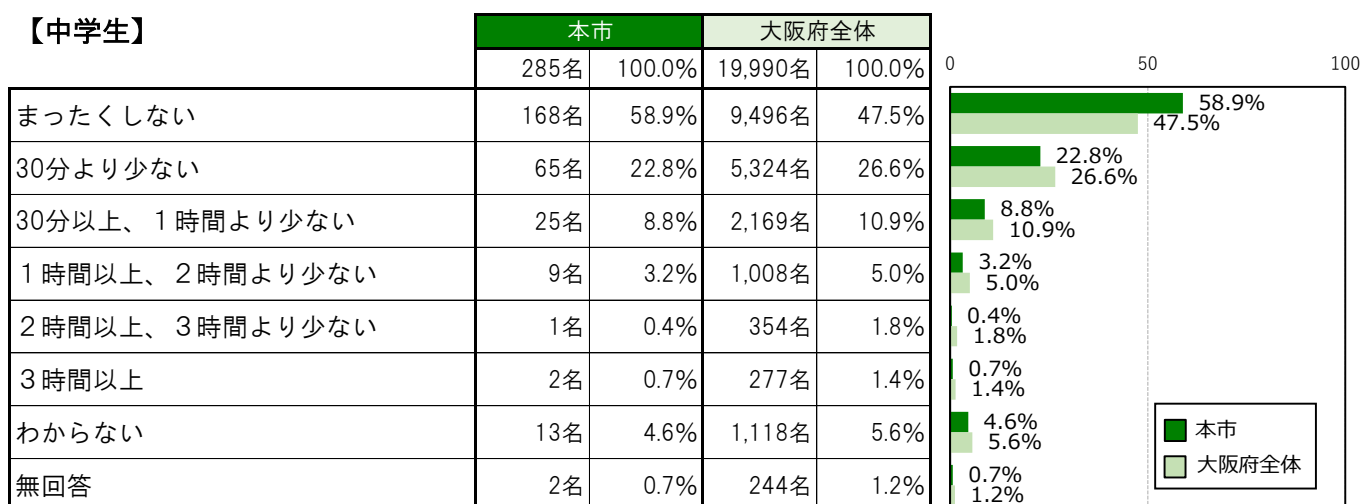
【全体】



【小学生】



【中学生】



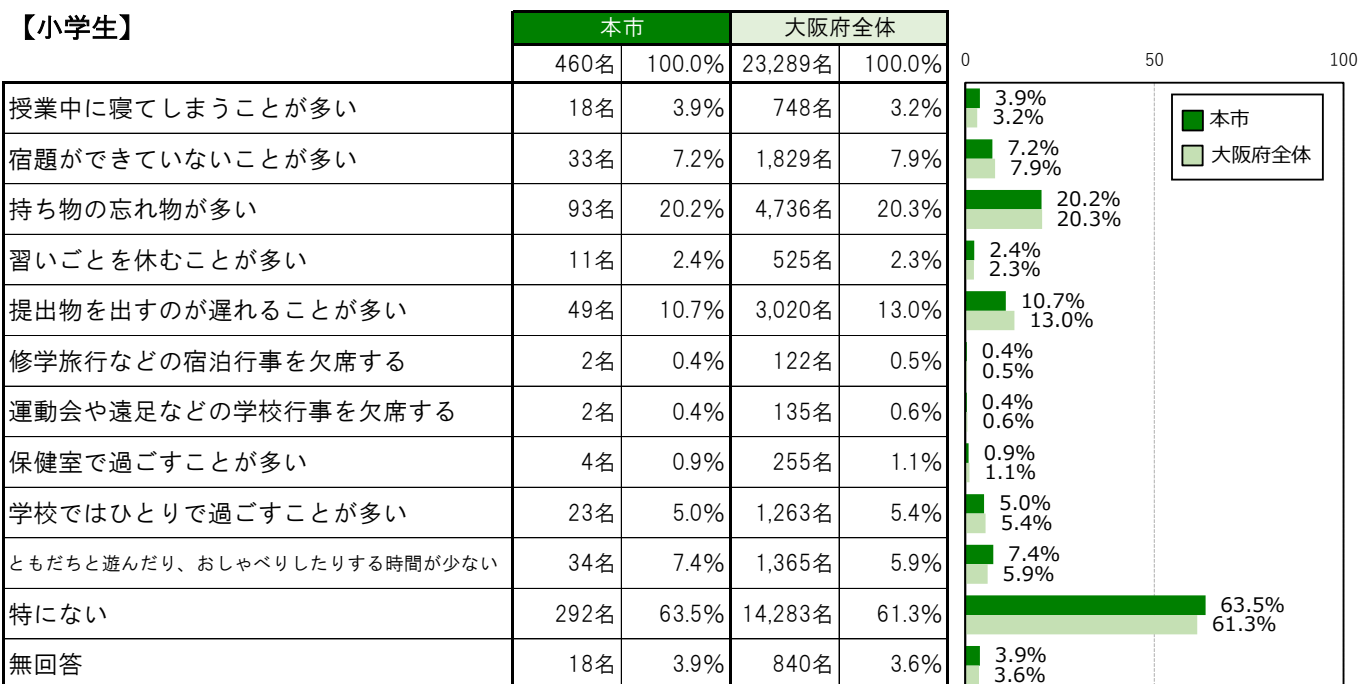
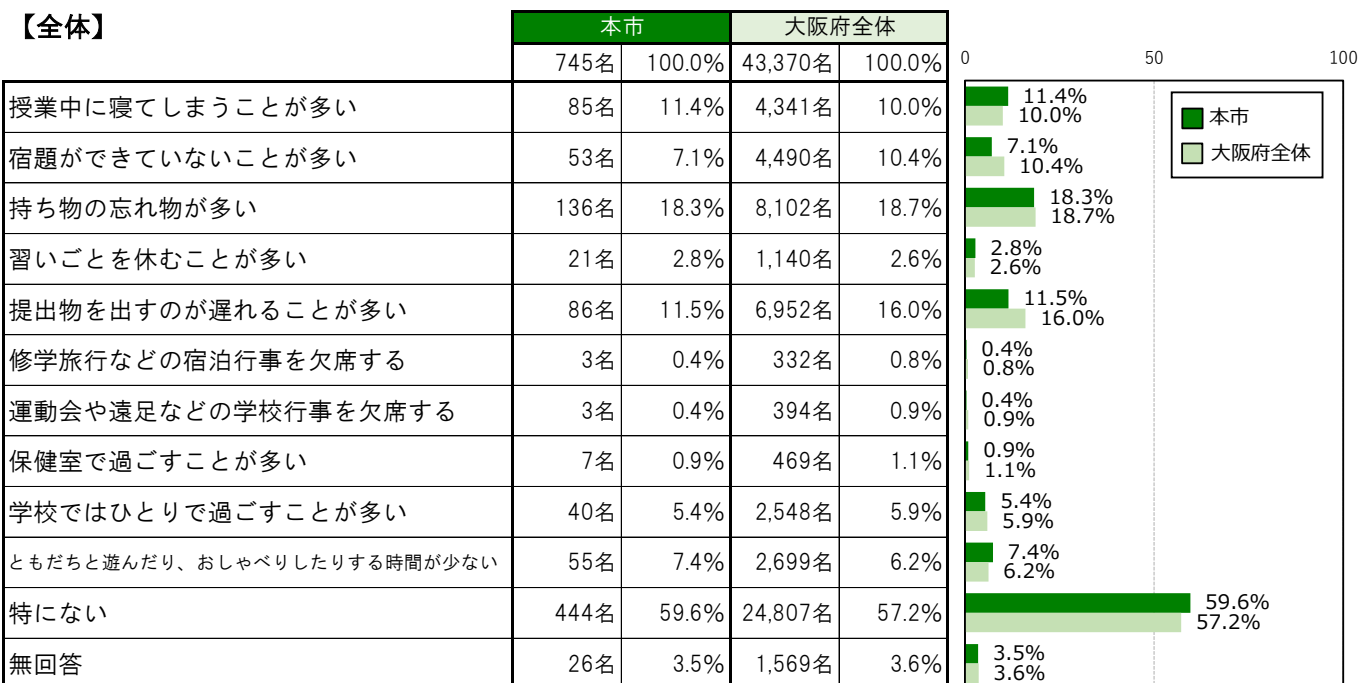
ふだんの生活のことについて

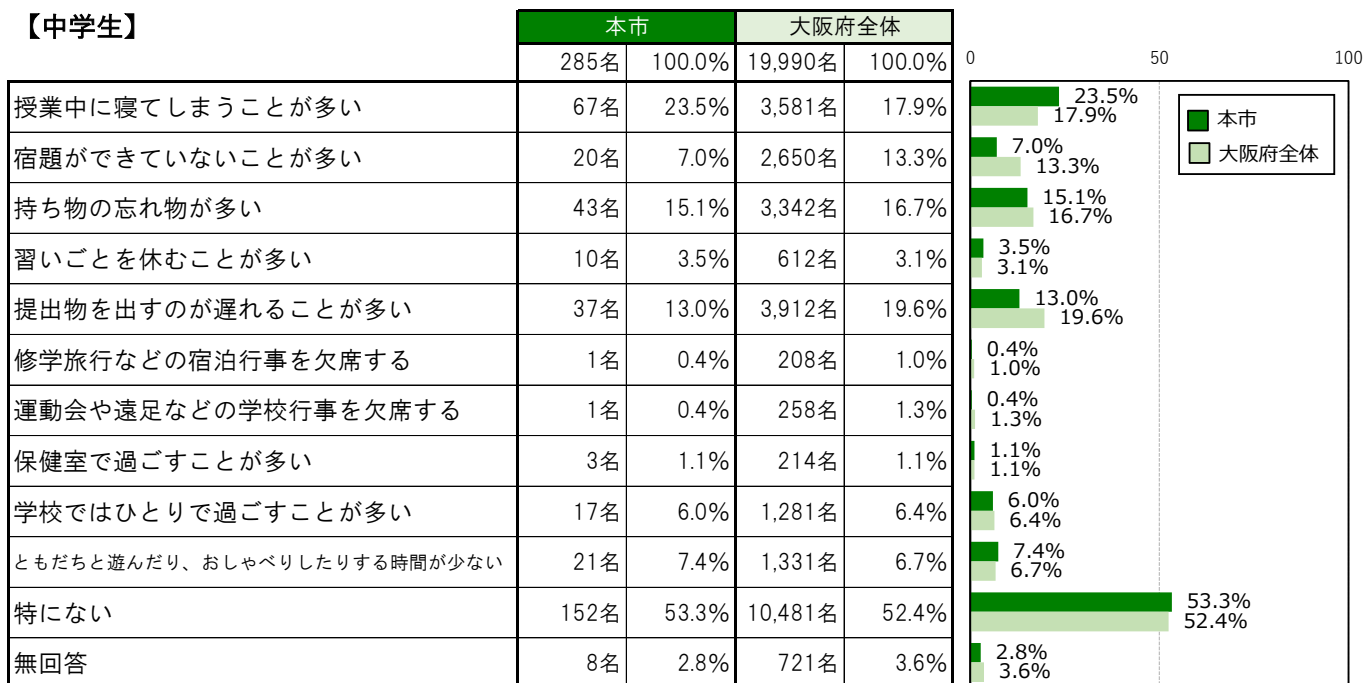
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「持ち物の忘れ物が多い」が18.3%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が11.5%、「授業中に寝てしまうことが多い」が11.4%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が7.4%となっている。

小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が20.2%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が10.7%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が7.4%、「宿題ができていないことが多い」が7.2%となっている。

中学生は、「授業中に寝てしまうことが多い」が23.5%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が15.1%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が13.0%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が7.4%となっている。





ふだんの生活のことについて

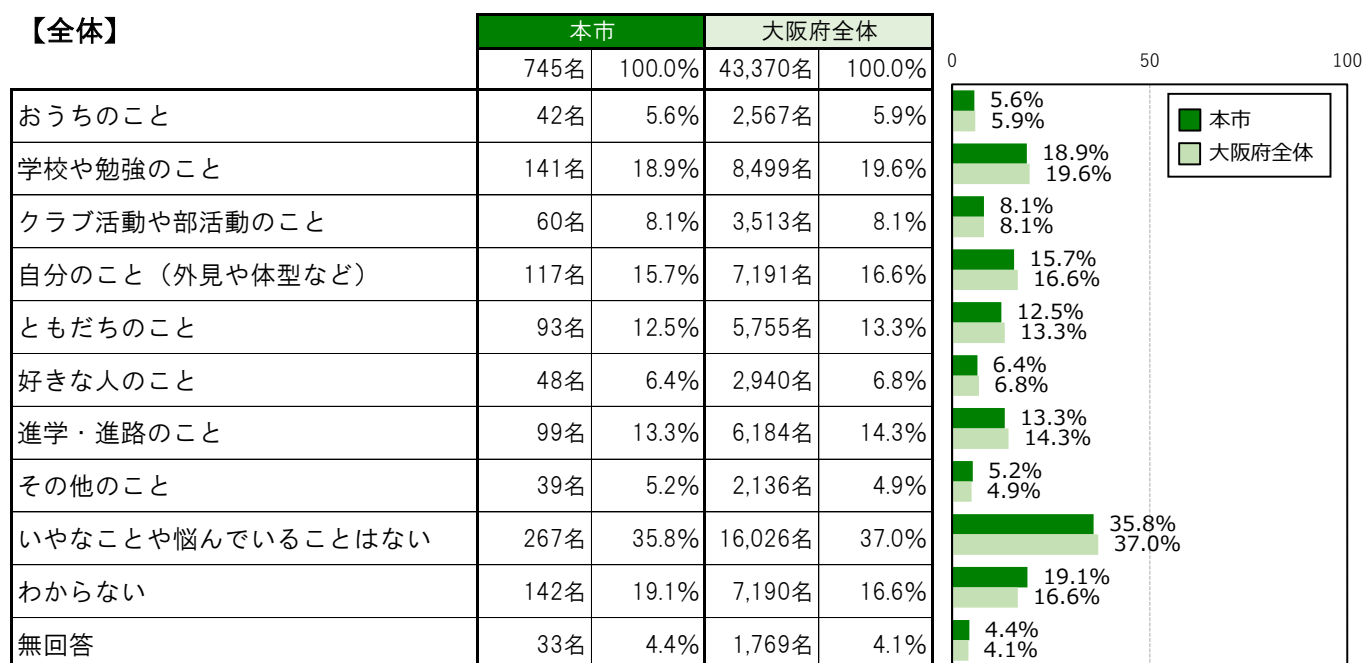
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が35.8%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が18.9%、「自分のこと（外見や体型など）」が15.7%、「進学・進路のこと」が13.3%となっている。

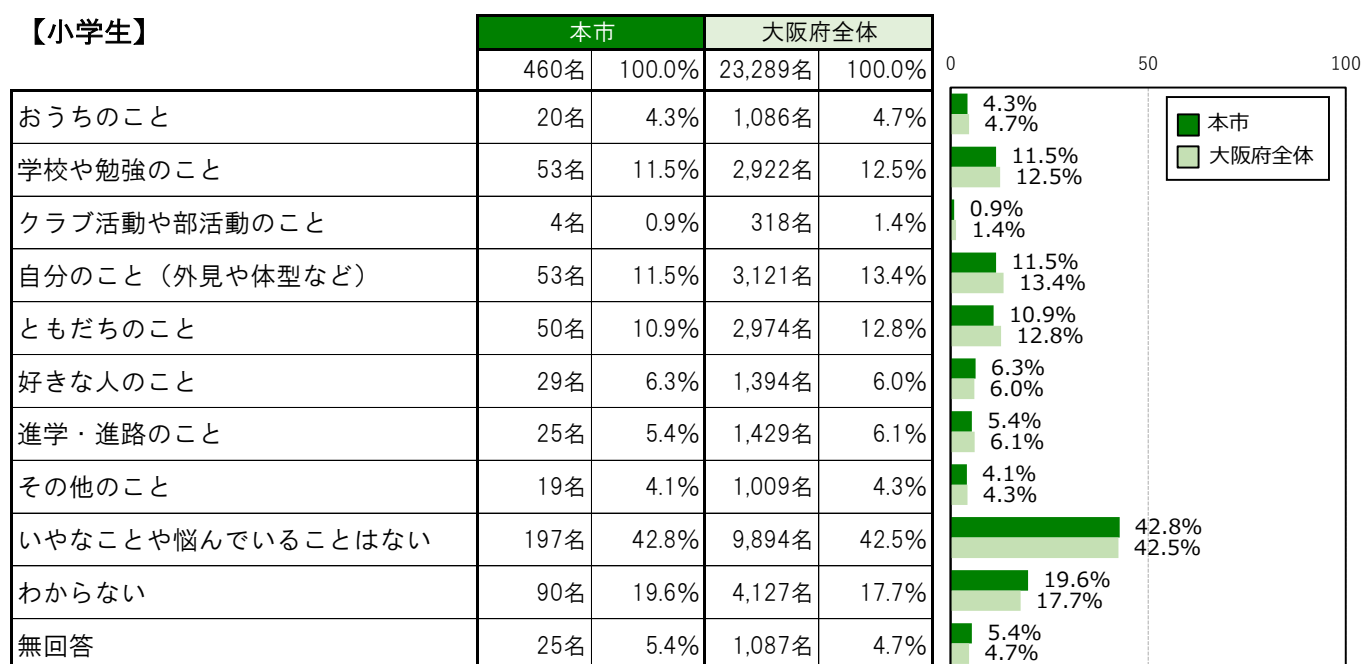
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が42.8%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」、「自分のこと（外見や体型など）」がそれぞれ11.5%、「ともだちのこと」が10.9%となっている。

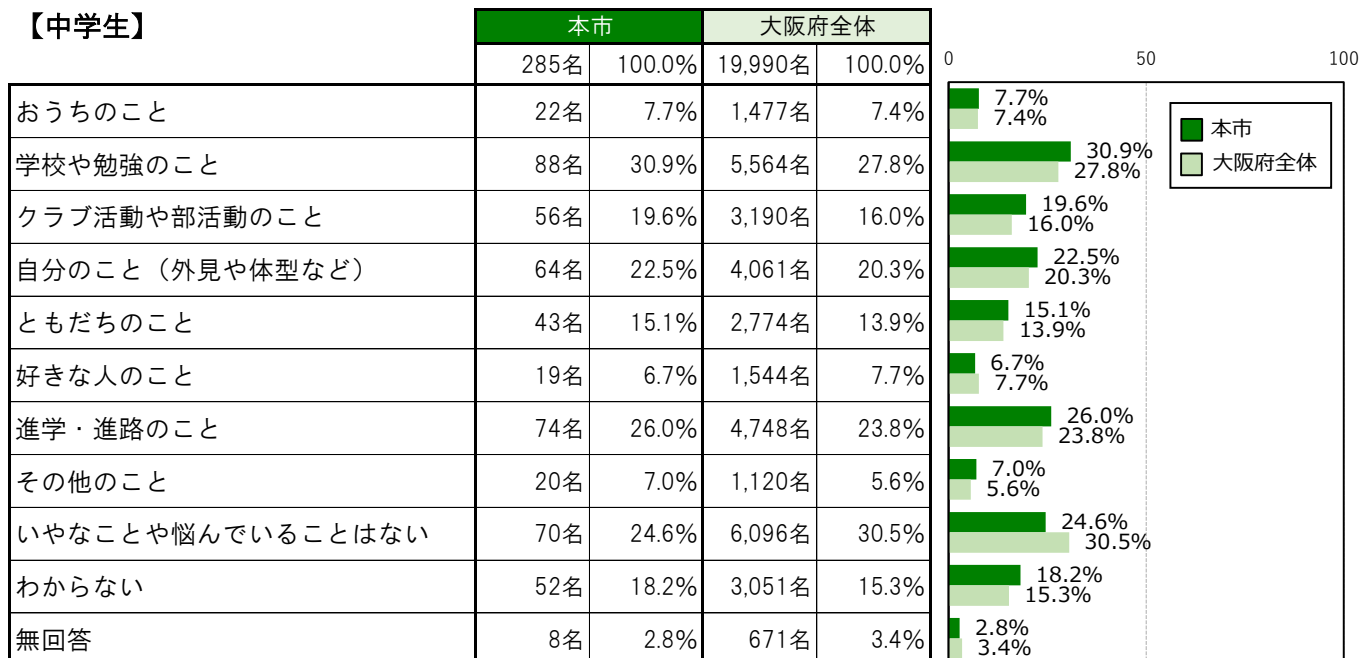
中学生は、「学校や勉強のこと」が30.9%で最も多く、次いで「進学・進路のこと」が26.0%、「いやなことや悩んでいることはない」が24.6%、「自分のこと（外見や体型など）」が22.5%となっている。

【全体】



【小学生】





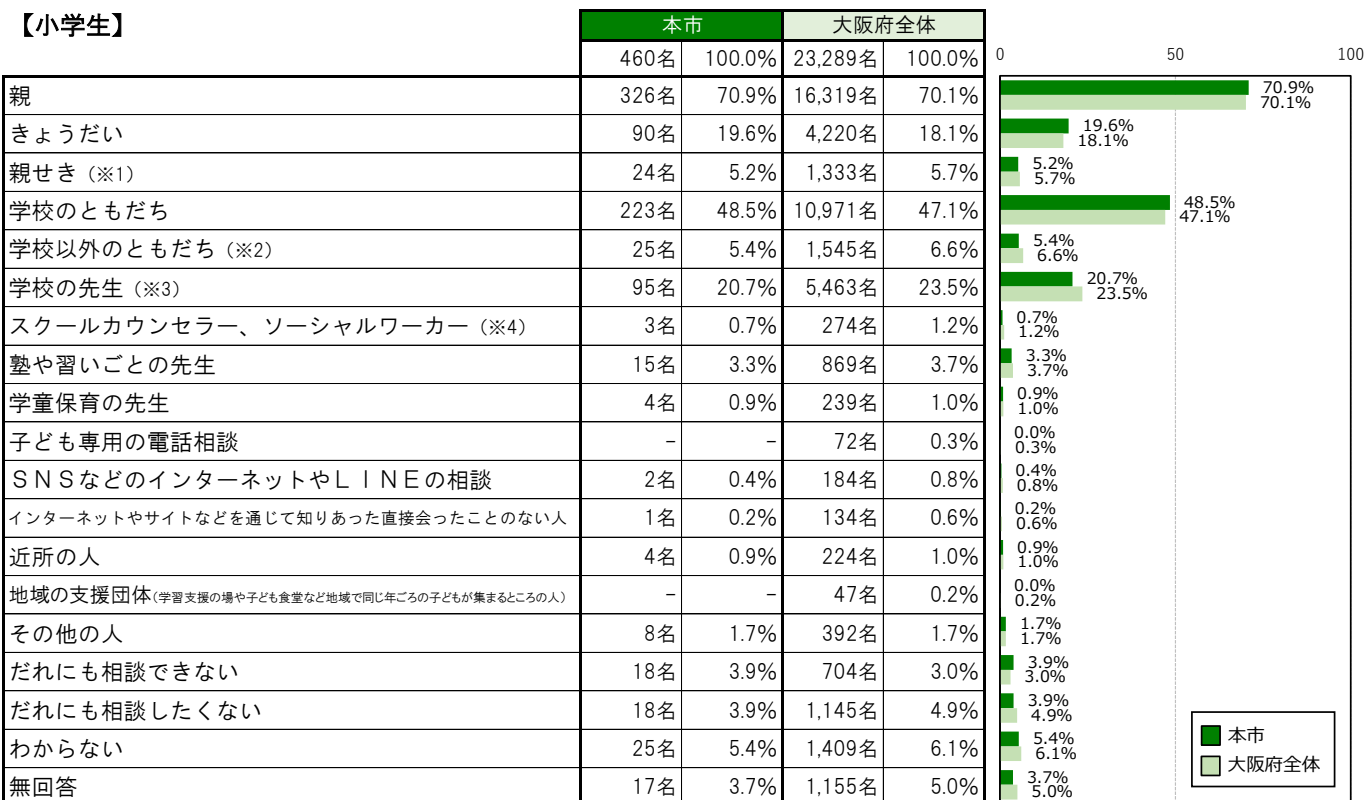
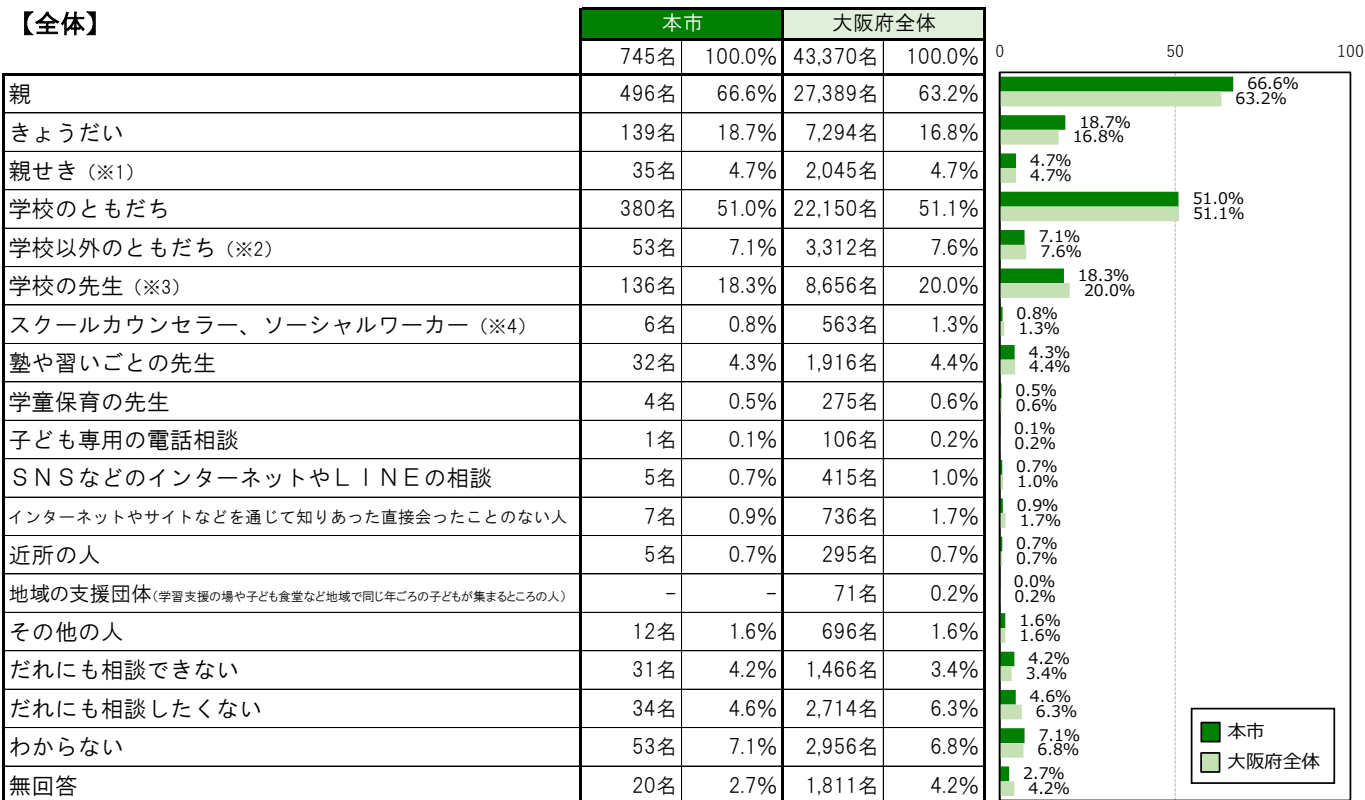
ふだんの生活のことについて

問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

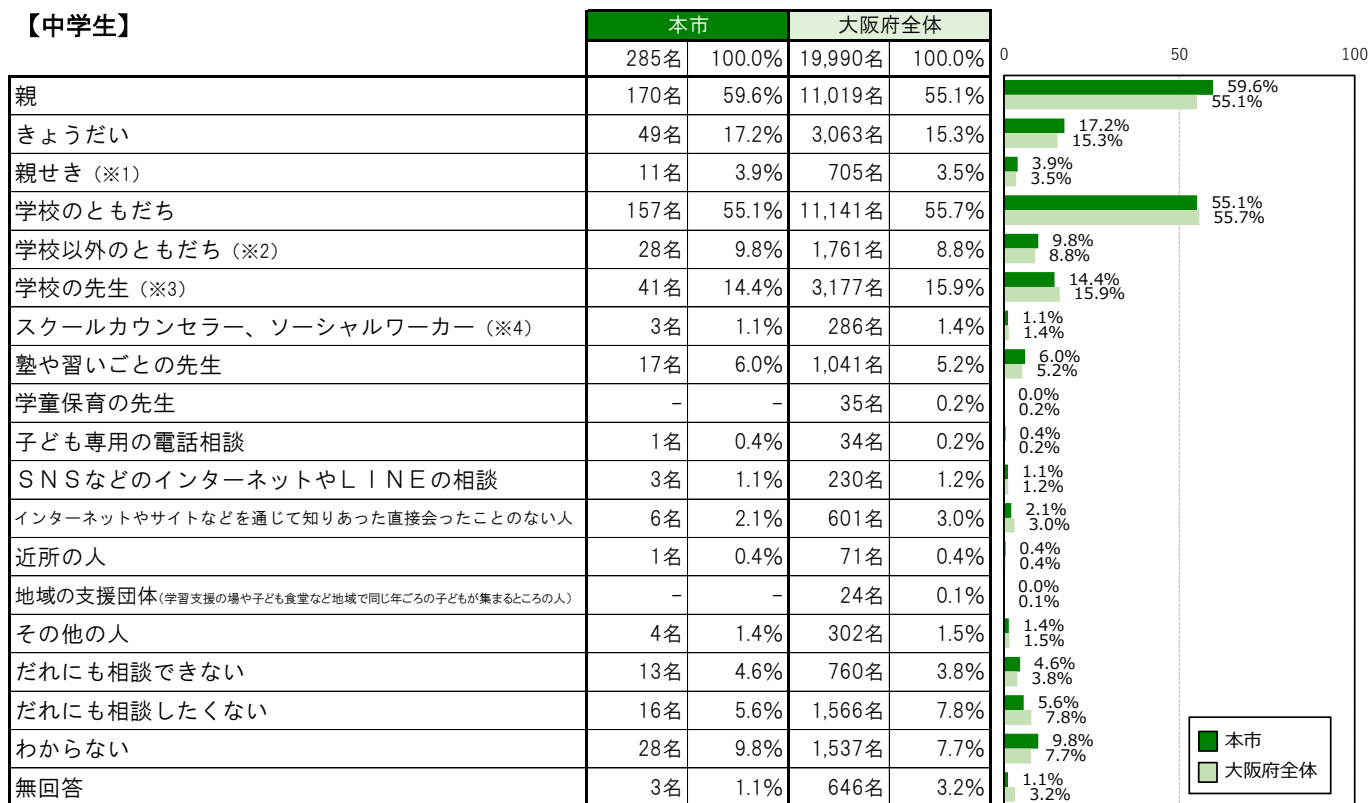
全体は、「親」が66.6%で最も多く、次いで「学校のともだち」が51.0%、「きょうだい」が18.7%、「学校の先生」が18.3%となっている。

小学生は、「親」が70.9%で最も多く、次いで「学校のともだち」が48.5%、「学校の先生」が20.7%、「きょうだい」が19.6%となっている。

中学生は、「親」が59.6%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.1%、「きょうだい」が17.2%、「学校の先生」が14.4%となっている。



【中学生】



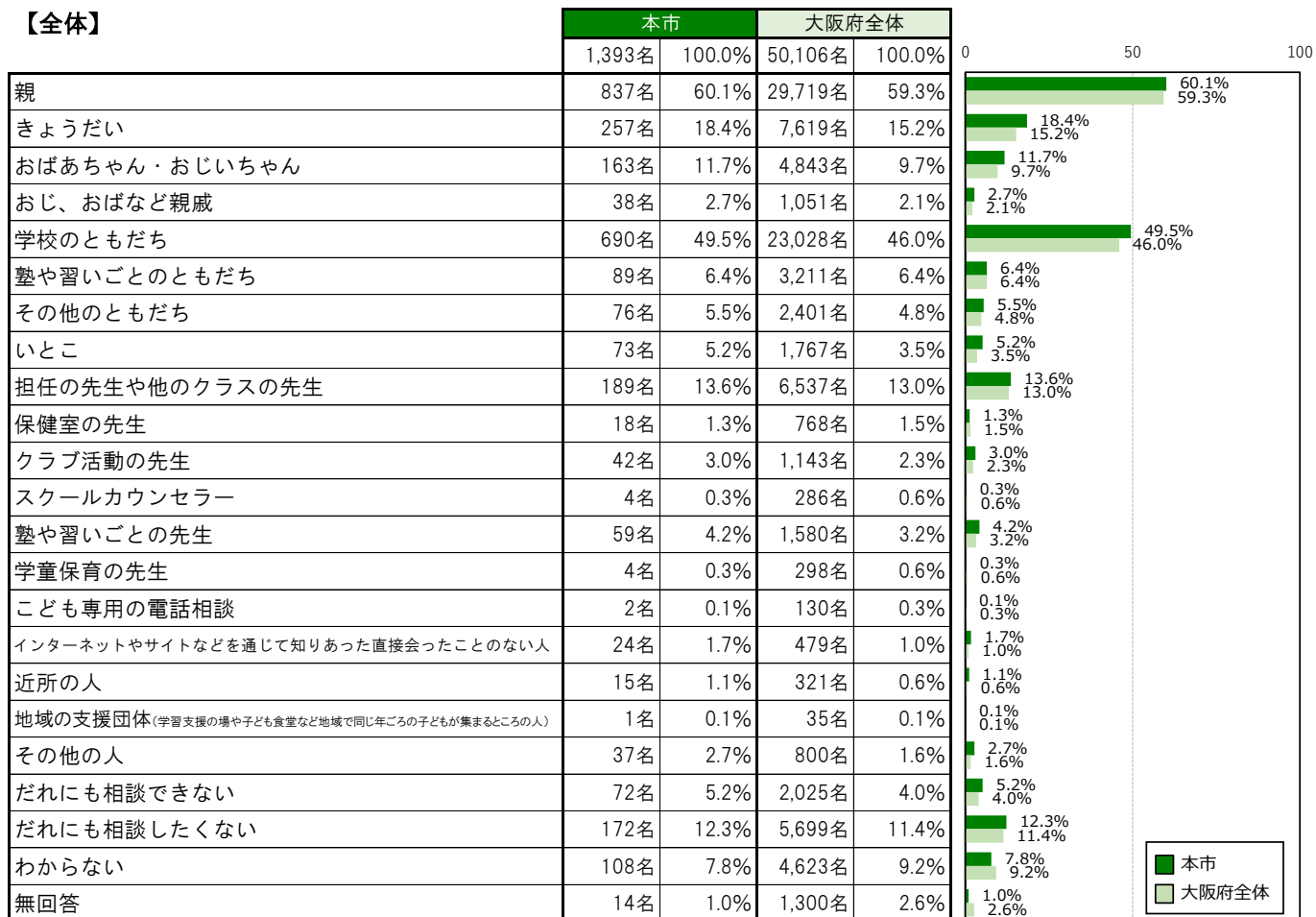
※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」
 ※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」
 ※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」
 ※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

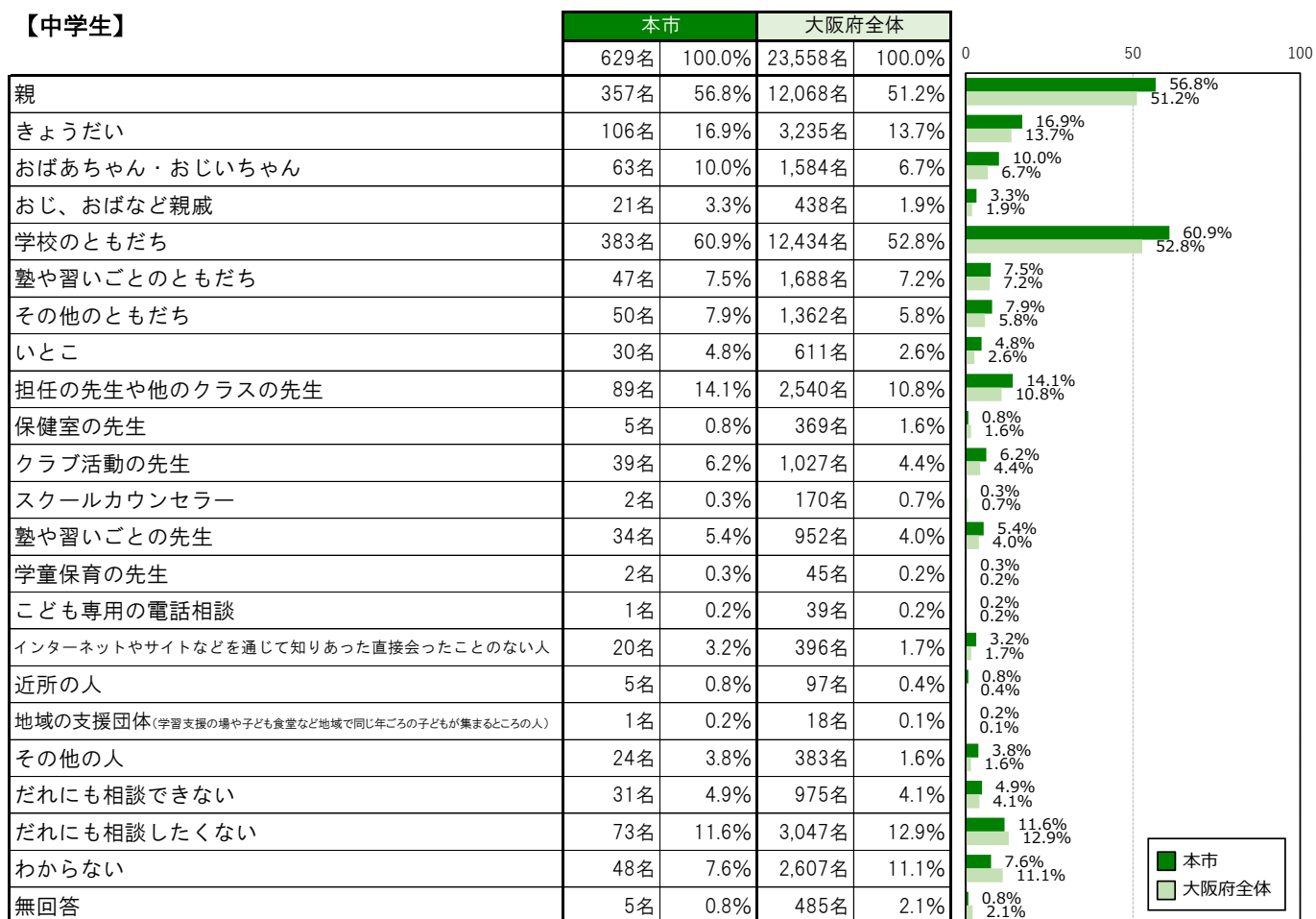
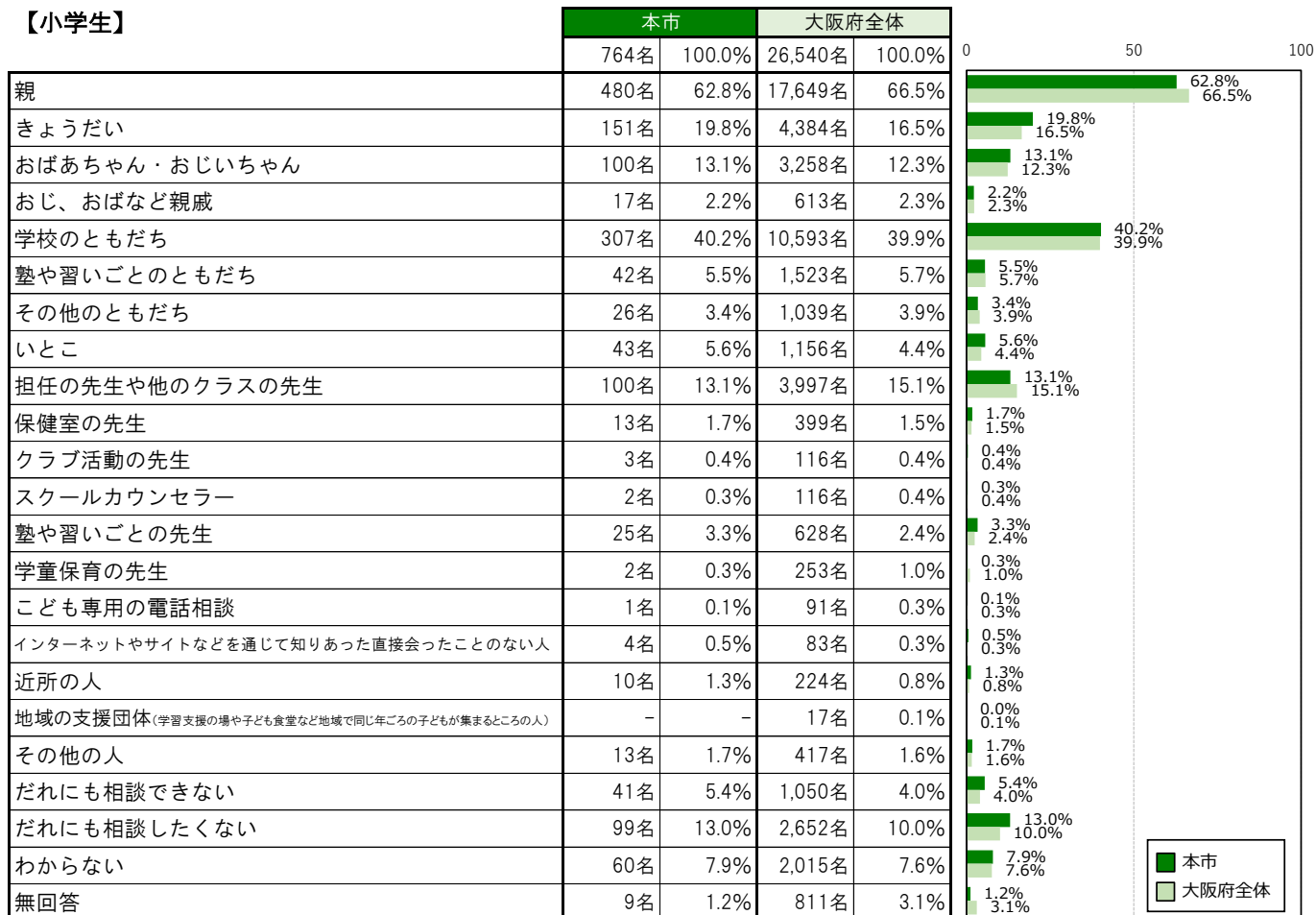
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「親」が6.5ポイント高くなっているが、「だれにも相談したくない」が7.7ポイント低くなっている。

小学生は、「学校のともだち」が8.3ポイント、「親」が8.1ポイント、それぞれ高くなっているが、「誰にも相談したくない」が9.1ポイント低くなっている。

中学生は、「親」が2.8ポイント高くなっているが、「誰にも相談したくない」が6.0ポイント低くなっている。





ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

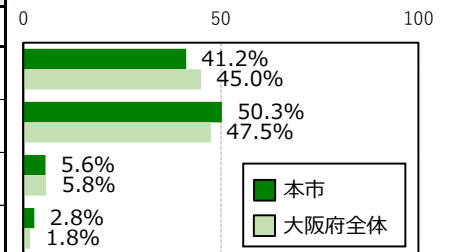
全体は、「ときどきそうだ」が50.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が41.2%、「そんなことはない」が5.6%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が49.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が43.3%、「そんなことはない」が4.1%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が37.9%、「そんなことはない」が8.1%となっている。

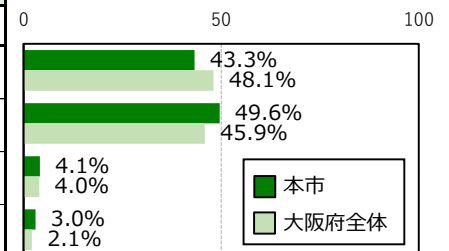
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	307名	41.2%	19,505名	45.0%
ときどきそうだ	375名	50.3%	20,583名	47.5%
そんなことはない	42名	5.6%	2,517名	5.8%
無回答	21名	2.8%	765名	1.8%



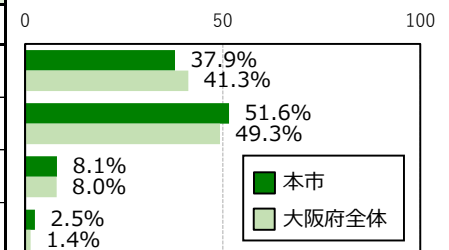
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	199名	43.3%	11,206名	48.1%
ときどきそうだ	228名	49.6%	10,683名	45.9%
そんなことはない	19名	4.1%	922名	4.0%
無回答	14名	3.0%	478名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	108名	37.9%	8,256名	41.3%
ときどきそうだ	147名	51.6%	9,858名	49.3%
そんなことはない	23名	8.1%	1,595名	8.0%
無回答	7名	2.5%	281名	1.4%



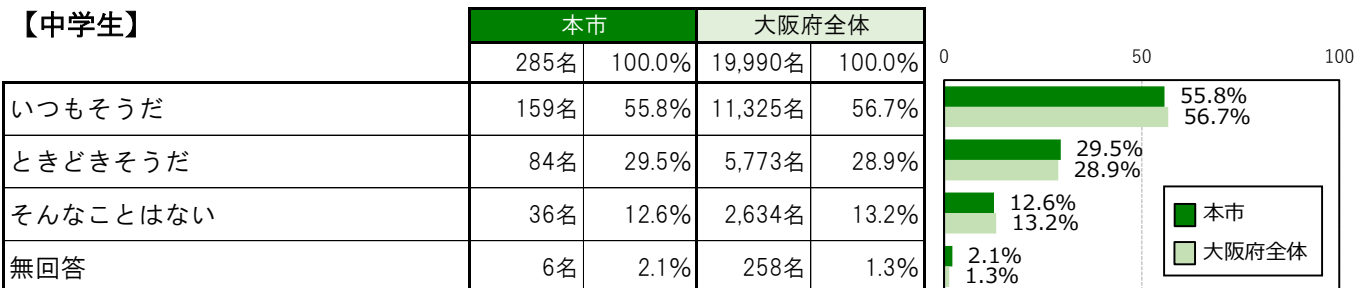
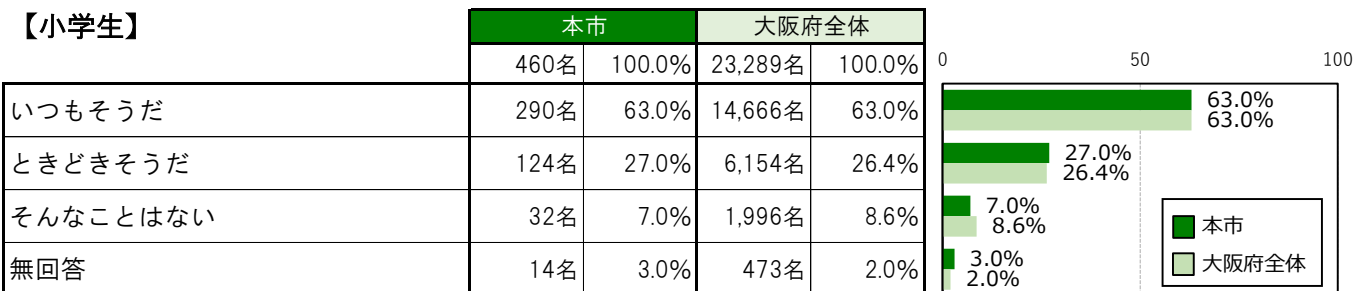
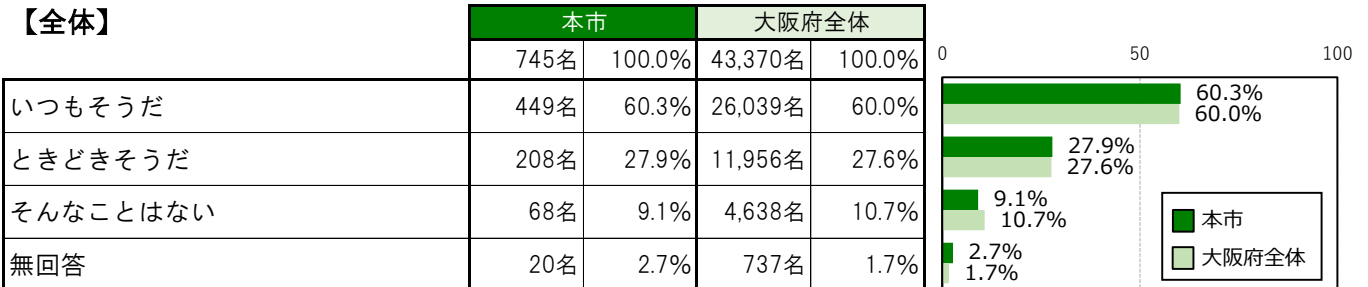
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

全体は、「いつもそうだ」が60.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.9%、「そんなことはない」が9.1%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が63.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.0%、「そんなことはない」が7.0%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が55.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.5%、「そんなことはない」が12.6%となっている。



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

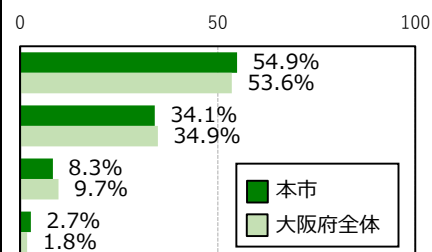
全体は、「いつもそうだ」が54.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.1%、「そんなことはない」が8.3%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が61.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が30.0%、「そんなことはない」が5.7%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が44.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が40.7%、「そんなことはない」が12.6%となっている。

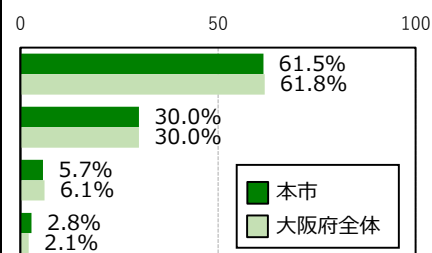
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	409名	54.9%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	254名	34.1%	15,146名	34.9%
そんなことはない	62名	8.3%	4,217名	9.7%
無回答	20名	2.7%	773名	1.8%



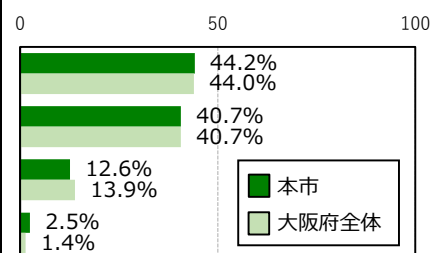
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	283名	61.5%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	138名	30.0%	6,978名	30.0%
そんなことはない	26名	5.7%	1,431名	6.1%
無回答	13名	2.8%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	126名	44.2%	8,796名	44.0%
ときどきそうだ	116名	40.7%	8,128名	40.7%
そんなことはない	36名	12.6%	2,782名	13.9%
無回答	7名	2.5%	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

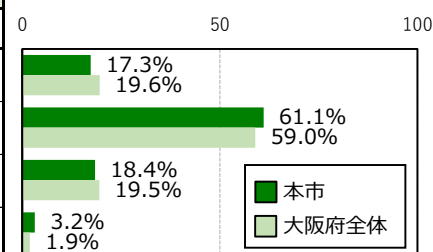
全体は、「ときどきそうだ」が61.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が18.4%、「いつもそうだ」が17.3%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が62.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が19.8%、「そんなことはない」が13.5%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が58.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が26.3%、「いつもそうだ」が13.3%となっている。

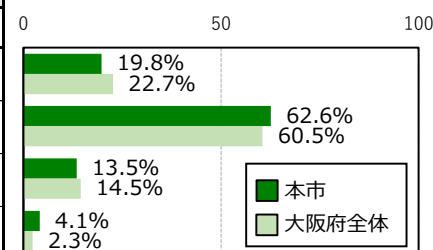
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	129名	17.3%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	455名	61.1%	25,567名	59.0%
そんなことはない	137名	18.4%	8,460名	19.5%
無回答	24名	3.2%	840名	1.9%



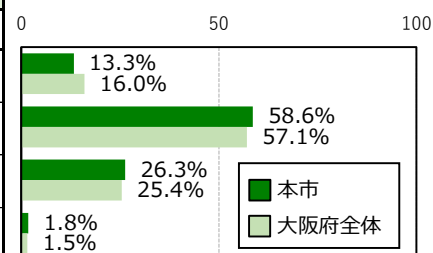
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	91名	19.8%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	288名	62.6%	14,099名	60.5%
そんなことはない	62名	13.5%	3,367名	14.5%
無回答	19名	4.1%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	38名	13.3%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	167名	58.6%	11,416名	57.1%
そんなことはない	75名	26.3%	5,081名	25.4%
無回答	5名	1.8%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

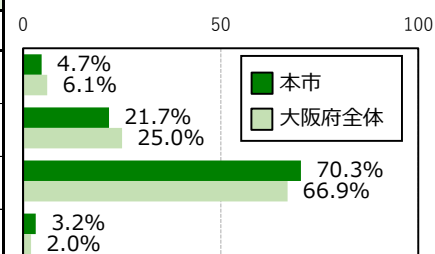
全体は、「そんなことはない」が70.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が21.7%、「いつもそうだ」が4.7%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が75.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が16.1%、「いつもそうだ」が4.8%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が62.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が30.9%、「いつもそうだ」が4.6%となっている。

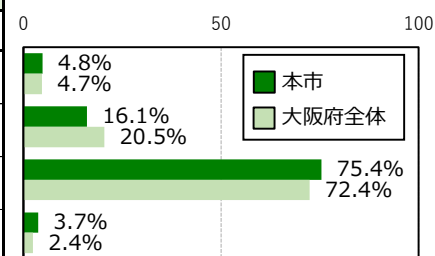
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	35名	4.7%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	162名	21.7%	10,860名	25.0%
そんなことはない	524名	70.3%	29,021名	66.9%
無回答	24名	3.2%	861名	2.0%



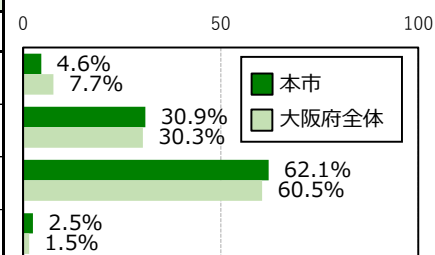
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	22名	4.8%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	74名	16.1%	4,776名	20.5%
そんなことはない	347名	75.4%	16,872名	72.4%
無回答	17名	3.7%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	13名	4.6%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	88名	30.9%	6,057名	30.3%
そんなことはない	177名	62.1%	12,095名	60.5%
無回答	7名	2.5%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

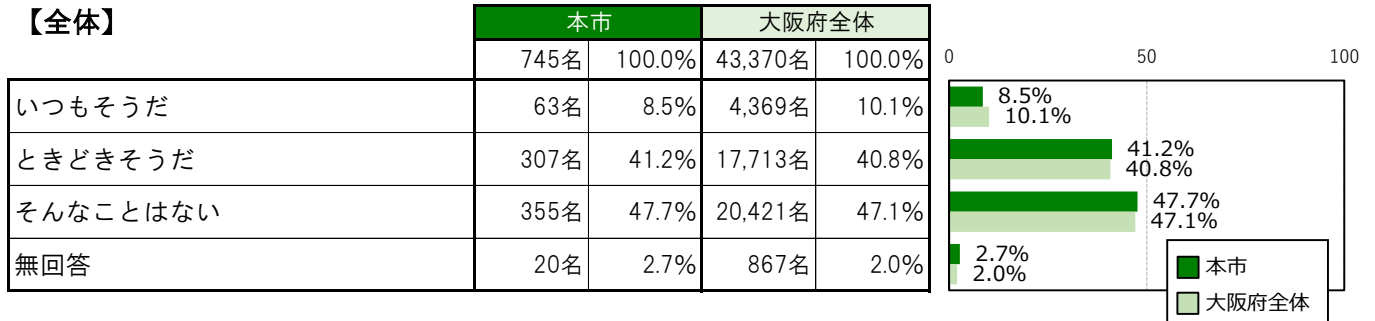
問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

全体は、「そんなことはない」が47.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が41.2%、「いつもそうだ」が8.5%となっている。

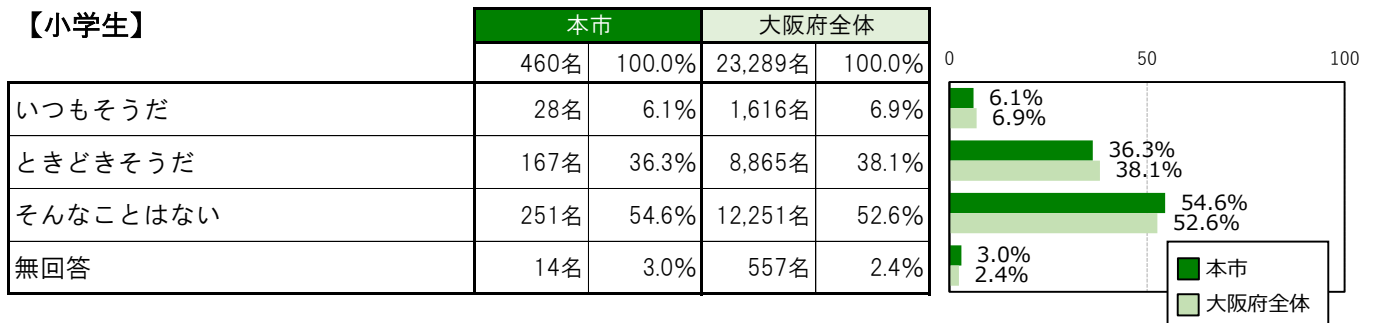
小学生は、「そんなことはない」が54.6%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.3%、「いつもそうだ」が6.1%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が49.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.5%、「いつもそうだ」が12.3%となっている。

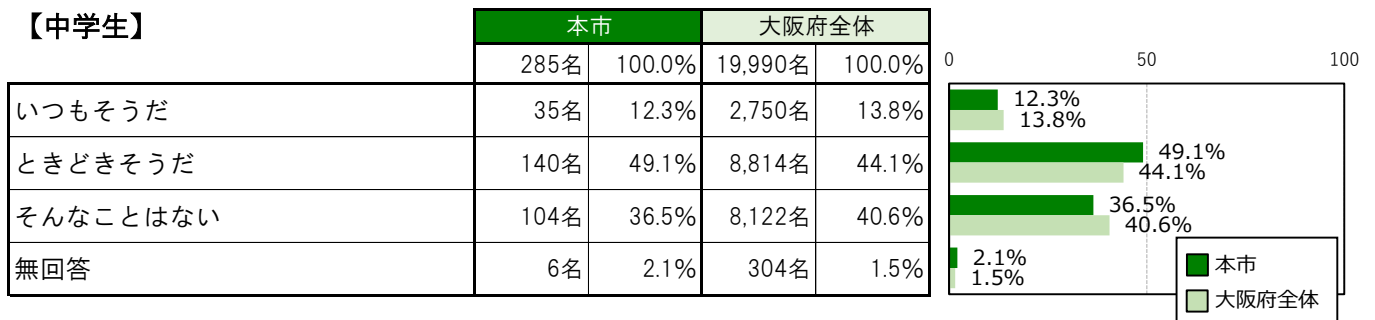
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

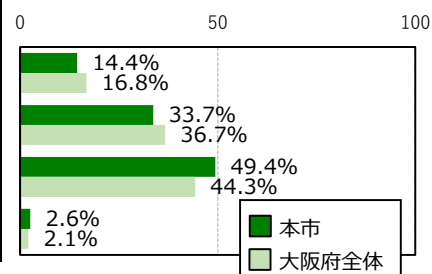
全体は、「そんなことはない」が49.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が33.7%、「いつもそうだ」が14.4%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が57.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.7%、「いつもそうだ」が10.9%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が41.8%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.5%、「いつもそうだ」が20.0%となっている。

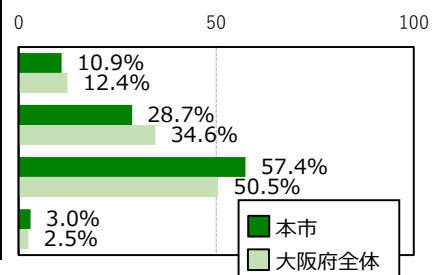
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	107名	14.4%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	251名	33.7%	15,932名	36.7%
そんなことはない	368名	49.4%	19,222名	44.3%
無回答	19名	2.6%	916名	2.1%



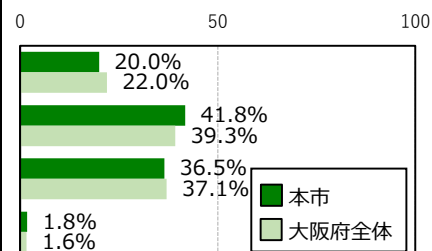
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	50名	10.9%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	132名	28.7%	8,049名	34.6%
そんなことはない	264名	57.4%	11,759名	50.5%
無回答	14名	3.0%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	57名	20.0%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	119名	41.8%	7,848名	39.3%
そんなことはない	104名	36.5%	7,422名	37.1%
無回答	5名	1.8%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

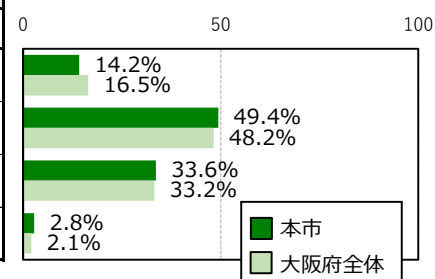
全体は、「ときどきそうだ」が49.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が33.6%、「いつもそうだ」が14.2%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が45.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が41.3%、「いつもそうだ」が9.6%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が55.1%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が21.8%、「そんなことはない」が21.1%となっている。

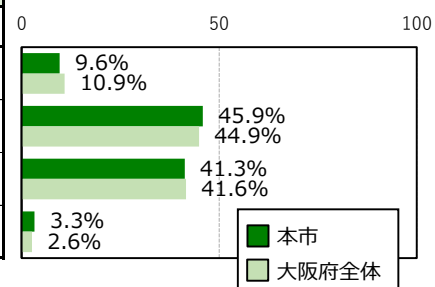
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	106名	14.2%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	368名	49.4%	20,902名	48.2%
そんなことはない	250名	33.6%	14,387名	33.2%
無回答	21名	2.8%	929名	2.1%



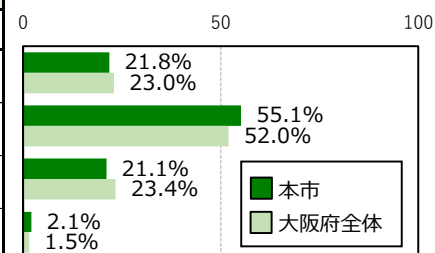
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	44名	9.6%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	211名	45.9%	10,454名	44.9%
そんなことはない	190名	41.3%	9,677名	41.6%
無回答	15名	3.3%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	62名	21.8%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	157名	55.1%	10,396名	52.0%
そんなことはない	60名	21.1%	4,682名	23.4%
無回答	6名	2.1%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

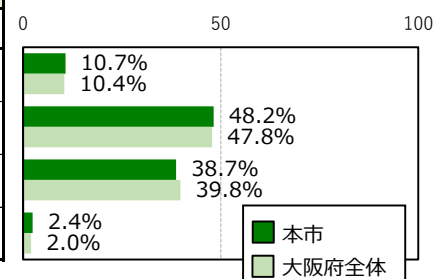
全体は、「ときどきそうだ」が48.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が38.7%、「いつもそうだ」が10.7%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が46.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.4%、「いつもそうだ」が10.0%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が50.5%で最も多く、次いで「そんなことはない」が35.8%、「いつもそうだ」が11.9%となっている。

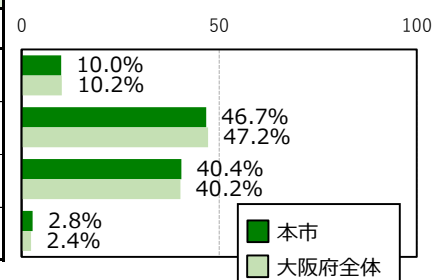
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	80名	10.7%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	359名	48.2%	20,712名	47.8%
そんなことはない	288名	38.7%	17,270名	39.8%
無回答	18名	2.4%	863名	2.0%



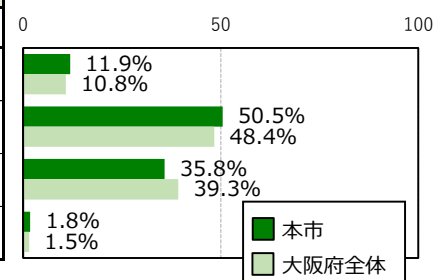
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	46名	10.0%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	215名	46.7%	10,997名	47.2%
そんなことはない	186名	40.4%	9,370名	40.2%
無回答	13名	2.8%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	34名	11.9%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	144名	50.5%	9,674名	48.4%
そんなことはない	102名	35.8%	7,865名	39.3%
無回答	5名	1.8%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

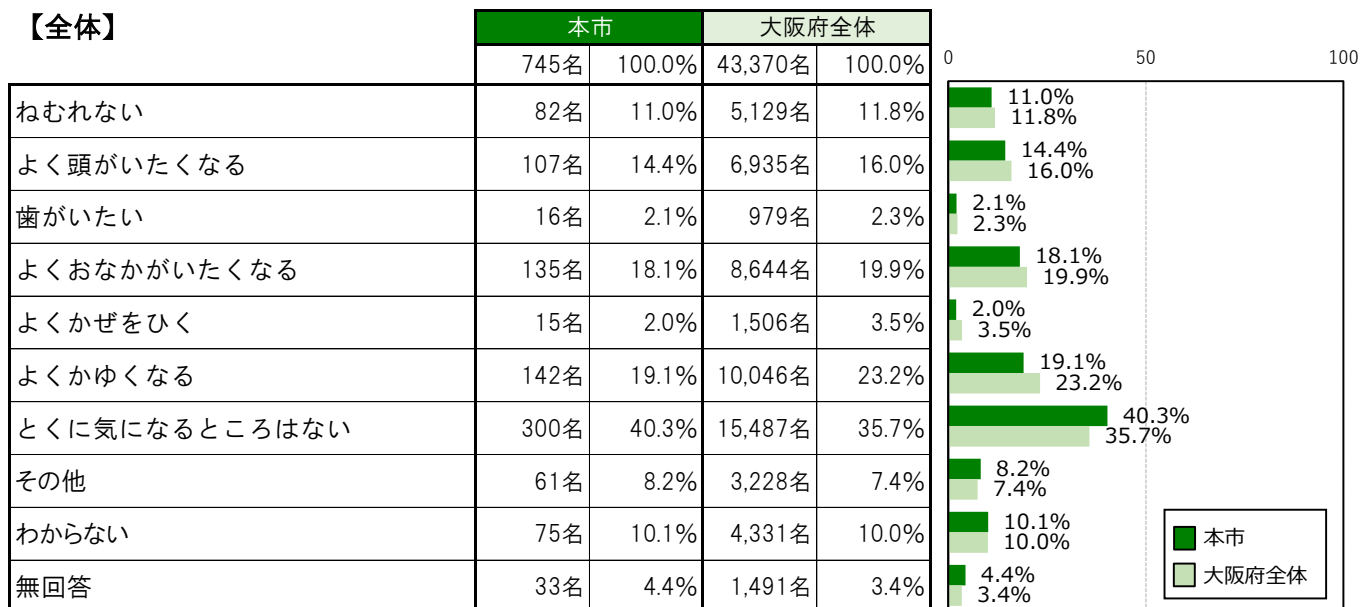
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が40.3%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が19.1%、「よくおなかがいたくなる」が18.1%、「よく頭がいたくなる」が14.4%となっている。

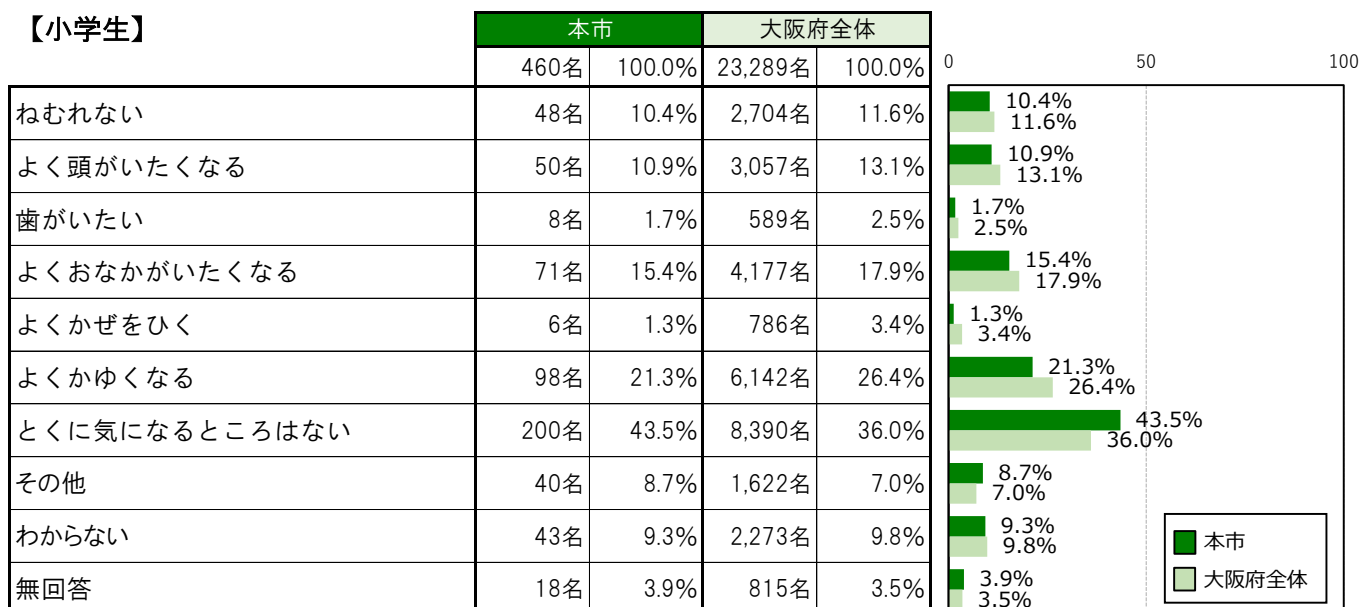
小学生は、「とくに気になるところはない」が43.5%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が21.3%、「よくおなかがいたくなる」が15.4%、「よく頭がいたくなる」が10.9%となっている。

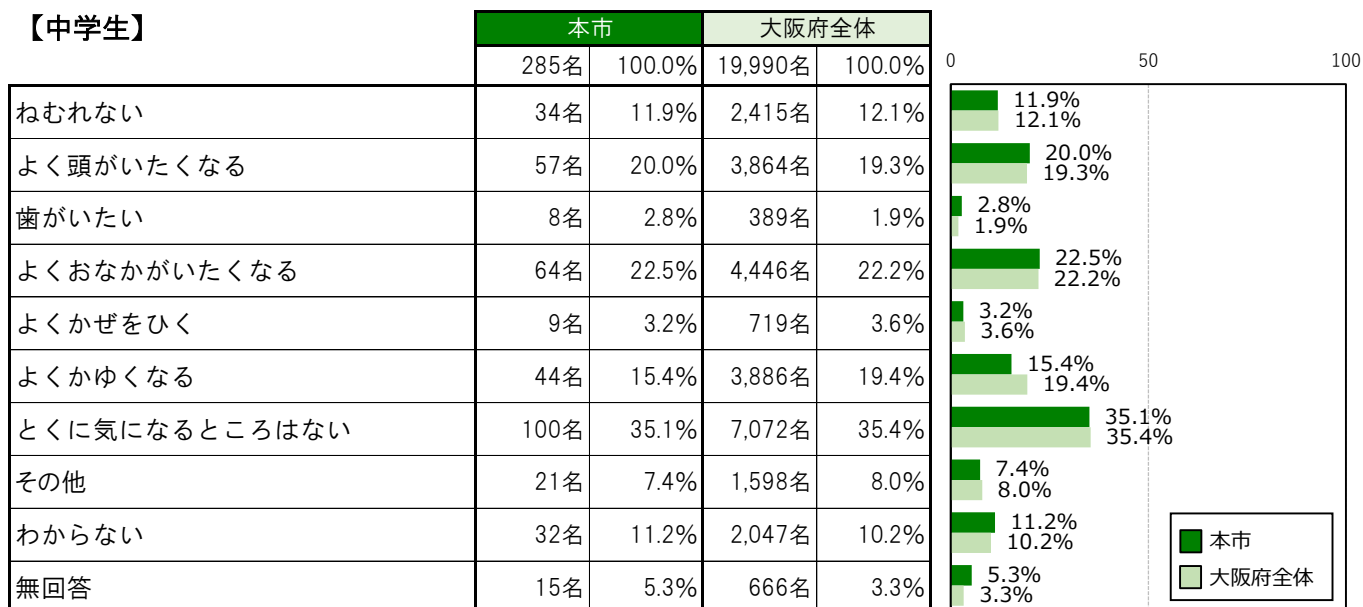
中学生は、「とくに気になるところはない」が35.1%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が22.5%、「よく頭がいたくなる」が20.0%、「よくかゆくなる」が15.4%となっている。

【全体】



【小学生】





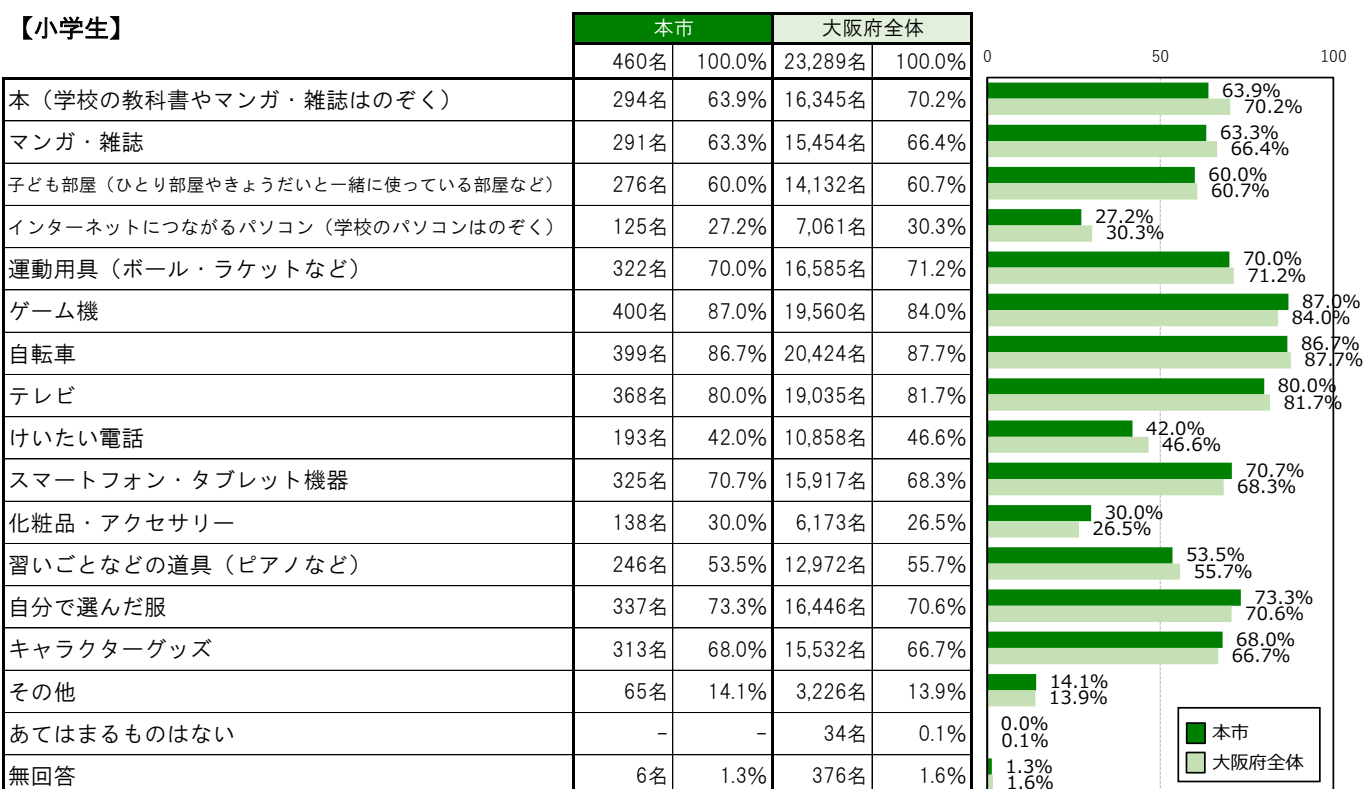
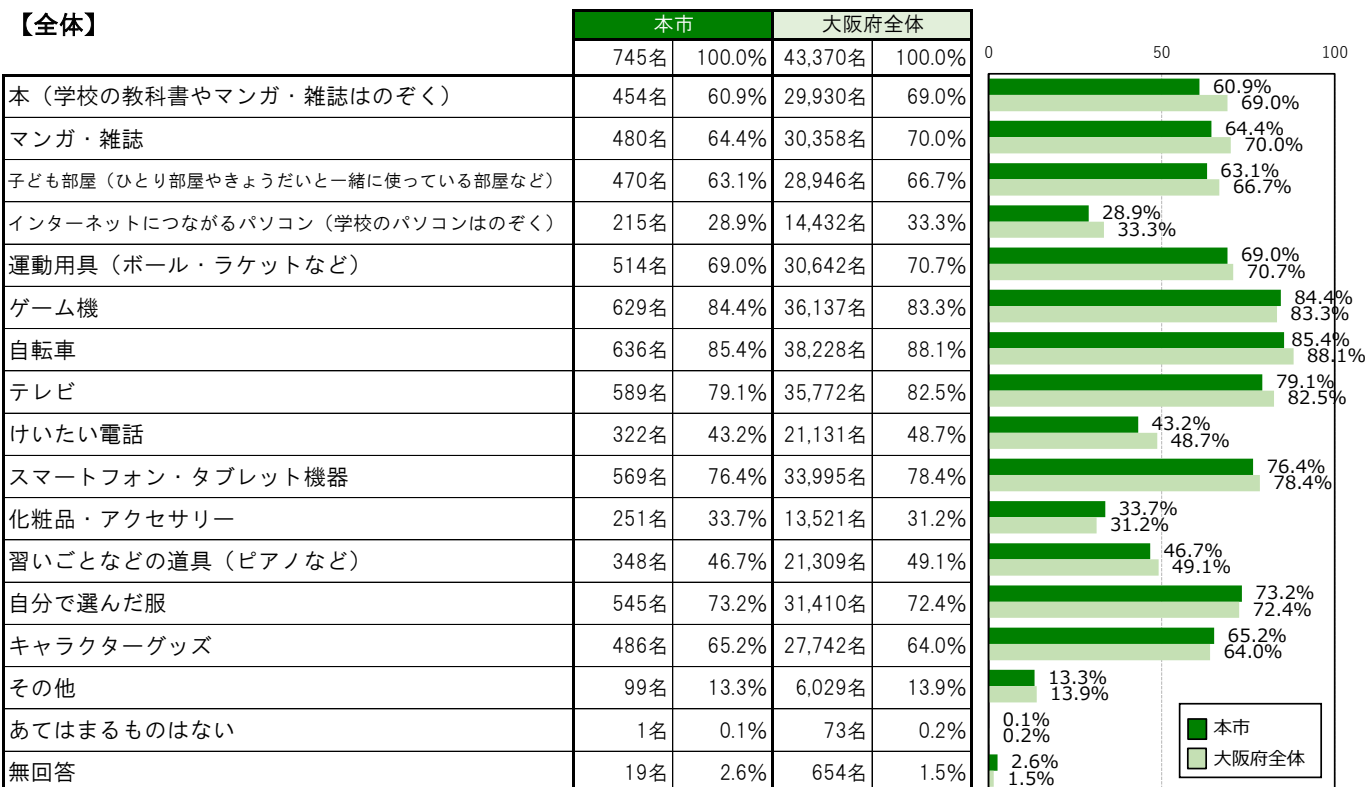
ふだんの生活のことについて

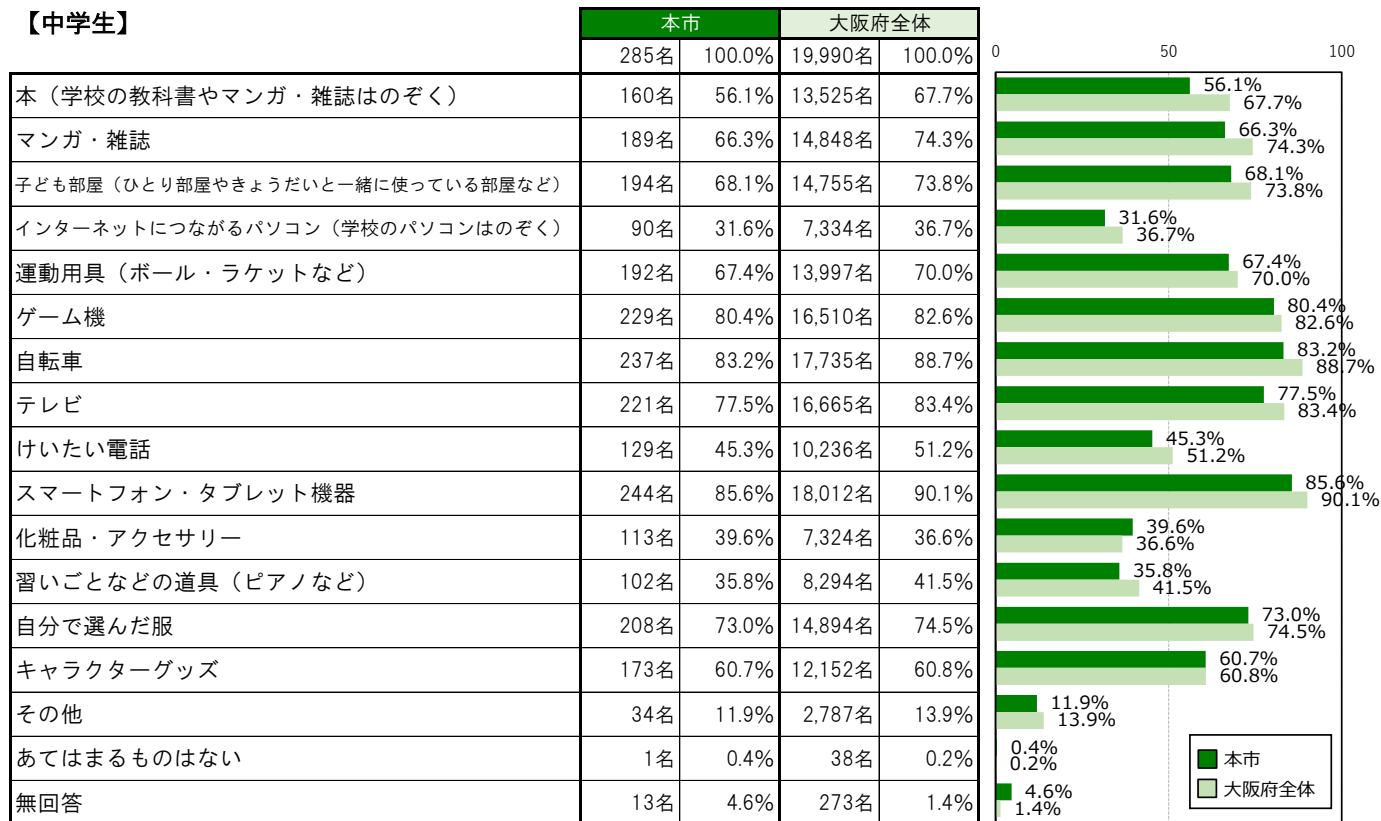
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が85.4%で最も多く、次いで「ゲーム機」が84.4%、「テレビ」が79.1%、「スマートフォン・タブレット機器」が76.4%となっている。

小学生は、「ゲーム機」が87.0%で最も多く、次いで「自転車」が86.7%、「テレビ」が80.0%、「自分で選んだ服」が73.3%となっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が85.6%で最も多く、次いで「自転車」が83.2%、「ゲーム機」が80.4%、「テレビ」が77.5%となっている。



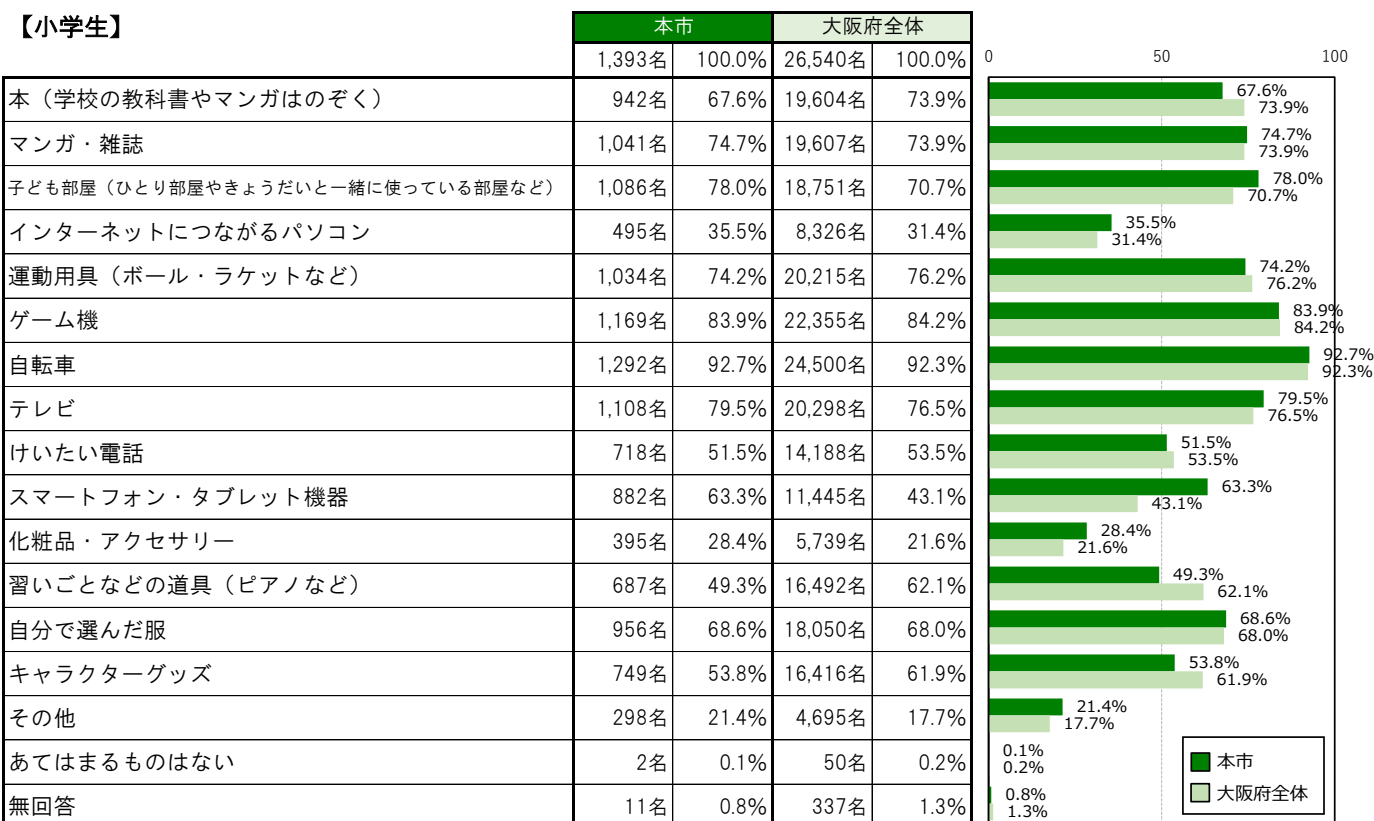
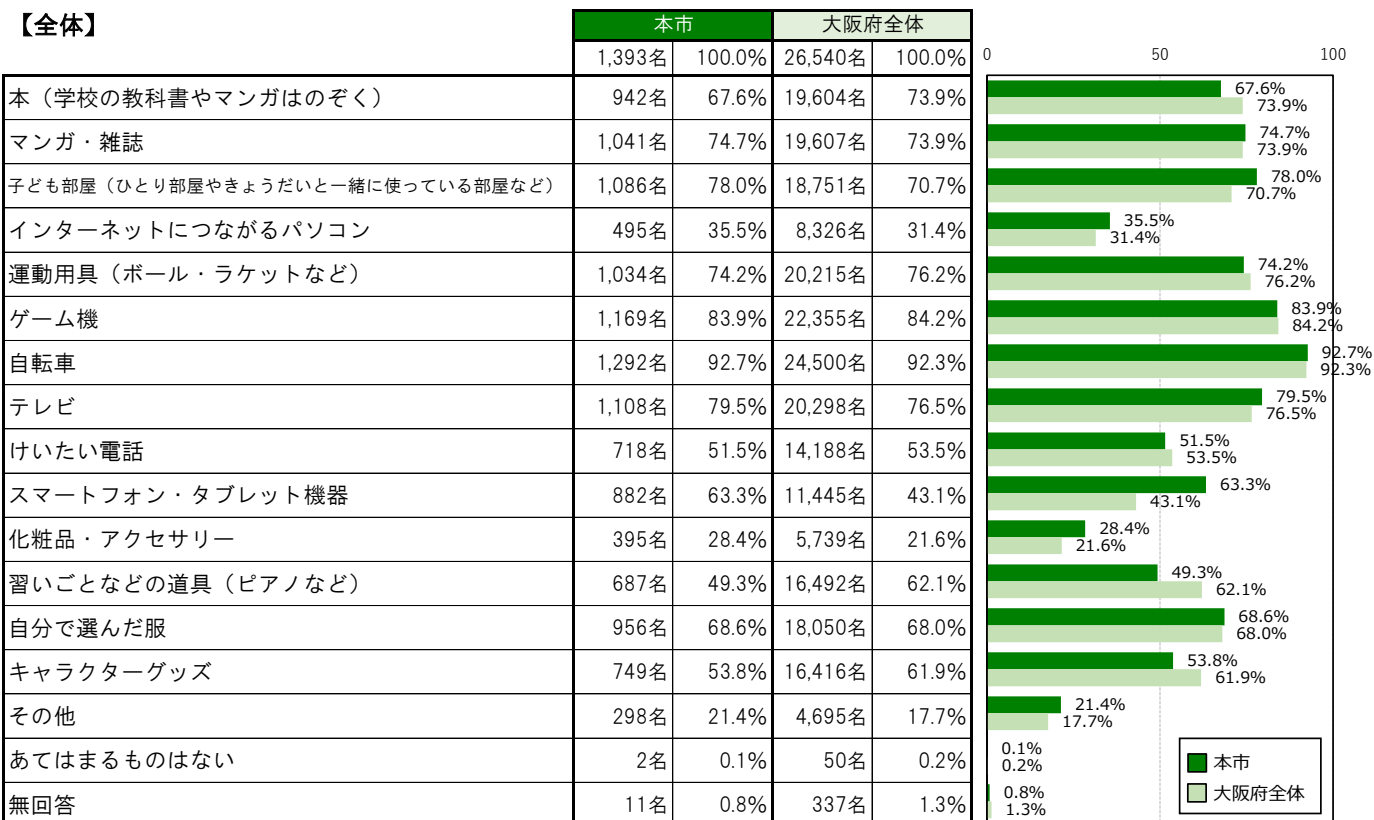


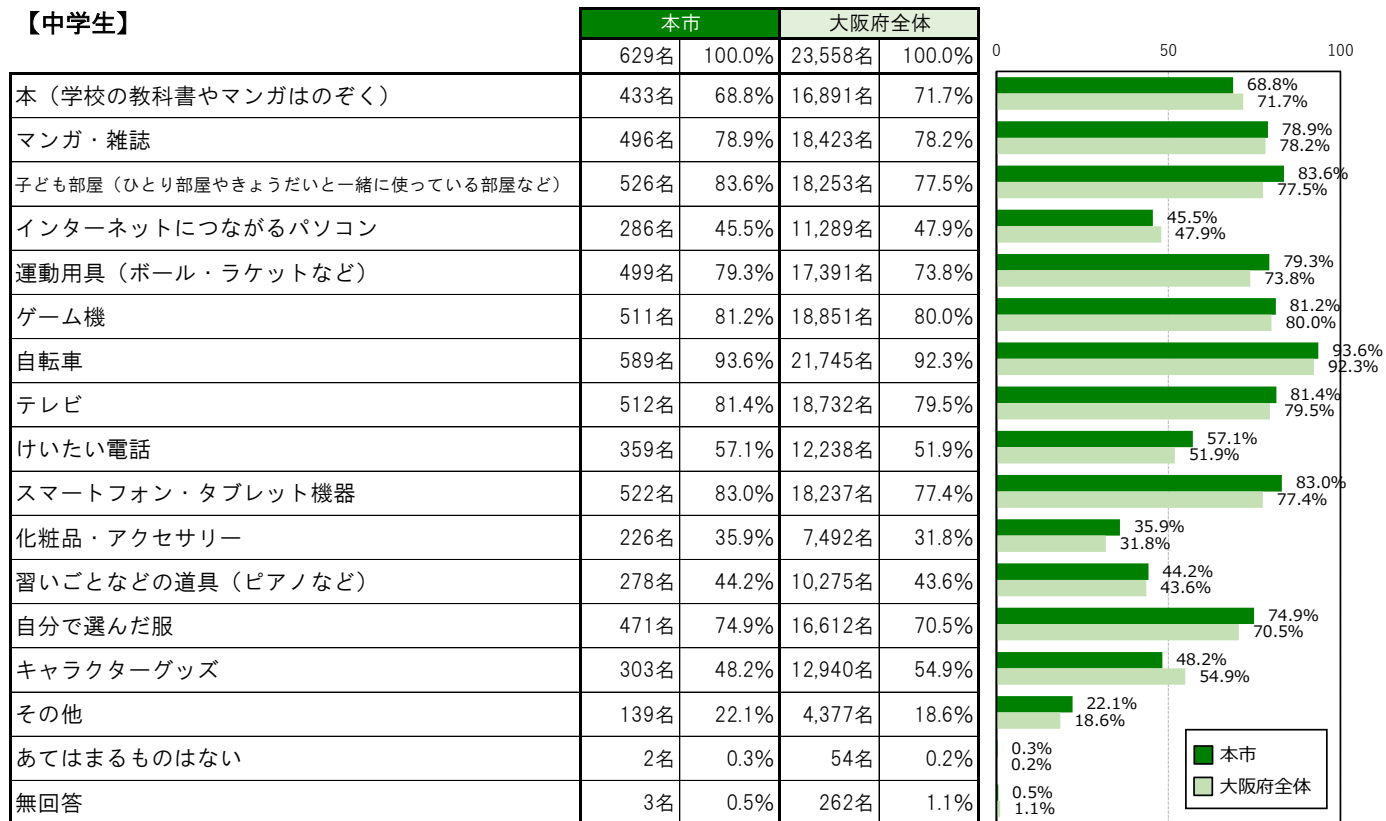
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」は13.1ポイント高いが、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」は14.9ポイント低くなっている。

小学生は、「キャラクターグッズ」は14.2ポイント高いが、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」は18.0ポイント低くなっている。

中学生は、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」は15.5ポイント、「インターネットにつながるパソコン」は13.9ポイント、それぞれ低くなっている。





ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

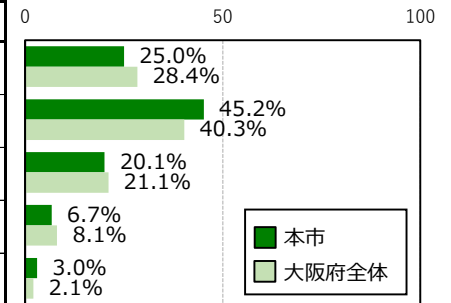
全体は、「どちらかというと思う」が45.2%で最も多く、次いで「そう思う」が25.0%、「どちらかというと思わない」が20.1%、「そう思わない」が6.7%となっている。

小学生は、「どちらかというと思う」が46.7%で最も多く、次いで「そう思う」が27.2%、「どちらかというと思わない」が18.3%、「そう思わない」が5.2%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が42.8%で最も多く、次いで「どちらかというと思わない」が23.2%、「そう思う」が21.4%、「そう思わない」が9.1%となっている。

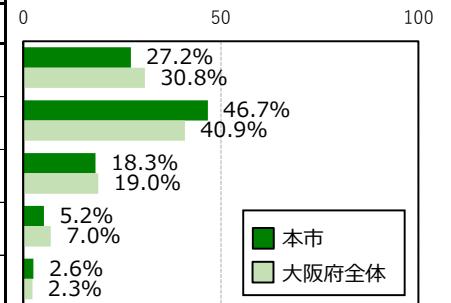
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
そう思う	186名	25.0%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	337名	45.2%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	150名	20.1%	9,144名	21.1%
そう思わない	50名	6.7%	3,521名	8.1%
無回答	22名	3.0%	907名	2.1%



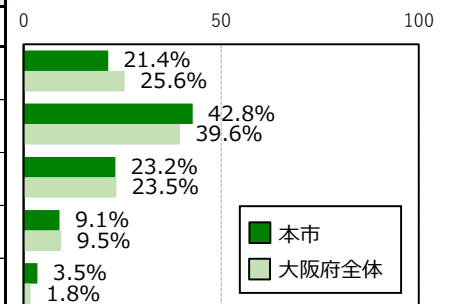
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
そう思う	125名	27.2%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	215名	46.7%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	84名	18.3%	4,431名	19.0%
そう思わない	24名	5.2%	1,625名	7.0%
無回答	12名	2.6%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
そう思う	61名	21.4%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	122名	42.8%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	66名	23.2%	4,703名	23.5%
そう思わない	26名	9.1%	1,891名	9.5%
無回答	10名	3.5%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

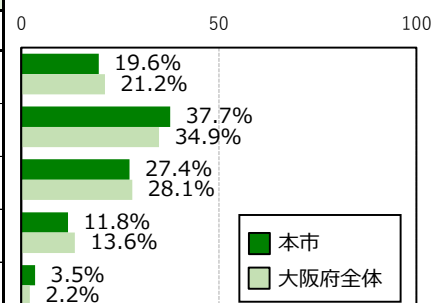
全体は、「どちらかというところある」が37.7%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が27.4%、「ある」が19.6%、「ない」が11.8%となっている。

小学生は、「どちらかというところある」が40.9%で最も多く、次いで「ある」が25.4%、「どちらかというところない」が23.3%、「ない」が7.8%となっている。

中学生は、「どちらかというところない」が34.0%で最も多く、次いで「どちらかというところある」が32.6%、「ない」が18.2%、「ある」が10.2%となっている。

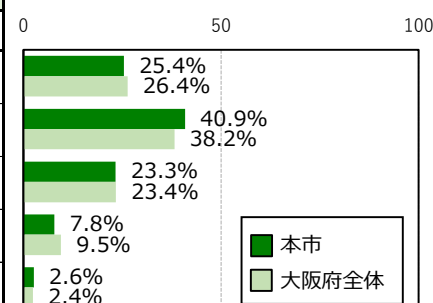
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
ある	146名	19.6%	9,192名	21.2%
どちらかというところある	281名	37.7%	15,132名	34.9%
どちらかというところない	204名	27.4%	12,192名	28.1%
ない	88名	11.8%	5,898名	13.6%
無回答	26名	3.5%	956名	2.2%



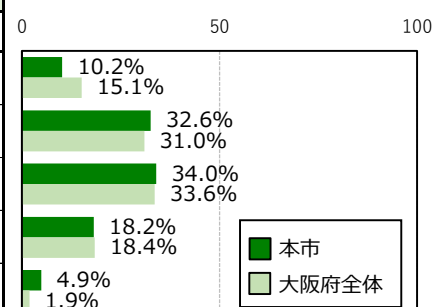
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
ある	117名	25.4%	6,157名	26.4%
どちらかというところある	188名	40.9%	8,904名	38.2%
どちらかというところない	107名	23.3%	5,450名	23.4%
ない	36名	7.8%	2,211名	9.5%
無回答	12名	2.6%	567名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
ある	29名	10.2%	3,011名	15.1%
どちらかというところある	93名	32.6%	6,202名	31.0%
どちらかというところない	97名	34.0%	6,716名	33.6%
ない	52名	18.2%	3,679名	18.4%
無回答	14名	4.9%	382名	1.9%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

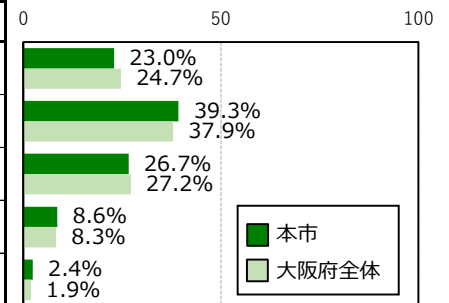
全体は、「どちらかというとできる」が39.3%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が26.7%、「できる」が23.0%、「できない」が8.6%となっている。

小学生は、「どちらかというとできる」が41.3%で最も多く、次いで「できる」、「どちらかというとできない」がそれぞれ24.8%、「できない」が7.6%となっている。

中学生は、「どちらかというとできる」が36.1%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が29.8%、「できる」が20.0%、「できない」が10.2%となっている。

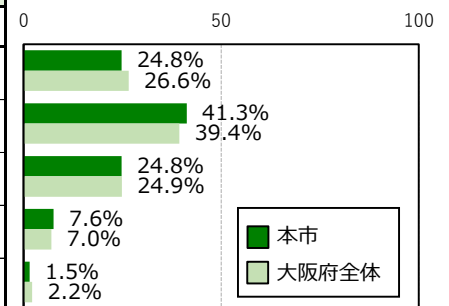
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
できる	171名	23.0%	10,725名	24.7%
どちらかというとできる	293名	39.3%	16,421名	37.9%
どちらかというとできない	199名	26.7%	11,801名	27.2%
できない	64名	8.6%	3,582名	8.3%
無回答	18名	2.4%	841名	1.9%



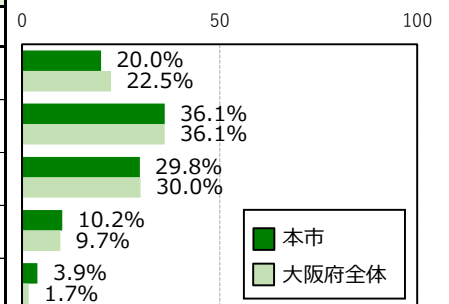
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
できる	114名	24.8%	6,187名	26.6%
どちらかというとできる	190名	41.3%	9,180名	39.4%
どちらかというとできない	114名	24.8%	5,791名	24.9%
できない	35名	7.6%	1,629名	7.0%
無回答	7名	1.5%	502名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
できる	57名	20.0%	4,507名	22.5%
どちらかというとできる	103名	36.1%	7,209名	36.1%
どちらかというとできない	85名	29.8%	5,993名	30.0%
できない	29名	10.2%	1,947名	9.7%
無回答	11名	3.9%	334名	1.7%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

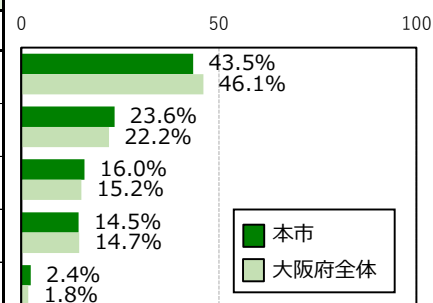
全体は、「持っている」が43.5%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が23.6%、「どちらかというを持っていない」が16.0%、「持っていない」が14.5%となっている。

小学生は、「持っている」が55.9%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が19.1%、「持っていない」が11.7%、「どちらかというを持っていない」が11.5%となっている。

中学生は、「どちらかというを持っている」が30.9%で最も多く、次いで「持っている」が23.5%、「どちらかというを持っていない」が23.2%、「持っていない」が18.9%となっている。

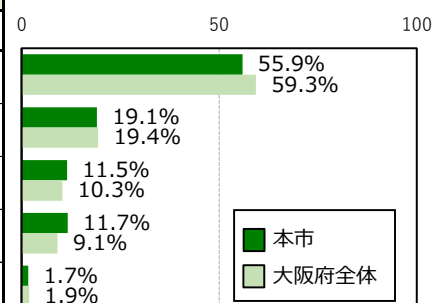
【全体】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
持っている	324名	43.5%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	176名	23.6%	9,645名	22.2%
どちらかというを持っていない	119名	16.0%	6,609名	15.2%
持っていない	108名	14.5%	6,354名	14.7%
無回答	18名	2.4%	772名	1.8%



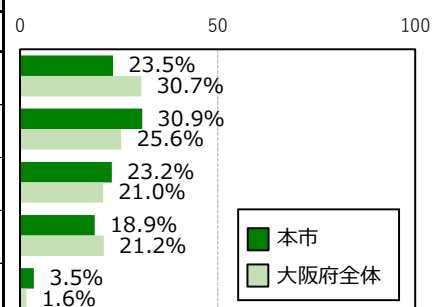
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
持っている	257名	55.9%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	88名	19.1%	4,518名	19.4%
どちらかというを持っていない	53名	11.5%	2,398名	10.3%
持っていない	54名	11.7%	2,108名	9.1%
無回答	8名	1.7%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
持っている	67名	23.5%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	88名	30.9%	5,108名	25.6%
どちらかというを持っていない	66名	23.2%	4,195名	21.0%
持っていない	54名	18.9%	4,235名	21.2%
無回答	10名	3.5%	313名	1.6%

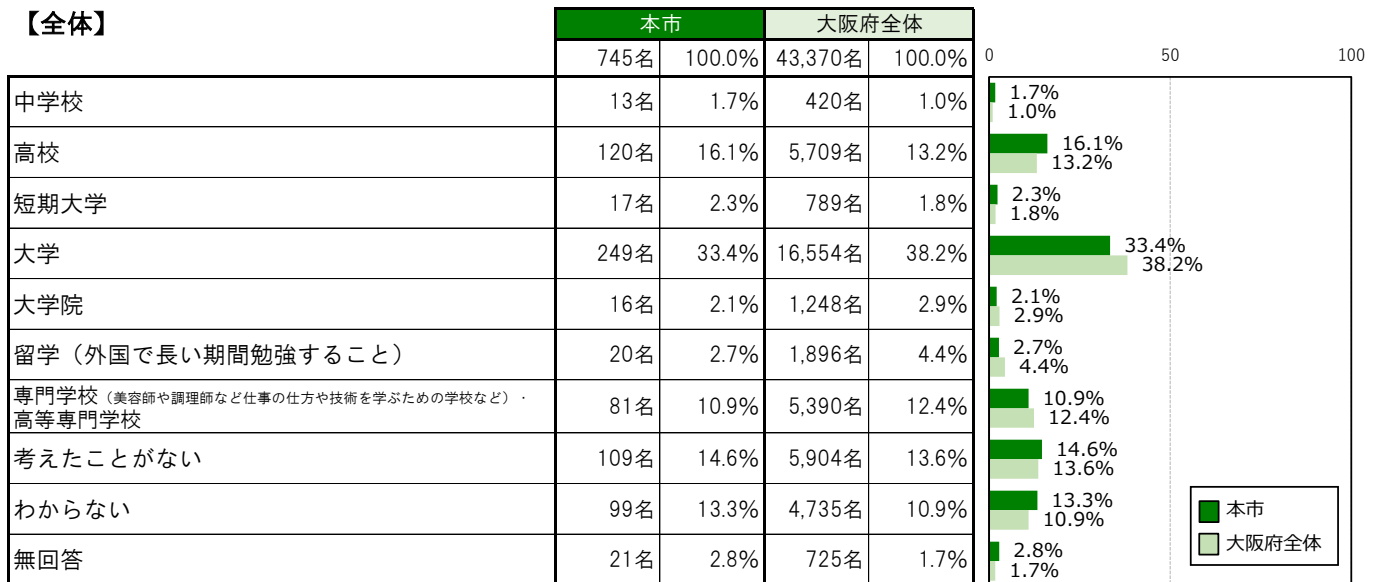


ふだん考えていることについて

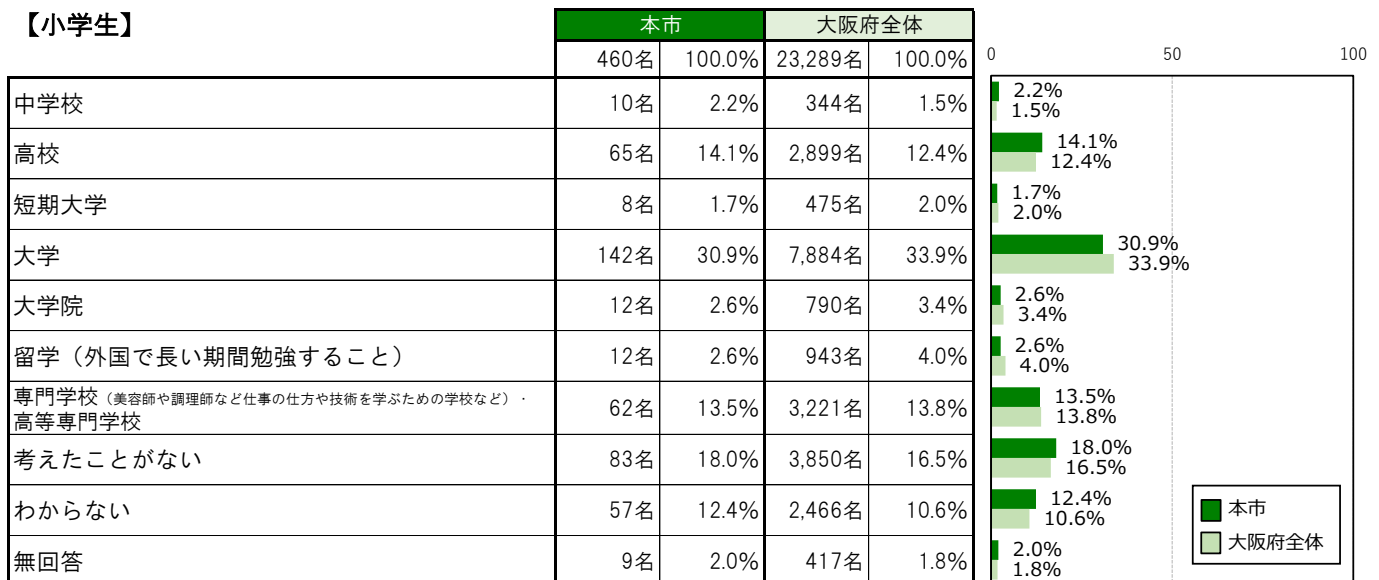
問24 希望する進学先

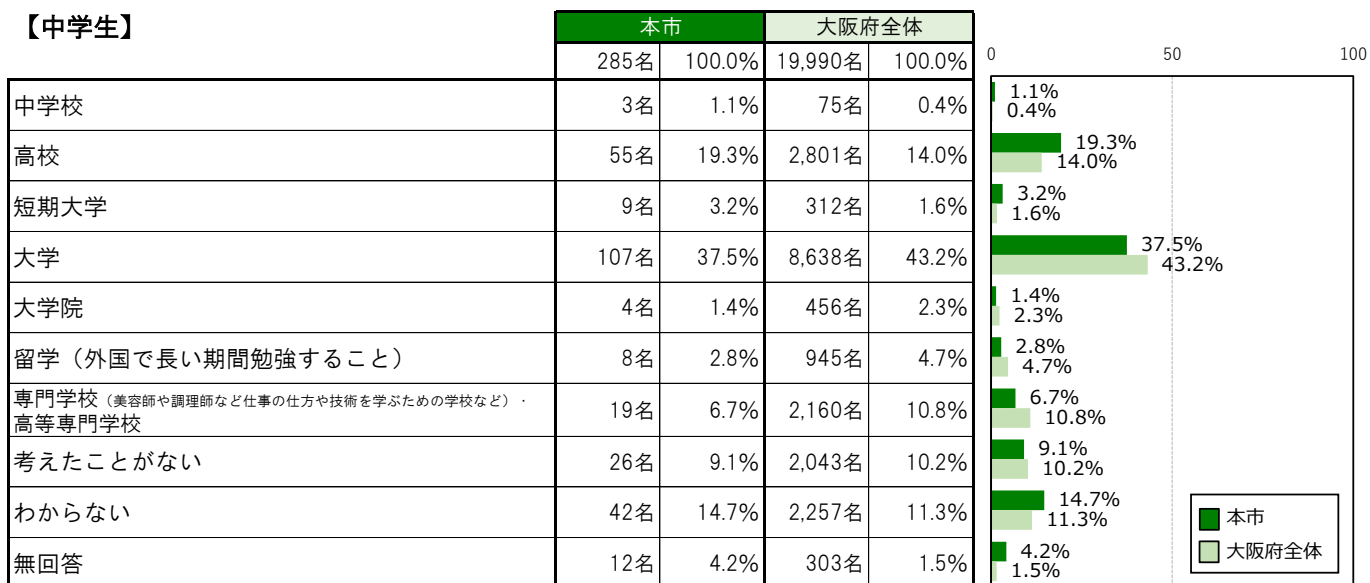
全体は、「大学」が33.4%で最も多く、次いで「高校」が16.1%、「考えたことがない」が14.6%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が10.9%となっている。
 小学生は、「大学」が30.9%で最も多く、次いで「考えたことがない」が18.0%、「高校」が14.1%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が13.5%となっている。
 中学生は、「大学」が37.5%で最も多く、次いで「高校」が19.3%、「考えたことがない」が9.1%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が6.7%となっている。

【全体】



【小学生】





あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が40.4%で最も多く、次いで「利用したことがある」が28.9%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.0%となっている。

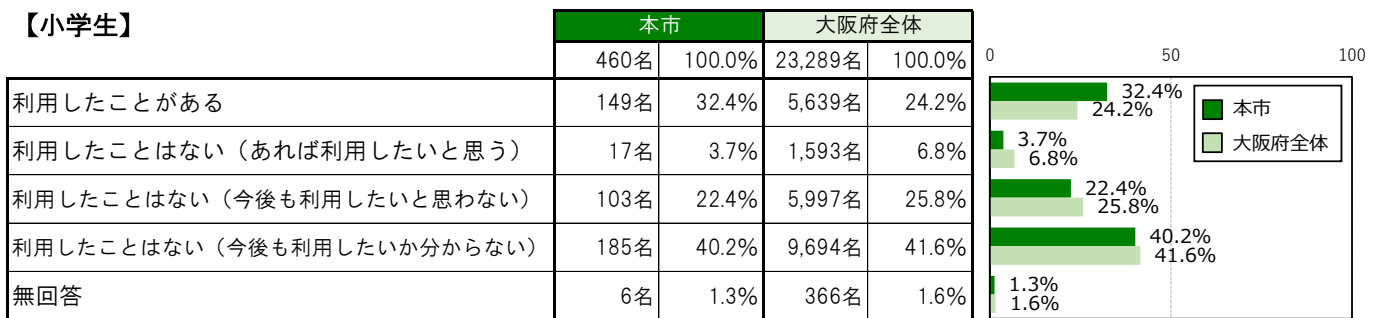
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が40.2%で最も多く、次いで「利用したことがある」が32.4%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.4%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が40.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.1%、「利用したことがある」が23.2%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が23.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.7%、「利用したことがある」が12.3%となっている。

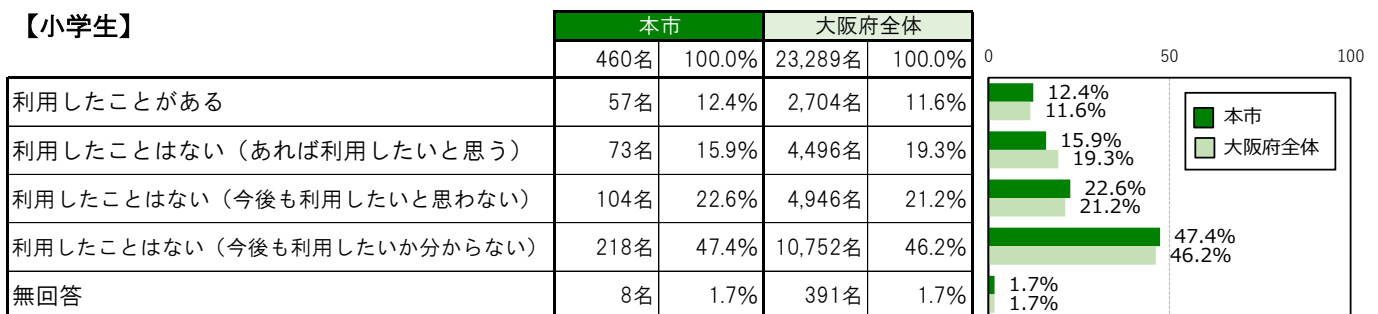
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.9%、「利用したことがある」が12.4%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.6%、「利用したことがある」が12.3%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が10.2%となっている。

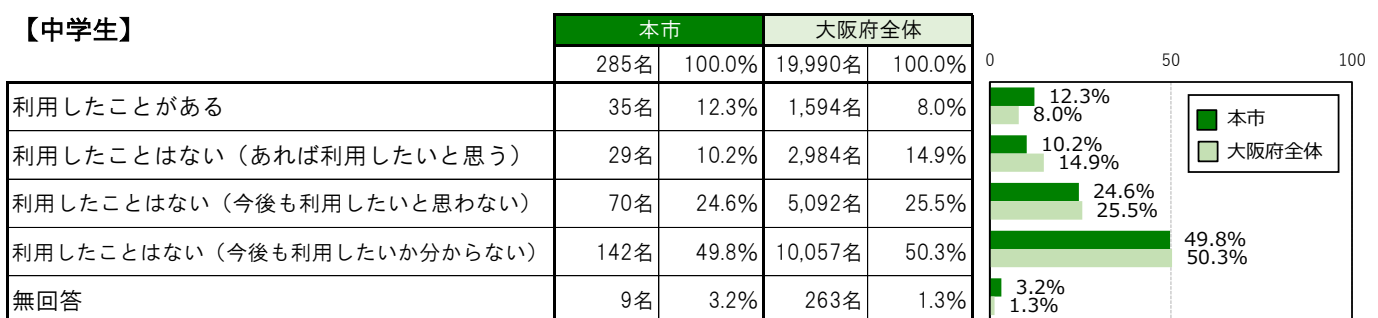
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

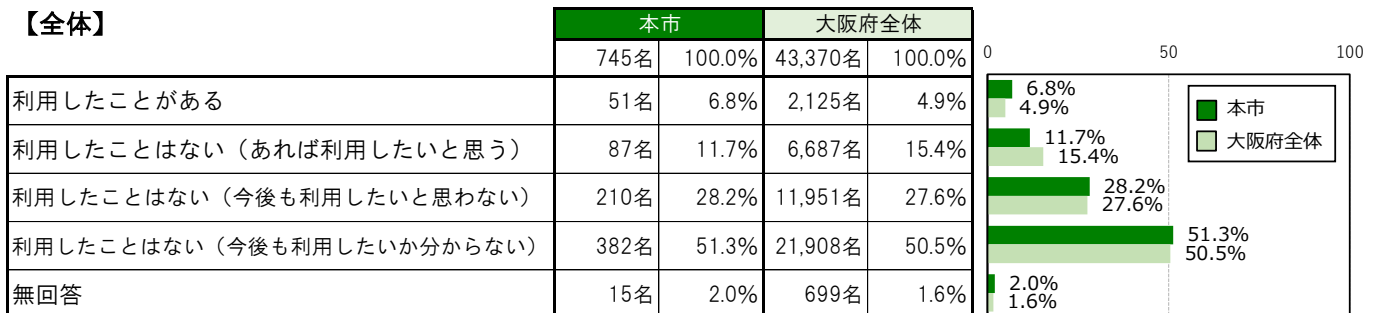
③勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が51.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が11.7%、「利用したことがある」が6.8%となっている。

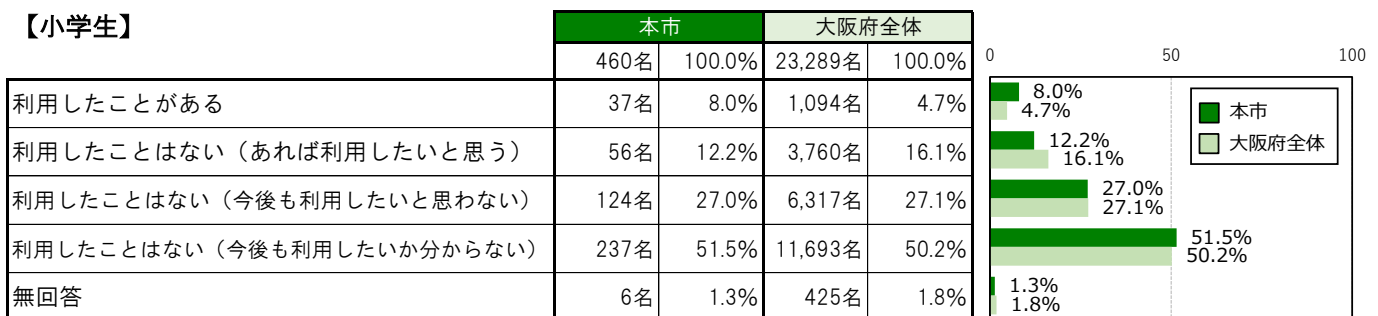
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が51.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.0%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が12.2%、「利用したことがある」が8.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が50.9%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が30.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が10.9%、「利用したことがある」が4.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

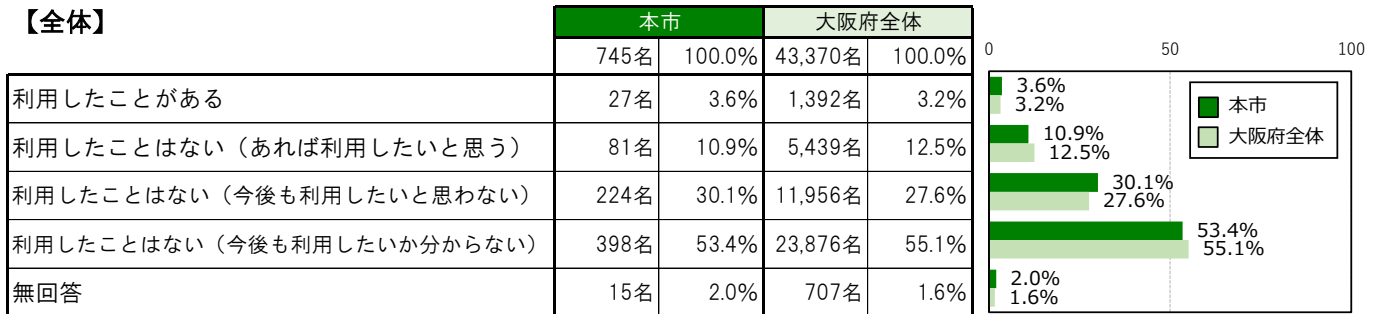
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が53.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が30.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が10.9%、「利用したことがある」が3.6%となっている。

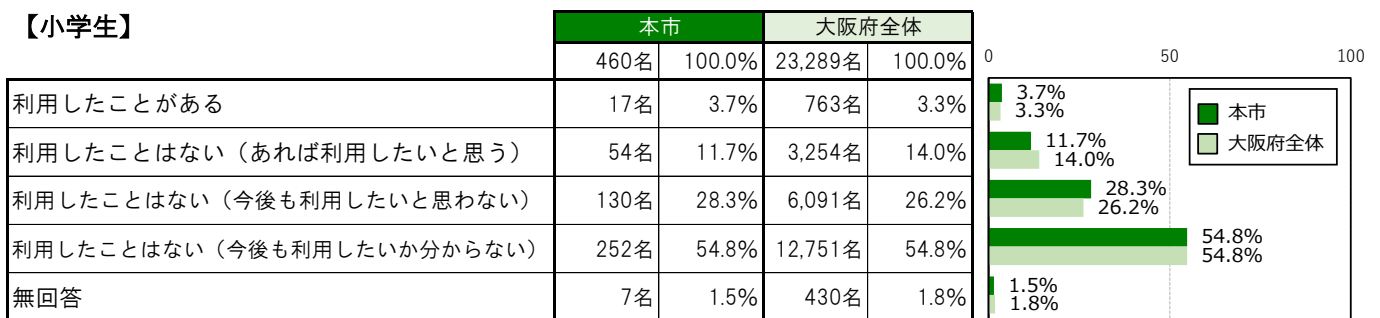
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.3%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が11.7%、「利用したことがある」が3.7%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が51.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が33.0%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が9.5%、「利用したことがある」が3.5%となっている。

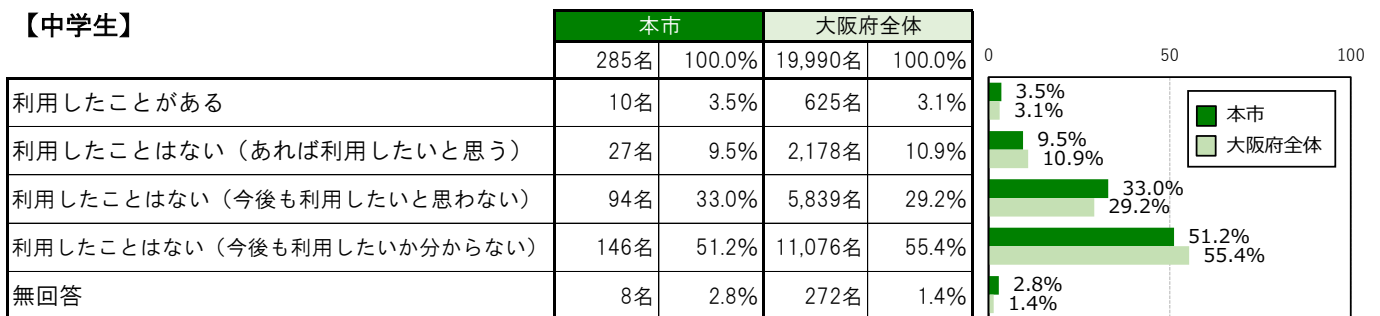
【全体】



【小学生】



【中学生】



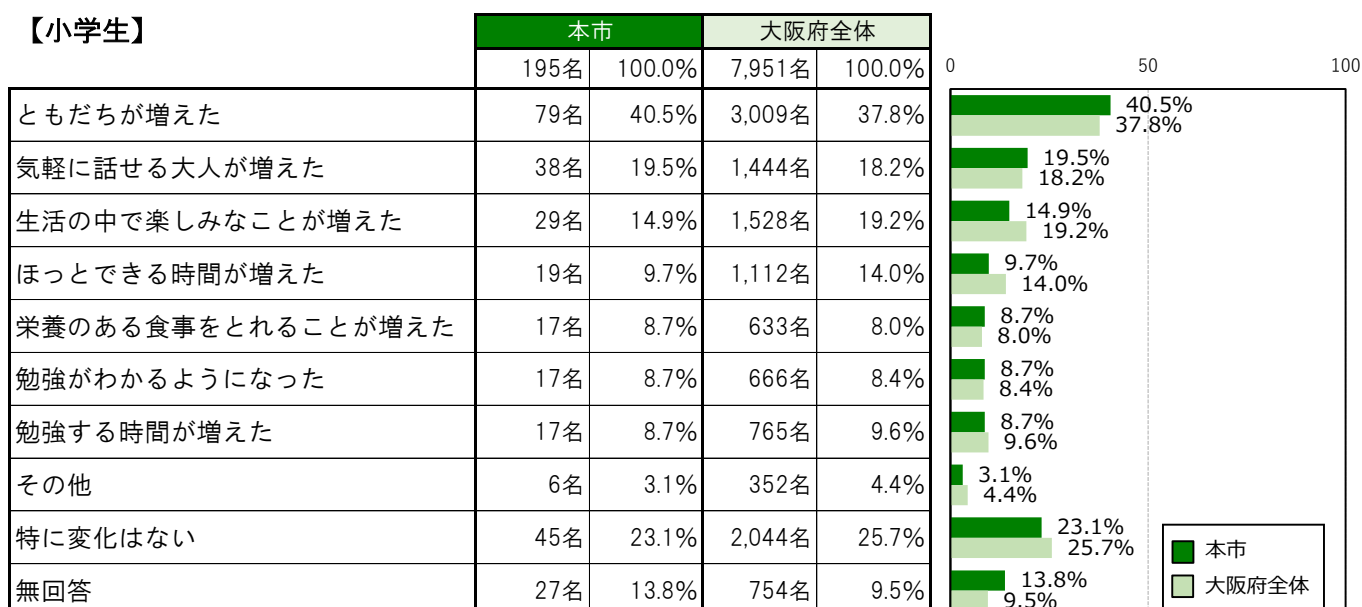
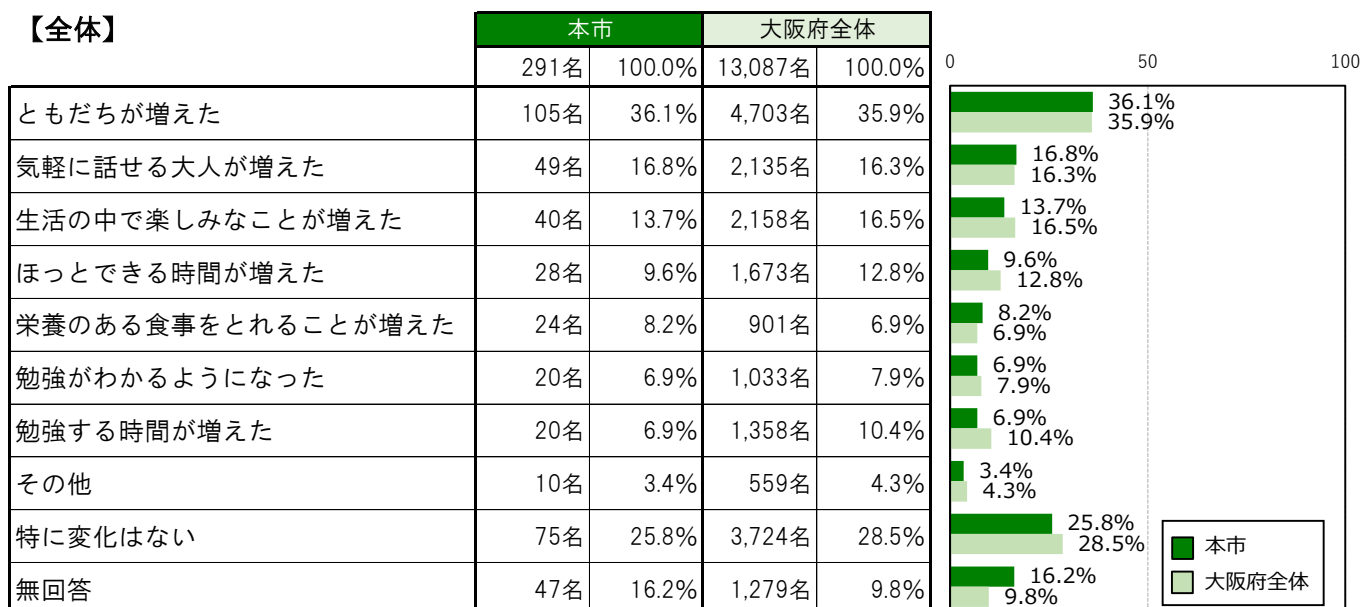
あなたのことについて

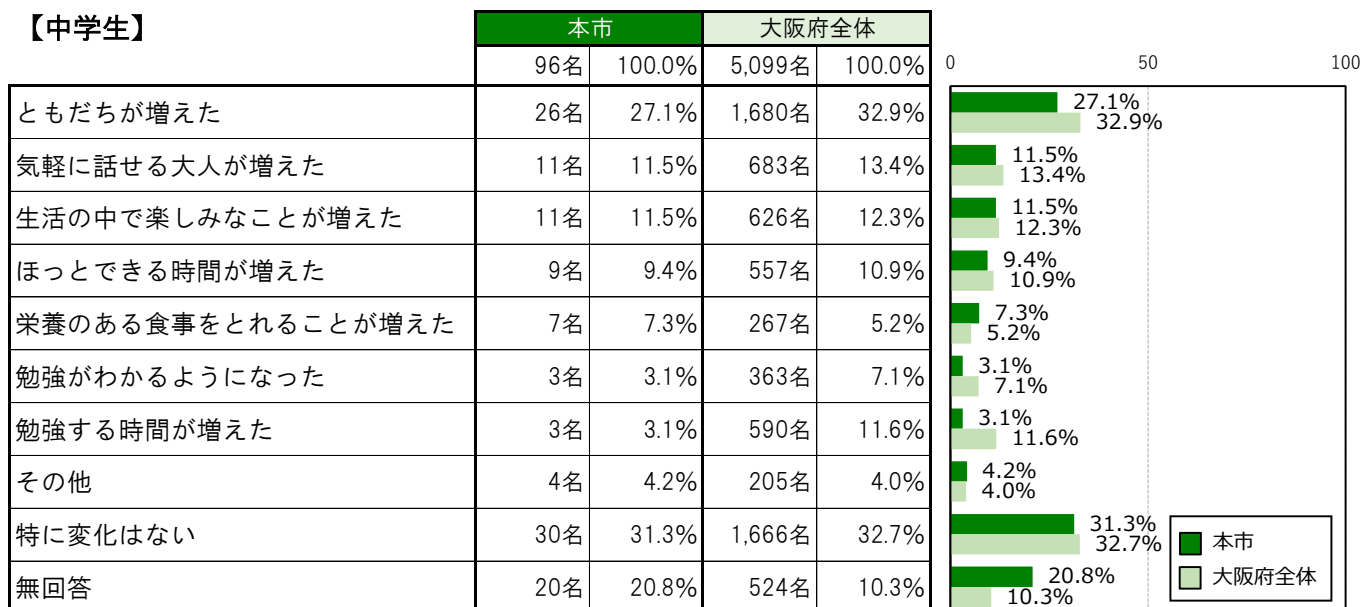
問25（２）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が36.1%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」が16.8%、「生活の中で楽しいことが増えた」が13.7%、「ほっとできる時間が増えた」が9.6%となっている。

小学生は、「ともだちが増えた」が40.5%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」が19.5%、「生活の中で楽しいことが増えた」が14.9%、「ほっとできる時間が増えた」が9.7%となっている。

中学生は、「ともだちが増えた」が27.1%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」、「生活の中で楽しいことが増えた」がそれぞれ11.5%、「ほっとできる時間が増えた」が9.4%となっている。





あなたのことについて

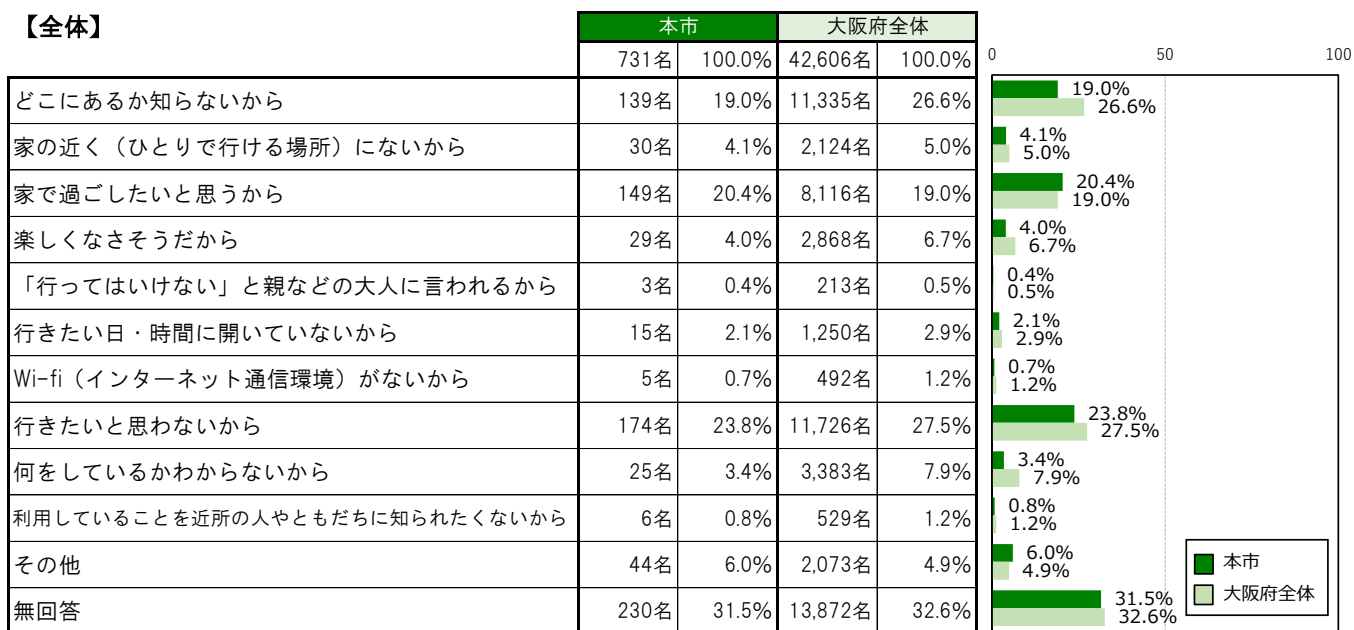
問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「行きたいと思わないから」が23.8%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が20.4%、「どこにあるか知らないから」が19.0%、「家の近く（ひとりで居られる場所）にないから」が4.1%となっている。

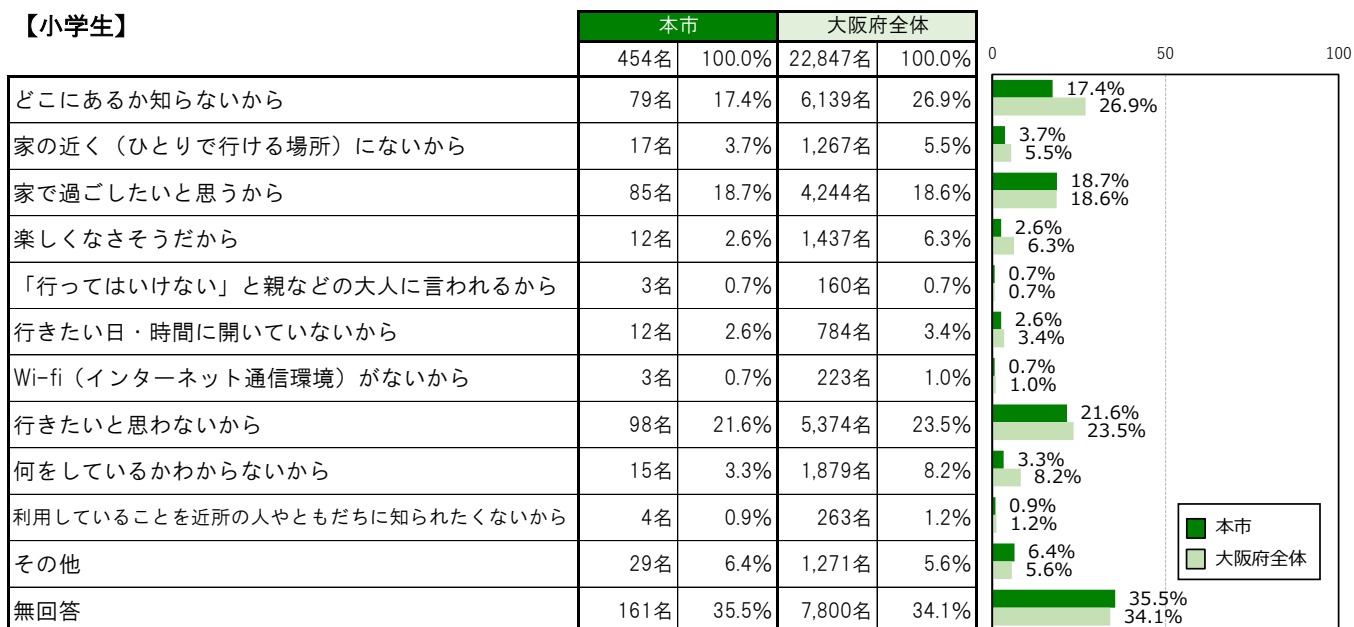
小学生は、「行きたいと思わないから」が21.6%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が18.7%、「どこにあるか知らないから」が17.4%、「家の近く（ひとりで居られる場所）にないから」が3.7%となっている。

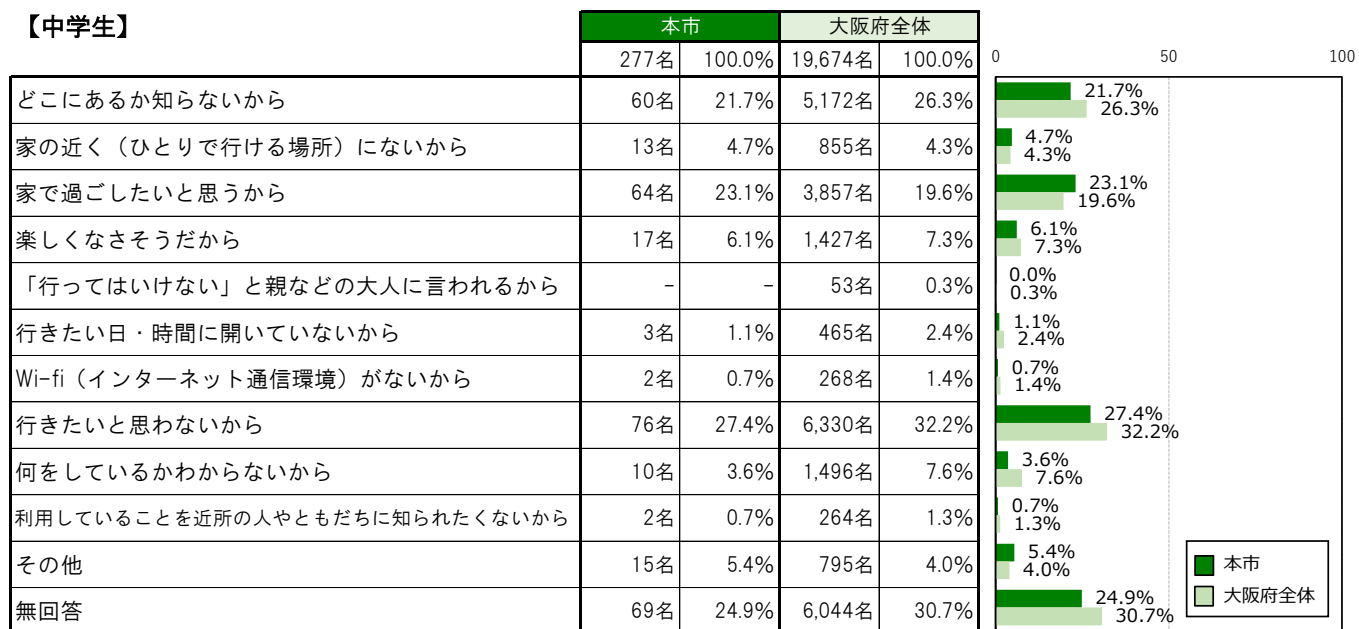
中学生は、「行きたいと思わないから」が27.4%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が23.1%、「どこにあるか知らないから」が21.7%、「楽しくなさそうだから」が6.1%となっている。

【全体】



【小学生】





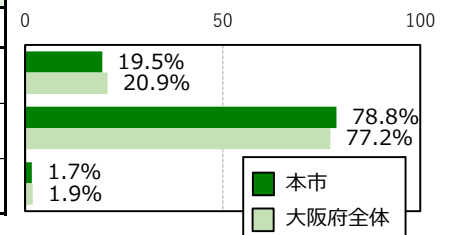
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が19.5%、「いない」が78.8%となっている。
 小学生は、「いる」が23.5%、「いない」が75.7%となっている。
 中学生は、「いる」が13.0%、「いない」が83.9%となっている。

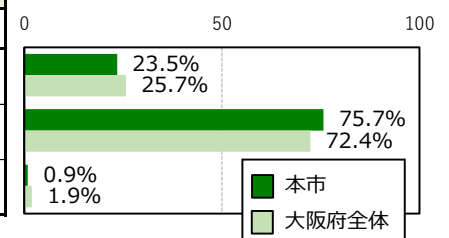
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	745名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	145名	19.5%	9,054名	20.9%
いない	587名	78.8%	33,476名	77.2%
無回答	13名	1.7%	840名	1.9%



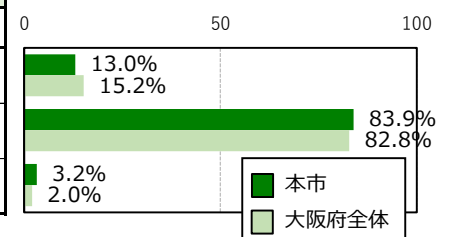
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	460名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	108名	23.5%	5,988名	25.7%
いない	348名	75.7%	16,856名	72.4%
無回答	4名	0.9%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	285名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	37名	13.0%	3,045名	15.2%
いない	239名	83.9%	16,553名	82.8%
無回答	9名	3.2%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

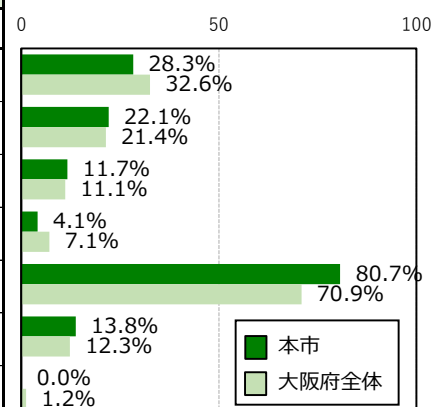
全体は、「きょうだい」が80.7%で最も多く、次いで「お母さん」が28.3%、「お父さん」が22.1%、「おばあちゃん」が11.7%となっている。

小学生は、「きょうだい」が81.5%で最も多く、次いで「お母さん」が28.7%、「お父さん」が22.2%、「おばあちゃん」が12.0%となっている。

中学生は、「きょうだい」が78.4%で最も多く、次いで「お母さん」が27.0%、「お父さん」が21.6%、「おばあちゃん」が10.8%となっている。

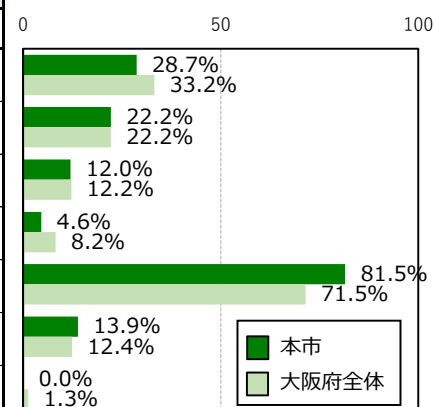
【全体】

	本市		大阪府全体	
	145名	100.0%	9,054名	100.0%
お母さん	41名	28.3%	2,954名	32.6%
お父さん	32名	22.1%	1,939名	21.4%
おばあちゃん	17名	11.7%	1,009名	11.1%
おじいちゃん	6名	4.1%	647名	7.1%
きょうだい	117名	80.7%	6,419名	70.9%
その他	20名	13.8%	1,117名	12.3%
無回答	-	-	112名	1.2%



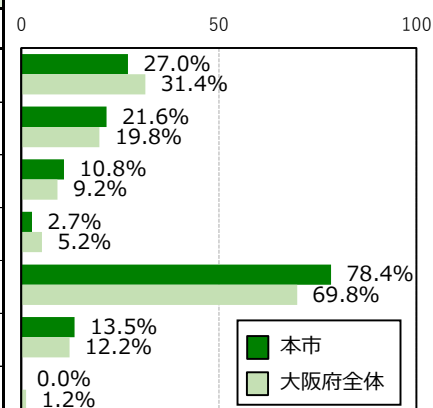
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	108名	100.0%	5,988名	100.0%
お母さん	31名	28.7%	1,990名	33.2%
お父さん	24名	22.2%	1,332名	22.2%
おばあちゃん	13名	12.0%	728名	12.2%
おじいちゃん	5名	4.6%	489名	8.2%
きょうだい	88名	81.5%	4,280名	71.5%
その他	15名	13.9%	741名	12.4%
無回答	-	-	75名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	37名	100.0%	3,045名	100.0%
お母さん	10名	27.0%	957名	31.4%
お父さん	8名	21.6%	604名	19.8%
おばあちゃん	4名	10.8%	280名	9.2%
おじいちゃん	1名	2.7%	157名	5.2%
きょうだい	29名	78.4%	2,125名	69.8%
その他	5名	13.5%	370名	12.2%
無回答	-	-	37名	1.2%



あなたのことについて

問26（3）世話をしている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が60.7%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が28.3%、「そうじやゴミ捨てなど」が26.9%となっている。

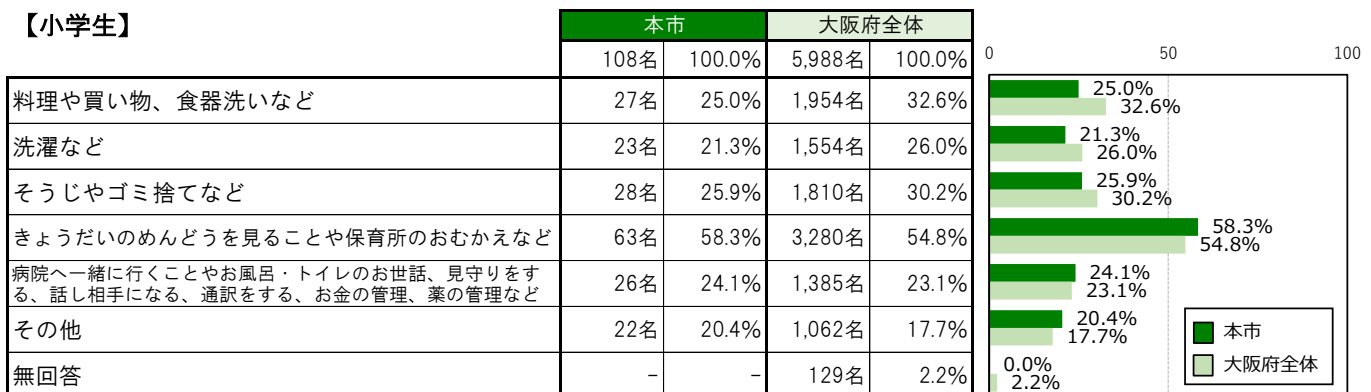
小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が58.3%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が25.9%、「料理や買い物、食器洗いなど」が25.0%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が67.6%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が37.8%、「洗濯など」、「そうじやゴミ捨てなど」がそれぞれ29.7%となっている。

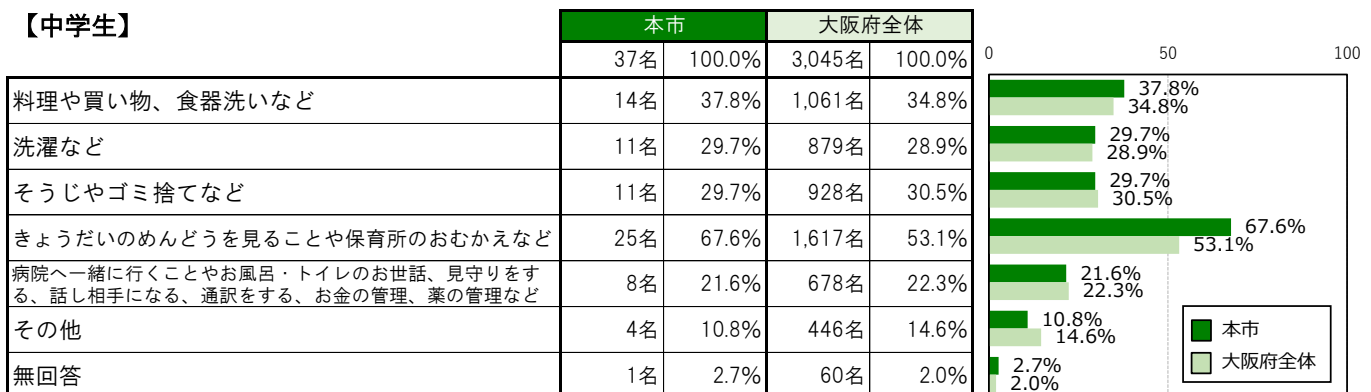
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26（５）世話をする頻度

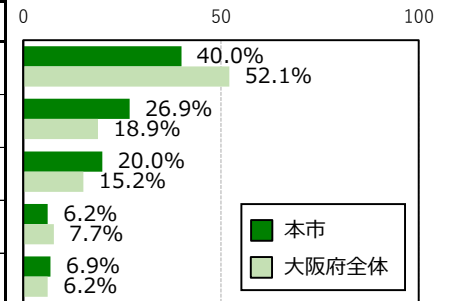
全体は、「ほぼ毎日」が40.0%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が26.9%、「週に1日または2日」が20.0%、「1か月に数日」が6.2%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が39.8%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が28.7%、「週に1日または2日」が21.3%、「1か月に数日」が4.6%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が40.5%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が21.6%、「週に1日または2日」が16.2%、「1か月に数日」が10.8%となっている。

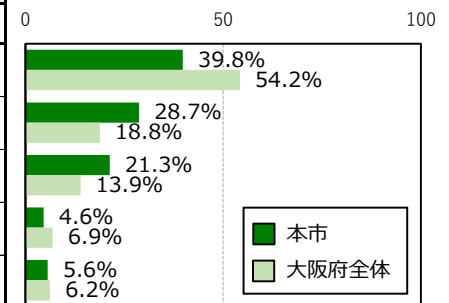
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	58名	40.0%	4,716名	52.1%
週に3日～5日	39名	26.9%	1,708名	18.9%
週に1日または2日	29名	20.0%	1,375名	15.2%
1か月に数日	9名	6.2%	694名	7.7%
無回答	10名	6.9%	561名	6.2%



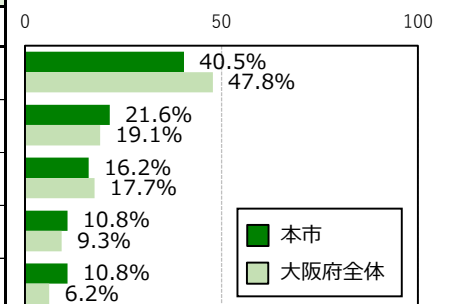
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	43名	39.8%	3,246名	54.2%
週に3日～5日	31名	28.7%	1,125名	18.8%
週に1日または2日	23名	21.3%	832名	13.9%
1か月に数日	5名	4.6%	412名	6.9%
無回答	6名	5.6%	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	15名	40.5%	1,455名	47.8%
週に3日～5日	8名	21.6%	582名	19.1%
週に1日または2日	6名	16.2%	538名	17.7%
1か月に数日	4名	10.8%	282名	9.3%
無回答	4名	10.8%	188名	6.2%



あなたのことについて

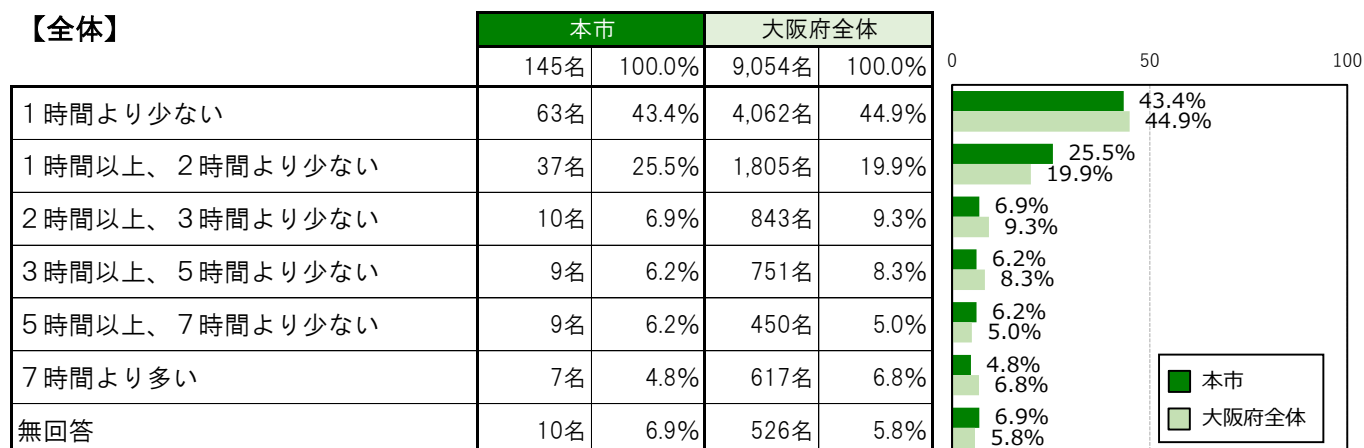
問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

全体は、「1時間より少ない」が43.4%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が25.5%、「2時間以上、3時間より少ない」が6.9%、「3時間以上、5時間より少ない」、「5時間以上、7時間より少ない」がそれぞれ6.2%となっている。

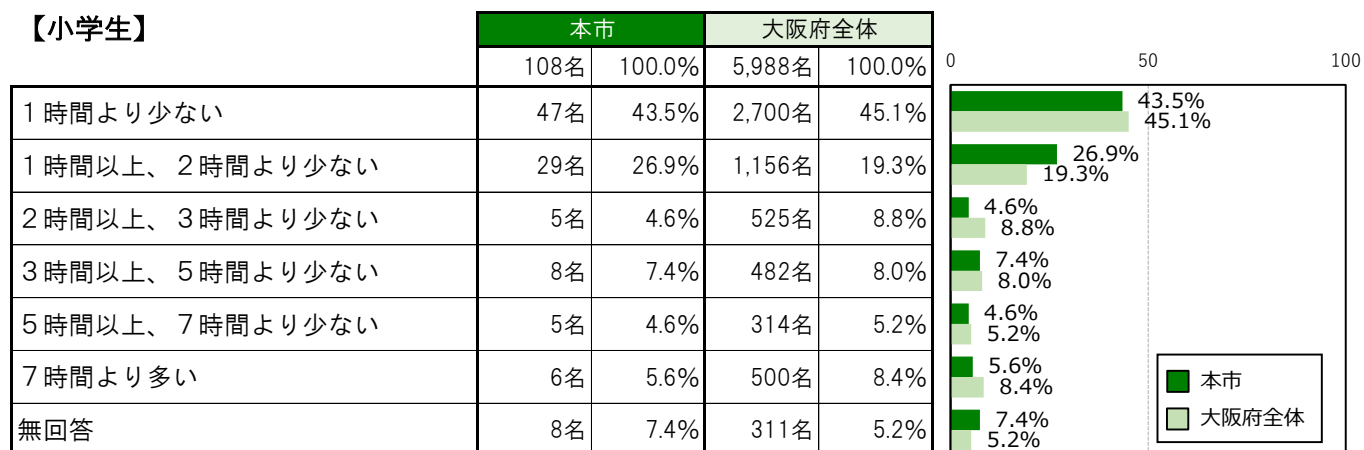
小学生は、「1時間より少ない」が43.5%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が26.9%、「3時間以上、5時間より少ない」が7.4%、「7時間より多い」が5.6%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が43.2%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.6%、「2時間以上、3時間より少ない」が13.5%、「5時間以上、7時間より少ない」が10.8%となっている。

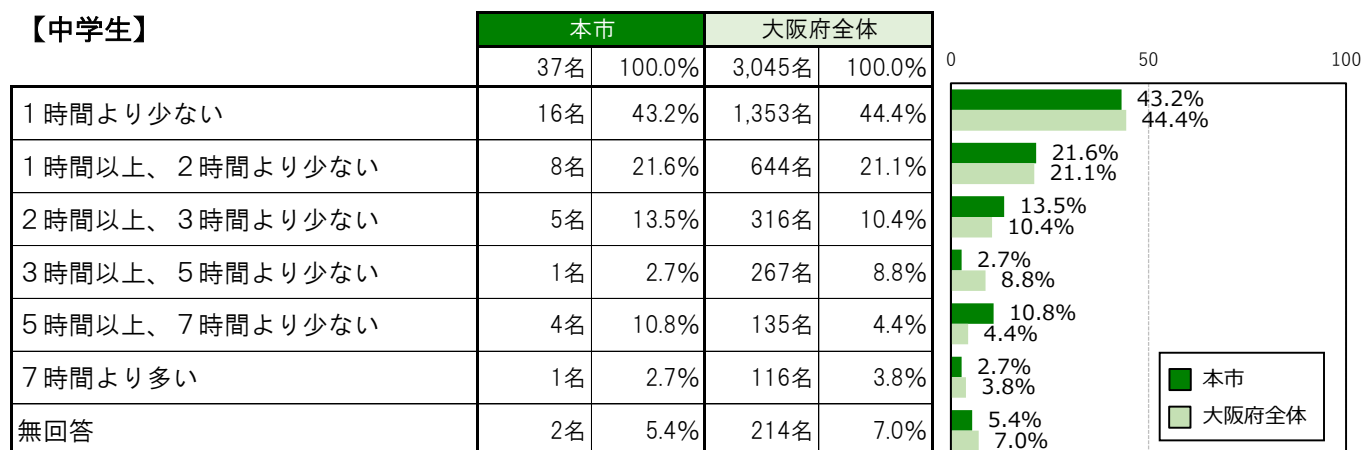
【全体】



【小学生】



【中学生】



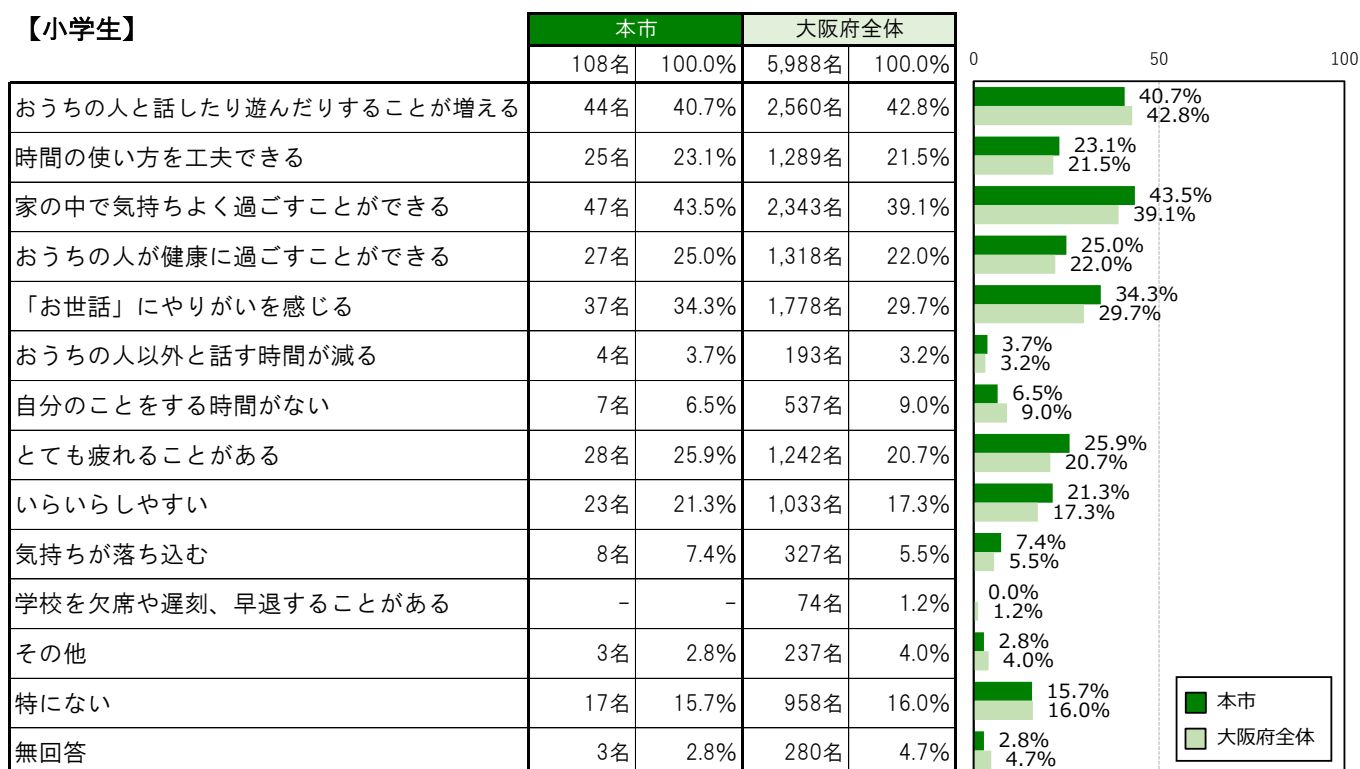
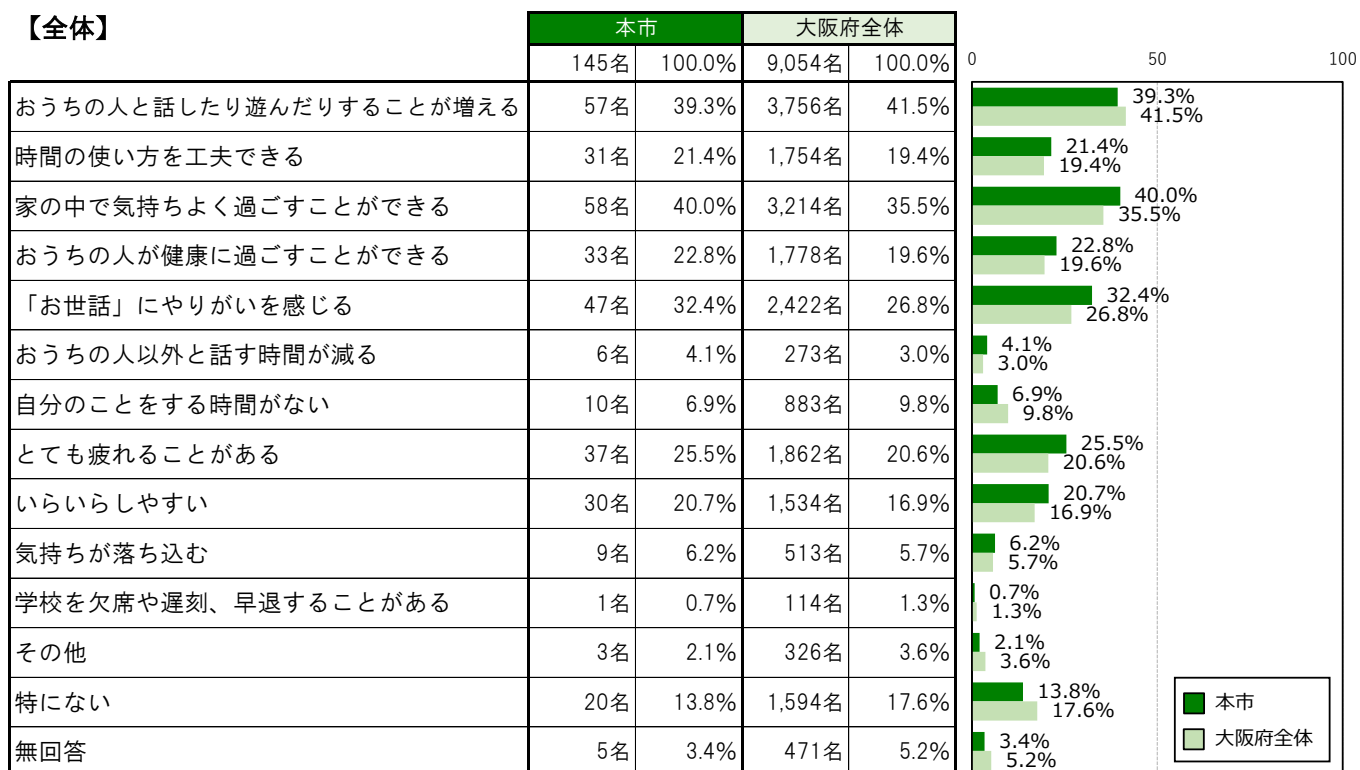
あなたのことについて

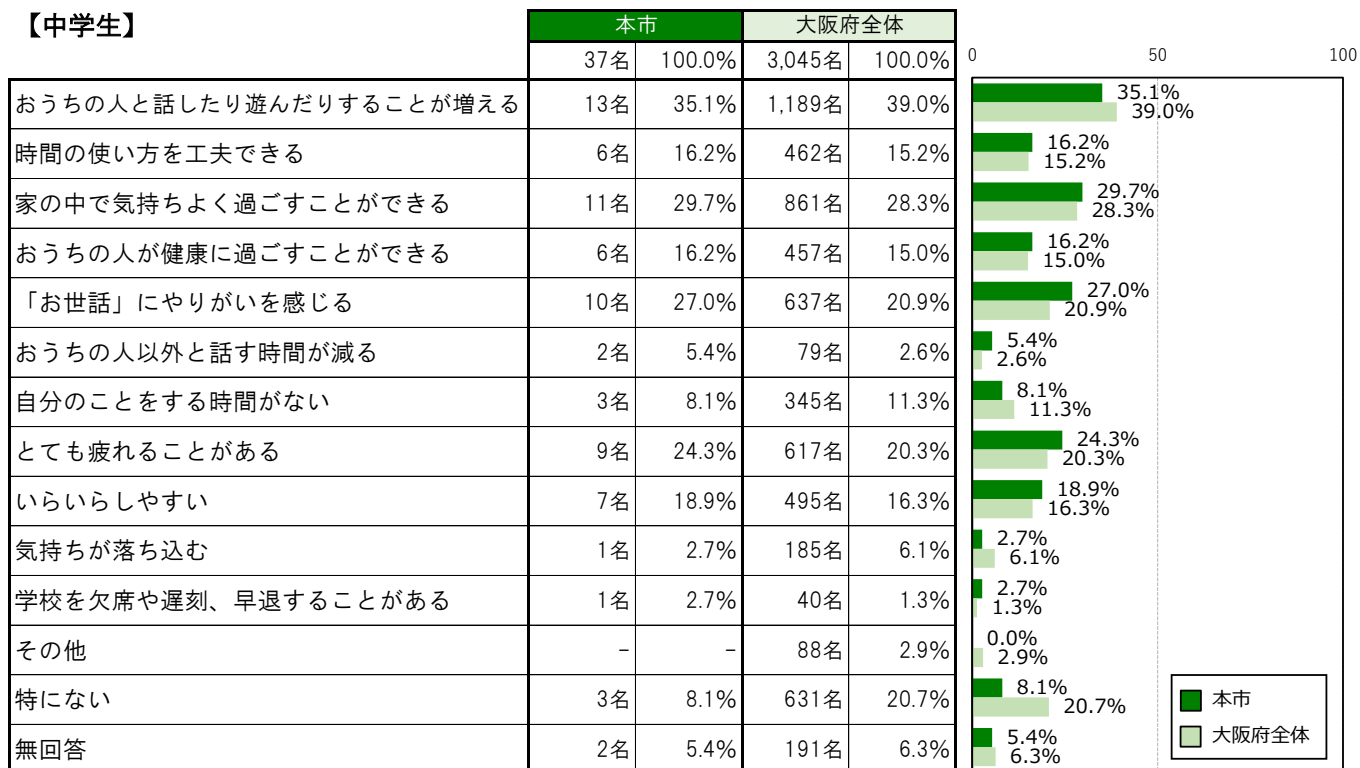
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が40.0%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が39.3%、「「お世話」にやりがいを感じる」が32.4%、「とても疲れることがある」が25.5%となっている。

小学生は、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が43.5%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が40.7%、「「お世話」にやりがいを感じる」が34.3%、「とても疲れることがある」が25.9%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が35.1%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が29.7%、「「お世話」にやりがいを感じる」が27.0%、「とても疲れることがある」が24.3%となっている。





2. 単純集計結果〔保護者〕

泉佐野市

子どもとの関係について

問1 子どもとの続柄

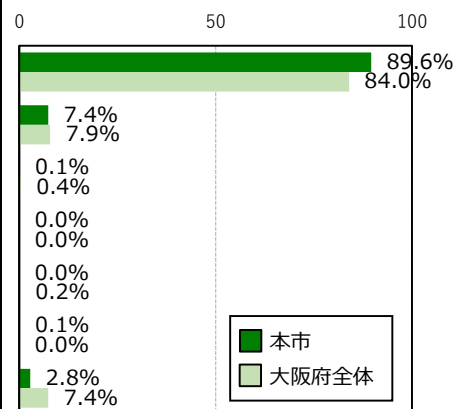
保護者全体は、「お母さん」が89.6%で最も多く、次いで「お父さん」が7.4%、「おじいさん・おばあさん」、「その他の人」がそれぞれ0.1%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が91.1%で最も多く、次いで「お父さん」が6.4%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が87.5%で最も多く、次いで「お父さん」が9.0%、「おじいさん・おばあさん」が0.3%となっている。

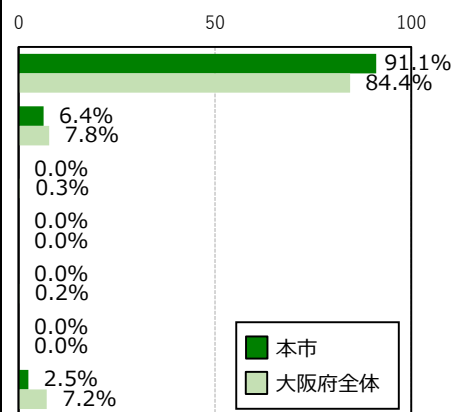
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,358名	100.0%
お母さん	713名	89.6%	36,436名	84.0%
お父さん	59名	7.4%	3,426名	7.9%
おじいさん・おばあさん	1名	0.1%	154名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	15名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	91名	0.2%
その他の人	1名	0.1%	14名	0.0%
無回答	22名	2.8%	3,222名	7.4%



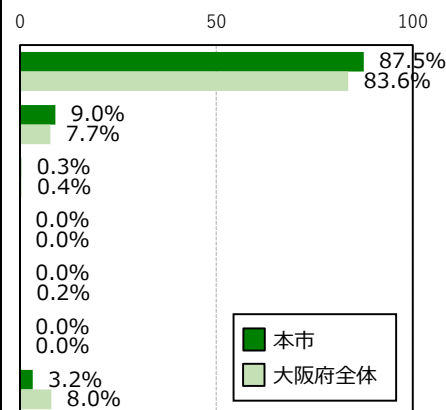
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,819名	100.0%
お母さん	439名	91.1%	19,261名	84.4%
お父さん	31名	6.4%	1,776名	7.8%
おじいさん・おばあさん	-	-	75名	0.3%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	47名	0.2%
その他の人	-	-	3名	0.0%
無回答	12名	2.5%	1,650名	7.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,390名	100.0%
お母さん	273名	87.5%	16,208名	83.6%
お父さん	28名	9.0%	1,488名	7.7%
おじいさん・おばあさん	1名	0.3%	77名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	44名	0.2%
その他の人	-	-	8名	0.0%
無回答	10名	3.2%	1,558名	8.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

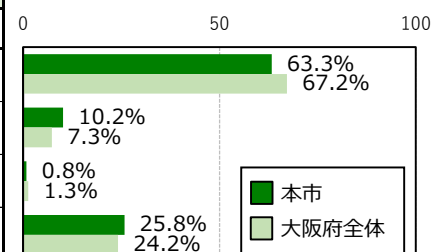
保護者全体は、「いない」が63.3%で最も多く、次いで「1人」が10.2%、「2人」が0.8%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が66.6%で最も多く、次いで「1人」が9.5%、「2人」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が58.3%で最も多く、次いで「1人」が11.2%、「2人」が1.0%となっている。

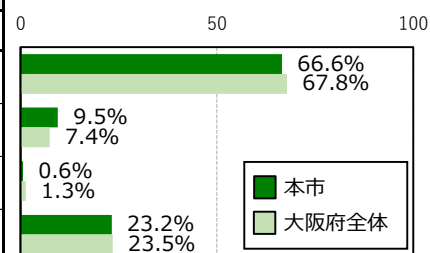
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	504名	63.3%	29,081名	67.2%
1人	81名	10.2%	3,181名	7.3%
2人	6名	0.8%	555名	1.3%
無回答	205名	25.8%	10,483名	24.2%



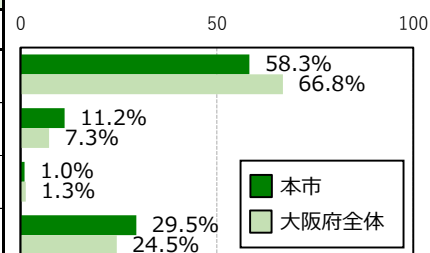
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	321名	66.6%	15,456名	67.8%
1人	46名	9.5%	1,681名	7.4%
2人	3名	0.6%	286名	1.3%
無回答	112名	23.2%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	182名	58.3%	12,942名	66.8%
1人	35名	11.2%	1,422名	7.3%
2人	3名	1.0%	257名	1.3%
無回答	92名	29.5%	4,744名	24.5%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

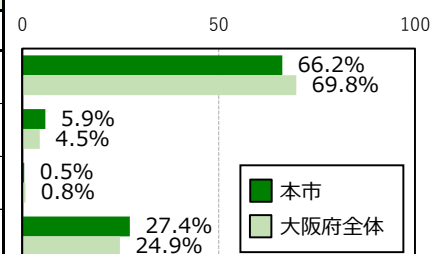
保護者全体は、「いない」が66.2%で最も多く、次いで「1人」が5.9%、「2人」が0.5%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が69.1%で最も多く、次いで「1人」が5.6%、「2人」が0.2%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が61.9%で最も多く、次いで「1人」が6.4%、「2人」が1.0%となっている。

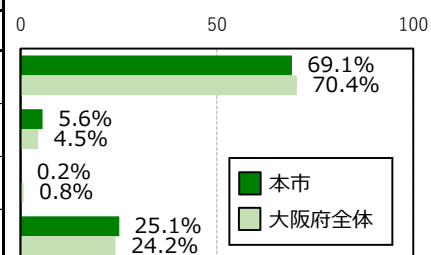
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	527名	66.2%	30,230名	69.8%
1人	47名	5.9%	1,932名	4.5%
2人	4名	0.5%	340名	0.8%
無回答	218名	27.4%	10,798名	24.9%



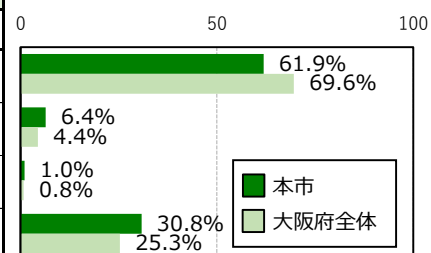
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	333名	69.1%	16,050名	70.4%
1人	27名	5.6%	1,031名	4.5%
2人	1名	0.2%	186名	0.8%
無回答	121名	25.1%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	193名	61.9%	13,474名	69.6%
1人	20名	6.4%	853名	4.4%
2人	3名	1.0%	148名	0.8%
無回答	96名	30.8%	4,890名	25.3%

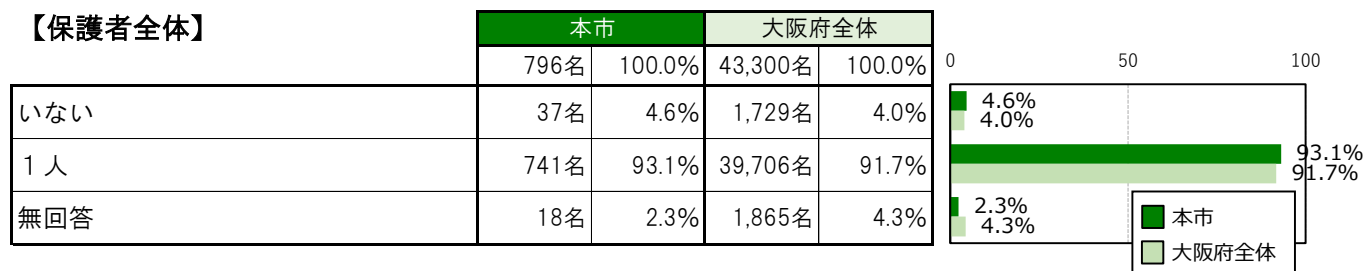


世帯の状況について

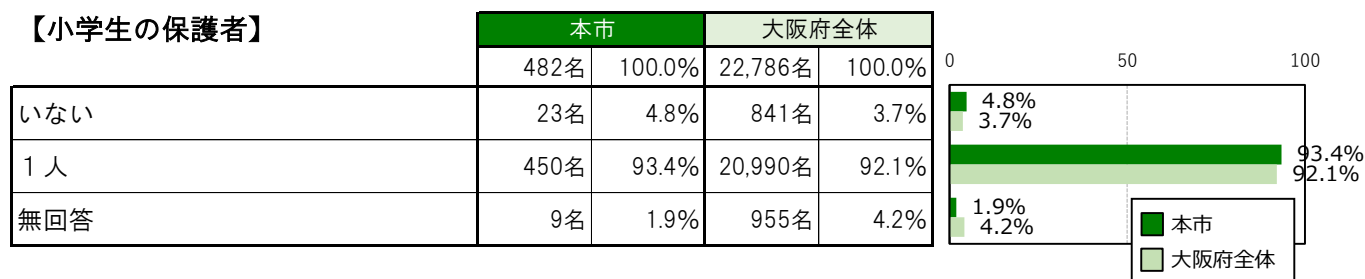
問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が4.6%、「1人」が93.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が4.8%、「1人」が93.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が4.5%、「1人」が92.6%となっている。

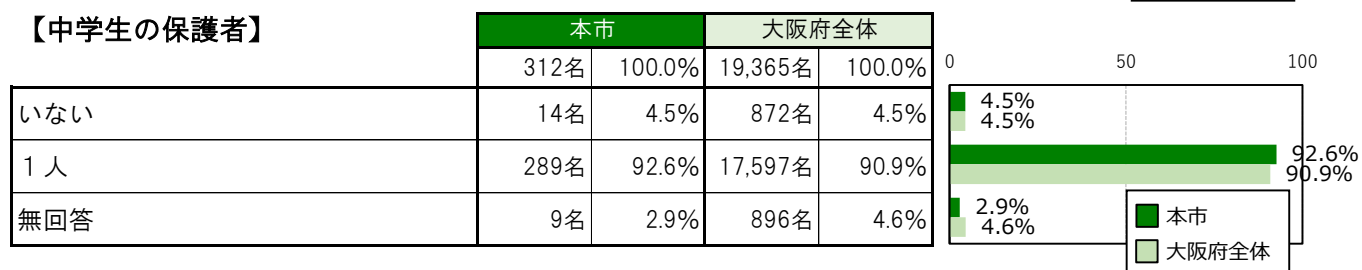
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



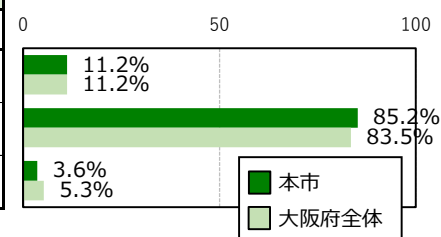
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が11.2%、「1人」が85.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が11.0%、「1人」が85.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が11.5%、「1人」が84.0%となっている。

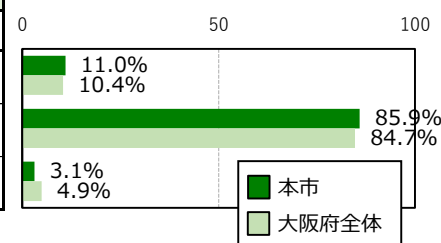
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	89名	11.2%	4,852名	11.2%
1人	678名	85.2%	36,166名	83.5%
無回答	29名	3.6%	2,282名	5.3%



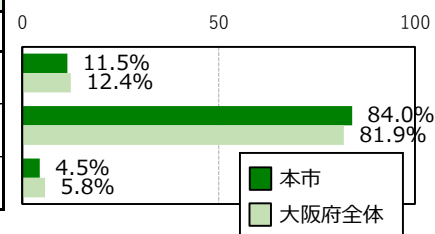
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	53名	11.0%	2,372名	10.4%
1人	414名	85.9%	19,301名	84.7%
無回答	15名	3.1%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	36名	11.5%	2,394名	12.4%
1人	262名	84.0%	15,852名	81.9%
無回答	14名	4.5%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

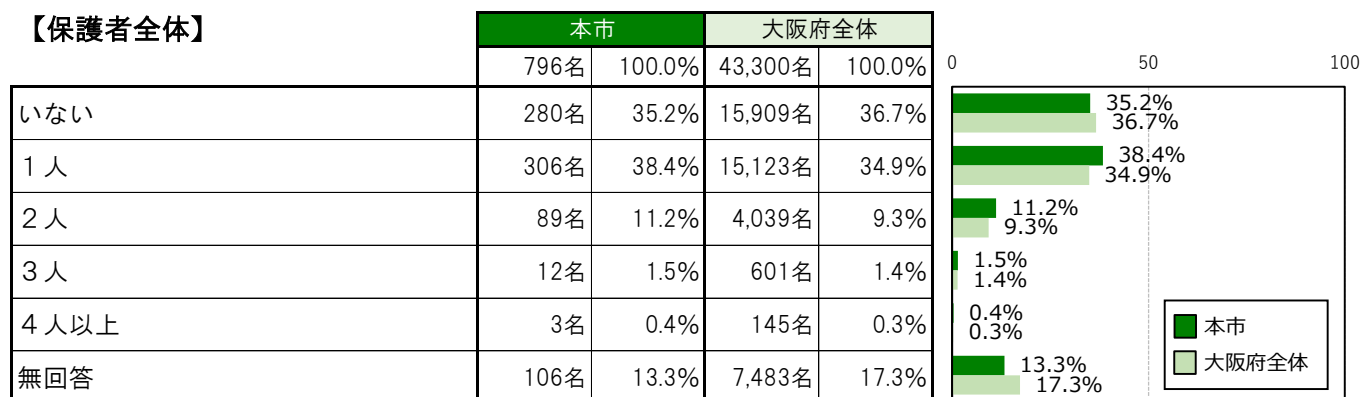
問2 世帯構成 ⑤姉・兄

保護者全体は、「1人」が38.4%で最も多く、次いで「いない」が35.2%、「2人」が11.2%、「3人」が1.5%となっている。

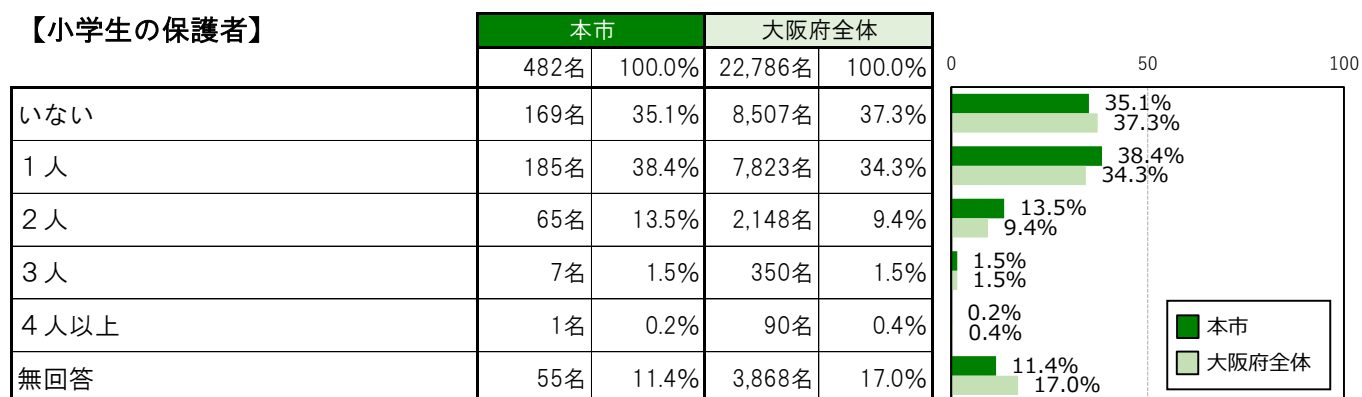
小学生の保護者は、「1人」が38.4%で最も多く、次いで「いない」が35.1%、「2人」が13.5%、「3人」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が38.8%で最も多く、次いで「いない」が35.6%、「2人」が7.4%、「3人」が1.6%となっている。

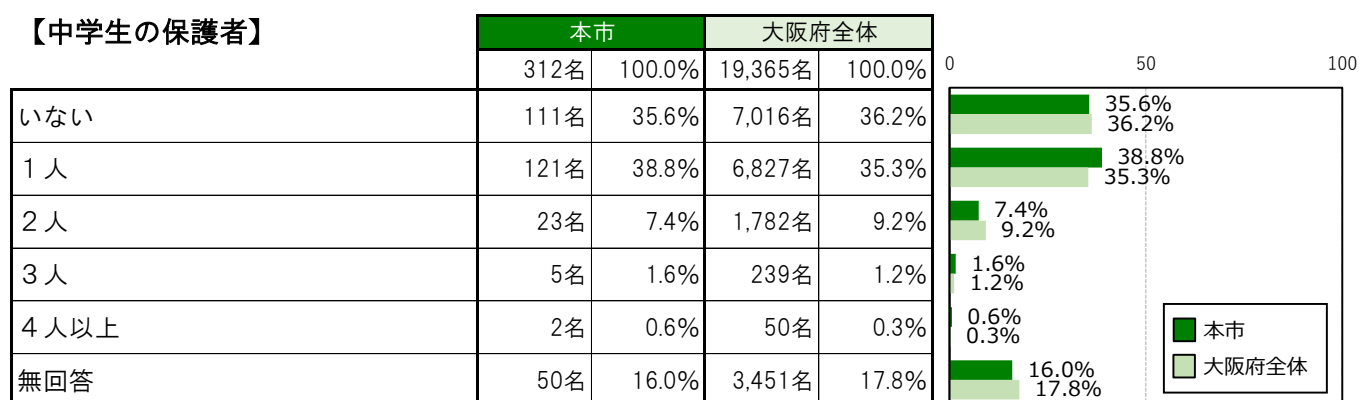
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

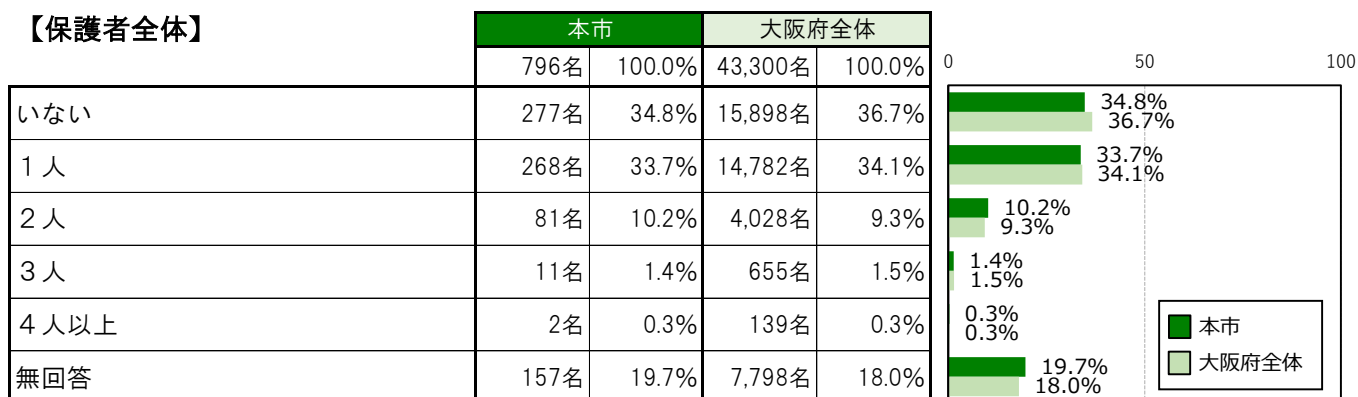
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「いない」が34.8%で最も多く、次いで「1人」が33.7%、「2人」が10.2%、「3人」が1.4%となっている。

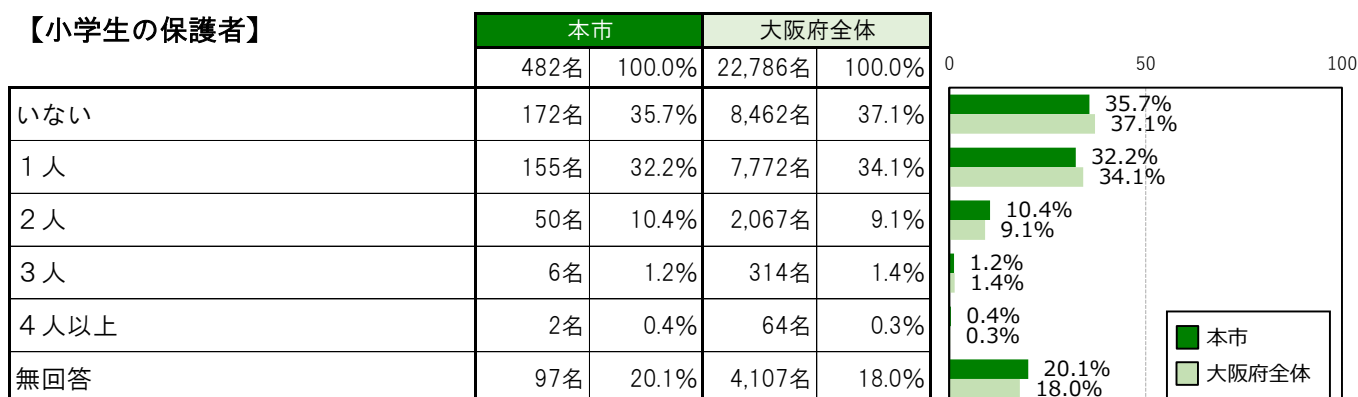
小学生の保護者は、「いない」が35.7%で最も多く、次いで「1人」が32.2%、「2人」が10.4%、「3人」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が35.9%で最も多く、次いで「いない」が33.7%、「2人」が9.9%、「3人」が1.6%となっている。

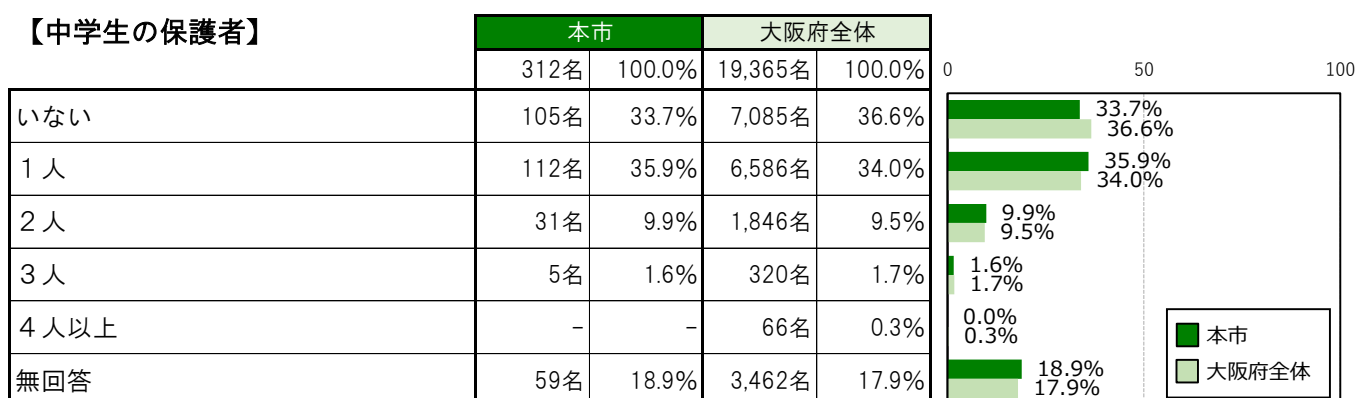
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

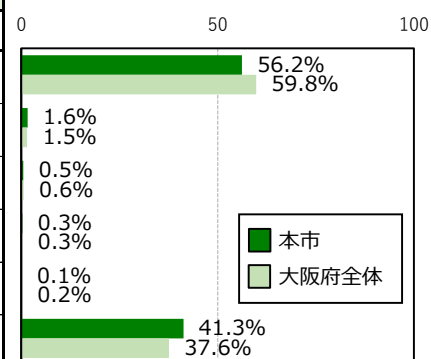
保護者全体は、「いない」が56.2%で最も多く、次いで「1人」が1.6%、「2人」が0.5%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が58.7%で最も多く、次いで「1人」が1.9%、「2人」、「3人」がそれぞれ0.4%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が52.6%で最も多く、次いで「1人」が1.3%、「2人」が0.6%となっている。

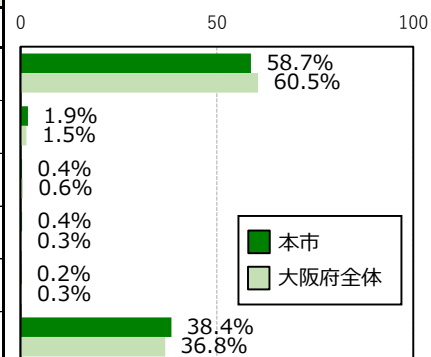
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	447名	56.2%	25,890名	59.8%
1人	13名	1.6%	628名	1.5%
2人	4名	0.5%	261名	0.6%
3人	2名	0.3%	133名	0.3%
4人以上	1名	0.1%	98名	0.2%
無回答	329名	41.3%	16,290名	37.6%



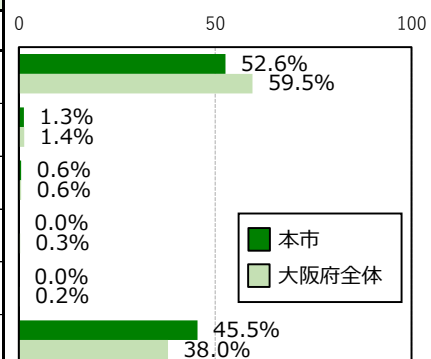
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	283名	58.7%	13,780名	60.5%
1人	9名	1.9%	347名	1.5%
2人	2名	0.4%	139名	0.6%
3人	2名	0.4%	73名	0.3%
4人以上	1名	0.2%	59名	0.3%
無回答	185名	38.4%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	164名	52.6%	11,529名	59.5%
1人	4名	1.3%	275名	1.4%
2人	2名	0.6%	119名	0.6%
3人	-	-	55名	0.3%
4人以上	-	-	36名	0.2%
無回答	142名	45.5%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ＜世帯員の続柄＞

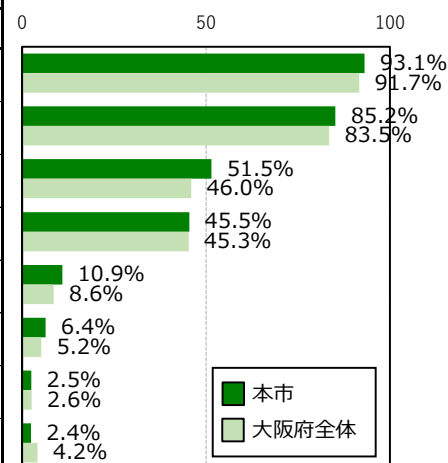
保護者全体は、「お母さん」が93.1%で最も多く、次いで「お父さん」が85.2%、「姉・兄」が51.5%、「妹・弟」が45.5%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が93.4%で最も多く、次いで「お父さん」が85.9%、「姉・兄」が53.5%、「妹・弟」が44.2%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が92.6%で最も多く、次いで「お父さん」が84.0%、「姉・兄」が48.4%、「妹・弟」が47.4%となっている。

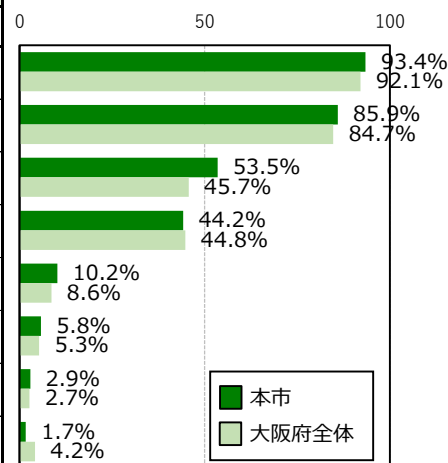
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
お母さん	741名	93.1%	39,706名	91.7%
お父さん	678名	85.2%	36,166名	83.5%
姉・兄	410名	51.5%	19,908名	46.0%
妹・弟	362名	45.5%	19,604名	45.3%
おばあさん	87名	10.9%	3,736名	8.6%
おじいさん	51名	6.4%	2,272名	5.2%
その他	20名	2.5%	1,120名	2.6%
無回答	19名	2.4%	1,839名	4.2%



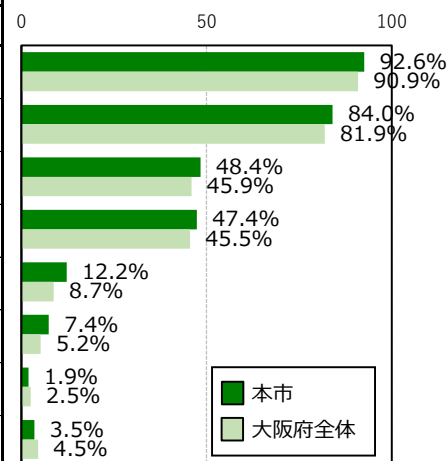
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
お母さん	450名	93.4%	20,990名	92.1%
お父さん	414名	85.9%	19,301名	84.7%
姉・兄	258名	53.5%	10,411名	45.7%
妹・弟	213名	44.2%	10,217名	44.8%
おばあさん	49名	10.2%	1,967名	8.6%
おじいさん	28名	5.8%	1,217名	5.3%
その他	14名	2.9%	618名	2.7%
無回答	8名	1.7%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
お母さん	289名	92.6%	17,597名	90.9%
お父さん	262名	84.0%	15,852名	81.9%
姉・兄	151名	48.4%	8,898名	45.9%
妹・弟	148名	47.4%	8,818名	45.5%
おばあさん	38名	12.2%	1,679名	8.7%
おじいさん	23名	7.4%	1,001名	5.2%
その他	6名	1.9%	485名	2.5%
無回答	11名	3.5%	876名	4.5%



世帯の状況について

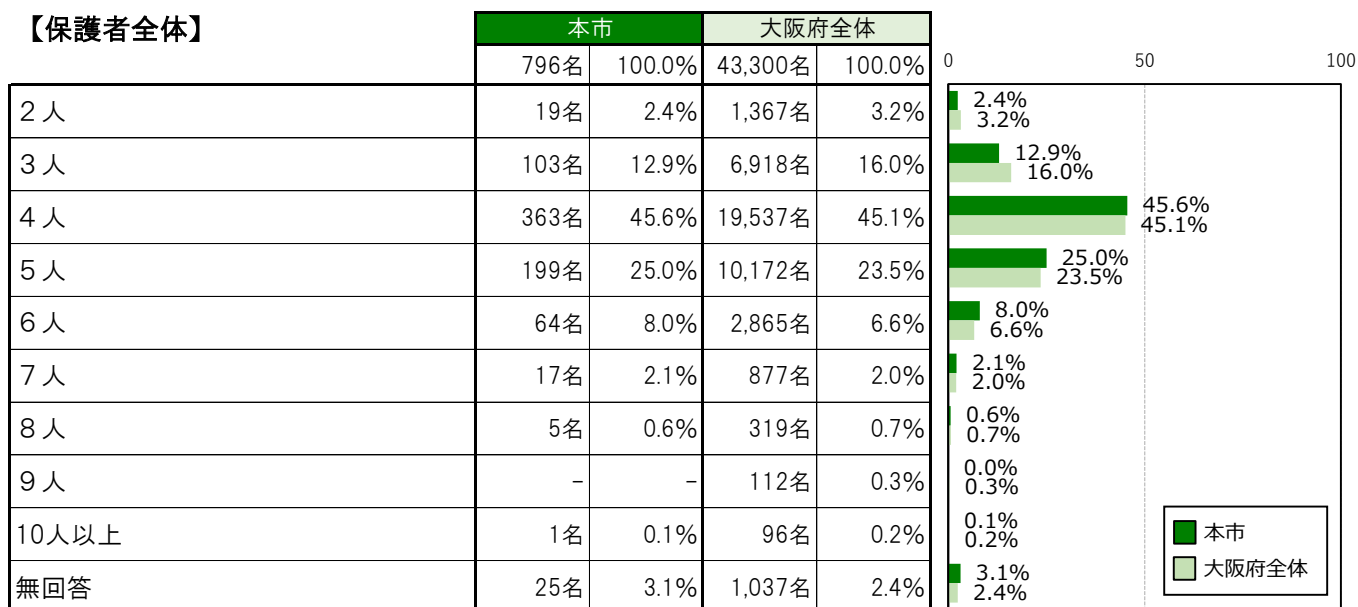
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が45.6%で最も多く、次いで「5人」が25.0%、「3人」が12.9%、「6人」が8.0%となっている。

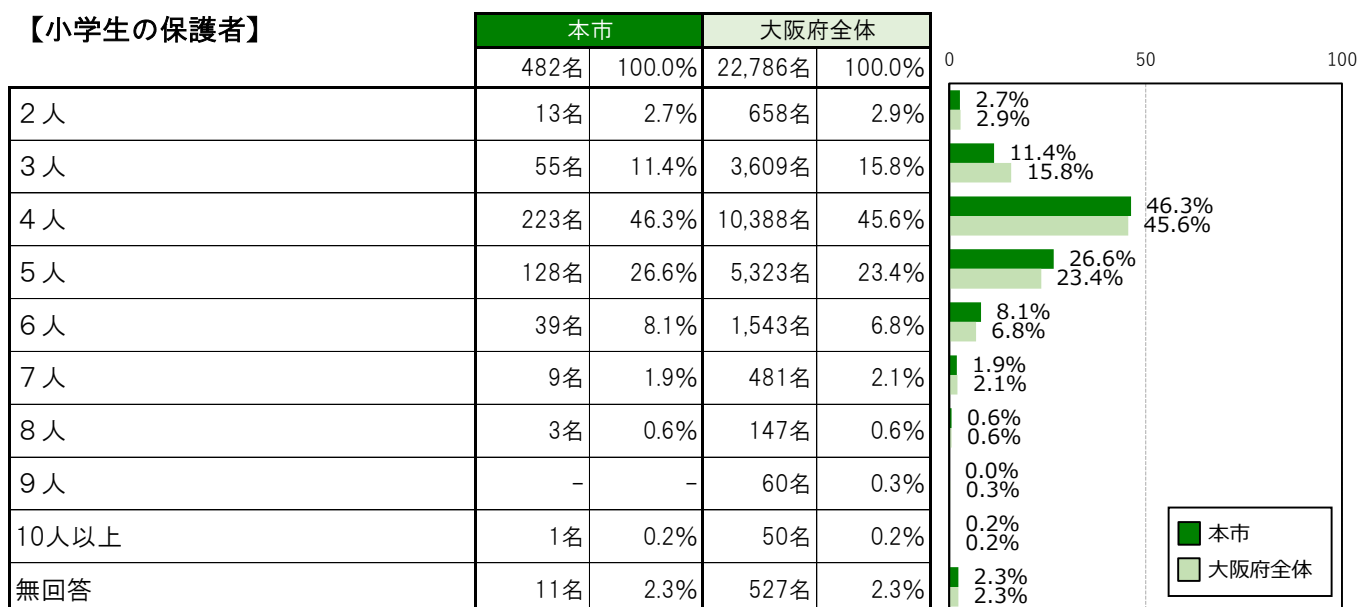
小学生の保護者は、「4人」が46.3%で最も多く、次いで「5人」が26.6%、「3人」が11.4%、「6人」が8.1%となっている。

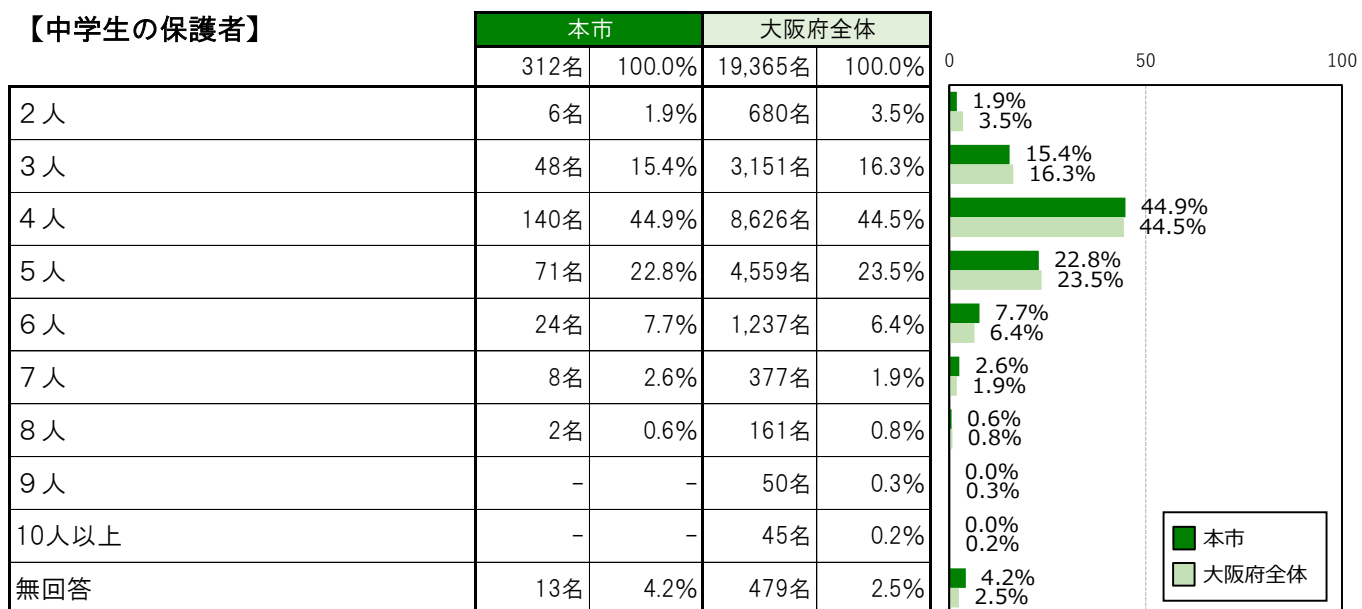
中学生の保護者は、「4人」が44.9%で最も多く、次いで「5人」が22.8%、「3人」が15.4%、「6人」が7.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





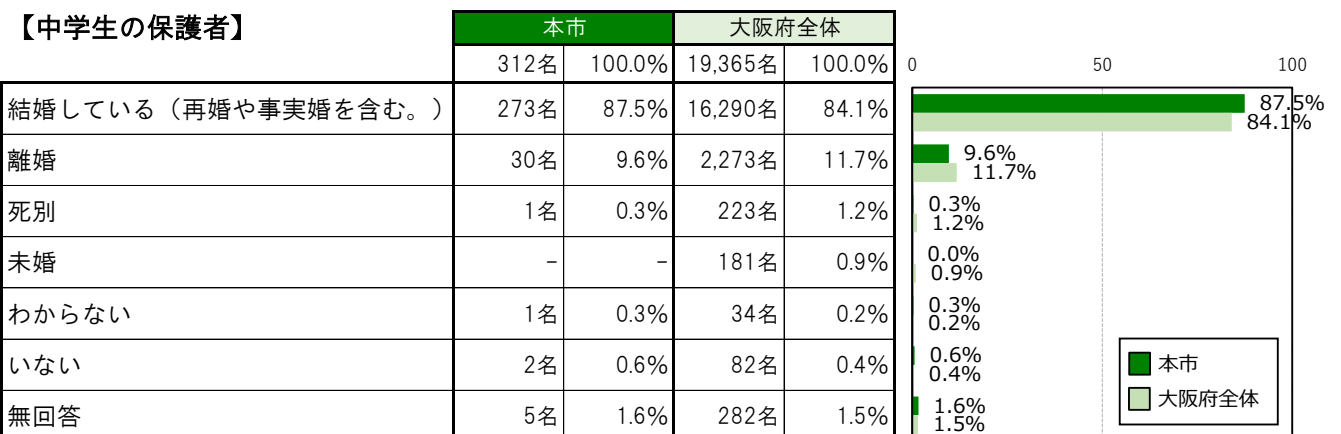
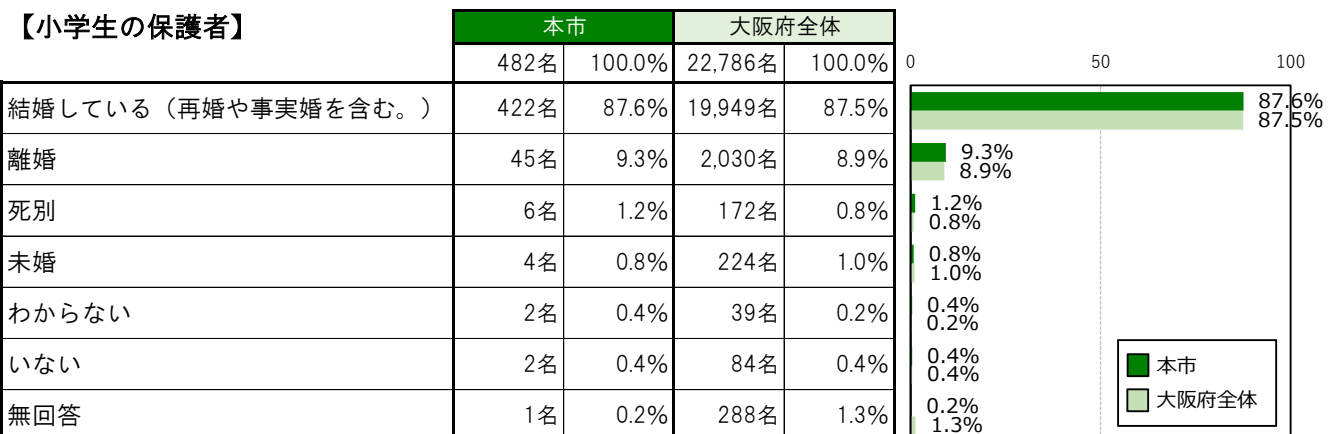
世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が87.6%で最も多く、次いで「離婚」が9.4%、「死別」が0.9%、「未婚」が0.5%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が87.6%で最も多く、次いで「離婚」が9.3%、「死別」が1.2%、「未婚」が0.8%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が87.5%で最も多く、次いで「離婚」が9.6%、「死別」が0.3%となっている。



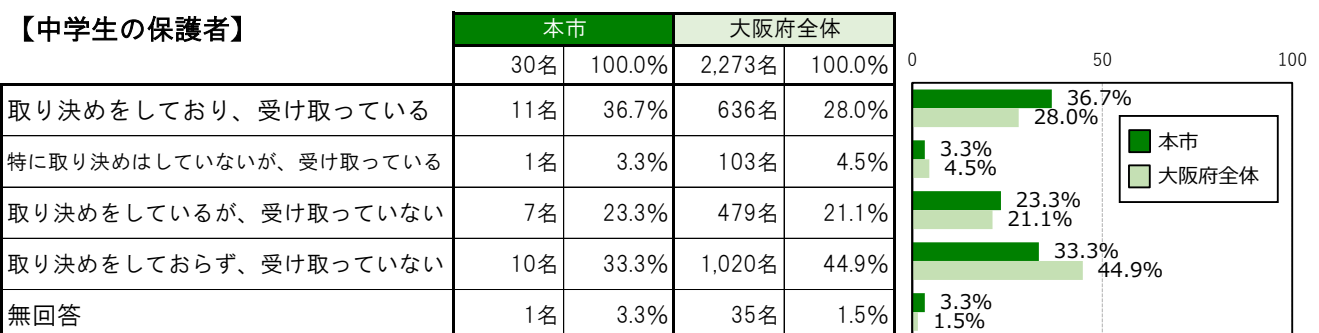
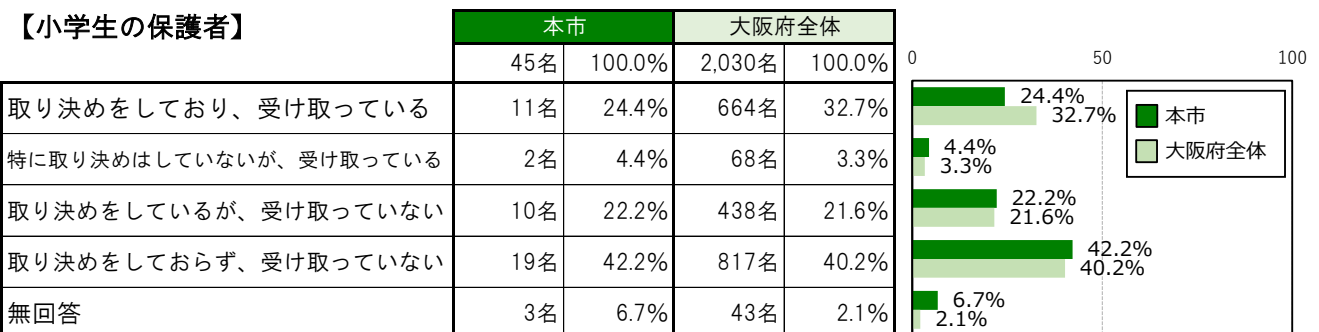
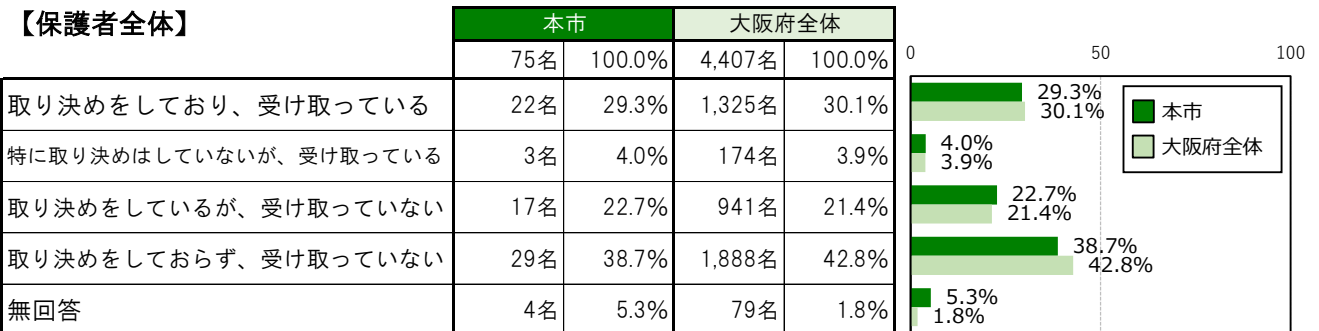
世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が38.7%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が29.3%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が22.7%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が4.0%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が42.2%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が24.4%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が22.2%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が4.4%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が33.3%で最も多く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」が33.3%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が23.3%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が3.3%となっている。



世帯の状況について

問5 住居形態

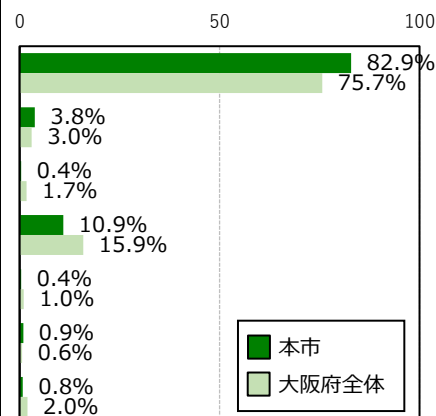
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が82.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が10.9%、「府営・市営の住宅」が3.8%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」、「官舎・社宅」がそれぞれ0.4%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が81.3%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が12.4%、「府営・市営の住宅」が3.5%、「官舎・社宅」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が85.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が8.3%、「府営・市営の住宅」が3.8%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が0.3%となっている。

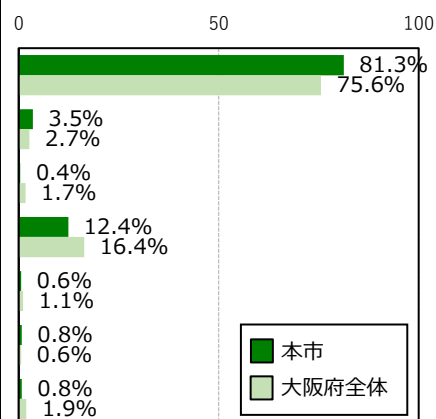
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	660名	82.9%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	30名	3.8%	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	3名	0.4%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	87名	10.9%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	3名	0.4%	438名	1.0%
その他	7名	0.9%	257名	0.6%
無回答	6名	0.8%	863名	2.0%



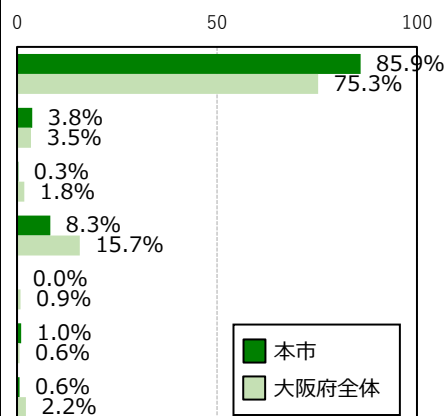
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	392名	81.3%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	17名	3.5%	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	2名	0.4%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	60名	12.4%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	3名	0.6%	255名	1.1%
その他	4名	0.8%	129名	0.6%
無回答	4名	0.8%	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	268名	85.9%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	12名	3.8%	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	1名	0.3%	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	26名	8.3%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	-	-	171名	0.9%
その他	3名	1.0%	121名	0.6%
無回答	2名	0.6%	420名	2.2%



世帯の状況について

問6（1）家計の状況

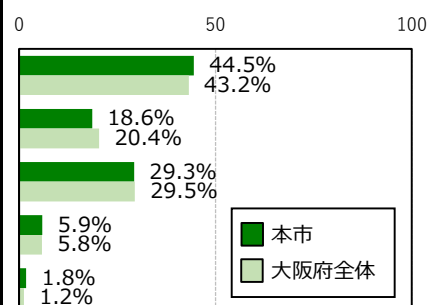
保護者全体は、「貯蓄ができています」が44.5%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が29.3%、「赤字である」が18.6%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が46.1%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が31.1%、「赤字である」が15.8%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が42.3%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が26.6%、「赤字である」が22.8%となっている。

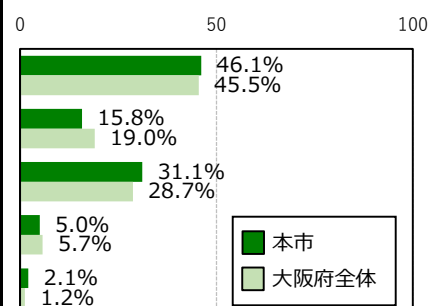
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
貯蓄ができています	354名	44.5%	18,686名	43.2%
赤字である	148名	18.6%	8,818名	20.4%
赤字でもなく黒字でもない	233名	29.3%	12,767名	29.5%
わからない	47名	5.9%	2,523名	5.8%
無回答	14名	1.8%	506名	1.2%



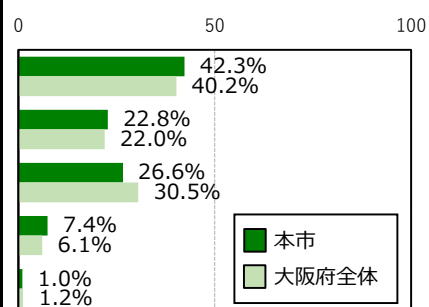
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
貯蓄ができています	222名	46.1%	10,376名	45.5%
赤字である	76名	15.8%	4,319名	19.0%
赤字でもなく黒字でもない	150名	31.1%	6,535名	28.7%
わからない	24名	5.0%	1,292名	5.7%
無回答	10名	2.1%	264名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
貯蓄ができています	132名	42.3%	7,790名	40.2%
赤字である	71名	22.8%	4,255名	22.0%
赤字でもなく黒字でもない	83名	26.6%	5,912名	30.5%
わからない	23名	7.4%	1,173名	6.1%
無回答	3名	1.0%	235名	1.2%



世帯の状況について

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

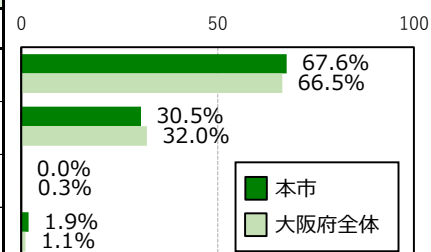
保護者全体は、「貯蓄をしている」が67.6%、「貯蓄をしたいが、できていない」が30.5%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が69.5%、「貯蓄をしたいが、できていない」が28.0%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が64.4%、「貯蓄をしたいが、できていない」が34.6%となっている。

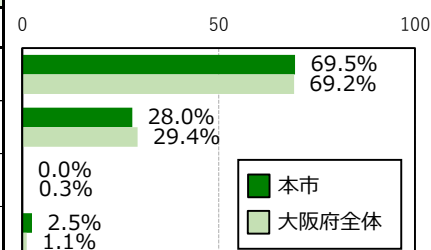
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
貯蓄をしている	538名	67.6%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	243名	30.5%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	-	-	138名	0.3%
無回答	15名	1.9%	483名	1.1%



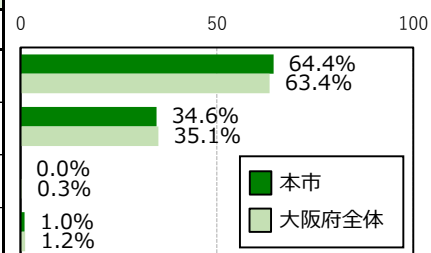
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
貯蓄をしている	335名	69.5%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	135名	28.0%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	-	-	74名	0.3%
無回答	12名	2.5%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
貯蓄をしている	201名	64.4%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	108名	34.6%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	-	-	63名	0.3%
無回答	3名	1.0%	227名	1.2%



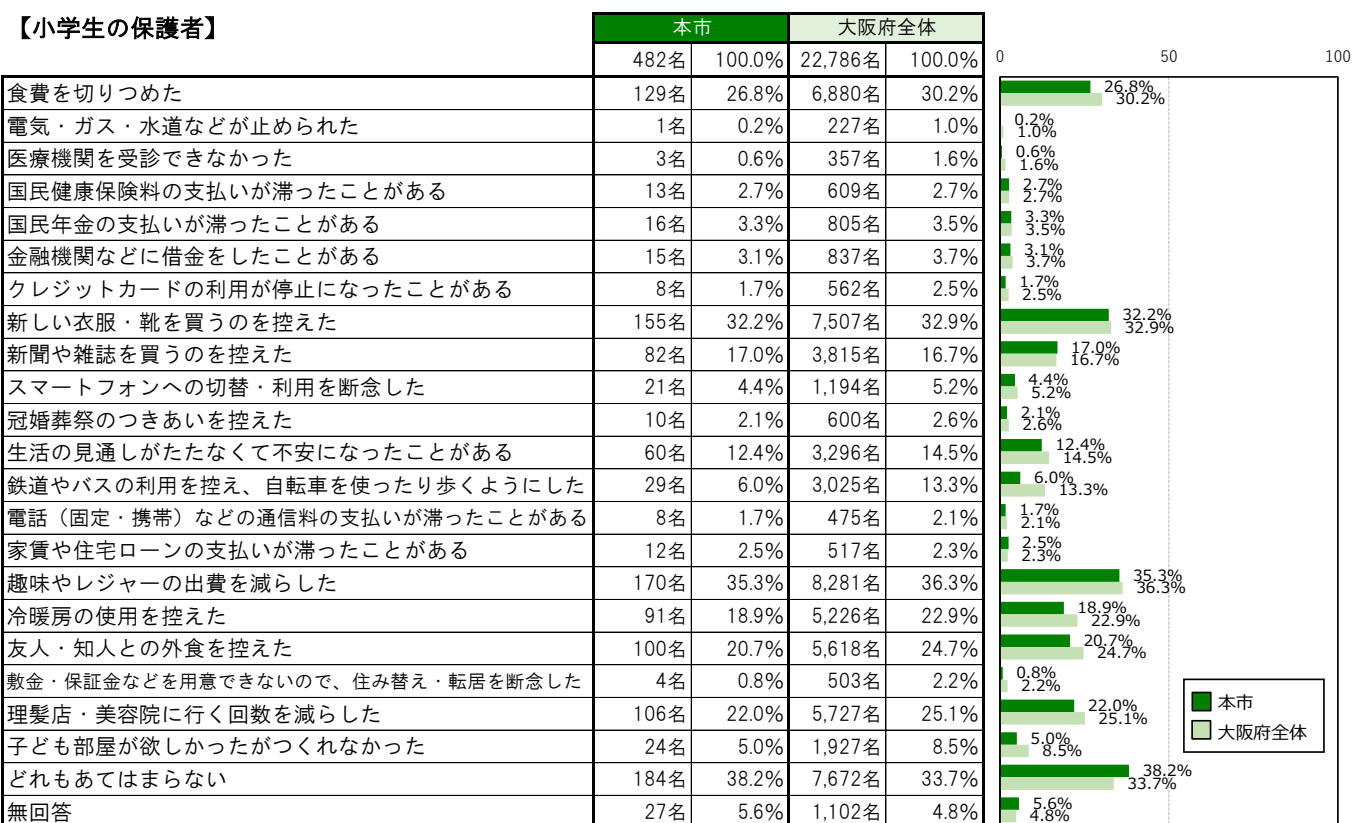
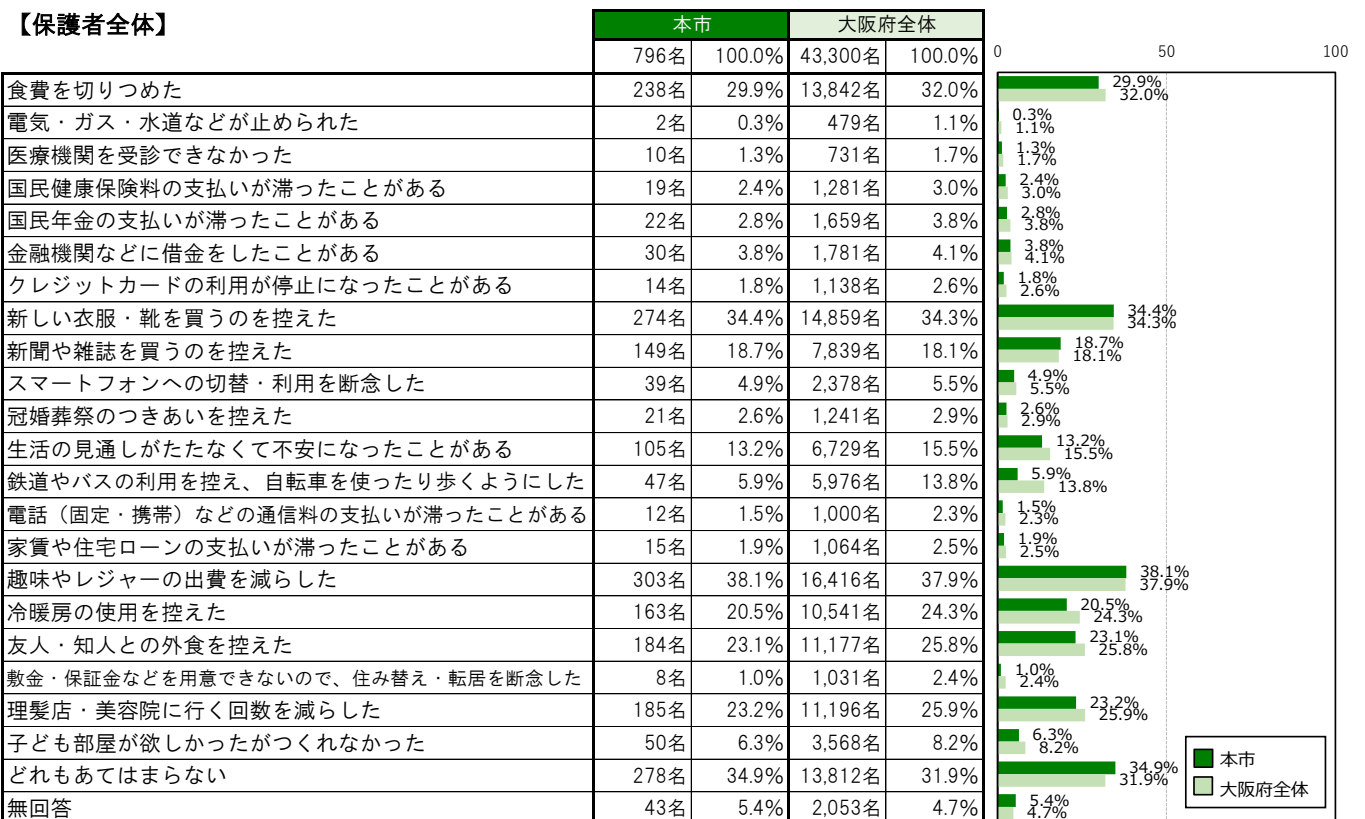
世帯の状況について

問7 経済的な理由による経験

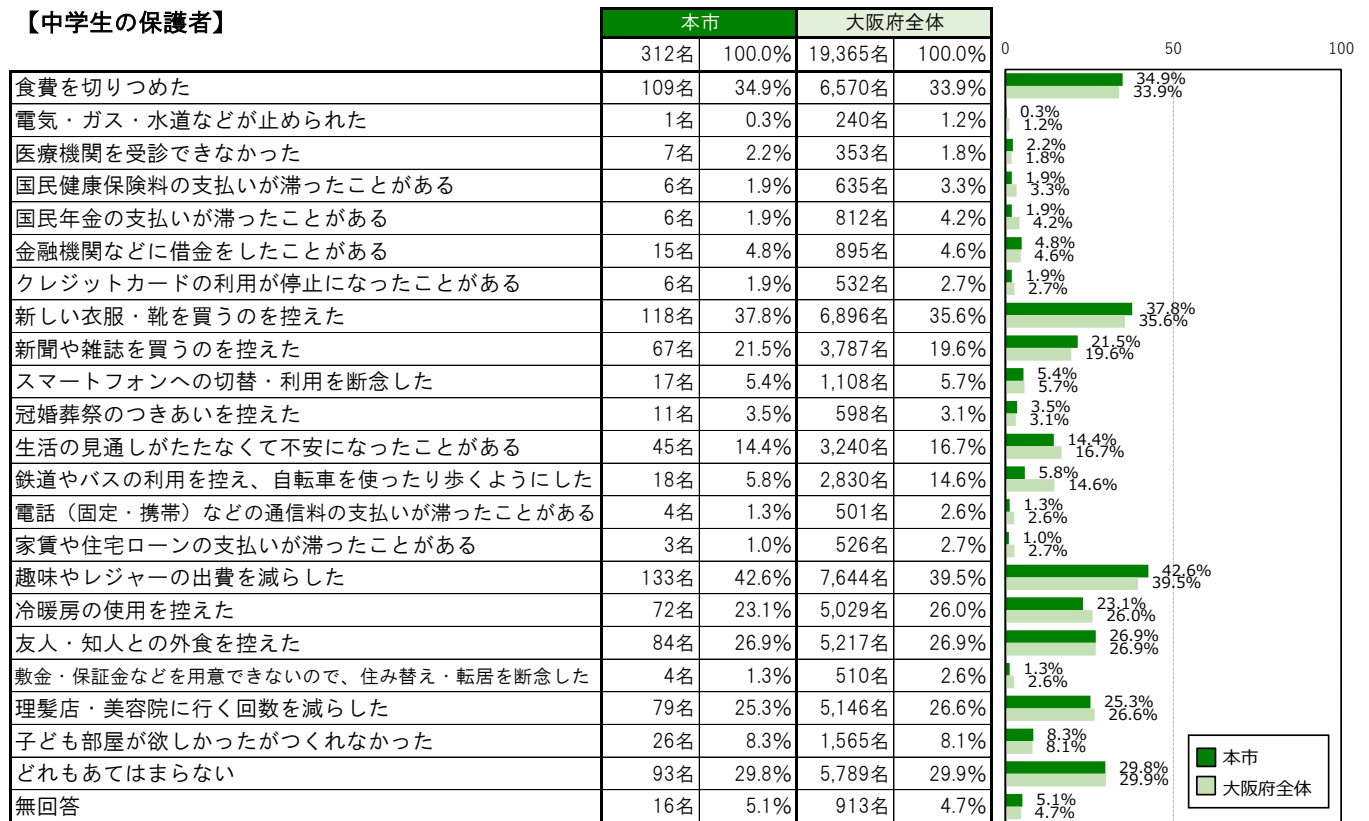
保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が38.1%で最も多く、次いで「どれもあてはまらない」が34.9%、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が34.4%、「食費を切りつめた」が29.9%となっている。

小学生の保護者は、「どれもあてはまらない」が38.2%で最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が35.3%、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が32.2%、「食費を切りつめた」が26.8%となっている。

中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が42.6%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が37.8%、「食費を切りつめた」が34.9%、「どれもあてはまらない」が29.8%となっている。



【中学生の保護者】



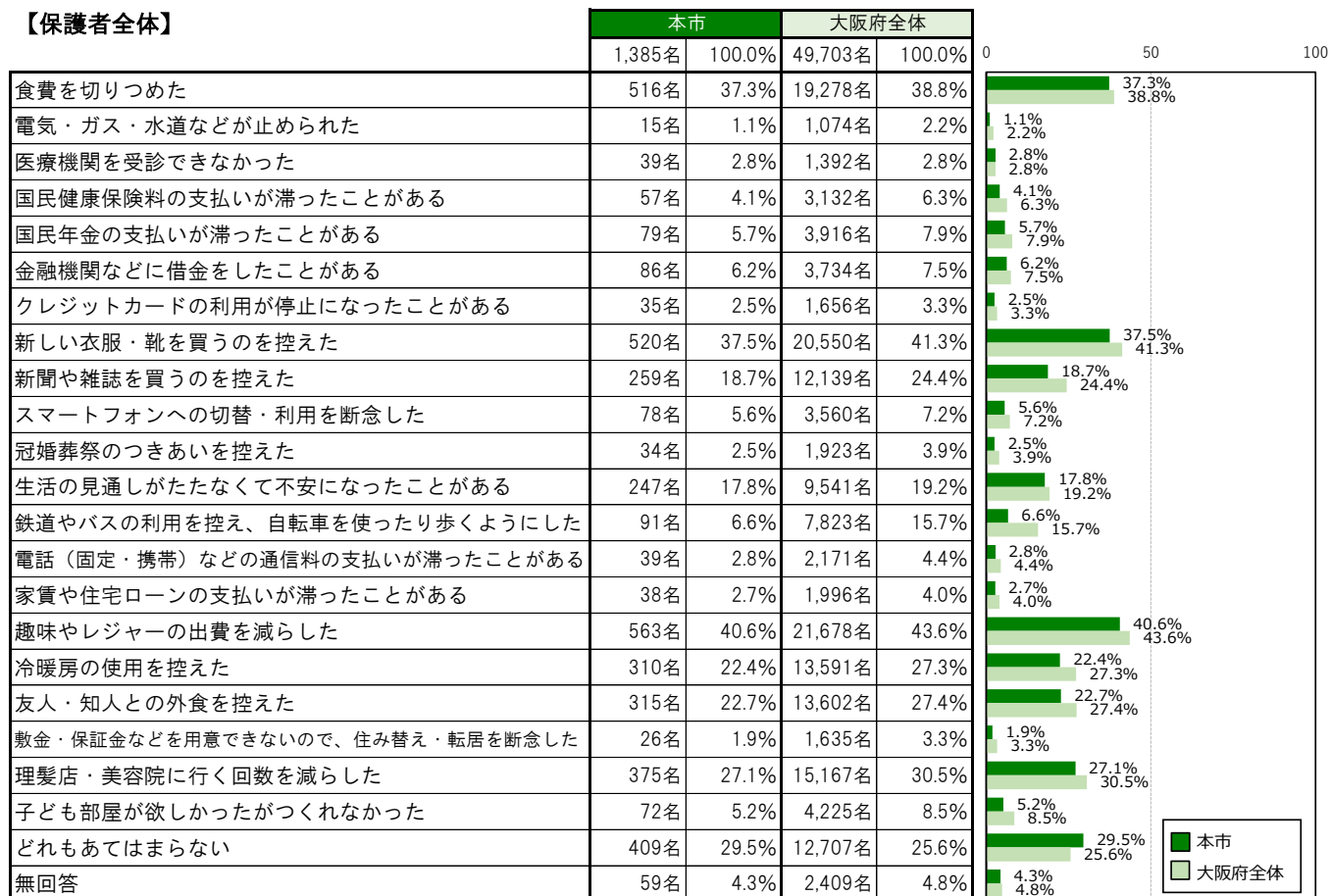
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

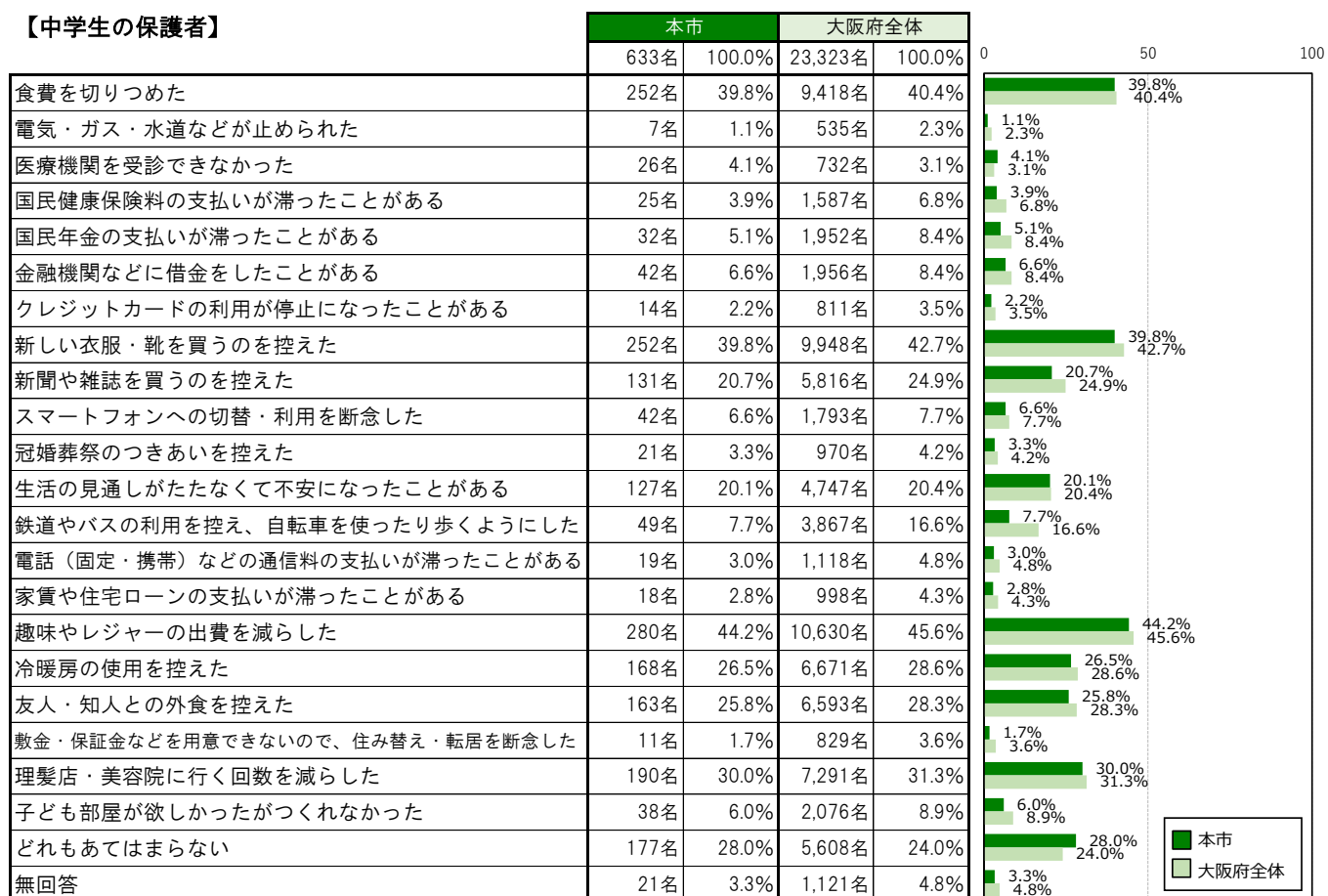
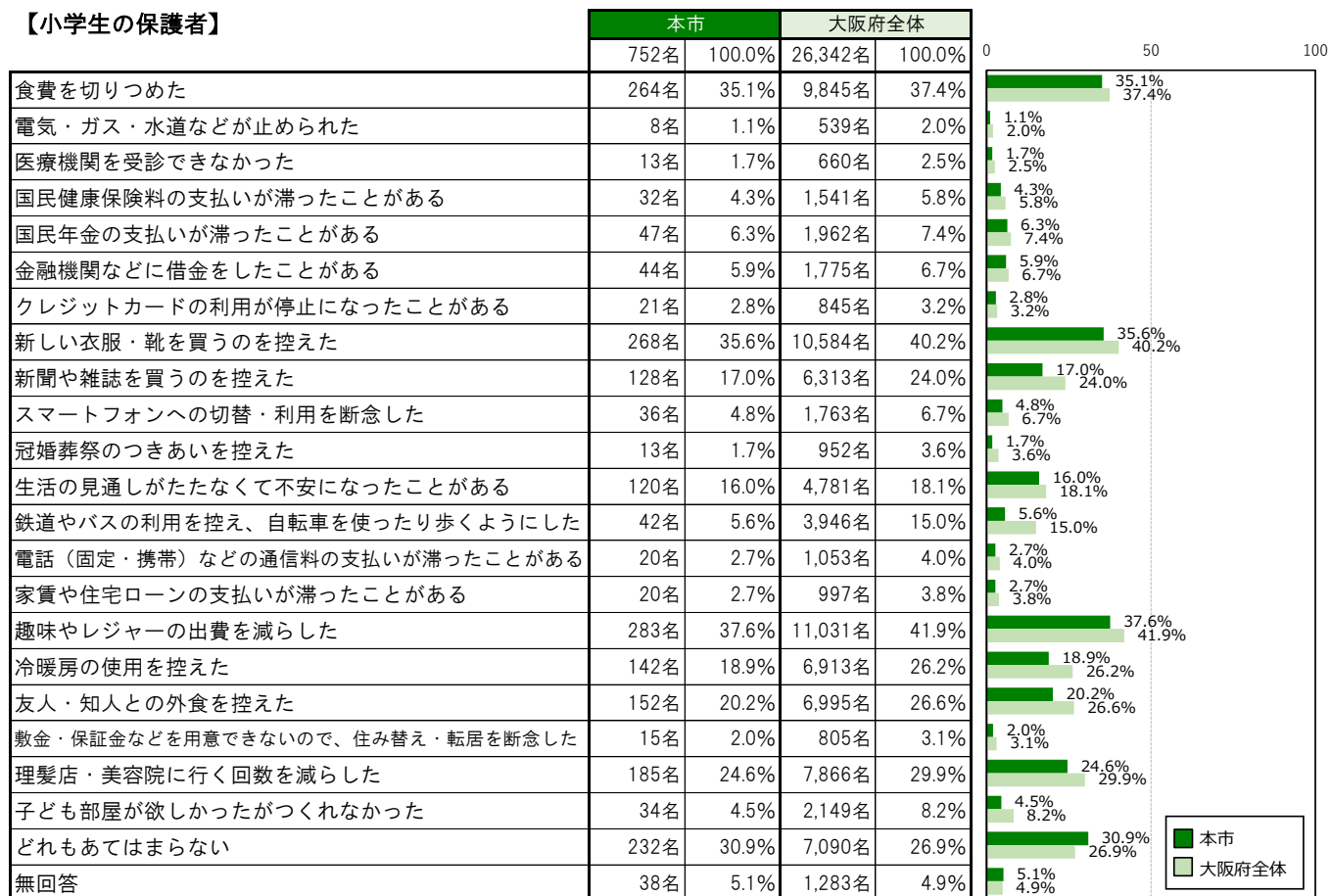
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「食費を切りつめた」が7.4ポイント、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」が4.6ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が3.9ポイント、それぞれ低くなっている。

小学生は、「食費を切りつめた」が8.3ポイント、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」が3.6ポイント、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が3.4ポイント、それぞれ低くなっている。

中学生は、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」が5.7ポイント、「食費を切りつめた」が4.9ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が4.7ポイント、それぞれ低くなっている。

【保護者全体】





世帯の状況について

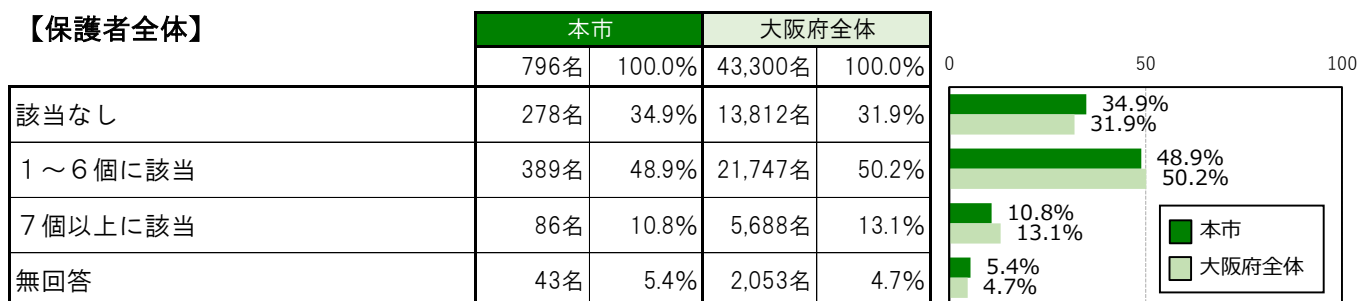
問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

経済的な理由による経験について、はく奪指標で見ると、保護者全体は、「1～6個に該当」が48.9%で最も多く、次いで「該当なし」が34.9%、「7個以上に該当」が10.8%となっている。

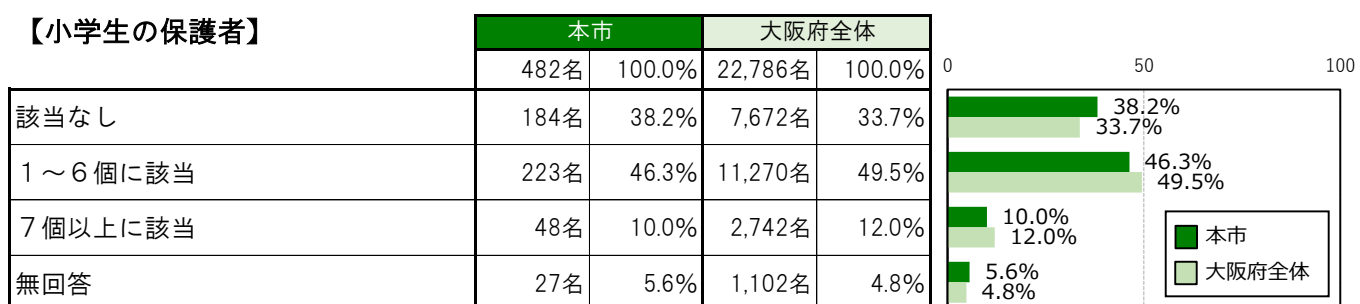
小学生の保護者は、「1～6個に該当」が46.3%で最も多く、次いで「該当なし」が38.2%、「7個以上に該当」が10.0%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が52.9%で最も多く、次いで「該当なし」が29.8%、「7個以上に該当」が12.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



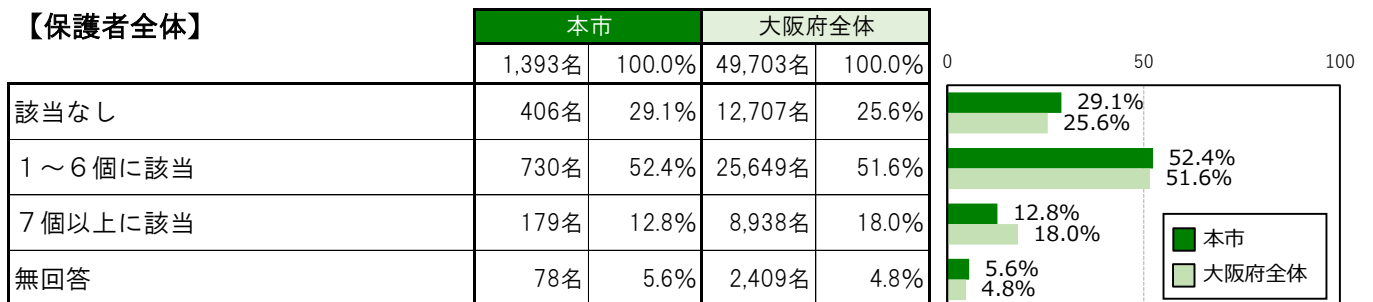
【中学生の保護者】



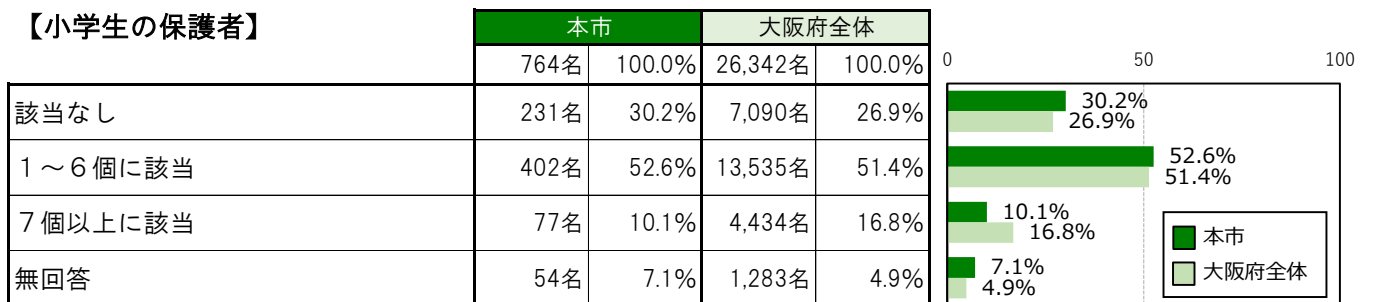
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「該当なし」が5.8ポイント高くなっている。
 小学生の保護者は、「該当なし」が8.0ポイント高くなっている。
 中学生の保護者は、「7個以上に該当」が4.0ポイント低くなっている。

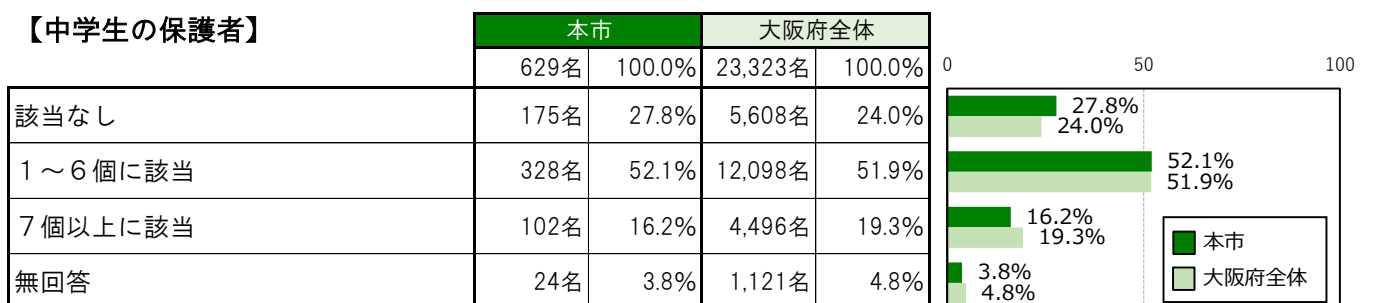
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

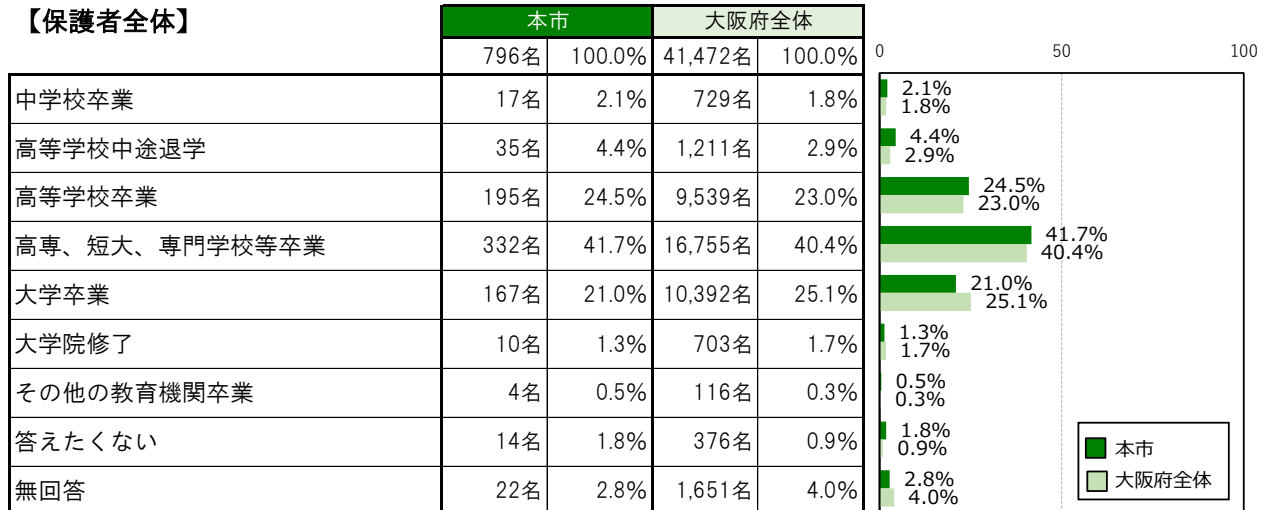
問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が41.7%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が24.5%、「大学卒業」が21.0%、「高等学校中途退学」が4.4%となっている。

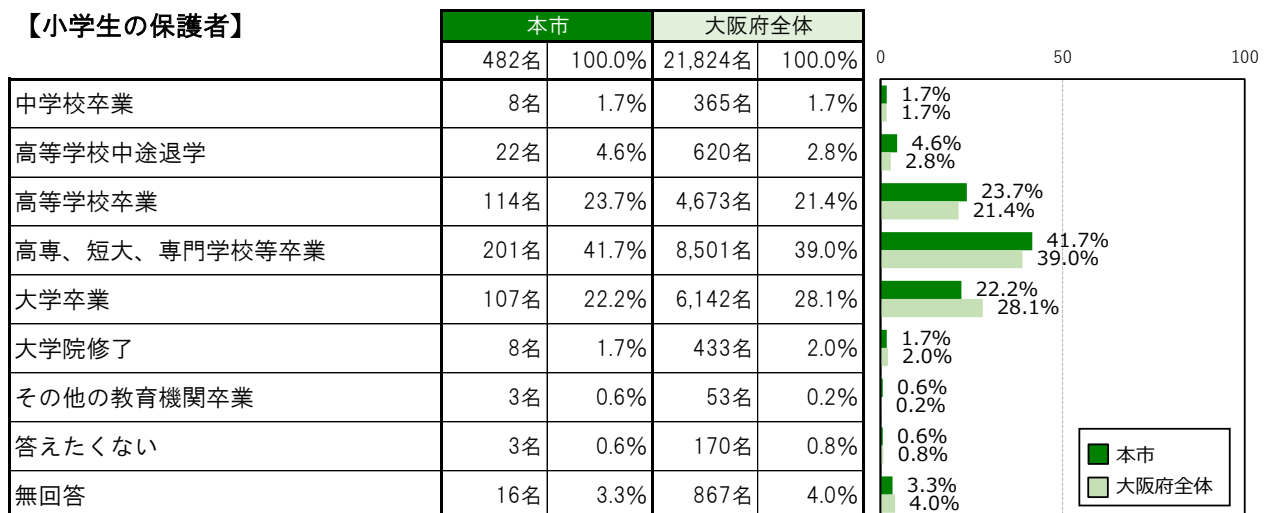
小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が41.7%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が23.7%、「大学卒業」が22.2%、「高等学校中途退学」が4.6%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が42.0%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が26.0%、「大学卒業」が19.2%、「高等学校中途退学」が4.2%となっている。

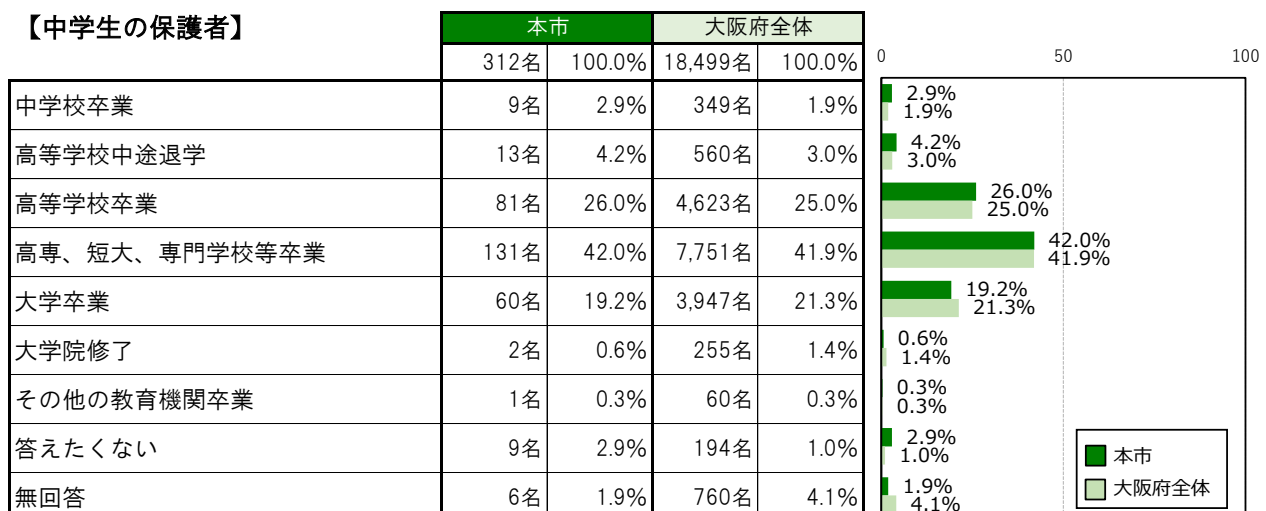
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

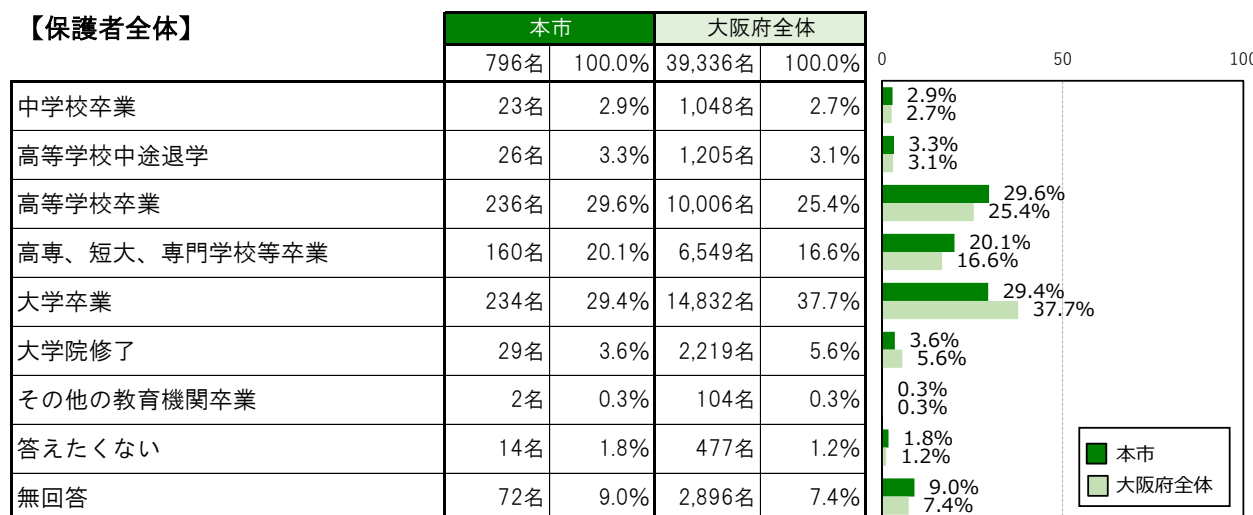
問8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「高等学校卒業」が29.6%で最も多く、次いで「大学卒業」が29.4%、「高専、短大、専門学校等卒業」が20.1%、「大学院修了」が3.6%となっている。

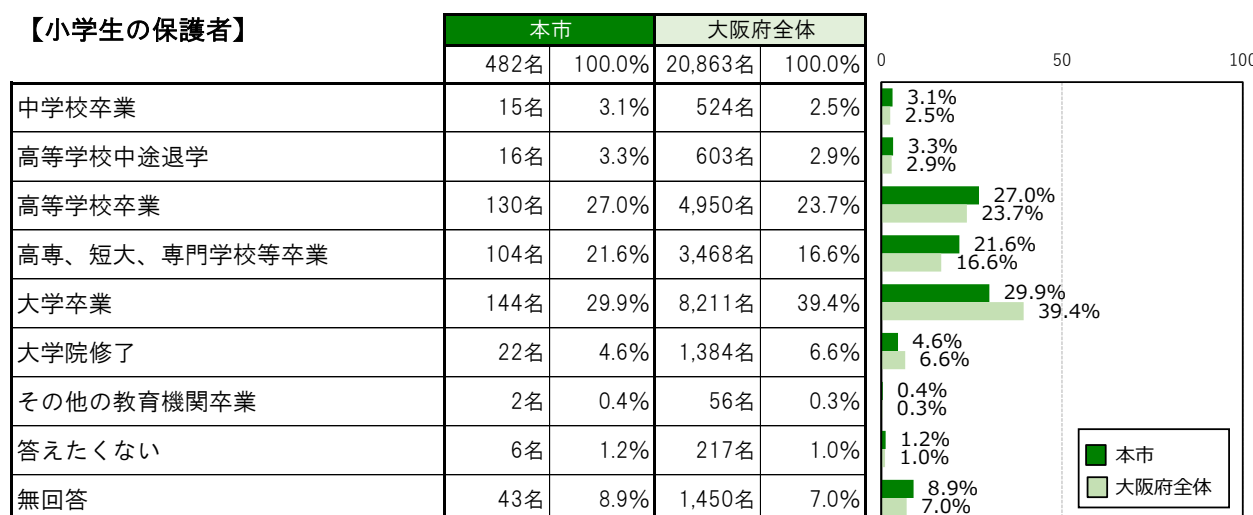
小学生の保護者は、「大学卒業」が29.9%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が27.0%、「高専、短大、専門学校等卒業」が21.6%、「大学院修了」が4.6%となっている。

中学生の保護者は、「高等学校卒業」が34.0%で最も多く、次いで「大学卒業」が28.8%、「高専、短大、専門学校等卒業」が17.9%、「高等学校中途退学」が3.2%となっている。

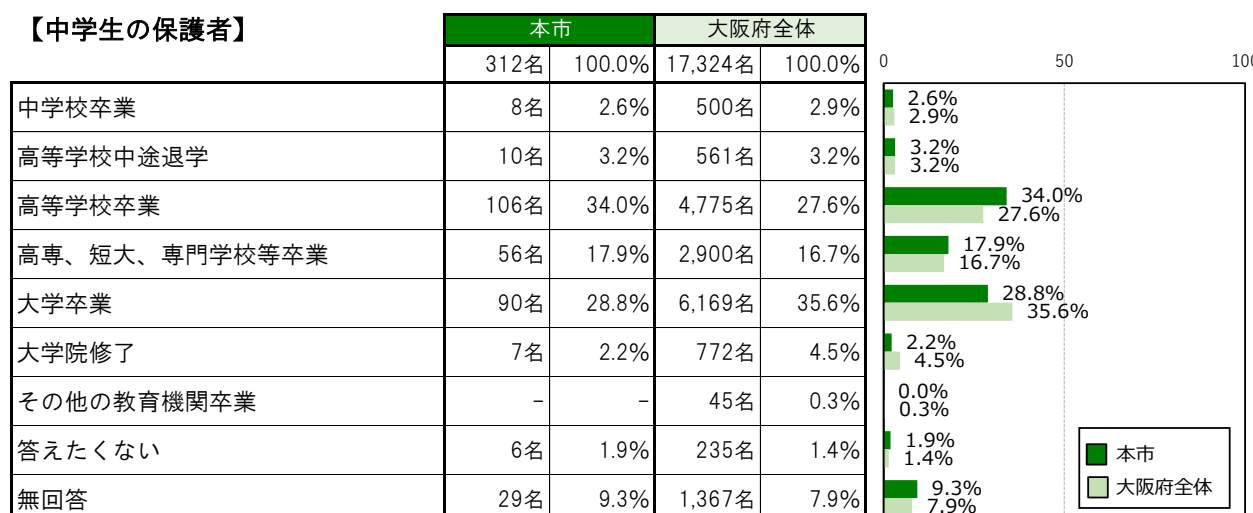
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



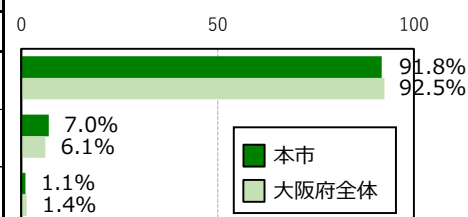
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が91.8%、「いない」が7.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が91.5%、「いない」が7.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が92.9%、「いない」が5.8%となっている。

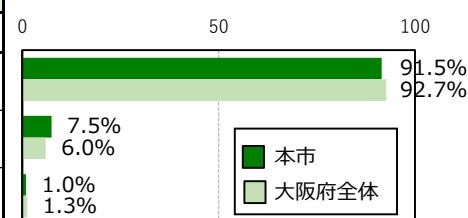
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	731名	91.8%	40,053名	92.5%
いない	56名	7.0%	2,634名	6.1%
無回答	9名	1.1%	613名	1.4%



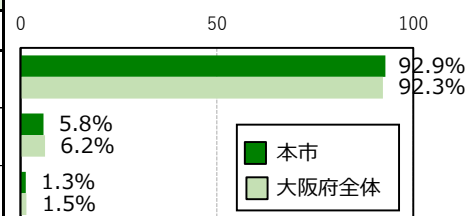
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	441名	91.5%	21,115名	92.7%
いない	36名	7.5%	1,368名	6.0%
無回答	5名	1.0%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	290名	92.9%	17,877名	92.3%
いない	18名	5.8%	1,192名	6.2%
無回答	4名	1.3%	296名	1.5%



世帯の状況について

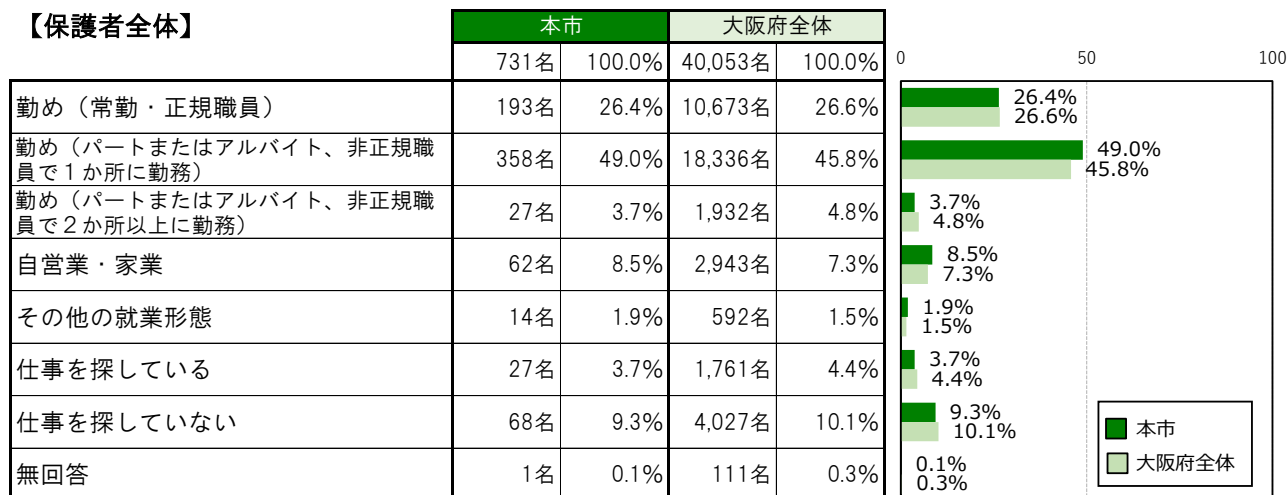
問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が49.0%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が26.4%、「仕事を探していない」が9.3%、「自営業・家業」が8.5%となっている。

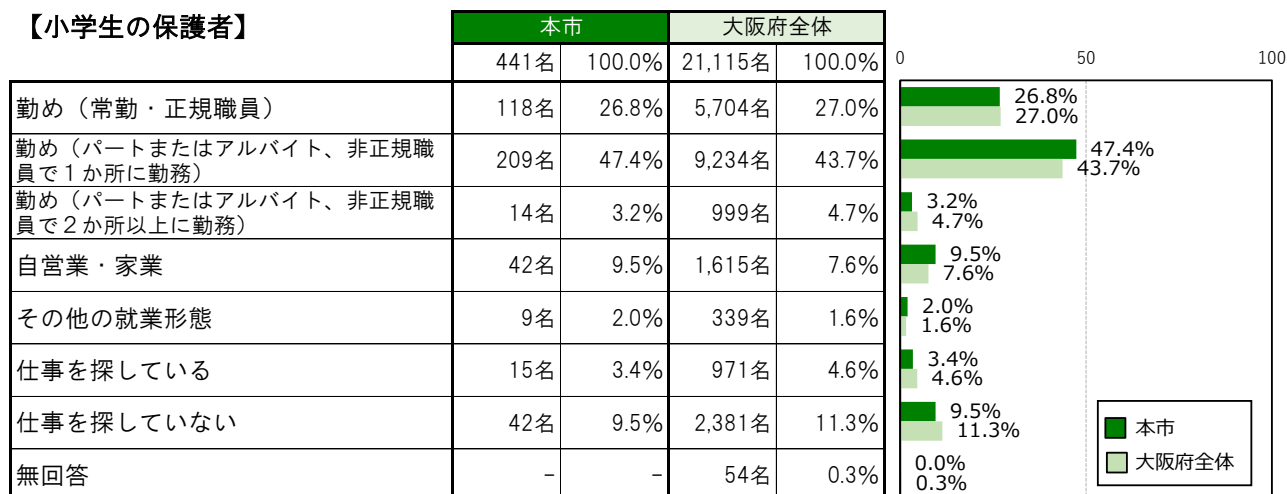
小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が47.4%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が26.8%、「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ9.5%、「仕事を探している」が3.4%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が51.4%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.9%、「仕事を探していない」が9.0%、「自営業・家業」が6.9%となっている。

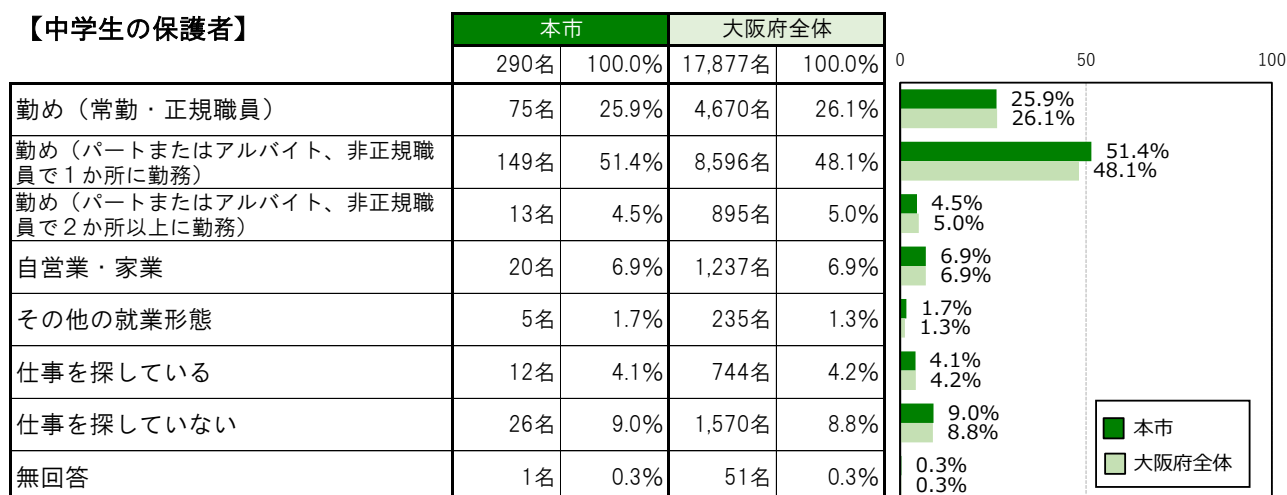
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

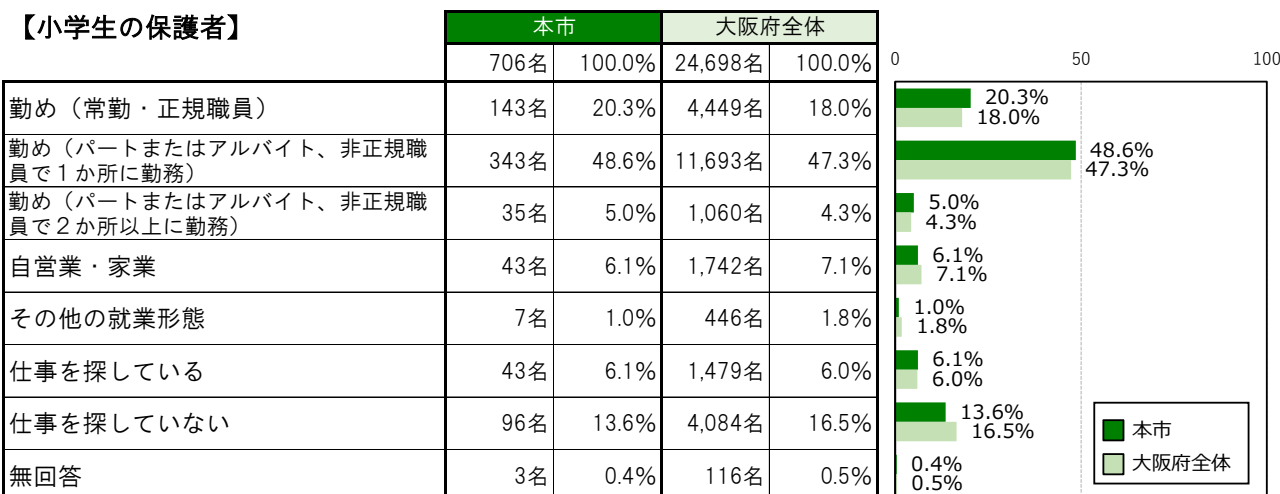


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「仕事を探していない」は3.5ポイント低いが、「勤め（常勤・正規職員）」は7.3ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」は4.1ポイント低いが、「勤め（常勤・正規職員）」は6.5ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」は2.9ポイント低いが、「勤め（常勤・正規職員）」は8.3ポイント高くなっている。



世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

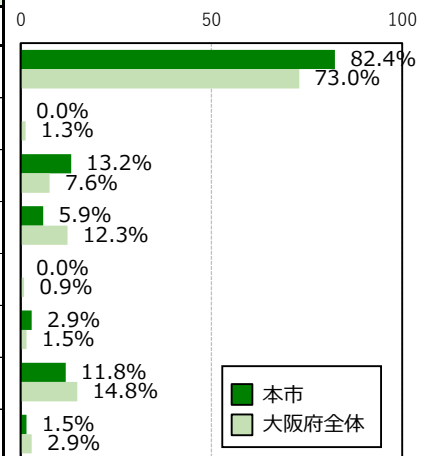
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が82.4%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が13.2%、「病気療養のため」が5.9%、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が2.9%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が85.7%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が9.5%、「病気療養のため」が7.1%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が76.9%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が19.2%、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が7.7%、「病気療養のため」が3.8%となっている。

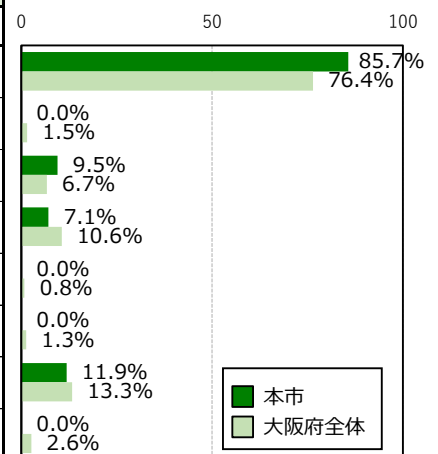
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	68名	100.0%	4,027名	100.0%
家事や育児に専念したいため	56名	82.4%	2,939名	73.0%
学生のため	-	-	51名	1.3%
おうちの人の介護や介助のため	9名	13.2%	307名	7.6%
病気療養のため	4名	5.9%	496名	12.3%
年金収入があるため	-	-	35名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	2名	2.9%	62名	1.5%
その他	8名	11.8%	595名	14.8%
無回答	1名	1.5%	115名	2.9%



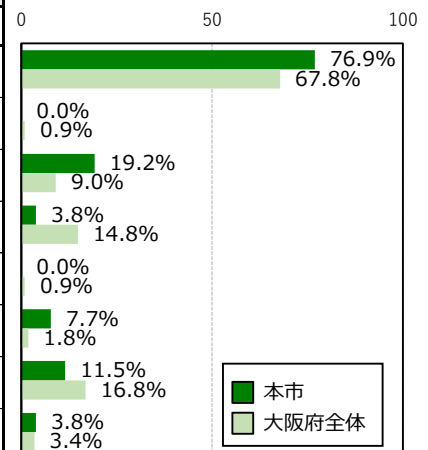
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	42名	100.0%	2,381名	100.0%
家事や育児に専念したいため	36名	85.7%	1,820名	76.4%
学生のため	-	-	36名	1.5%
おうちの人の介護や介助のため	4名	9.5%	160名	6.7%
病気療養のため	3名	7.1%	252名	10.6%
年金収入があるため	-	-	20名	0.8%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	32名	1.3%
その他	5名	11.9%	317名	13.3%
無回答	-	-	61名	2.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	26名	100.0%	1,570名	100.0%
家事や育児に専念したいため	20名	76.9%	1,064名	67.8%
学生のため	-	-	14名	0.9%
おうちの人の介護や介助のため	5名	19.2%	141名	9.0%
病気療養のため	1名	3.8%	232名	14.8%
年金収入があるため	-	-	14名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	2名	7.7%	29名	1.8%
その他	3名	11.5%	263名	16.8%
無回答	1名	3.8%	54名	3.4%



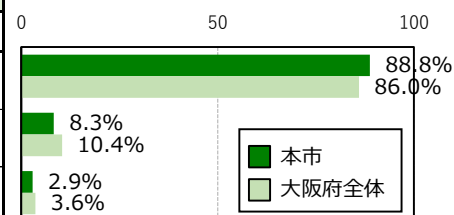
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が88.8%、「いない」が8.3%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が90.5%、「いない」が7.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が86.2%、「いない」が9.6%となっている。

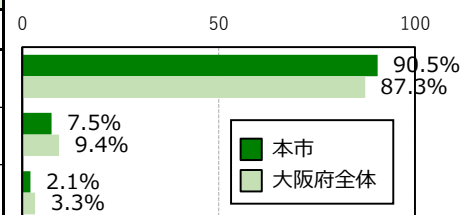
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	707名	88.8%	37,256名	86.0%
いない	66名	8.3%	4,504名	10.4%
無回答	23名	2.9%	1,540名	3.6%



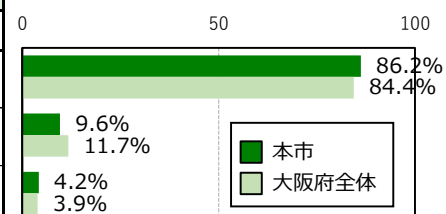
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	436名	90.5%	19,882名	87.3%
いない	36名	7.5%	2,149名	9.4%
無回答	10名	2.1%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	269名	86.2%	16,352名	84.4%
いない	30名	9.6%	2,261名	11.7%
無回答	13名	4.2%	752名	3.9%



世帯の状況について

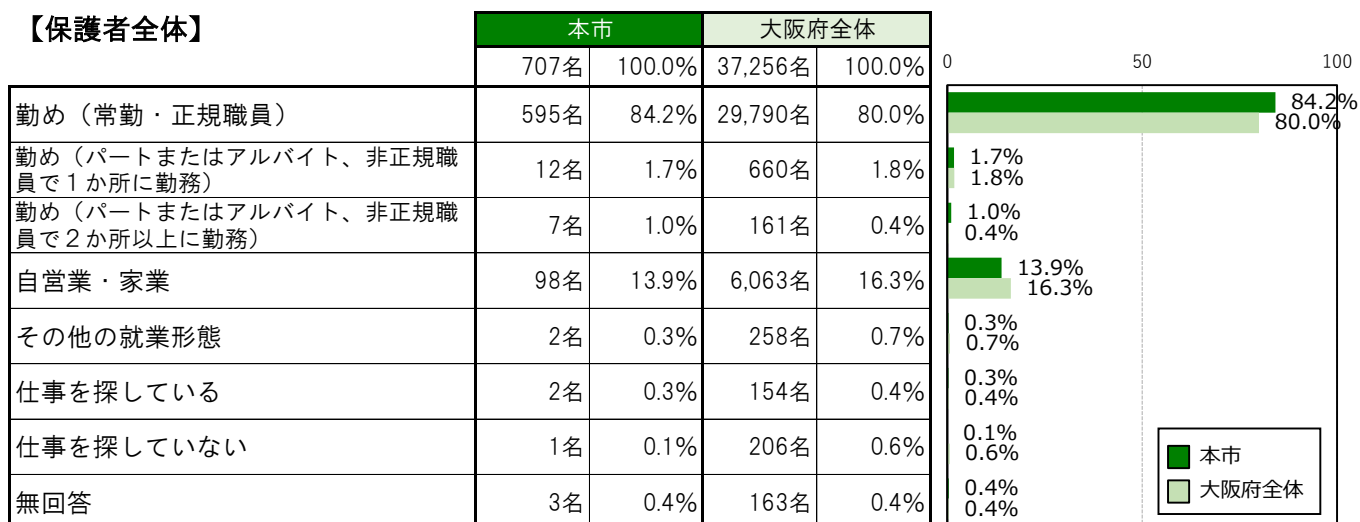
問9 お父さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が84.2%で最も多く、次いで「自営業・家業」が13.9%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.7%となっている。

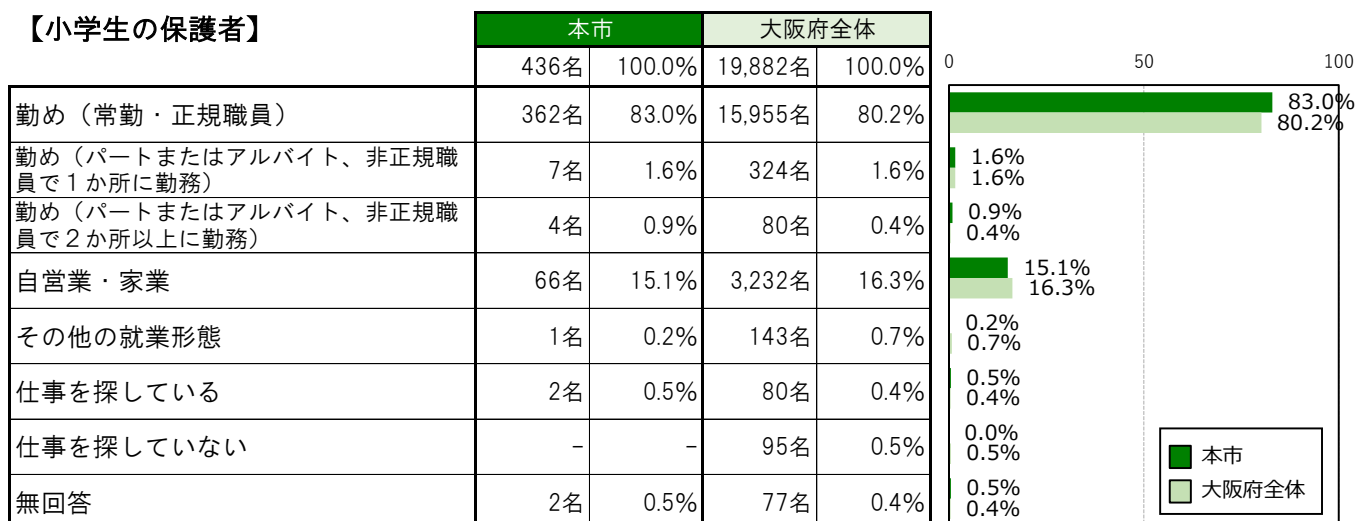
小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が83.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が15.1%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.6%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が86.2%で最も多く、次いで「自営業・家業」が11.9%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.9%となっている。

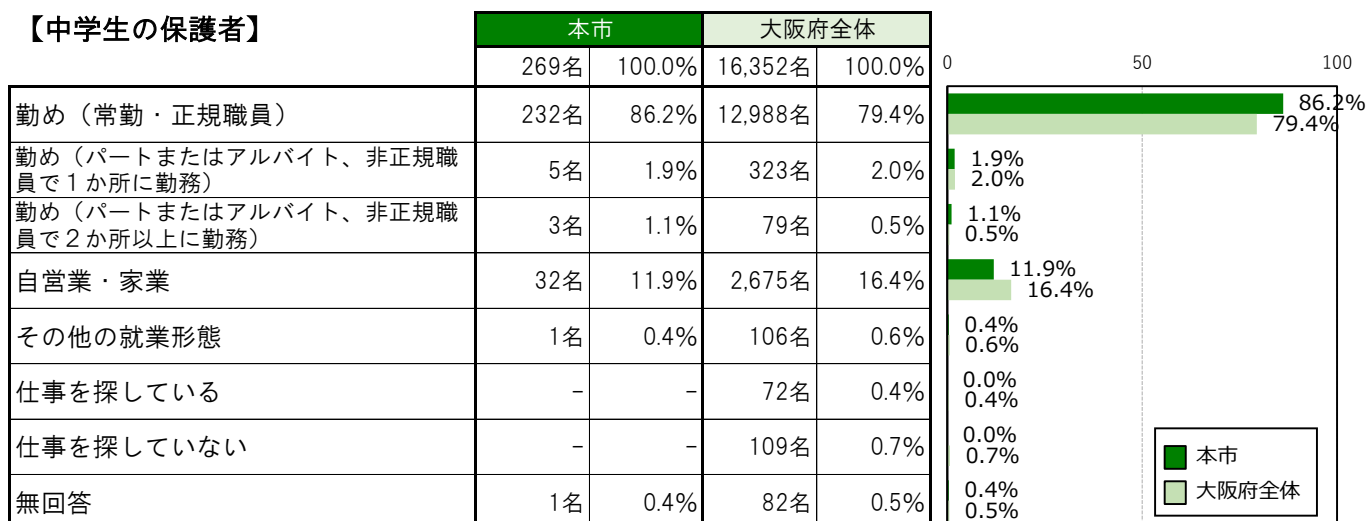
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



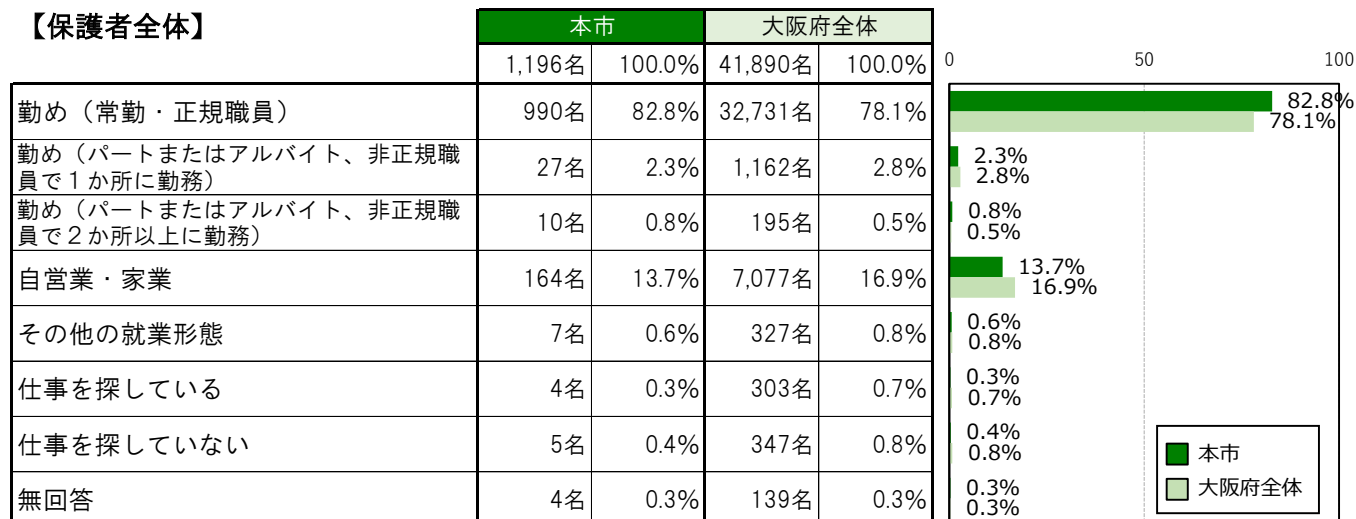
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は1.4ポイント高くなっている。

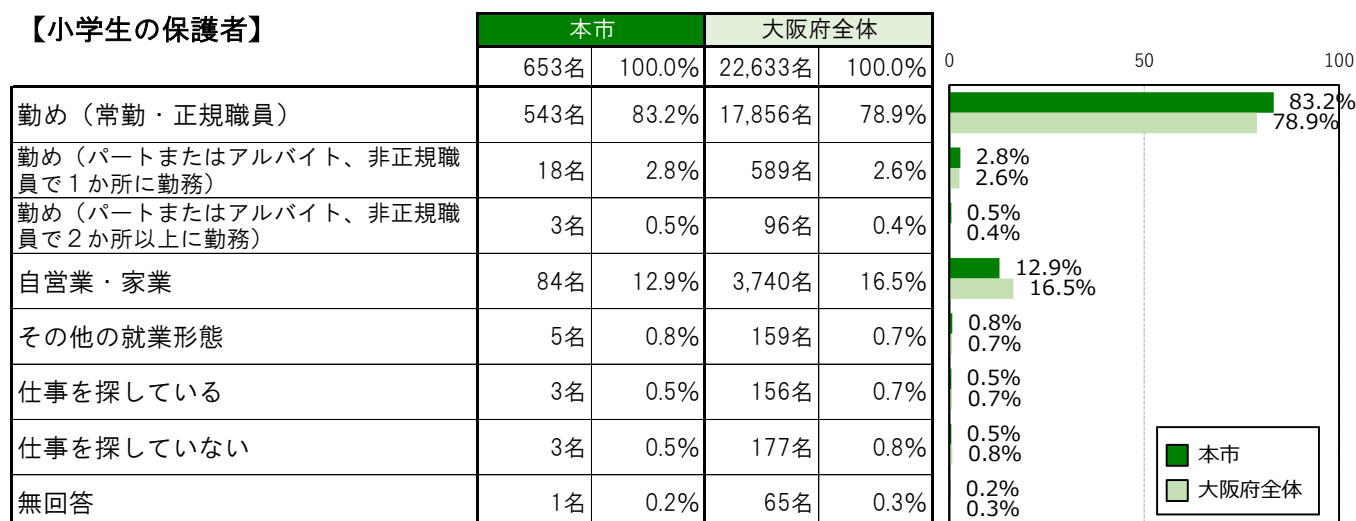
小学生の保護者は、「自営業・家業」は2.2ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は3.9ポイント高くなっている。

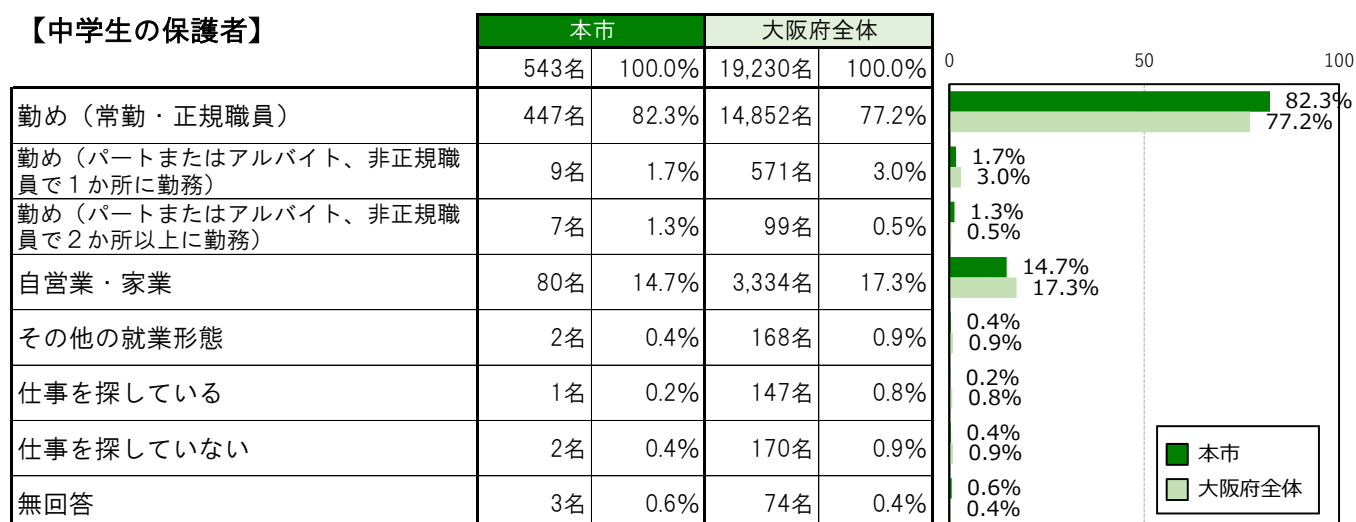
【保護者全体】



【小学生の保護者】



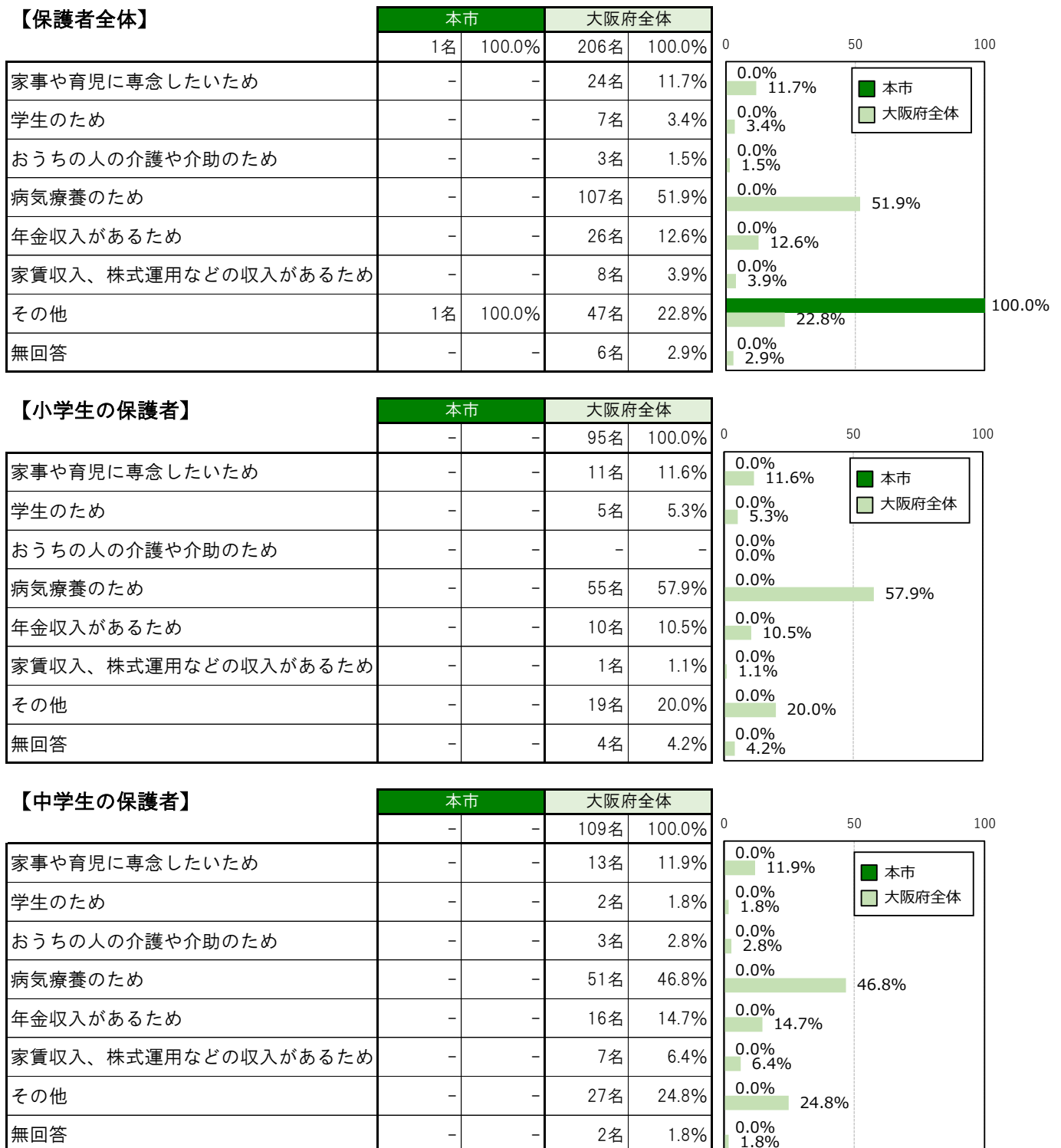
【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体は、「その他」が100.0%（1名）となっている。



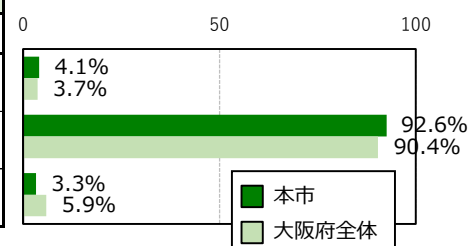
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が4.1%、「いない」が92.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が3.7%、「いない」が93.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が4.8%、「いない」が91.3%となっている。

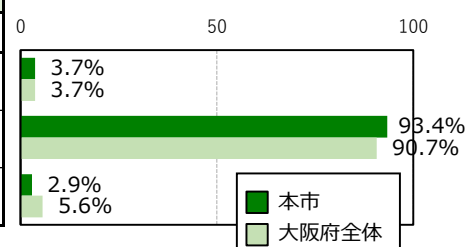
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	33名	4.1%	1,611名	3.7%
いない	737名	92.6%	39,140名	90.4%
無回答	26名	3.3%	2,549名	5.9%



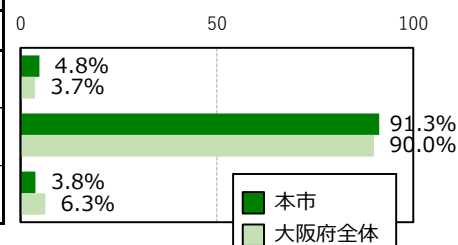
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	18名	3.7%	854名	3.7%
いない	450名	93.4%	20,666名	90.7%
無回答	14名	2.9%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	15名	4.8%	718名	3.7%
いない	285名	91.3%	17,432名	90.0%
無回答	12名	3.8%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

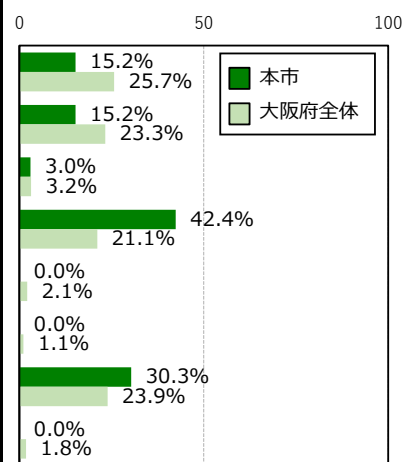
保護者全体は、「自営業・家業」が42.4%で最も多く、次いで「仕事を探していない」が30.3%、「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」がそれぞれ15.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」が3.0%となっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」が38.9%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「自営業・家業」がそれぞれ22.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」が5.6%となっている。

中学生の保護者は、「自営業・家業」が66.7%で最も多く、次いで「仕事を探していない」が20.0%、「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」がそれぞれ6.7%となっている。

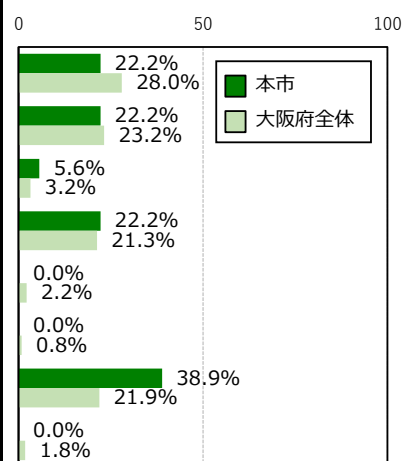
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	33名	100.0%	1,611名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	5名	15.2%	414名	25.7%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	5名	15.2%	375名	23.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	3.0%	51名	3.2%
自営業・家業	14名	42.4%	340名	21.1%
その他の就業形態	-	-	34名	2.1%
仕事を探している	-	-	18名	1.1%
仕事を探していない	10名	30.3%	385名	23.9%
無回答	-	-	29名	1.8%



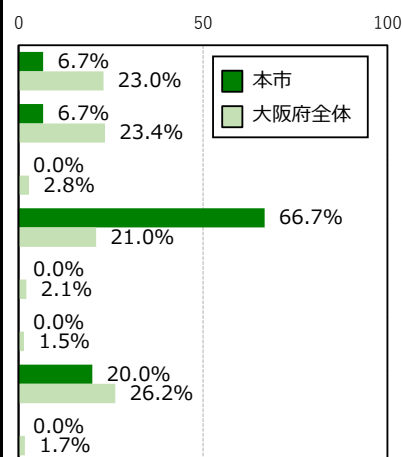
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	18名	100.0%	854名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	4名	22.2%	239名	28.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	4名	22.2%	198名	23.2%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	5.6%	27名	3.2%
自営業・家業	4名	22.2%	182名	21.3%
その他の就業形態	-	-	19名	2.2%
仕事を探している	-	-	7名	0.8%
仕事を探していない	7名	38.9%	187名	21.9%
無回答	-	-	15名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	15名	100.0%	718名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	1名	6.7%	165名	23.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	1名	6.7%	168名	23.4%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	20名	2.8%
自営業・家業	10名	66.7%	151名	21.0%
その他の就業形態	-	-	15名	2.1%
仕事を探している	-	-	11名	1.5%
仕事を探していない	3名	20.0%	188名	26.2%
無回答	-	-	12名	1.7%

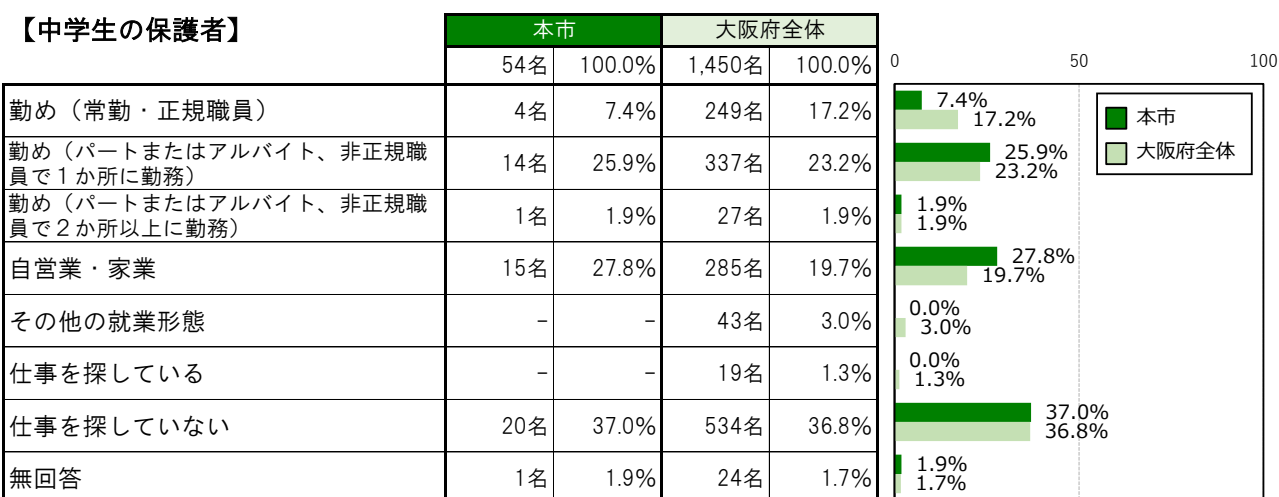
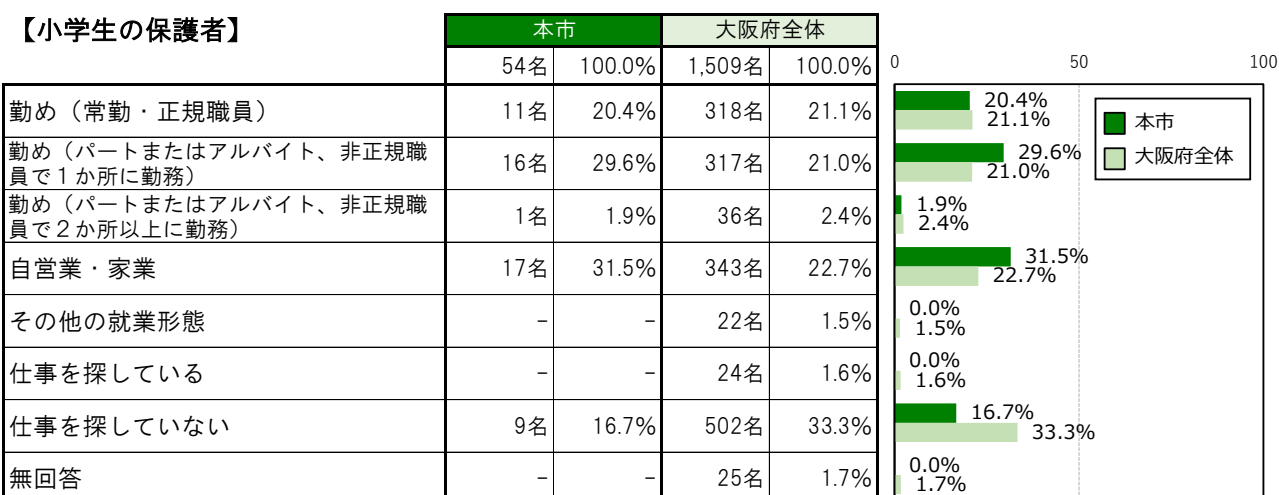
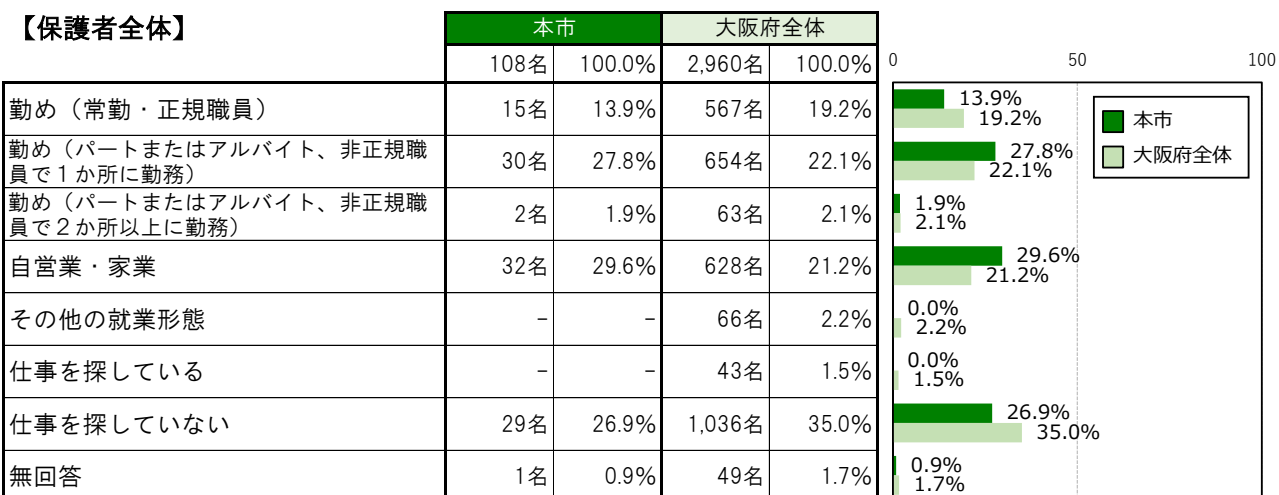


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「自営業・家業」は12.8ポイント高く、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が12.6ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」が22.2ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「自営業・家業」は38.9ポイント高くなっている。



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が80.0%（8名）で最も多く、次いで「病気療養のため」、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」がそれぞれ10.0%（1名）となっている。

小学生の保護者は、「年金収入があるため」が85.7%（6名）で最も多く、次いで「病気療養のため」が14.3%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が66.7%（2名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が33.3%（1名）となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

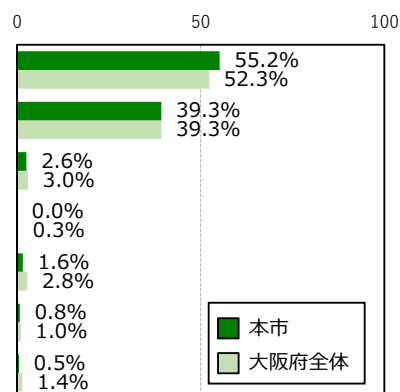
保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が55.2%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が39.3%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.6%、「帰宅時間が決まっていない」が1.6%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が56.2%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が39.0%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.7%、「帰宅時間が決まっていない」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が53.2%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が40.1%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.6%、「帰宅時間が決まっていない」が2.2%となっている。

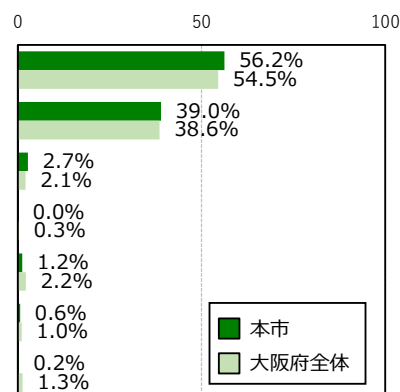
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	439名	55.2%	22,638名	52.3%
お子さんの夕食時間には家にいる	313名	39.3%	17,029名	39.3%
お子さんの寝る時間には家にいる	21名	2.6%	1,283名	3.0%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	129名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	13名	1.6%	1,212名	2.8%
その他	6名	0.8%	416名	1.0%
無回答	4名	0.5%	593名	1.4%



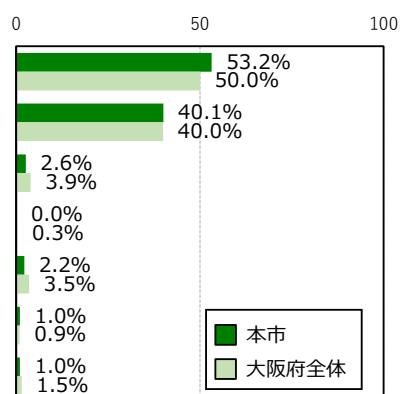
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	271名	56.2%	12,408名	54.5%
お子さんの夕食時間には家にいる	188名	39.0%	8,796名	38.6%
お子さんの寝る時間には家にいる	13名	2.7%	489名	2.1%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	66名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	6名	1.2%	505名	2.2%
その他	3名	0.6%	222名	1.0%
無回答	1名	0.2%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	166名	53.2%	9,674名	50.0%
お子さんの夕食時間には家にいる	125名	40.1%	7,739名	40.0%
お子さんの寝る時間には家にいる	8名	2.6%	747名	3.9%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	61名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	7名	2.2%	676名	3.5%
その他	3名	1.0%	182名	0.9%
無回答	3名	1.0%	286名	1.5%



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

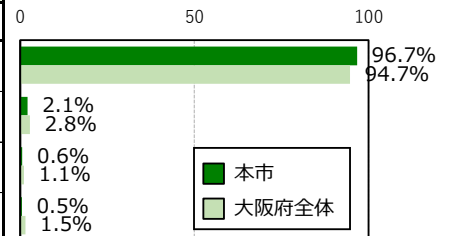
保護者全体は、「日本語のみを使用している」が96.7%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.1%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.6%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が96.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.9%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が97.8%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.0%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.3%となっている。

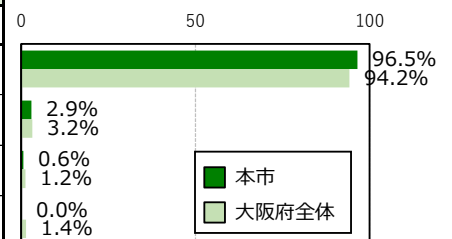
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
日本語のみを使用している	770名	96.7%	40,991名	94.7%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	17名	2.1%	1,201名	2.8%
日本語以外の言語を使うことが多い	5名	0.6%	476名	1.1%
無回答	4名	0.5%	632名	1.5%



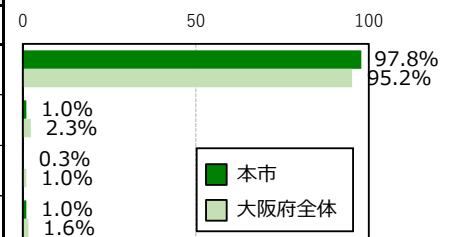
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
日本語のみを使用している	465名	96.5%	21,457名	94.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	14名	2.9%	729名	3.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	3名	0.6%	280名	1.2%
無回答	-	-	320名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
日本語のみを使用している	305名	97.8%	18,426名	95.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	3名	1.0%	446名	2.3%
日本語以外の言語を使うことが多い	1名	0.3%	188名	1.0%
無回答	3名	1.0%	305名	1.6%



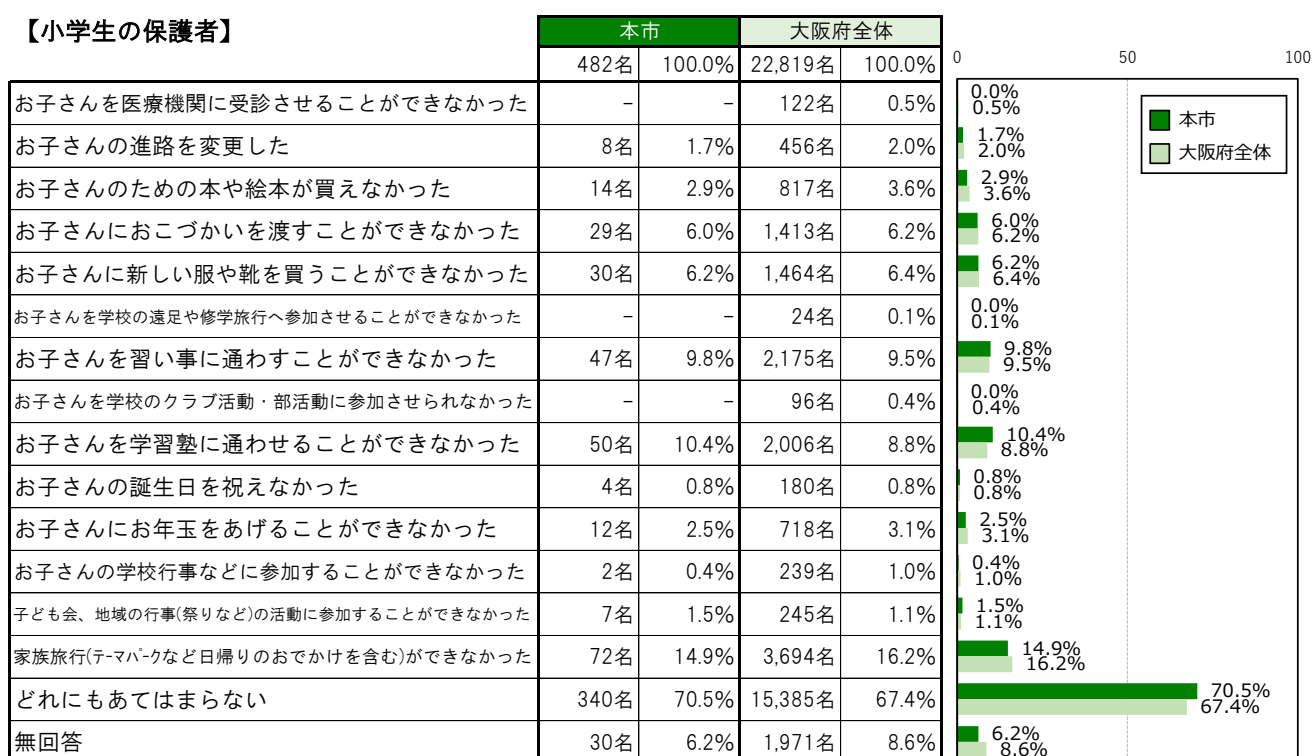
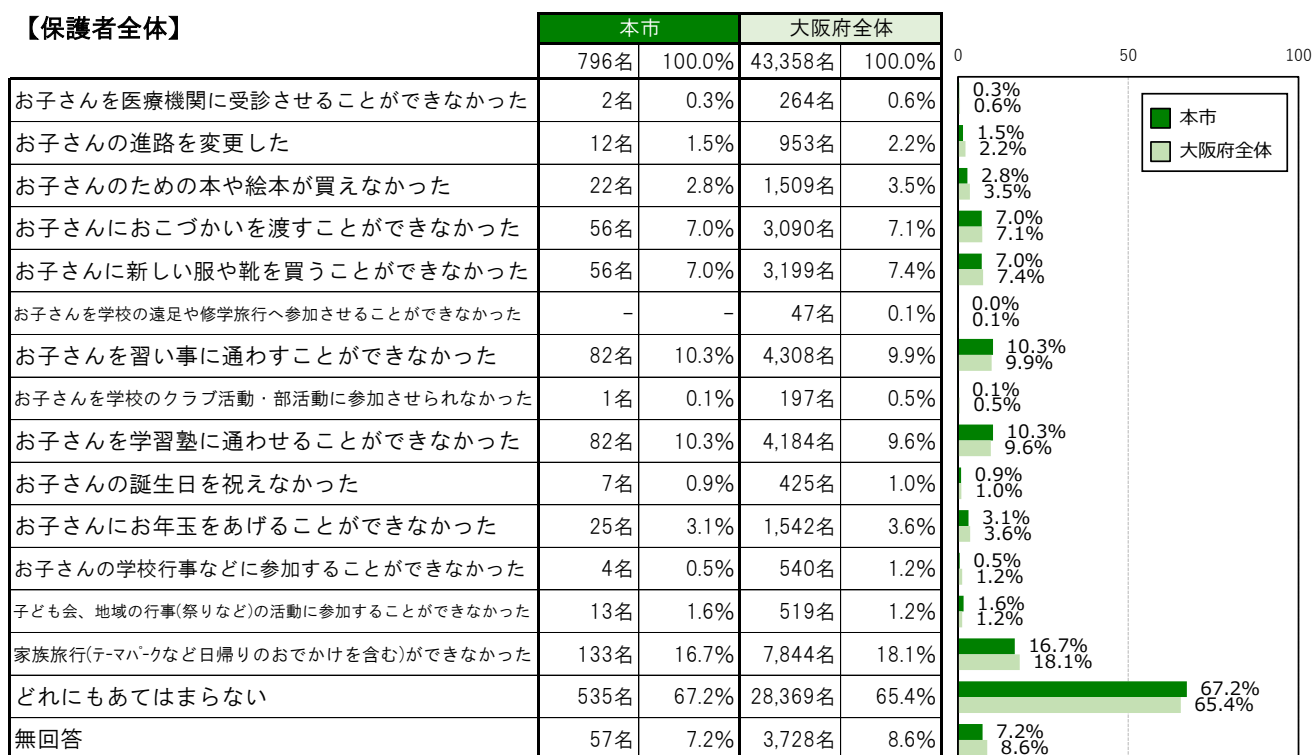
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

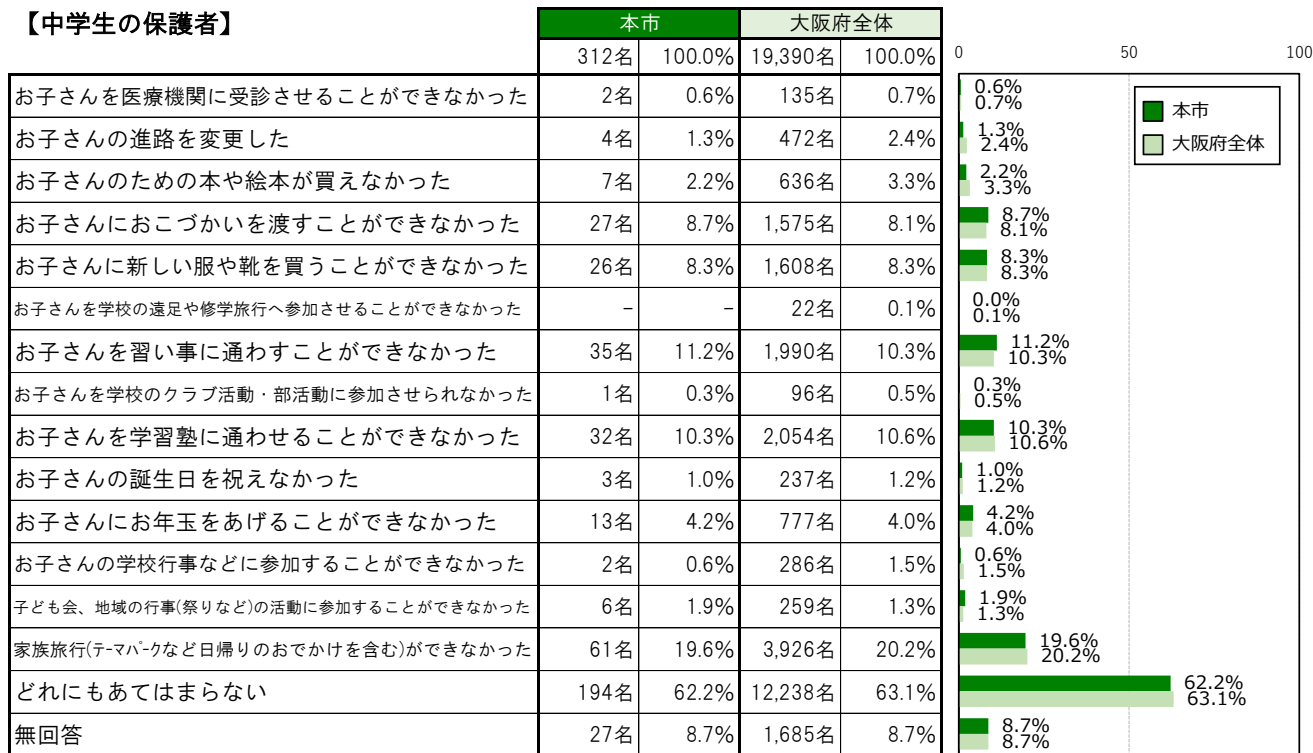
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が67.2%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が16.7%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」がそれぞれ10.3%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が70.5%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が14.9%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が10.4%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が9.8%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が62.2%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が19.6%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が11.2%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が10.3%となっている。



【中学生の保護者】

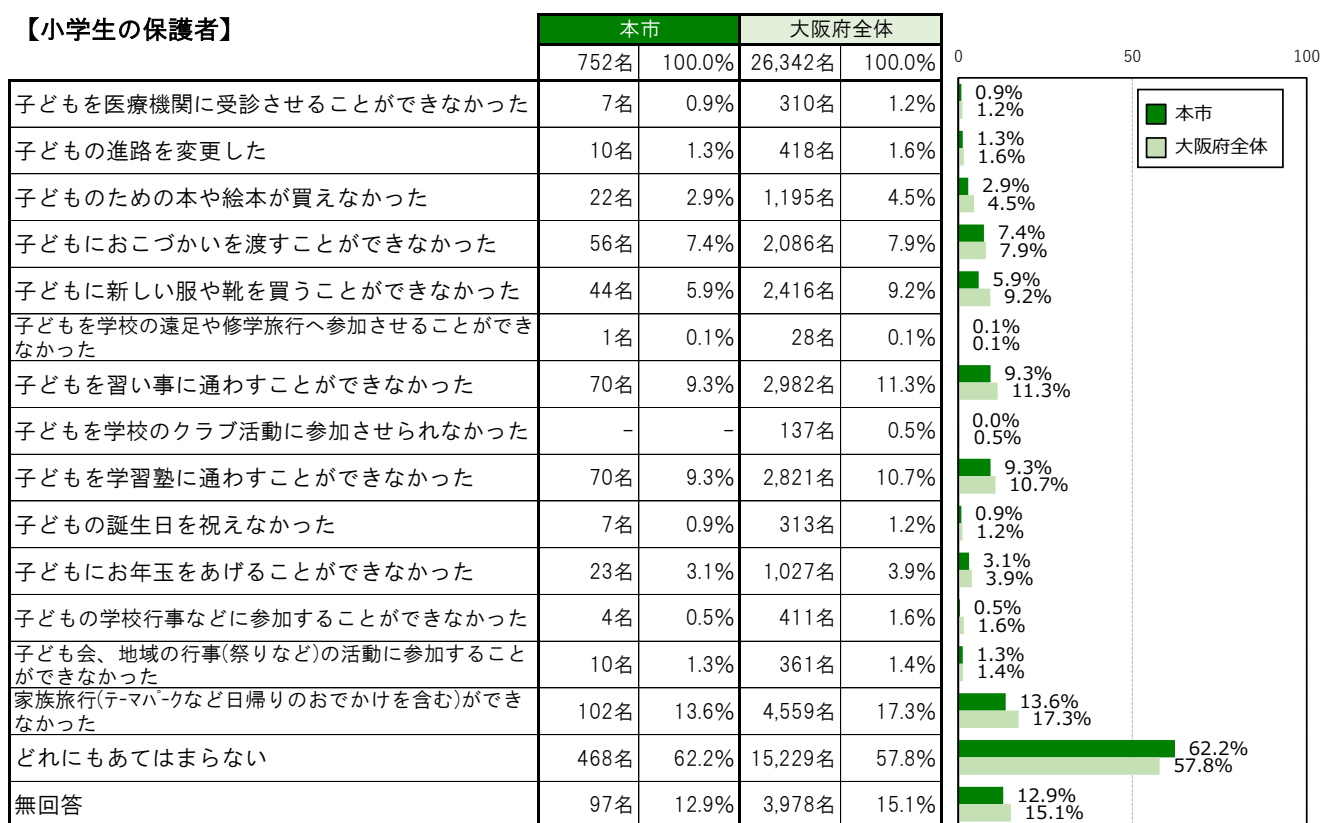
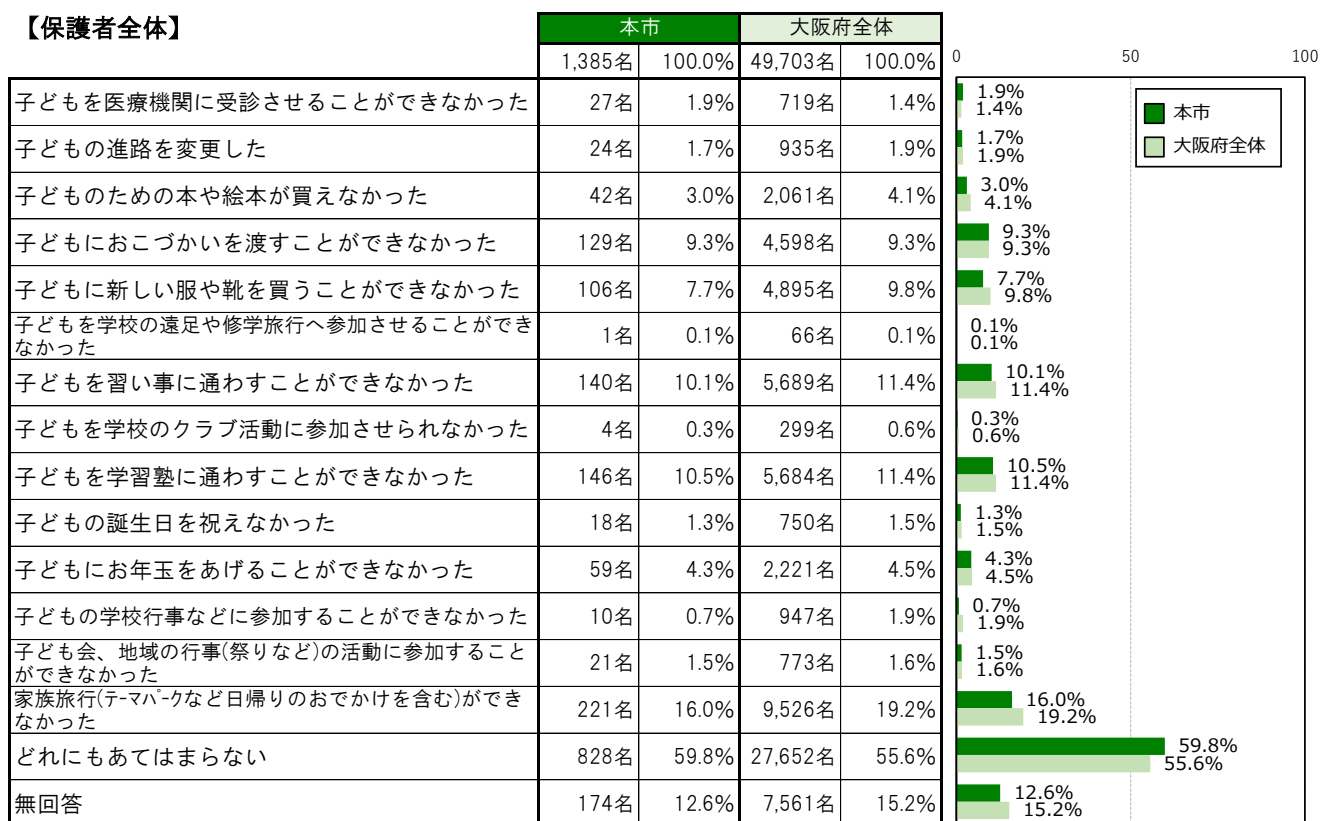


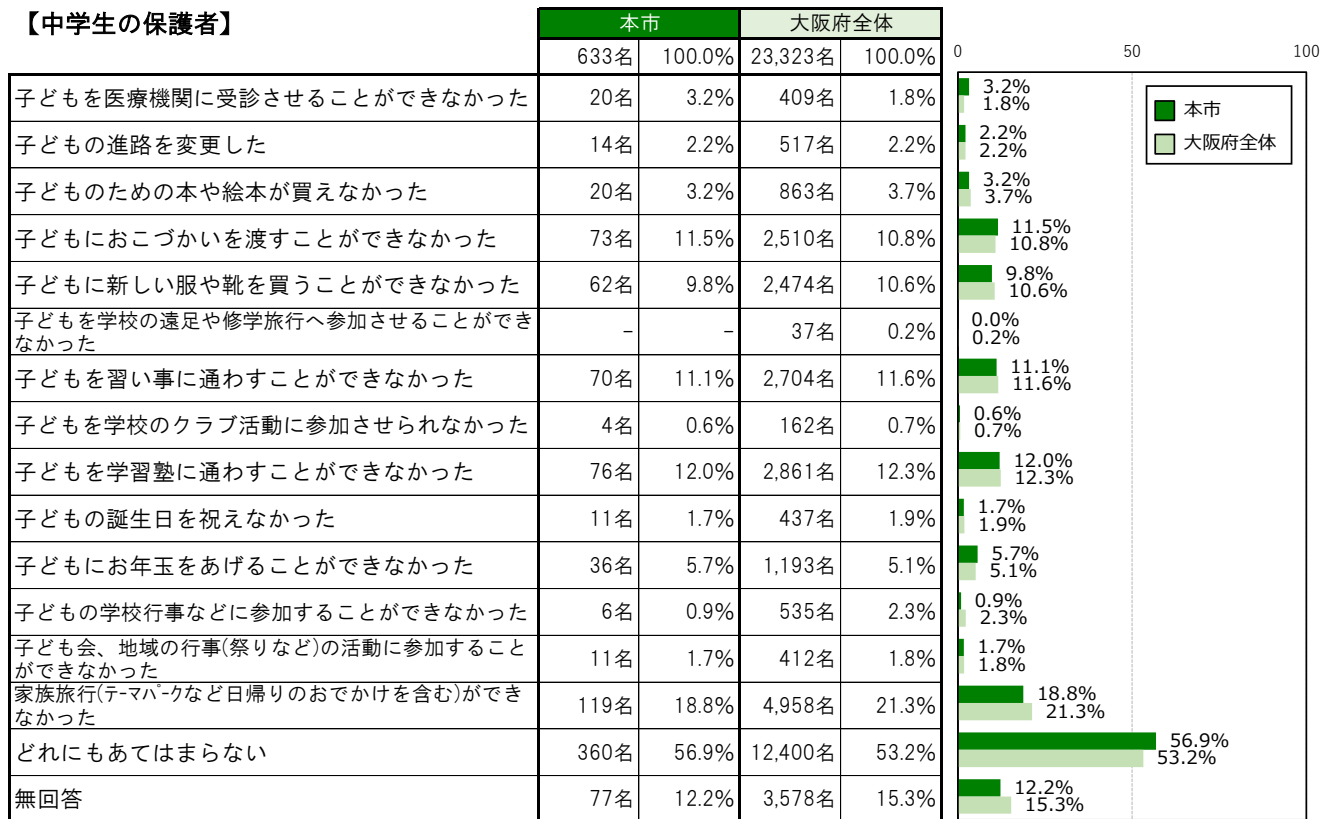
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が7.4ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が8.3ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が5.3ポイント高いが、「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」が2.8ポイント低くなっている。





子どもに関することについて

問13（１）子どもへの信頼度

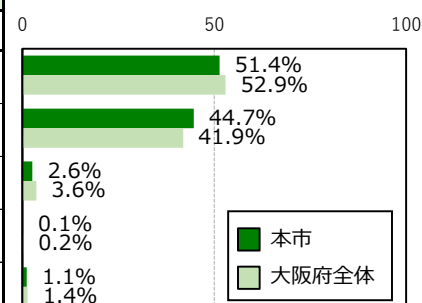
保護者全体は、「とても信頼している」が51.4%で最も多く、次いで「信頼している」が44.7%、「あまり信頼していない」が2.6%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が51.2%で最も多く、次いで「信頼している」が45.2%、「あまり信頼していない」が2.5%となっている。

中学生の保護者は、「とても信頼している」が51.3%で最も多く、次いで「信頼している」が44.2%、「あまり信頼していない」が2.9%となっている。

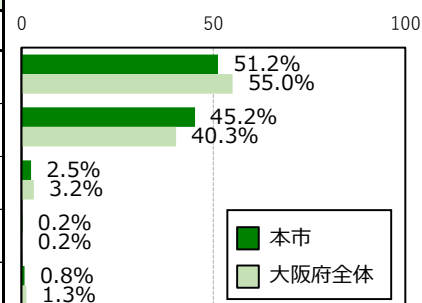
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,358名	100.0%
とても信頼している	409名	51.4%	22,948名	52.9%
信頼している	356名	44.7%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	21名	2.6%	1,566名	3.6%
信頼していない	1名	0.1%	101名	0.2%
無回答	9名	1.1%	592名	1.4%



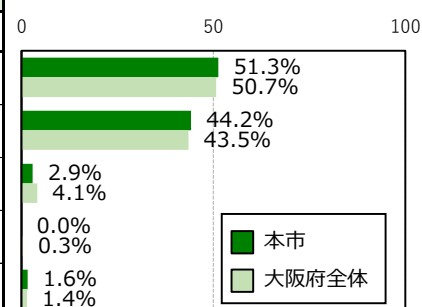
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,819名	100.0%
とても信頼している	247名	51.2%	12,553名	55.0%
信頼している	218名	45.2%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	12名	2.5%	720名	3.2%
信頼していない	1名	0.2%	48名	0.2%
無回答	4名	0.8%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,390名	100.0%
とても信頼している	160名	51.3%	9,835名	50.7%
信頼している	138名	44.2%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	9名	2.9%	796名	4.1%
信頼していない	-	-	50名	0.3%
無回答	5名	1.6%	280名	1.4%



子どもに関することについて

問13（２）子どもとの会話頻度

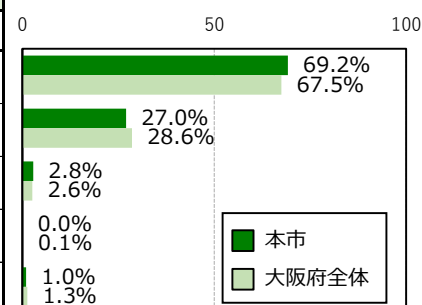
保護者全体は、「よくする」が69.2%で最も多く、次いで「する」が27.0%、「あまりしない」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が71.8%で最も多く、次いで「する」が25.7%、「あまりしない」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が65.1%で最も多く、次いで「する」が29.2%、「あまりしない」が4.2%となっている。

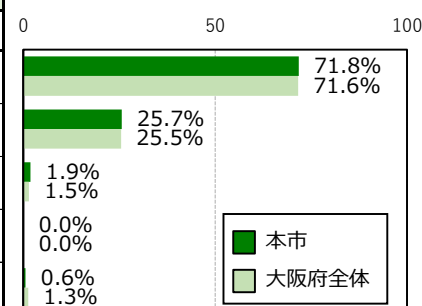
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	551名	69.2%	29,262名	67.5%
する	215名	27.0%	12,391名	28.6%
あまりしない	22名	2.8%	1,110名	2.6%
しない	-	-	30名	0.1%
無回答	8名	1.0%	565名	1.3%



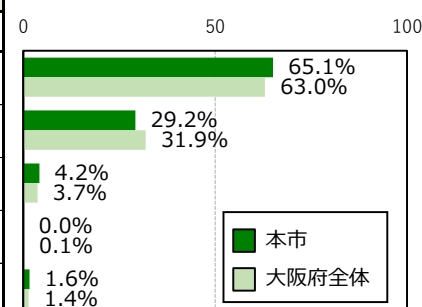
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	346名	71.8%	16,345名	71.6%
する	124名	25.7%	5,827名	25.5%
あまりしない	9名	1.9%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	3名	0.6%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	203名	65.1%	12,214名	63.0%
する	91名	29.2%	6,176名	31.9%
あまりしない	13名	4.2%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	5名	1.6%	262名	1.4%



子どもに関することについて

問13（３）平日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「１時間～２時間未満」が27.9%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が19.3%、「２時間～３時間未満」が17.5%、「４時間以上」が10.8%となっている。

小学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が27.6%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」、「２時間～３時間未満」がそれぞれ18.7%、「３時間～４時間未満」が12.0%となっている。

中学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が28.5%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が20.5%、「２時間～３時間未満」が15.7%、「15分～30分未満」が11.5%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（３）休日での子どもとの関わり時間

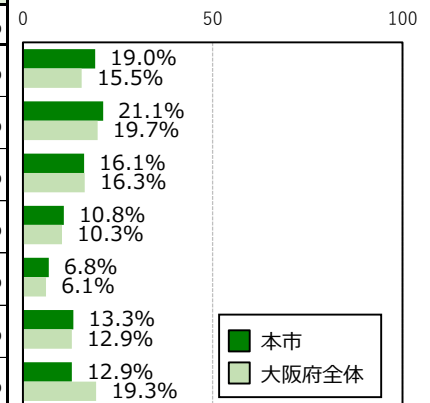
保護者全体は、「２時間～４時間未満」が21.1%で最も多く、次いで「２時間未満」が19.0%、「４時間～６時間未満」が16.1%、「10時間以上」が13.3%となっている。

小学生の保護者は、「４時間～６時間未満」が18.7%で最も多く、次いで「２時間～４時間未満」が17.8%、「10時間以上」が16.8%、「２時間未満」が14.1%となっている。

中学生の保護者は、「２時間未満」が26.6%で最も多く、次いで「２時間～４時間未満」が26.3%、「４時間～６時間未満」が12.2%、「６時間～８時間未満」が9.0%となっている。

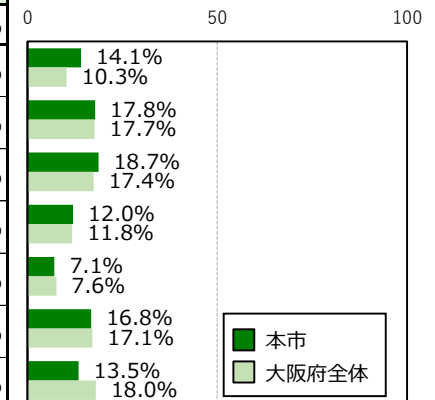
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,358名	100.0%
２時間未満	151名	19.0%	6,723名	15.5%
２時間～４時間未満	168名	21.1%	8,521名	19.7%
４時間～６時間未満	128名	16.1%	7,050名	16.3%
６時間～８時間未満	86名	10.8%	4,454名	10.3%
８時間～10時間未満	54名	6.8%	2,659名	6.1%
10時間以上	106名	13.3%	5,577名	12.9%
無回答	103名	12.9%	8,374名	19.3%



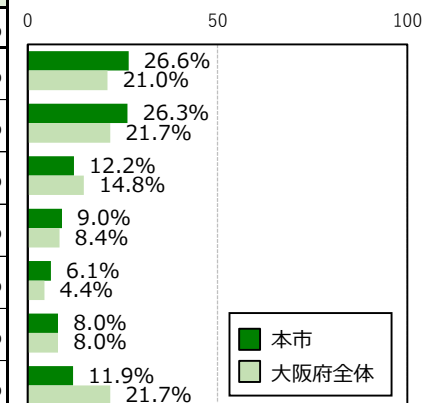
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,819名	100.0%
２時間未満	68名	14.1%	2,357名	10.3%
２時間～４時間未満	86名	17.8%	4,031名	17.7%
４時間～６時間未満	90名	18.7%	3,977名	17.4%
６時間～８時間未満	58名	12.0%	2,700名	11.8%
８時間～10時間未満	34名	7.1%	1,740名	7.6%
10時間以上	81名	16.8%	3,896名	17.1%
無回答	65名	13.5%	4,118名	18.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,390名	100.0%
２時間未満	83名	26.6%	4,070名	21.0%
２時間～４時間未満	82名	26.3%	4,216名	21.7%
４時間～６時間未満	38名	12.2%	2,876名	14.8%
６時間～８時間未満	28名	9.0%	1,632名	8.4%
８時間～10時間未満	19名	6.1%	845名	4.4%
10時間以上	25名	8.0%	1,542名	8.0%
無回答	37名	11.9%	4,209名	21.7%



子どもに関することについて

問13（４）子どもの将来への期待度

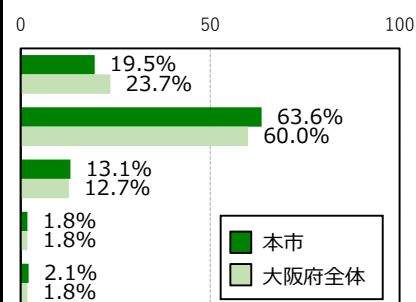
保護者全体は、「期待している」が63.6%で最も多く、次いで「とても期待している」が19.5%、「あまり期待していない」が13.1%、「期待していない」が1.8%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が64.1%で最も多く、次いで「とても期待している」が19.3%、「あまり期待していない」が13.1%、「期待していない」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が62.8%で最も多く、次いで「とても期待している」が19.6%、「あまり期待していない」が13.1%、「期待していない」が2.2%となっている。

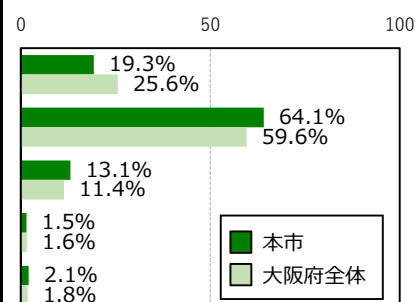
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	155名	19.5%	10,264名	23.7%
期待している	506名	63.6%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	104名	13.1%	5,485名	12.7%
期待していない	14名	1.8%	779名	1.8%
無回答	17名	2.1%	795名	1.8%



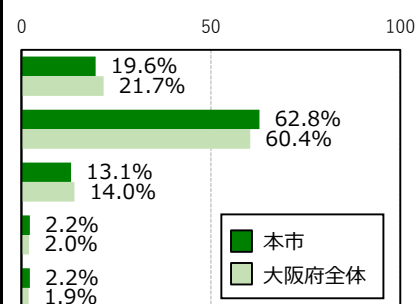
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	93名	19.3%	5,831名	25.6%
期待している	309名	64.1%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	63名	13.1%	2,603名	11.4%
期待していない	7名	1.5%	363名	1.6%
無回答	10名	2.1%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	61名	19.6%	4,207名	21.7%
期待している	196名	62.8%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	41名	13.1%	2,717名	14.0%
期待していない	7名	2.2%	388名	2.0%
無回答	7名	2.2%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

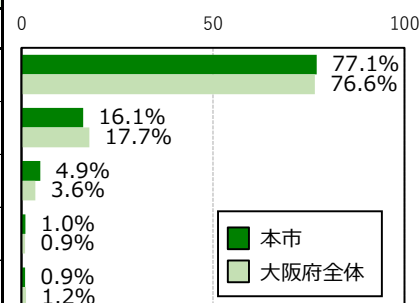
保護者全体は、「よく参加している」が77.1%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が16.1%、「あまり参加していない」が4.9%、「まったく参加していない」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が91.1%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が7.1%、「あまり参加していない」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が55.8%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が29.8%、「あまり参加していない」が10.6%、「まったく参加していない」が2.6%となっている。

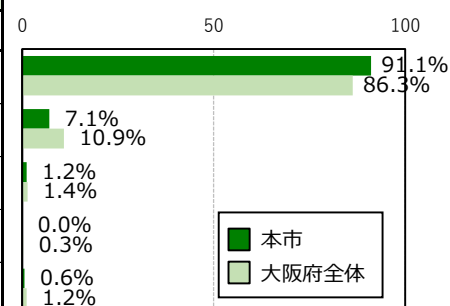
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	614名	77.1%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	128名	16.1%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	39名	4.9%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	8名	1.0%	376名	0.9%
無回答	7名	0.9%	526名	1.2%



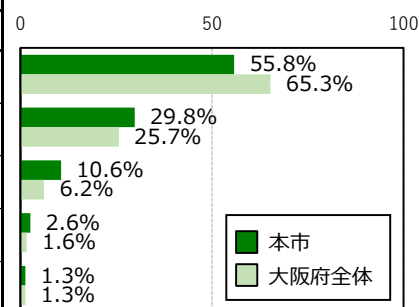
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	439名	91.1%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	34名	7.1%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	6名	1.2%	309名	1.4%
まったく参加していない	-	-	58名	0.3%
無回答	3名	0.6%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	174名	55.8%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	93名	29.8%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	33名	10.6%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	8名	2.6%	304名	1.6%
無回答	4名	1.3%	244名	1.3%



子どもに関することについて

問14 子どもに希望する進学

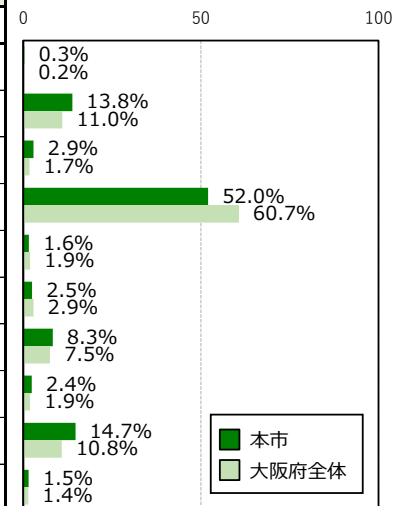
保護者全体は、「大学」が52.0%で最も多く、次いで「高校」が13.8%、「専門学校・高等専門学校」が8.3%、「短期大学」が2.9%となっている。

小学生の保護者は、「大学」が51.7%で最も多く、次いで「高校」が12.2%、「専門学校・高等専門学校」が8.7%、「考えたことがない」が2.9%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が52.9%で最も多く、次いで「高校」が16.3%、「専門学校・高等専門学校」が7.7%、「短期大学」が3.8%となっている。

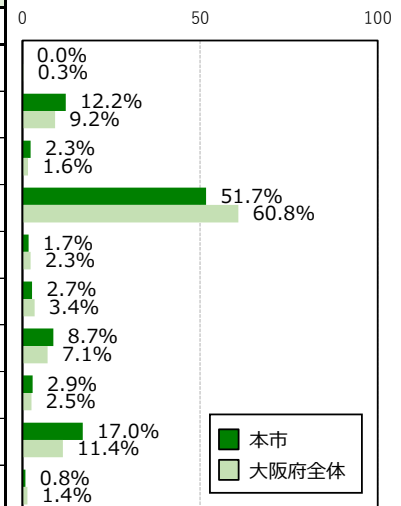
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,358名	100.0%
中学校	2名	0.3%	106名	0.2%
高校	110名	13.8%	4,765名	11.0%
短期大学	23名	2.9%	716名	1.7%
大学	414名	52.0%	26,334名	60.7%
大学院	13名	1.6%	827名	1.9%
留学	20名	2.5%	1,261名	2.9%
専門学校・高等専門学校	66名	8.3%	3,262名	7.5%
考えたことがない	19名	2.4%	818名	1.9%
わからない	117名	14.7%	4,674名	10.8%
無回答	12名	1.5%	595名	1.4%



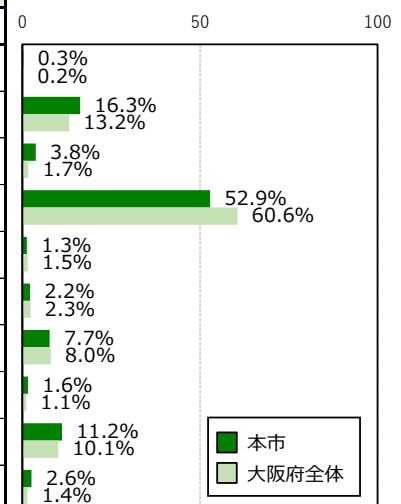
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,819名	100.0%
中学校	-	-	72名	0.3%
高校	59名	12.2%	2,090名	9.2%
短期大学	11名	2.3%	366名	1.6%
大学	249名	51.7%	13,868名	60.8%
大学院	8名	1.7%	519名	2.3%
留学	13名	2.7%	786名	3.4%
専門学校・高等専門学校	42名	8.7%	1,631名	7.1%
考えたことがない	14名	2.9%	579名	2.5%
わからない	82名	17.0%	2,592名	11.4%
無回答	4名	0.8%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,390名	100.0%
中学校	1名	0.3%	31名	0.2%
高校	51名	16.3%	2,557名	13.2%
短期大学	12名	3.8%	322名	1.7%
大学	165名	52.9%	11,753名	60.6%
大学院	4名	1.3%	285名	1.5%
留学	7名	2.2%	451名	2.3%
専門学校・高等専門学校	24名	7.7%	1,548名	8.0%
考えたことがない	5名	1.6%	219名	1.1%
わからない	35名	11.2%	1,951名	10.1%
無回答	8名	2.6%	273名	1.4%



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

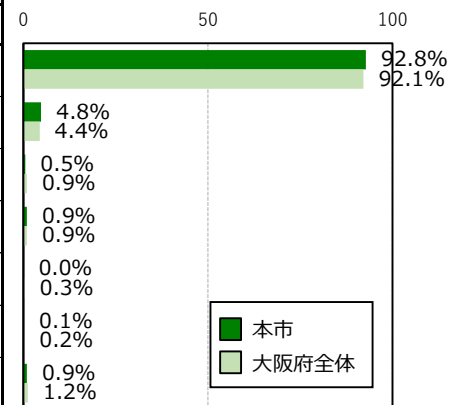
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が92.8%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.8%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が0.9%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が94.6%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.5%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が90.4%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が6.4%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.3%となっている。

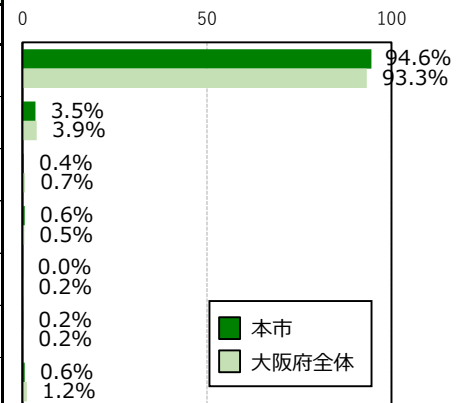
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,358名	100.0%
ほぼ毎日通っている	739名	92.8%	39,916名	92.1%
欠席は年間30日未満である	38名	4.8%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	4名	0.5%	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	7名	0.9%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	-	-	127名	0.3%
わからない	1名	0.1%	108名	0.2%
無回答	7名	0.9%	522名	1.2%



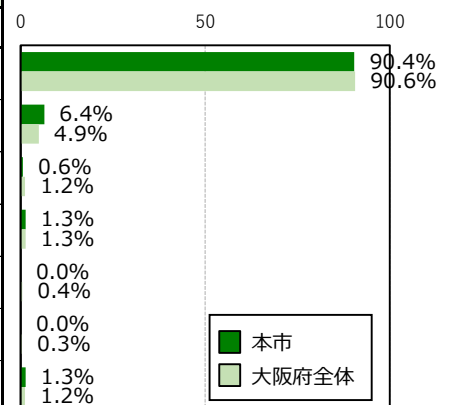
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,819名	100.0%
ほぼ毎日通っている	456名	94.6%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	17名	3.5%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	2名	0.4%	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	3名	0.6%	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	-	-	36名	0.2%
わからない	1名	0.2%	44名	0.2%
無回答	3名	0.6%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

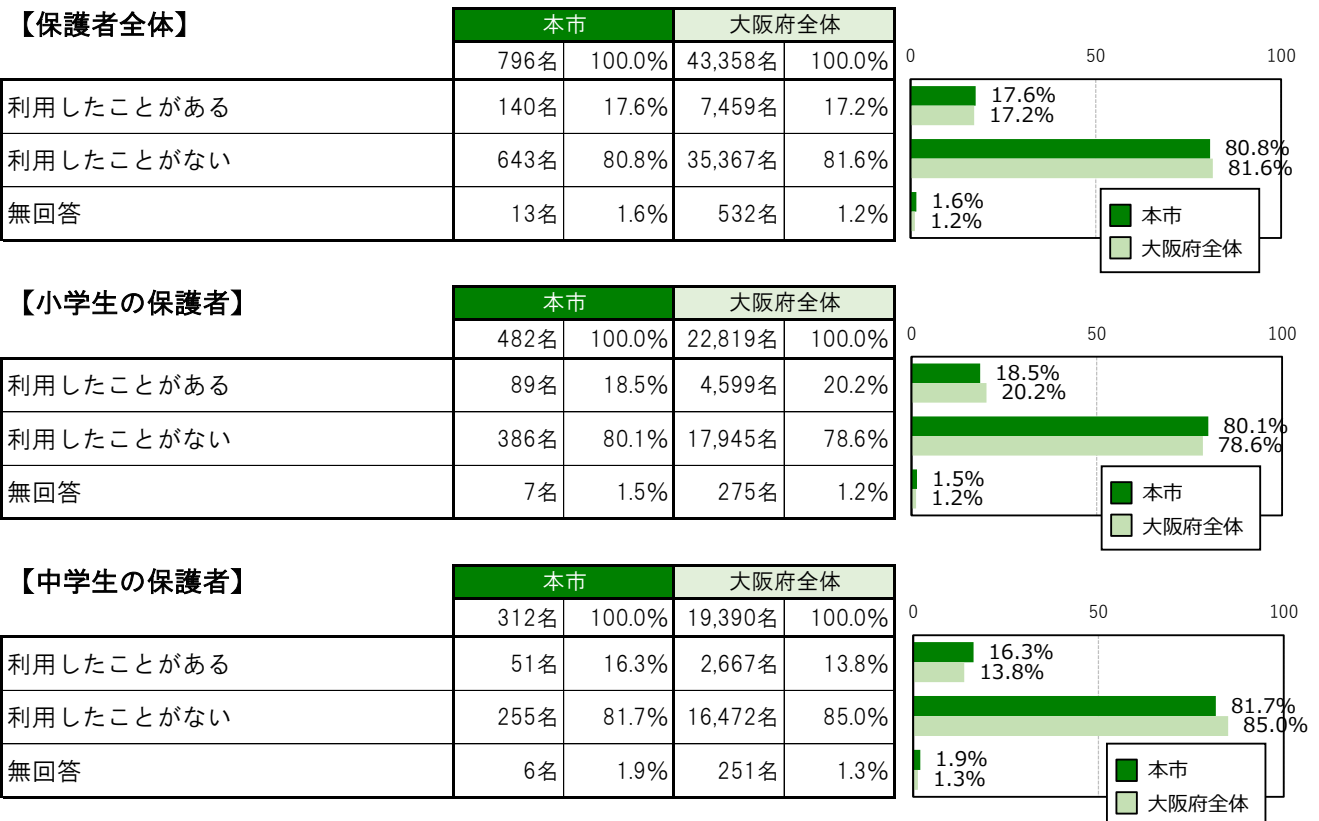
	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,390名	100.0%
ほぼ毎日通っている	282名	90.4%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	20名	6.4%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	2名	0.6%	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	4名	1.3%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	-	-	86名	0.4%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	4名	1.3%	240名	1.2%



子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が17.6%、「利用したことがない」が80.8%となっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがある」が18.5%、「利用したことがない」が80.1%となっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがある」が16.3%、「利用したことがない」が81.7%となっている。



子どもに関することについて

問16（2）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

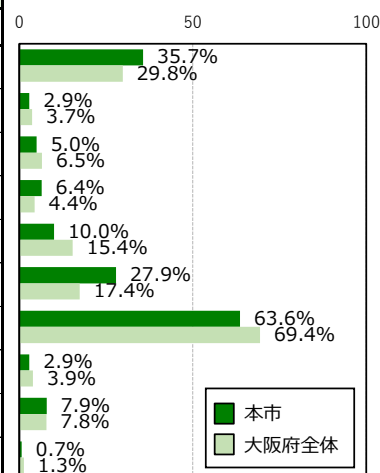
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が63.6%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が35.7%、「宿題など勉強を見てくれるから」が27.9%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が10.0%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が73.0%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が36.0%、「宿題など勉強を見てくれるから」が27.0%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が9.0%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が47.1%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が35.3%、「宿題など勉強を見てくれるから」が29.4%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が11.8%となっている。

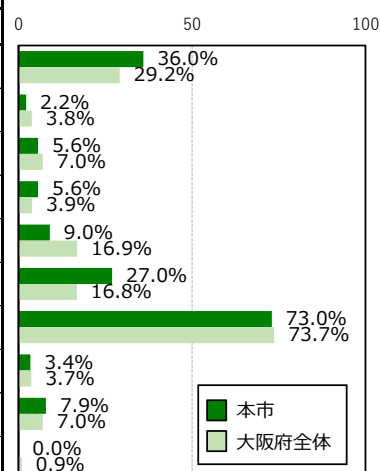
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	140名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	50名	35.7%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	4名	2.9%	275名	3.7%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	7名	5.0%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	9名	6.4%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	14名	10.0%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	39名	27.9%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	89名	63.6%	5,178名	69.4%
特になし	4名	2.9%	291名	3.9%
その他	11名	7.9%	579名	7.8%
無回答	1名	0.7%	95名	1.3%



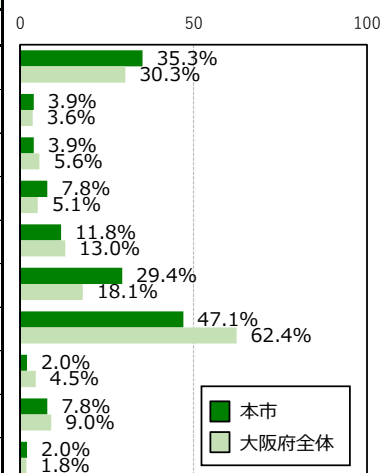
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	89名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	32名	36.0%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	2.2%	173名	3.8%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	5名	5.6%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	5名	5.6%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	8名	9.0%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	24名	27.0%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	65名	73.0%	3,388名	73.7%
特になし	3名	3.4%	168名	3.7%
その他	7名	7.9%	324名	7.0%
無回答	-	-	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	51名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	18名	35.3%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	3.9%	97名	3.6%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	2名	3.9%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	4名	7.8%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	6名	11.8%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	15名	29.4%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	24名	47.1%	1,664名	62.4%
特になし	1名	2.0%	120名	4.5%
その他	4名	7.8%	241名	9.0%
無回答	1名	2.0%	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

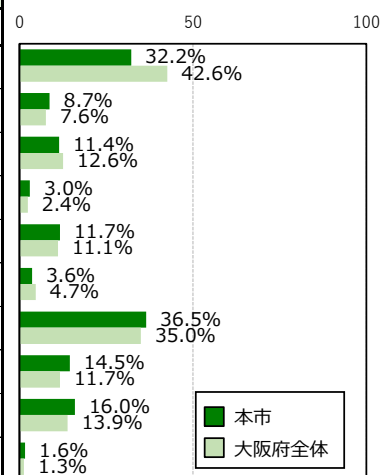
保護者全体は、「利用したいと思わないから」が36.5%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が32.2%、「何をしているかわからないから」が14.5%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が11.7%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が34.5%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が32.9%、「何をしているかわからないから」が15.3%、「家で過ごしてほしいと思うから」が11.9%となっている。

中学生の保護者は、「利用したいと思わないから」が42.4%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が29.0%、「何をしているかわからないから」が13.3%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が12.5%となっている。

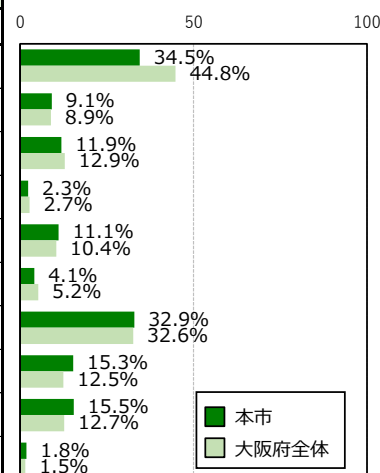
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	643名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	207名	32.2%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	56名	8.7%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	73名	11.4%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	19名	3.0%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	75名	11.7%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	23名	3.6%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	235名	36.5%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	93名	14.5%	4,149名	11.7%
その他	103名	16.0%	4,908名	13.9%
無回答	10名	1.6%	473名	1.3%



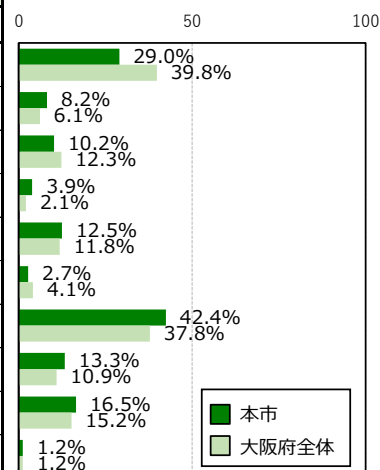
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	386名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	133名	34.5%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	35名	9.1%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	46名	11.9%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	9名	2.3%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	43名	11.1%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	16名	4.1%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	127名	32.9%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	59名	15.3%	2,243名	12.5%
その他	60名	15.5%	2,278名	12.7%
無回答	7名	1.8%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	255名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	74名	29.0%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	21名	8.2%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	26名	10.2%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	10名	3.9%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	32名	12.5%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	7名	2.7%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	108名	42.4%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	34名	13.3%	1,797名	10.9%
その他	42名	16.5%	2,509名	15.2%
無回答	3名	1.2%	195名	1.2%



保護者のことについて

問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が34.9%で最も多く、次いで「31～34歳」が20.7%、「24～26歳」が16.1%、「20～23歳」が11.6%となっている。

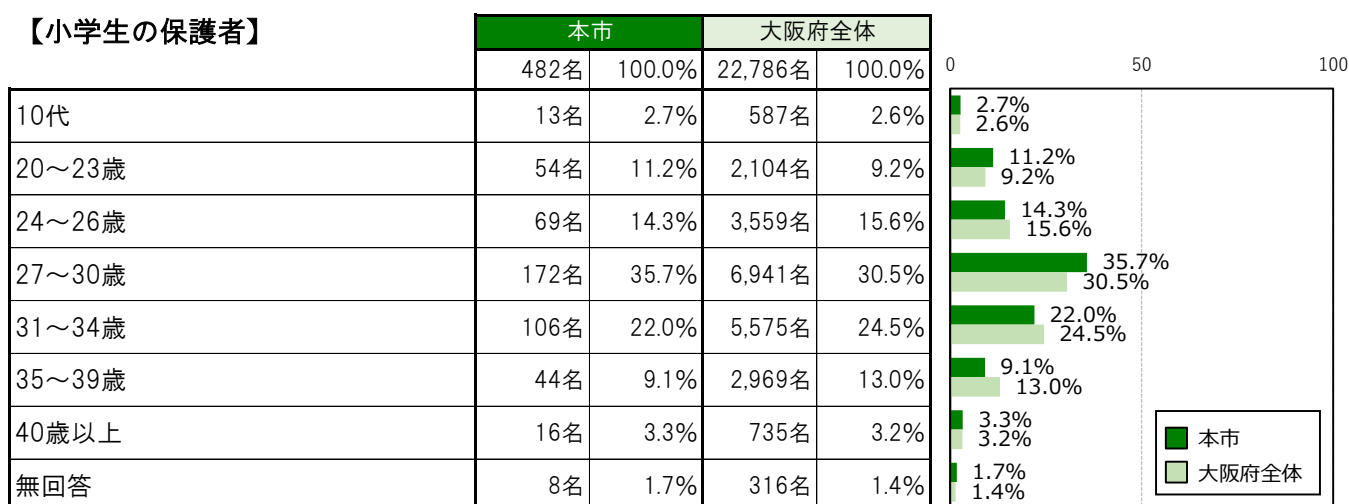
小学生の保護者は、「27～30歳」が35.7%で最も多く、次いで「31～34歳」が22.0%、「24～26歳」が14.3%、「20～23歳」が11.2%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が34.0%で最も多く、次いで「31～34歳」が18.9%、「24～26歳」が18.6%、「20～23歳」が11.9%となっている。

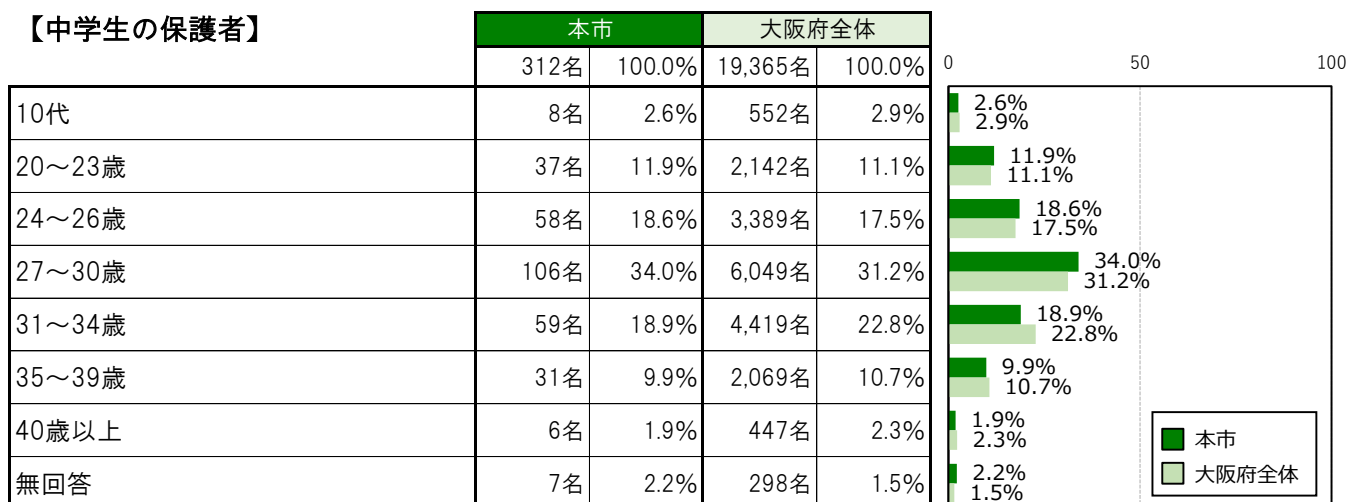
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

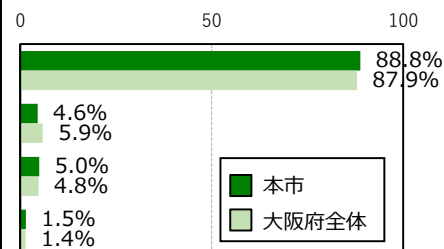
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が88.8%、「いない」が4.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が91.7%、「いない」が3.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が84.9%、「いない」が6.1%となっている。

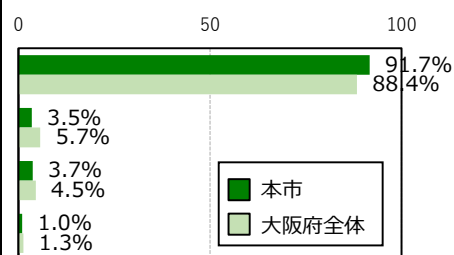
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	707名	88.8%	38,049名	87.9%
いない	37名	4.6%	2,548名	5.9%
わからない	40名	5.0%	2,099名	4.8%
無回答	12名	1.5%	604名	1.4%



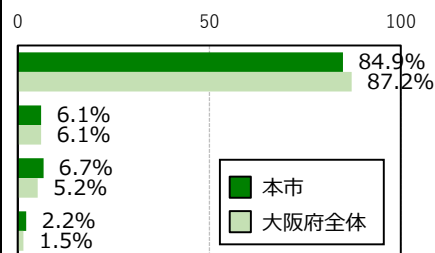
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	442名	91.7%	20,150名	88.4%
いない	17名	3.5%	1,304名	5.7%
わからない	18名	3.7%	1,026名	4.5%
無回答	5名	1.0%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	265名	84.9%	16,885名	87.2%
いない	19名	6.1%	1,173名	6.1%
わからない	21名	6.7%	1,016名	5.2%
無回答	7名	2.2%	291名	1.5%



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

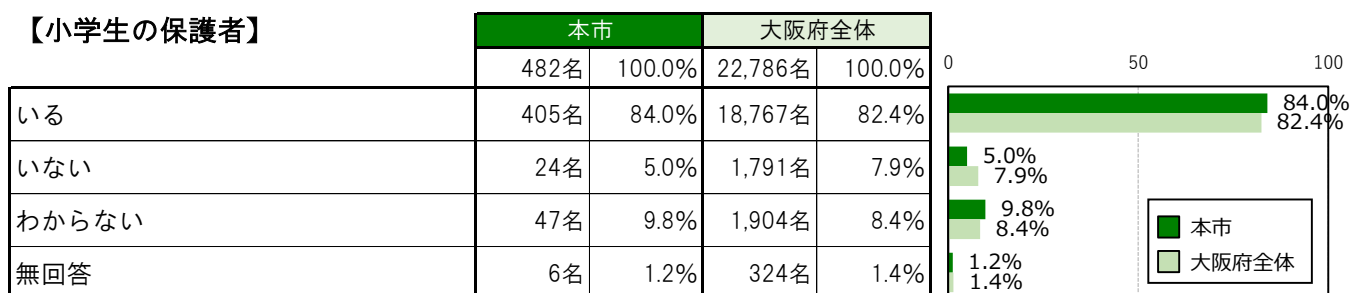
②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が82.7%、「いない」が6.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が84.0%、「いない」が5.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が80.8%、「いない」が7.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

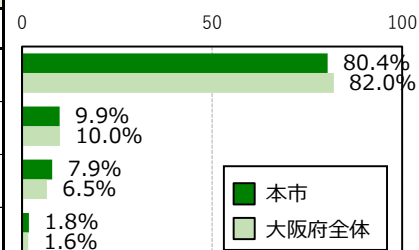
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が80.4%、「いない」が9.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が82.0%、「いない」が8.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が78.2%、「いない」が11.9%となっている。

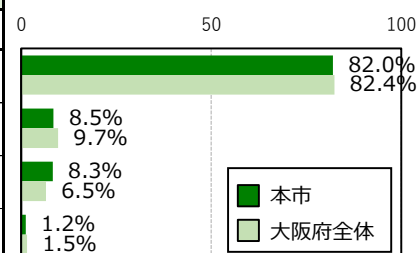
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	640名	80.4%	35,496名	82.0%
いない	79名	9.9%	4,317名	10.0%
わからない	63名	7.9%	2,806名	6.5%
無回答	14名	1.8%	681名	1.6%



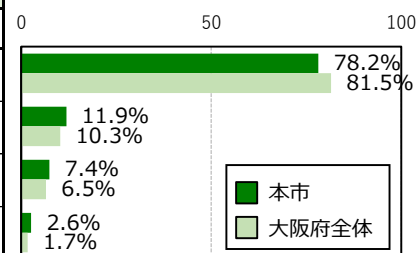
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	395名	82.0%	18,771名	82.4%
いない	41名	8.5%	2,201名	9.7%
わからない	40名	8.3%	1,474名	6.5%
無回答	6名	1.2%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	244名	78.2%	15,782名	81.5%
いない	37名	11.9%	1,990名	10.3%
わからない	23名	7.4%	1,259名	6.5%
無回答	8名	2.6%	334名	1.7%



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

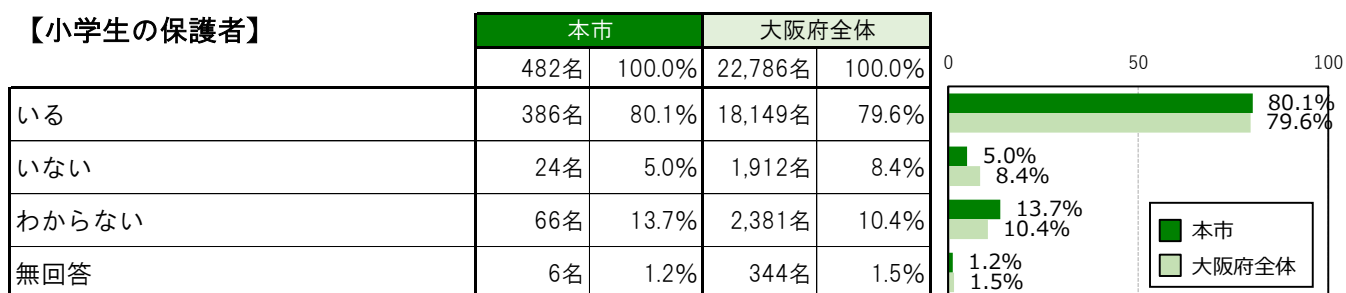
④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が79.3%、「いない」が6.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が80.1%、「いない」が5.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が78.2%、「いない」が8.3%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



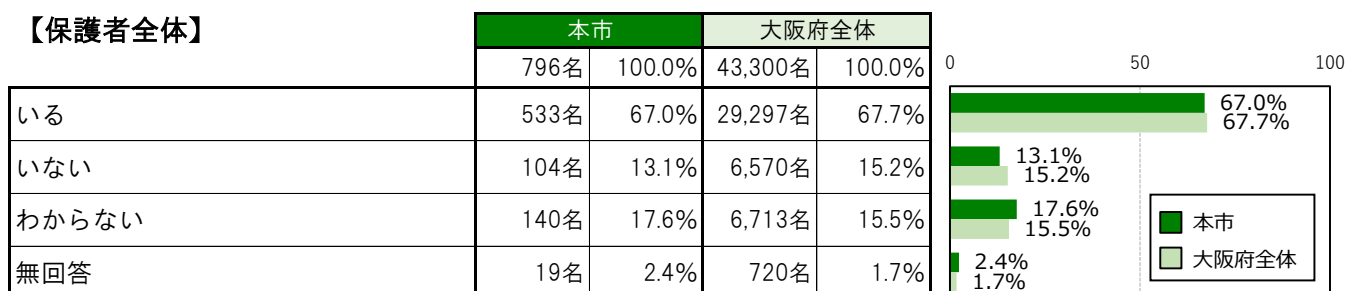
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が67.0%、「いない」が13.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が69.9%、「いない」が11.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が62.5%、「いない」が16.0%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

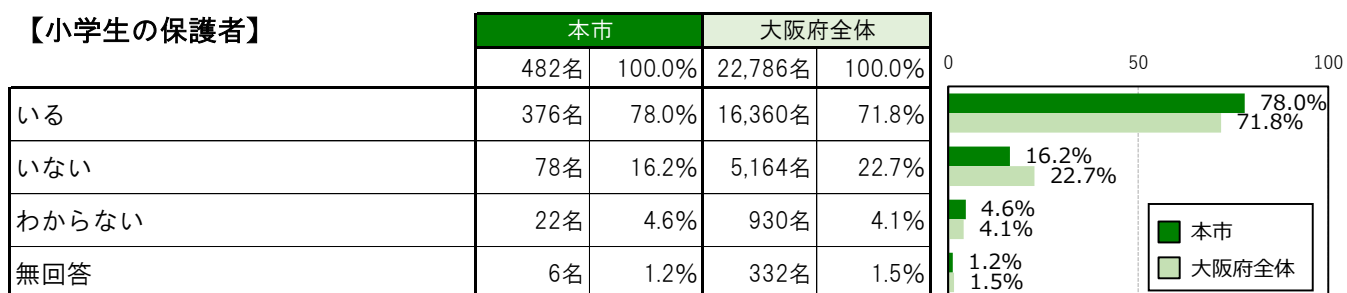
⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が76.8%、「いない」が17.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が78.0%、「いない」が16.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が75.3%、「いない」が18.6%となっている。

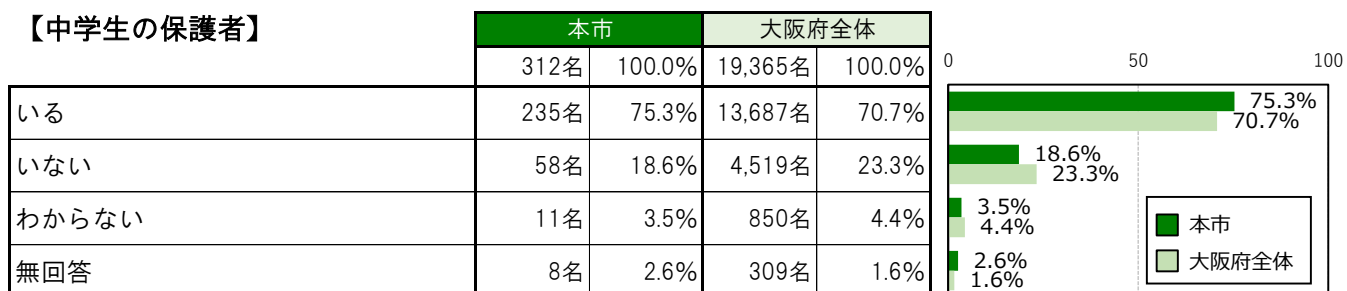
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

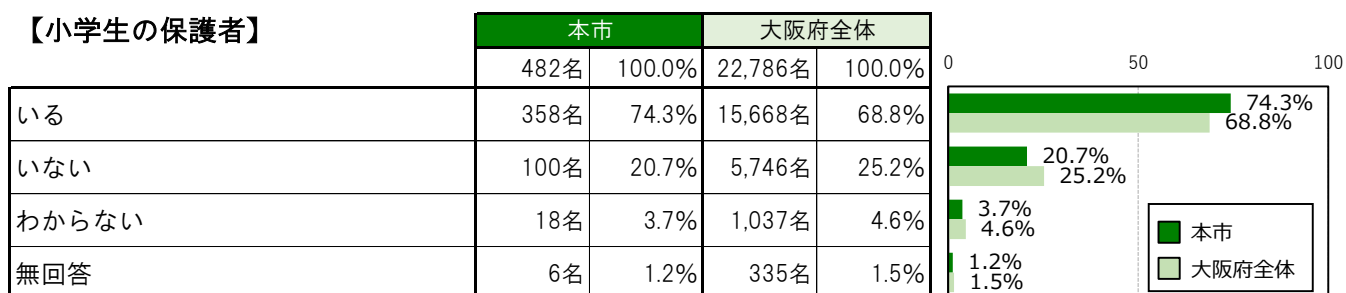
⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が72.6%、「いない」が21.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が74.3%、「いない」が20.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が70.2%、「いない」が22.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

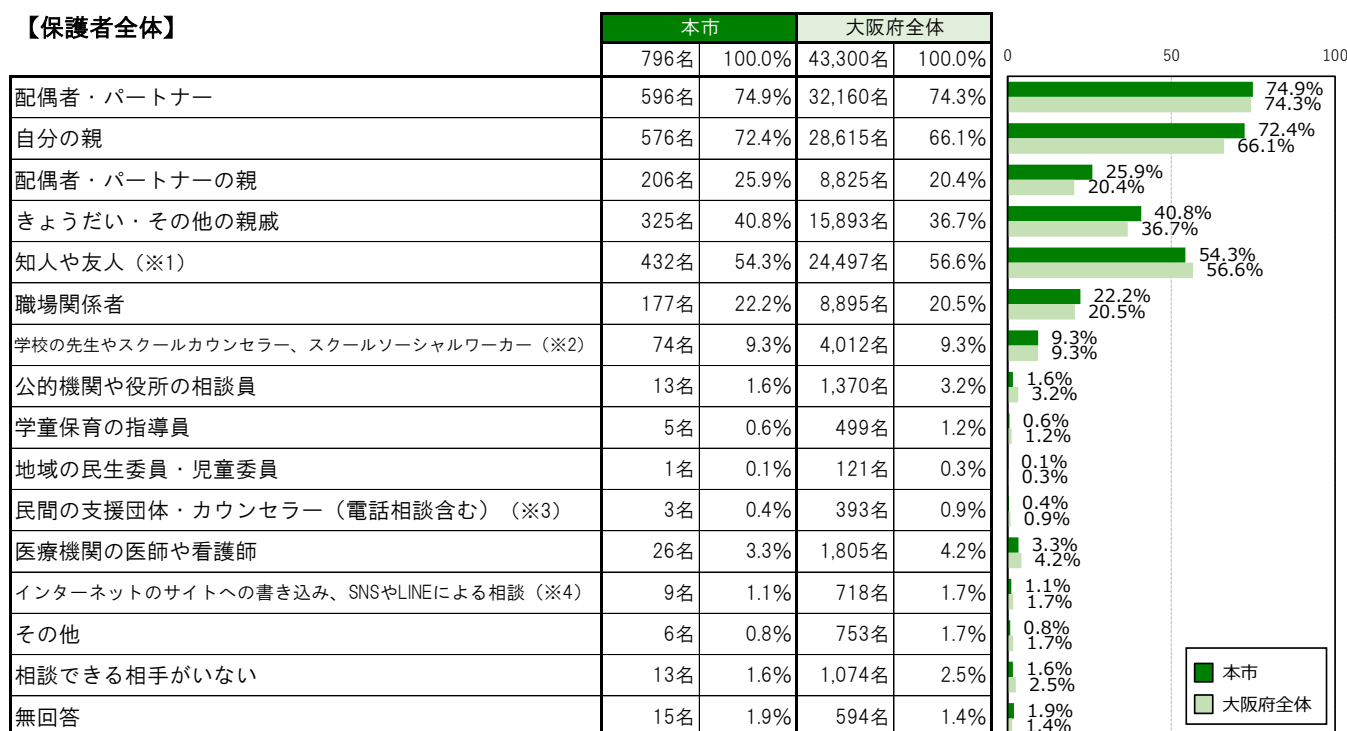
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が74.9%で最も多く、次いで「自分の親」が72.4%、「知人や友人」が54.3%、「きょうだい・その他の親戚」が40.8%となっている。

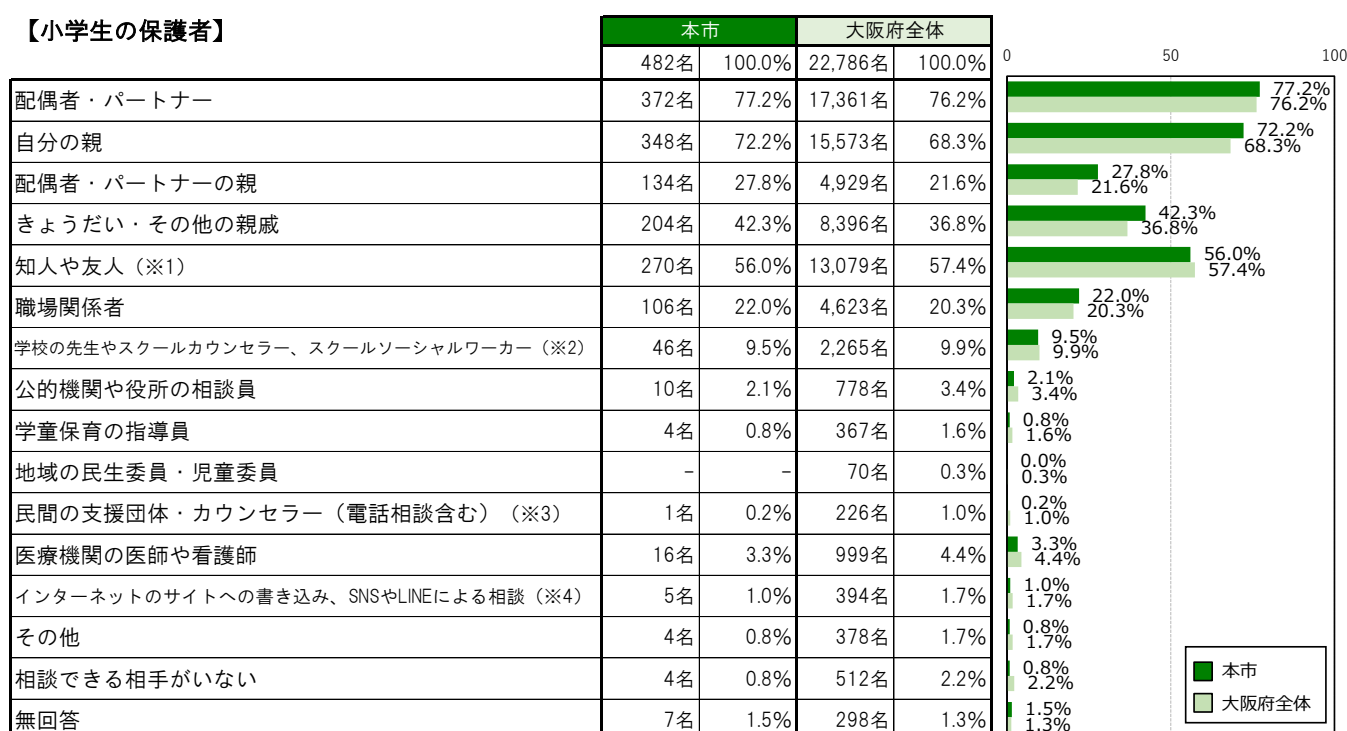
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が77.2%で最も多く、次いで「自分の親」が72.2%、「知人や友人」が56.0%、「きょうだい・その他の親戚」が42.3%となっている。

中学生の保護者は、「自分の親」が72.4%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が71.8%、「知人や友人」が51.9%、「きょうだい・その他の親戚」が38.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



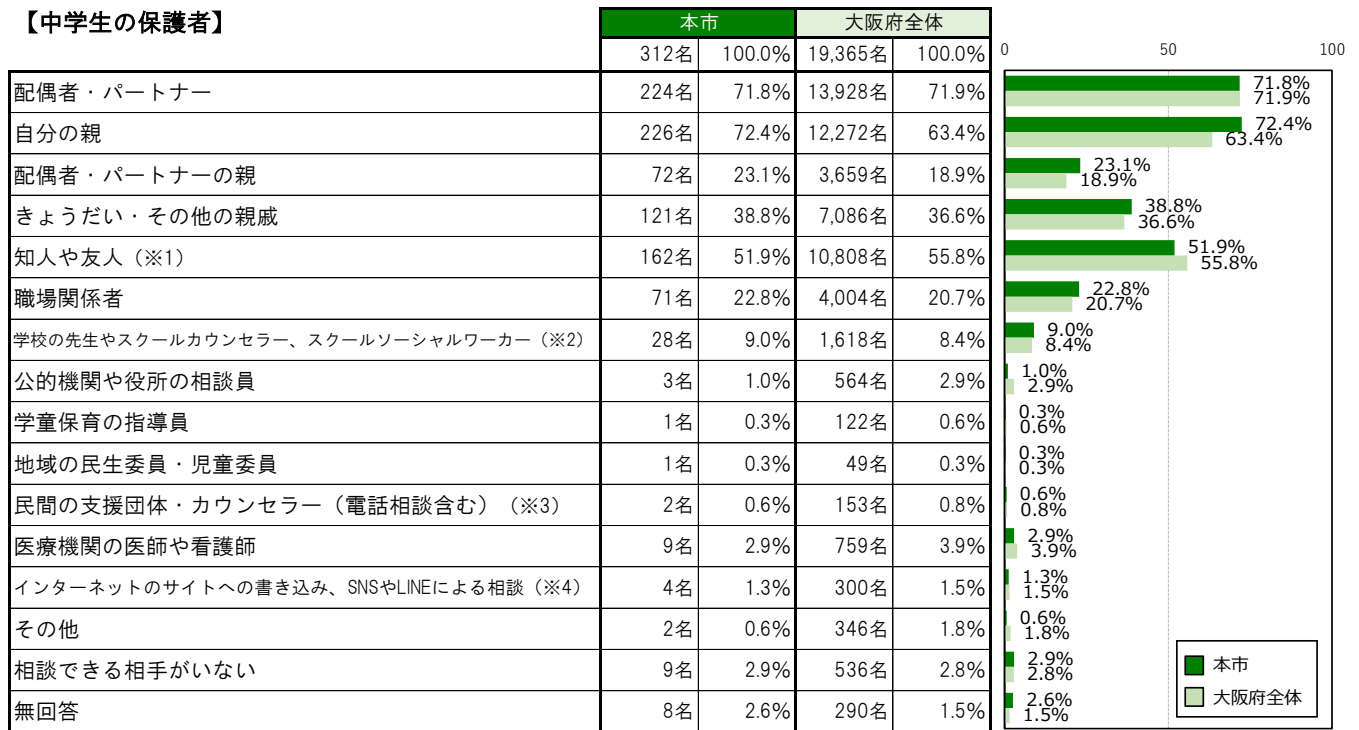
※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

【中学生の保護者】



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

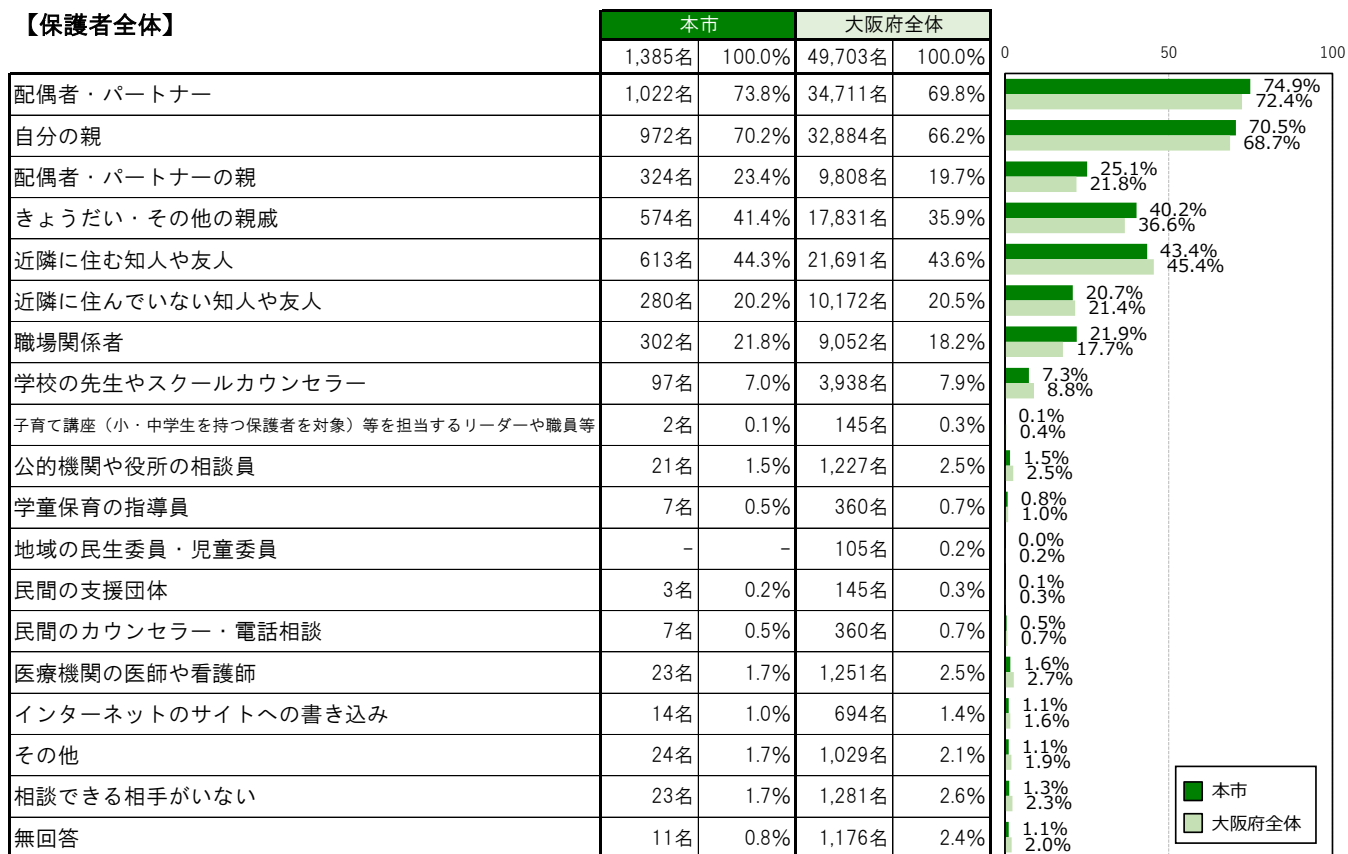
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「知人や友人」（2016年度は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」の合計）が10.2ポイント低くなっている。

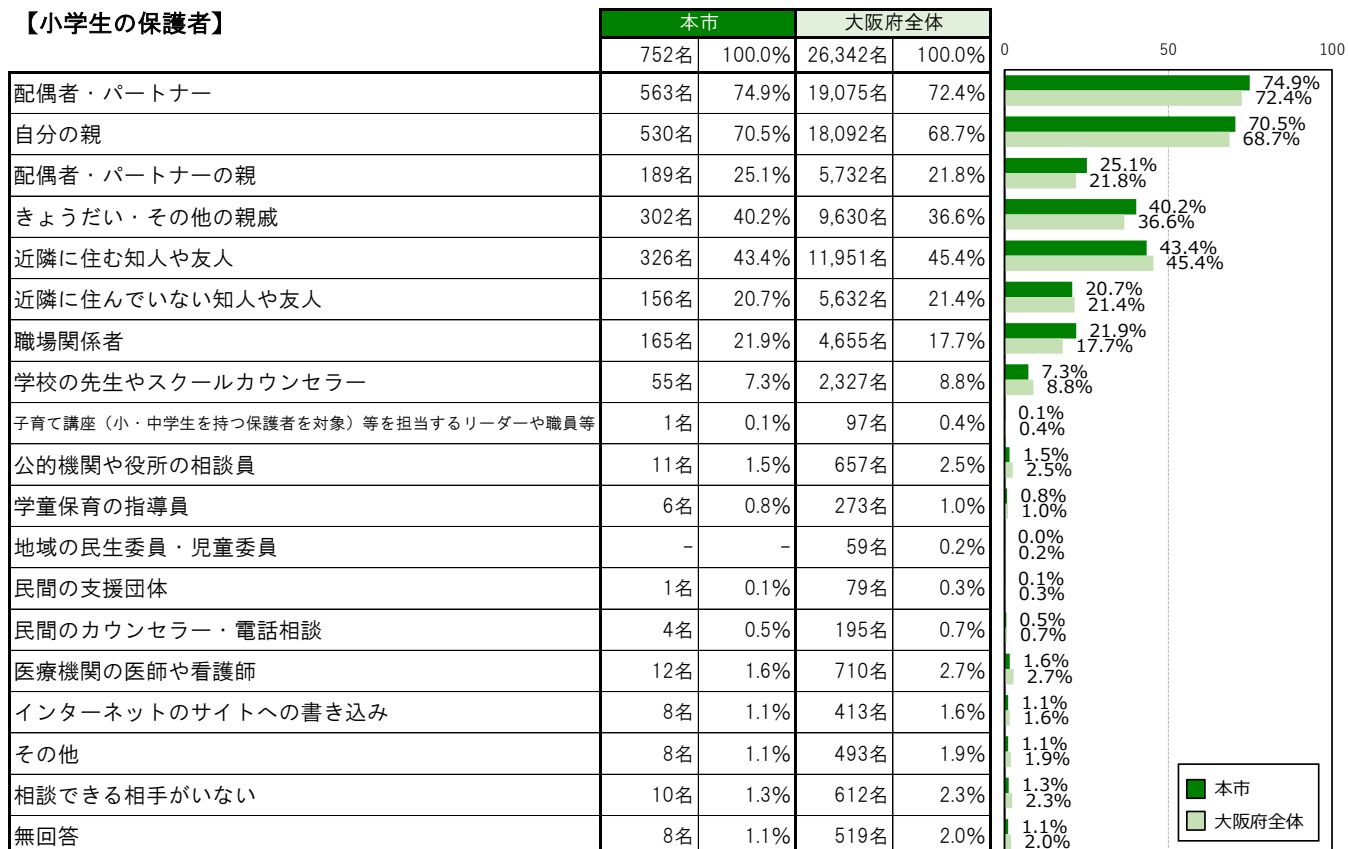
小学生の保護者は、「知人や友人」が8.1ポイント低く、「配偶者・パートナーの親」が2.7ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「知人や友人」が13.0ポイント、「きょうだい・その他の親戚」が4.2ポイント、それぞれ低くなっている。

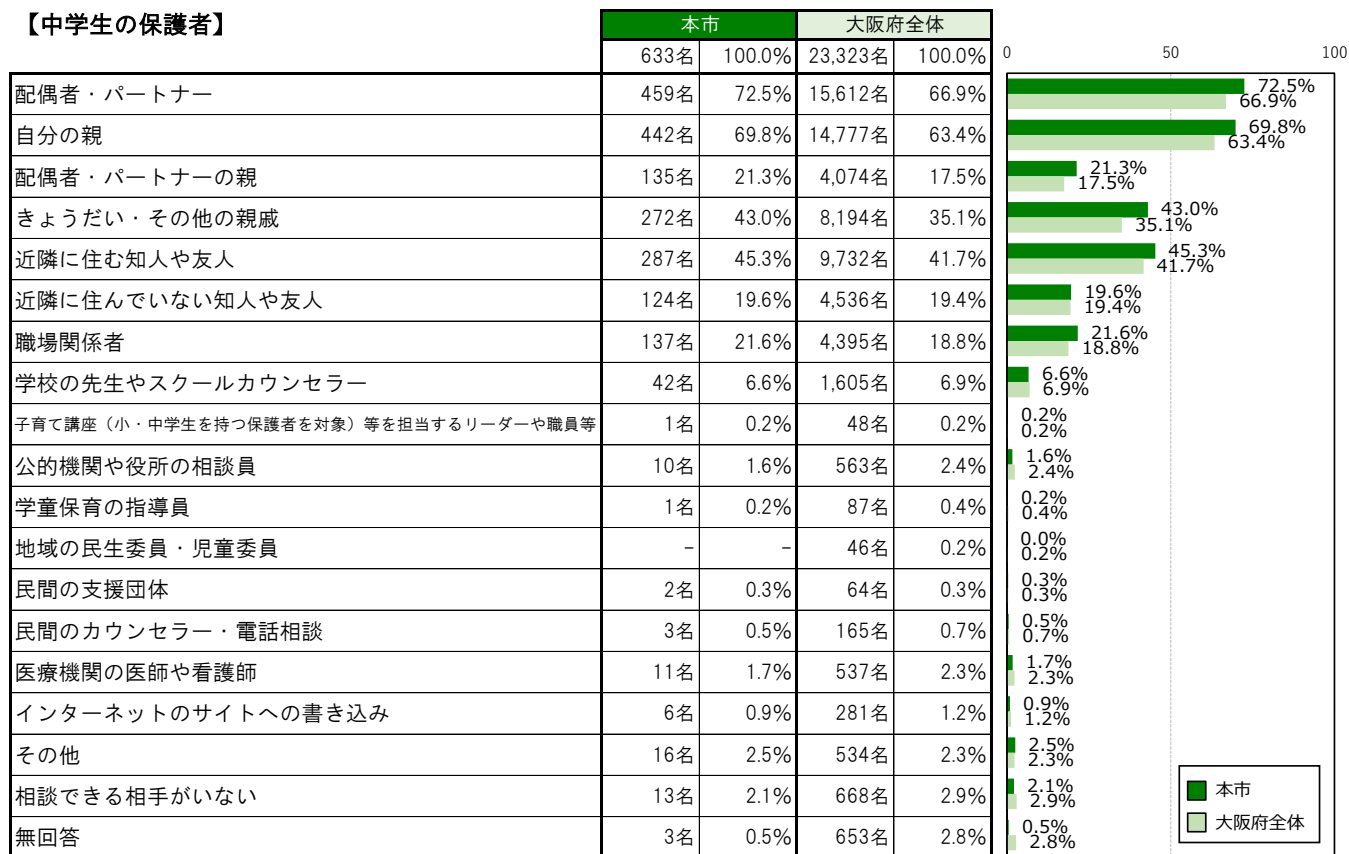
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



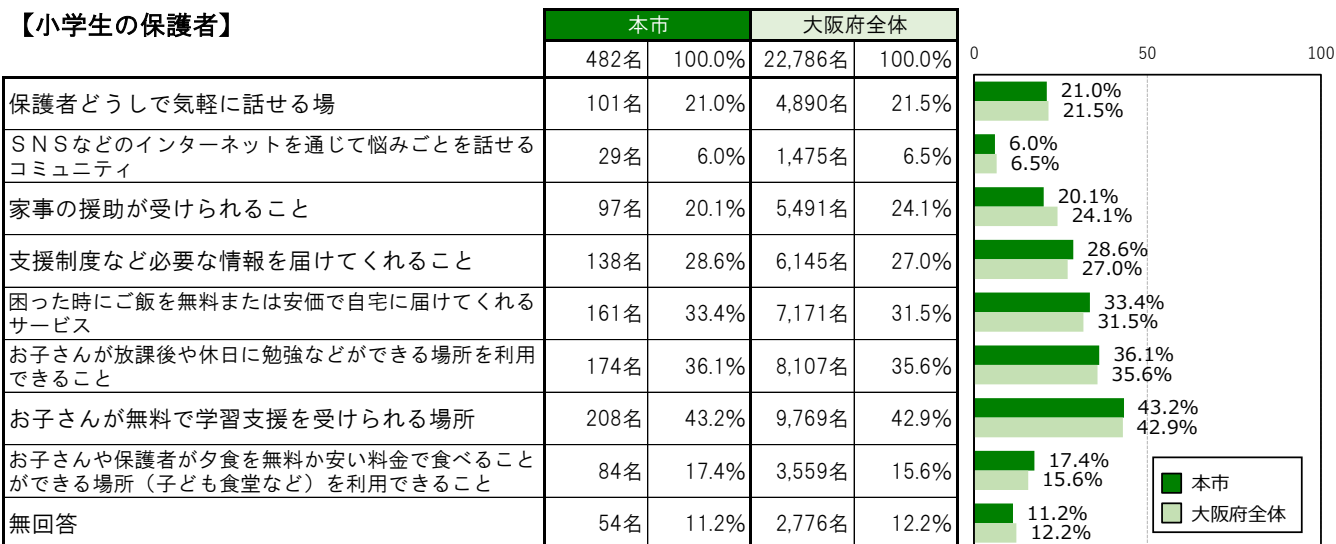
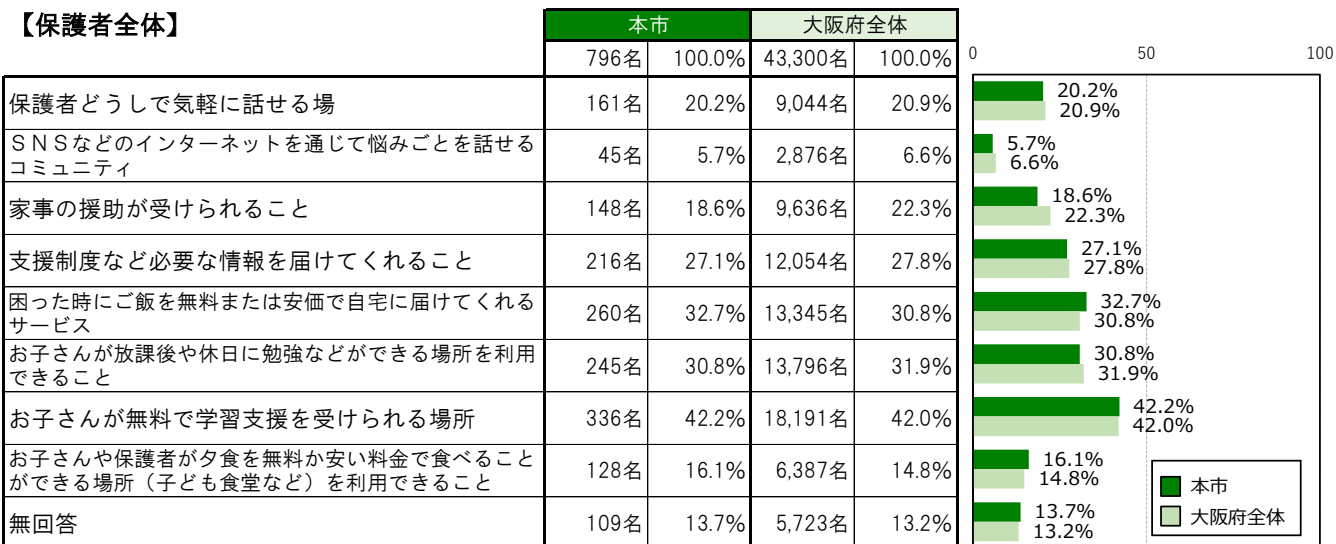
保護者のことについて

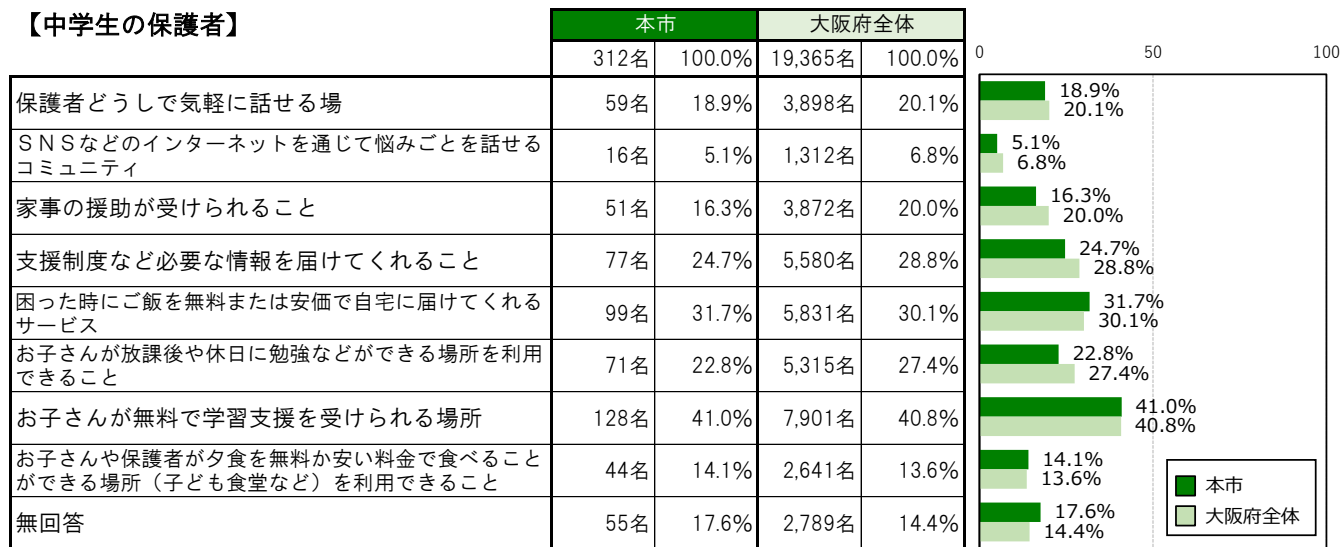
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が42.2%で最も多く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が32.7%、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が30.8%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が27.1%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が43.2%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が36.1%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が33.4%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が28.6%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が41.0%で最も多く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が31.7%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が24.7%、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が22.8%となっている。





保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

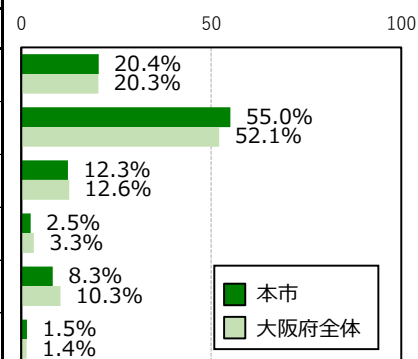
保護者全体は、「楽しんでいる」が55.0%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.4%、「あまり楽しんでいない」が12.3%、「楽しんでいない」が2.5%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が56.0%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.1%、「あまり楽しんでいない」が11.0%、「楽しんでいない」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が53.5%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.5%、「あまり楽しんでいない」が14.4%、「楽しんでいない」が3.2%となっている。

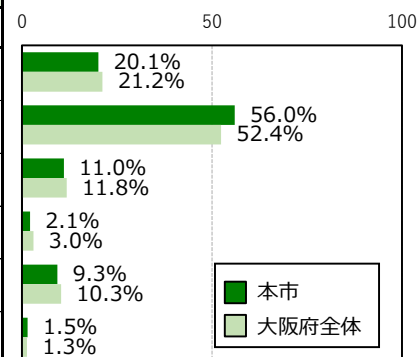
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
とても楽しんでいる	162名	20.4%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	438名	55.0%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	98名	12.3%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	20名	2.5%	1,411名	3.3%
わからない	66名	8.3%	4,473名	10.3%
無回答	12名	1.5%	604名	1.4%



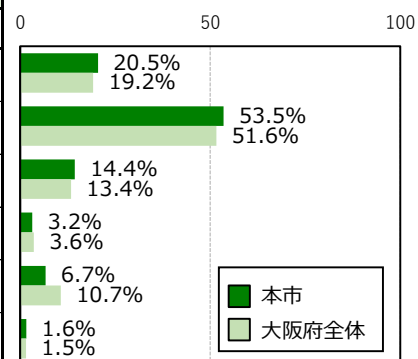
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
とても楽しんでいる	97名	20.1%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	270名	56.0%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	53名	11.0%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	10名	2.1%	680名	3.0%
わからない	45名	9.3%	2,340名	10.3%
無回答	7名	1.5%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
とても楽しんでいる	64名	20.5%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	167名	53.5%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	45名	14.4%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	10名	3.2%	690名	3.6%
わからない	21名	6.7%	2,070名	10.7%
無回答	5名	1.6%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（２）将来に対して希望を持っているか

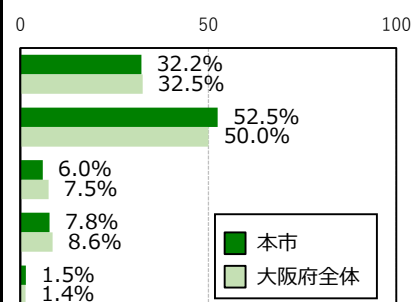
保護者全体は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が52.5%で最も多く、次いで「希望が持てる」が32.2%、「希望が持てない」が6.0%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が51.0%で最も多く、次いで「希望が持てる」が34.2%、「希望が持てない」が5.2%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が54.8%で最も多く、次いで「希望が持てる」が28.8%、「希望が持てない」が7.4%となっている。

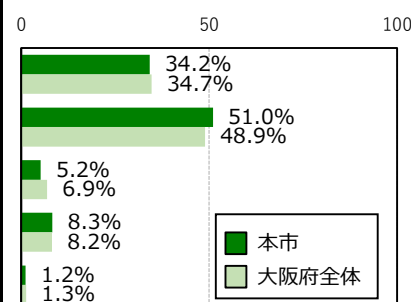
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
希望が持てる	256名	32.2%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	418名	52.5%	21,662名	50.0%
希望が持てない	48名	6.0%	3,239名	7.5%
わからない	62名	7.8%	3,718名	8.6%
無回答	12名	1.5%	601名	1.4%



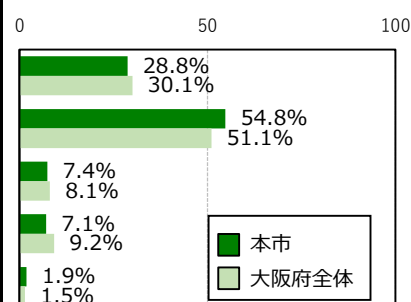
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
希望が持てる	165名	34.2%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	246名	51.0%	11,142名	48.9%
希望が持てない	25名	5.2%	1,575名	6.9%
わからない	40名	8.3%	1,874名	8.2%
無回答	6名	1.2%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
希望が持てる	90名	28.8%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	171名	54.8%	9,890名	51.1%
希望が持てない	23名	7.4%	1,574名	8.1%
わからない	22名	7.1%	1,774名	9.2%
無回答	6名	1.9%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21（3）ストレスを発散できるものがあるか

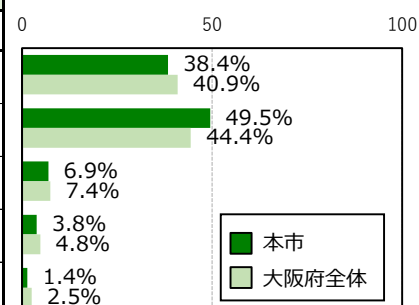
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が49.5%で最も多く、次いで「ある」が38.4%、「ない」が6.9%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が49.0%で最も多く、次いで「ある」が39.4%、「ない」が6.8%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が50.6%で最も多く、次いで「ある」が36.5%、「ない」が7.1%となっている。

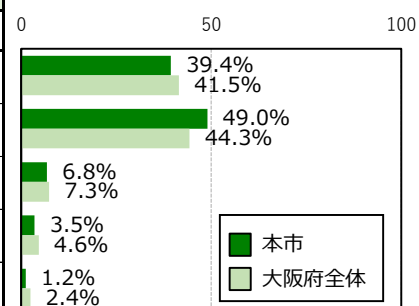
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
ある	306名	38.4%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	394名	49.5%	19,240名	44.4%
ない	55名	6.9%	3,221名	7.4%
わからない	30名	3.8%	2,061名	4.8%
無回答	11名	1.4%	1,071名	2.5%



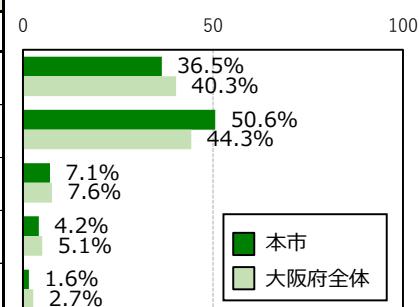
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
ある	190名	39.4%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	236名	49.0%	10,090名	44.3%
ない	33名	6.8%	1,668名	7.3%
わからない	17名	3.5%	1,037名	4.6%
無回答	6名	1.2%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
ある	114名	36.5%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	158名	50.6%	8,576名	44.3%
ない	22名	7.1%	1,467名	7.6%
わからない	13名	4.2%	990名	5.1%
無回答	5名	1.6%	529名	2.7%



保護者のことについて

問21（４）自分が幸せだと思うか

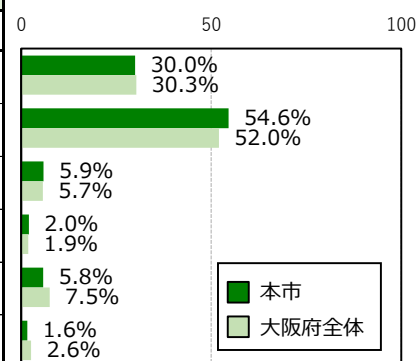
全体は、「幸せだと思う」が54.6%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が30.0%、「あまり幸せだと思わない」が5.9%、「幸せだと思わない」が2.0%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が54.8%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が31.3%、「あまり幸せだと思わない」が4.6%、「幸せだと思わない」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が54.5%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が27.9%、「あまり幸せだと思わない」が8.0%、「幸せだと思わない」が2.9%となっている。

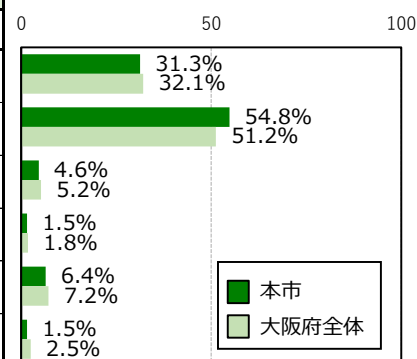
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても幸せだと思う	239名	30.0%	13,119名	30.3%
幸せだと思う	435名	54.6%	22,517名	52.0%
あまり幸せだと思わない	47名	5.9%	2,464名	5.7%
幸せだと思わない	16名	2.0%	819名	1.9%
わからない	46名	5.8%	3,246名	7.5%
無回答	13名	1.6%	1,135名	2.6%



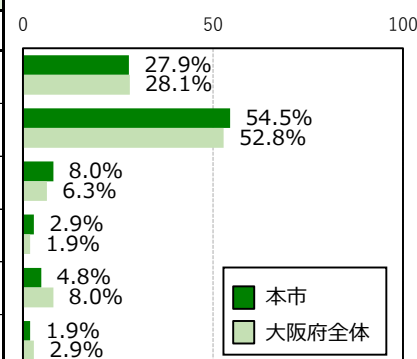
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても幸せだと思う	151名	31.3%	7,323名	32.1%
幸せだと思う	264名	54.8%	11,664名	51.2%
あまり幸せだと思わない	22名	4.6%	1,176名	5.2%
幸せだと思わない	7名	1.5%	413名	1.8%
わからない	31名	6.4%	1,640名	7.2%
無回答	7名	1.5%	570名	2.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても幸せだと思う	87名	27.9%	5,439名	28.1%
幸せだと思う	170名	54.5%	10,225名	52.8%
あまり幸せだと思わない	25名	8.0%	1,211名	6.3%
幸せだと思わない	9名	2.9%	376名	1.9%
わからない	15名	4.8%	1,555名	8.0%
無回答	6名	1.9%	559名	2.9%



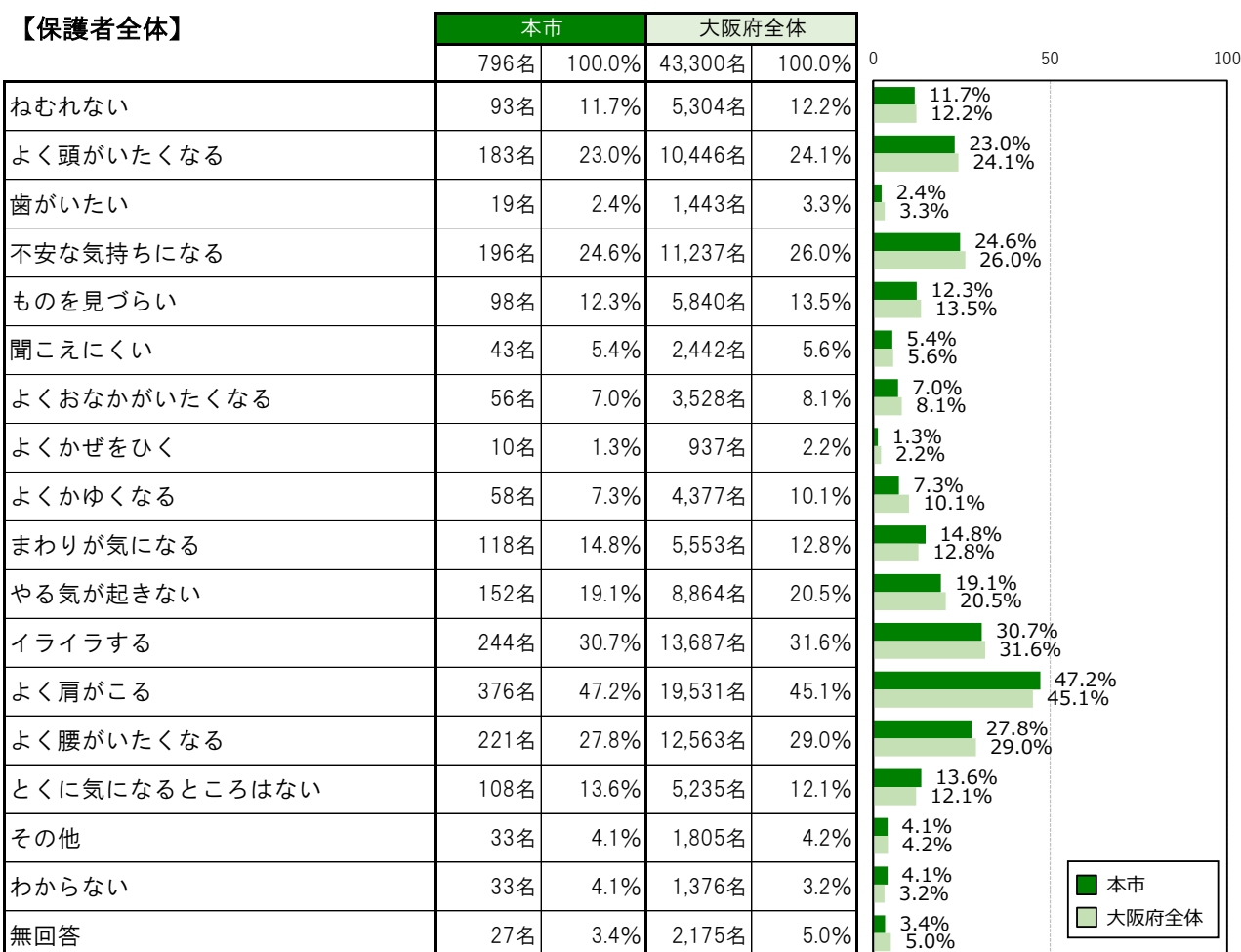
保護者のことについて

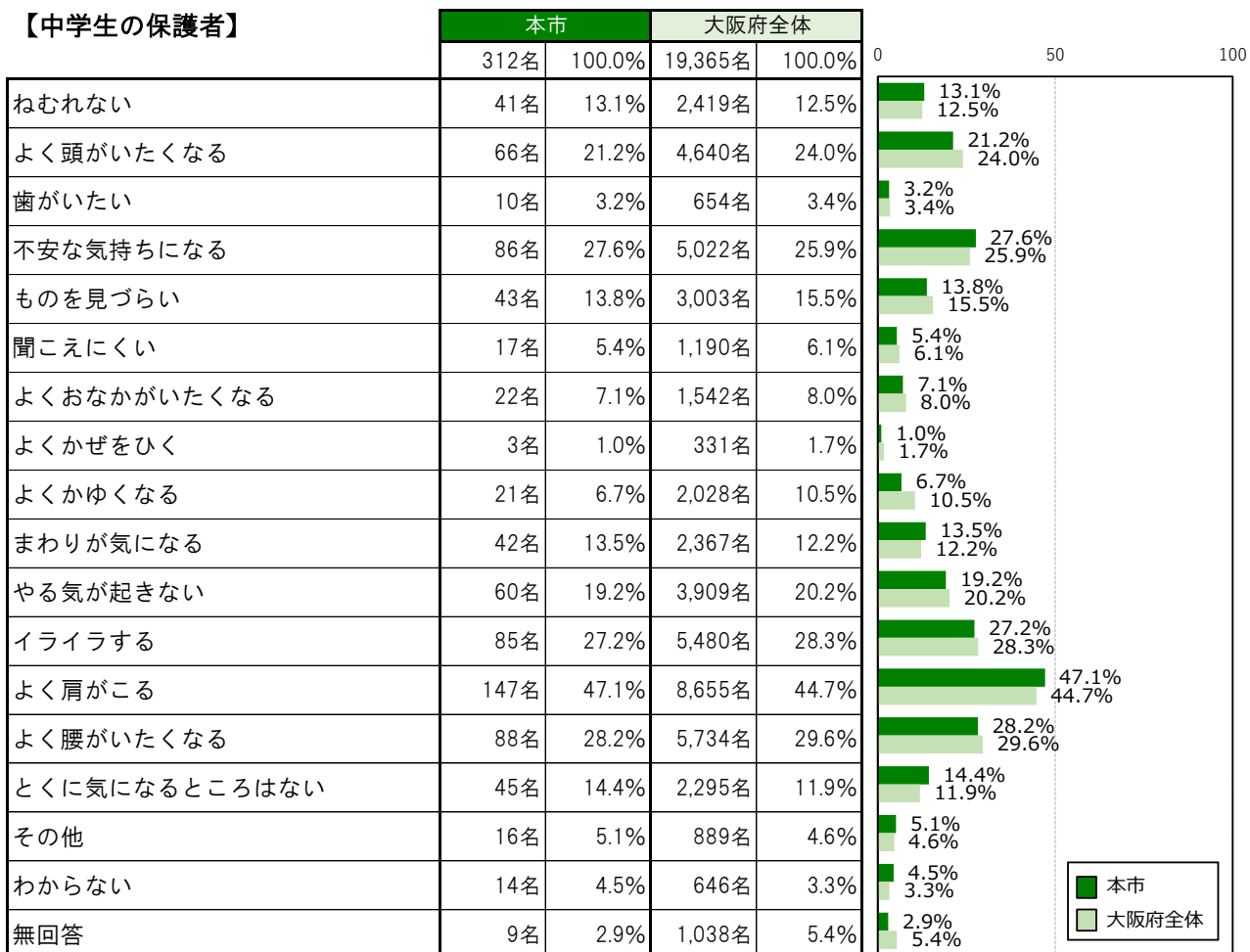
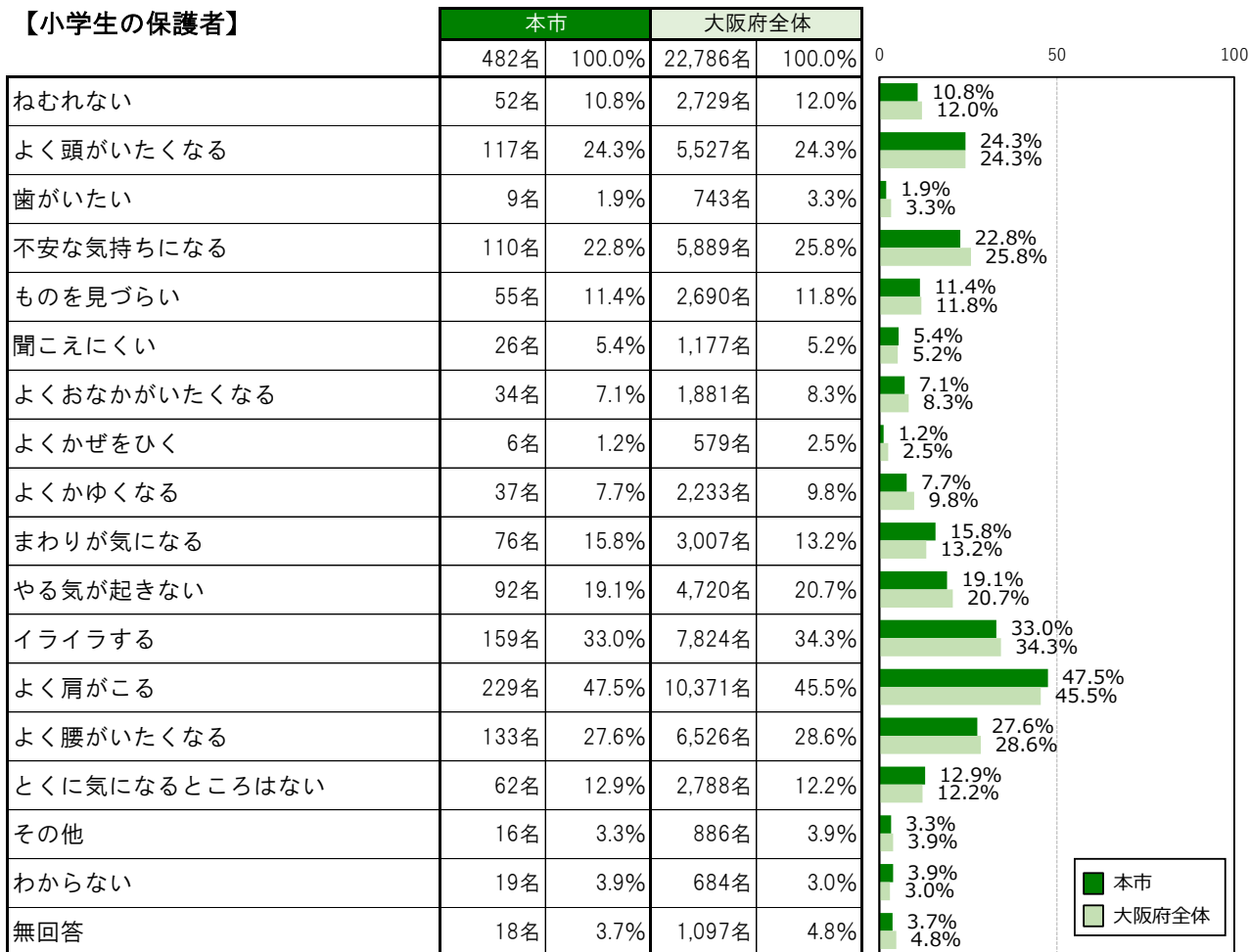
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が47.2%で最も多く、次いで「イライラする」が30.7%、「よく腰がいたくなる」が27.8%、「不安な気持ちになる」が24.6%、「よく頭がいたくなる」が23.0%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が47.5%で最も多く、次いで「イライラする」が33.0%、「よく腰がいたくなる」が27.6%、「よく頭がいたくなる」が24.3%、「不安な気持ちになる」が22.8%となっている。

中学生の保護者は、「よく肩がこる」が47.1%で最も多く、次いで「よく腰がいたくなる」が28.2%、「不安な気持ちになる」が27.6%、「イライラする」が27.2%、「よく頭がいたくなる」が21.2%となっている。





保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

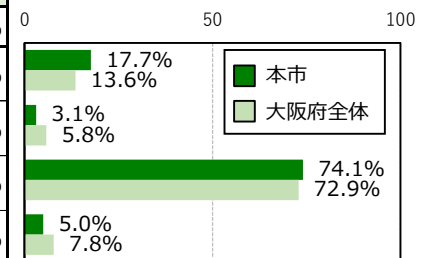
保護者全体は、「利用したことがない」が74.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が17.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が74.3%で最も多く、次いで「現在利用している」が17.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.7%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が74.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が17.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.2%となっている。

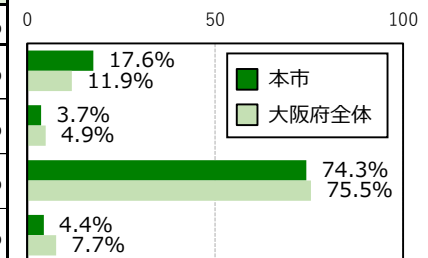
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	141名	17.7%	5,869名	13.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	25名	3.1%	2,503名	5.8%
利用したことがない	590名	74.1%	31,557名	72.9%
無回答	40名	5.0%	3,371名	7.8%



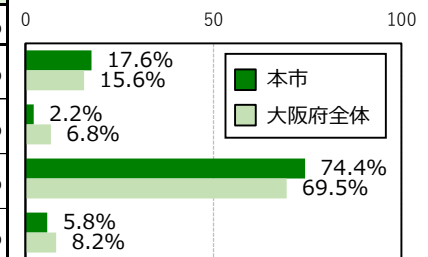
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	85名	17.6%	2,714名	11.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	18名	3.7%	1,110名	4.9%
利用したことがない	358名	74.3%	17,198名	75.5%
無回答	21名	4.4%	1,764名	7.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	55名	17.6%	3,020名	15.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	2.2%	1,308名	6.8%
利用したことがない	232名	74.4%	13,453名	69.5%
無回答	18名	5.8%	1,584名	8.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

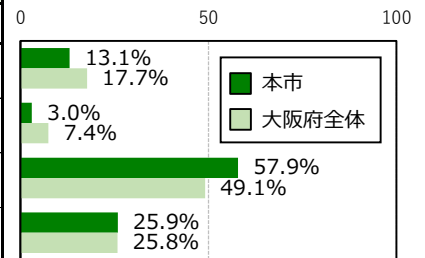
2016年度調査と比較すると、全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはな
い」）が16.2ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が14.6ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が18.6ポイント高くなっている。

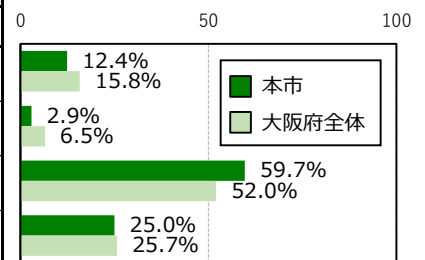
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,385名	100.0%	49,703名	100.0%
受けている	182名	13.1%	8,792名	17.7%
受けたことがある	42名	3.0%	3,669名	7.4%
受けたことはない	802名	57.9%	24,429名	49.1%
無回答	359名	25.9%	12,813名	25.8%



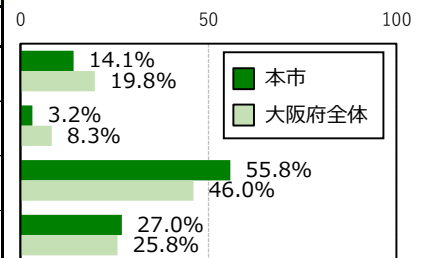
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	752名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	93名	12.4%	4,154名	15.8%
受けたことがある	22名	2.9%	1,724名	6.5%
受けたことはない	449名	59.7%	13,686名	52.0%
無回答	188名	25.0%	6,778名	25.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	633名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	89名	14.1%	4,628名	19.8%
受けたことがある	20名	3.2%	1,942名	8.3%
受けたことはない	353名	55.8%	10,733名	46.0%
無回答	171名	27.0%	6,020名	25.8%



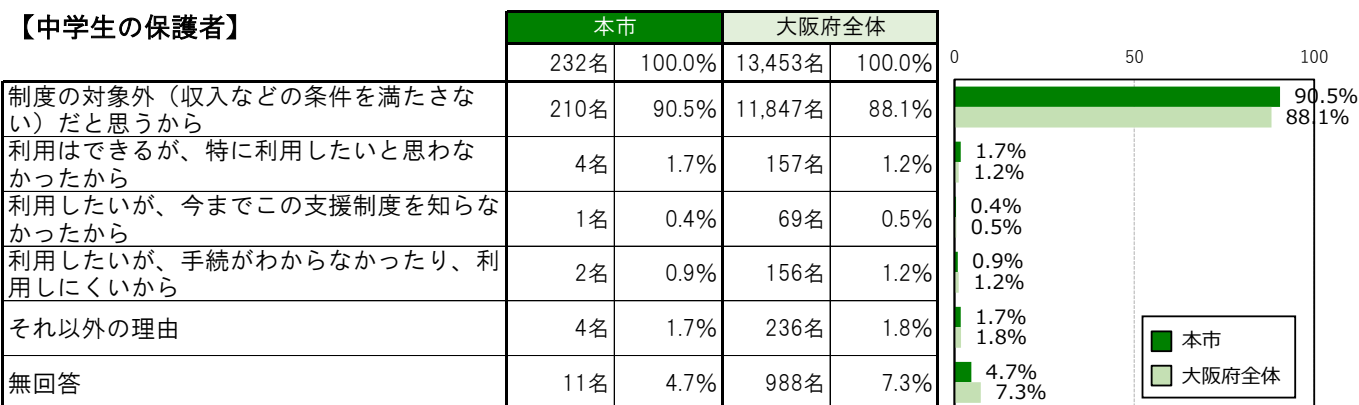
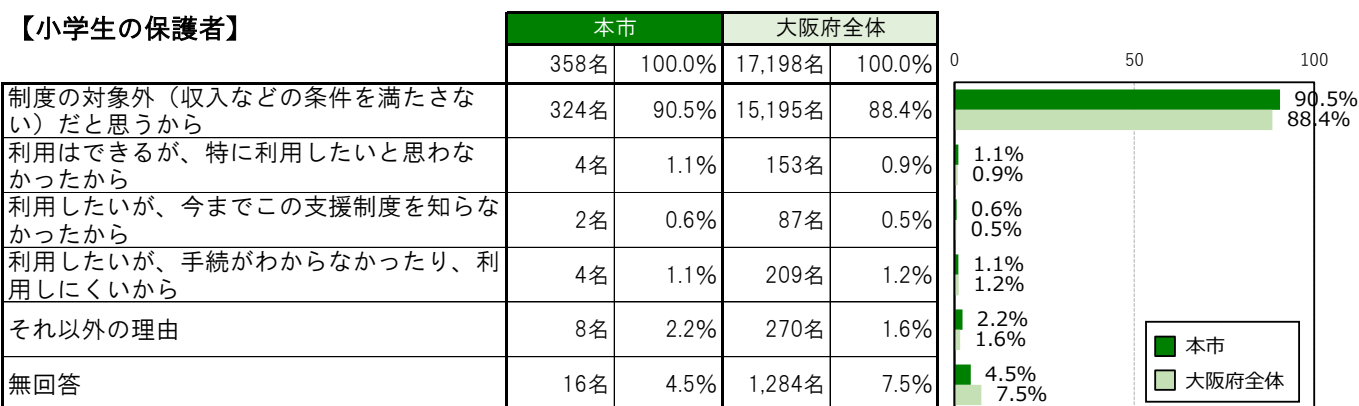
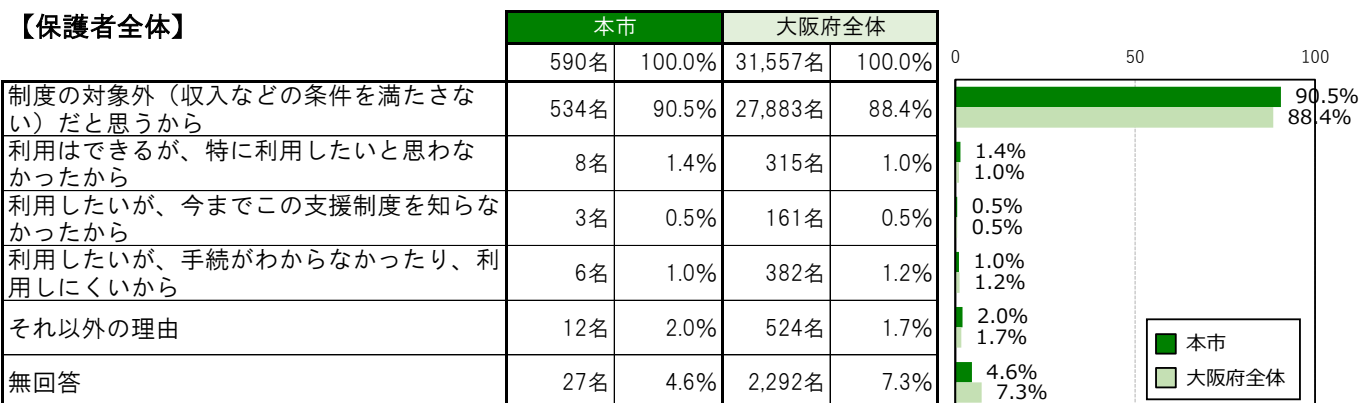
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ1.1%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.5%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「それ以外の理由」がそれぞれ1.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.9%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

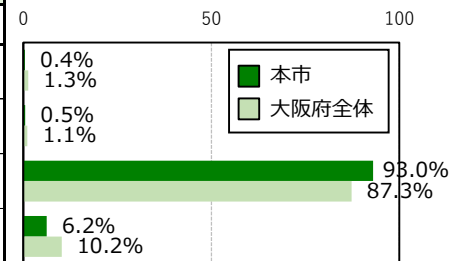
保護者全体は、「利用したことがない」が93.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.5%、「現在利用している」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が92.9%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ0.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が93.3%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ0.3%となっている。

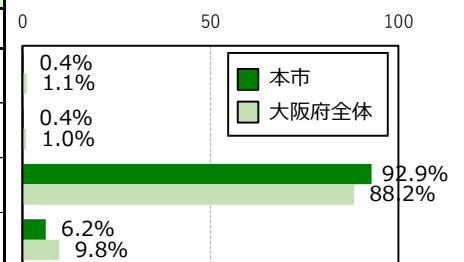
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	3名	0.4%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	0.5%	497名	1.1%
利用したことがない	740名	93.0%	37,793名	87.3%
無回答	49名	6.2%	4,430名	10.2%



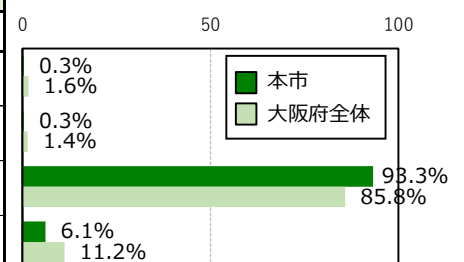
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	2名	0.4%	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	2名	0.4%	218名	1.0%
利用したことがない	448名	92.9%	20,090名	88.2%
無回答	30名	6.2%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	1名	0.3%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.3%	267名	1.4%
利用したことがない	291名	93.3%	16,608名	85.8%
無回答	19名	6.1%	2,174名	11.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

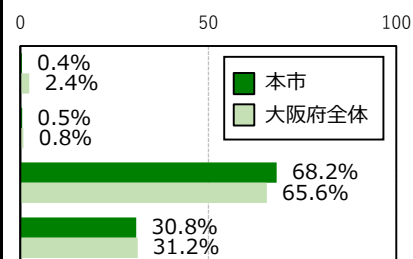
2016年度調査と比較すると、全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはな
い」）が24.8ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が23.1ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が26.9ポイント高くなっている。

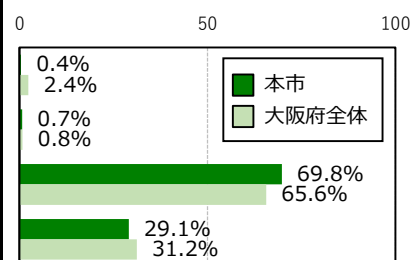
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,385名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	6名	0.4%	622名	2.4%
受けたことがある	7名	0.5%	211名	0.8%
受けたことはない	945名	68.2%	17,286名	65.6%
無回答	427名	30.8%	8,223名	31.2%



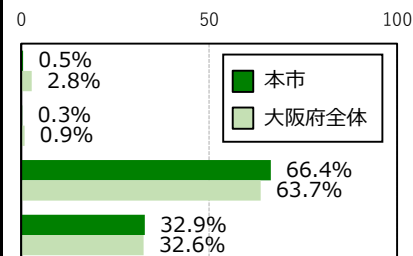
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	752名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	3名	0.4%	622名	2.4%
受けたことがある	5名	0.7%	211名	0.8%
受けたことはない	525名	69.8%	17,286名	65.6%
無回答	219名	29.1%	8,223名	31.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	633名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	3名	0.5%	650名	2.8%
受けたことがある	2名	0.3%	211名	0.9%
受けたことはない	420名	66.4%	14,855名	63.7%
無回答	208名	32.9%	7,607名	32.6%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

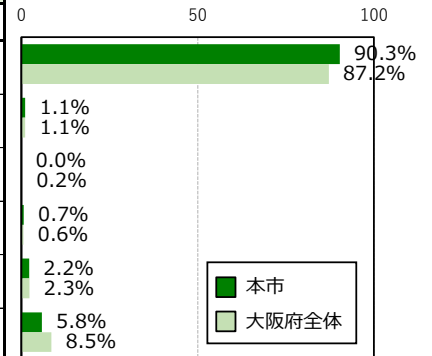
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.7%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.4%となっている。

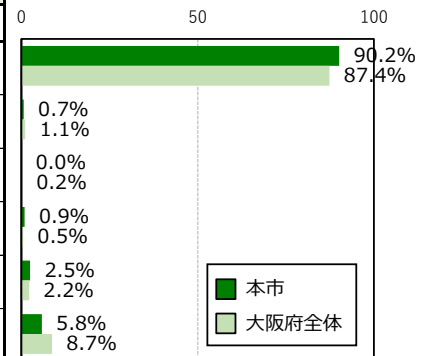
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	740名	100.0%	37,793名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	668名	90.3%	32,964名	87.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	8名	1.1%	434名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	73名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	0.7%	230名	0.6%
それ以外の理由	16名	2.2%	867名	2.3%
無回答	43名	5.8%	3,225名	8.5%



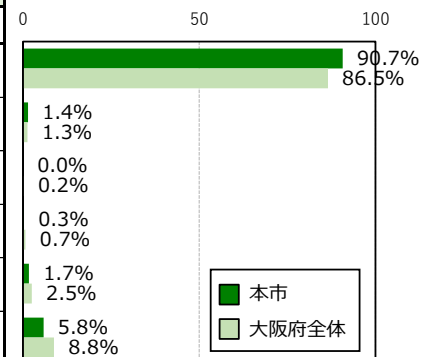
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	448名	100.0%	20,090名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	404名	90.2%	17,567名	87.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	0.7%	211名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	31名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.9%	104名	0.5%
それ以外の理由	11名	2.5%	433名	2.2%
無回答	26名	5.8%	1,744名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	291名	100.0%	16,608名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	264名	90.7%	14,367名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	1.4%	219名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	40名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.3%	117名	0.7%
それ以外の理由	5名	1.7%	411名	2.5%
無回答	17名	5.8%	1,454名	8.8%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

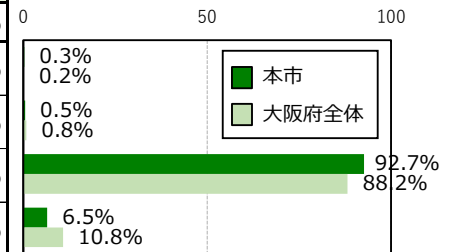
保護者全体は、「利用したことがない」が92.7%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.5%、「現在利用している」が0.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が92.9%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ0.2%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が92.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.6%となっている。

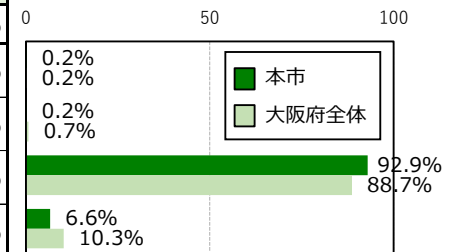
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	796名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	2名	0.3%	101名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	0.5%	338名	0.8%
利用したことがない	738名	92.7%	38,173名	88.2%
無回答	52名	6.5%	4,688名	10.8%



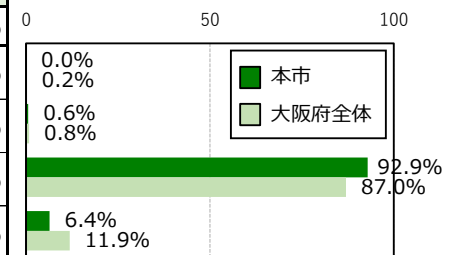
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	482名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	1名	0.2%	55名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.2%	163名	0.7%
利用したことがない	448名	92.9%	20,220名	88.7%
無回答	32名	6.6%	2,348名	10.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	312名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	-	-	44名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	2名	0.6%	162名	0.8%
利用したことがない	290名	92.9%	16,851名	87.0%
無回答	20名	6.4%	2,308名	11.9%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

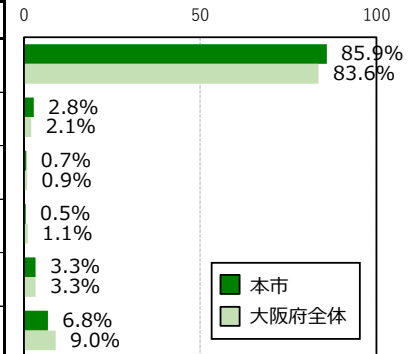
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.0%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「それ以外の理由」がそれぞれ3.6%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.7%となっている。

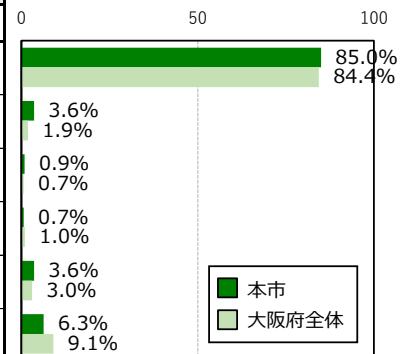
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	738名	100.0%	38,173名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	634名	85.9%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	21名	2.8%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	0.7%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.5%	410名	1.1%
それ以外の理由	24名	3.3%	1,275名	3.3%
無回答	50名	6.8%	3,447名	9.0%



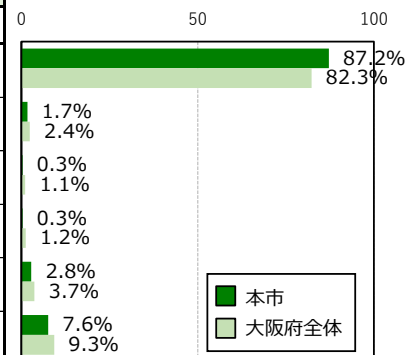
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	448名	100.0%	20,220名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	381名	85.0%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	16名	3.6%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	0.9%	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	0.7%	193名	1.0%
それ以外の理由	16名	3.6%	609名	3.0%
無回答	28名	6.3%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	290名	100.0%	16,851名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	253名	87.2%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	5名	1.7%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.3%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.3%	204名	1.2%
それ以外の理由	8名	2.8%	625名	3.7%
無回答	22名	7.6%	1,570名	9.3%



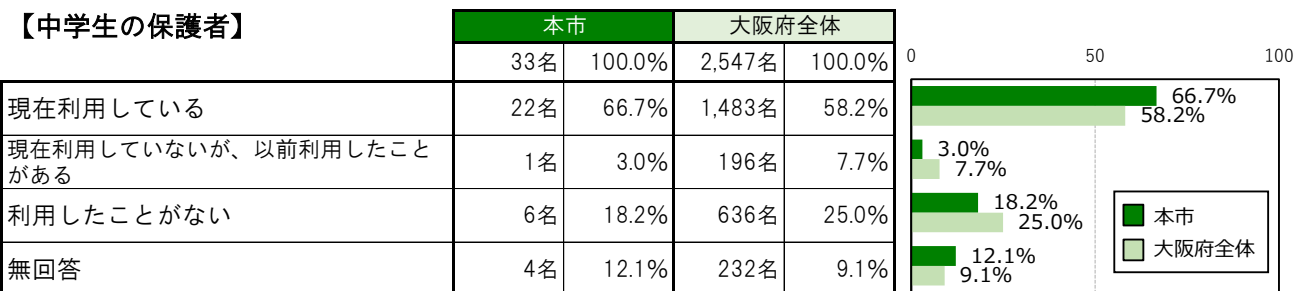
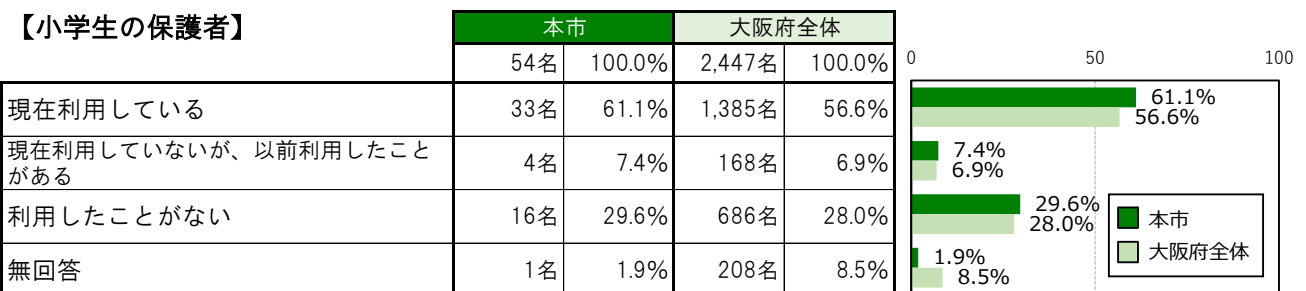
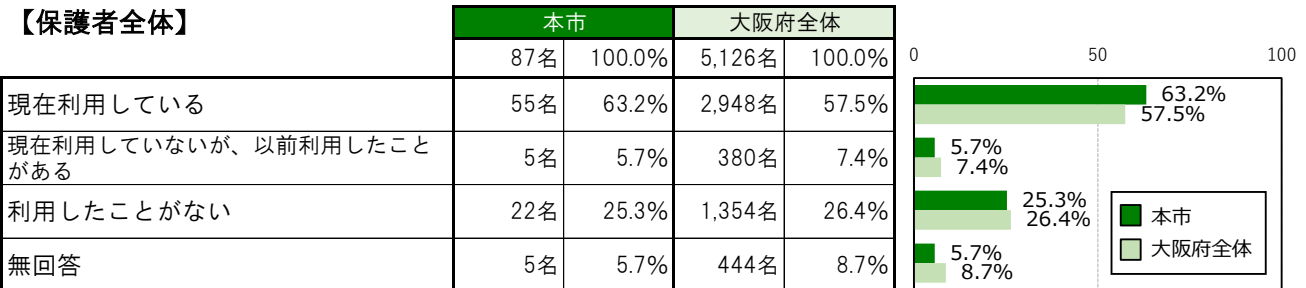
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

保護者全体は、「現在利用している」が63.2%で最も多く、次いで「利用したことがない」が25.3%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.7%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が61.1%で最も多く、次いで「利用したことがない」が29.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が7.4%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が66.7%で最も多く、次いで「利用したことがない」が18.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.0%となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

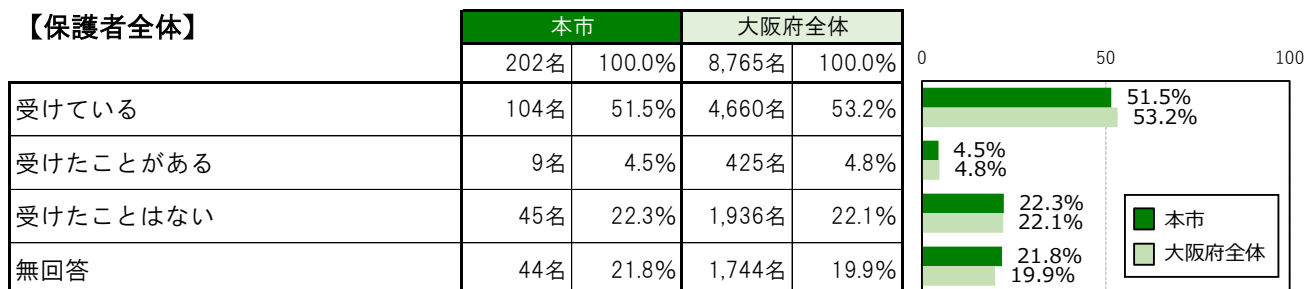
※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「現在利用している」（2016年度調査では「受けている」）が11.7ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が5.5ポイント、「現在利用していないが、以前利用したことがある」（2016年度調査では「受けたことがある」）が6.4ポイント、それぞれ高くなっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が19.1ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

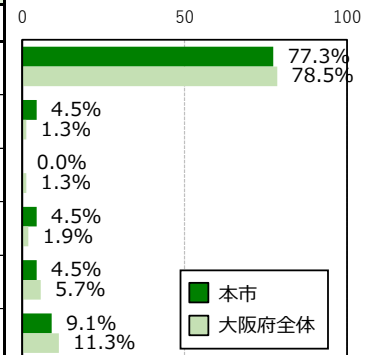
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が77.3%（17名）で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ4.5%（1名）となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が68.8%（11名）で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ6.3%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が100.0%（6名）となっている。

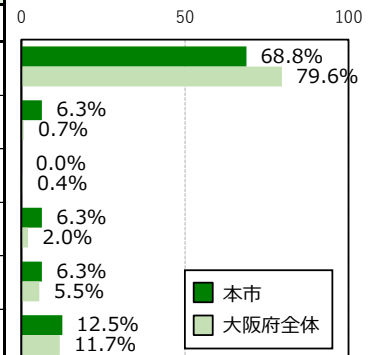
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	22名	100.0%	1,354名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	17名	77.3%	1,063名	78.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1名	4.5%	17名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	18名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	4.5%	26名	1.9%
それ以外の理由	1名	4.5%	77名	5.7%
無回答	2名	9.1%	153名	11.3%



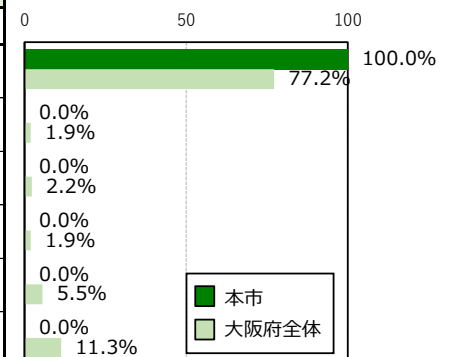
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	16名	100.0%	686名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	11名	68.8%	546名	79.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1名	6.3%	5名	0.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	3名	0.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	6.3%	14名	2.0%
それ以外の理由	1名	6.3%	38名	5.5%
無回答	2名	12.5%	80名	11.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	6名	100.0%	636名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	6名	100.0%	491名	77.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	12名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	14名	2.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	-	-	12名	1.9%
それ以外の理由	-	-	35名	5.5%
無回答	-	-	72名	11.3%



※ ひとり親世帯のみで集計。

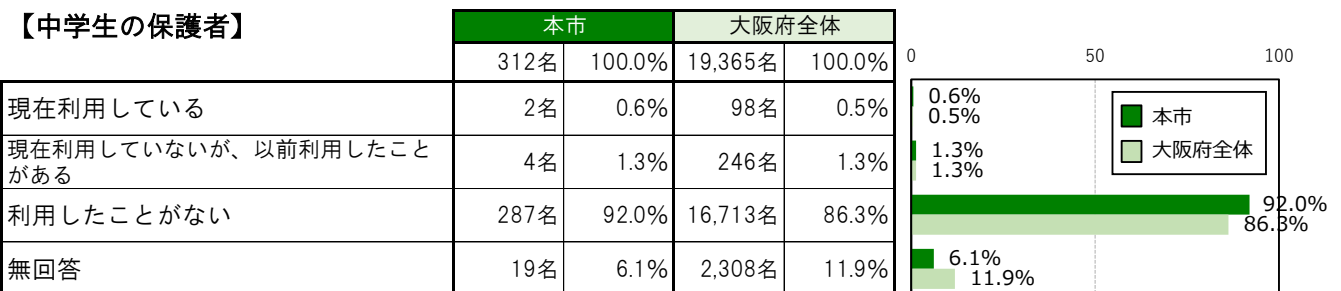
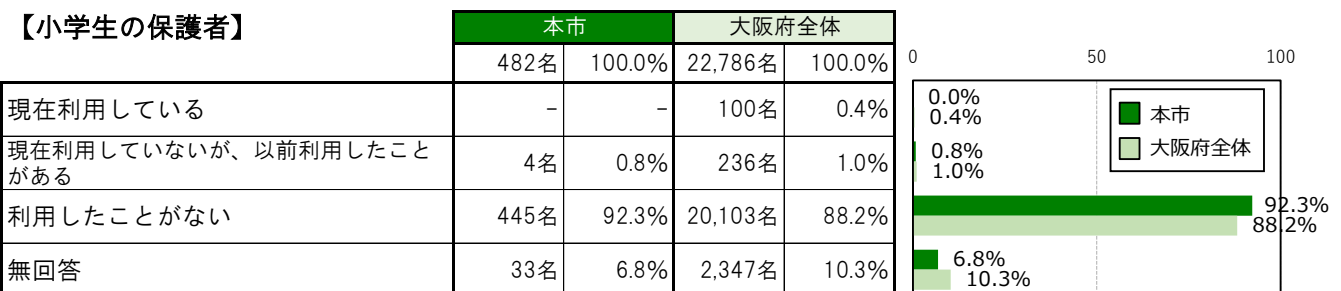
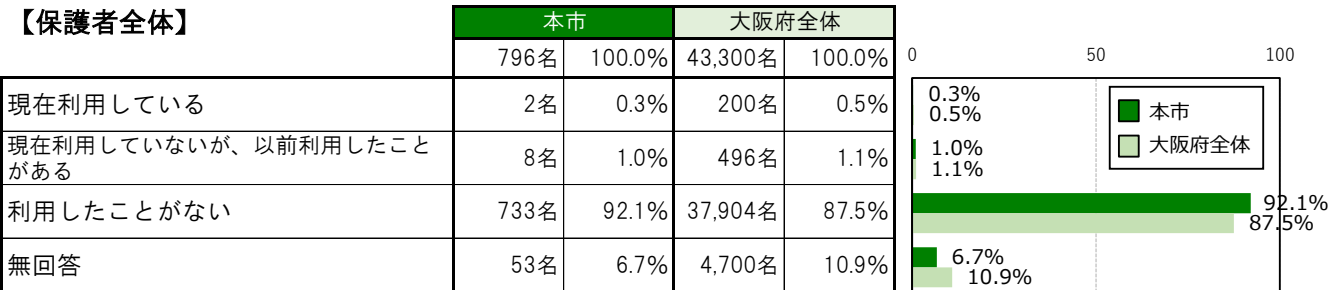
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が92.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%、「現在利用している」が0.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が92.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.8%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が92.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.3%、「現在利用している」が0.6%となっている。



保護者のことについて

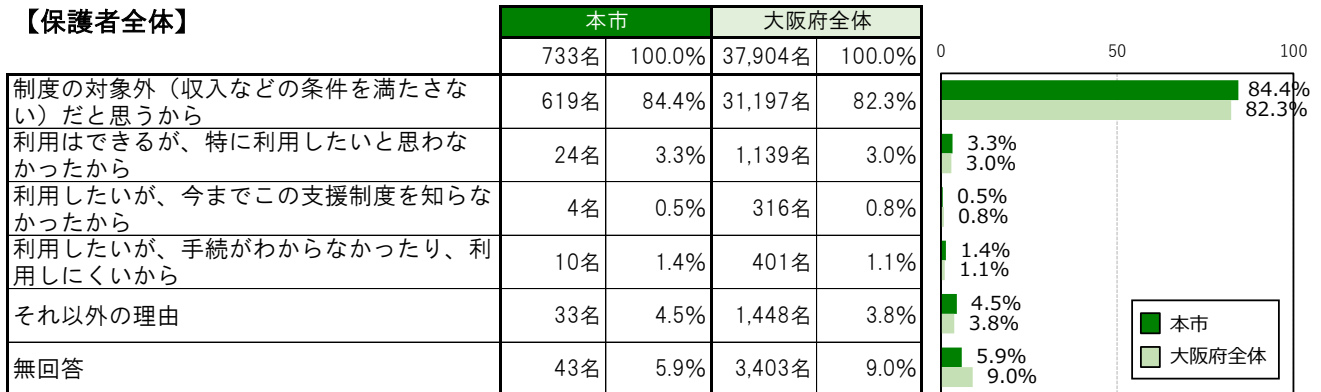
問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.5%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.3%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.4%となっている。

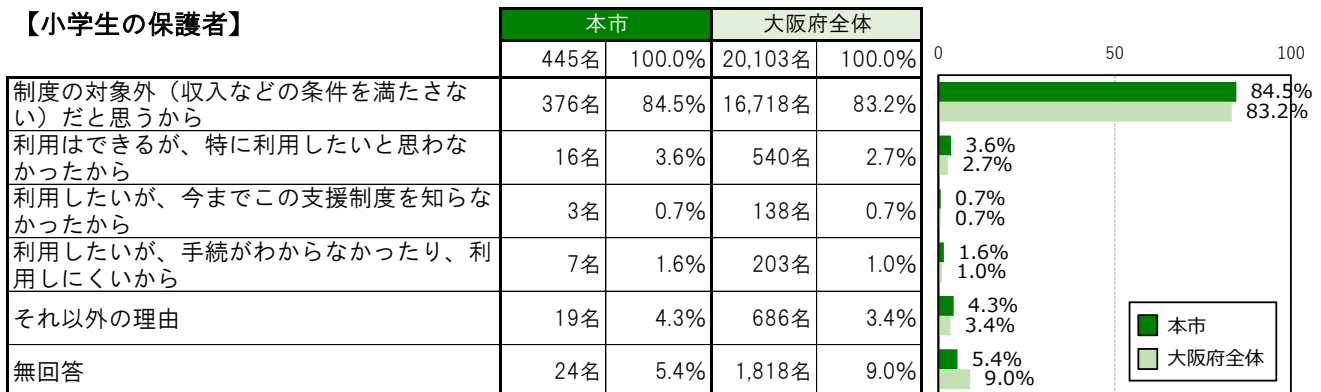
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.6%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.8%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.0%となっている。

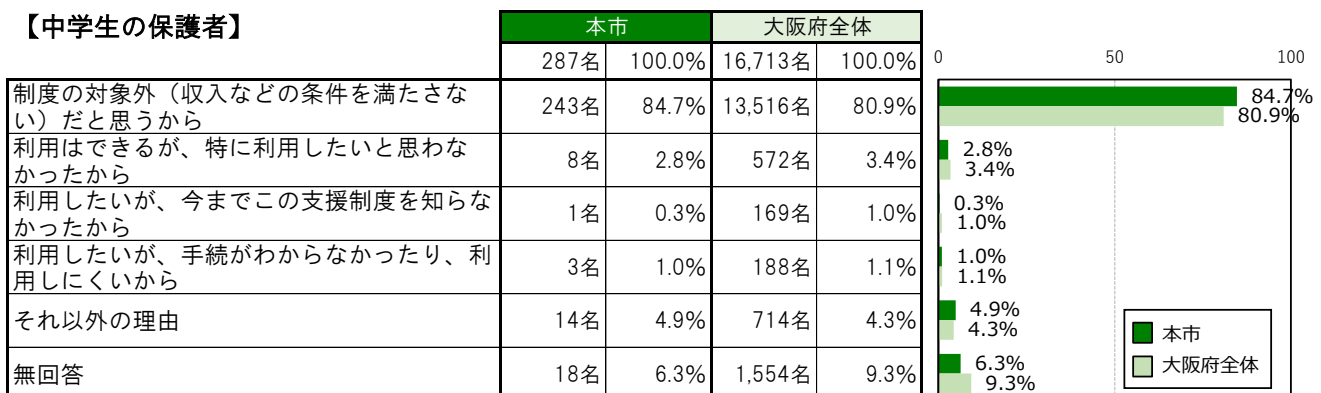
【保護者全体】



【小学生の保護者】



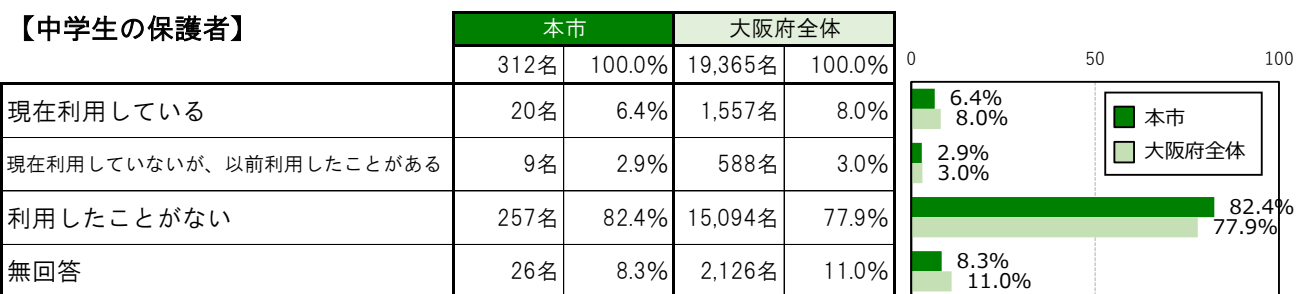
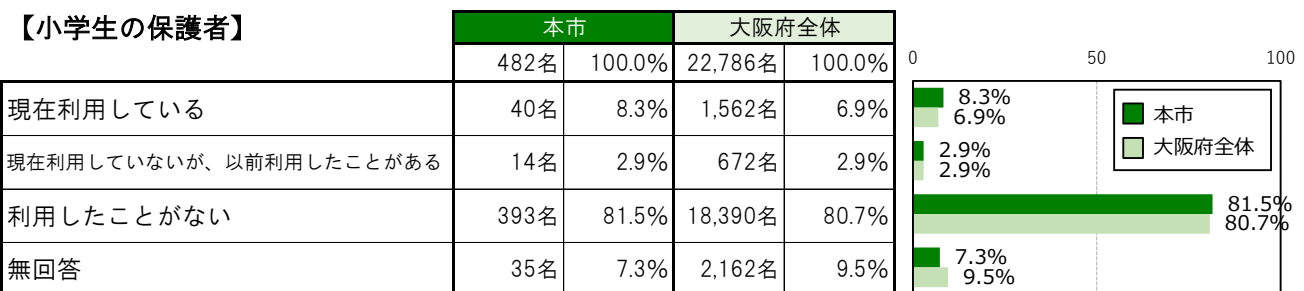
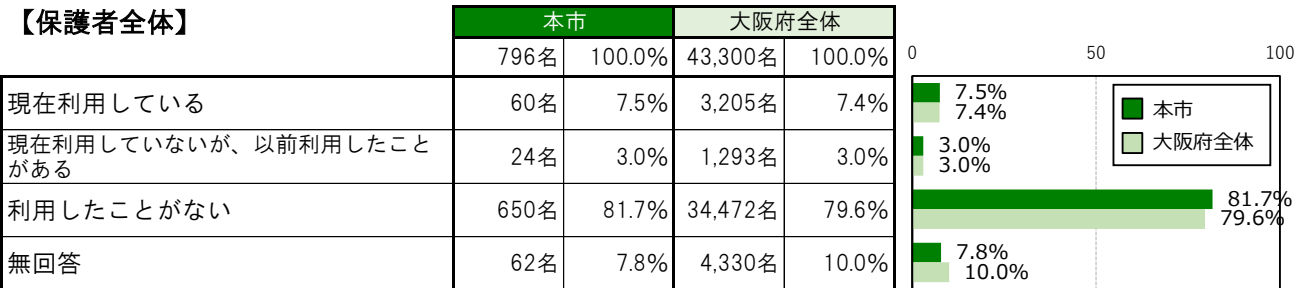
【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が81.7%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.0%となっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがない」が81.5%で最も多く、次いで「現在利用している」が8.3%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.9%となっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがない」が82.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が6.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.9%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

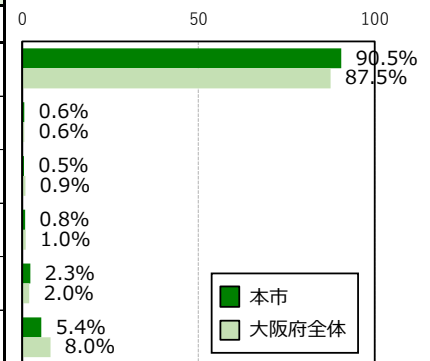
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.3%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.8%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ0.8%となっている。

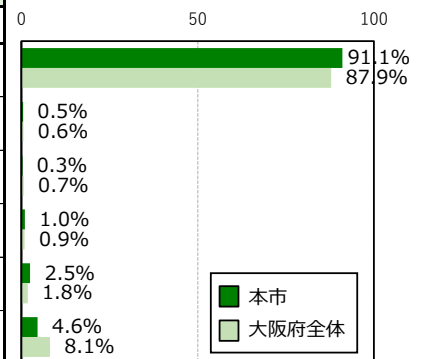
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	650名	100.0%	34,472名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	588名	90.5%	30,150名	87.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	0.6%	201名	0.6%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.5%	322名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	0.8%	336名	1.0%
それ以外の理由	15名	2.3%	696名	2.0%
無回答	35名	5.4%	2,767名	8.0%



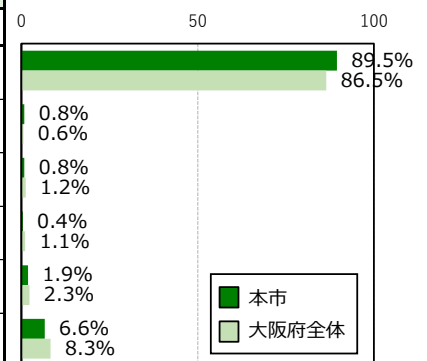
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	393名	100.0%	18,390名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	358名	91.1%	16,160名	87.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2名	0.5%	102名	0.6%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.3%	133名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	1.0%	168名	0.9%
それ以外の理由	10名	2.5%	338名	1.8%
無回答	18名	4.6%	1,489名	8.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	257名	100.0%	15,094名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	230名	89.5%	13,056名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2名	0.8%	98名	0.6%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.8%	182名	1.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.4%	162名	1.1%
それ以外の理由	5名	1.9%	343名	2.3%
無回答	17名	6.6%	1,253名	8.3%



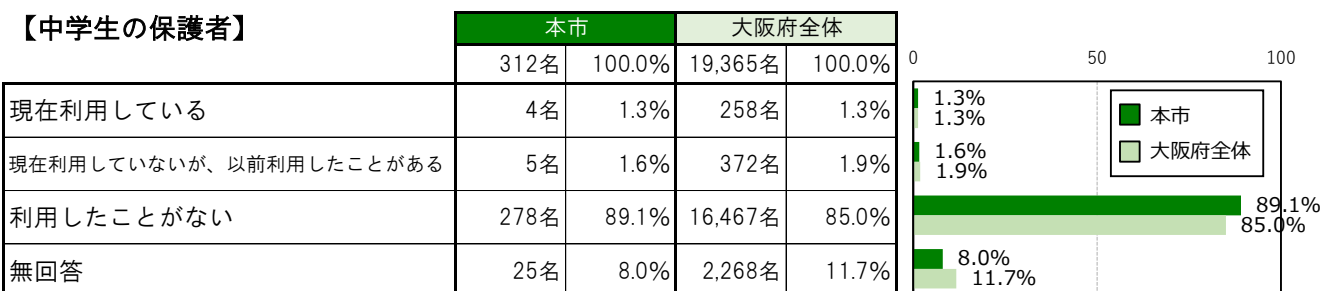
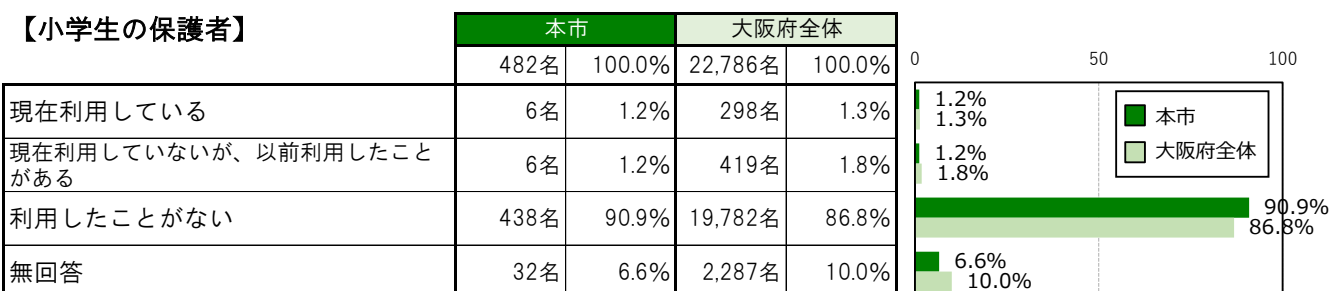
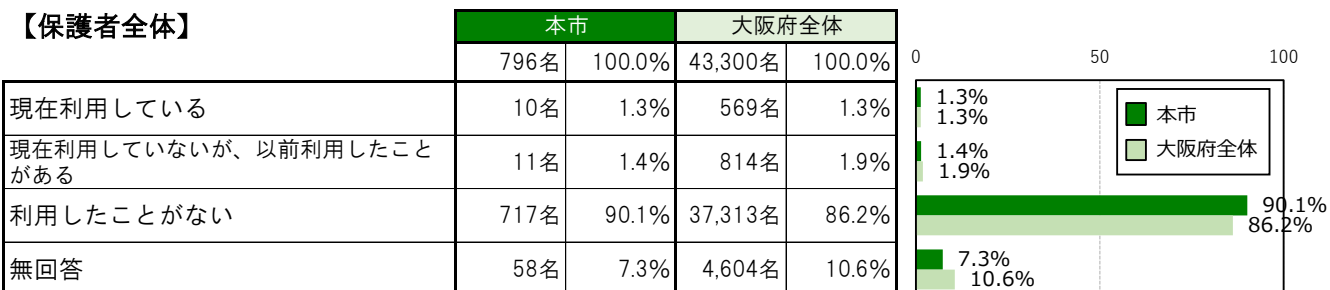
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

保護者全体は、「利用したことがない」が90.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.4%、「現在利用している」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が90.9%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ1.2%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が89.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.6%、「現在利用している」が1.3%となっている。



保護者のことについて

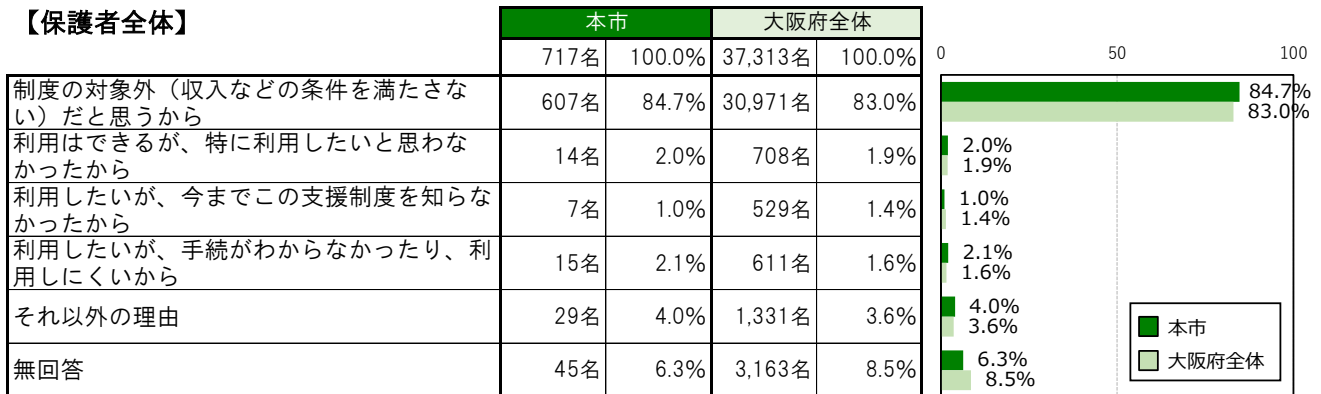
問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金） ＜利用したことがない理由＞

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.0%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が2.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.0%となっている。

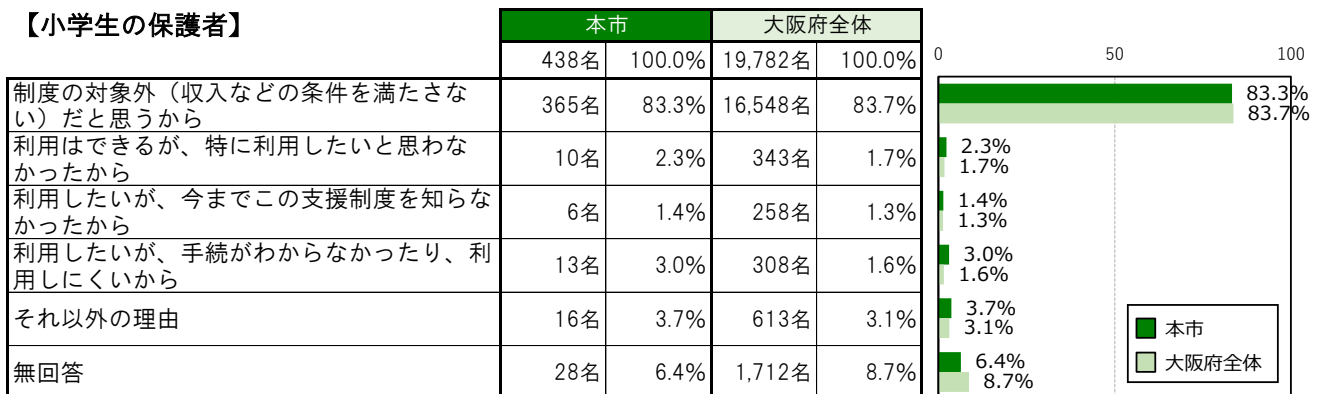
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が83.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が3.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.7%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.4%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



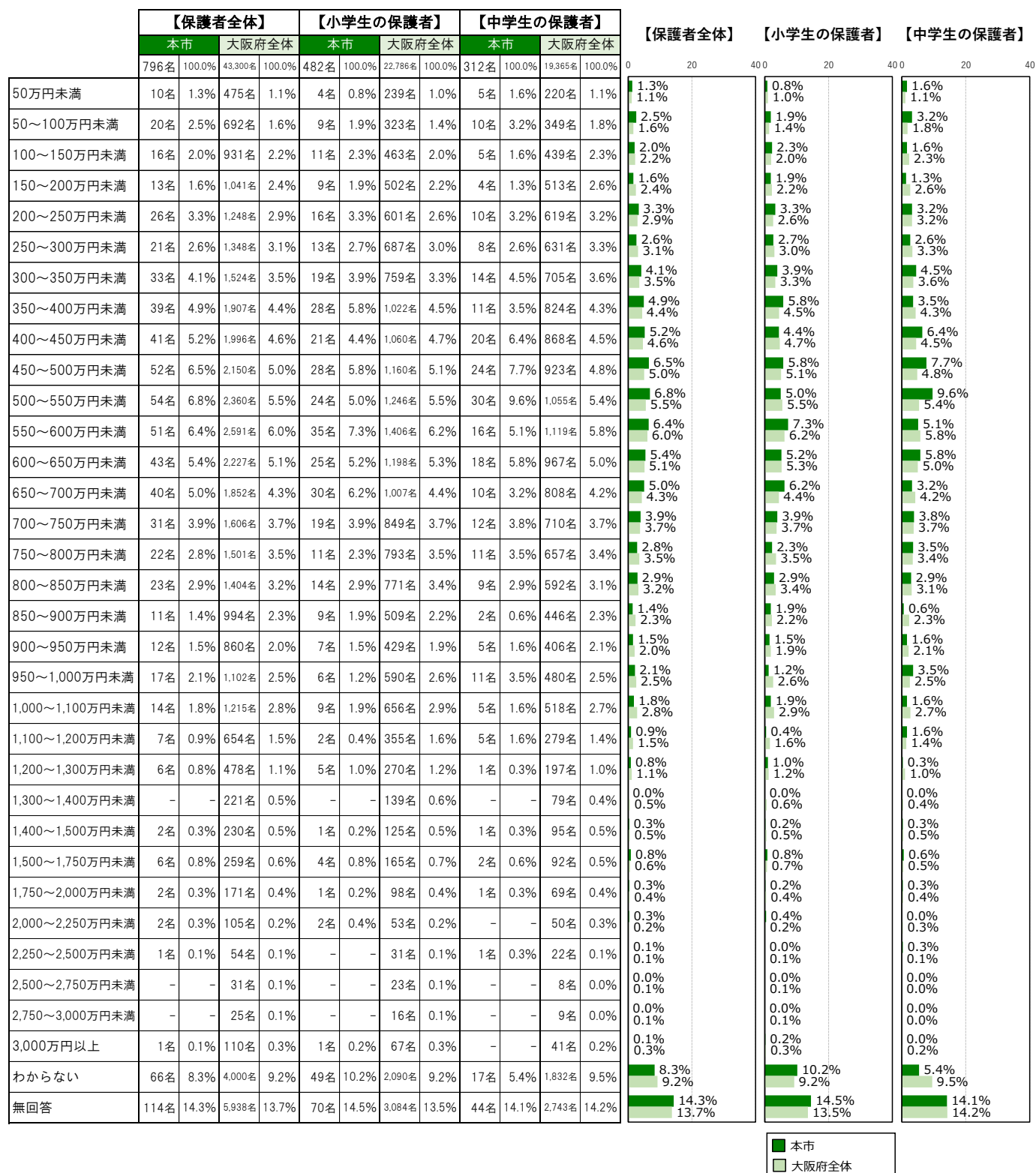
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「500～550万円未満」が6.8%で最も多く、次いで「450～500万円未満」が6.5%、「550～600万円未満」が6.4%、「600～650万円未満」が5.4%となっている。

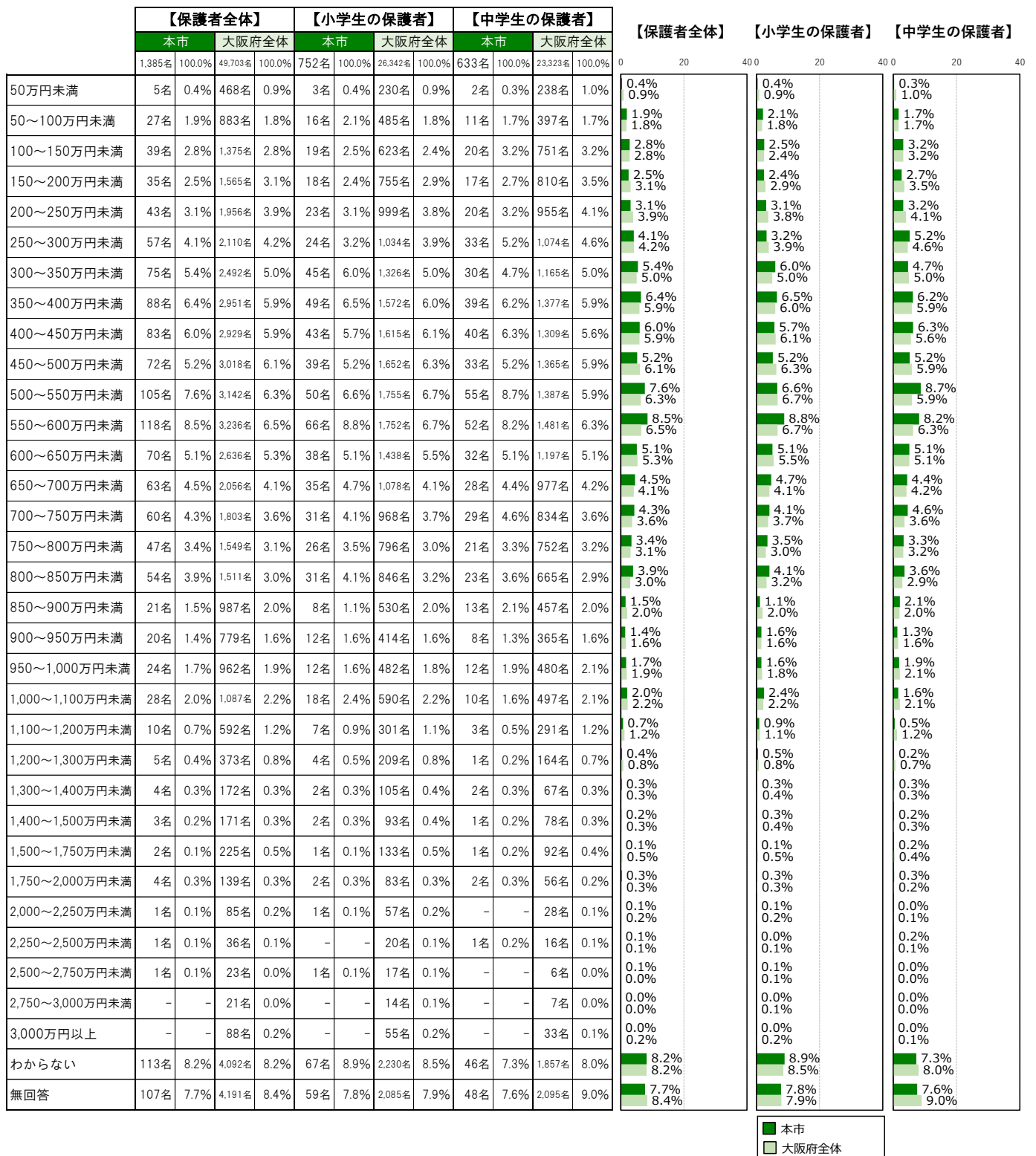
小学生の保護者は、「550～600万円未満」が7.3%で最も多く、次いで「650～700万円未満」が6.2%、「350～400万円未満」、「450～500万円未満」がそれぞれ5.8%、「600～650万円未満」が5.2%となっている。

中学生の保護者は、「500～550万円未満」が9.6%で最も多く、次いで「450～500万円未満」が7.7%、「400～450万円未満」が6.4%、「600～650万円未満」が5.8%となっている。



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「550～600万円未満」が2.1ポイント低くなっている。
 小学生の保護者は、「300～350万円未満」が2.1ポイント低くなっている。
 中学生の保護者は、「550～600万円未満」が3.1ポイント低くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

中央値以上	等価可処分所得最大値
困窮度Ⅲ	中央値 (端から数えて真ん中に位置する値)
困窮度Ⅱ	中央値の60%のライン
困窮度Ⅰ	中央値の50%のライン
	等価可処分所得最小値

図 困窮度の分類と基準

中央値は263万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は14.9%であった。
なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	616名	100.0%	32,493名	100.0%
中央値以上	309名	50.2%	16,393名	50.5%
困窮度Ⅲ	185名	30.0%	9,249名	28.5%
困窮度Ⅱ	30名	4.9%	1,671名	5.1%
困窮度Ⅰ	92名	14.9%	5,180名	15.9%

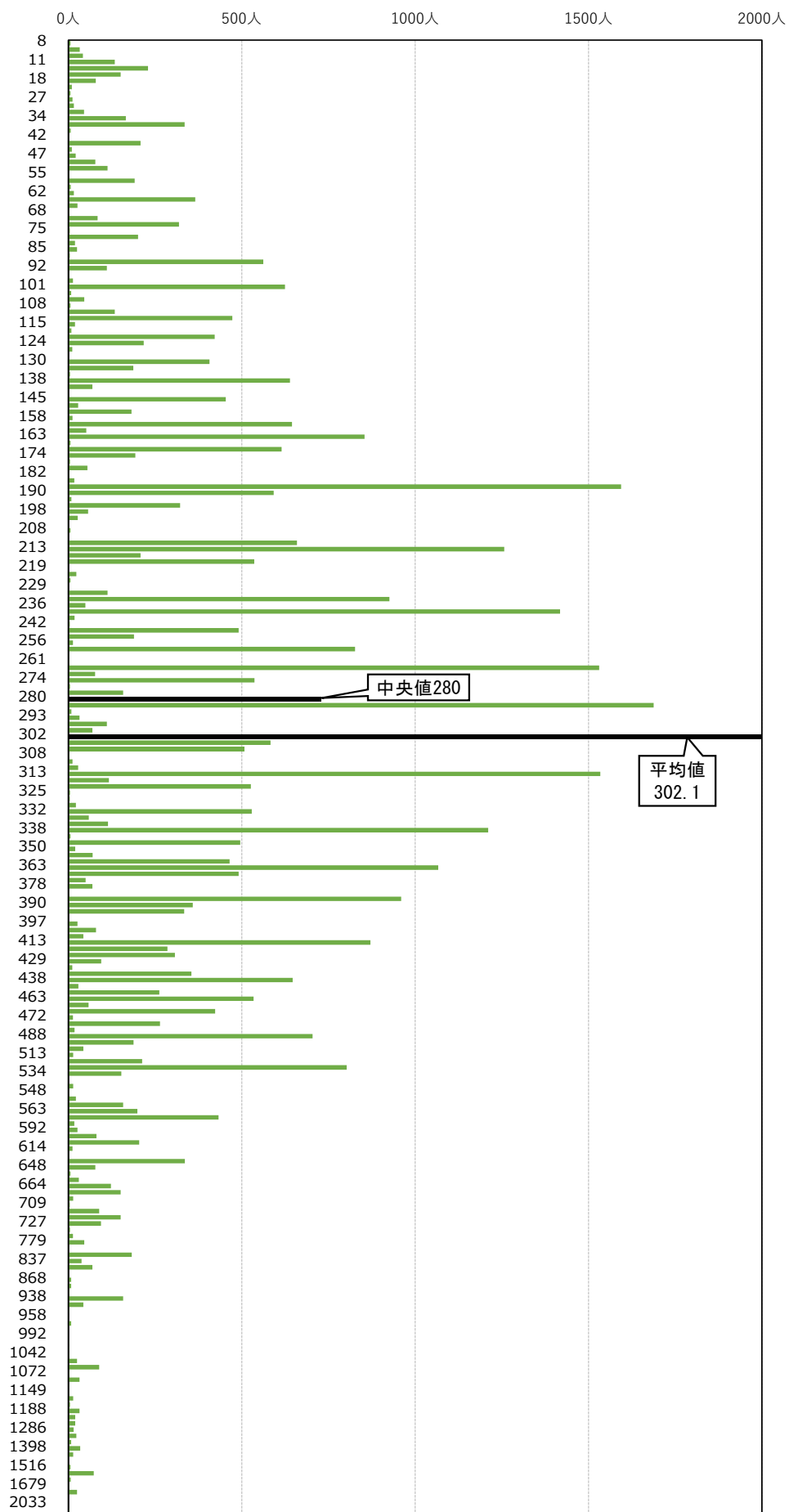
保護者全体は、「中央値以上」が50.2%、「困窮度Ⅲ」が30.0%、「困窮度Ⅱ」が4.9%、「困窮度Ⅰ」が14.9%となっている。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「中央値以上」は7.6ポイント高くなっている。

【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,385名	100.0%	40,996名	100.0%
中央値以上	590名	42.6%	20,570名	50.2%
困窮度Ⅲ	350名	25.3%	12,057名	29.4%
困窮度Ⅱ	63名	4.5%	2,245名	5.5%
困窮度Ⅰ	162名	11.7%	6,124名	14.9%



※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

保護者全体は、「いない」が26.4%で最も多く、次いで「2回」が15.7%、「1回」が14.3%、「4回」が13.8%となっている。

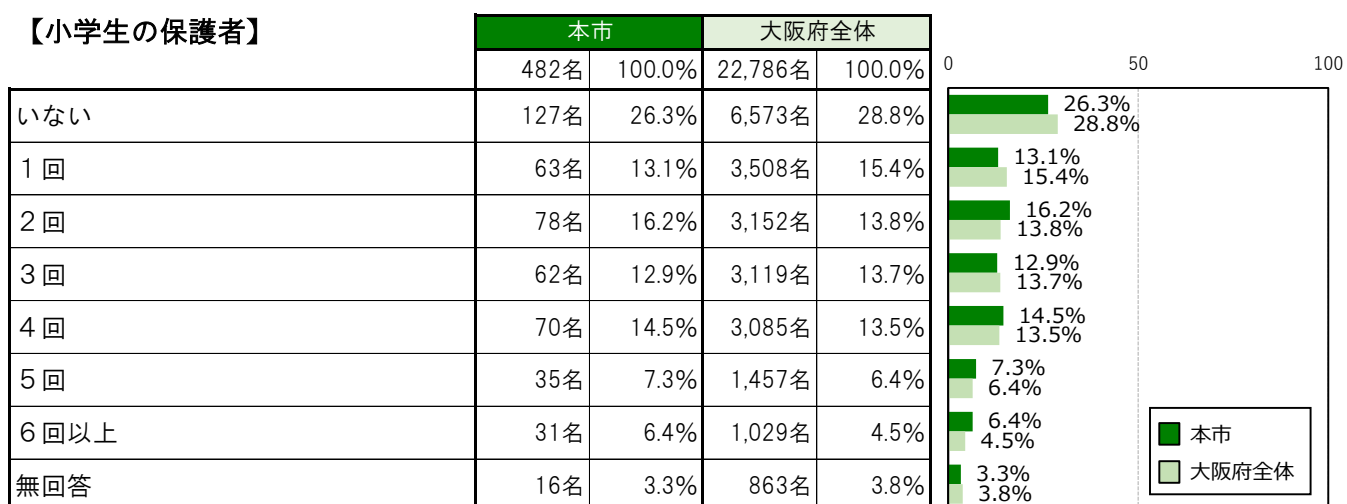
小学生の保護者は、「いない」が26.3%で最も多く、次いで「2回」が16.2%、「4回」が14.5%、「1回」が13.1%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が26.3%で最も多く、次いで「1回」が16.3%、「2回」、「3回」がそれぞれ15.1%、「4回」が12.8%となっている。

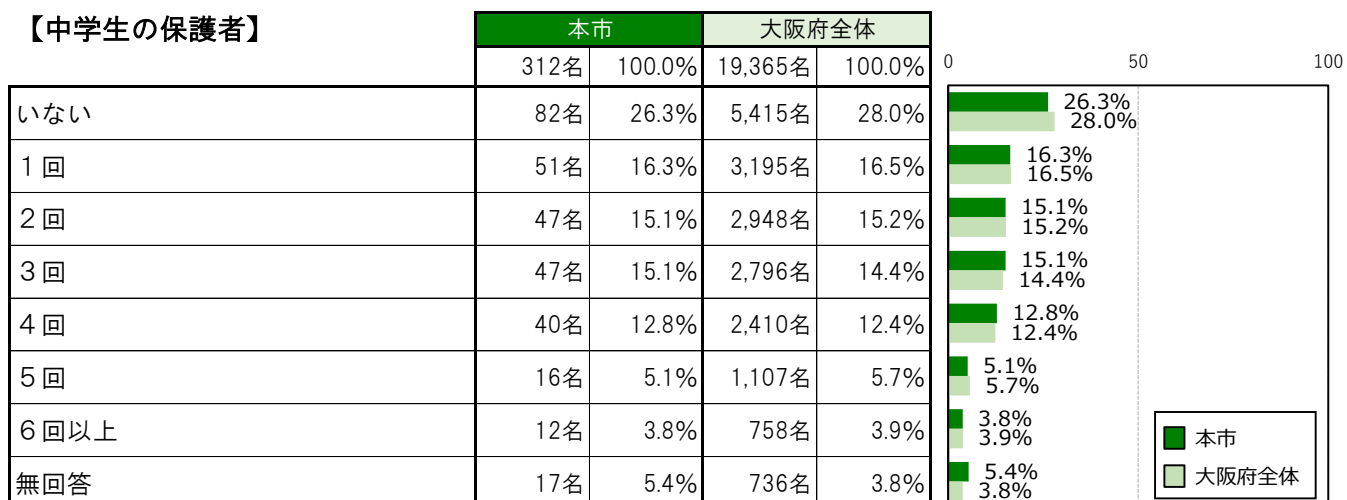
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

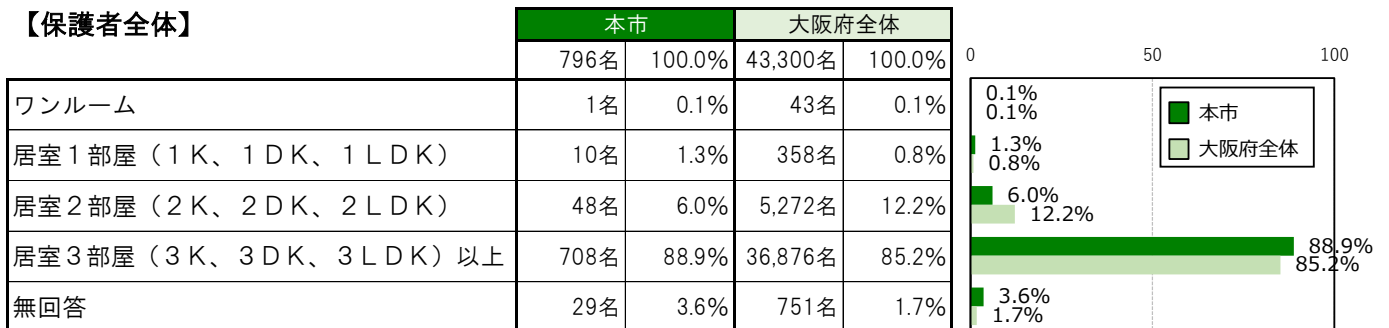
問26（１）住居の間取り

保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が88.9%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が6.0%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が1.3%、「ワンルーム」が0.1%となっている。

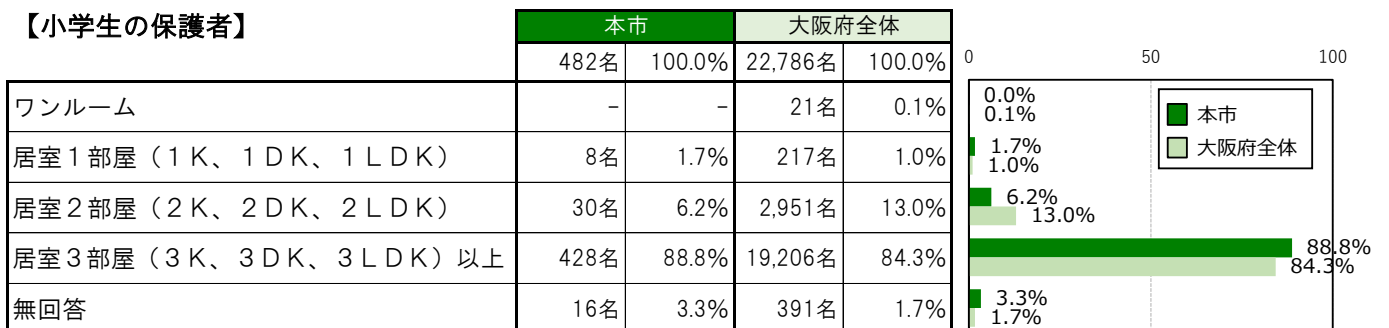
小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が88.8%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が6.2%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が1.7%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が89.7%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が5.4%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が0.6%となっている。

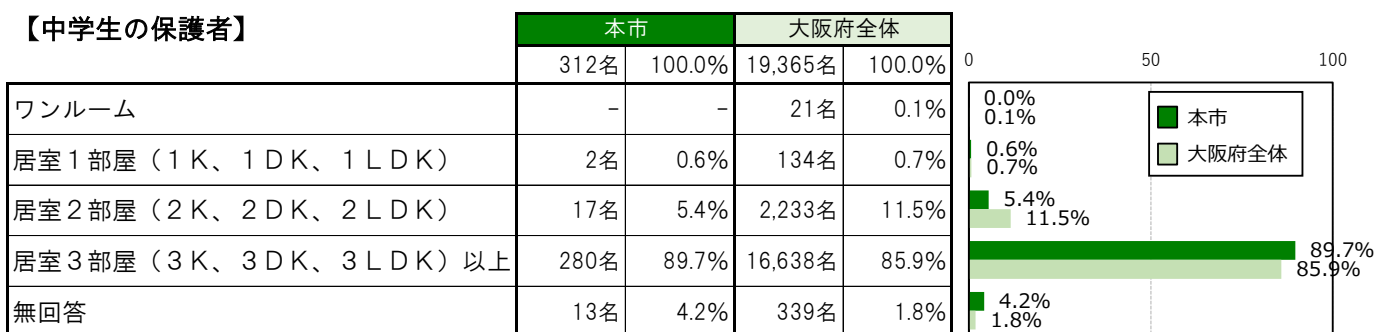
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

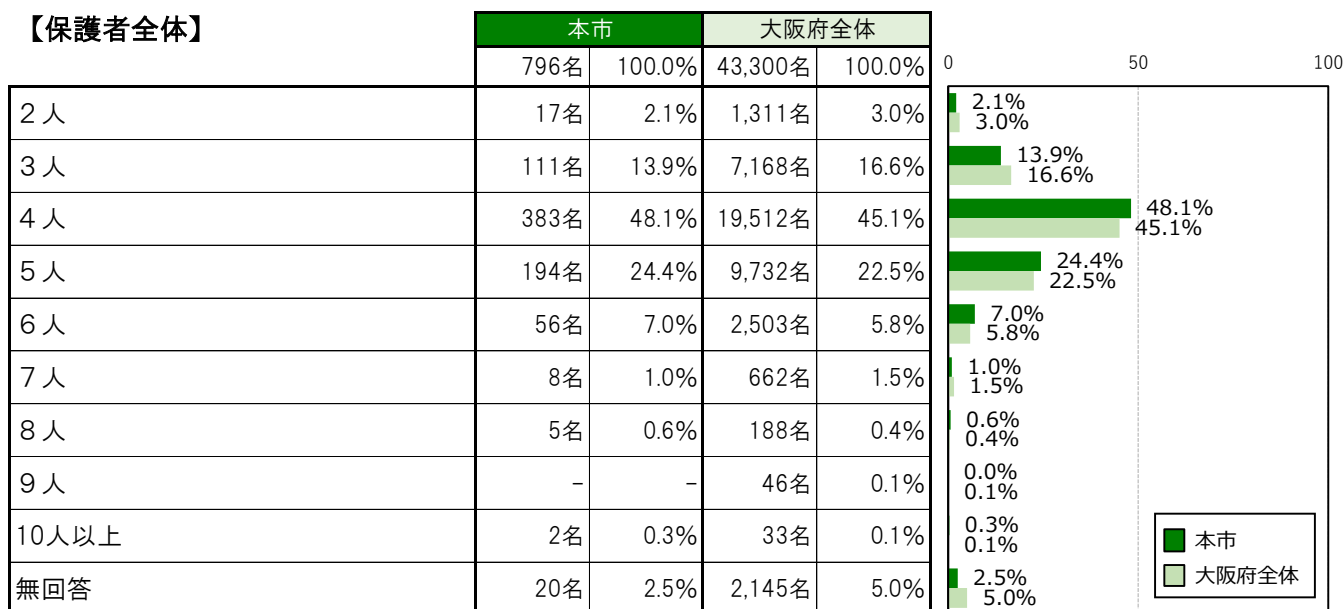
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が48.1%で最も多く、次いで「5人」が24.4%、「3人」が13.9%、「6人」が7.0%となっている。

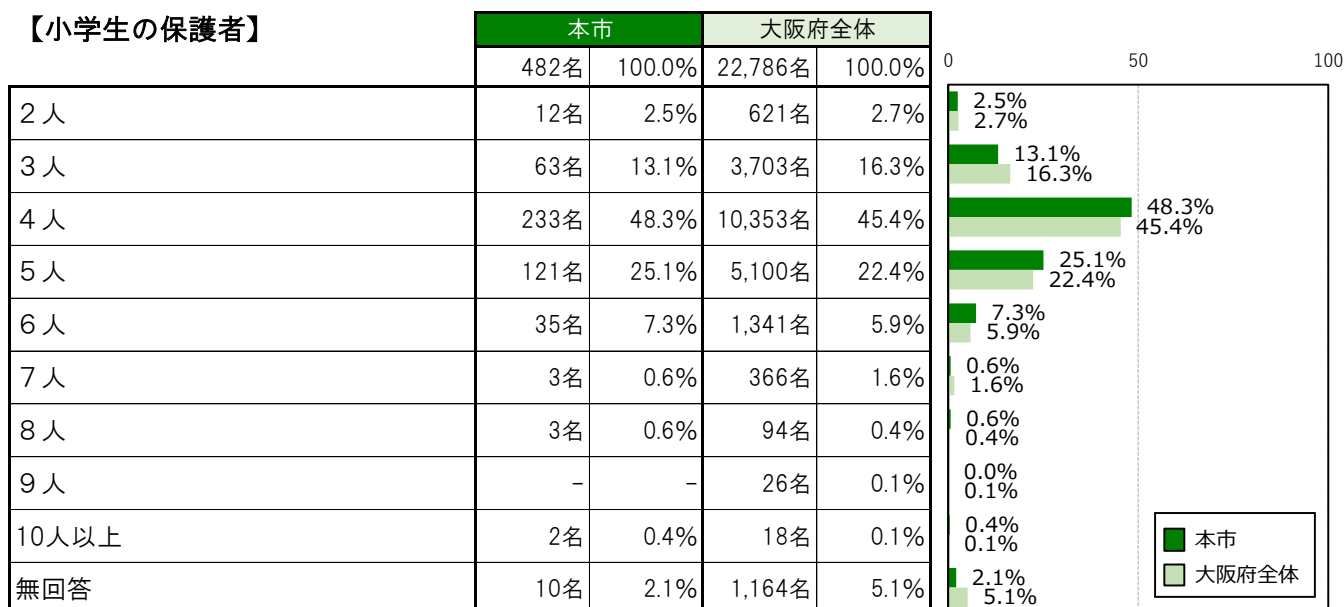
小学生の保護者は、「4人」が48.3%で最も多く、次いで「5人」が25.1%、「3人」が13.1%、「6人」が7.3%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が47.8%で最も多く、次いで「5人」が23.4%、「3人」が15.4%、「6人」が6.7%となっている。

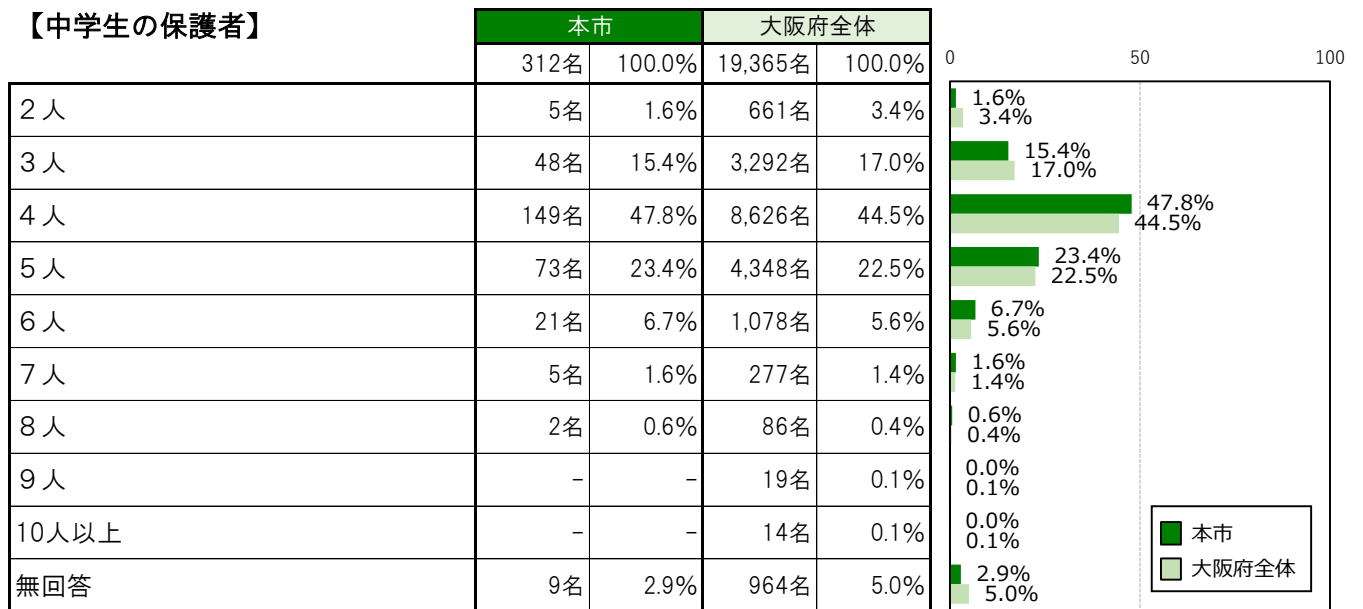
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



3. クロス集計および分析結果

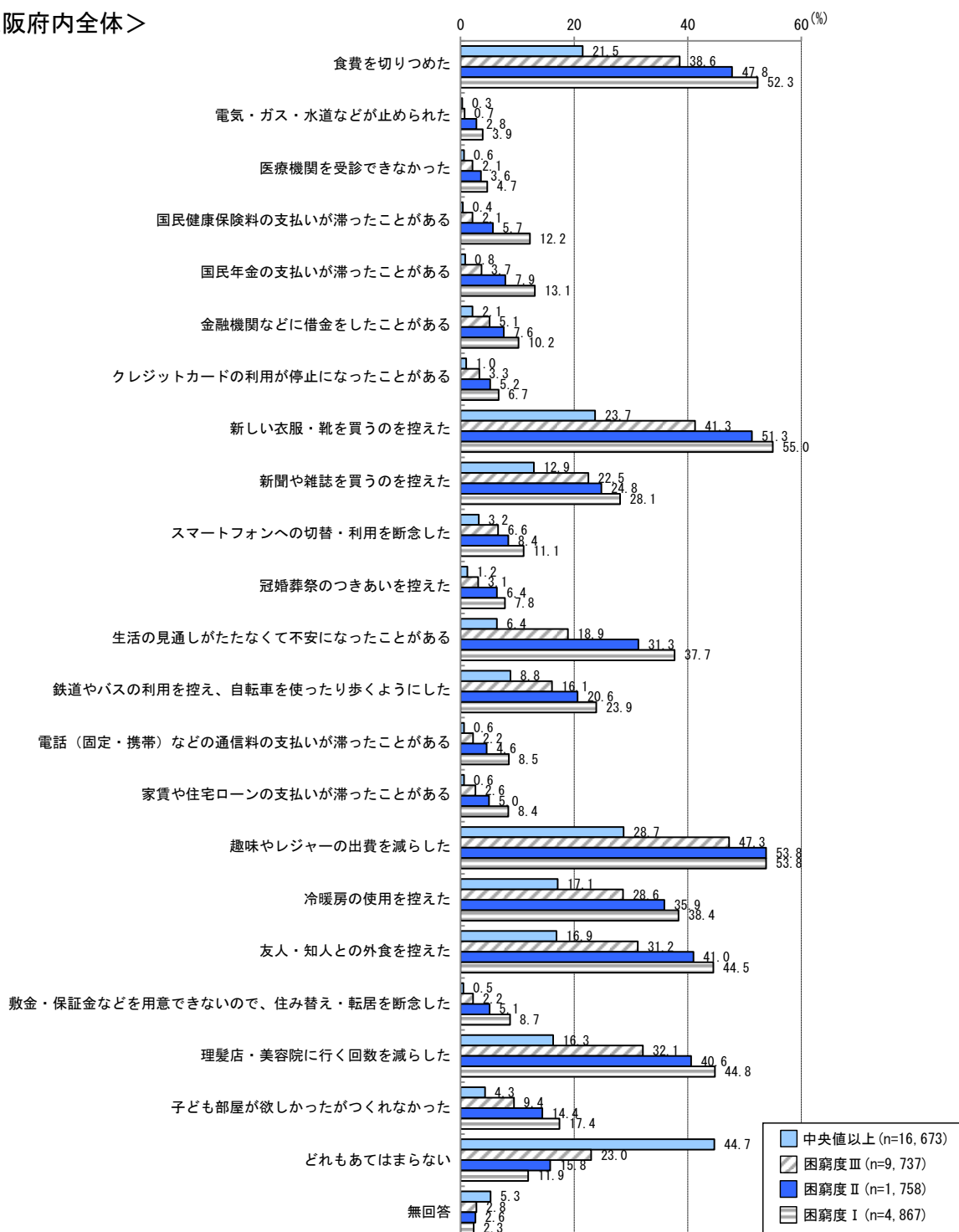
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

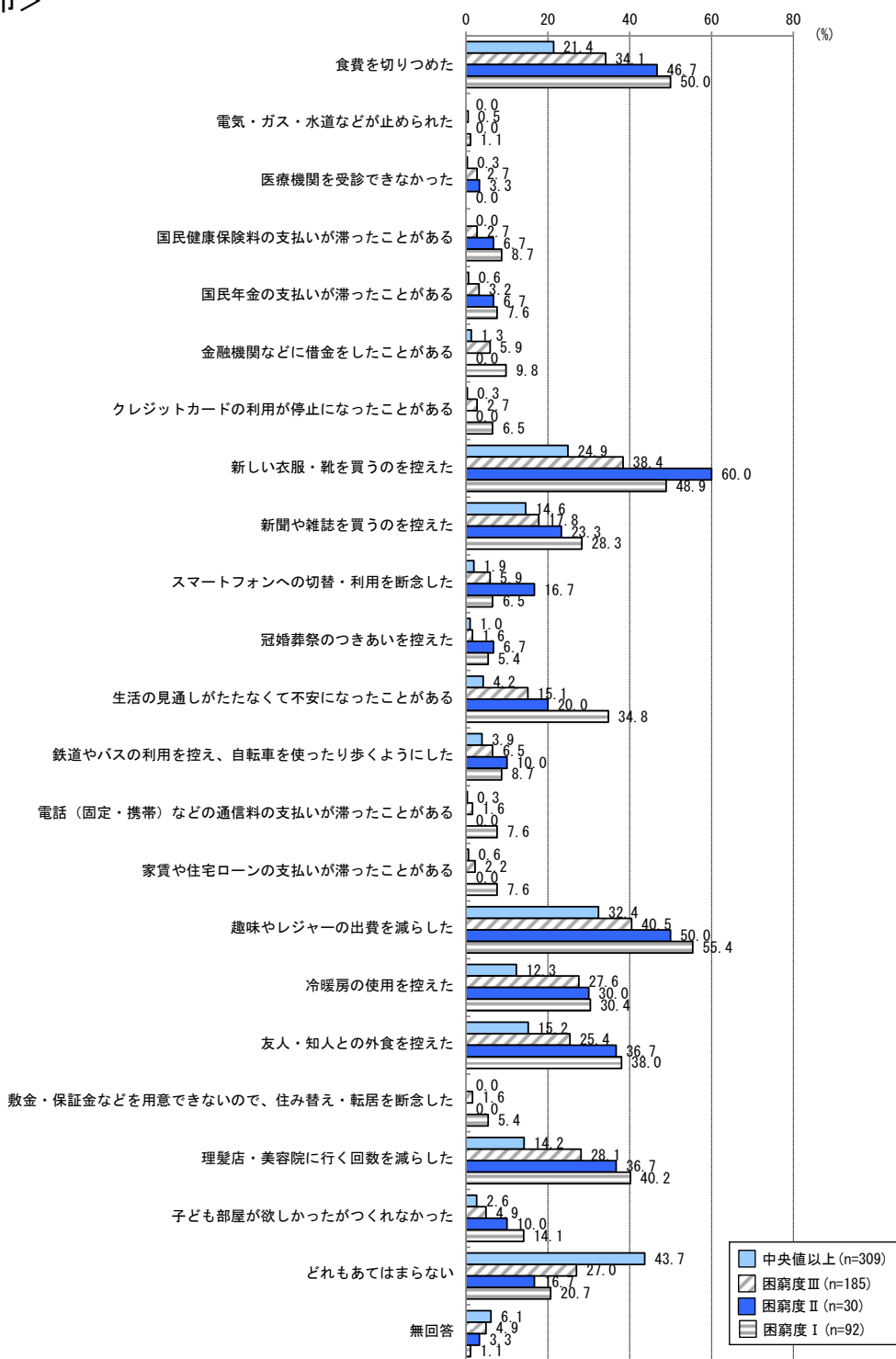
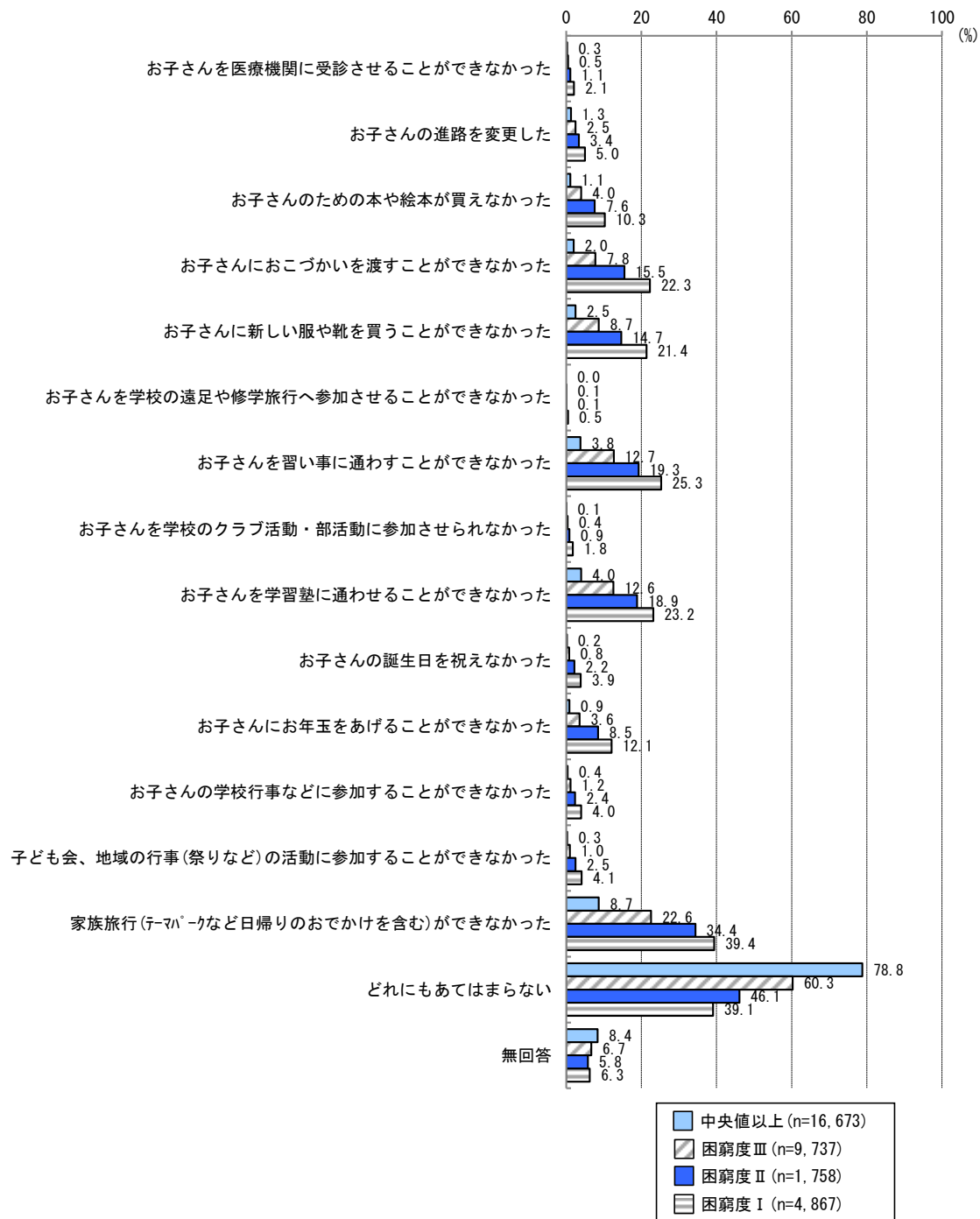


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある」が7.6%（中央値以上群に対して25.3倍）、「クレジットカードの利用が停止になったことがある」が6.5%（同じく21.7倍）、「国民年金の支払いが滞ったことがある」「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」がともに7.6%（同じくともに12.7倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で43.7%に対して、困窮度Ⅰ群において20.7%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

＜大阪府内全体＞



＜泉佐野市＞

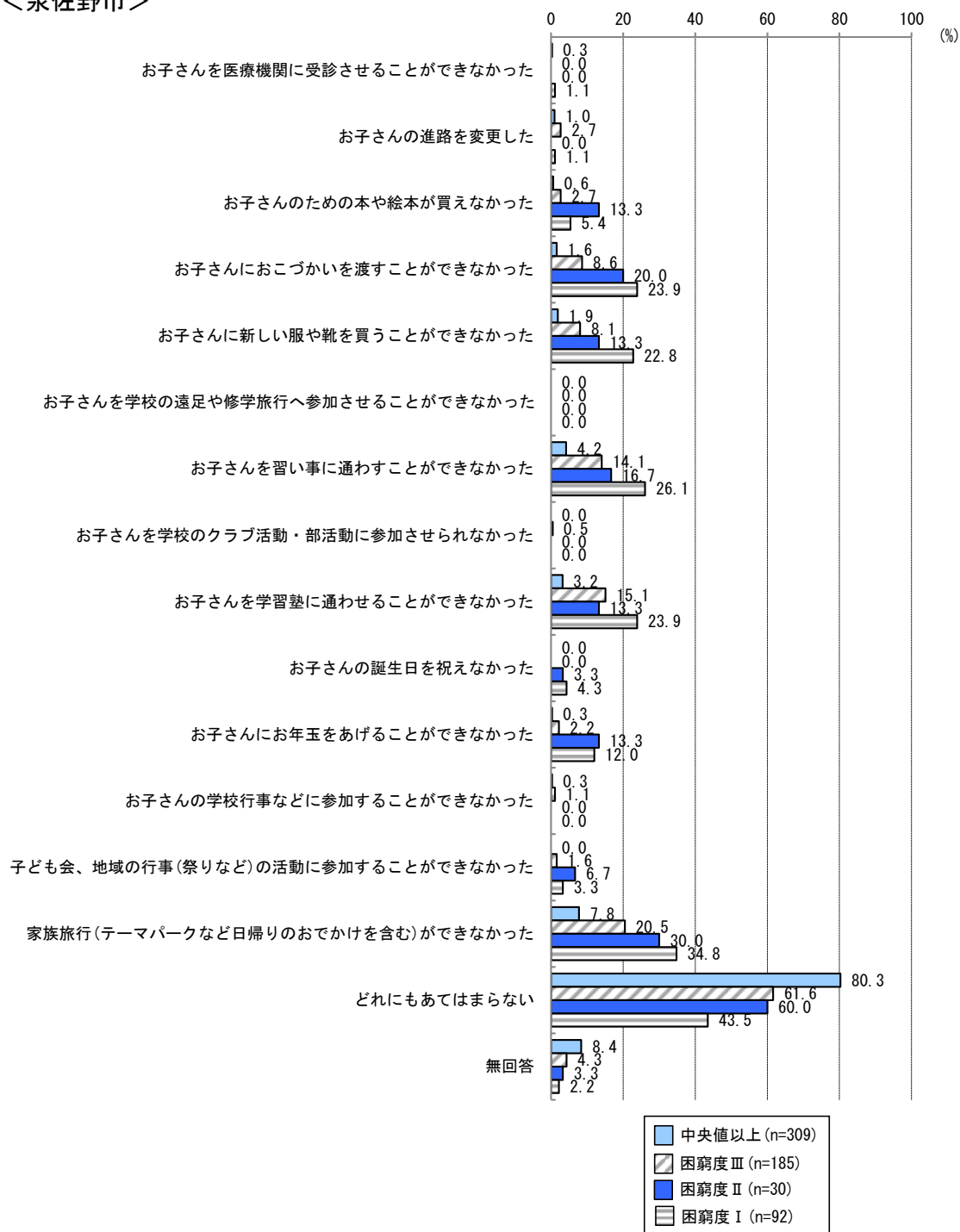


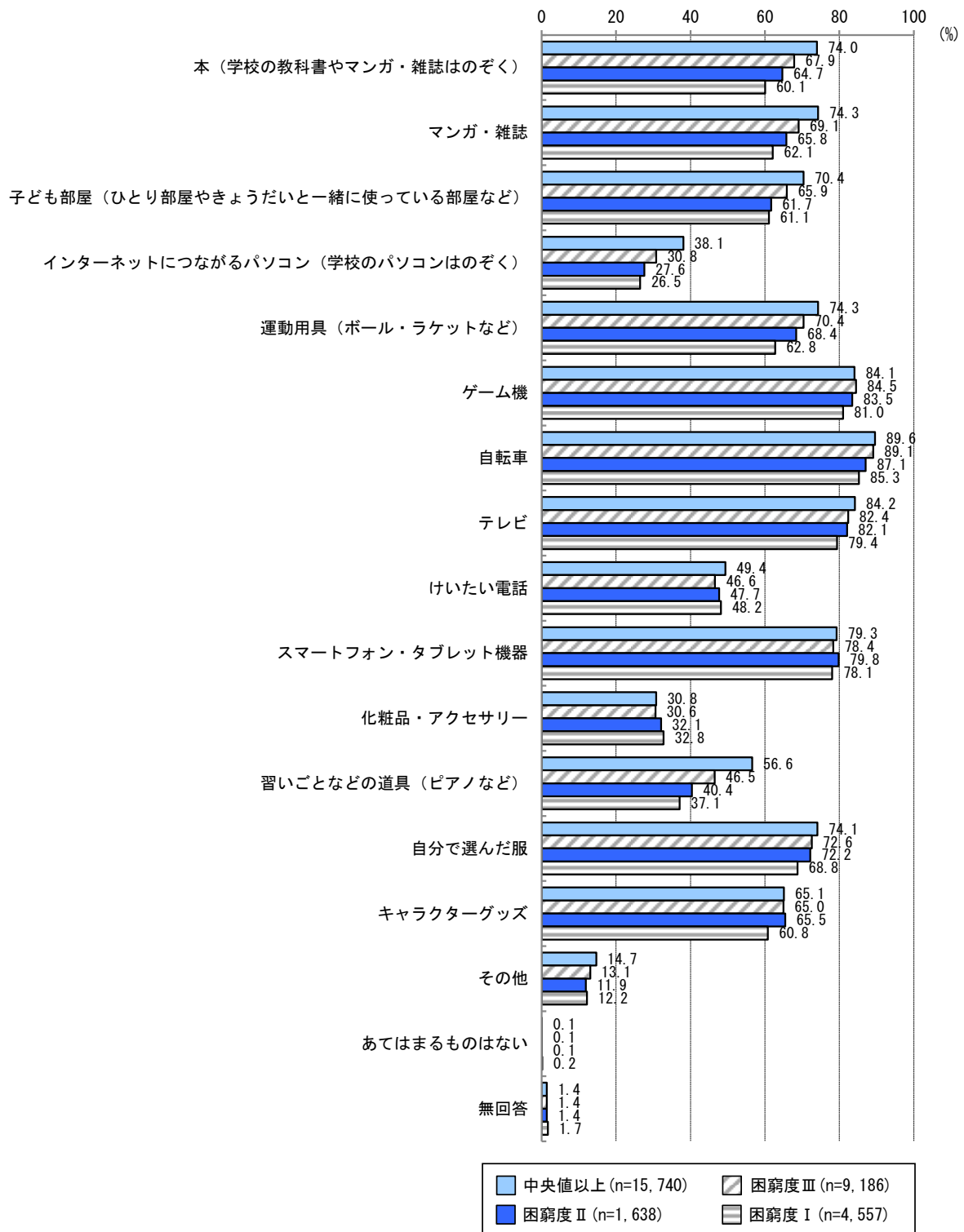
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が12.0%（中央値以上群に対して40.0倍）、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が23.9%（同じく14.9倍）、「お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった」が22.8%（同じく12.0倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で80.3%に対して、困窮度Ⅰ群において43.5%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

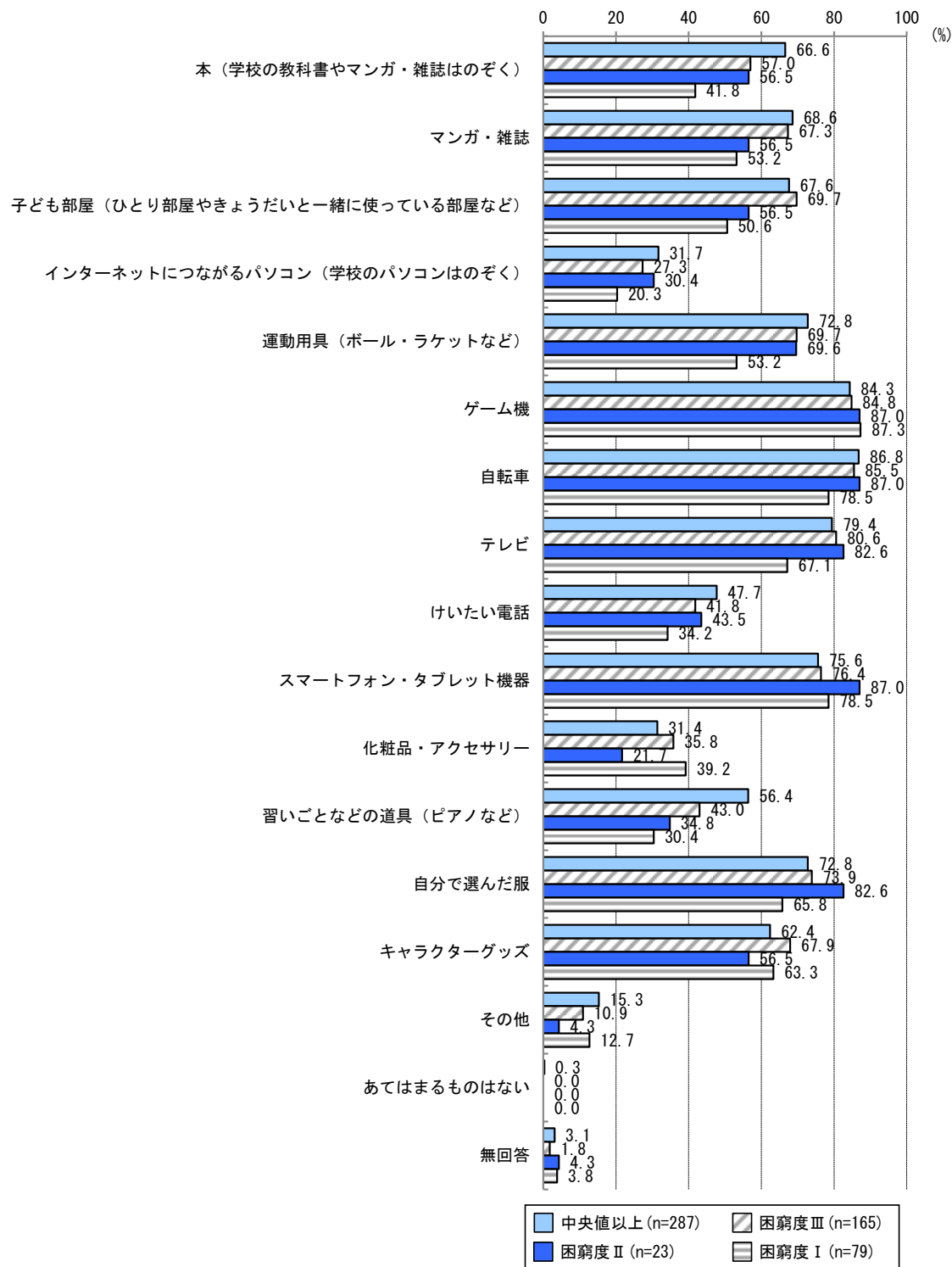
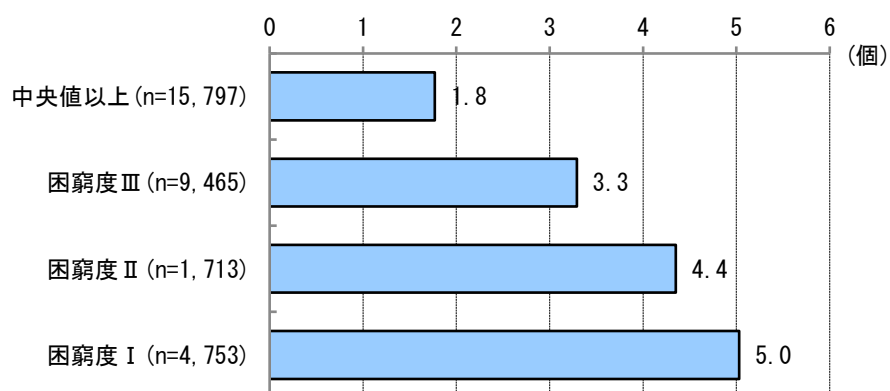


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」が56.4%（中央値以上群に対して1.9倍）、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が66.6%（同様に1.6倍）、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」が31.7%（同様に1.6倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

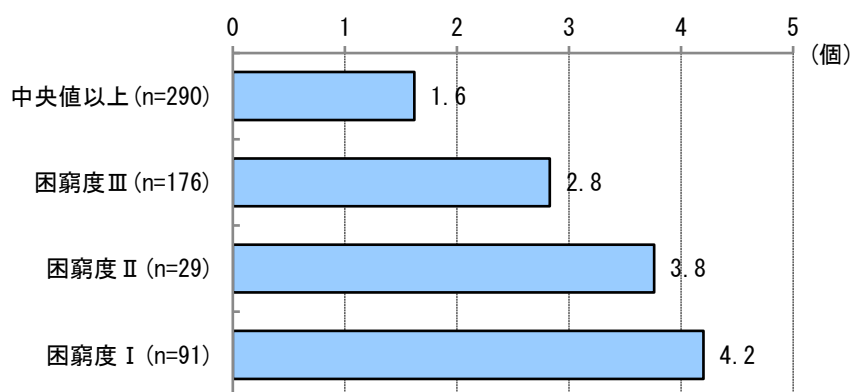


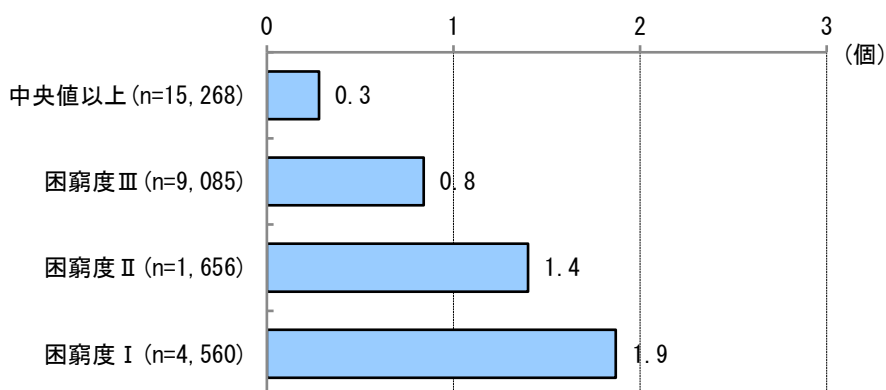
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

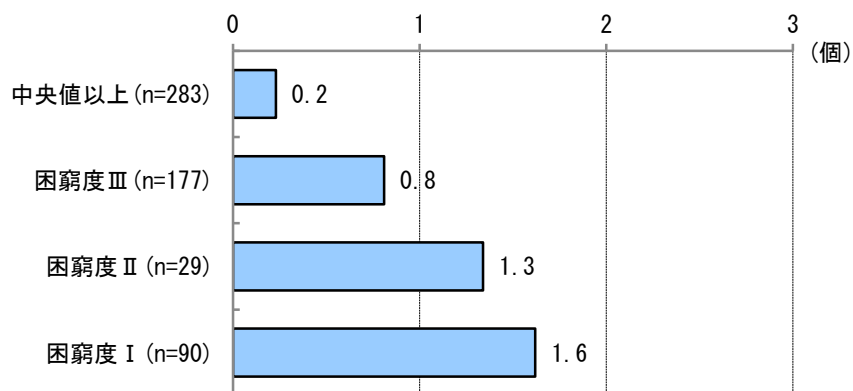


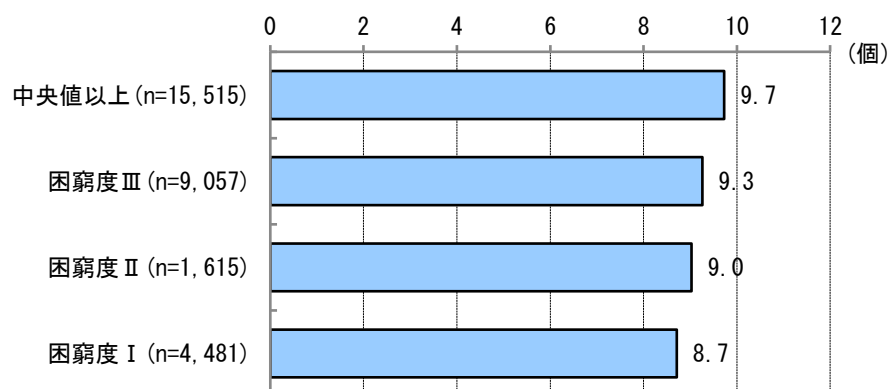
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

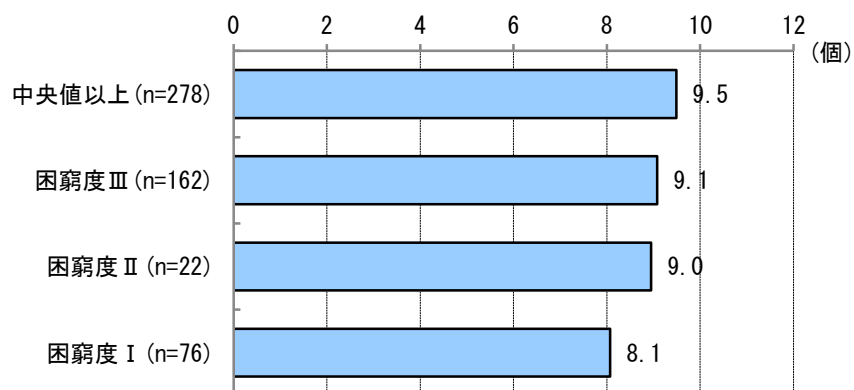


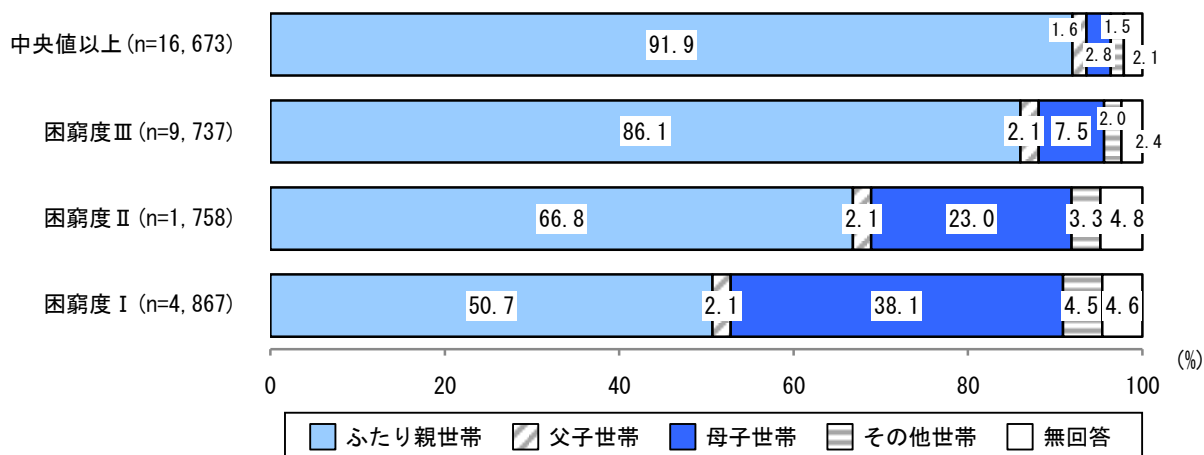
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、持っているもの、使うことができるものの該当数は少なくなっていることがみられた。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

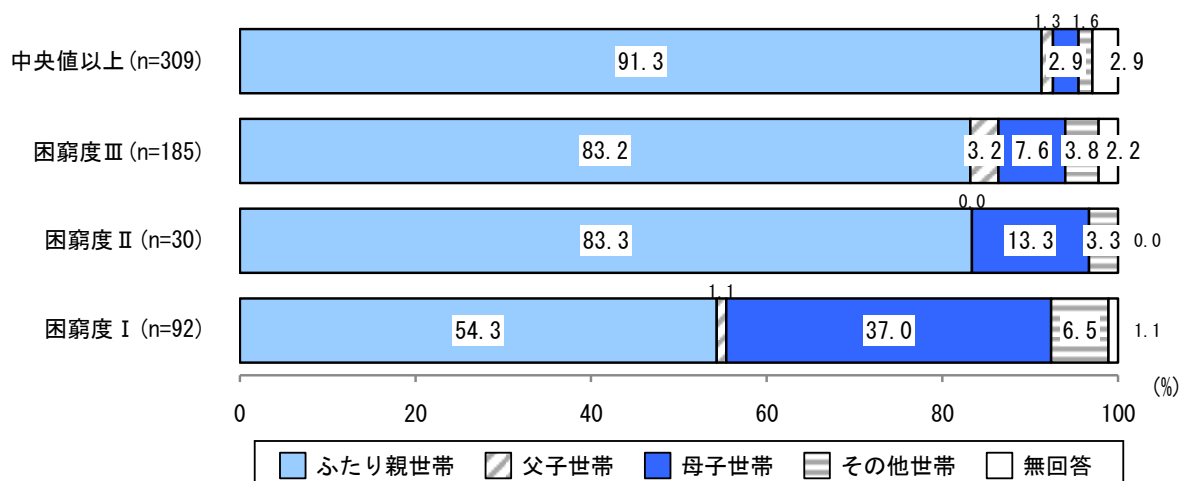


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が91.3%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は54.3%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が2.9%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は37.0%だった。

<2016年度調査との比較／泉佐野市>

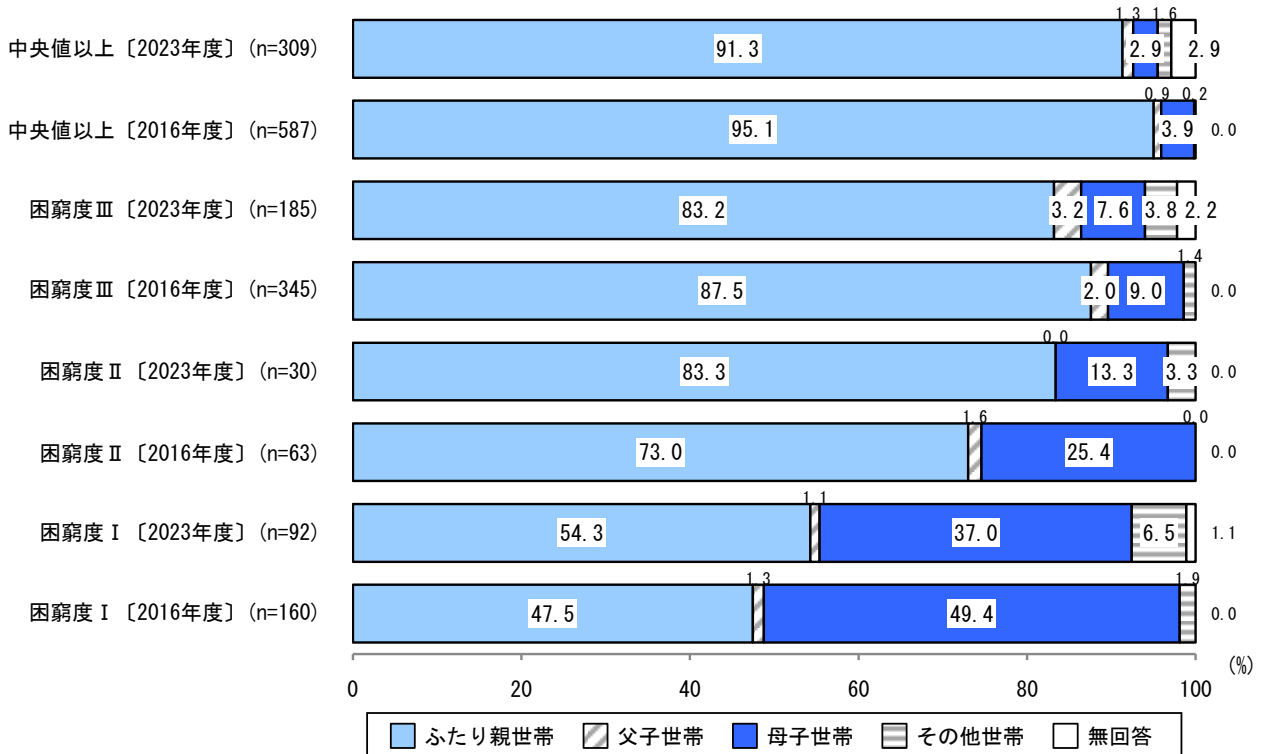
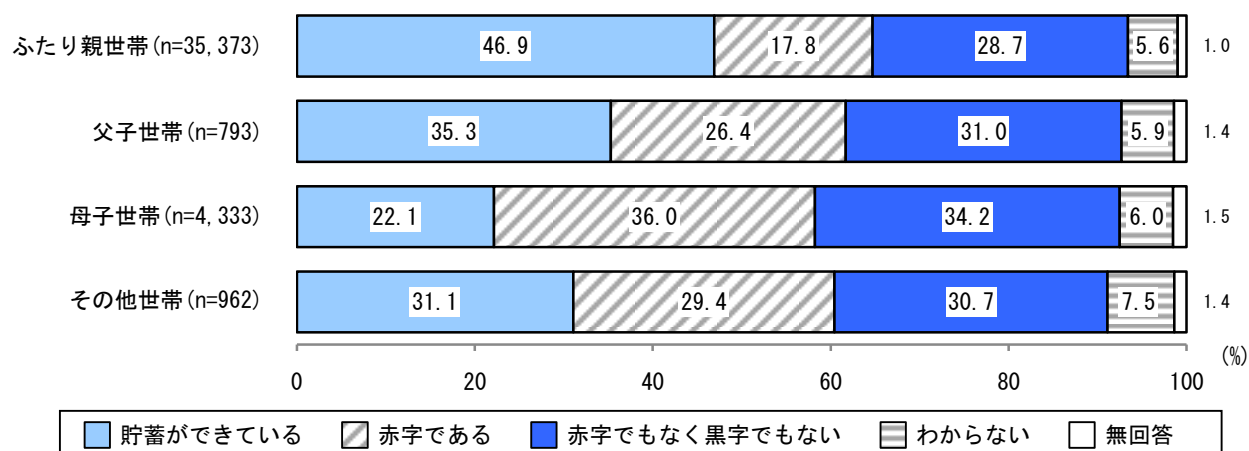


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群において2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、「母子世帯」はいずれの困窮度も2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

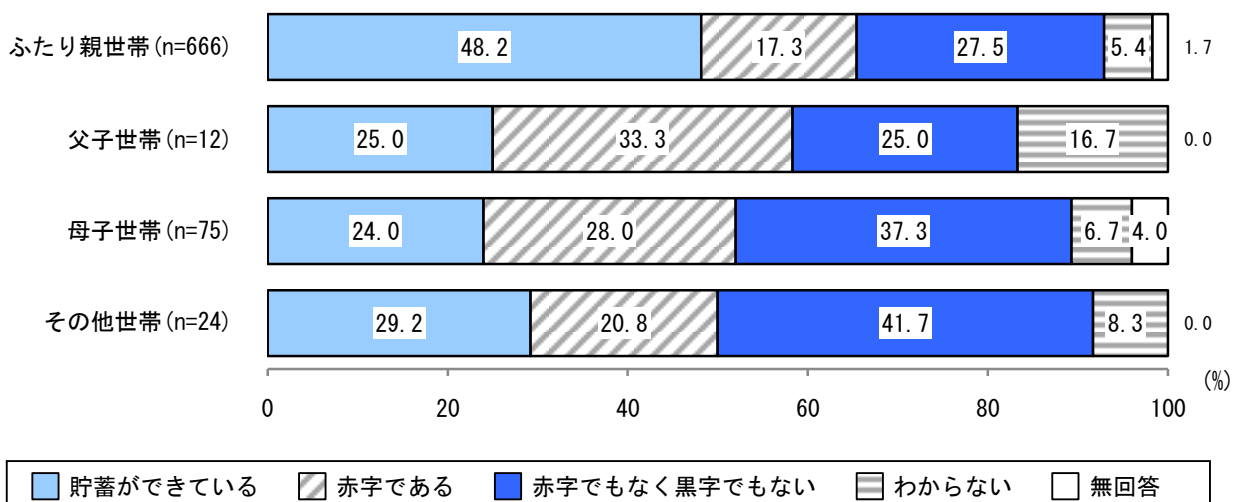
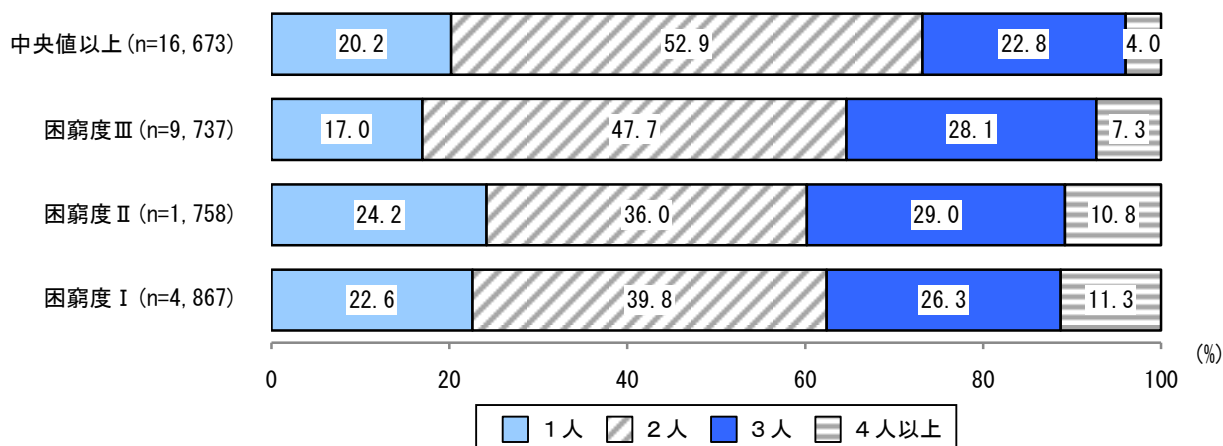


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が48.2%なのに対して、父子世帯25.0%、母子世帯24.0%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が17.3%なのに対して、父子世帯は33.3%、母子世帯は28.0%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

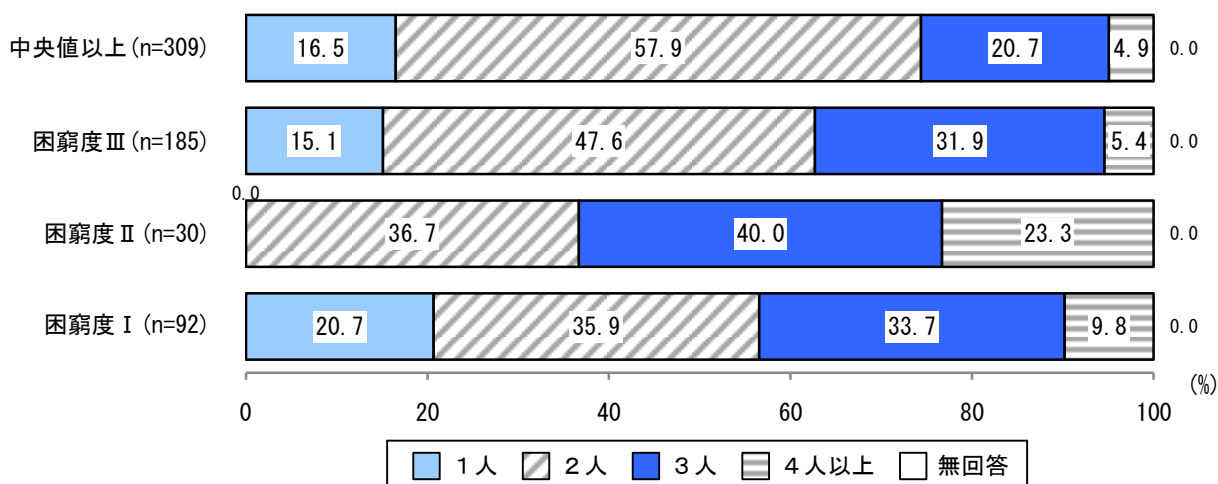
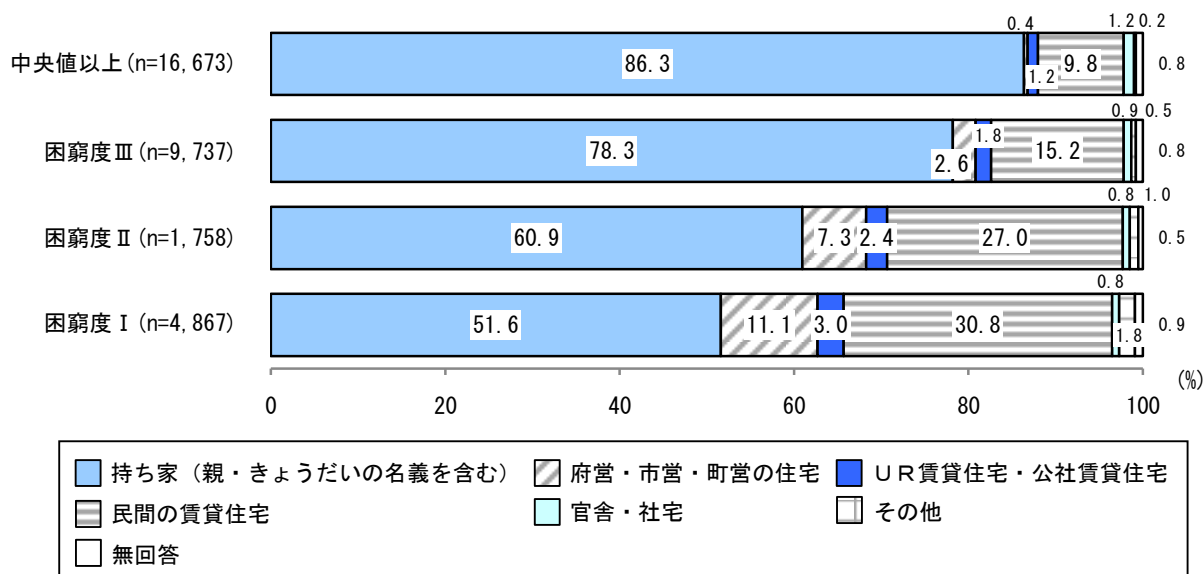


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が25.6%（3人20.7%、4人以上4.9%）であるのに対して、困窮度Ⅱ群では、3人以上が63.3%（3人40.0%、4人以上23.3%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

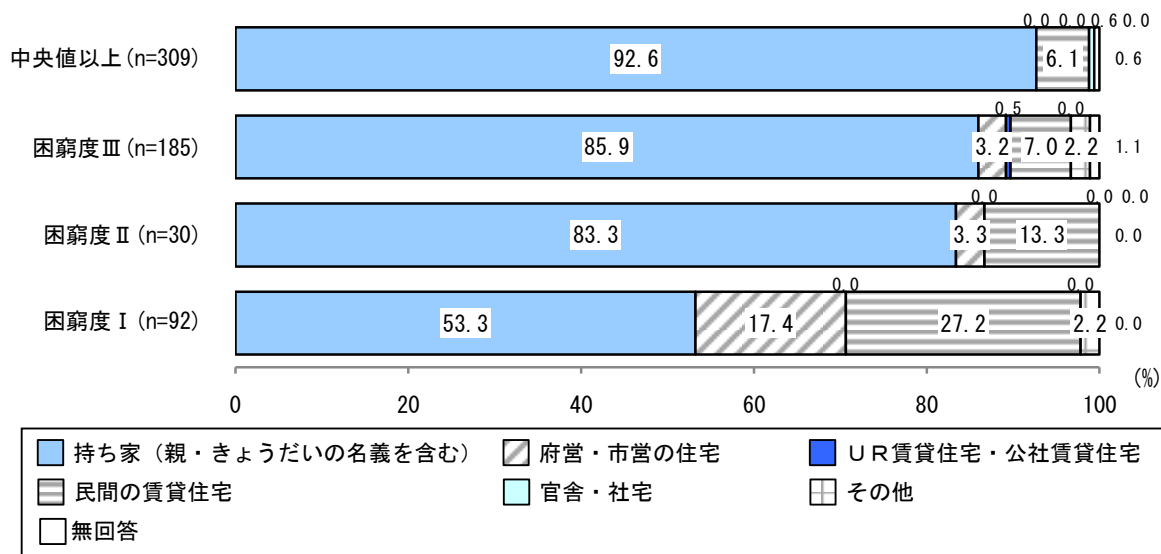
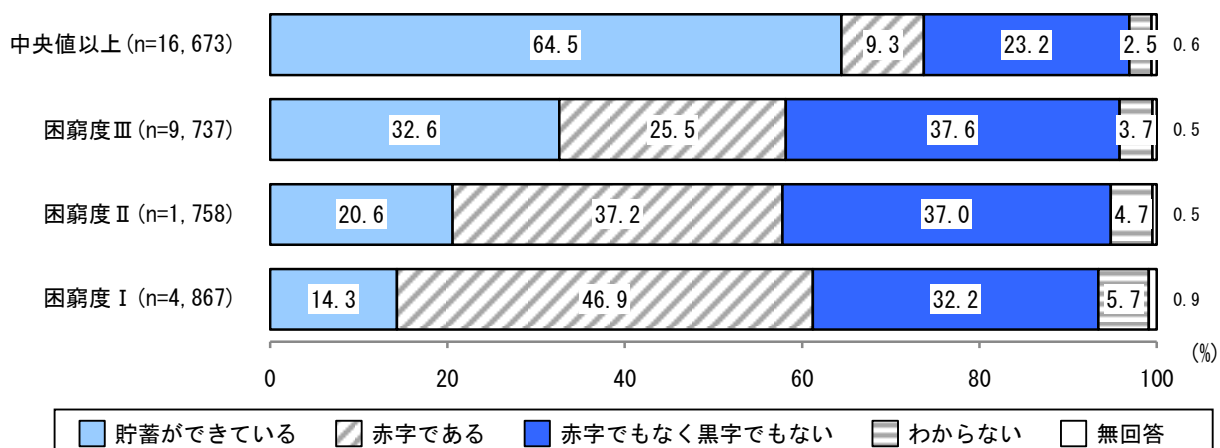


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は92.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、53.3%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

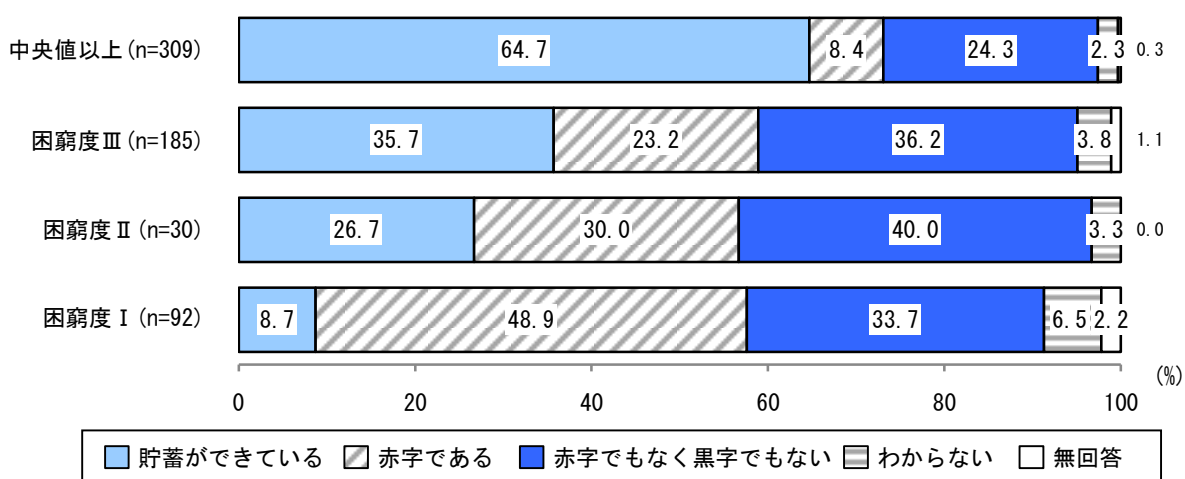
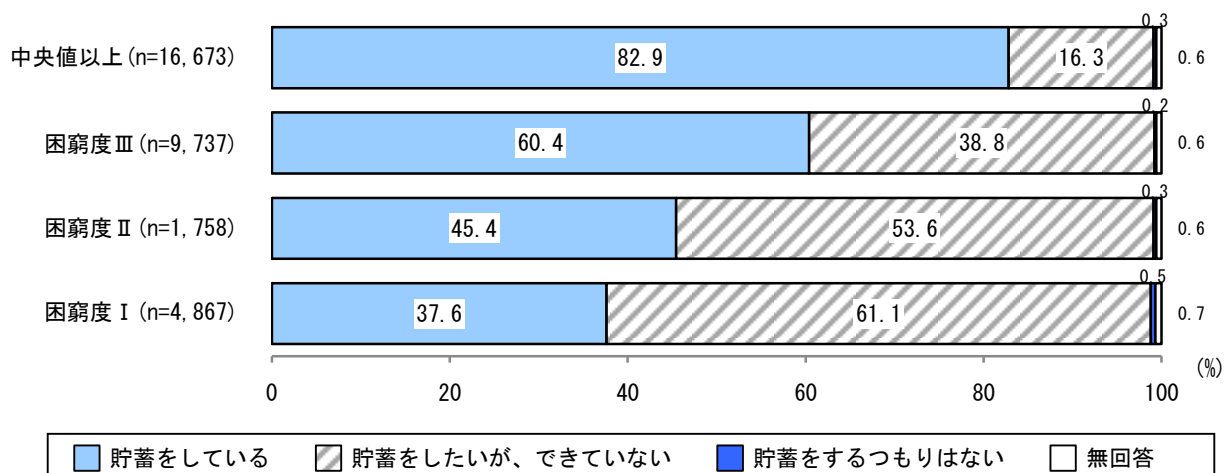


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができている」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、8.4%であるのに対して、困窮度Ⅰ群で48.9%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

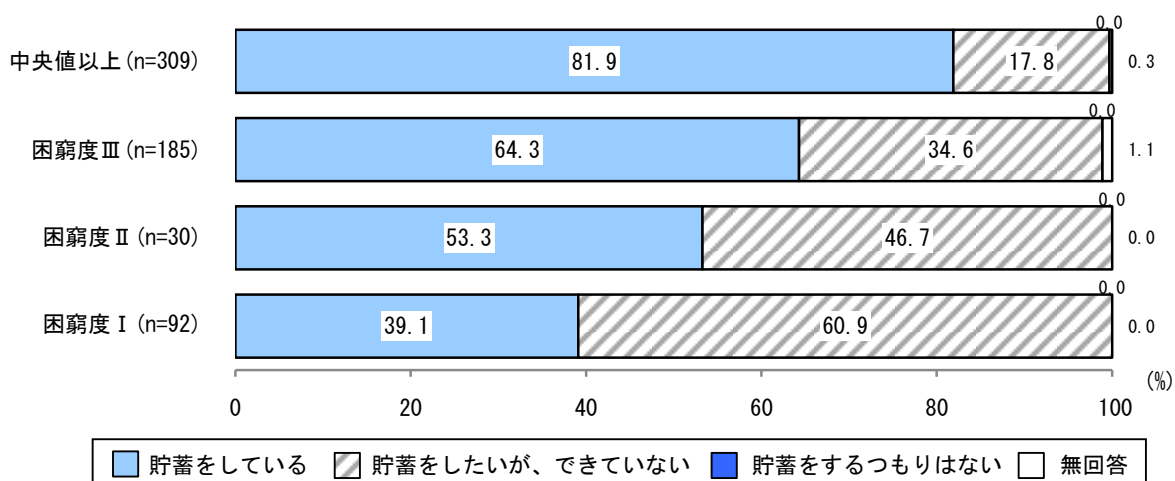
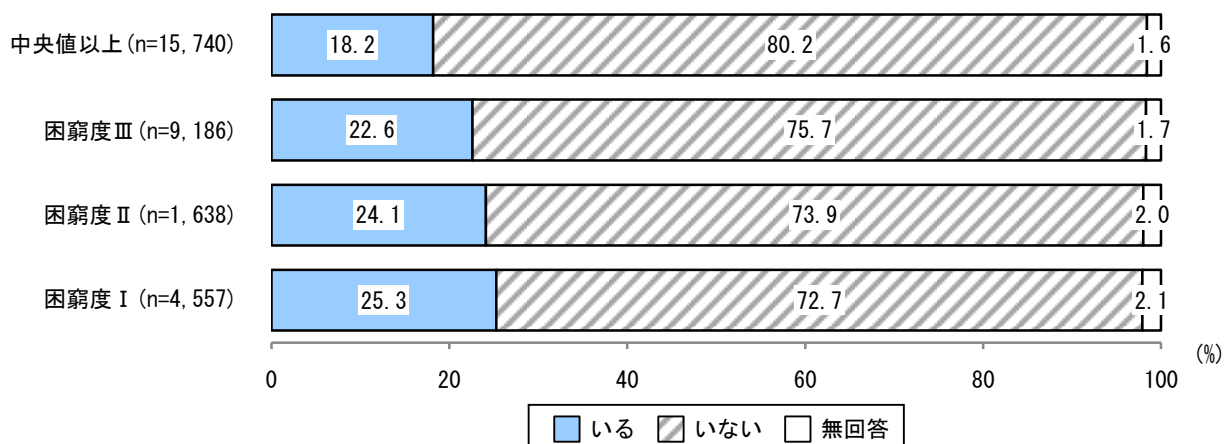


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が81.9%を占めたが、困窮度Ⅰ群では39.1%にとどまり、約6割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

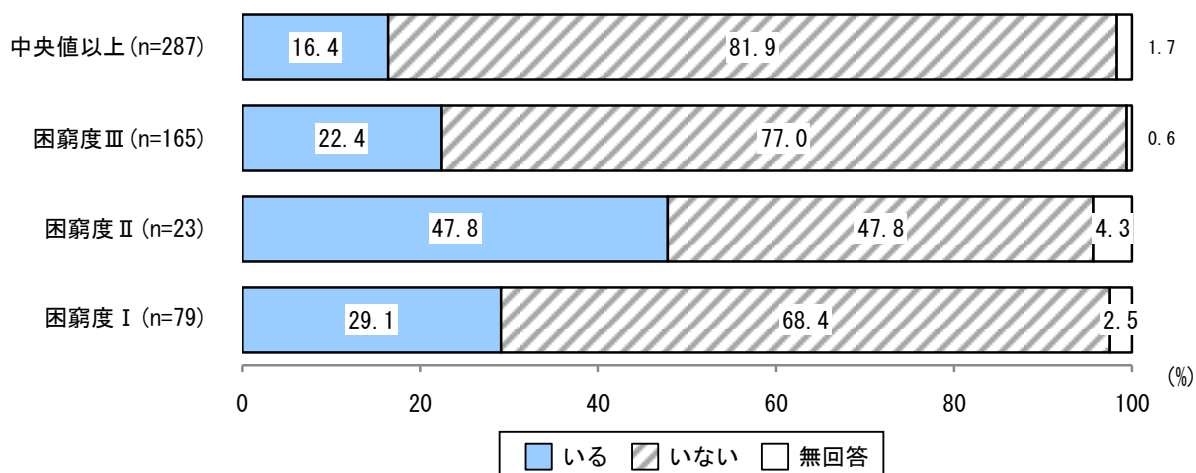


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で47.8%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が81.9%を占め、最も高くなっている。

＜経済状況に関する考察＞

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で43.7%に対して、困窮度Ⅰ群では20.7%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」（1.1%対該当なし）、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」（7.6%対0.6%）、「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」（7.6%対0.3%）と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」（7.6%対0.6%）と回答した割合が高くなっており、子どもの親（保護者）の将来（老後）の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」（34.8%対4.2%）と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」（26.1%対4.2%）、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」（23.9%対3.2%）と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかった」（34.8%対7.8%）といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では80.3%であり、困窮度Ⅰ群でも43.5%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている（81.9%対39.1%）。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており（60.9%対17.8%）、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク（病気や進路選択など）に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%（令和3年度実施）、中学2年生で5.7%（令和2年度実施）と報告されている（『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告（令和3年5月17日）』）。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

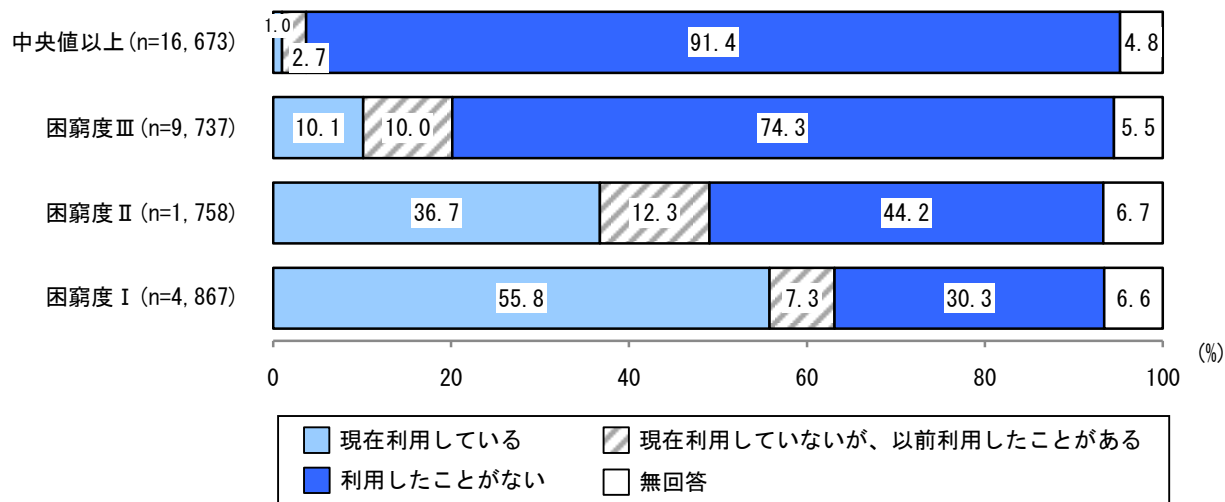
全国の状況を踏まえて、泉佐野市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、

全体においては19.6%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて「いる」と答えた割合が高くなっている（29.1%対16.4%）。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した3人に1人程度が、中央値以上群では、6人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、泉佐野市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

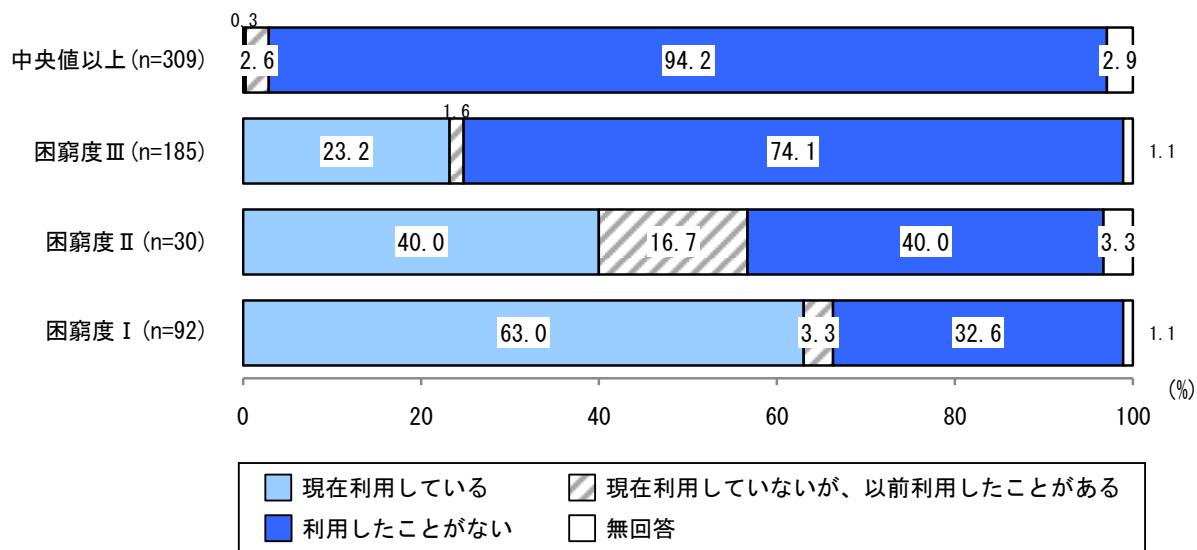
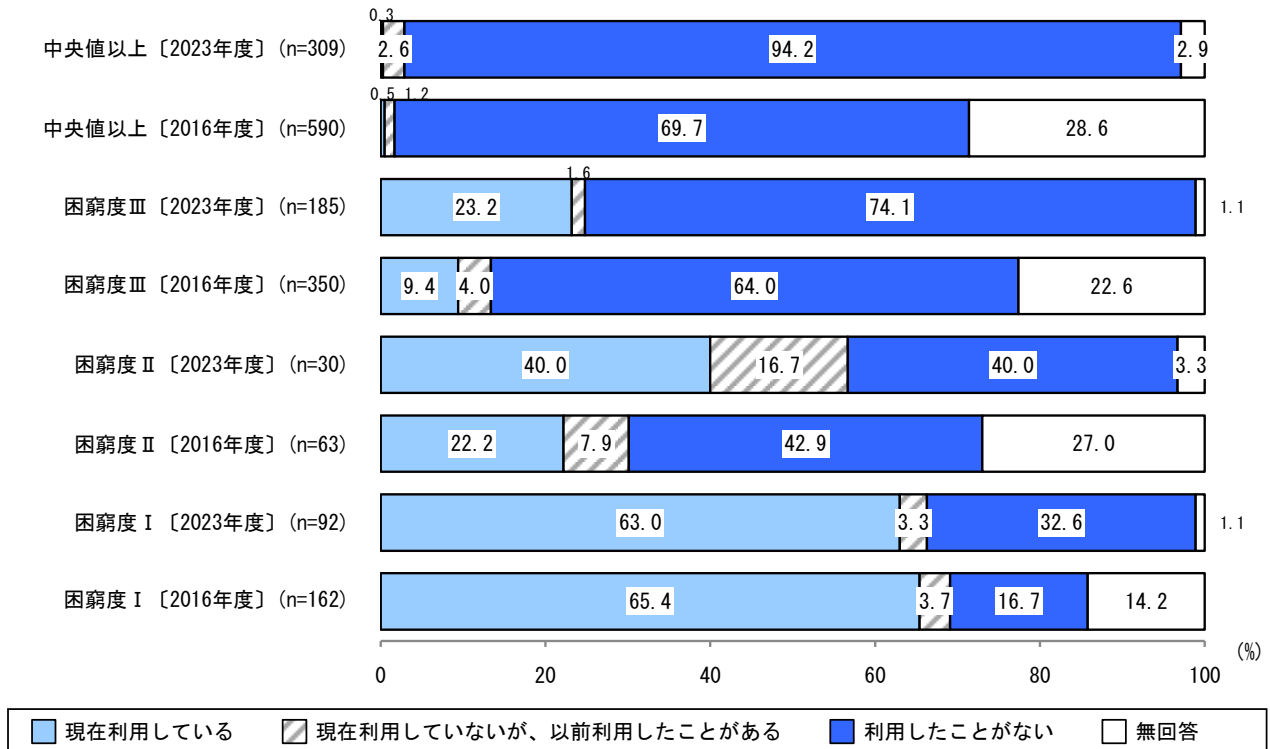


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／泉佐野市>



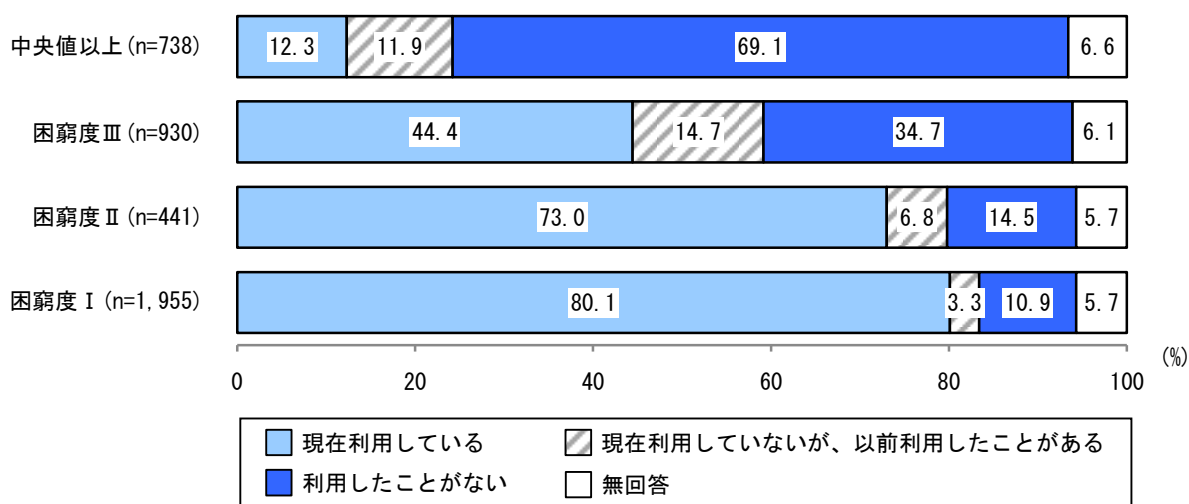
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅱ群は2016年度調査に比べて高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

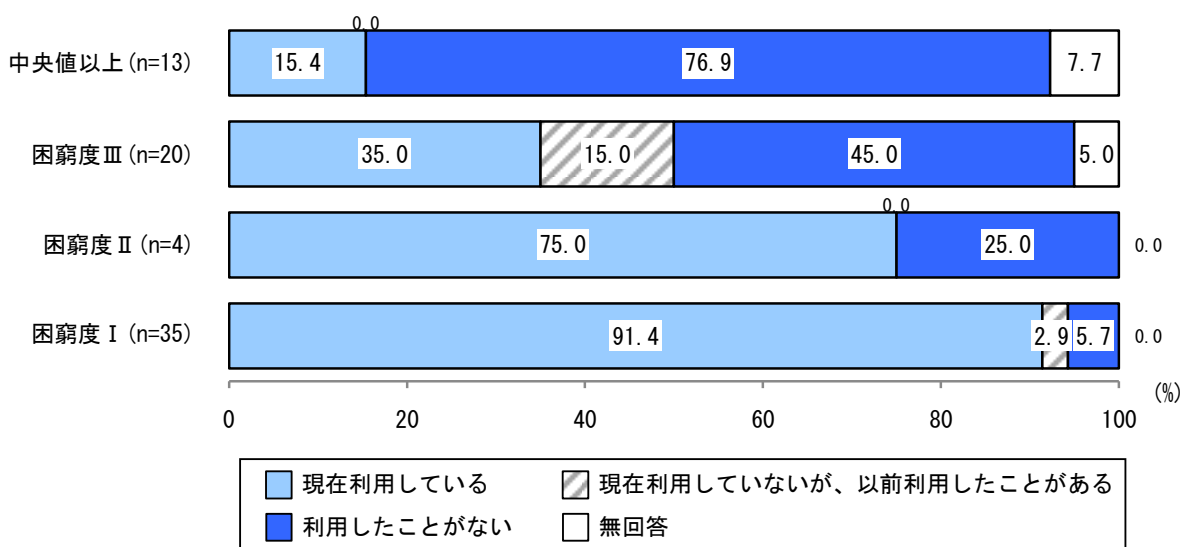


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。中央値以上群では「利用したことがない」と回答した割合が76.9%を占めている。

<2016年度調査との比較／泉佐野市>

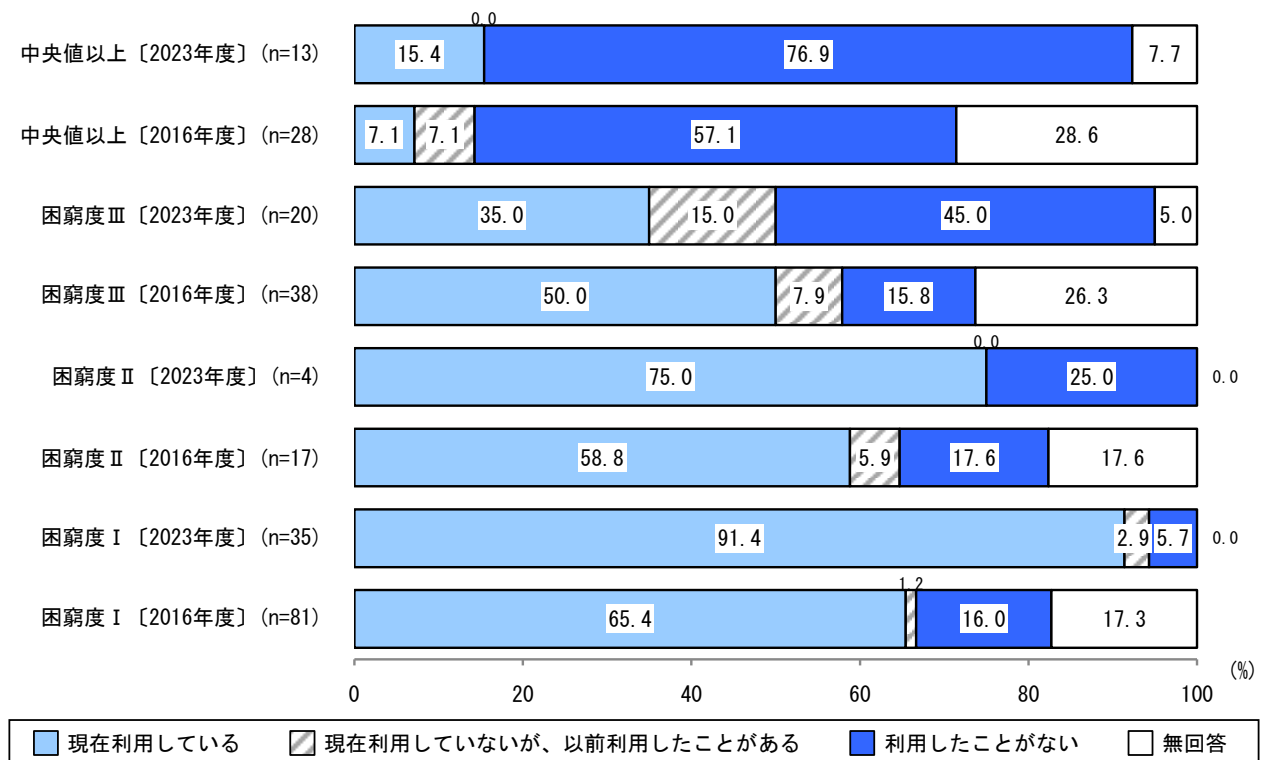
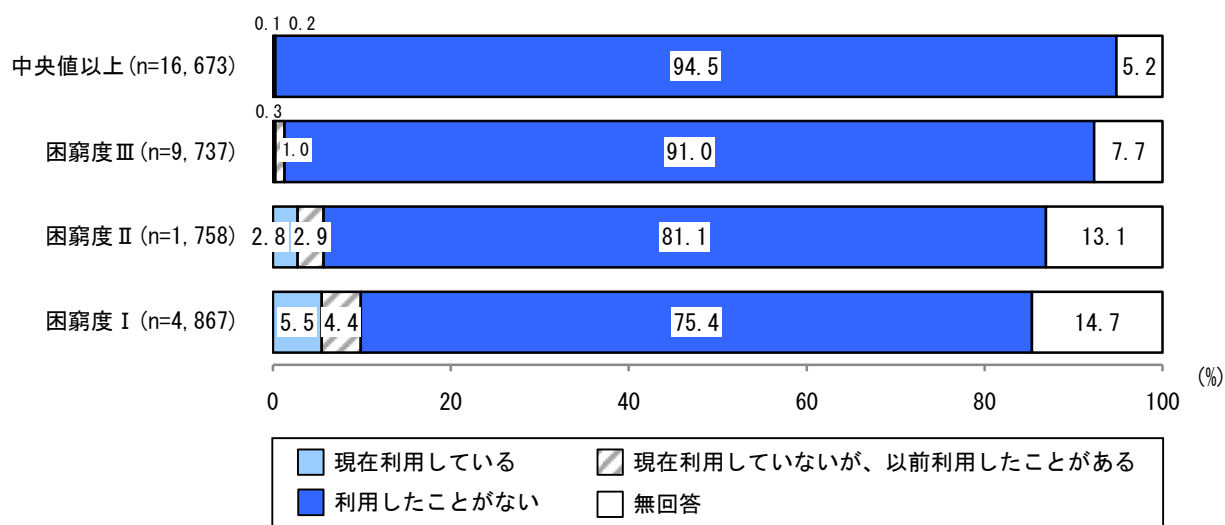


図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群では2016年度調査より割合が低いですが、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも高くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

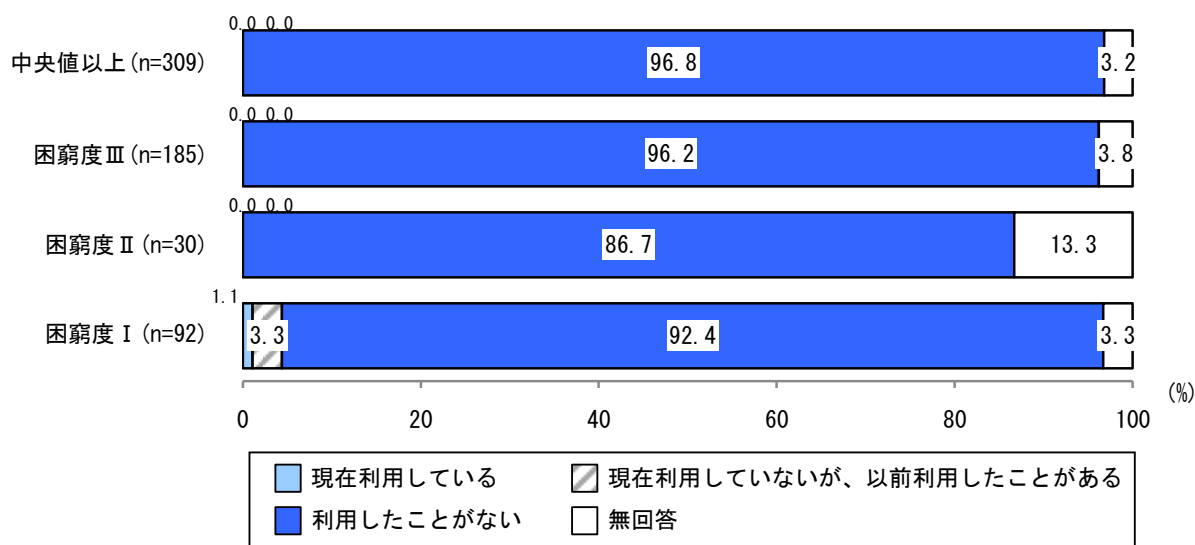


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した人の割合は1.1%であった。

<2016年度調査との比較／泉佐野市>

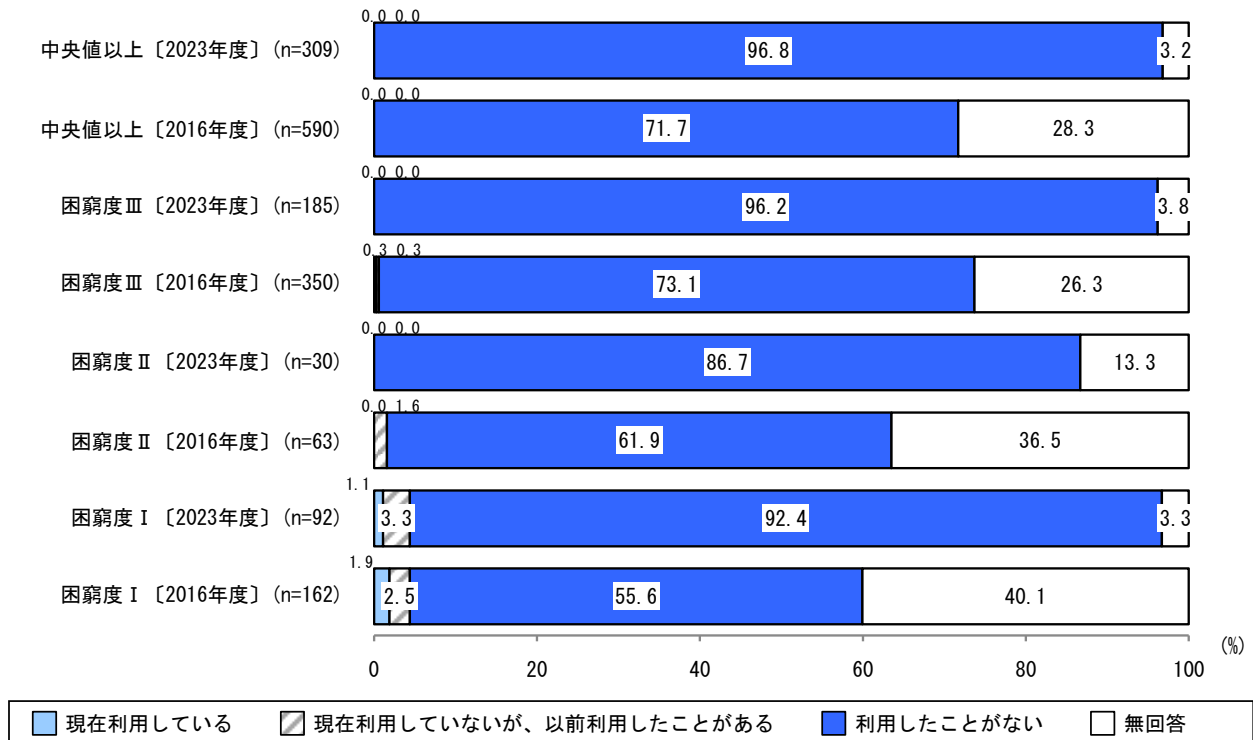
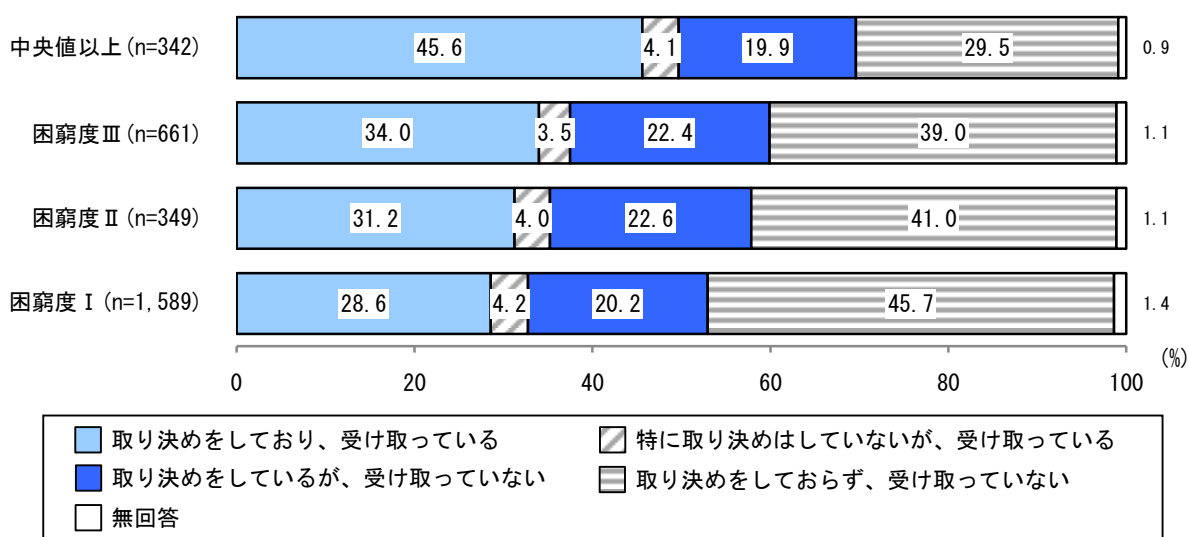


図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「利用したことがない」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査より割合が高くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

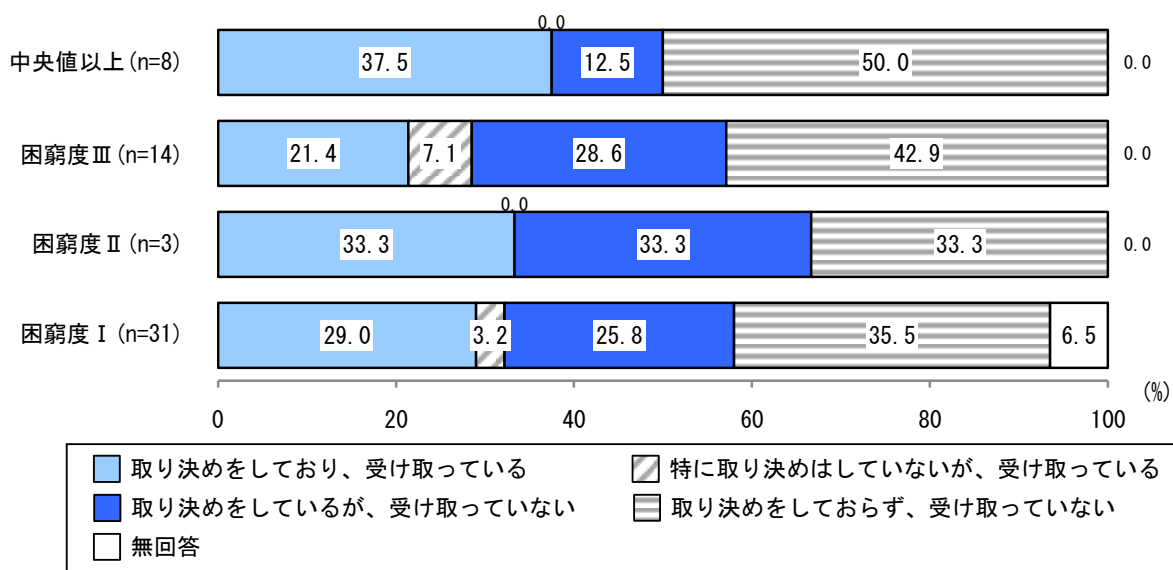
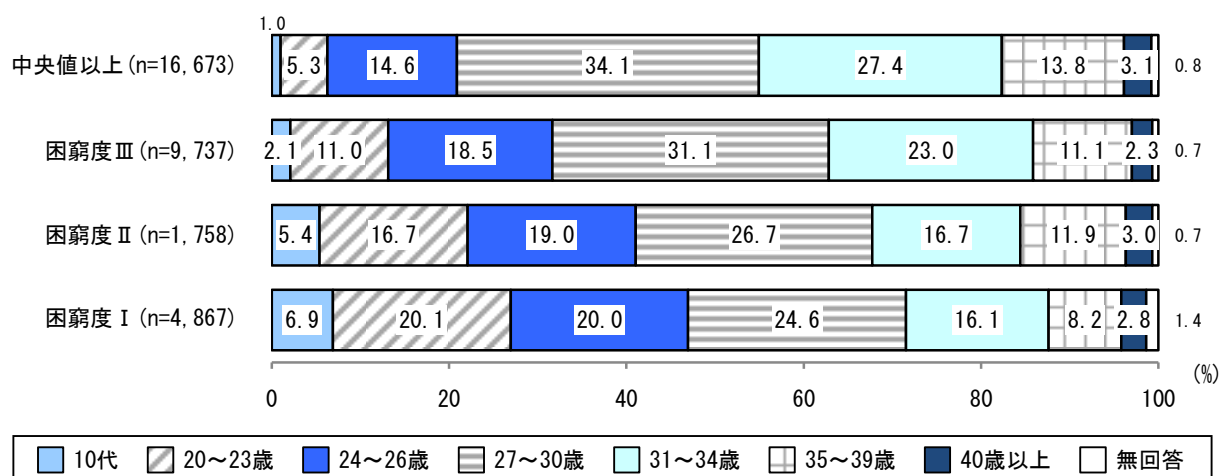


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は29.0%であり、「取り決めをしているが、受け取っていない」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」をあわせた養育費を受け取っていない人が61.3%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

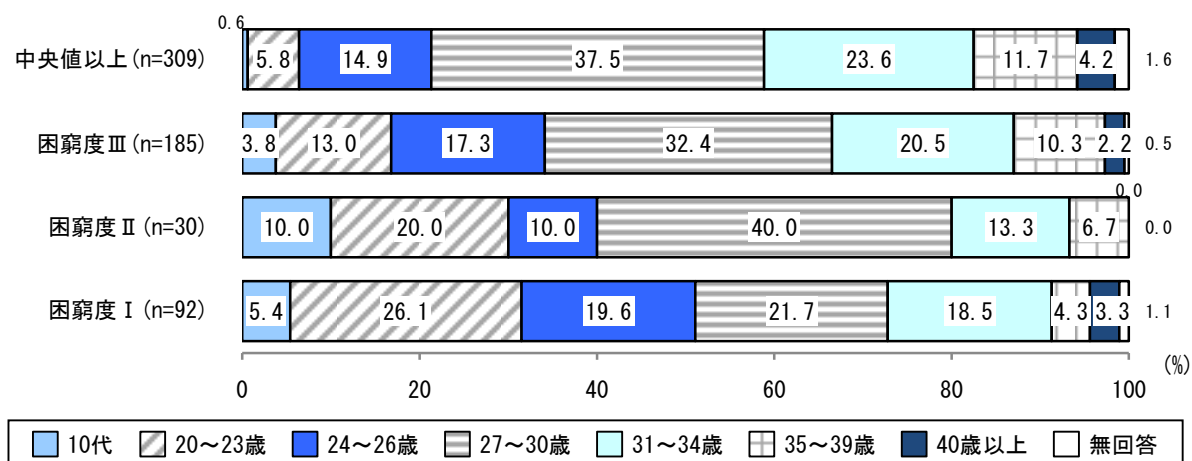
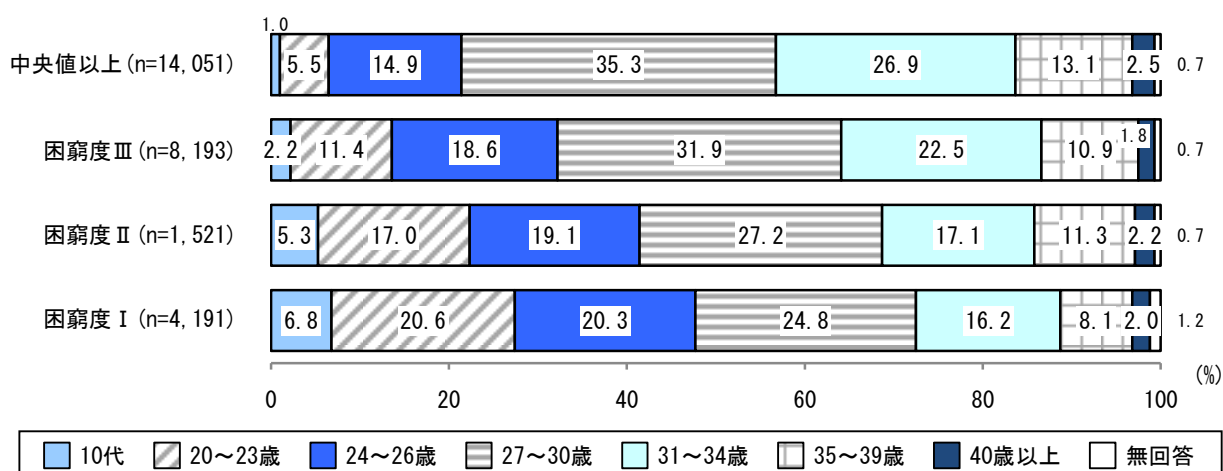


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、20～23歳で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

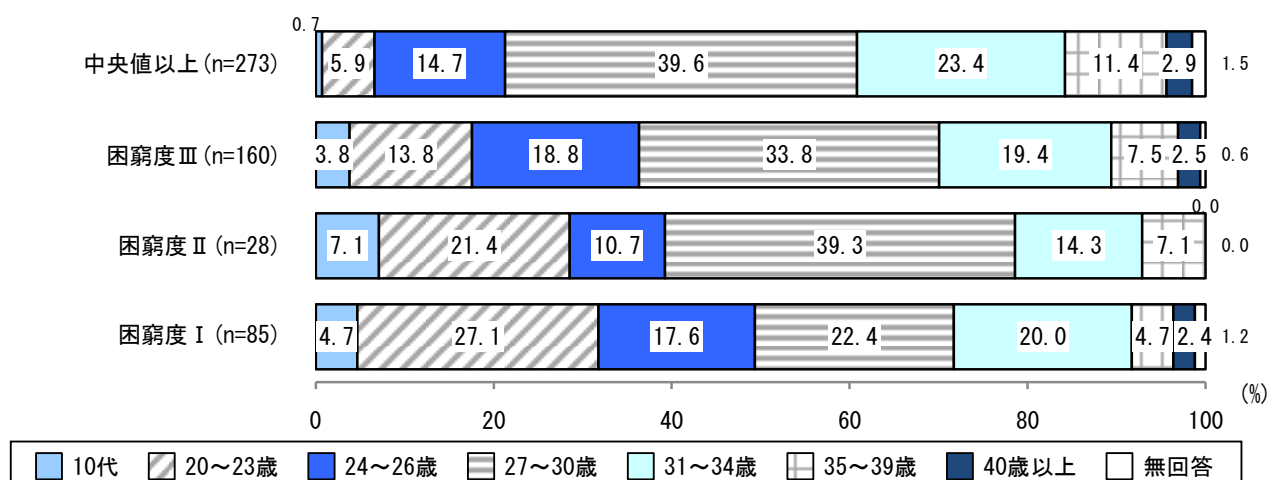
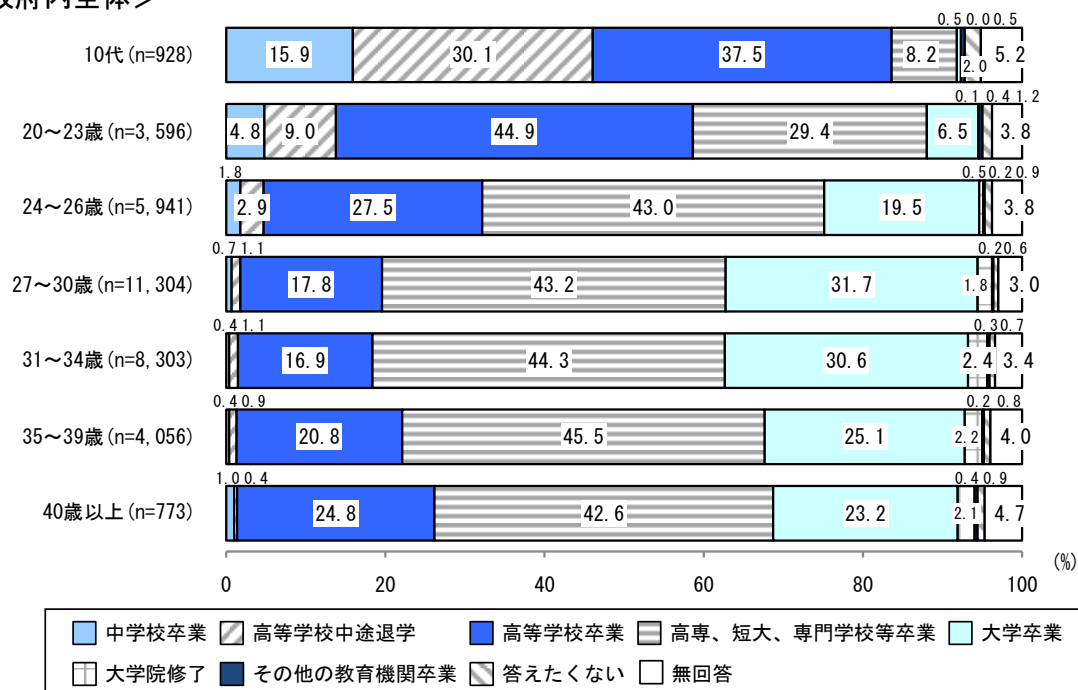


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親を回答者の対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、20～23歳で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

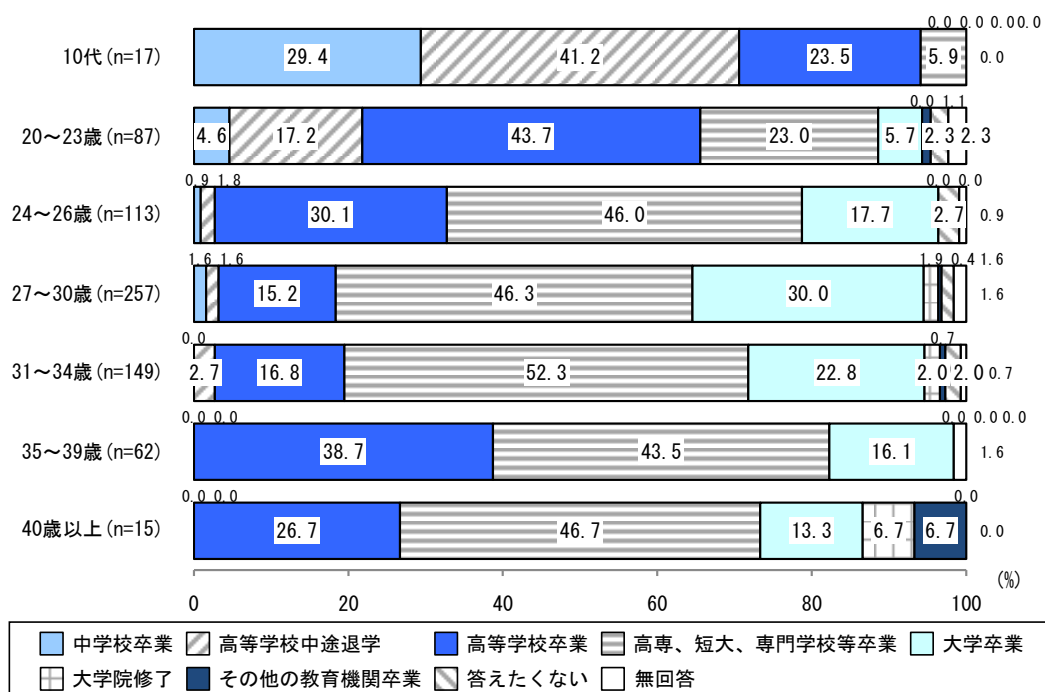
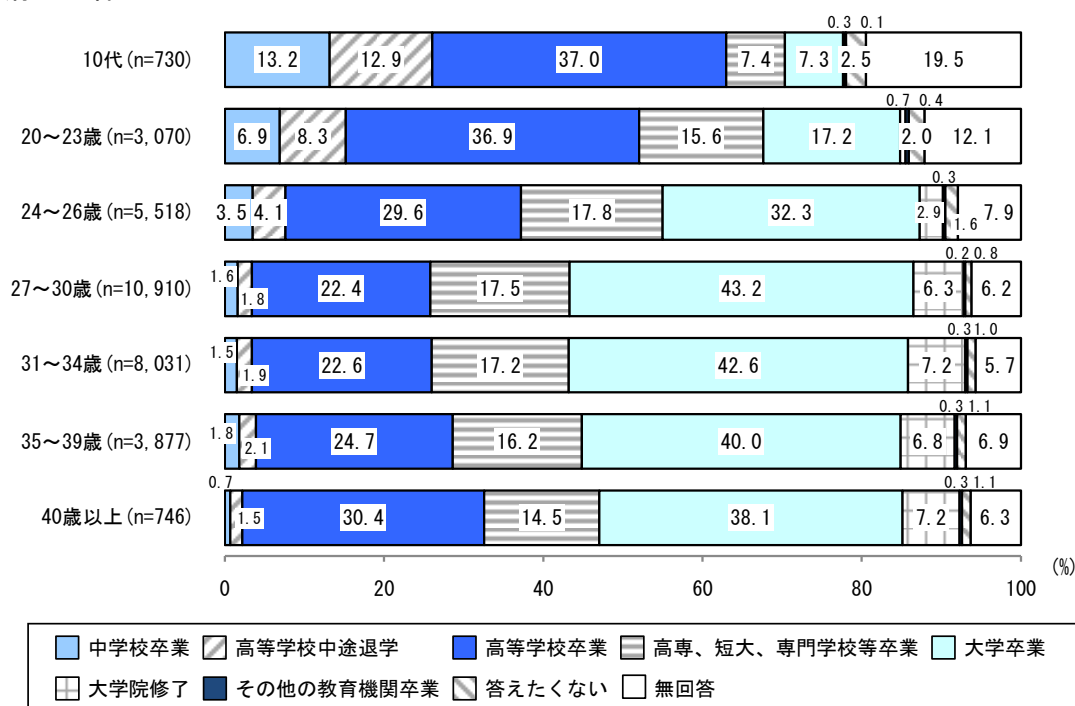


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親を回答者の対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（29.4%）または「高等学校中途退学」（41.2%）と回答した割合が他の年代と比べて高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

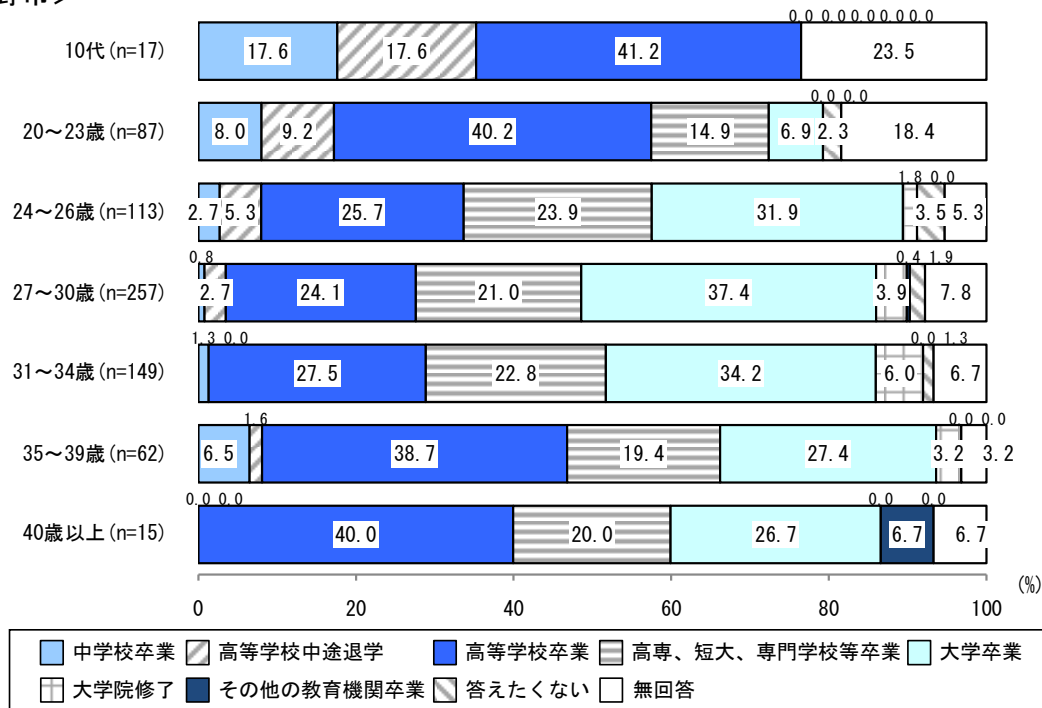
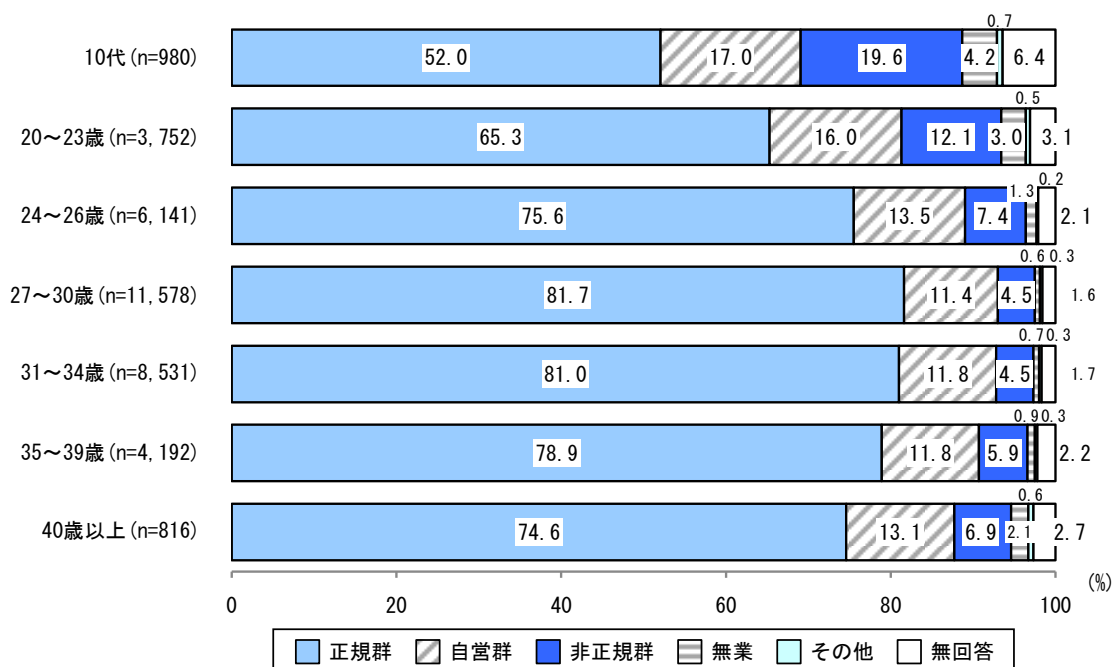


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親を回答者の対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」、「高等学校中途退学」と回答した割合がともに17.6%と、他の年代より高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

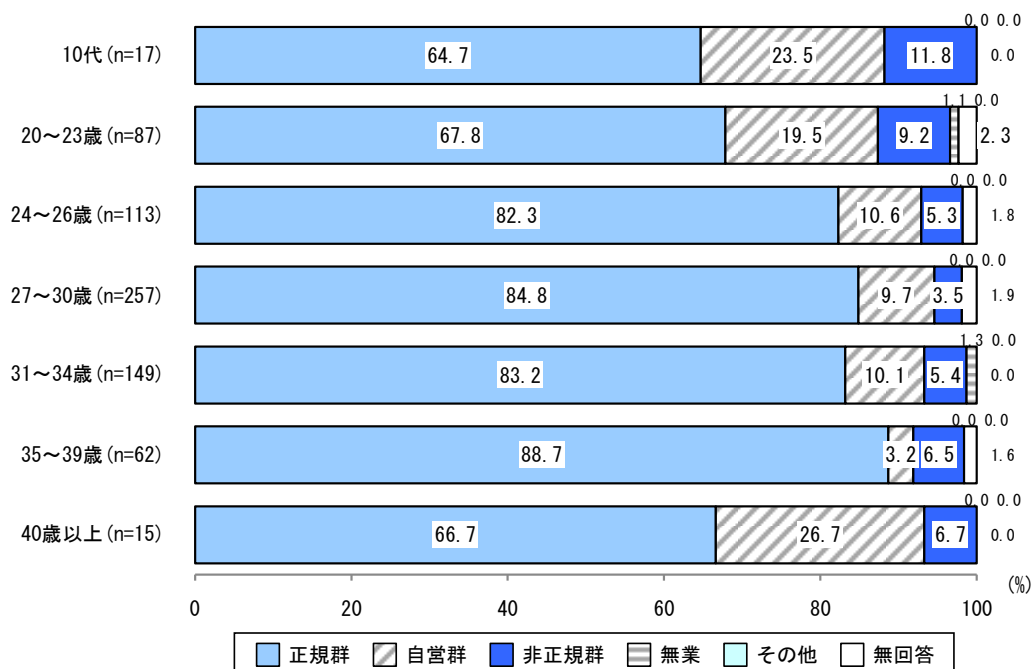
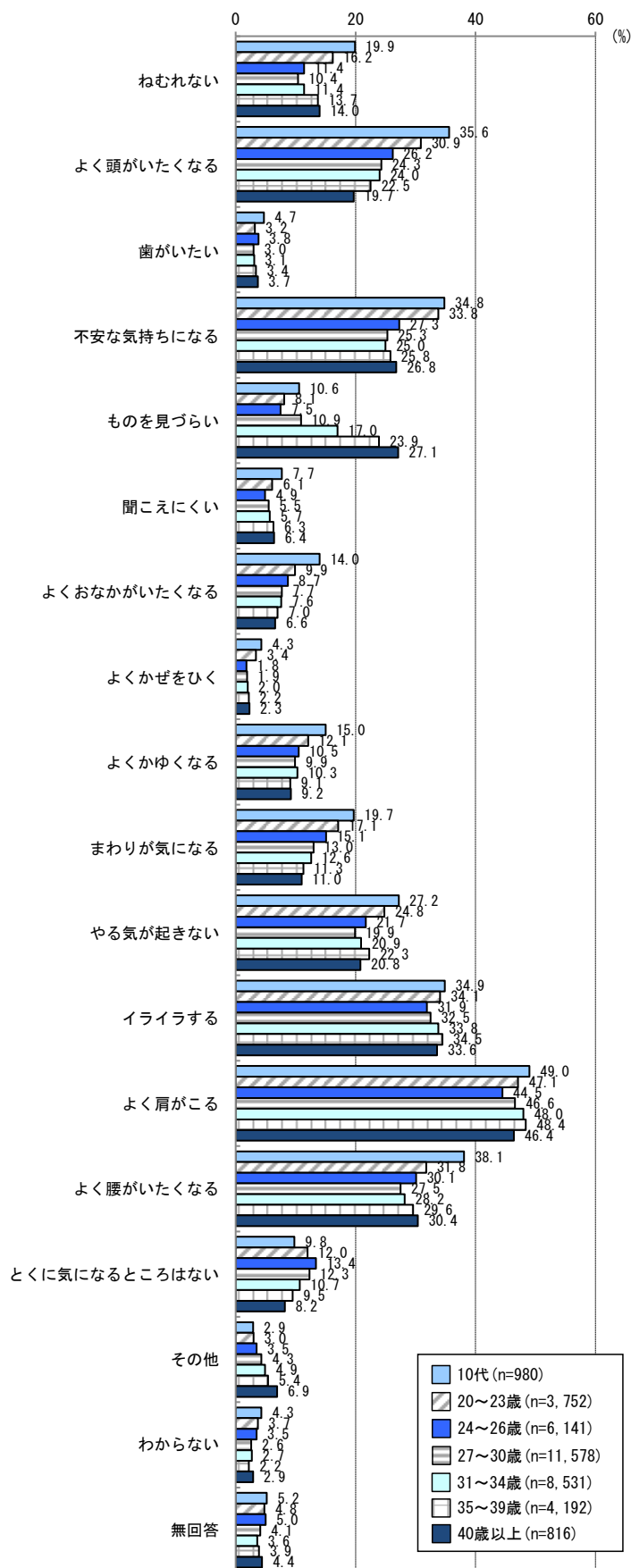


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

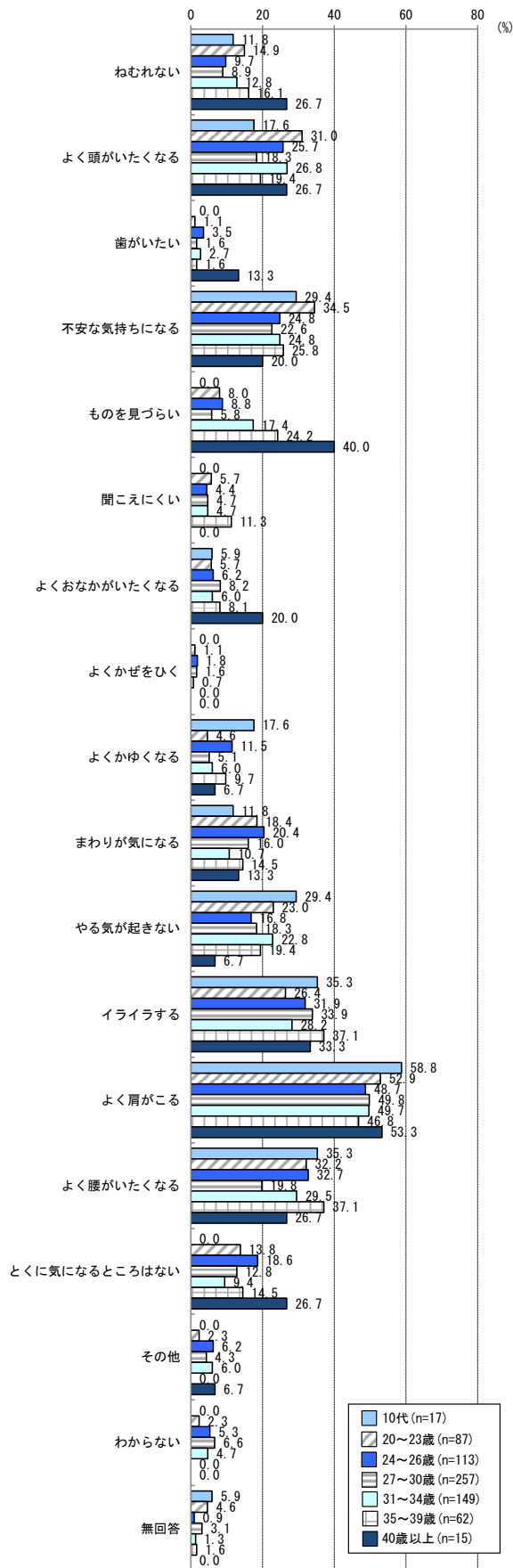
母親を回答者の対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の群と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が概ね高い傾向がみられる。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

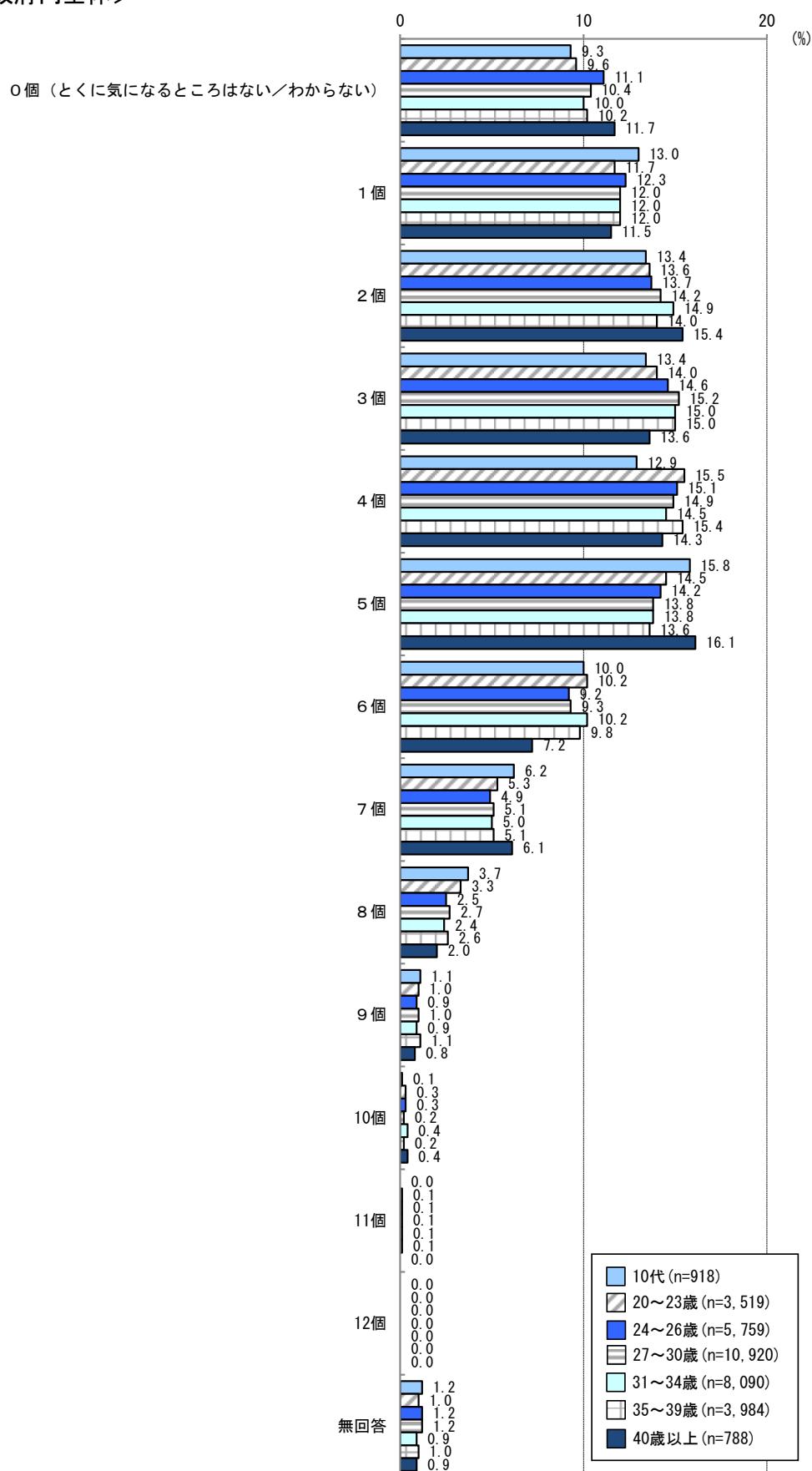


母親を回答者の対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、20～23歳は他の年代と比較して「よく頭がいたくなる」や「不安な気持ちになる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

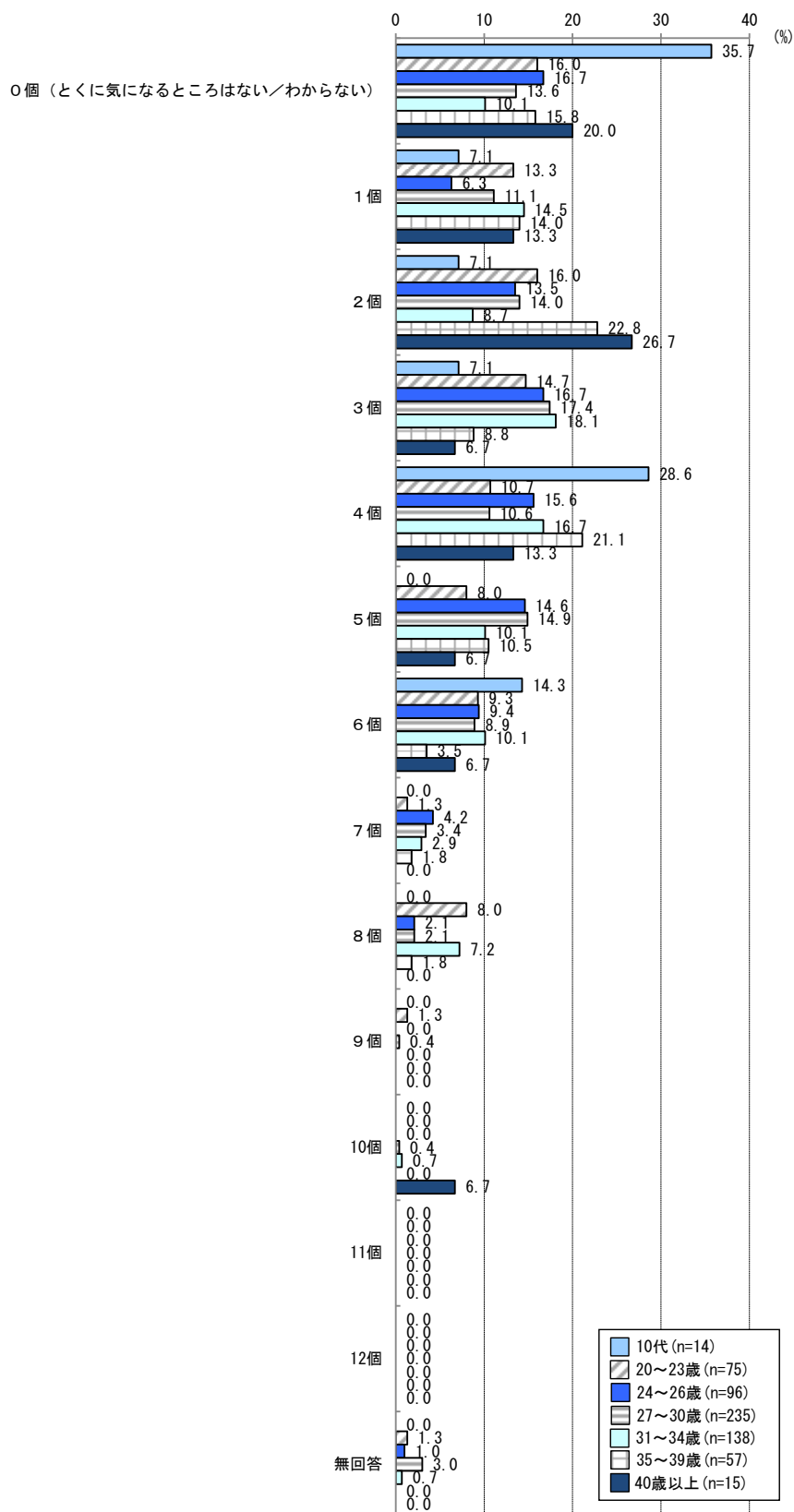
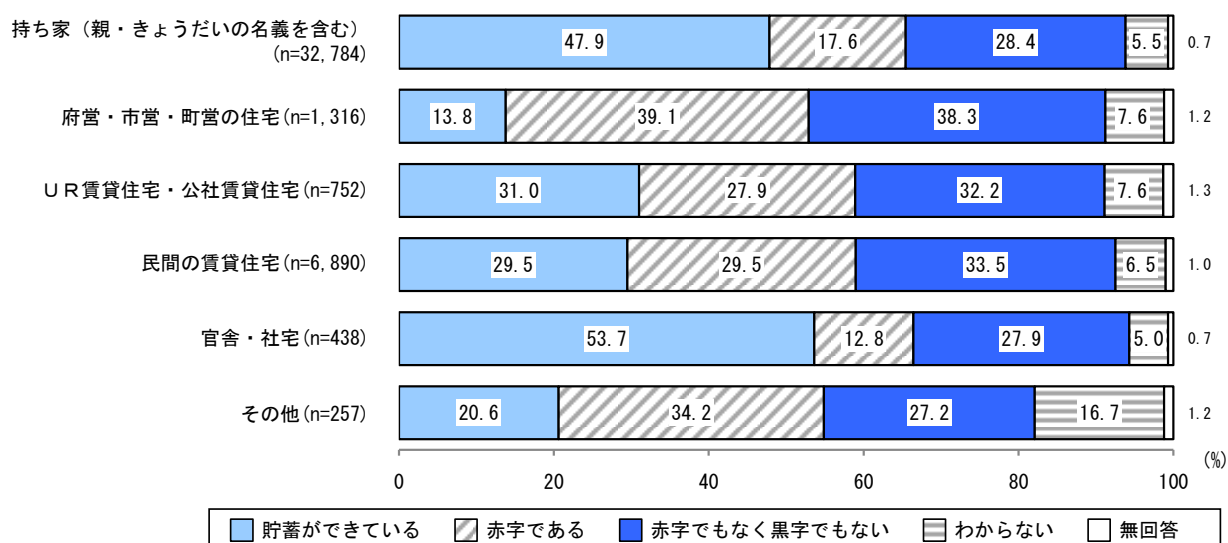


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年代と比較して「0個（とくに気になることはない／わからない）」（35.7%）の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

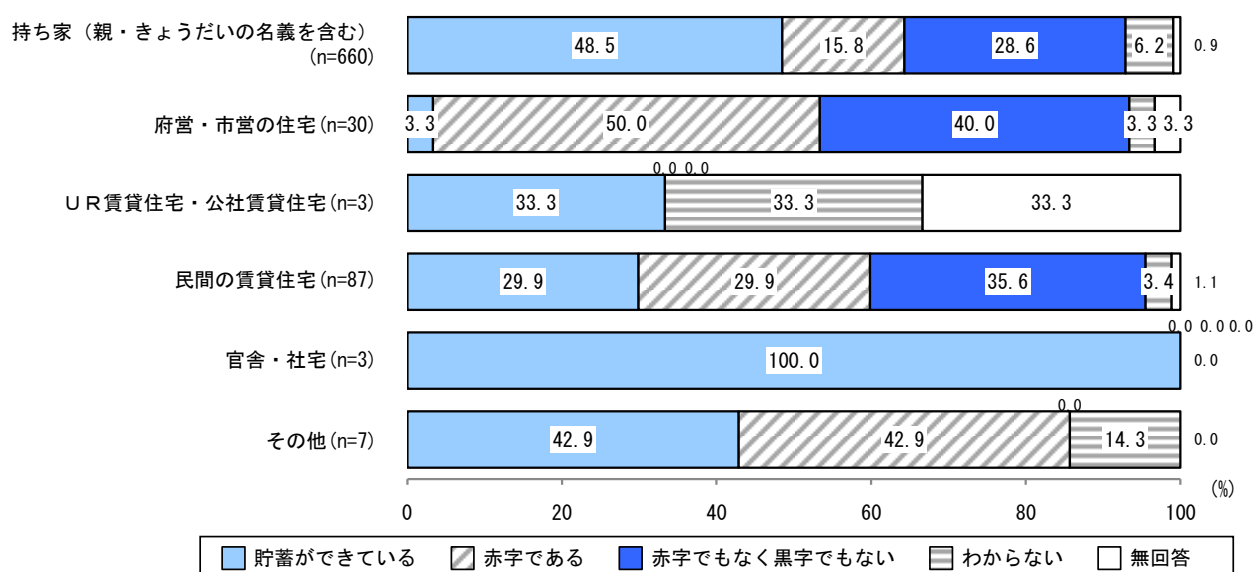
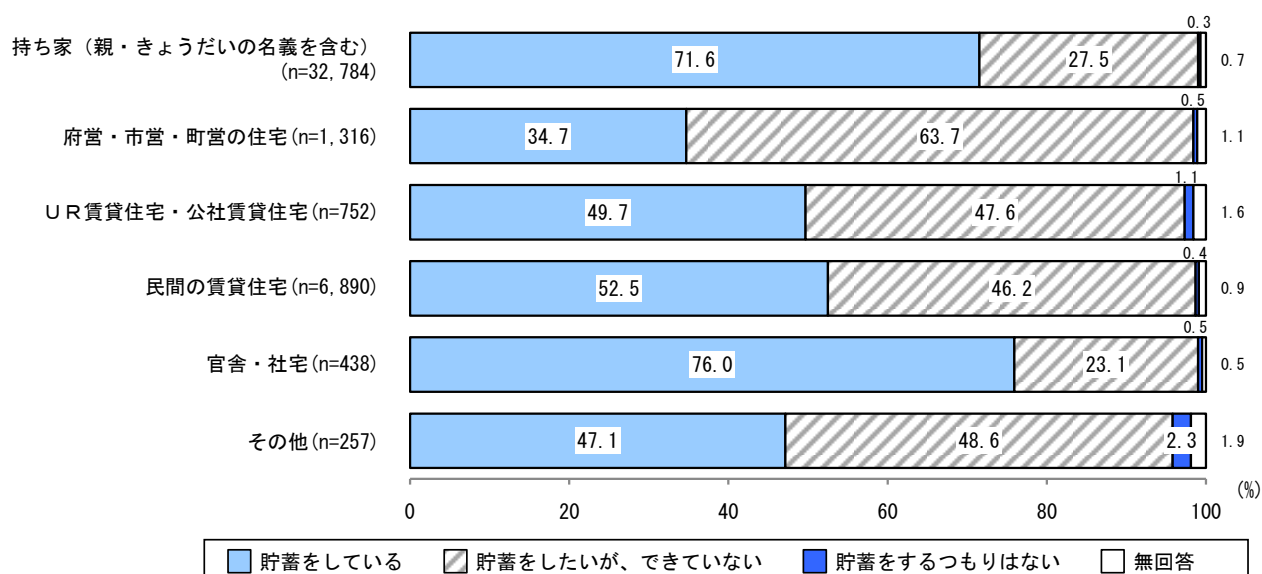


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別到家計状況を見ると、府営・市営の住宅に住む人で、「赤字である」（50.0%）と回答した割合が高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は15.8%であった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

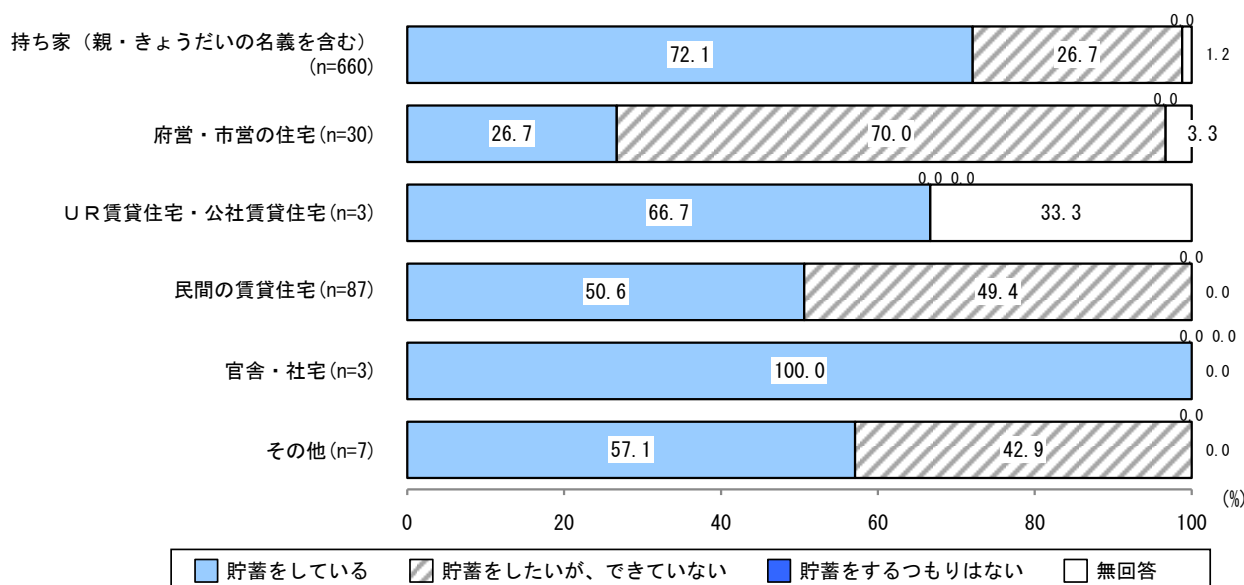
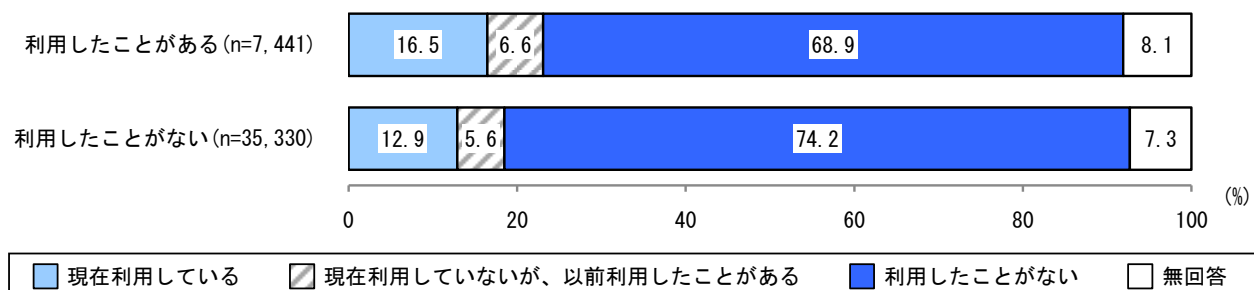


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」（70.0％）と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

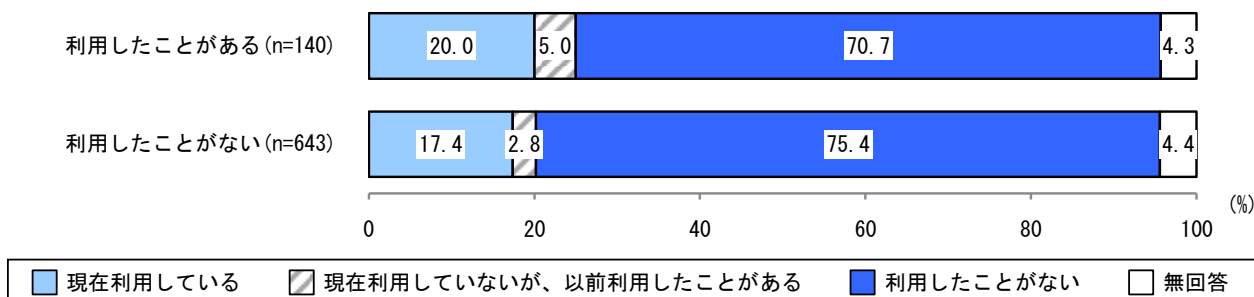
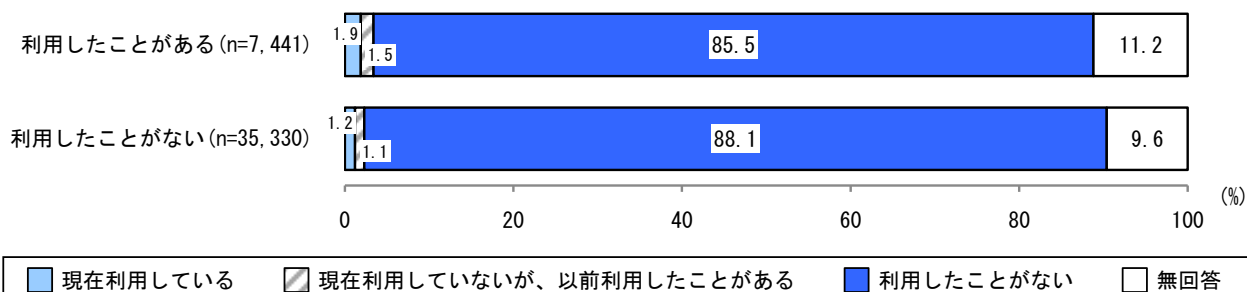


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

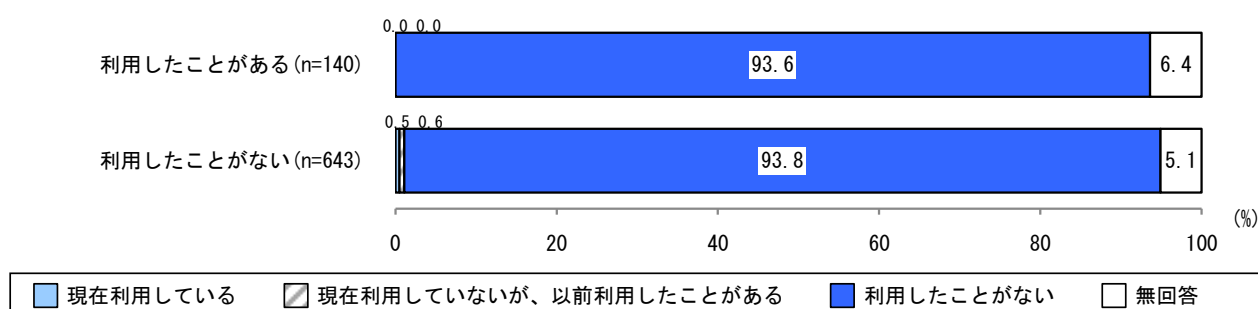
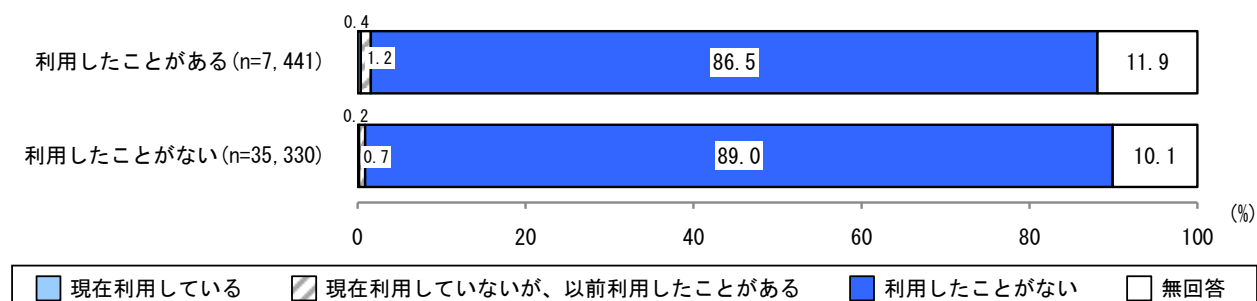


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

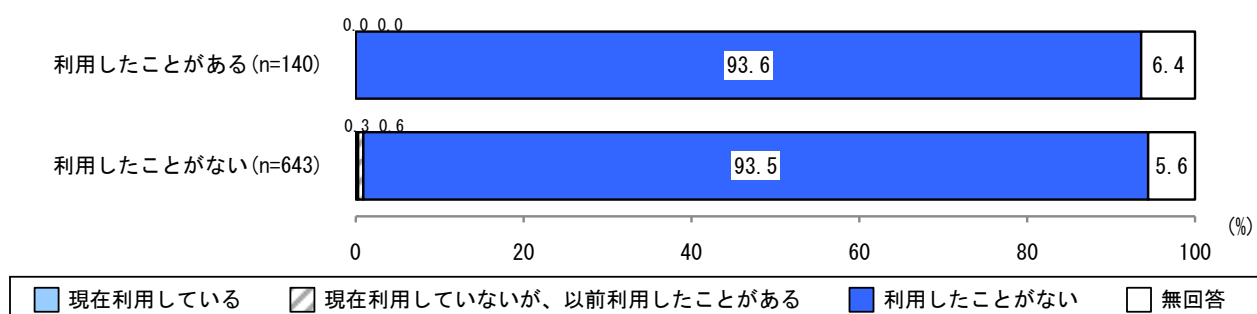
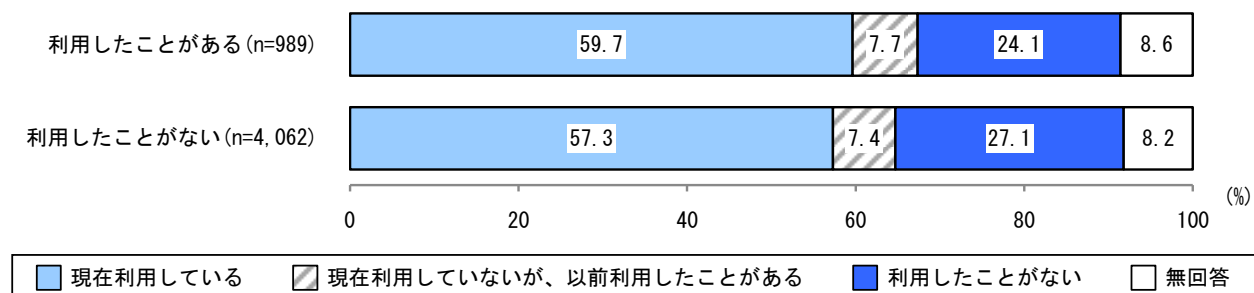


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

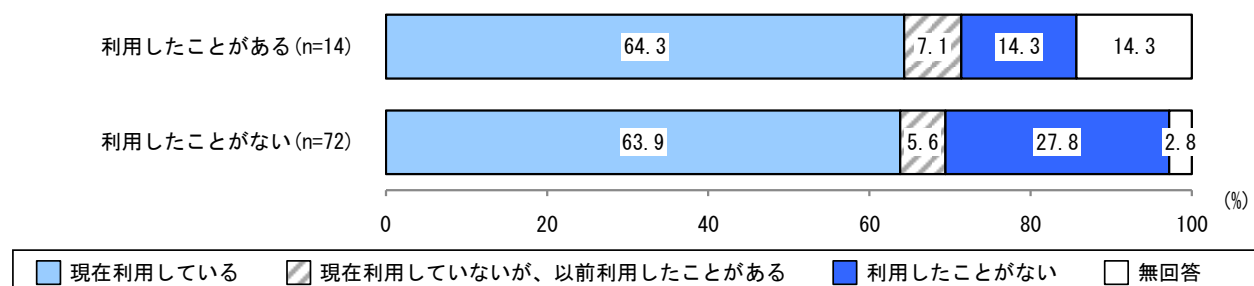
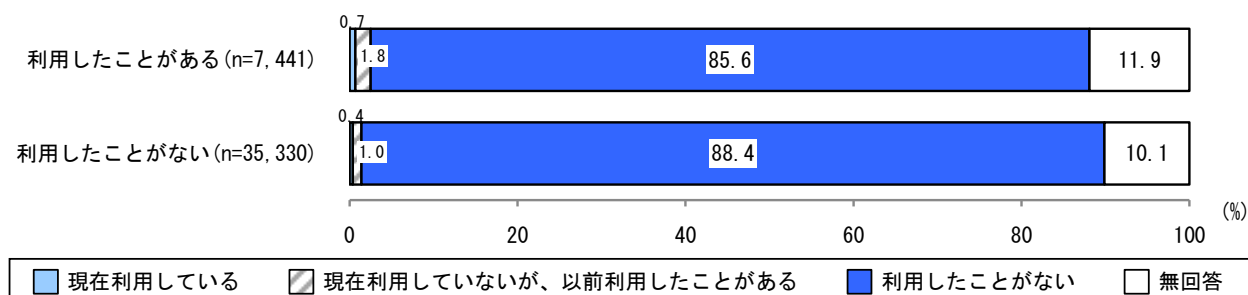


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯を対象として、子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

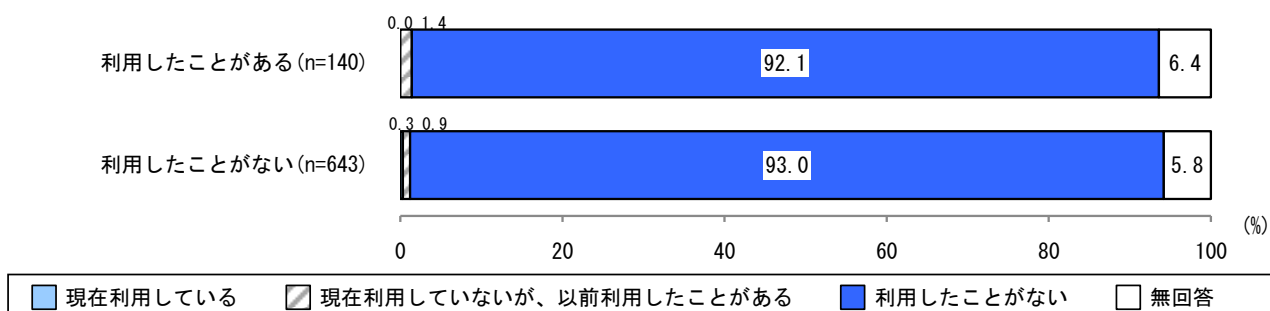
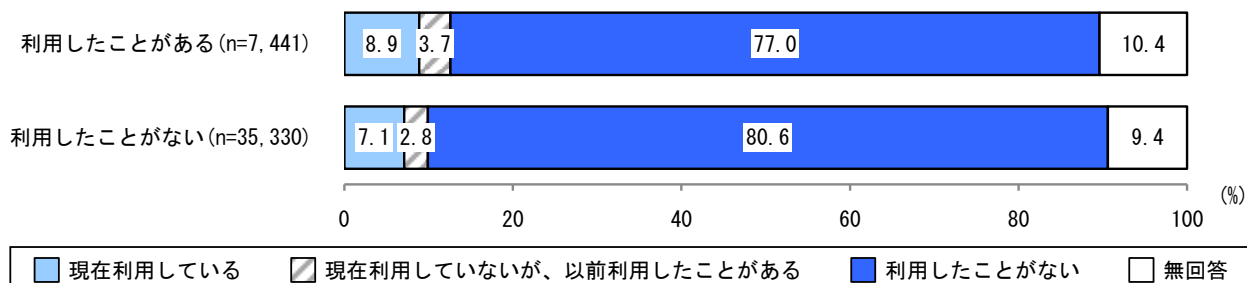


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

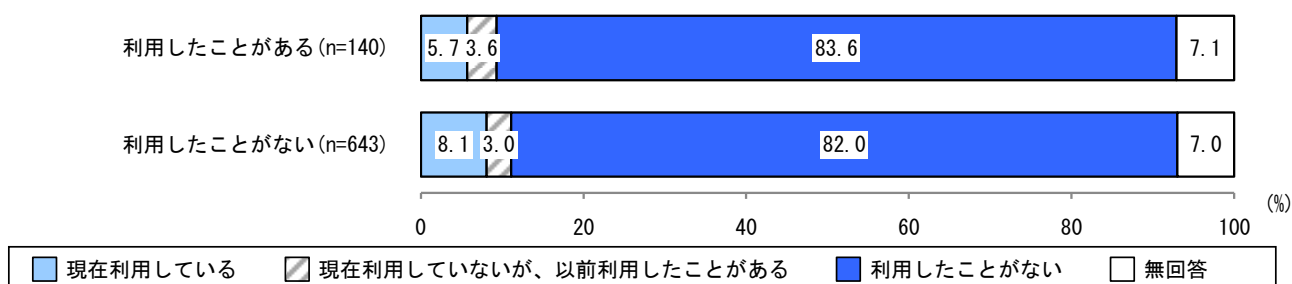
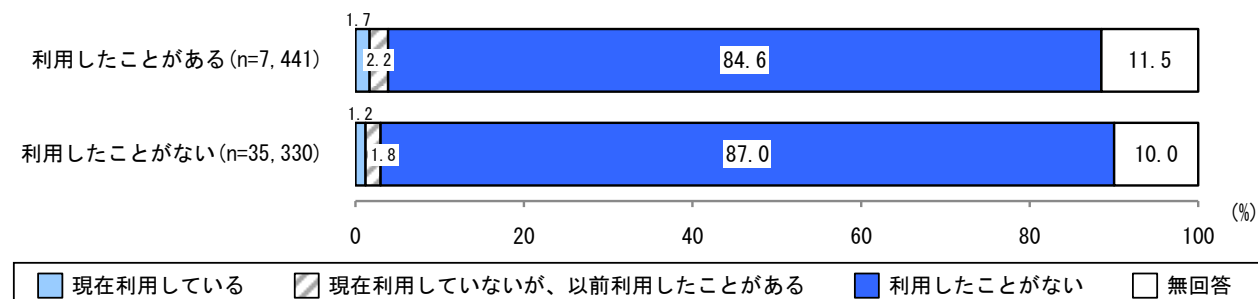


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

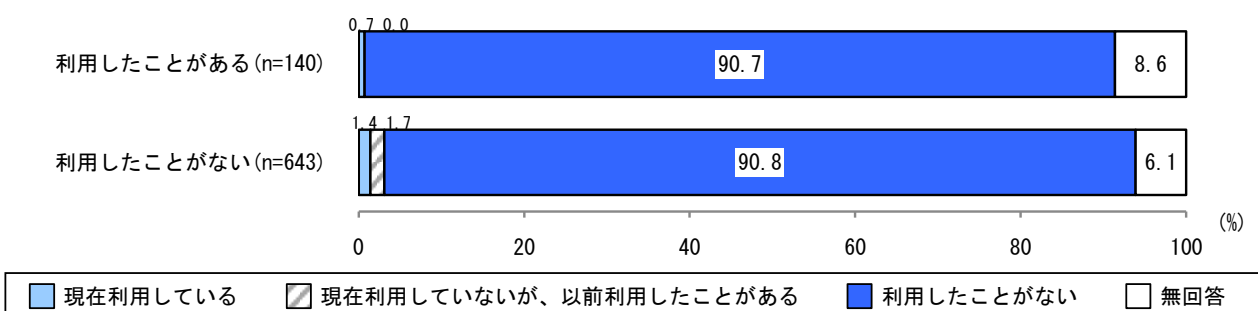
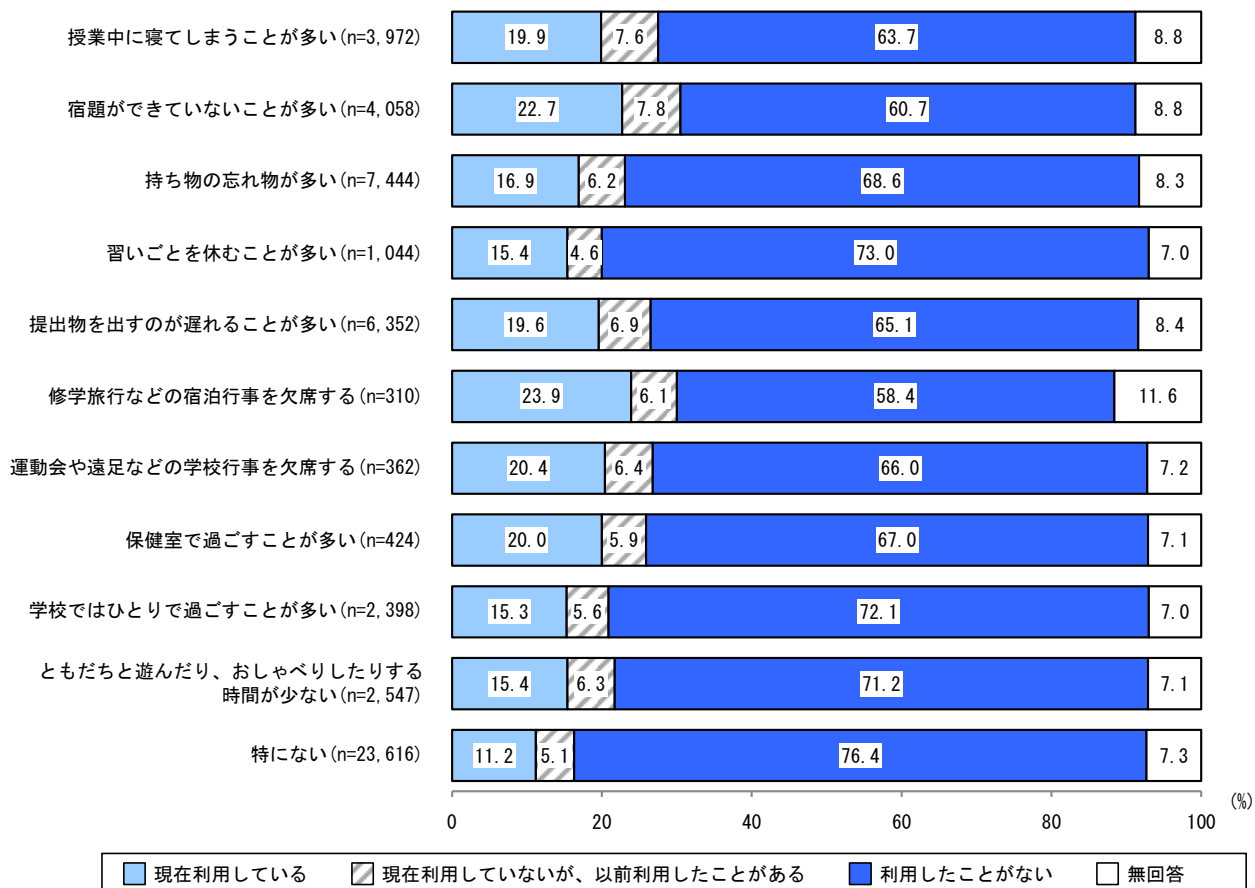


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

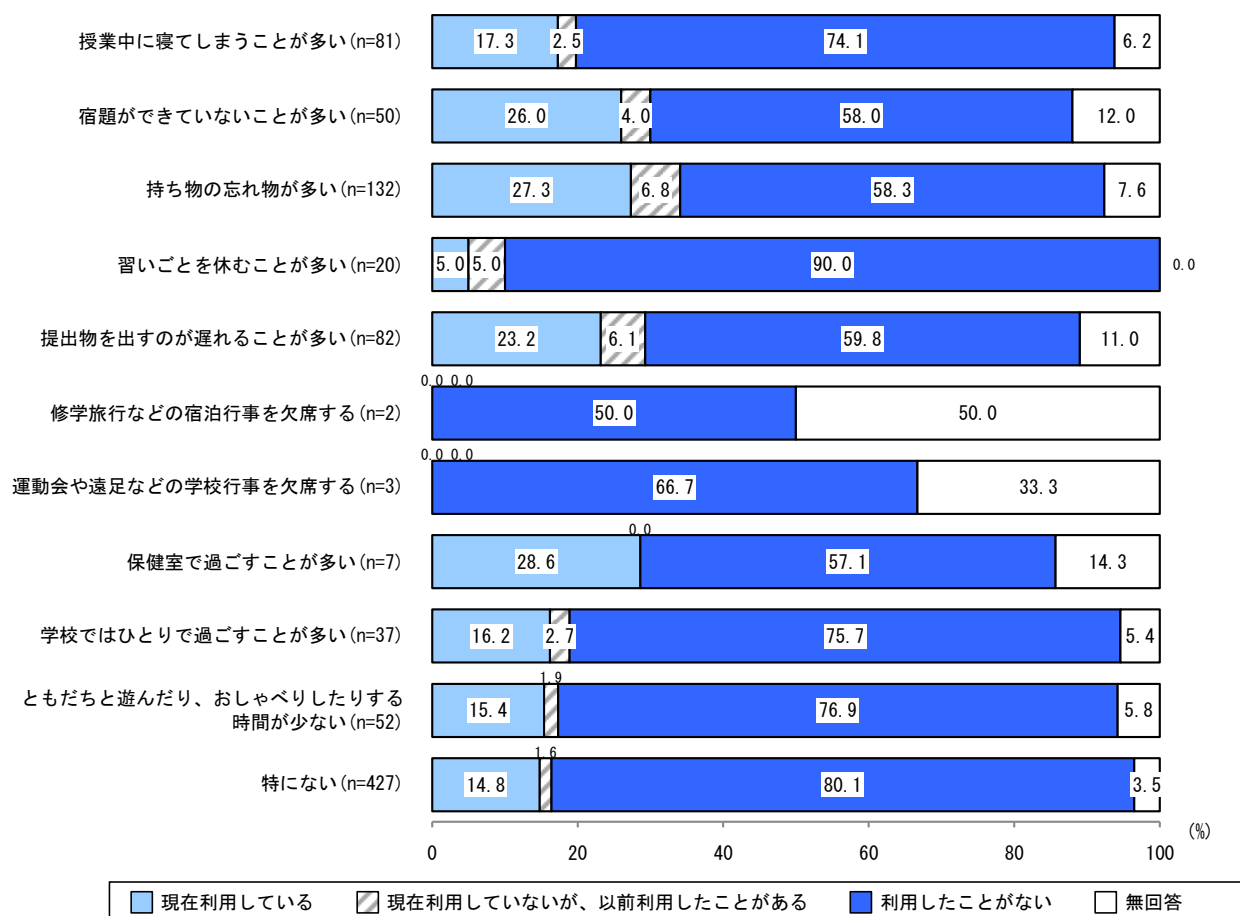
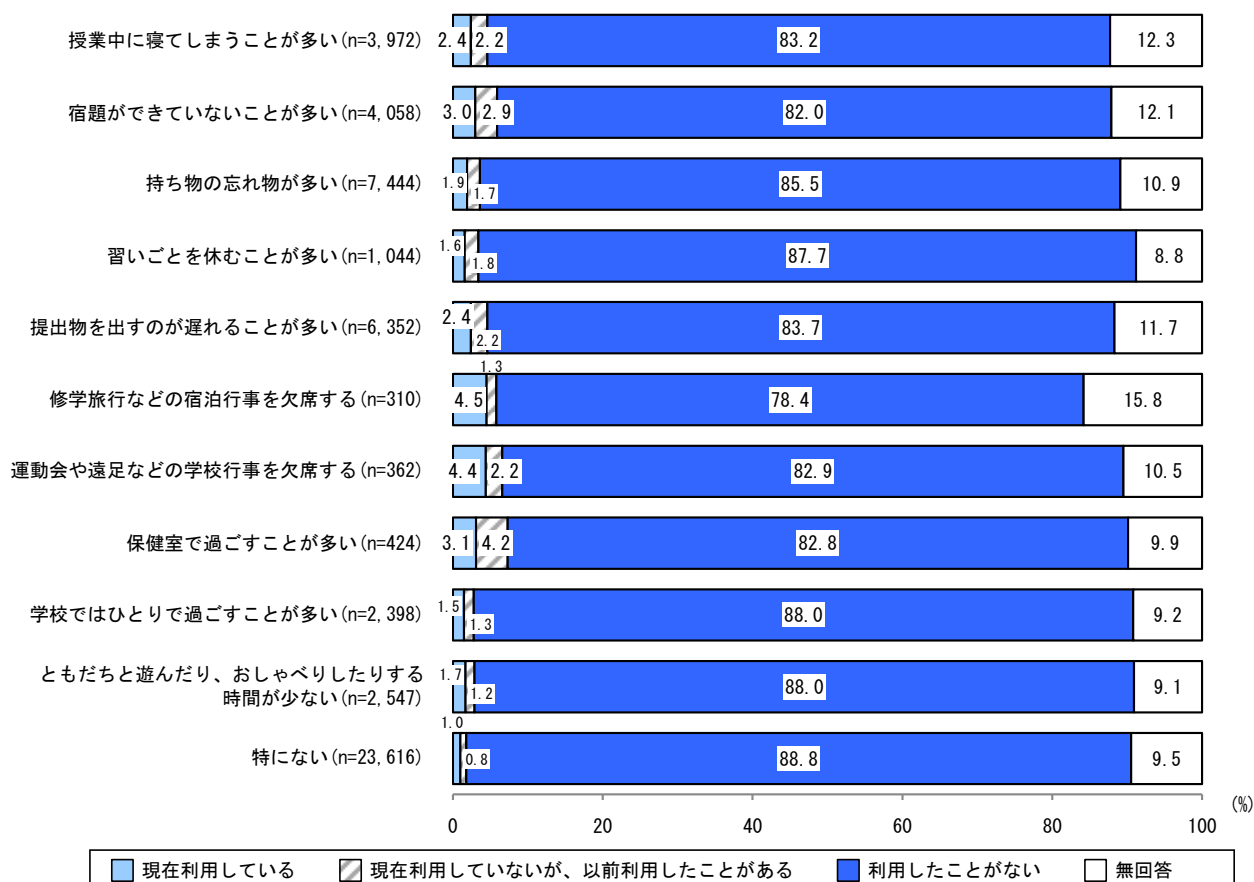


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が28.6%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

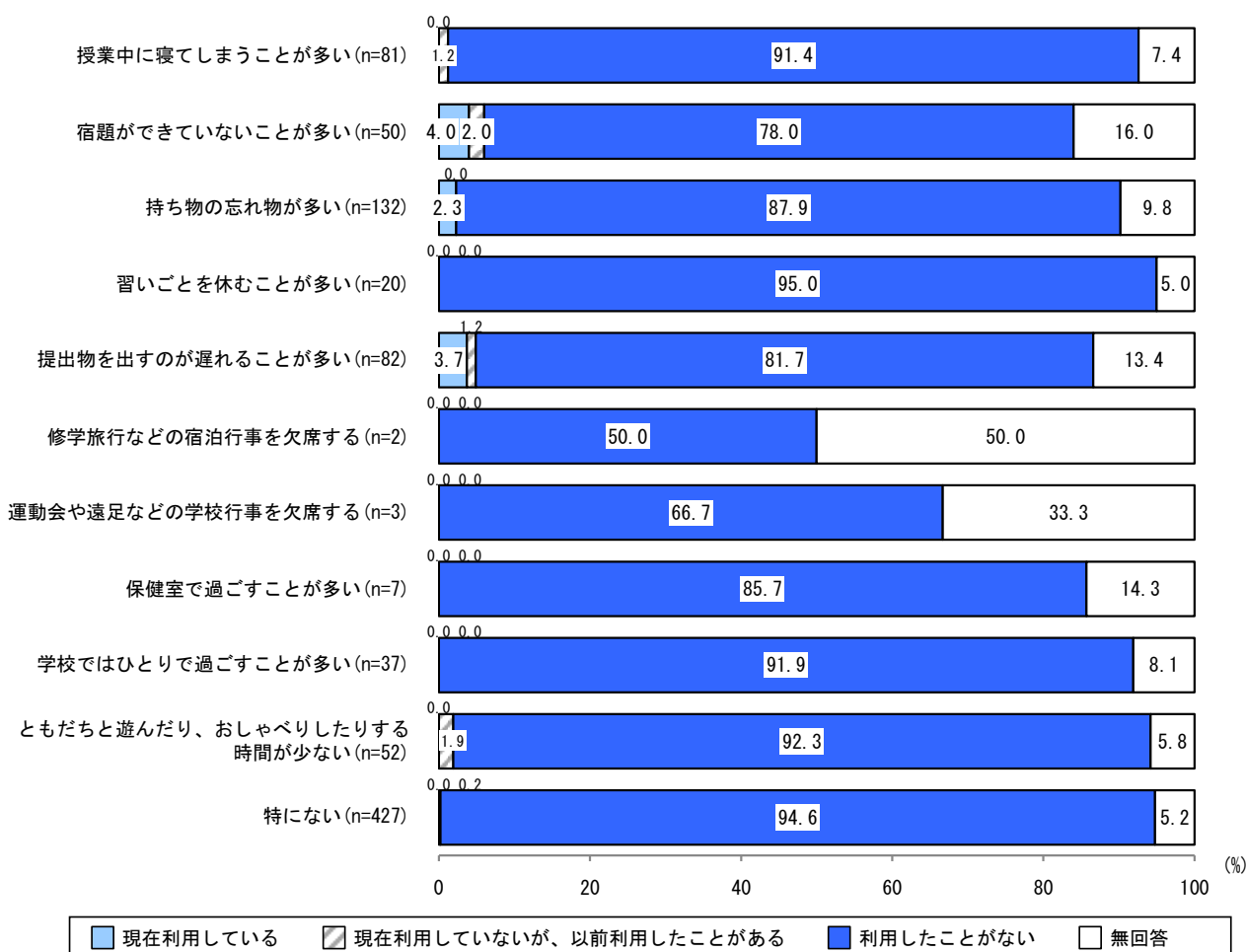
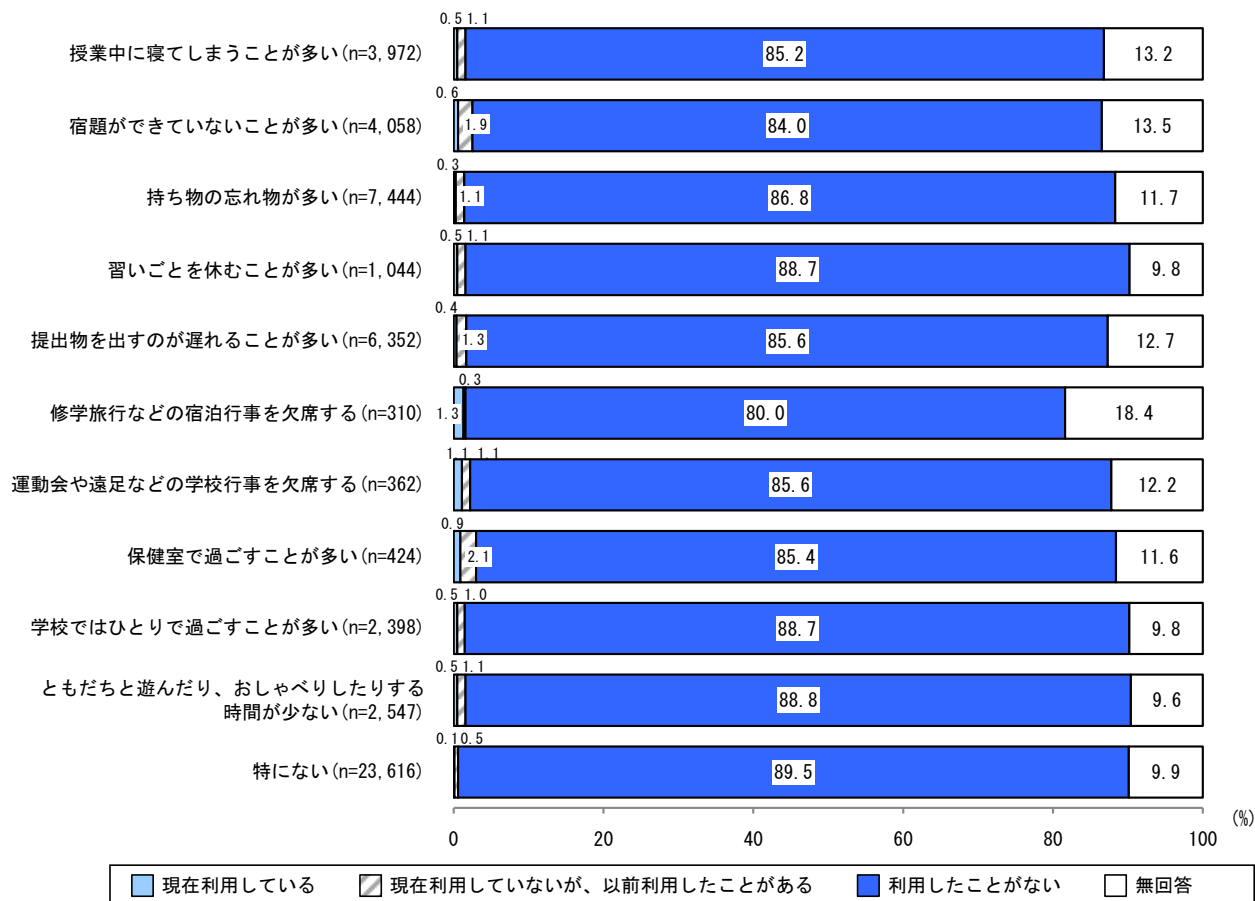


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が4.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

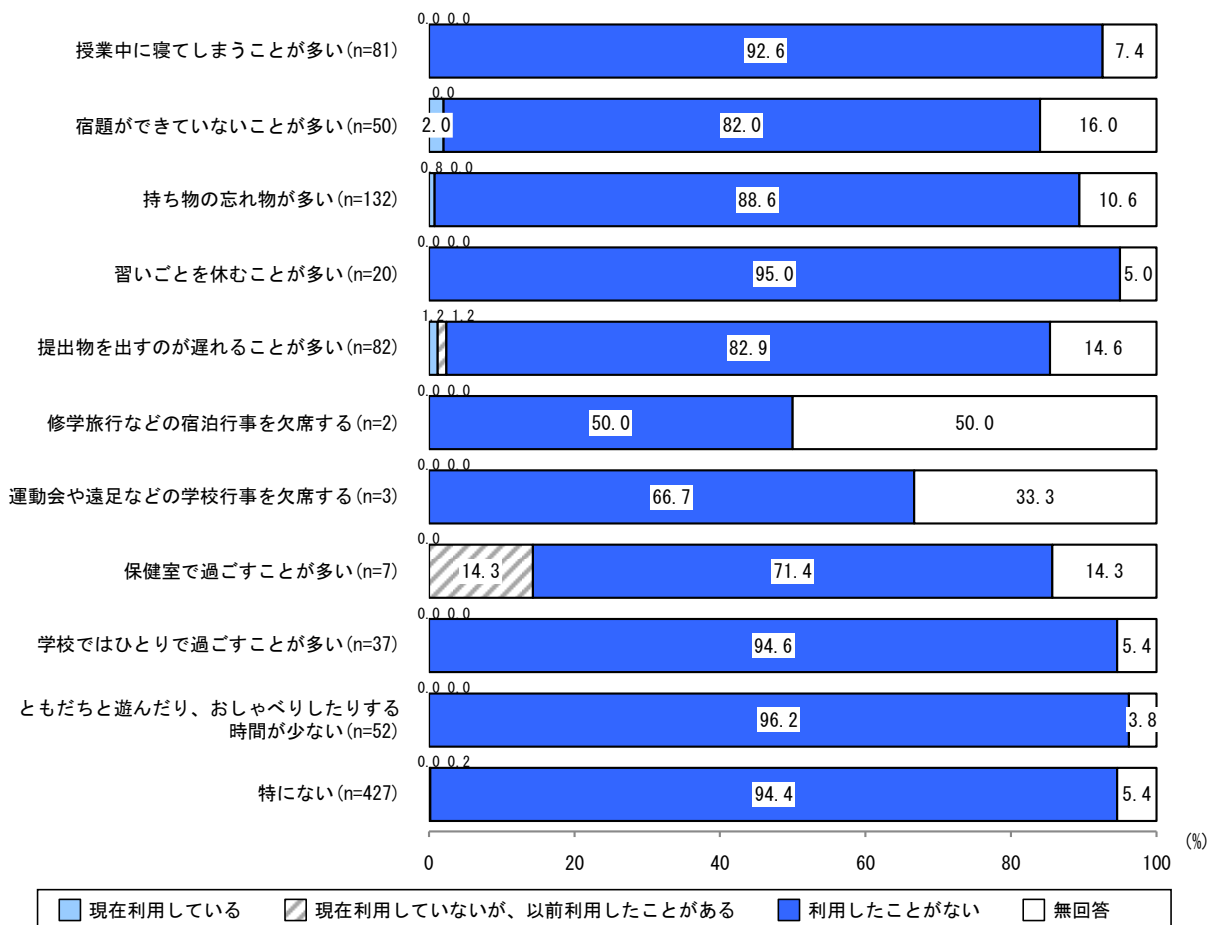
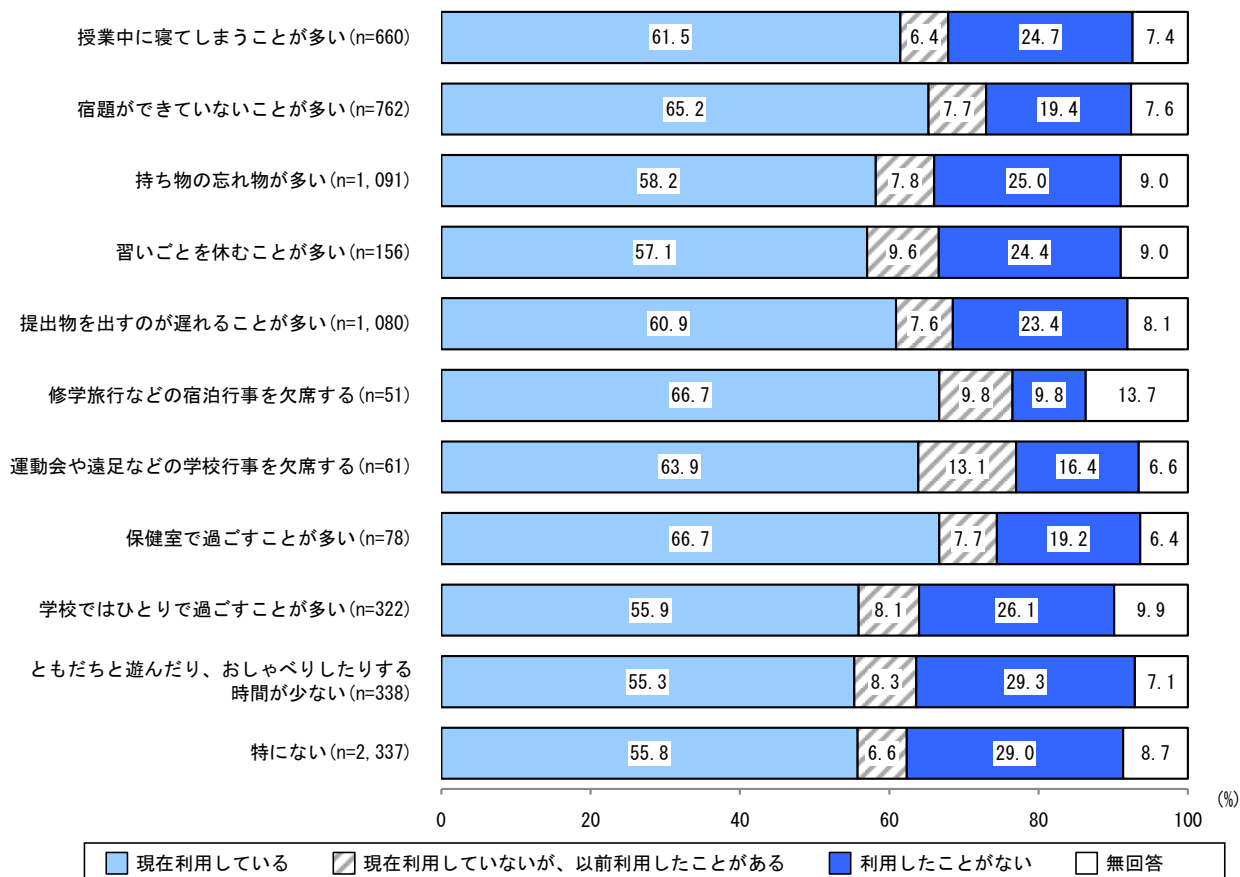


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が2.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

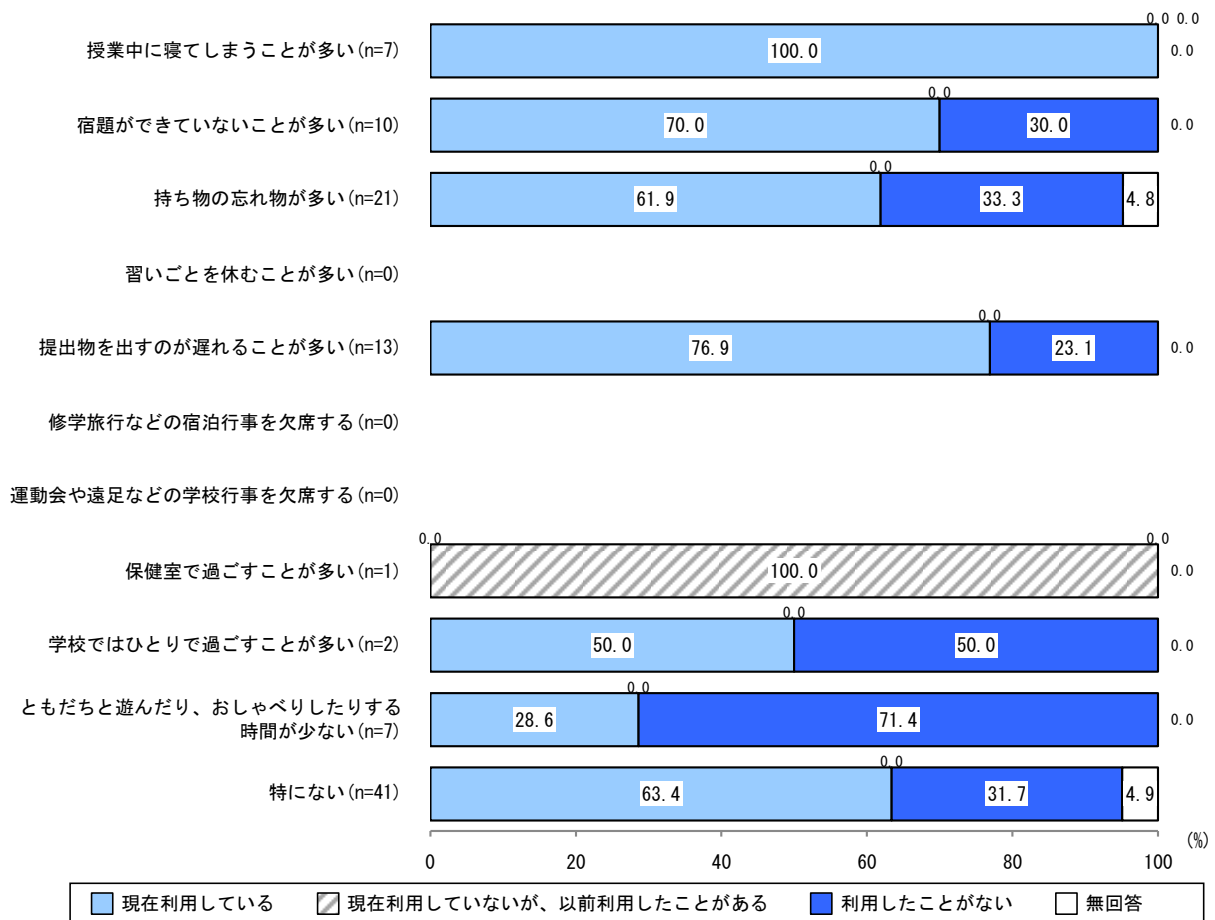
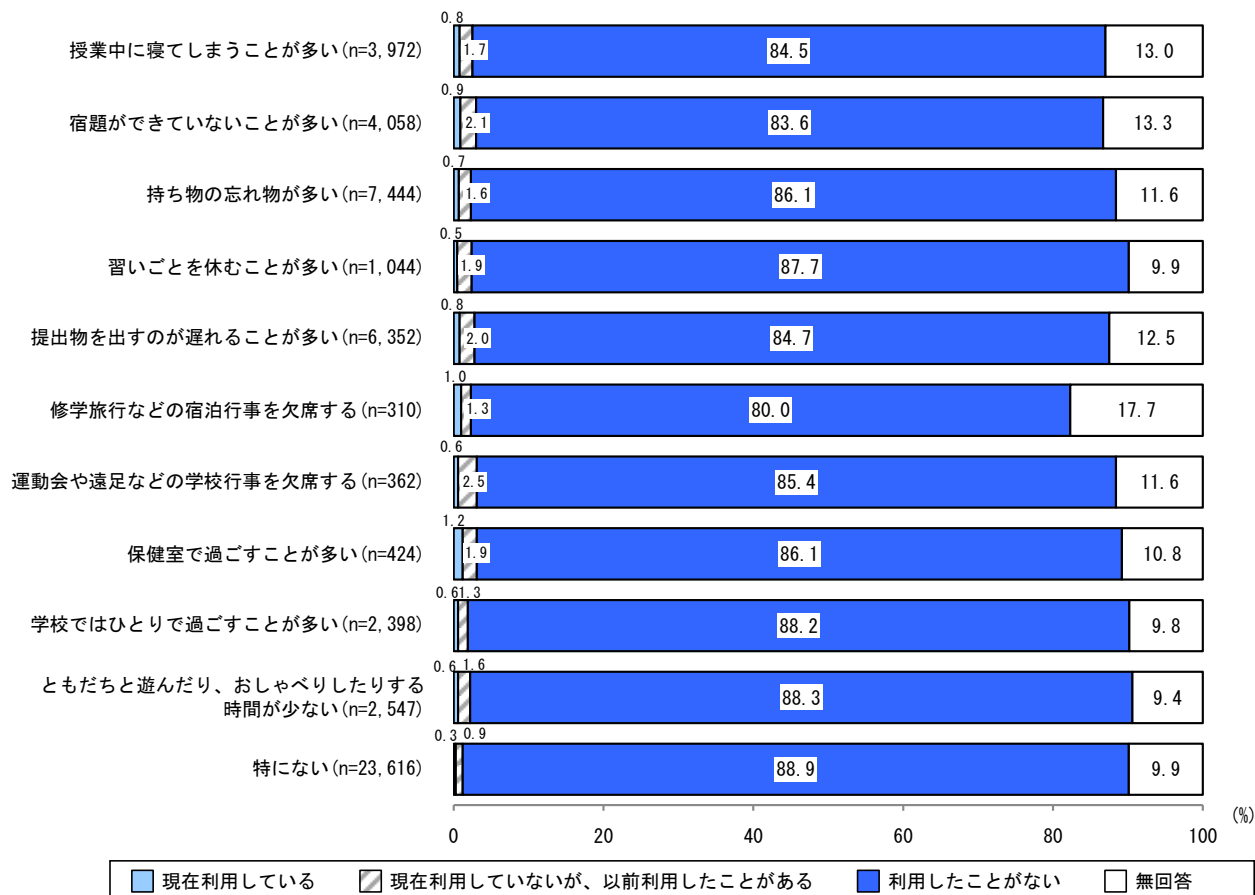


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯を対象として、学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が100.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

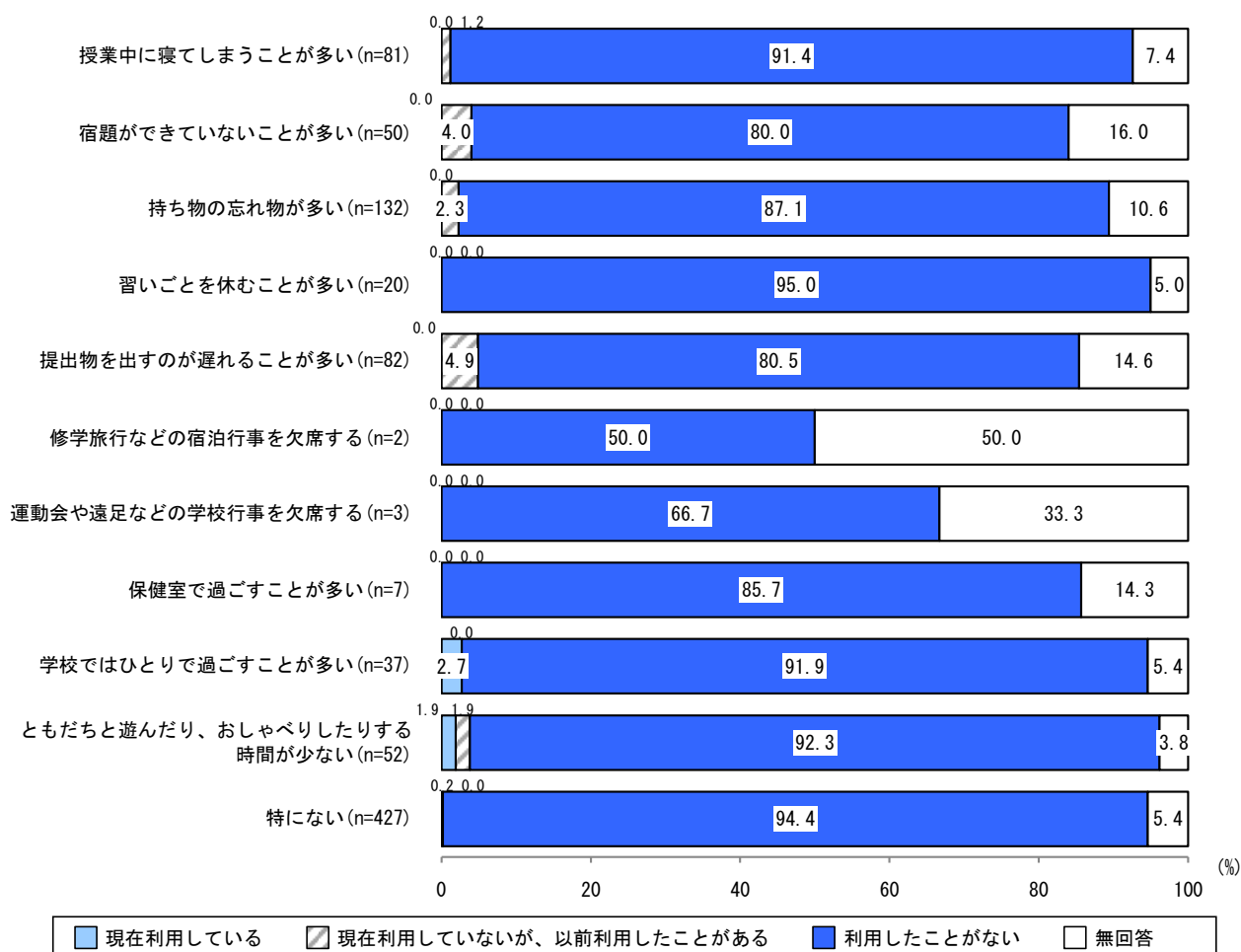
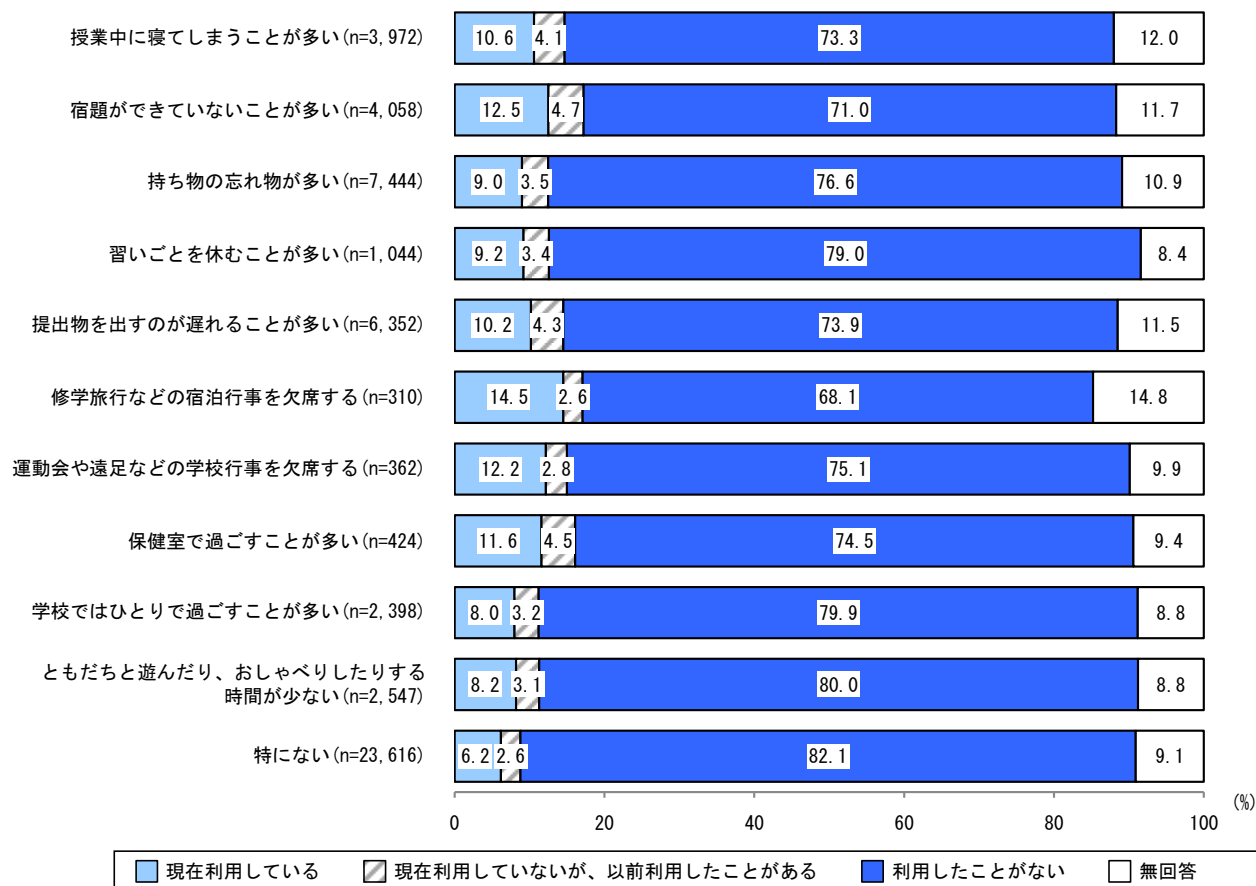


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「学校ではひとりで過ごすことが多い」と回答した割合が2.7%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

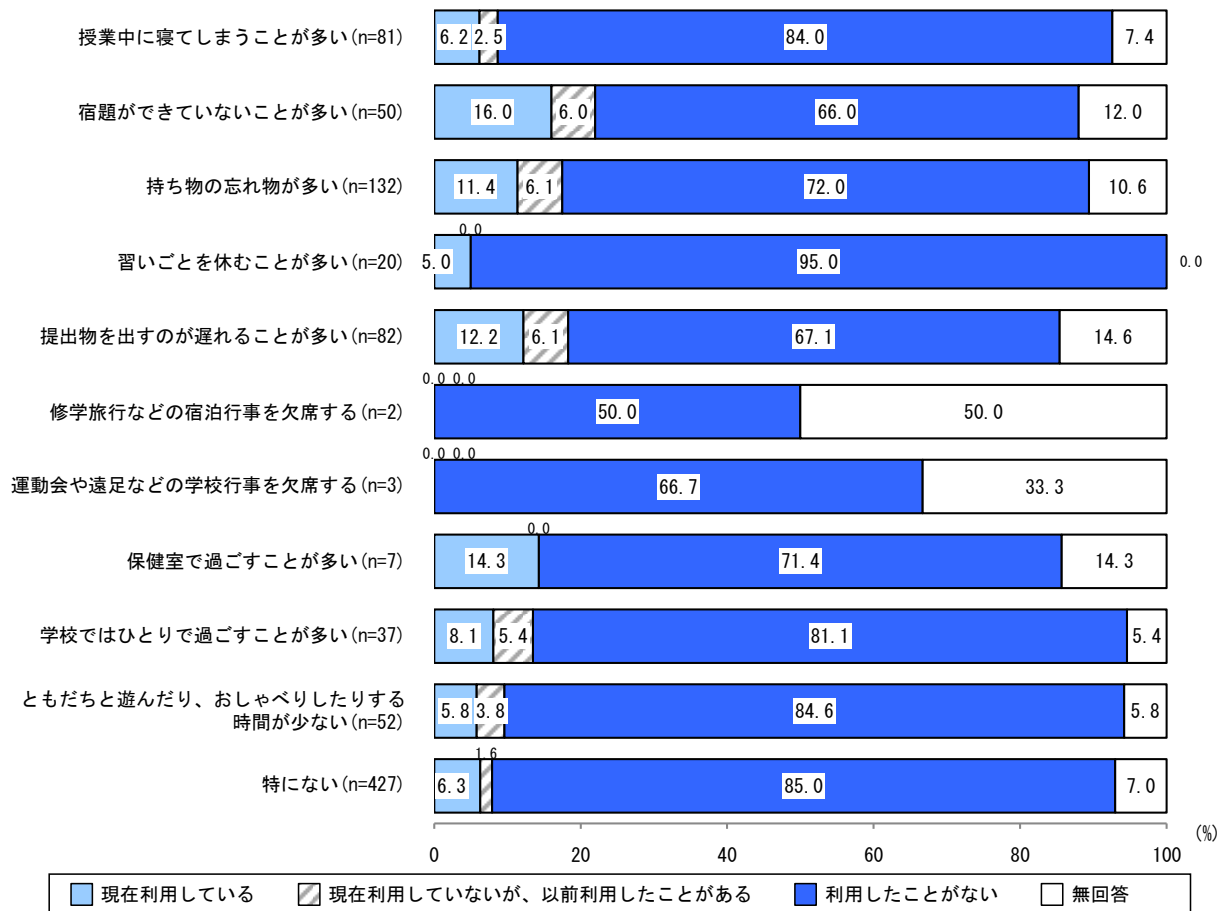
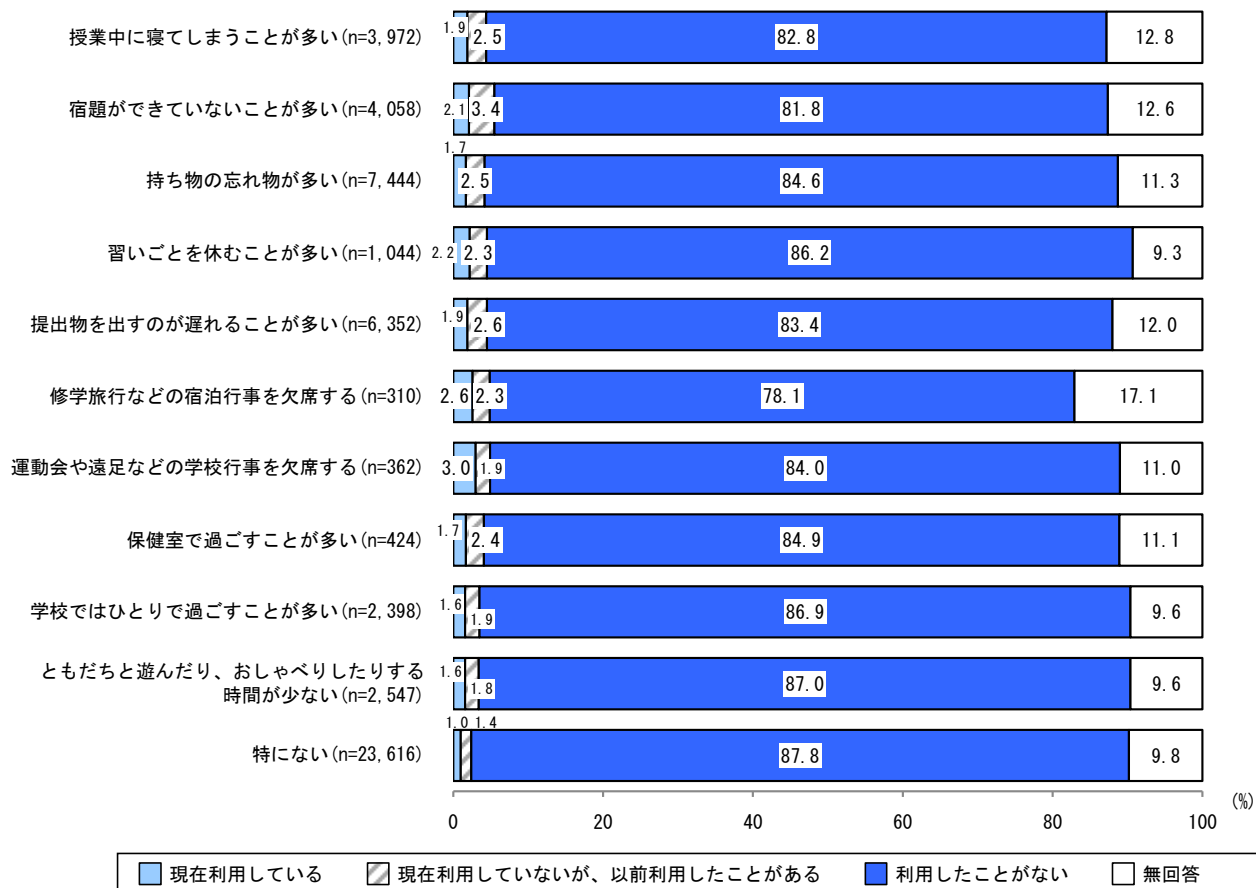


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が16.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

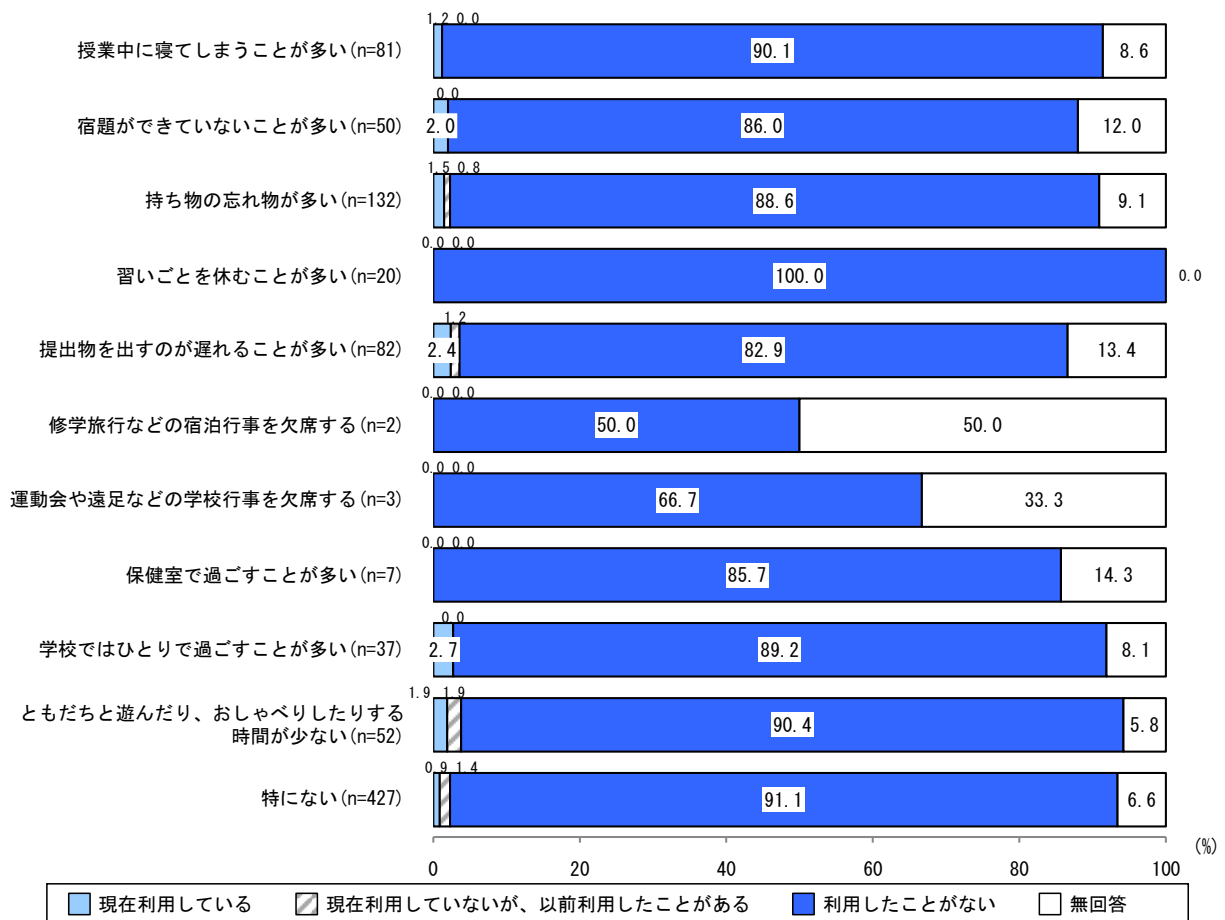
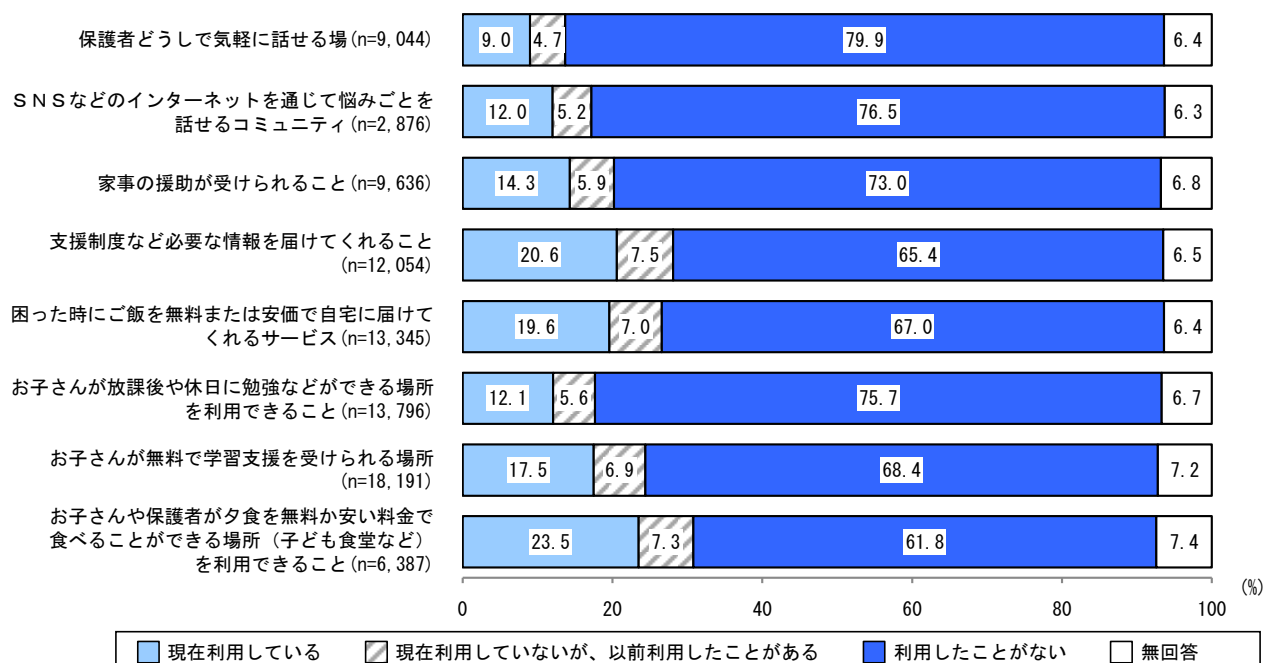


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「学校ではひとりで過ごすことが多い」と回答した割合が2.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

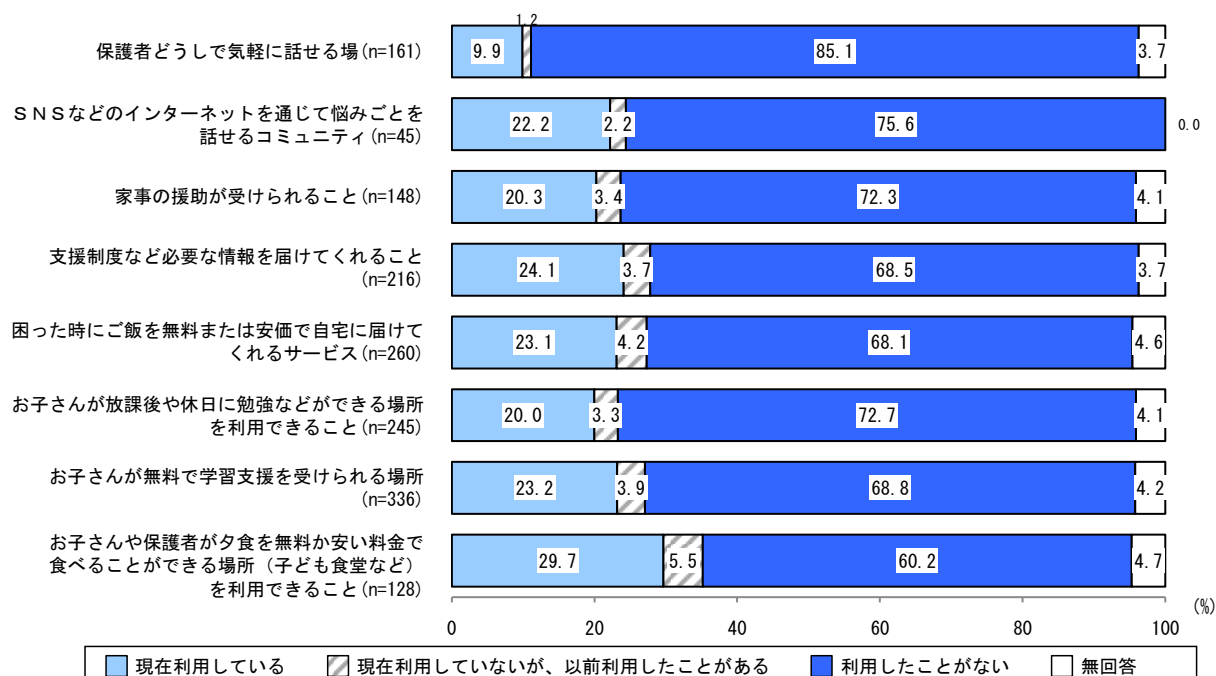
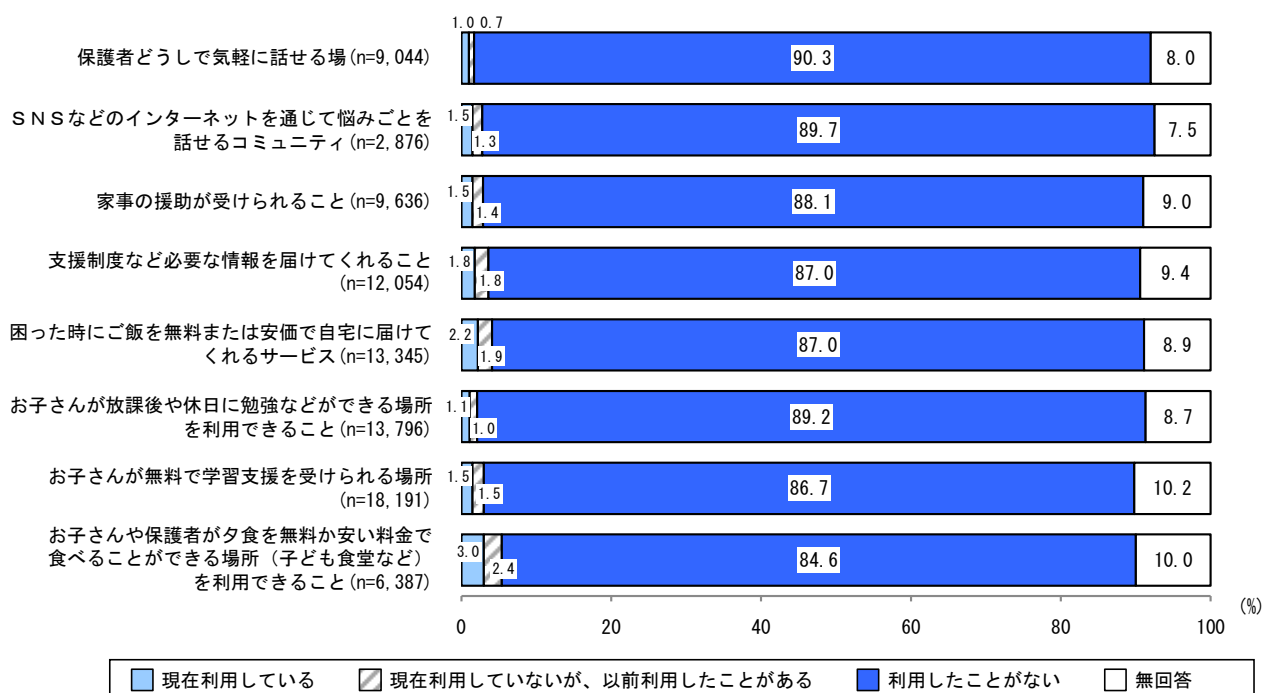


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が29.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

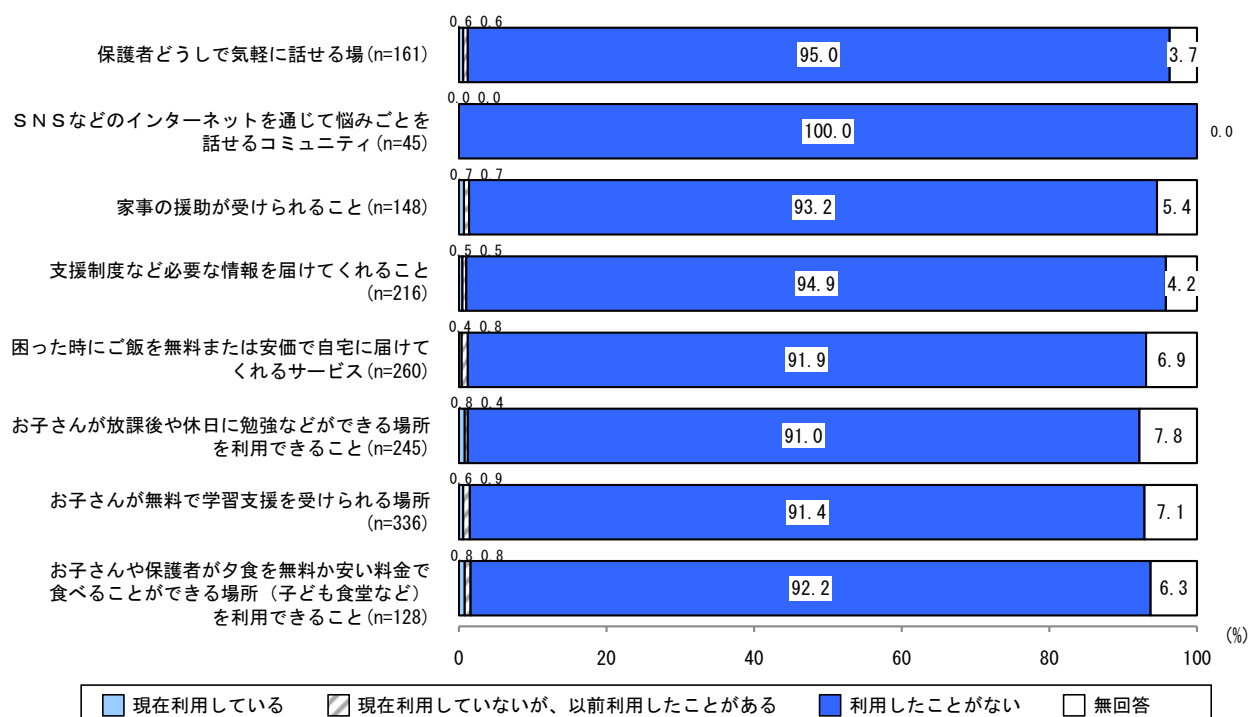
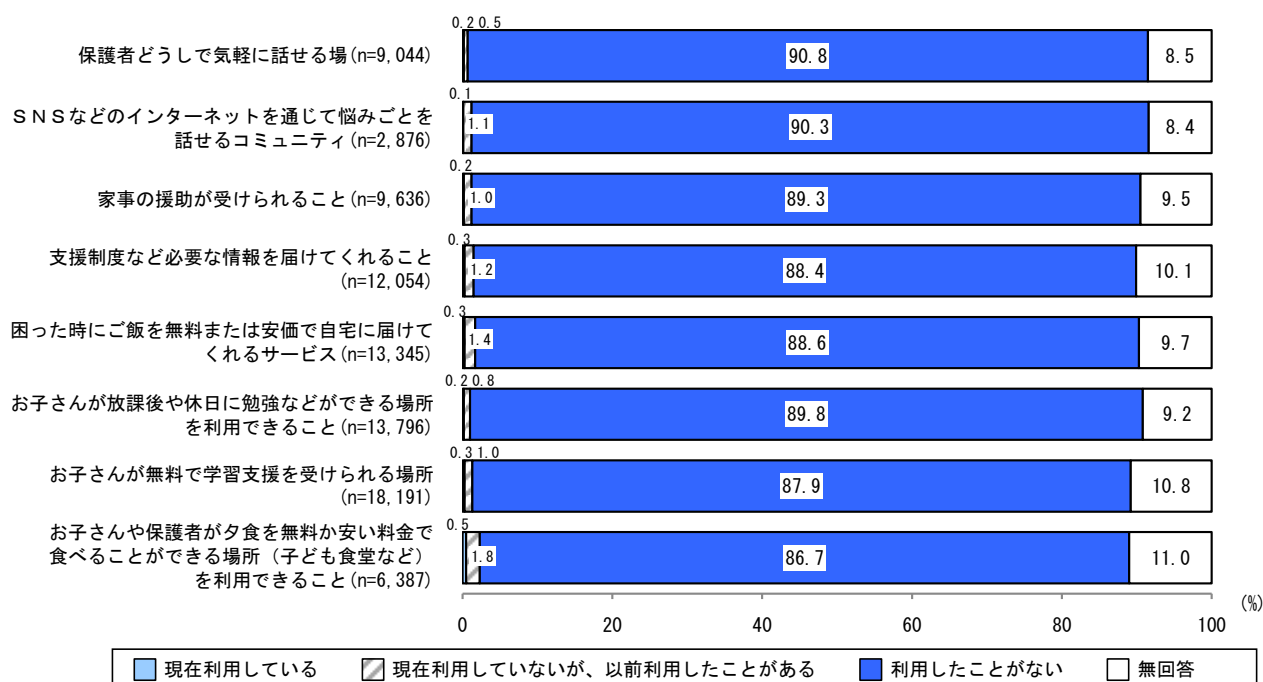


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

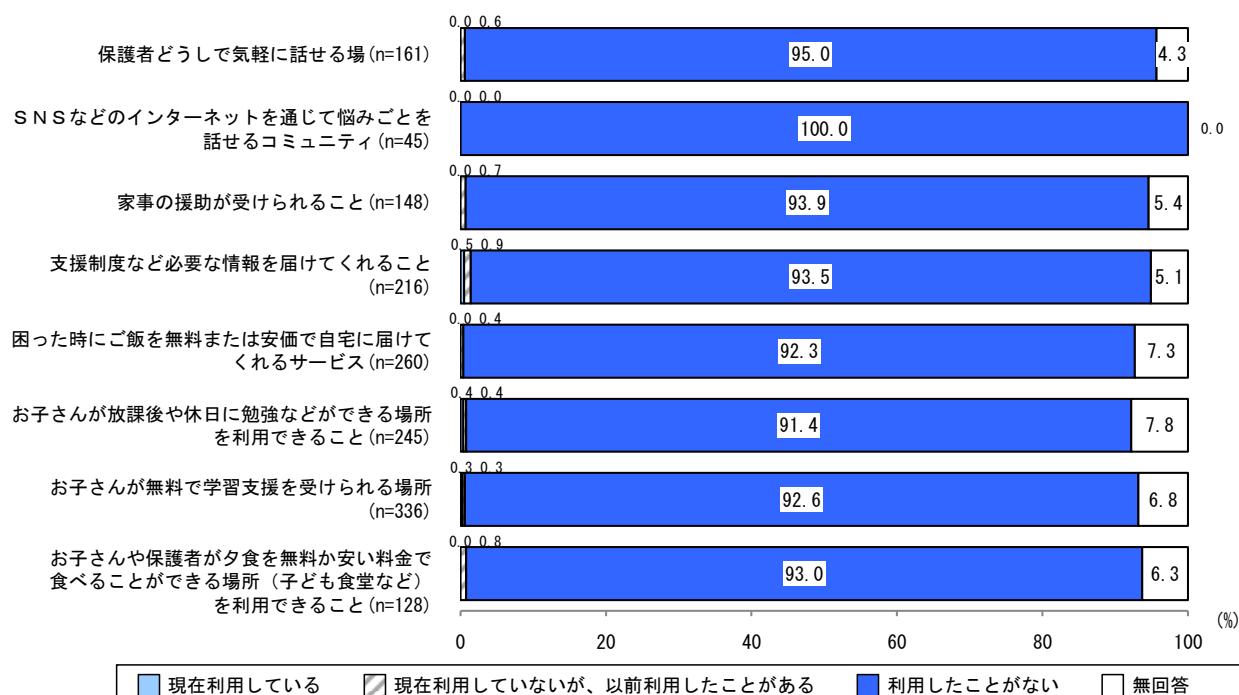
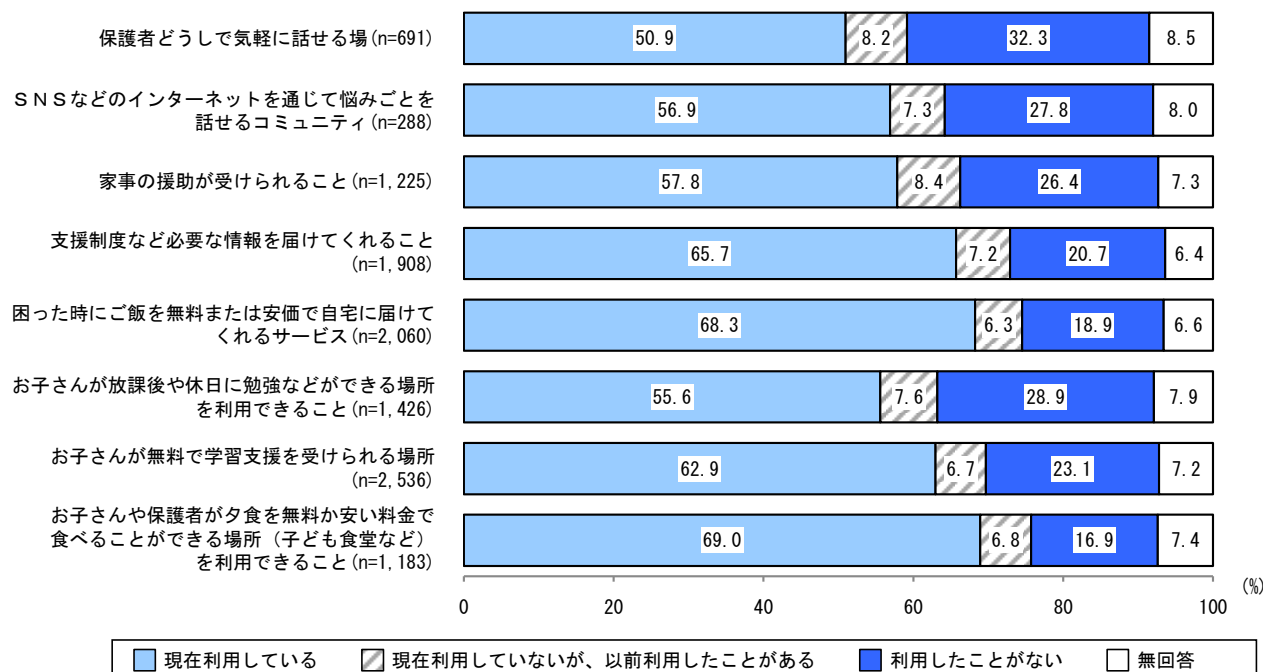


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

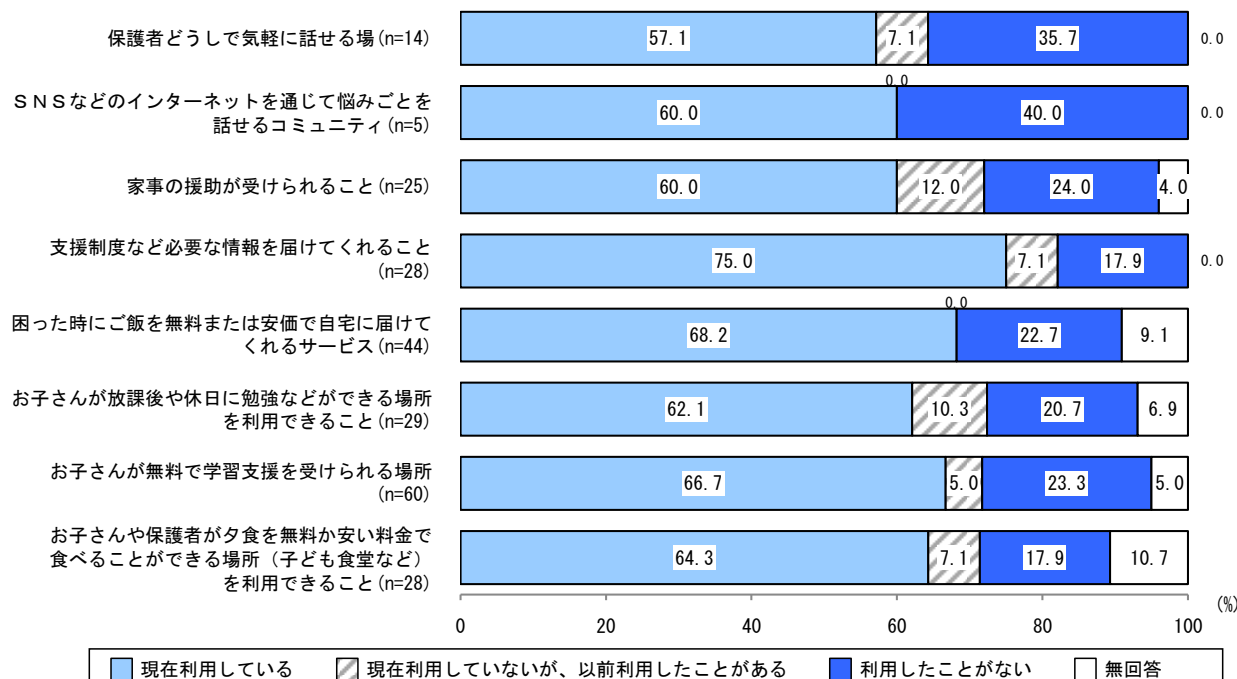
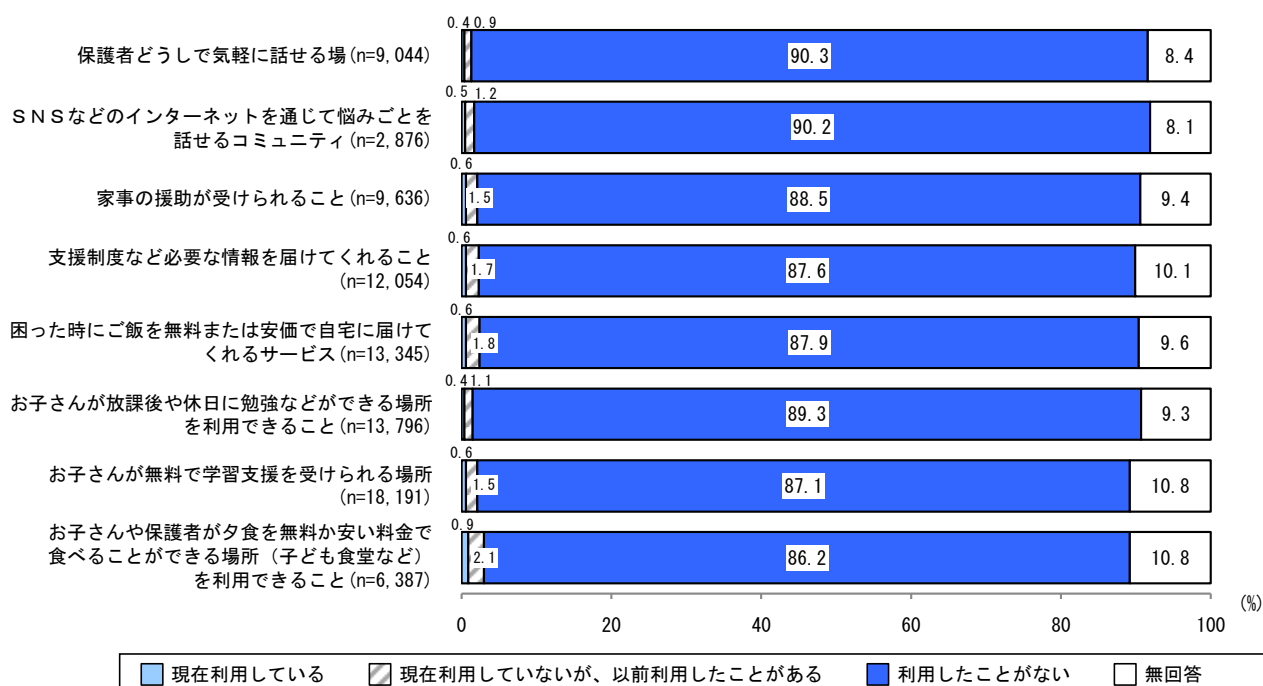


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯を対象として、身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と回答した割合が75.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

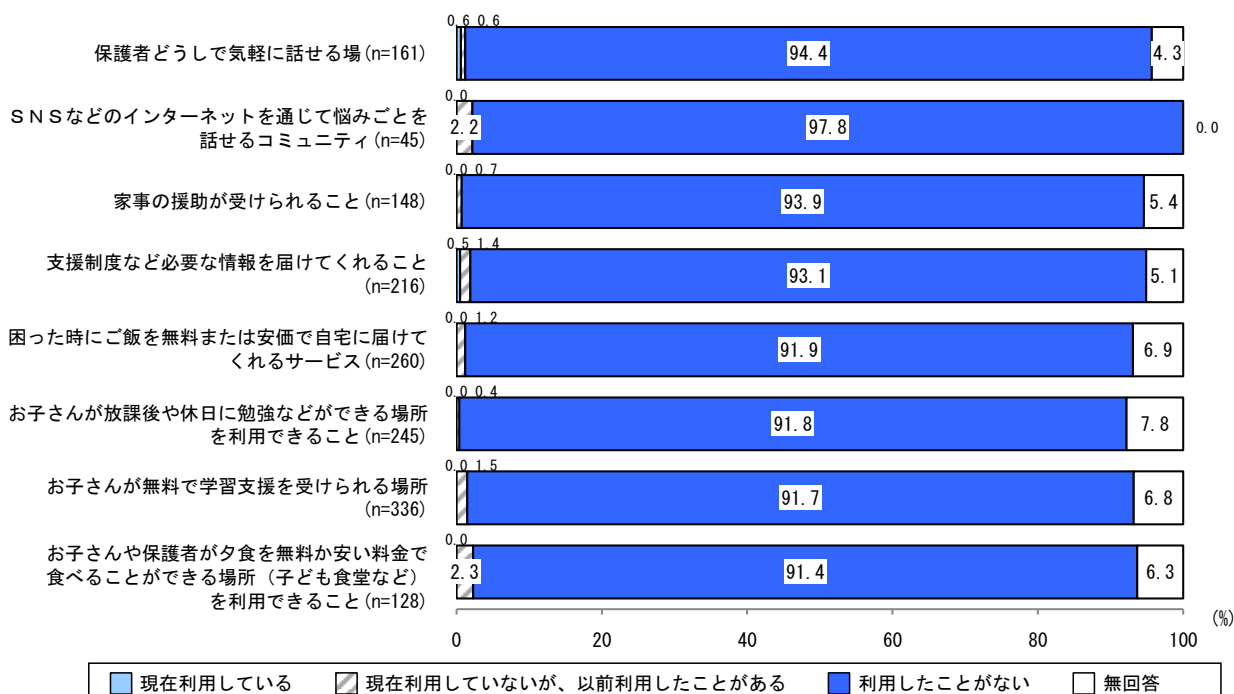
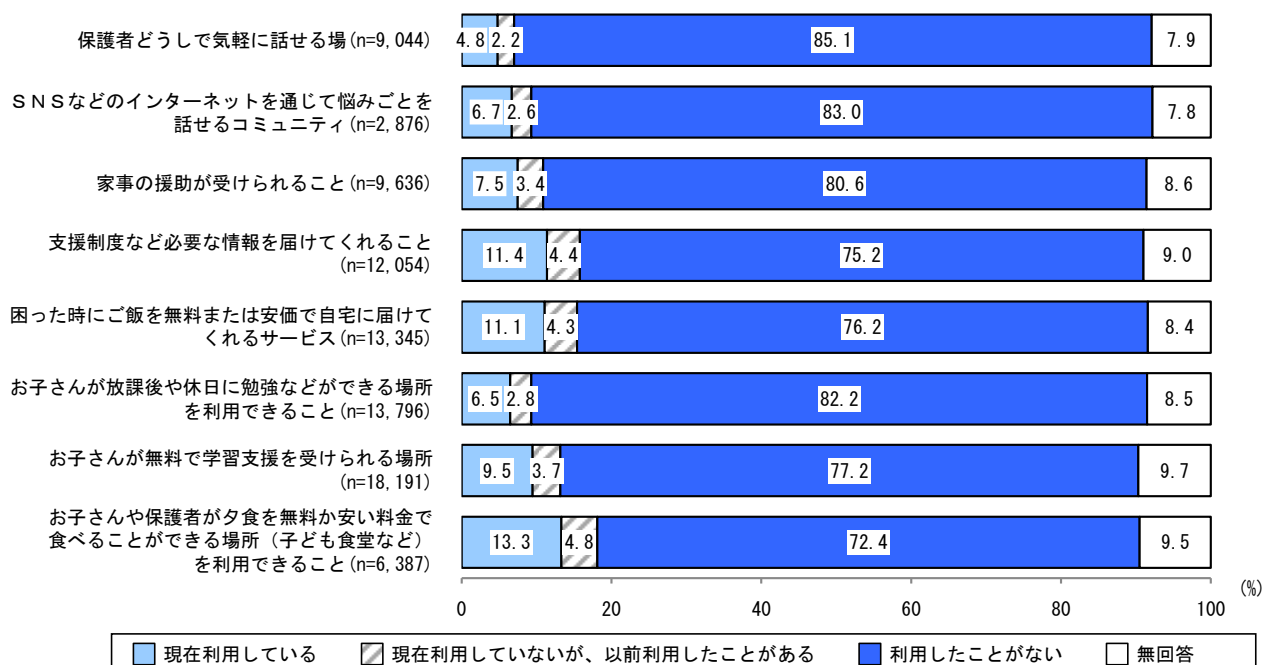


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

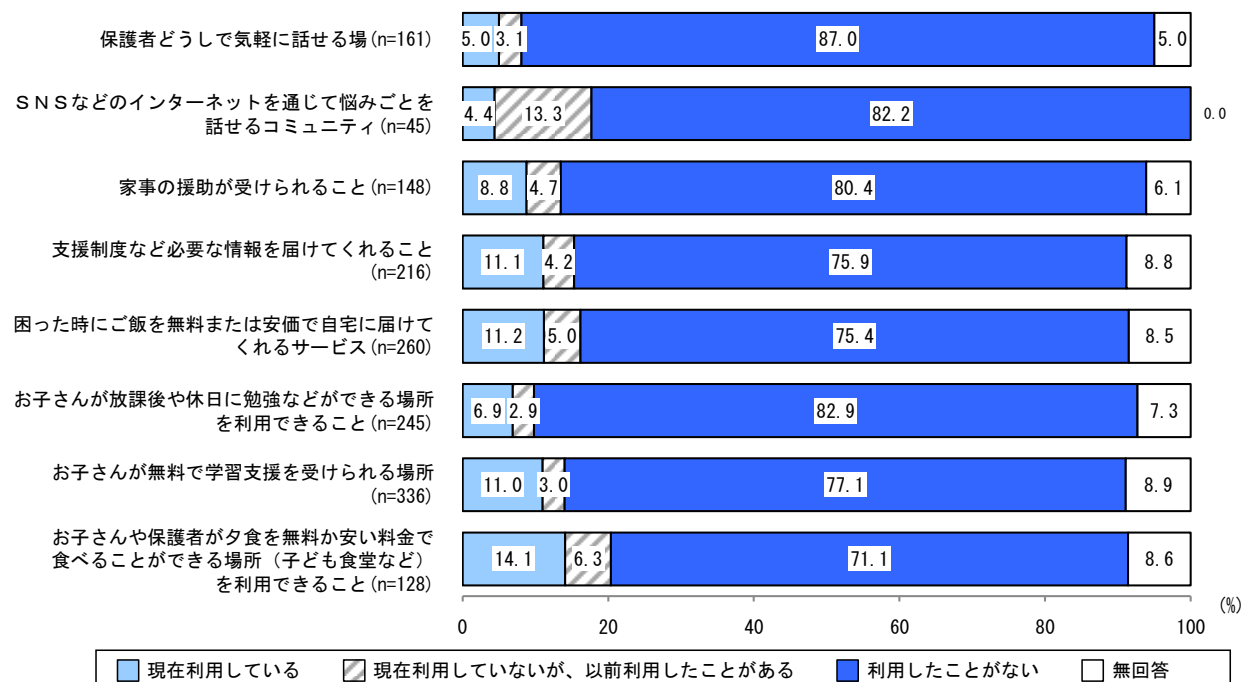
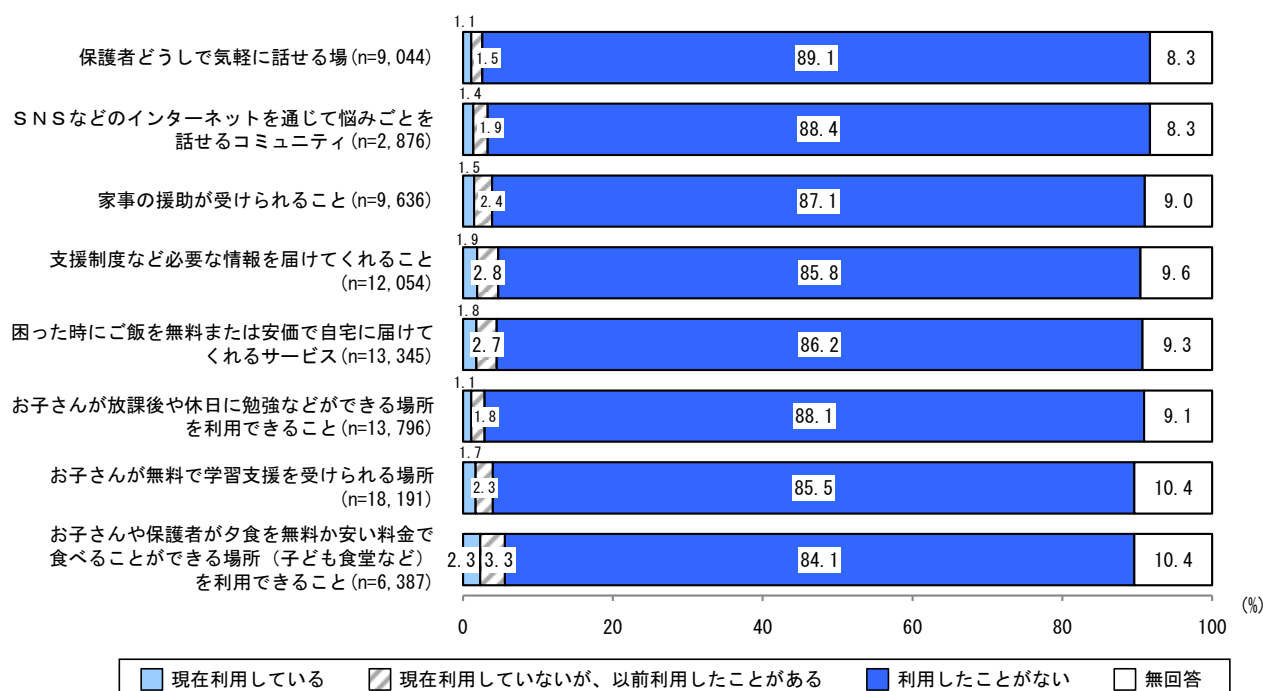


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が14.1%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

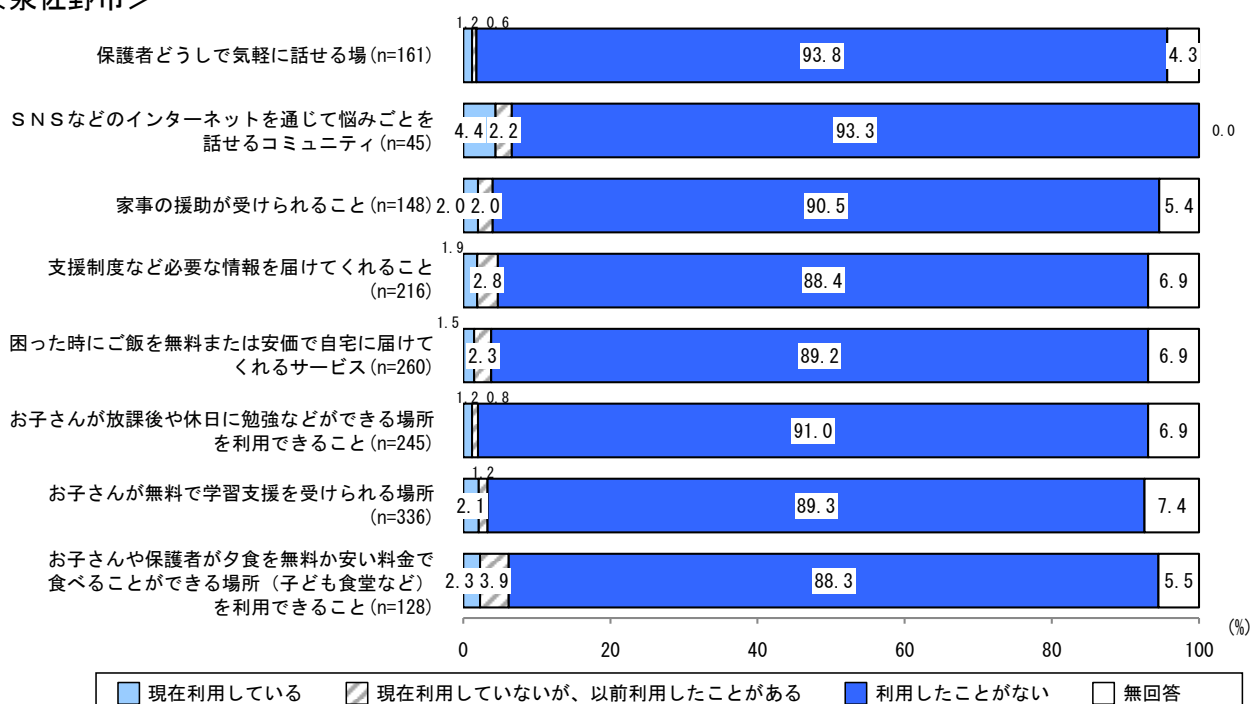


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が4.4%で最も高くなっている。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が17.7%となっている。困窮度Ⅰ群では63.0%、困窮度Ⅱ群では、40.0%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で63.2%、困窮度Ⅰ群で91.4%、困窮度Ⅱ群で75.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.4%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、1.1%、困窮度Ⅱ群では0.0%となっている。社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で32.8%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で35.5%、困窮度Ⅱ群で33.3%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が29.4%、高等学校中途退学が41.2%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

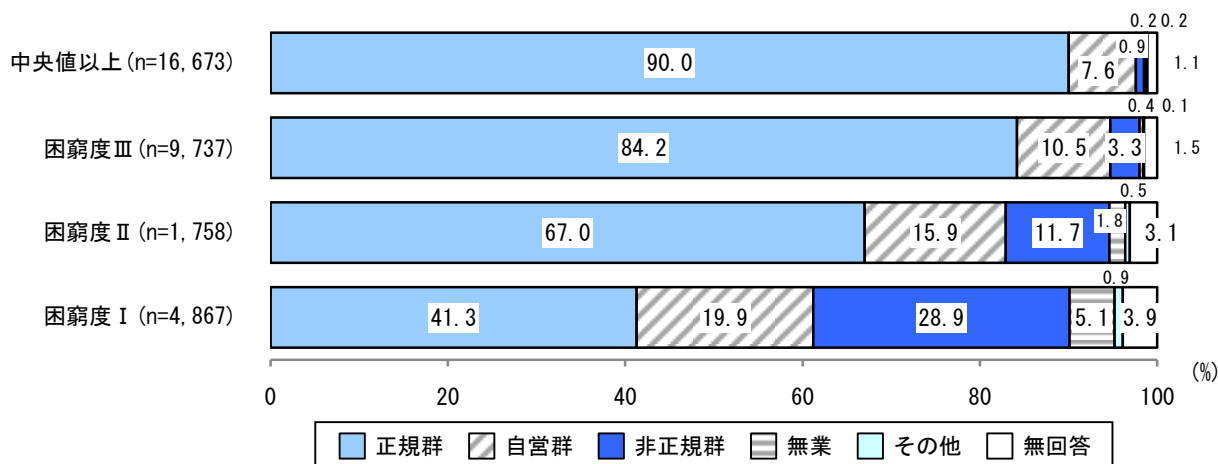
さらに、母親について、はじめて親となった年齢に注目し、困窮度別に中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい年齢階級について述べる。困窮度Ⅰ群と中央値以上群で比較すると、20～23歳で初めて親となったと回答した群では（26.1%対5.8%）と20ポイント以上高くなっており、他の年代区分の群に比べ突出して困窮度Ⅰ群の割合が高くなっている。20代前半ではじめて親となった者に対する包括的支援の充実と、あわせて必要な支援につなぐための施策が求められる。

家計を住居の所有状況別にみると「府営・市営の住宅」は他の住居形態の群と比べ、「赤字である」割合が50.0%、子どもの将来のために「貯蓄をしたいが、できていない」割合が70.0%と高くなっており、家計の状況の厳しさと経済的余裕のなさが示されている。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

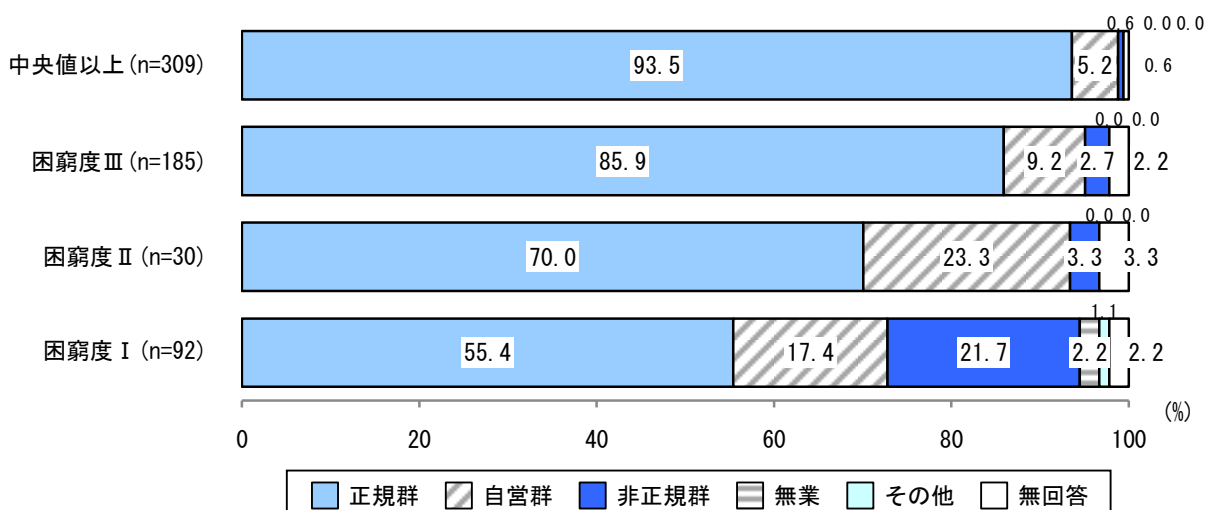


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合が高く、それぞれ21.7%、2.2%となっている。

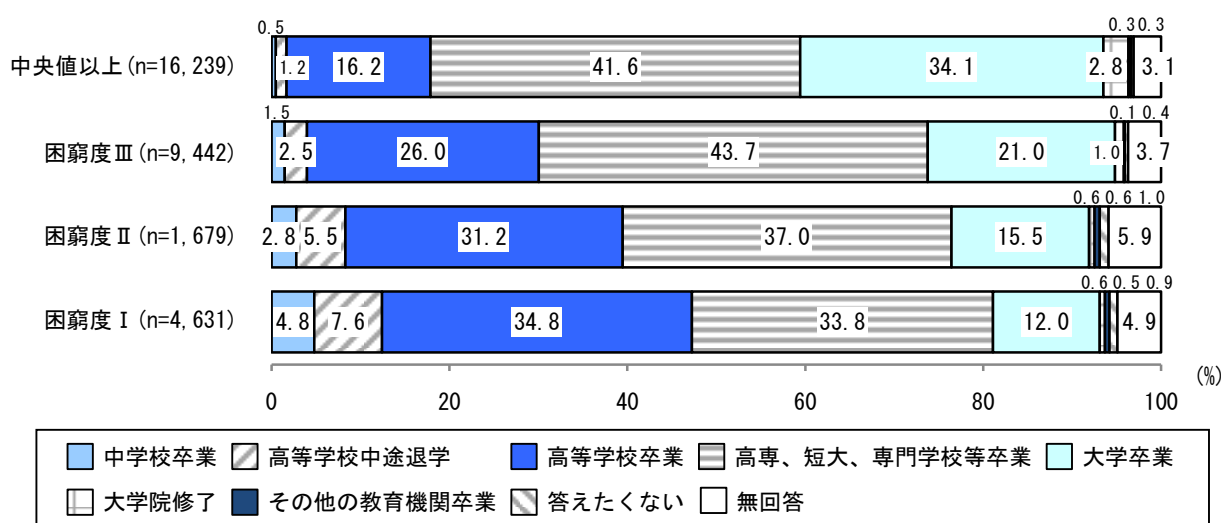
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、
上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）無業。
上記以外がその他となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

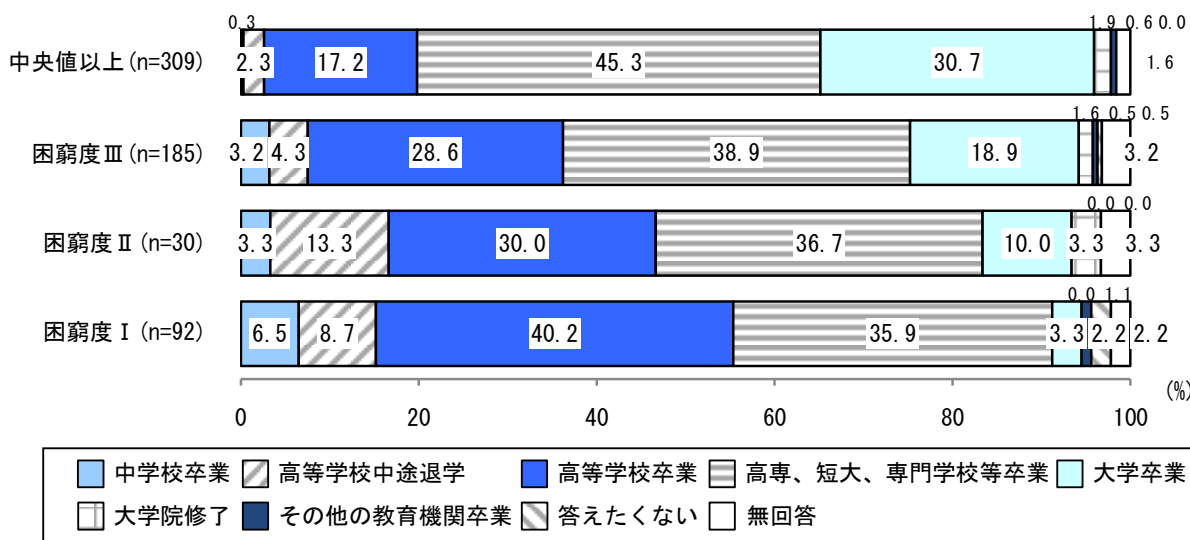
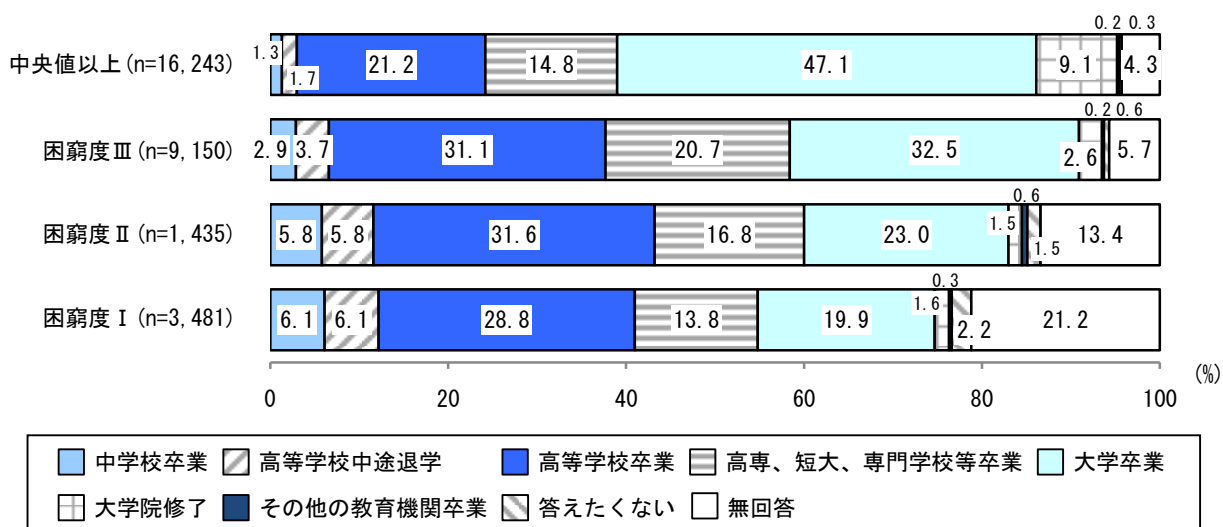


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「中学校卒業」と「高等学校卒業」の割合が高くなっている。一方で、困窮度が高まるにつれ、「大学卒業」の割合が低くなっている。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

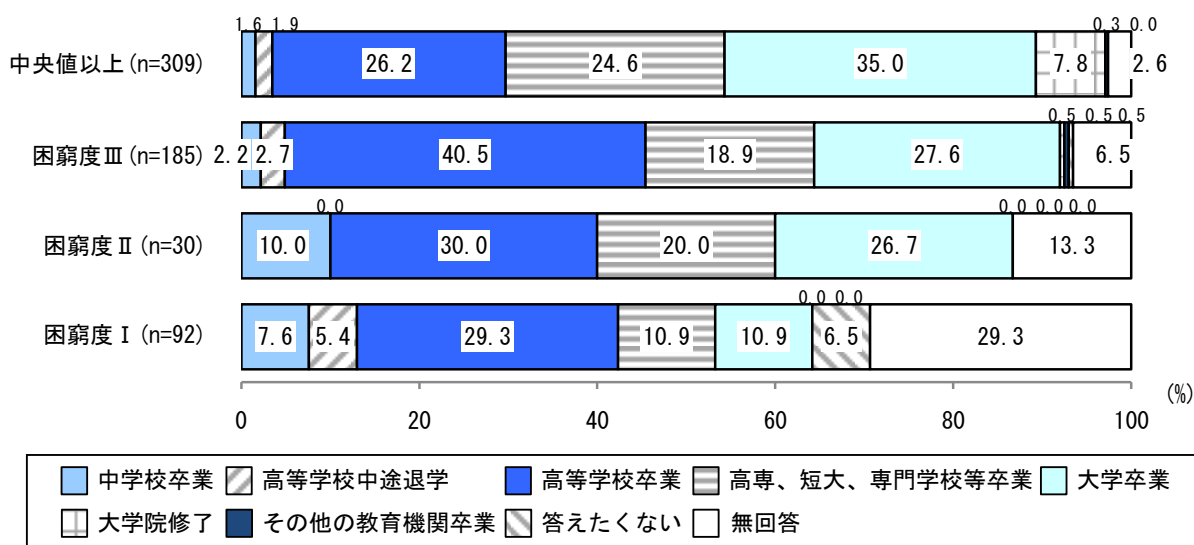
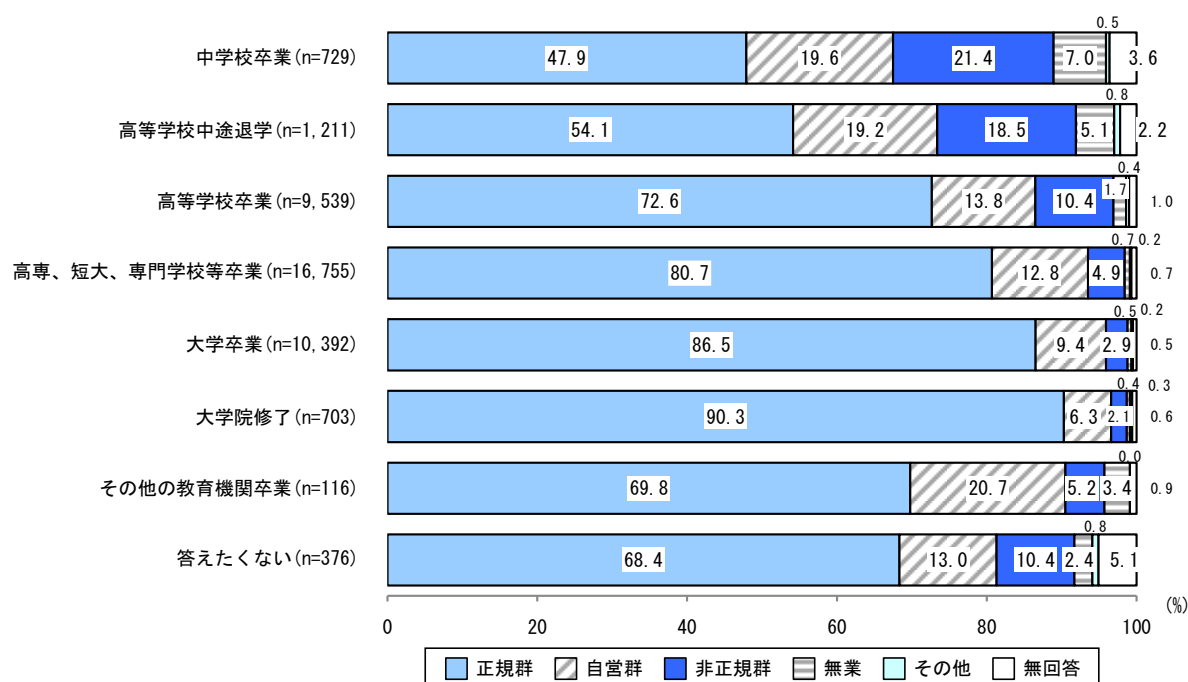


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」の割合は困窮度Ⅱ群で最も高くなっている。困窮度Ⅰ群において、「高等学校中途退学」の割合は5.4%である。また、困窮度Ⅰ群では無回答（29.3%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

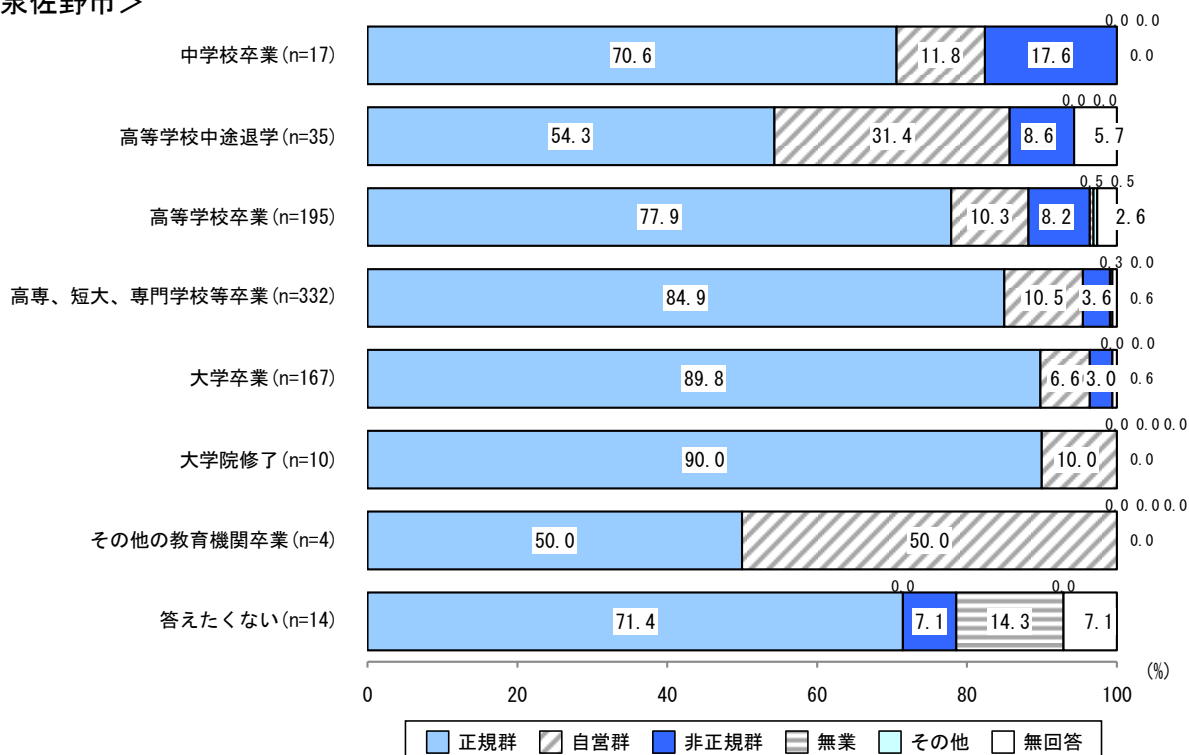
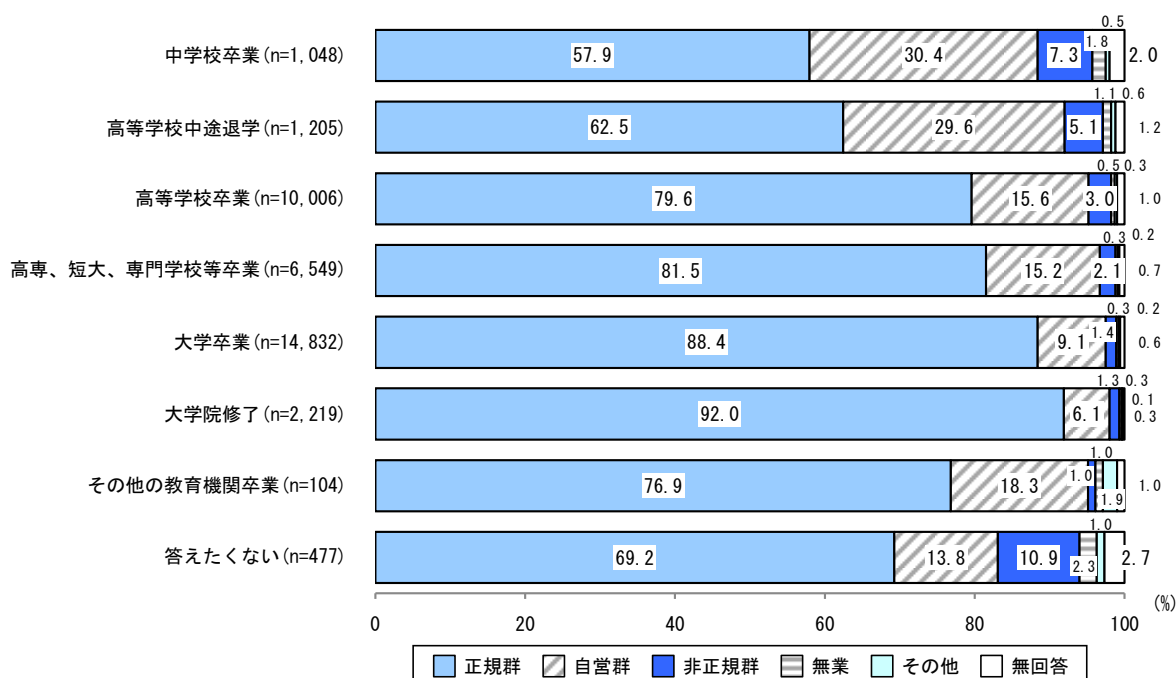


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、「正規群」の割合は、「大学院修了」が90.0%で最も高くなっている。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

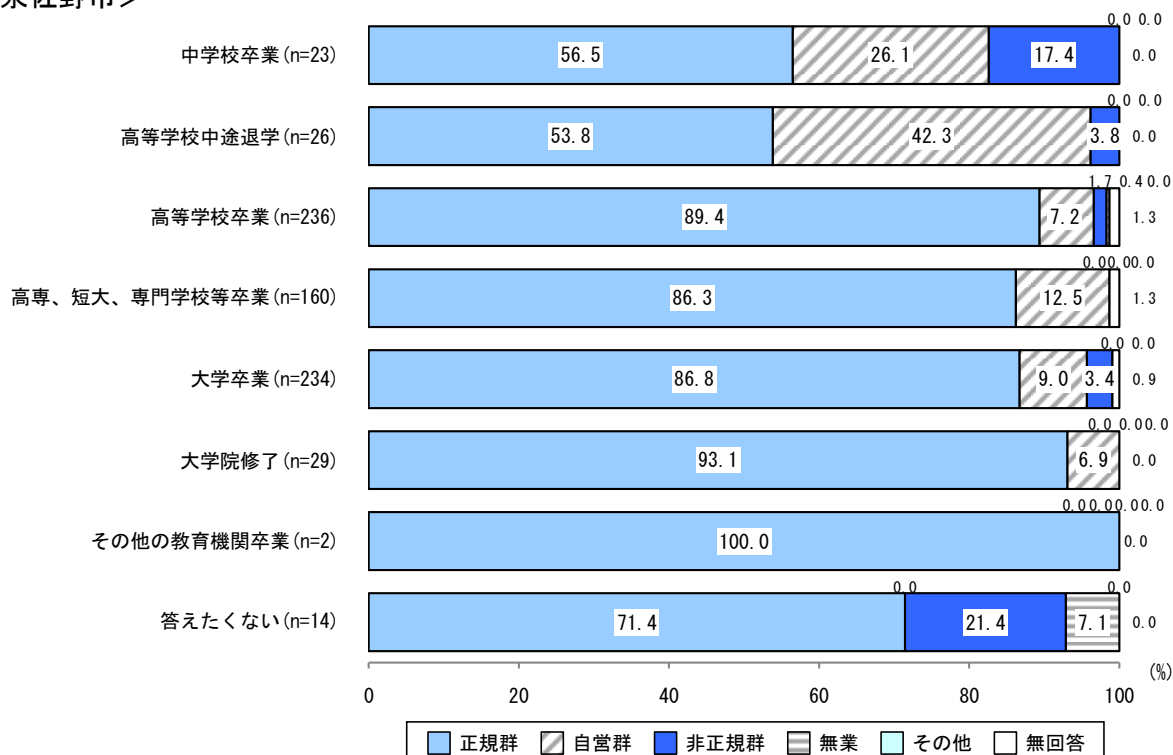
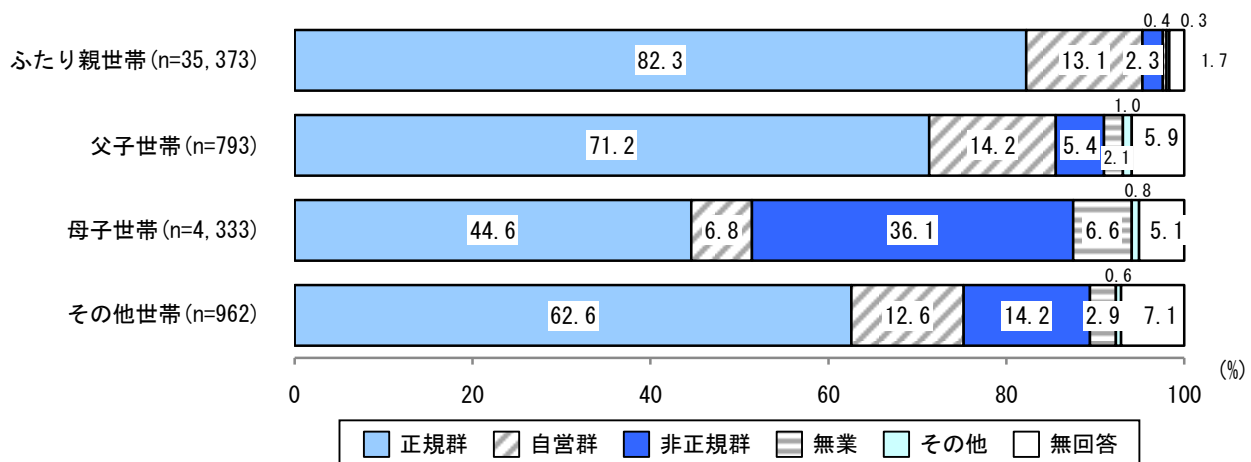


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「正規群」の割合は、「その他の教育機関卒業」が100.0%で最も高く、次いで「大学院修了」が93.1%となっている。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

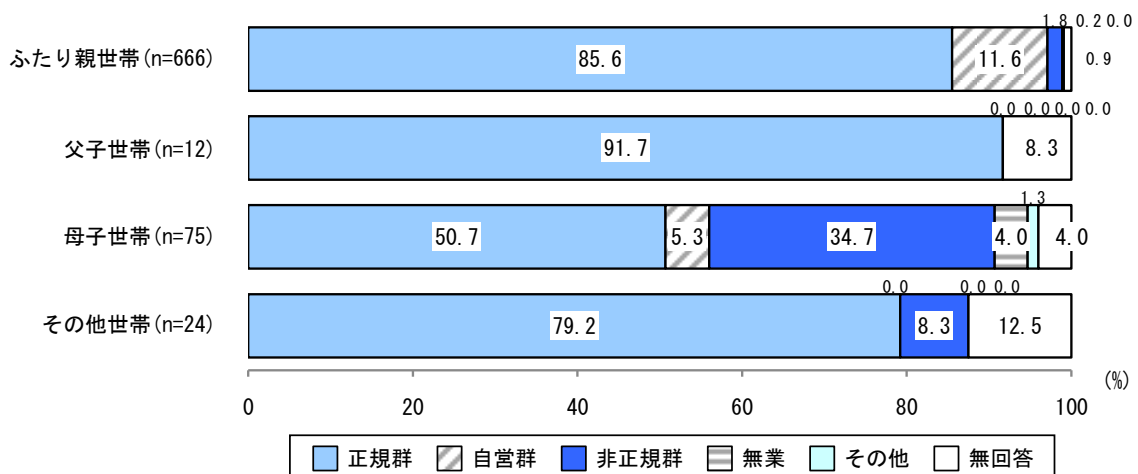
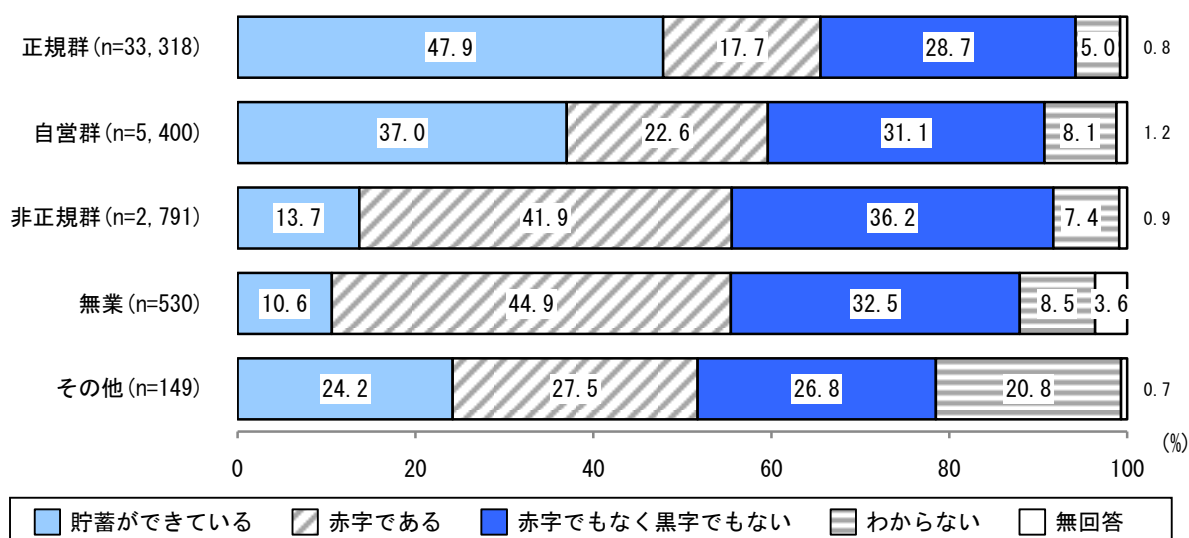


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「父子世帯」では「正規群」の割合が91.7%、「ふたり親世帯」で85.6%であるが、「母子世帯」では50.7%と低くなる。「非正規群」は、「母子世帯」では34.7%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

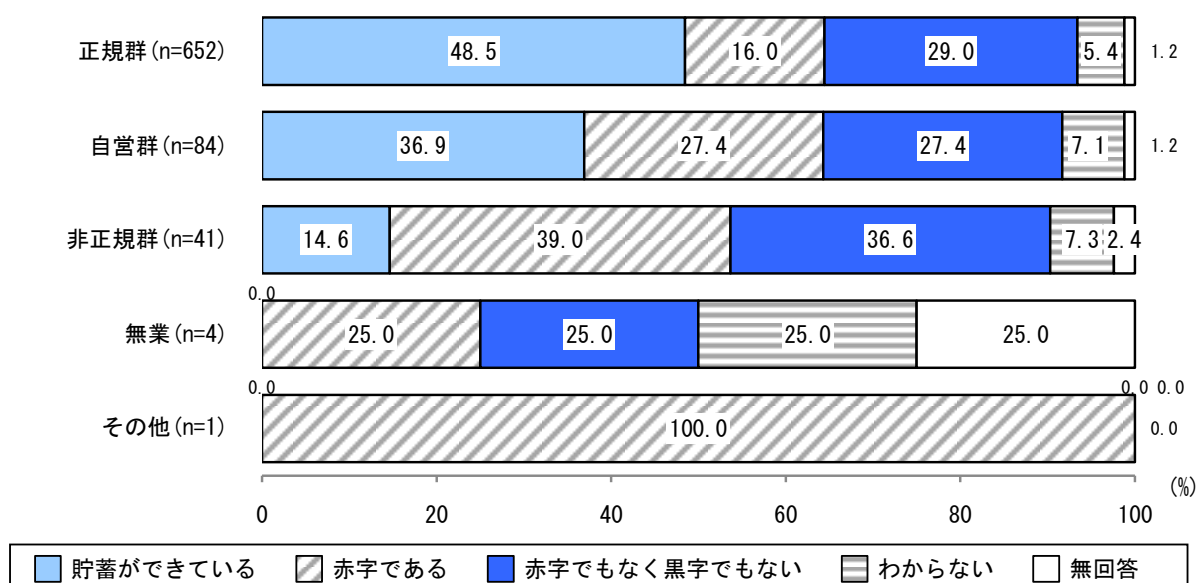


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」では「貯蓄ができています」割合が48.5%である。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が39.0%にのぼっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（93.5%対55.4%）が約38ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（21.7%対0.6%）が21ポイント高くなっており、大きな開きがある。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（40.2%対17.2%）は23ポイント高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（30.7%対3.3%）は約9倍である。一方で、父親の最終学歴においては、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（35.0%対10.9%）は約3倍である。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。なお、考察にあたっては、父親の最終学歴を困窮度別に見た場合に、困窮度Ⅰ群において「無回答」の割合が高い（29.3%）点に留意する必要がある。

次に、保護者の最終学歴別に就業状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「大学卒業」群は「高等学校卒業」群と比べ、「正規」群（89.8%対77.9%）が約12ポイント高くなっている。また、父親の最終学歴別に見ると、「大学卒業」群と「高等学校卒業」群の「正規」群（86.8%対89.4%）や「自営群」（9.0%対7.2%）は同程度であるものの、「大学卒業」群は「高等学校卒業」群と比べ「非正規」群（3.4%対1.7%）は2倍である。この結果から、母親については学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高いことを示唆している一方、父親については学歴による正規雇用や自営業の割合の差は小さい。

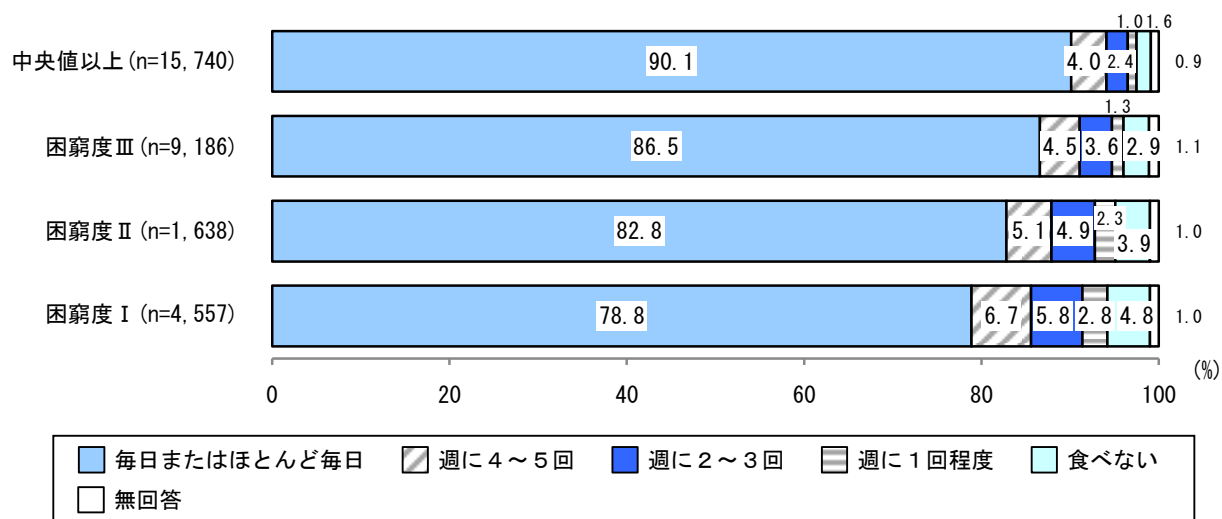
親の就労状況を世帯構成別に見ると、ふたり親世帯は母子世帯に比べ、「正規」群（85.6%対50.7%）が34ポイント以上高くなっている。また、父子世帯は母子世帯と比べ、「正規」群（91.7%対50.7%）が41ポイント高く、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。一方で、母子世帯は「非正規」群（34.7%）の割合がその他の世帯に比べ非常に高くなっており、不安定な就労状況にあることを示唆している。

最後に、保護者の就労状況別に見る家計の状況に着目する。親の就労状況別に見ると、「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄が出来ている」（48.5%対14.6%）が約34ポイント高くなっている。また、親の就労状況別で見ると、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（39.0%対16.0%）が23ポイント高くなっている。この結果から、保護者の就労状況が正規雇用であるほど、貯蓄ができるなど生活が安定している傾向が見られる。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

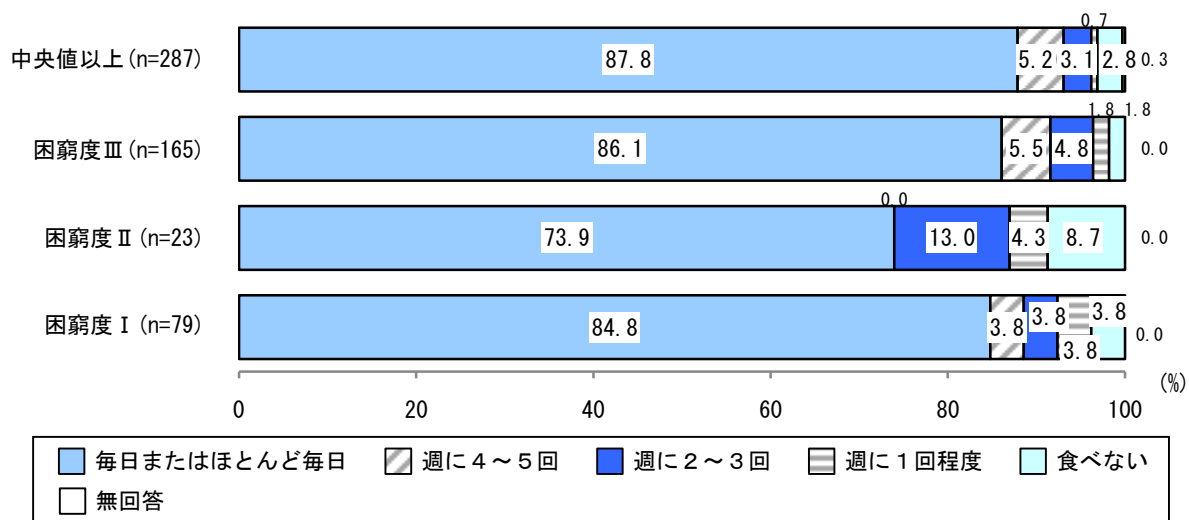
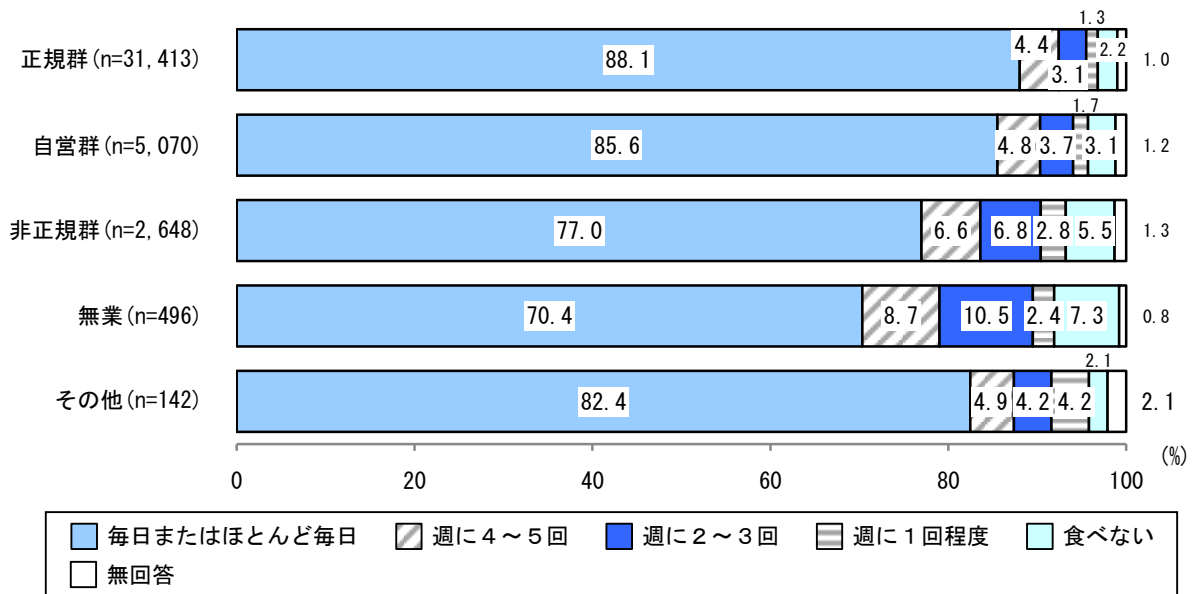


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度Ⅰ群では、15.2%（「毎日またはほとんど毎日」以外の計）が毎日またはほとんど毎日朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

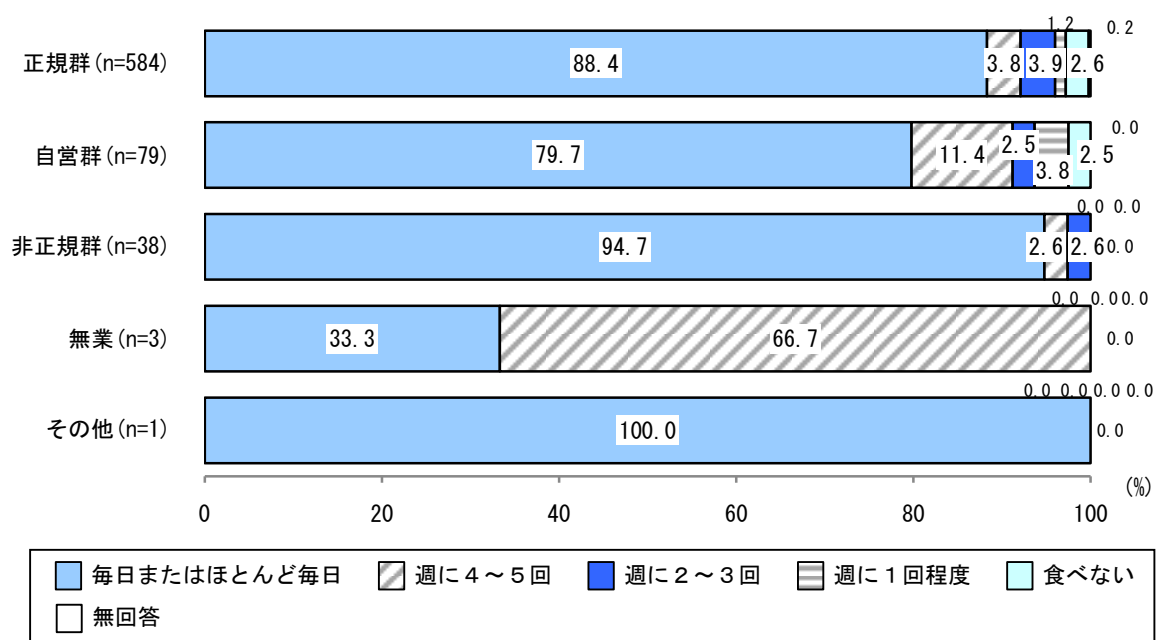
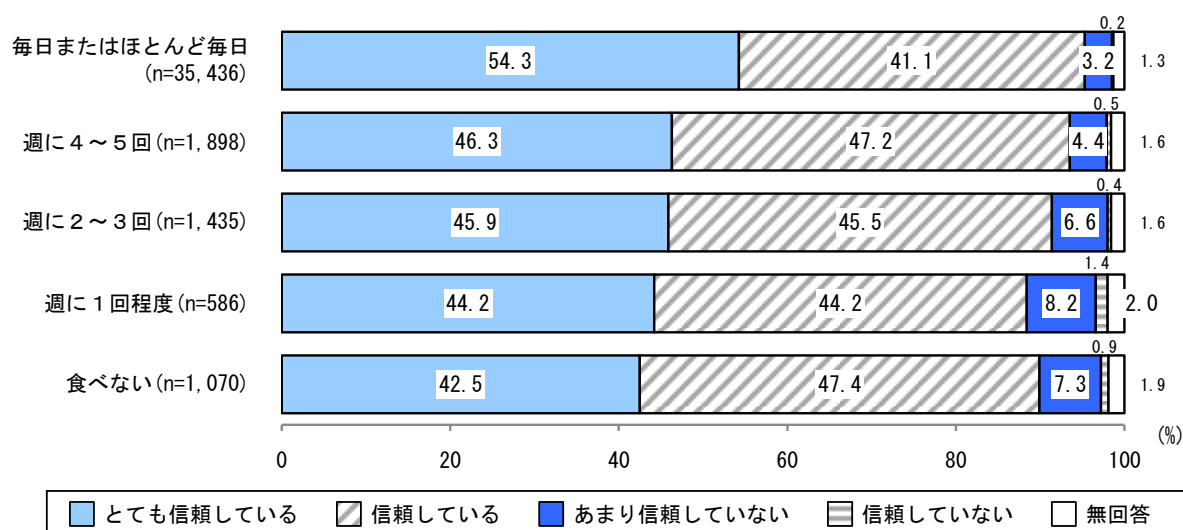


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「非正規群」(94.7%) が最も高く、次いで、「正規群」(88.4%)、「自営群」(79.7%)、「無業」(33.3%) の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

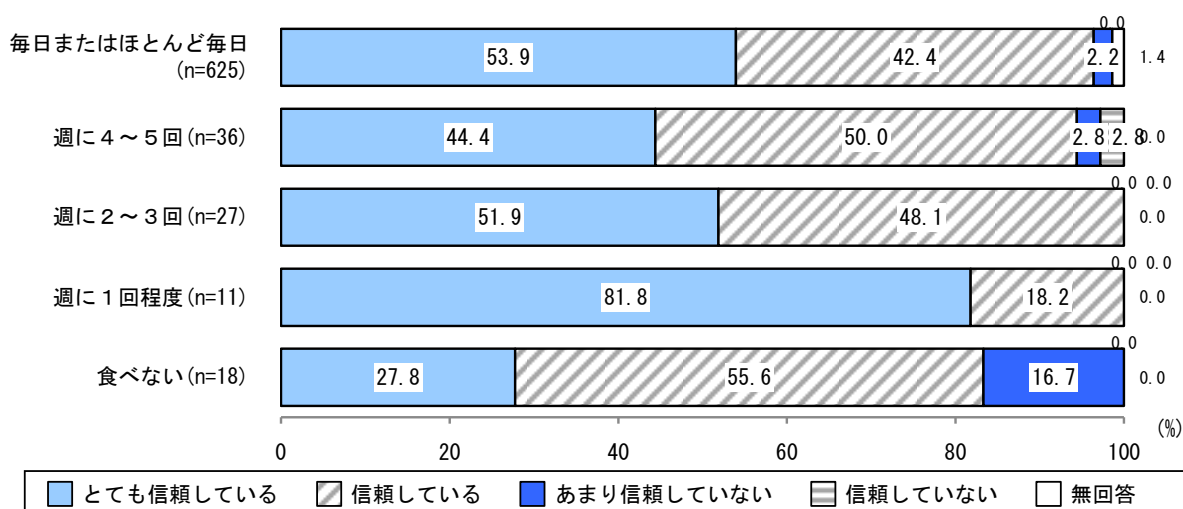
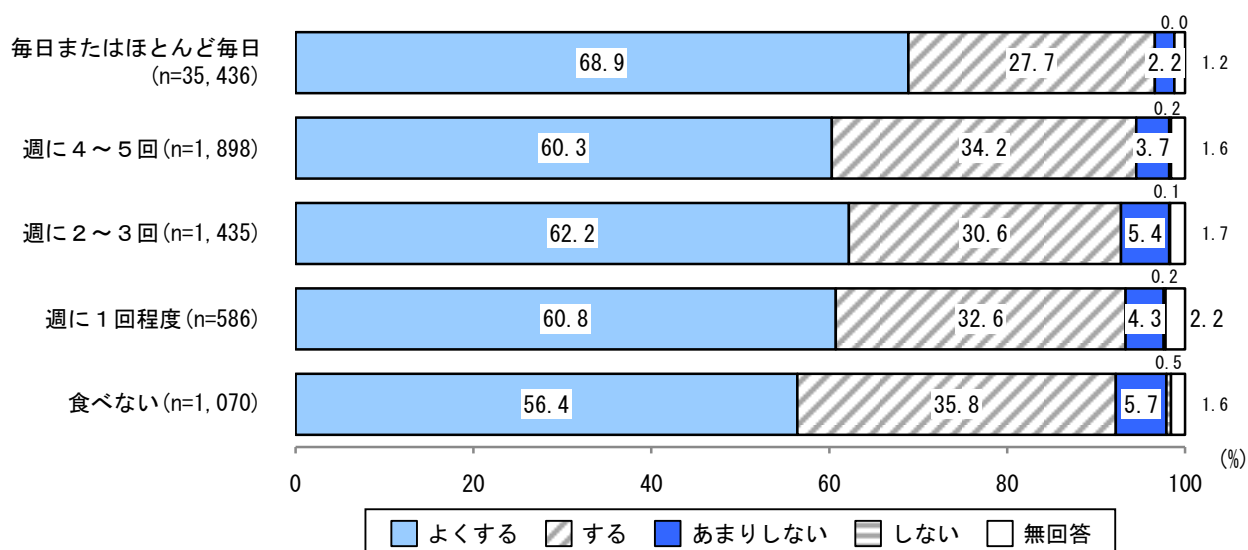


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、朝食を「食べない」と回答した人では、子どもを「とても信頼している」と回答した人が27.8%と最も低い。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

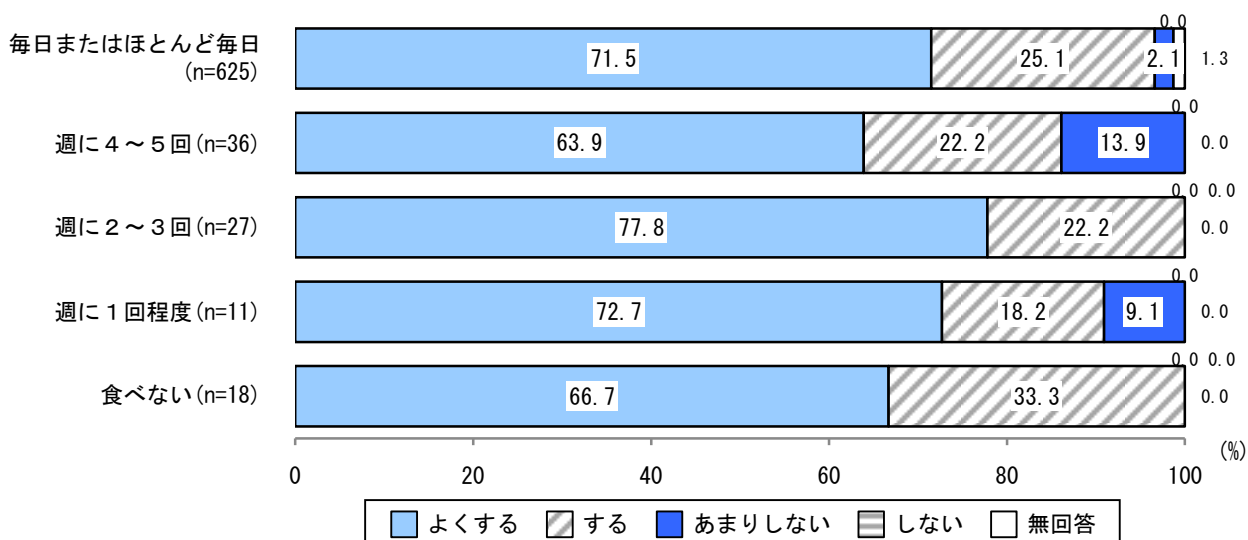
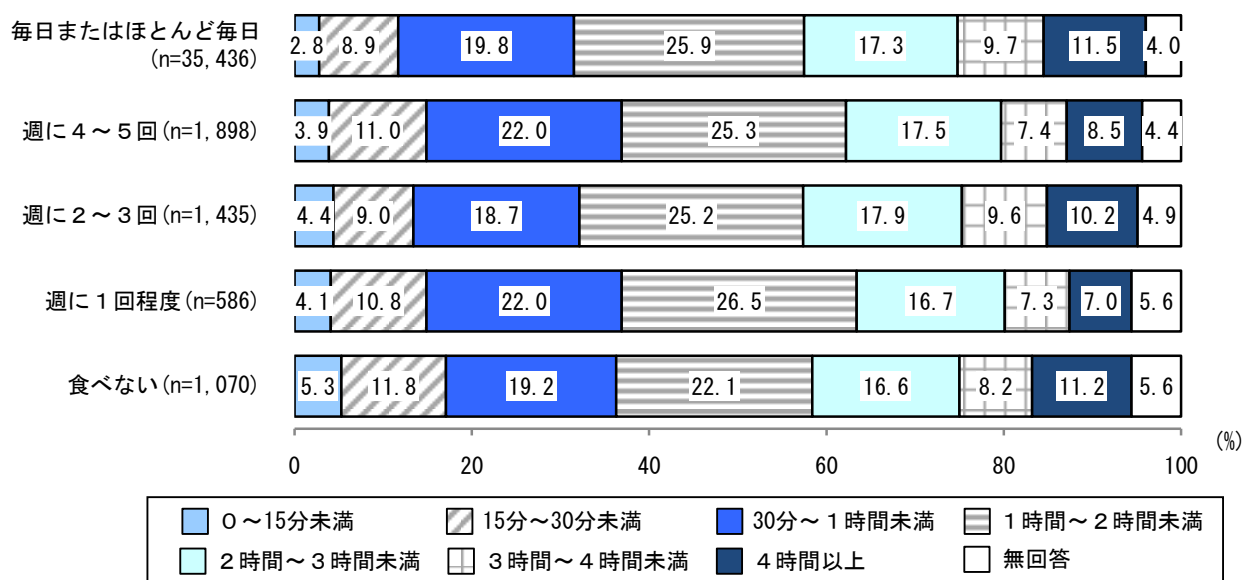


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「週に 4～5 回」朝食をとっていると回答した人では、会話を「よくする」と回答した人が 63.9% と最も低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

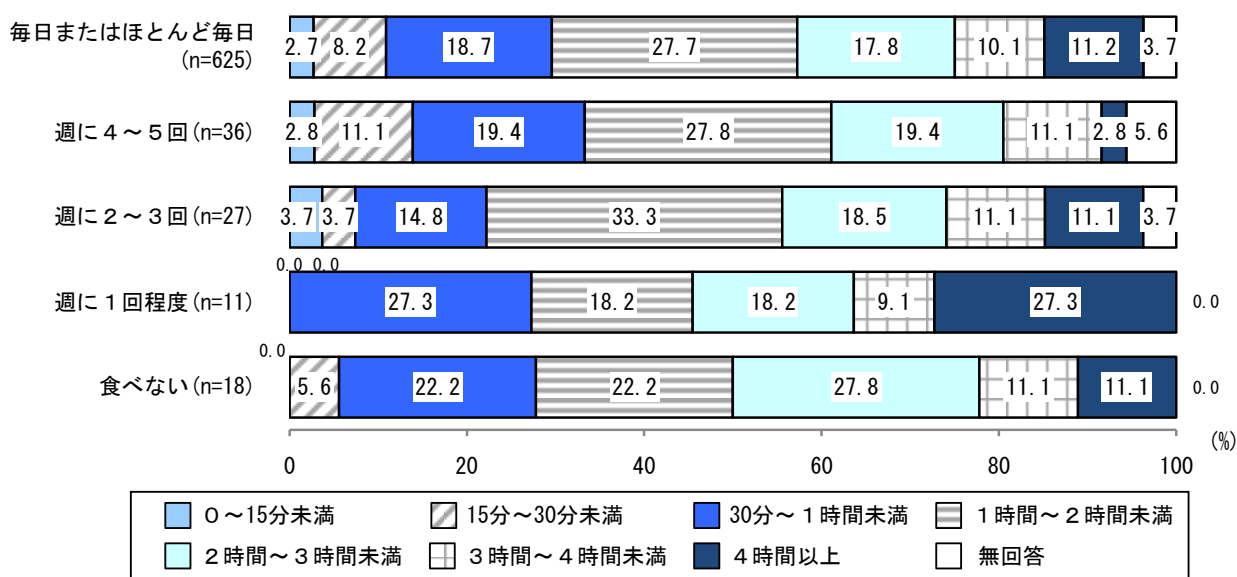
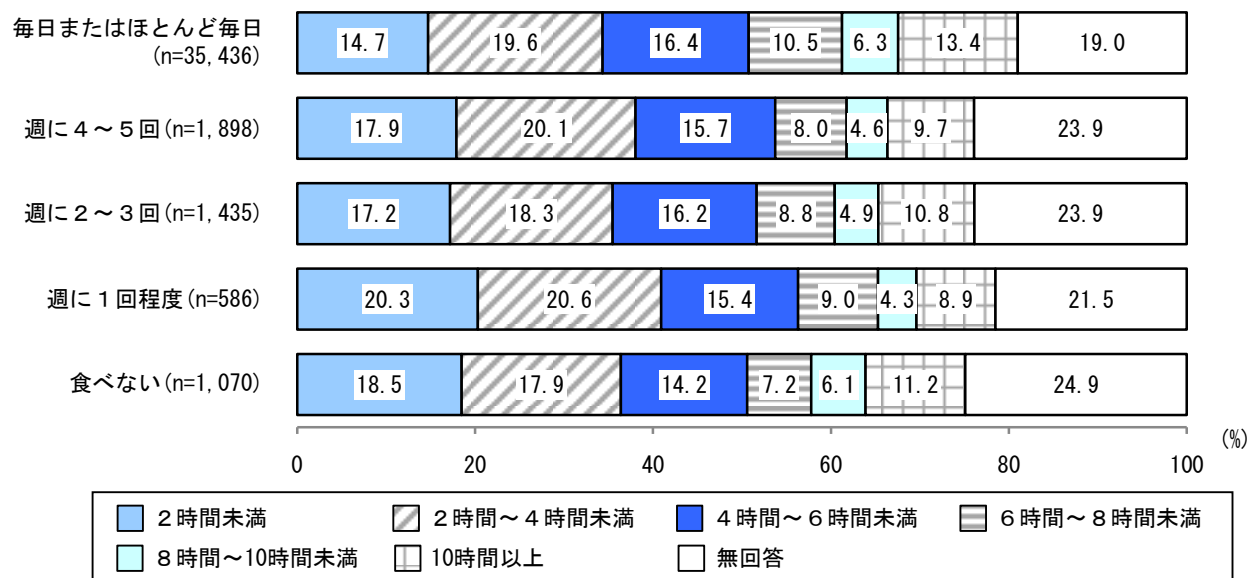


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に2～3回」朝食をとっている人で平日に子どもと一緒にいる時間が「0～15分未満」の割合が3.7%となっている。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

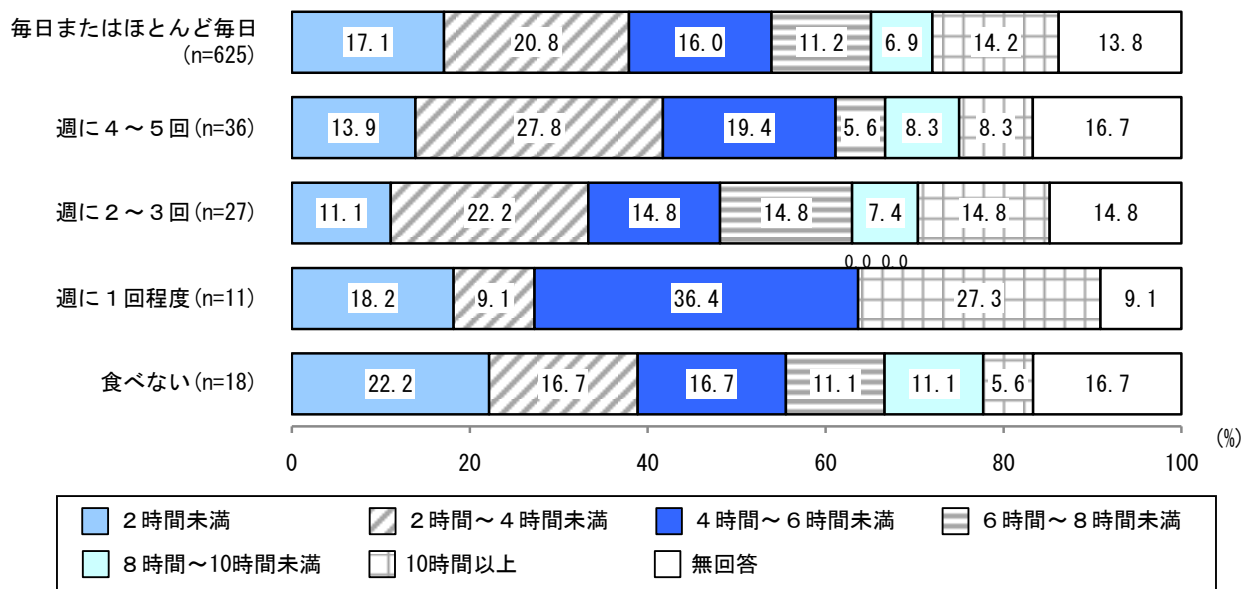
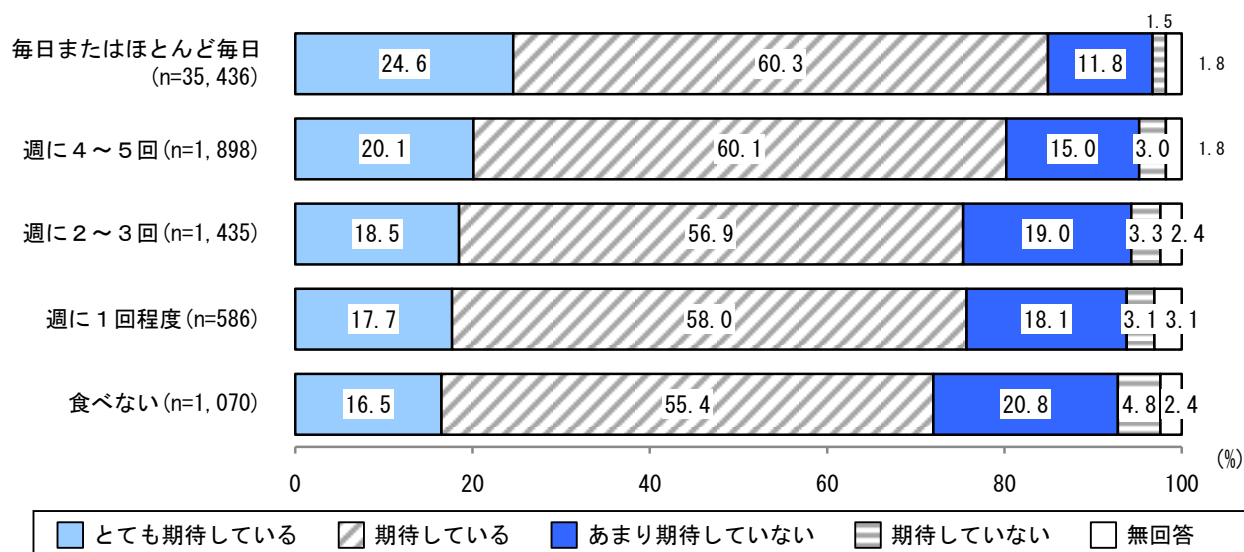


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食を「食べない」人で休日に子どもと一緒にいる時間が「2時間未満」の割合が22.2%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

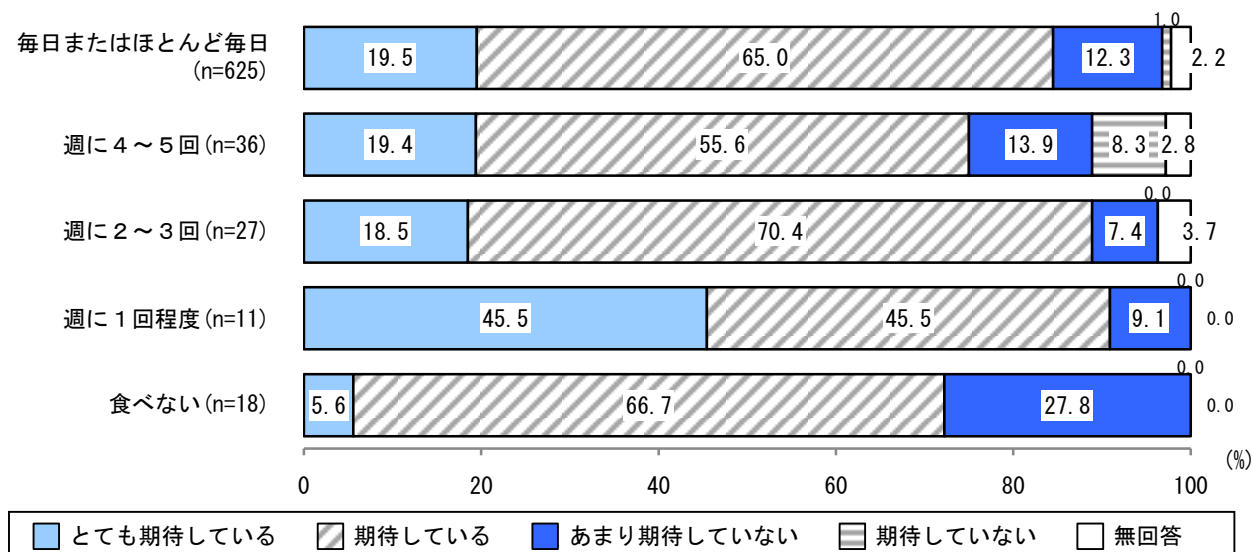


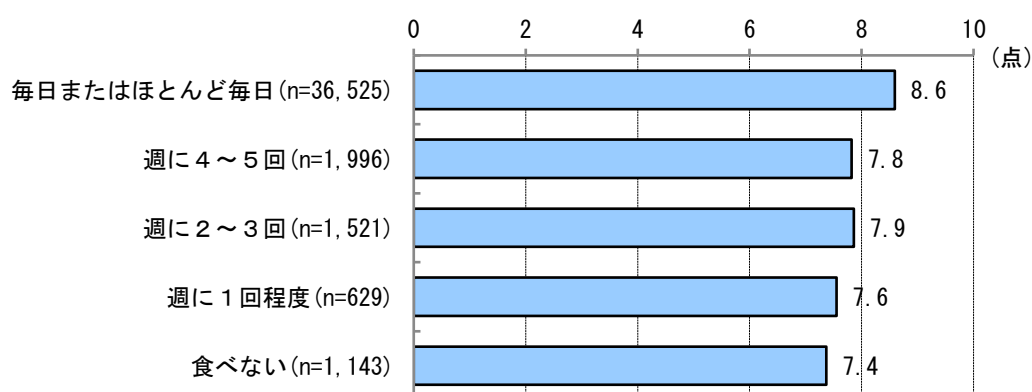
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「週に1回程度」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、91.0%と高くなっている。「あまり期待していない」の割合は朝食を「食べない」人で27.8%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）
（子ども票問4（1）×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

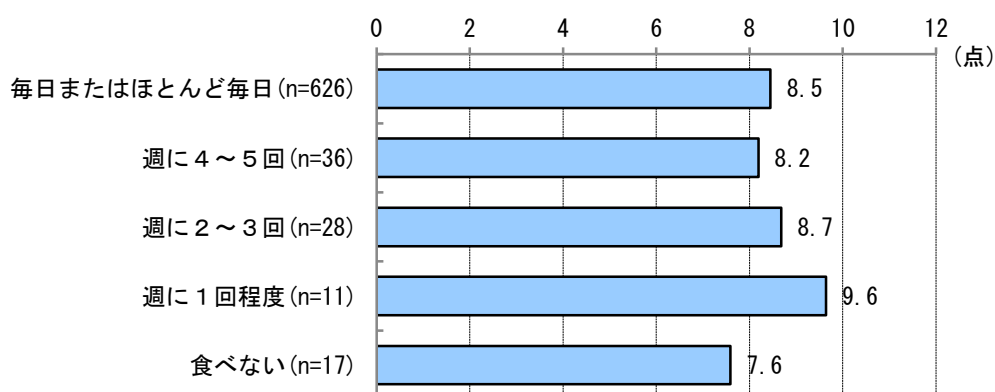
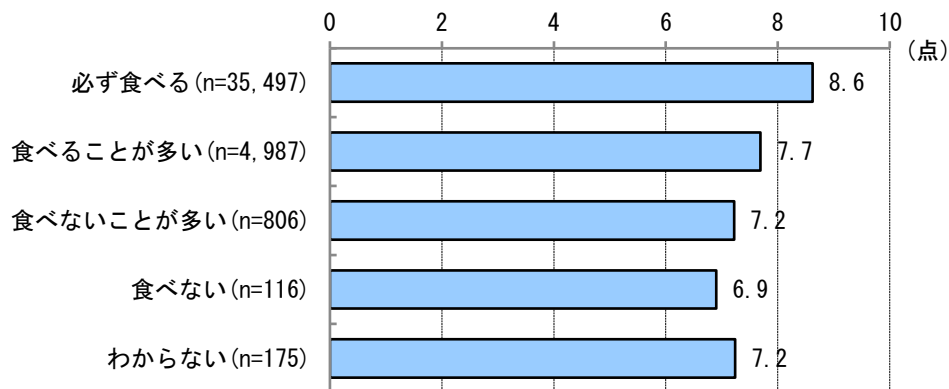


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.5点であるのに対して、「食べない」では、7.6点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）
（子ども票問6(1)×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

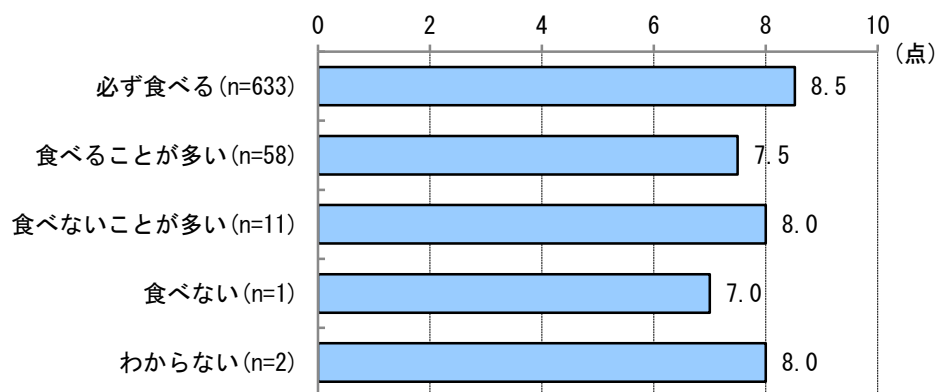
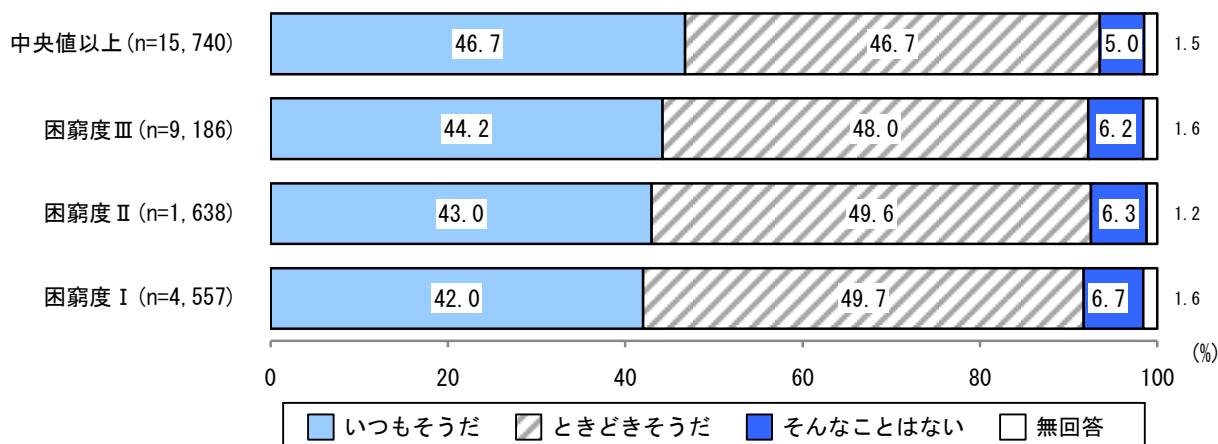


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.5点であるのに対して、「食べないことが多い」と回答した人は8.0点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

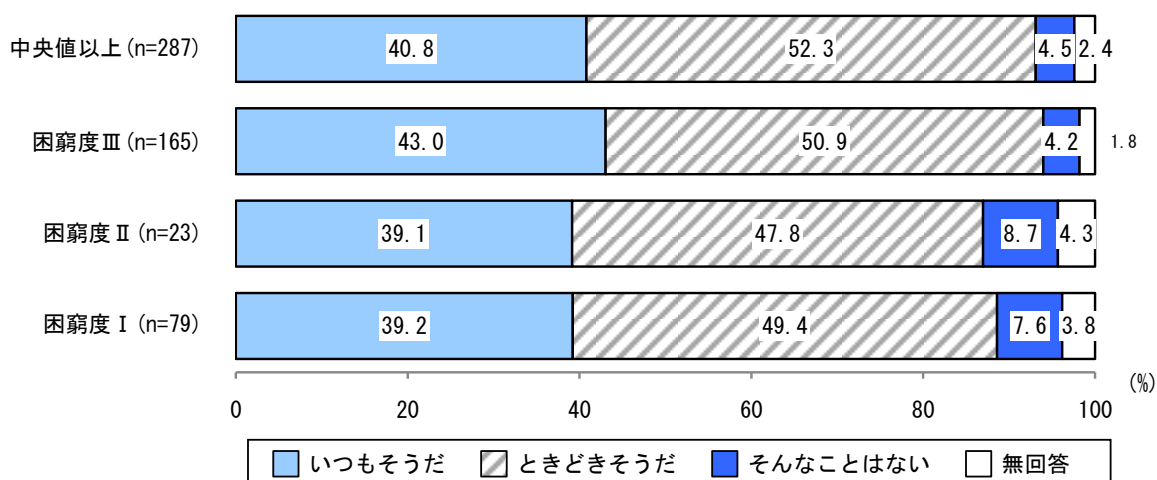
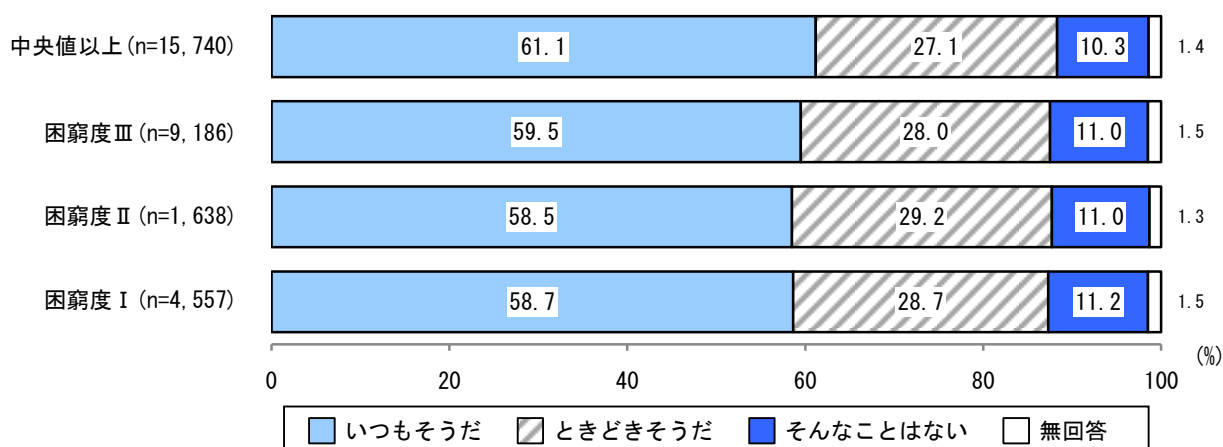


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群で39.1%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

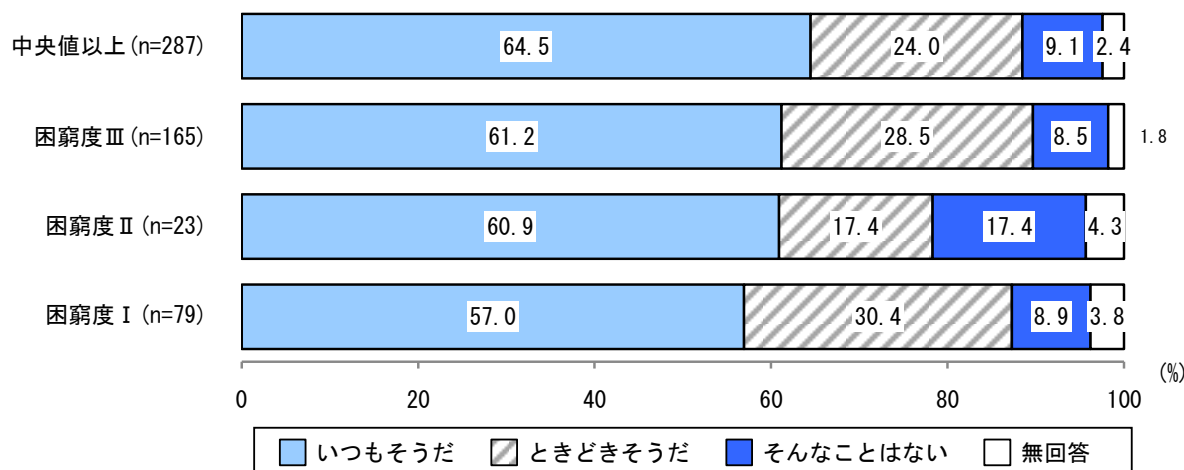
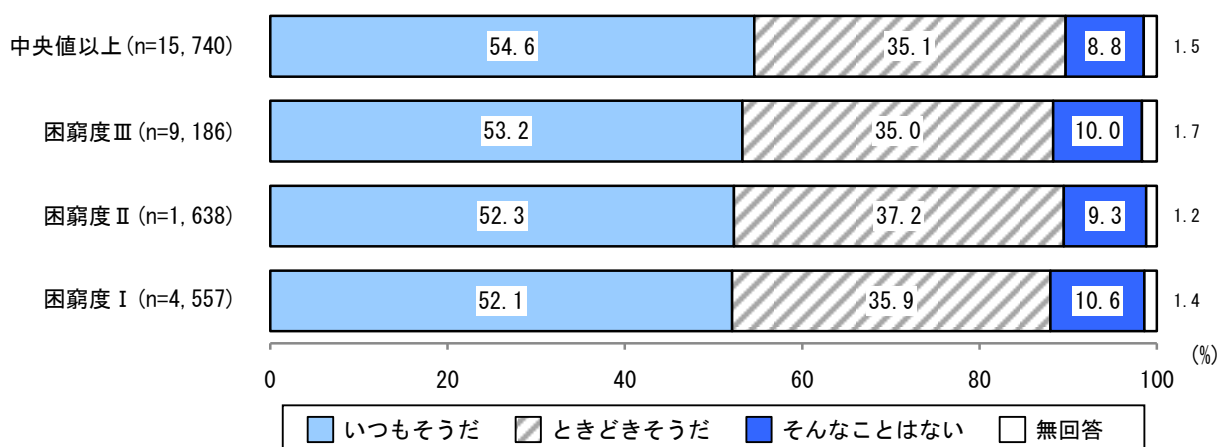


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群で57.0%と最も低く、困窮度が高まるにつれ、「いつもそうだ」と回答する割合が低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい (子ども票問 19③)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

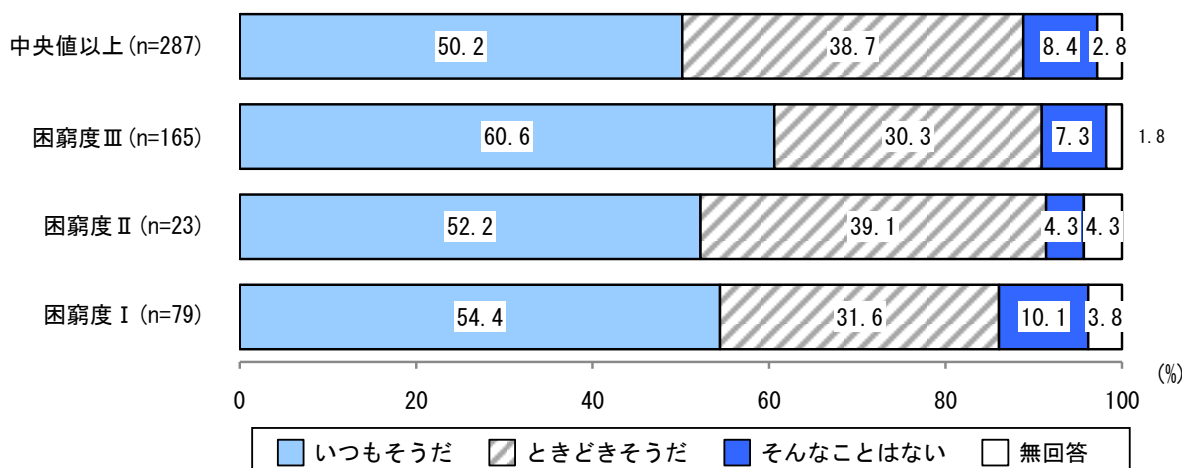
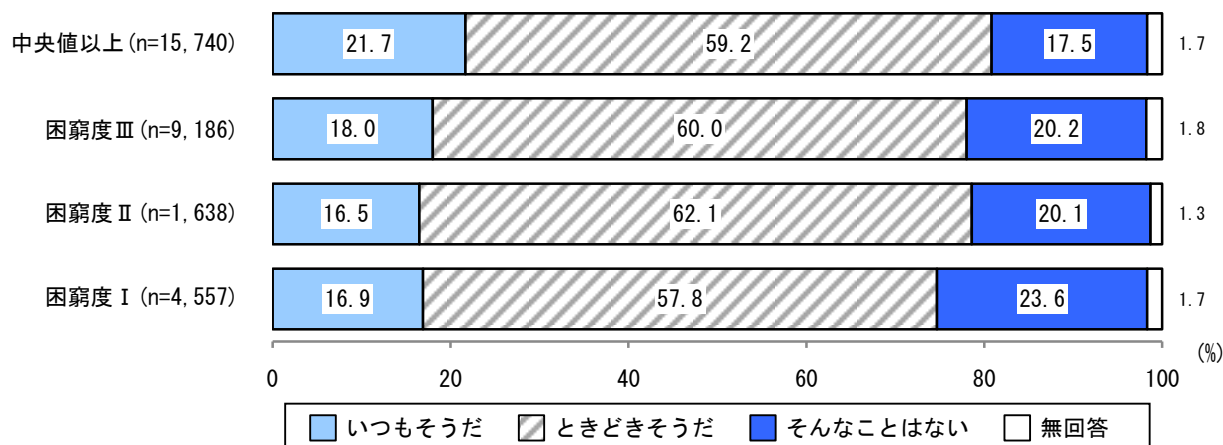


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は中央値以上群で50.2%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

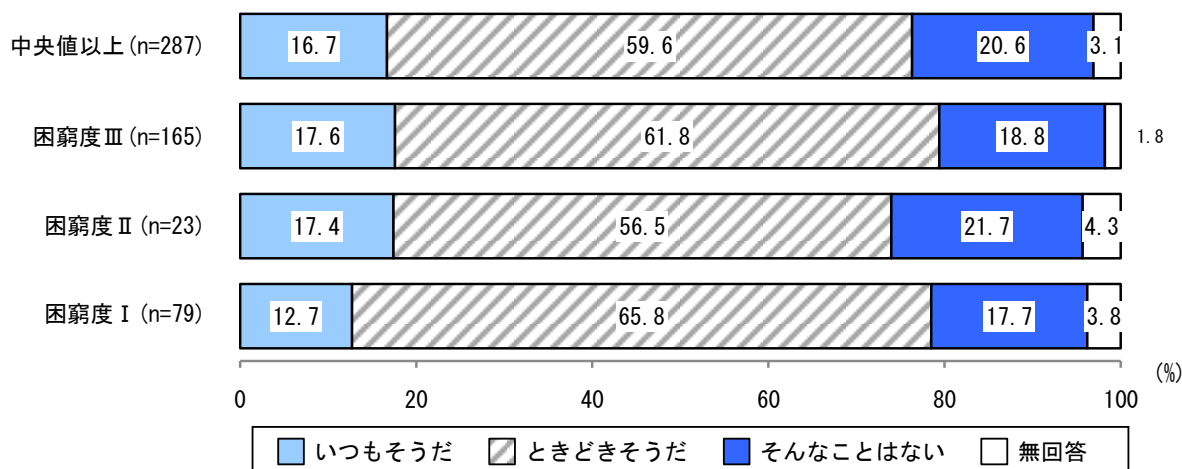
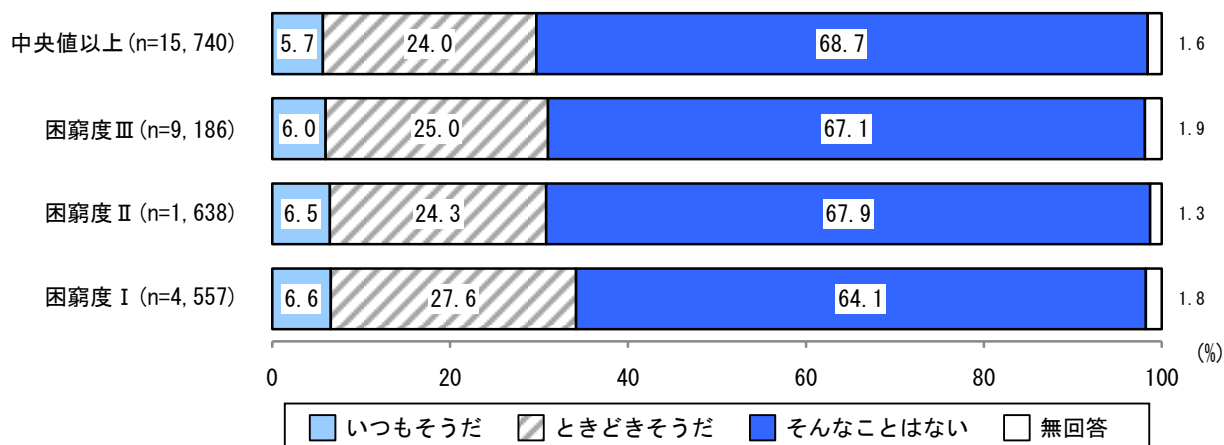


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群で12.7%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

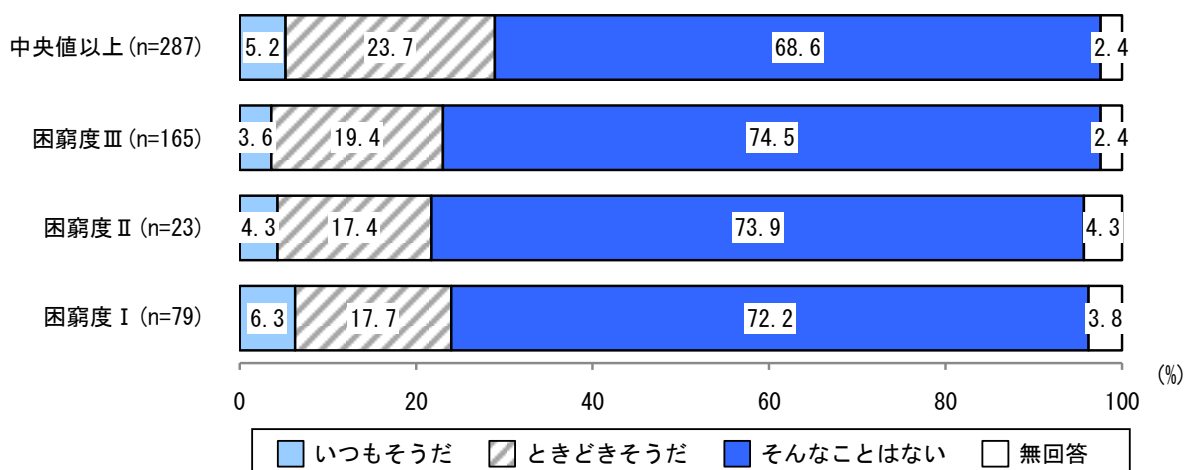
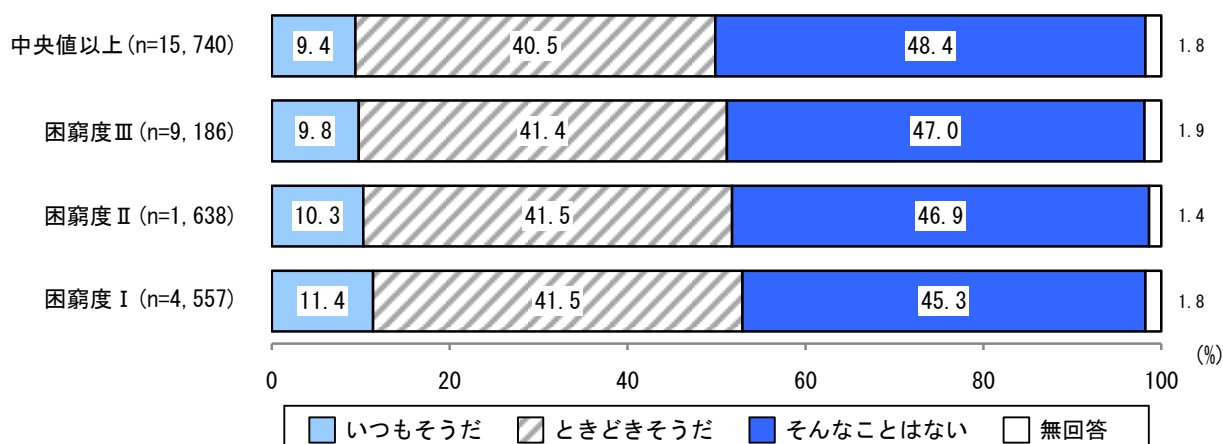


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群で6.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

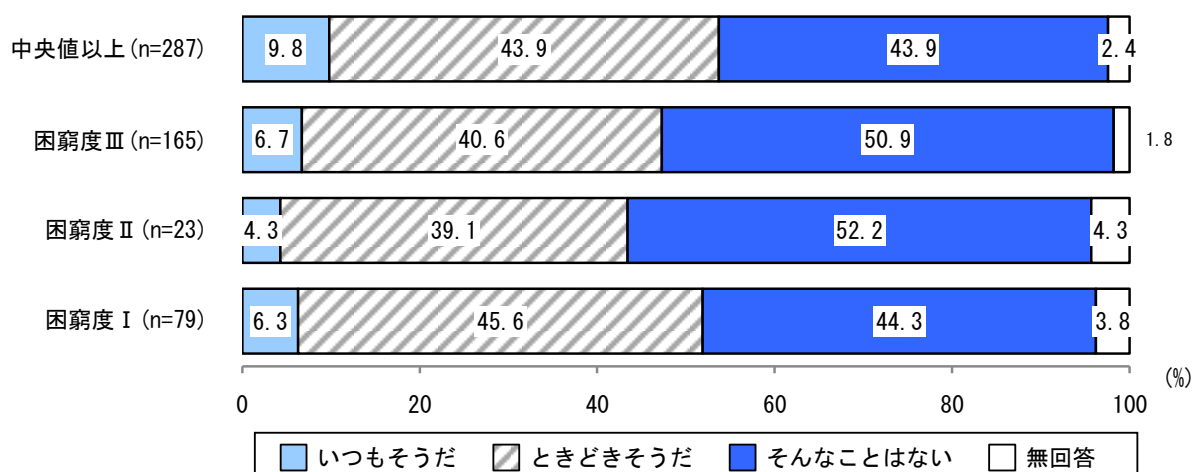
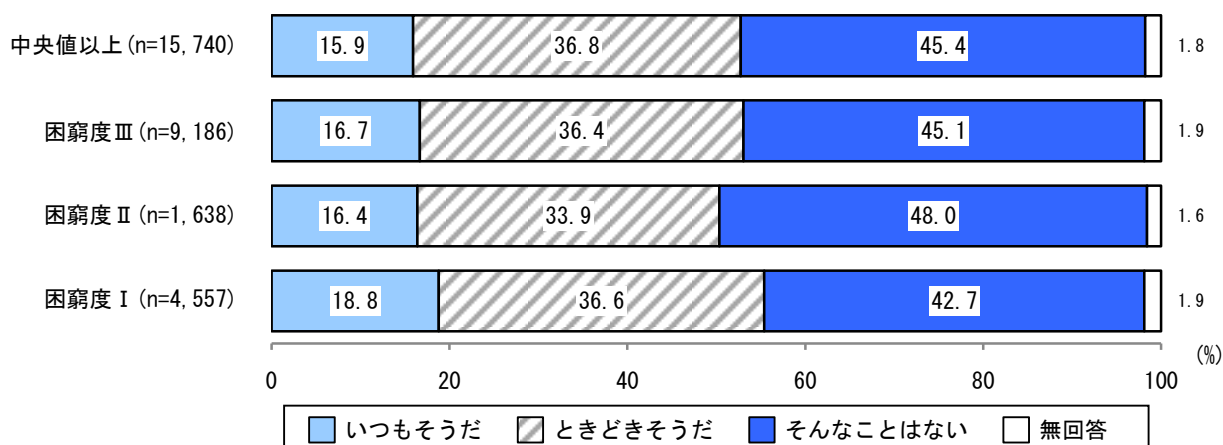


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は中央値以上群で9.8%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

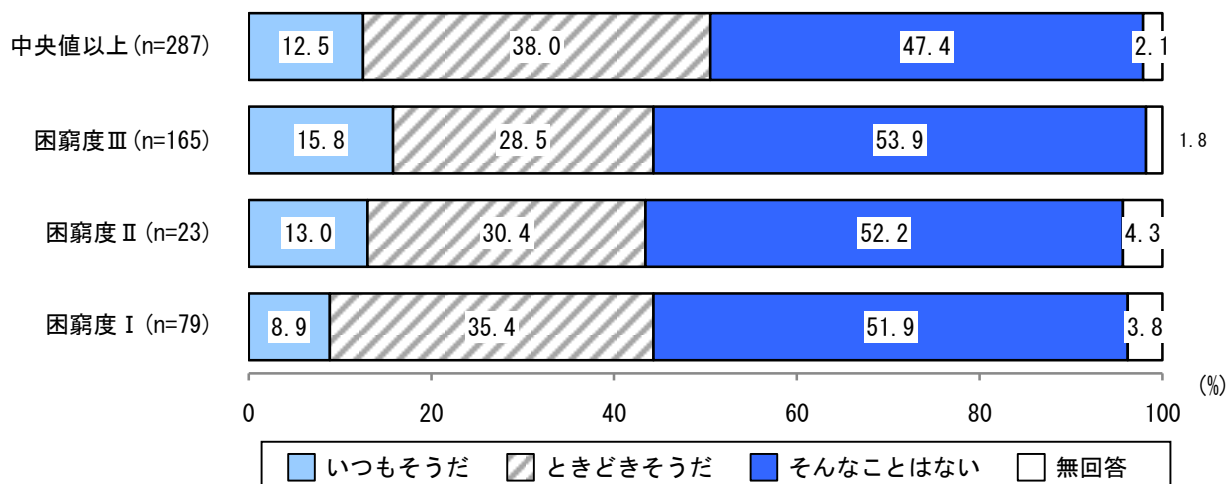
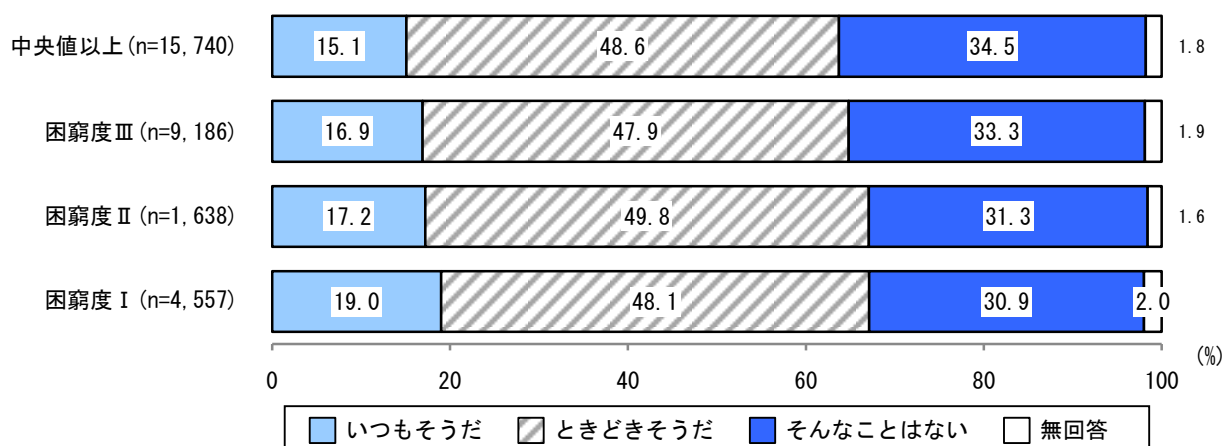


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅲ群で15.8%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

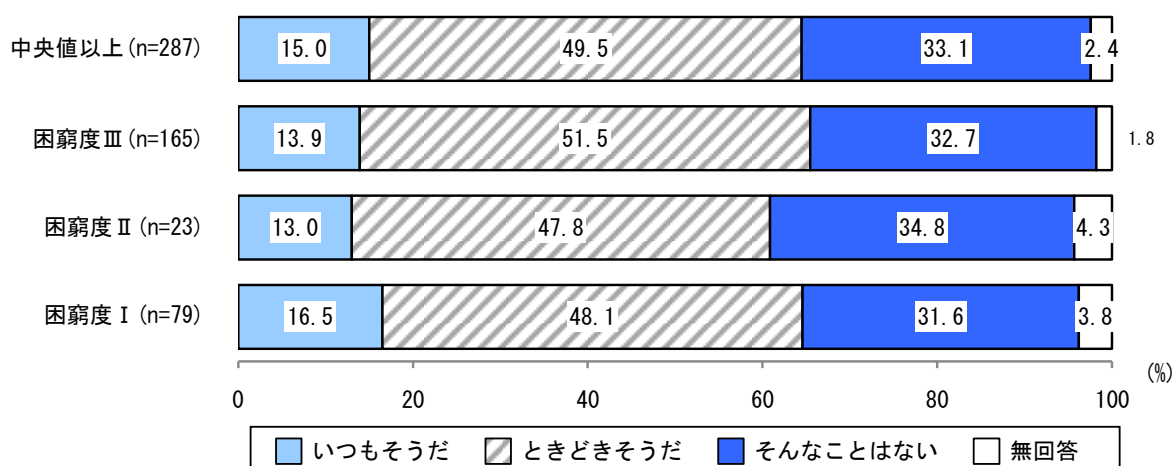
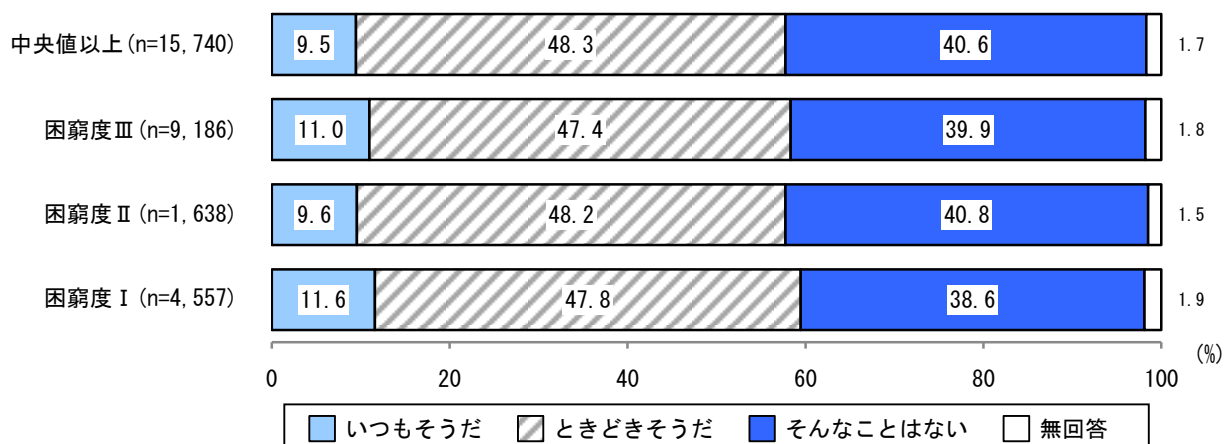


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群で16.5%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

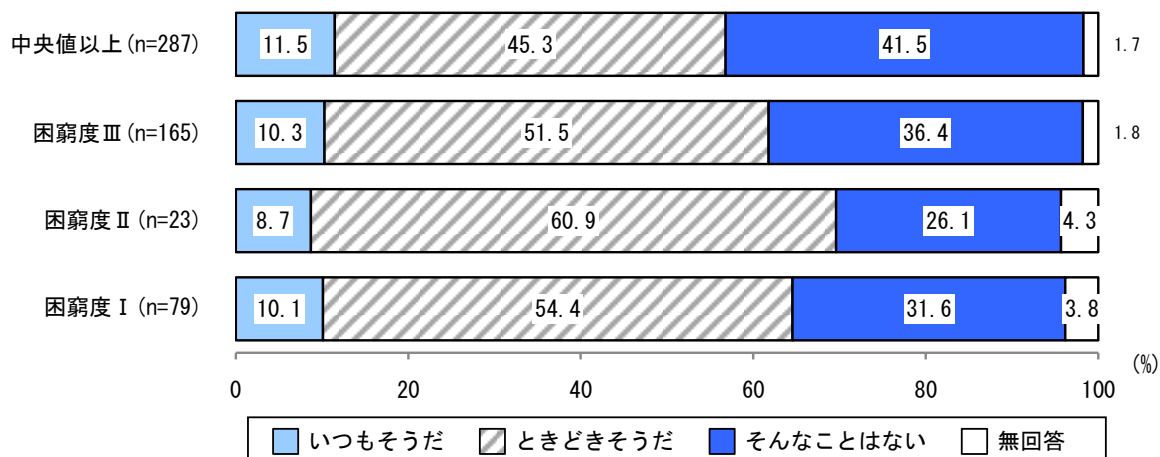
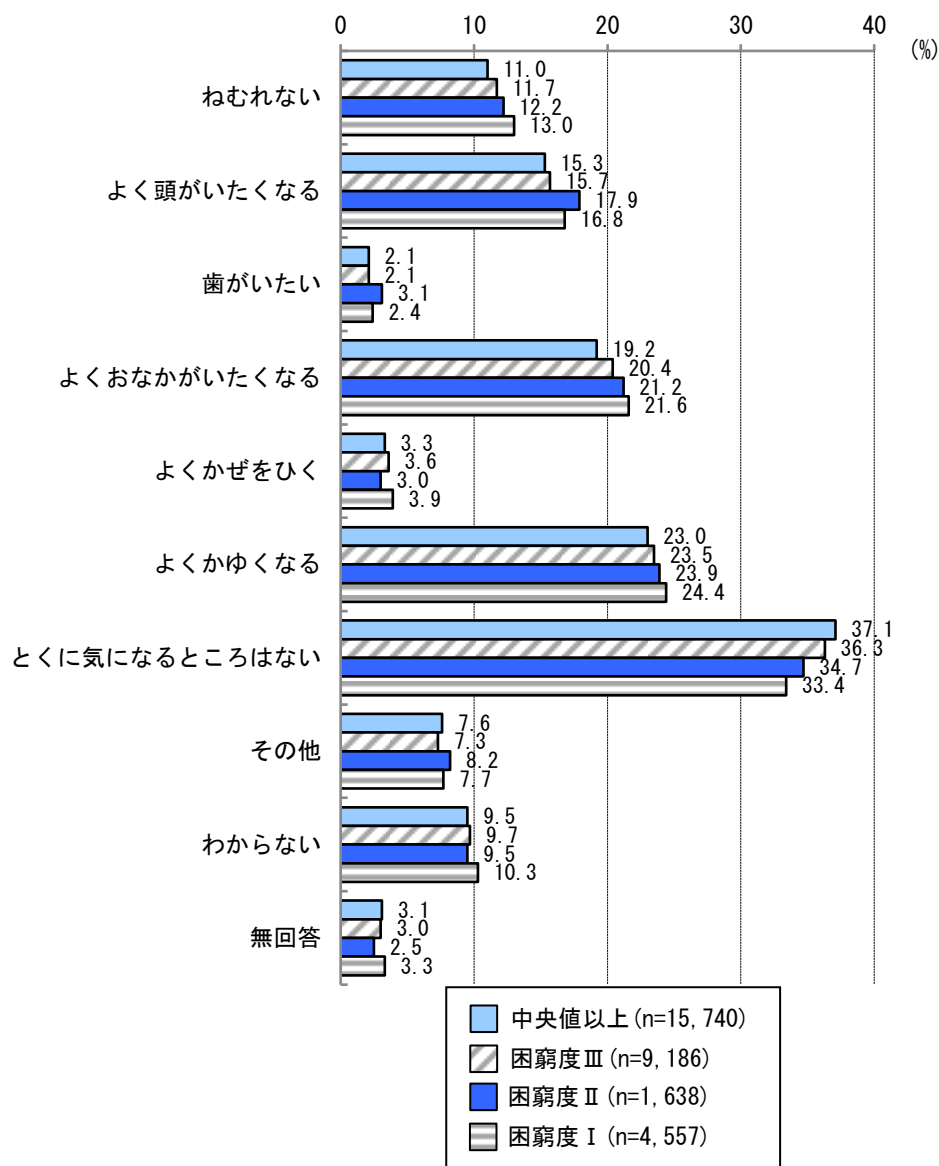


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は中央値以上群で11.5%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

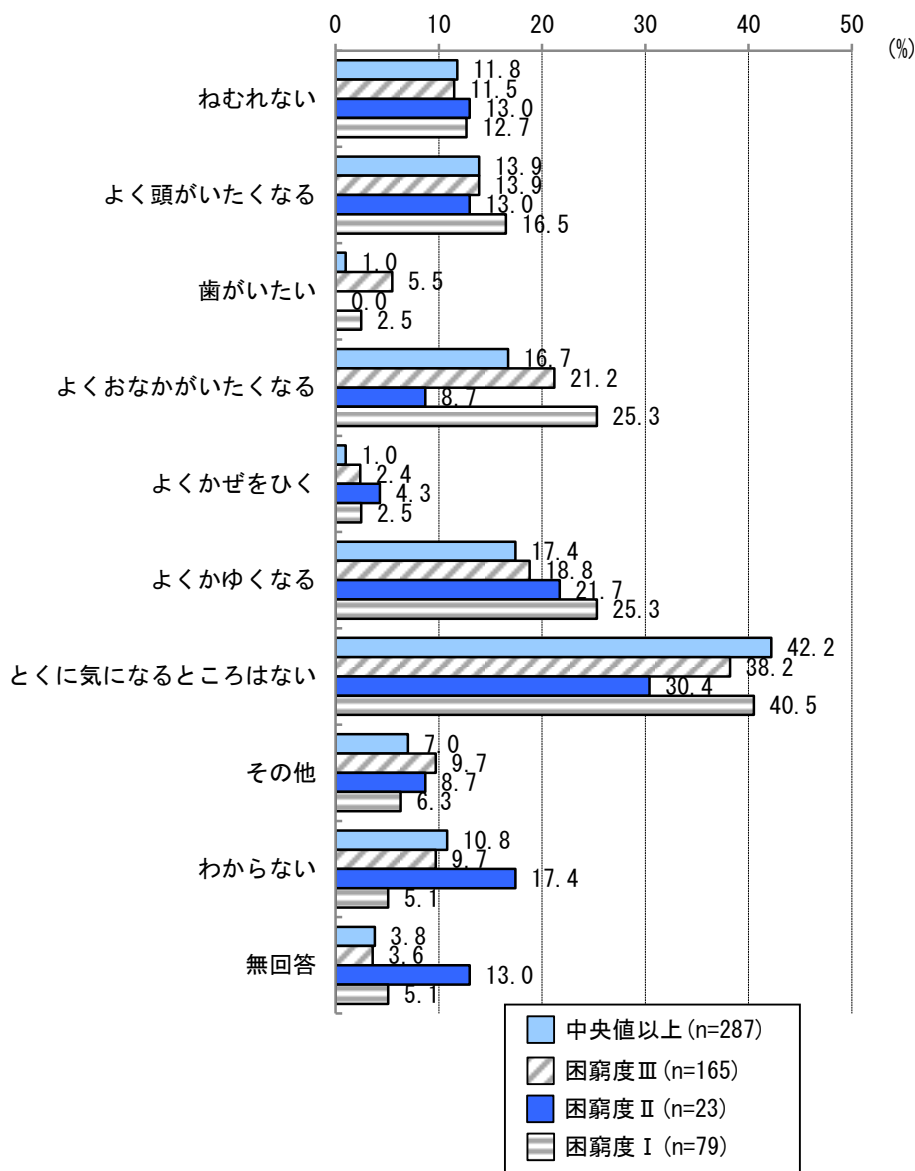
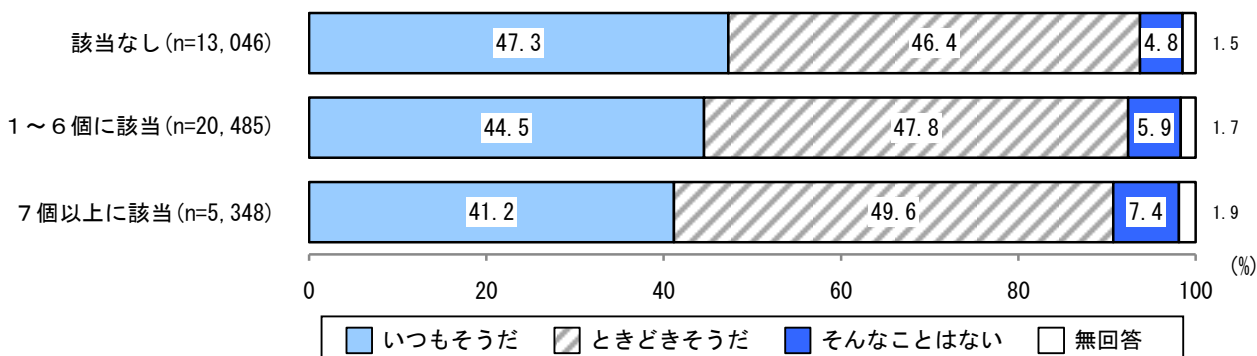


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「歯がいたい」、「よくかぜをひく」がともに2.5% (中央値以上群に対して2.5倍)、「よくおなかがいたくなる」25.3% (同じく1.5倍) となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

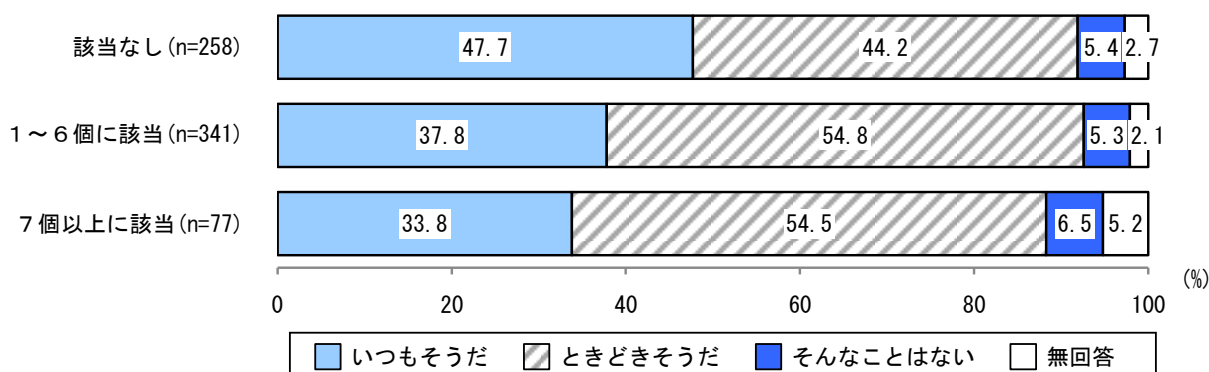
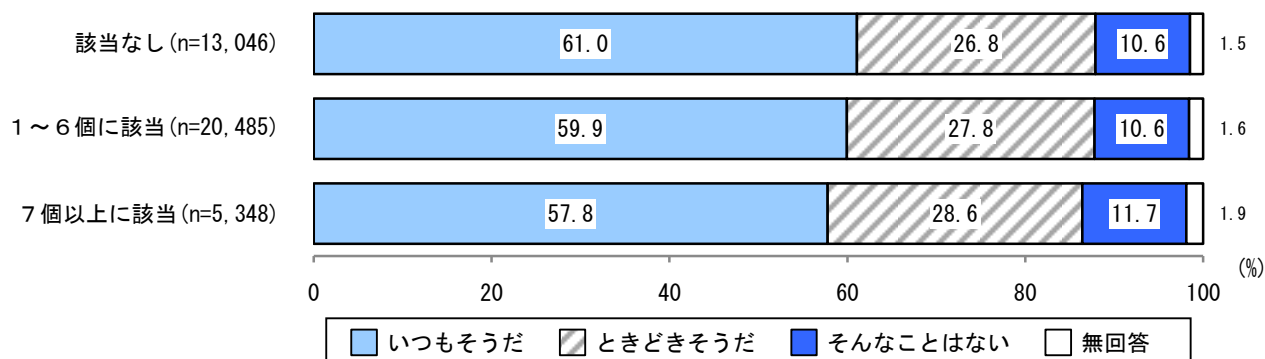


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」（33.8%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

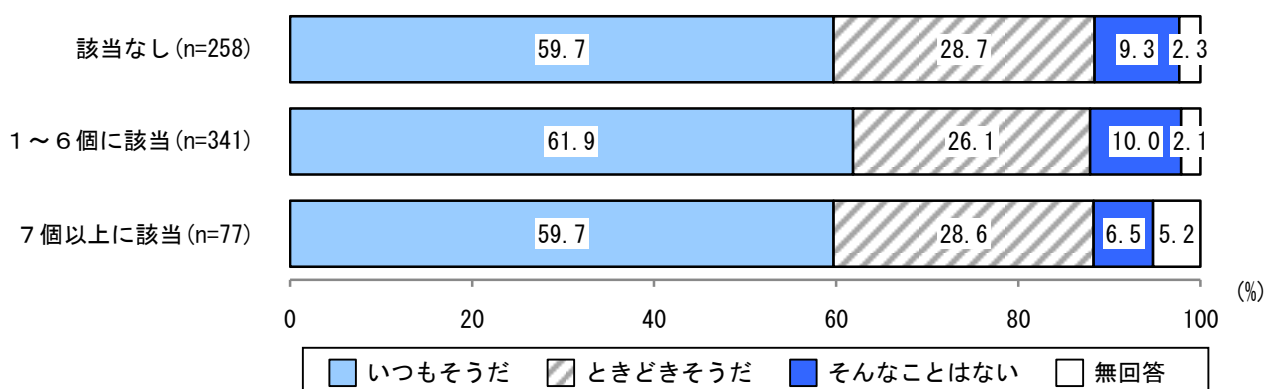
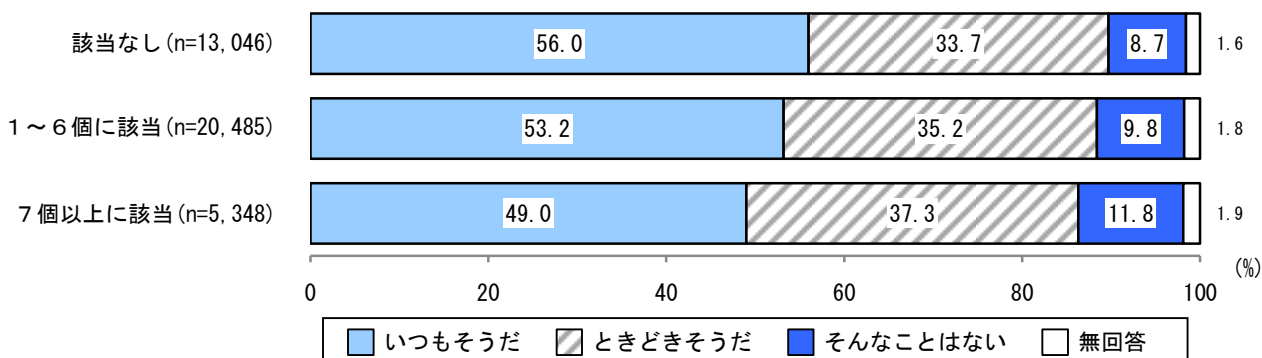


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「該当なし」と「7個以上に該当」がともに59.7%で低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

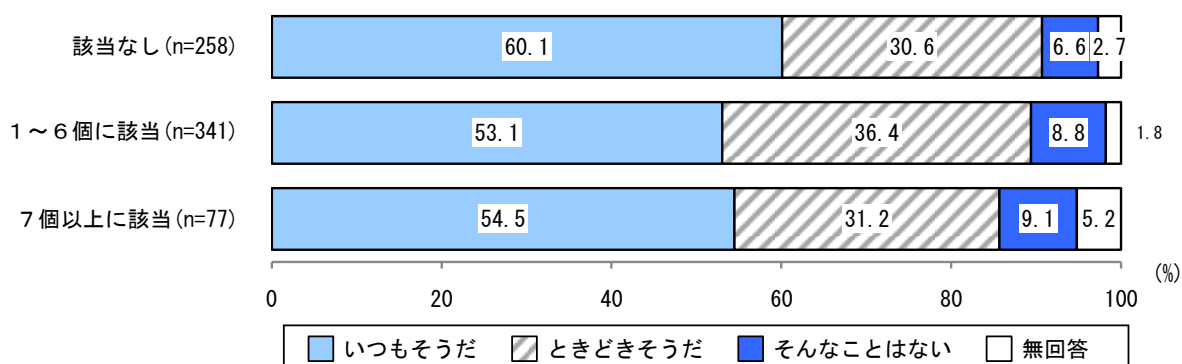
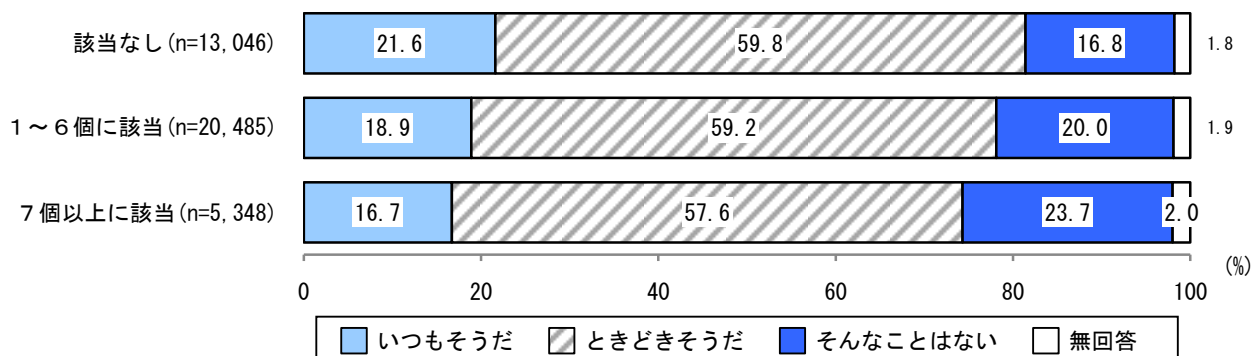


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」で53.1%と最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

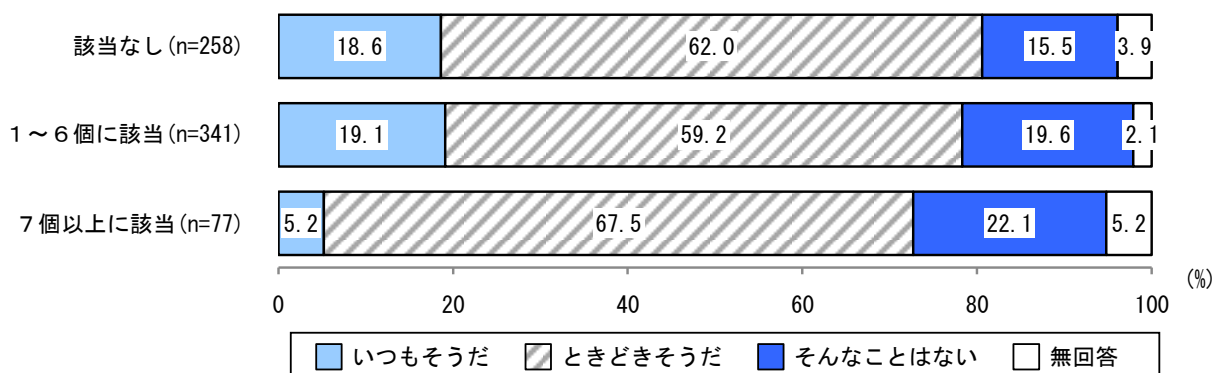
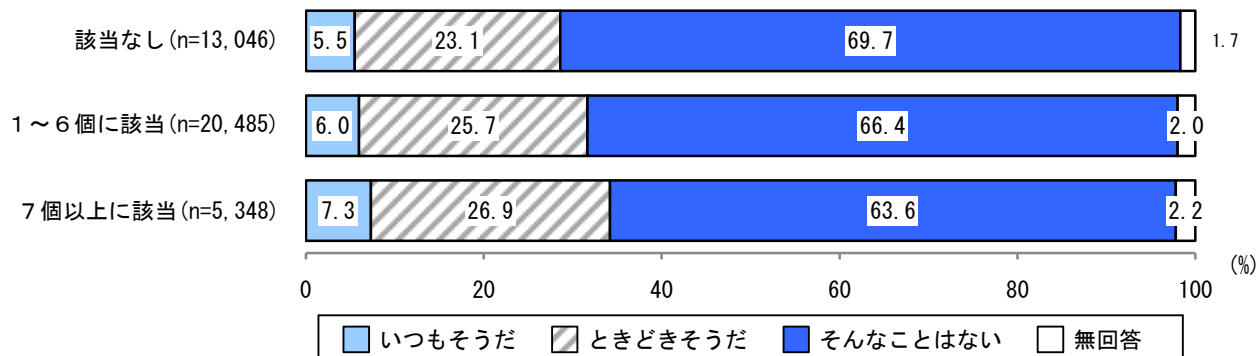


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」で5.2%と最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

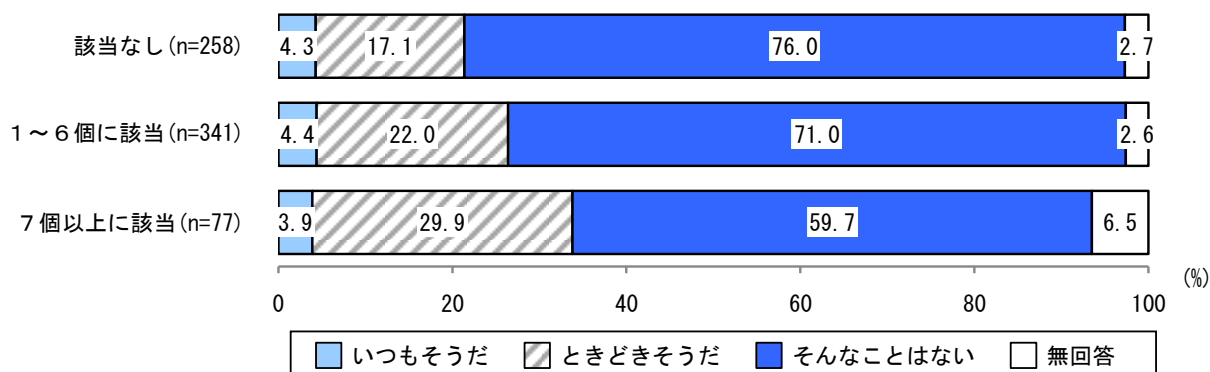


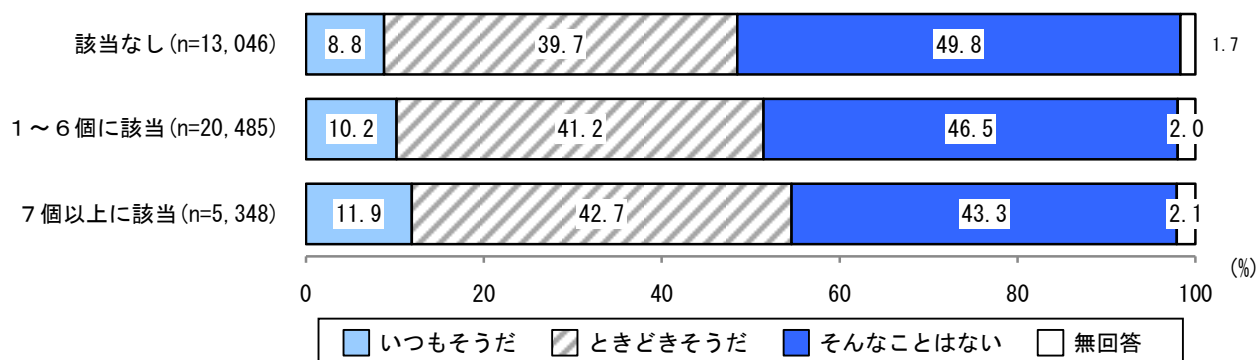
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」で4.4%と最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

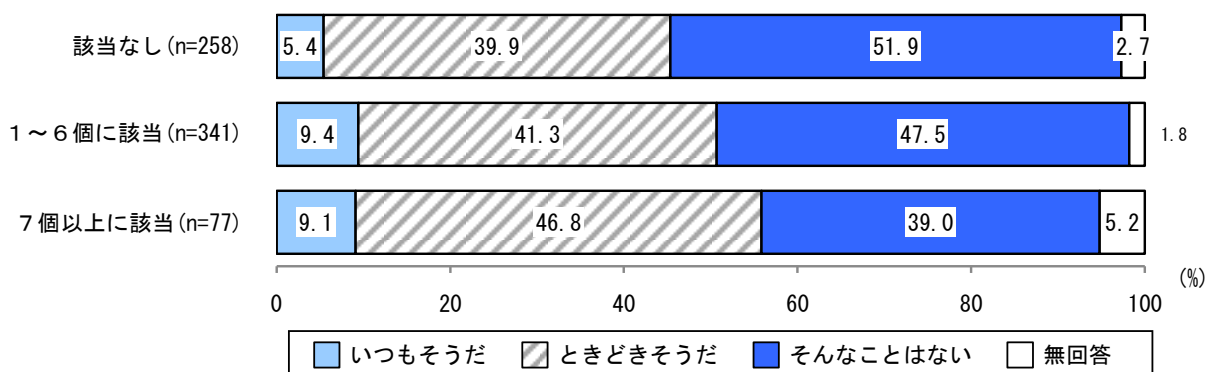
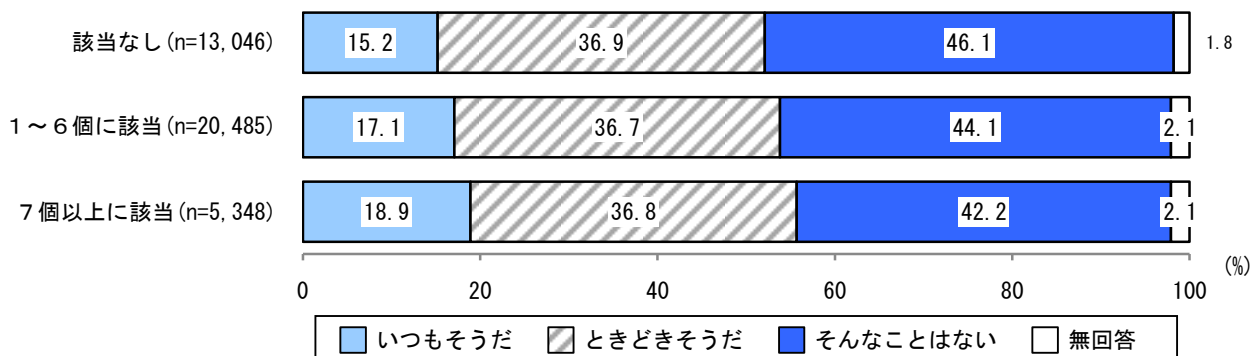


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」で9.4%と最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

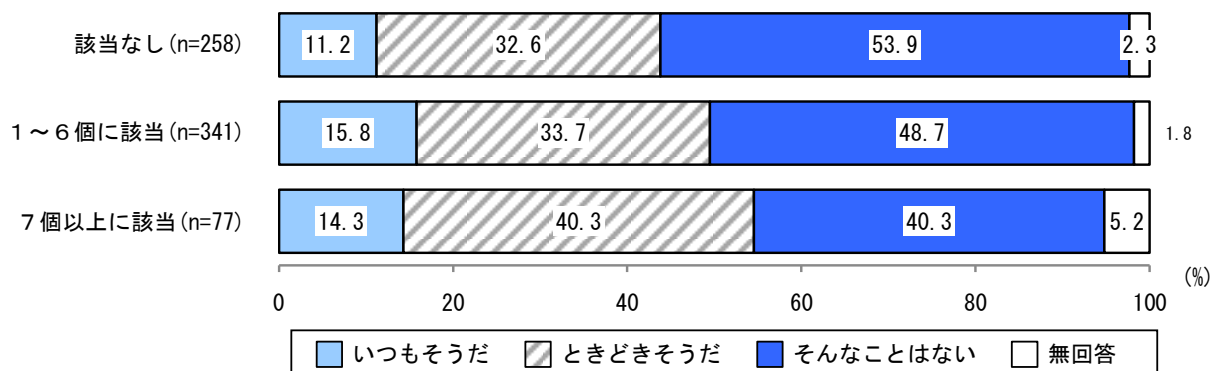
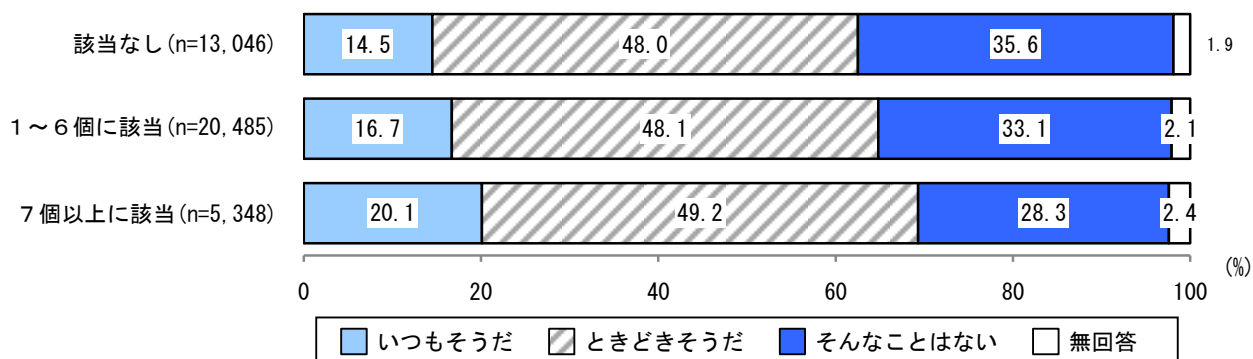


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」で15.8%と最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

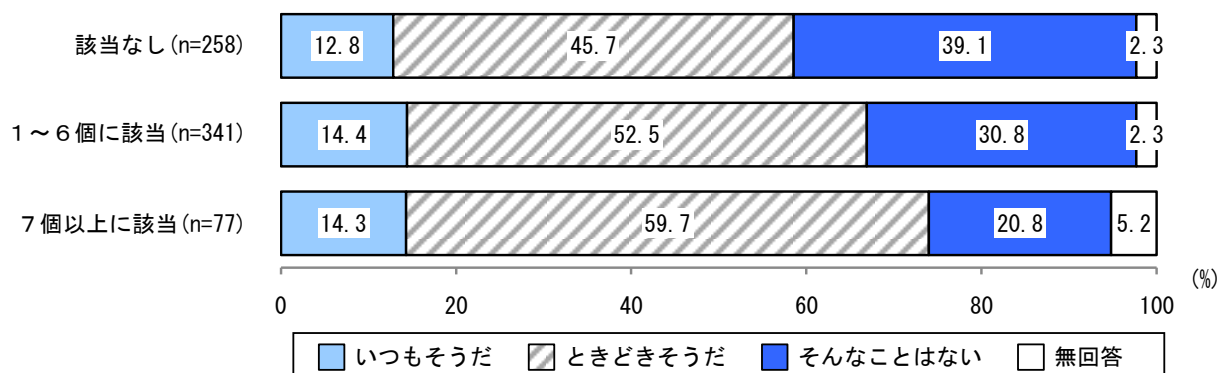
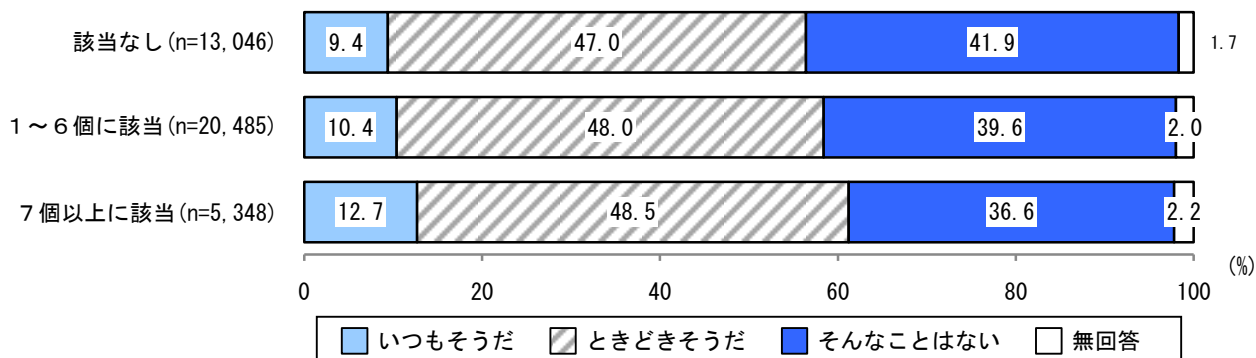


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」で14.4%と最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

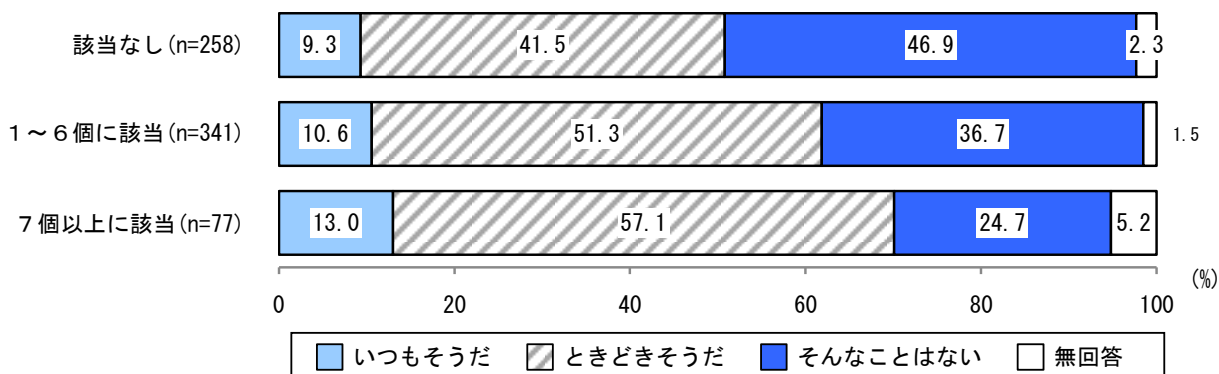
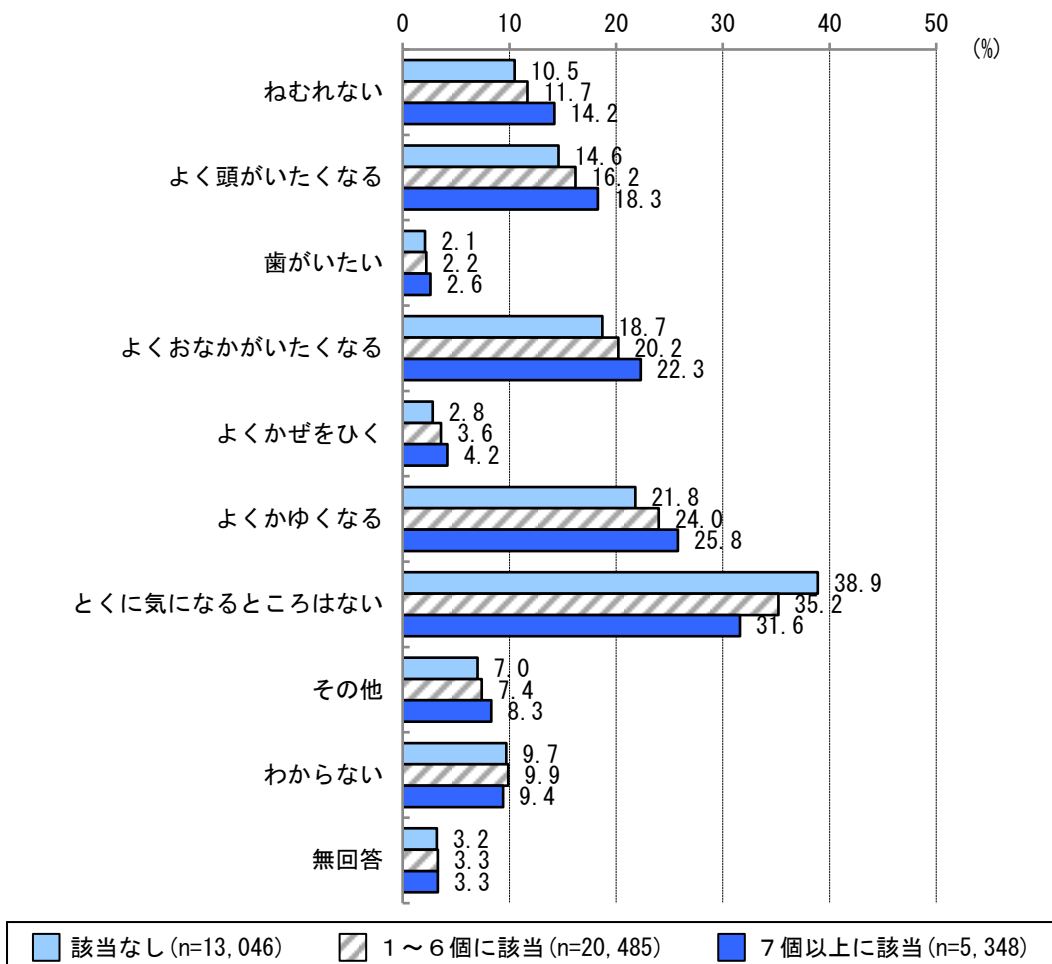


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいろいろするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」(13.0%)が最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
(保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

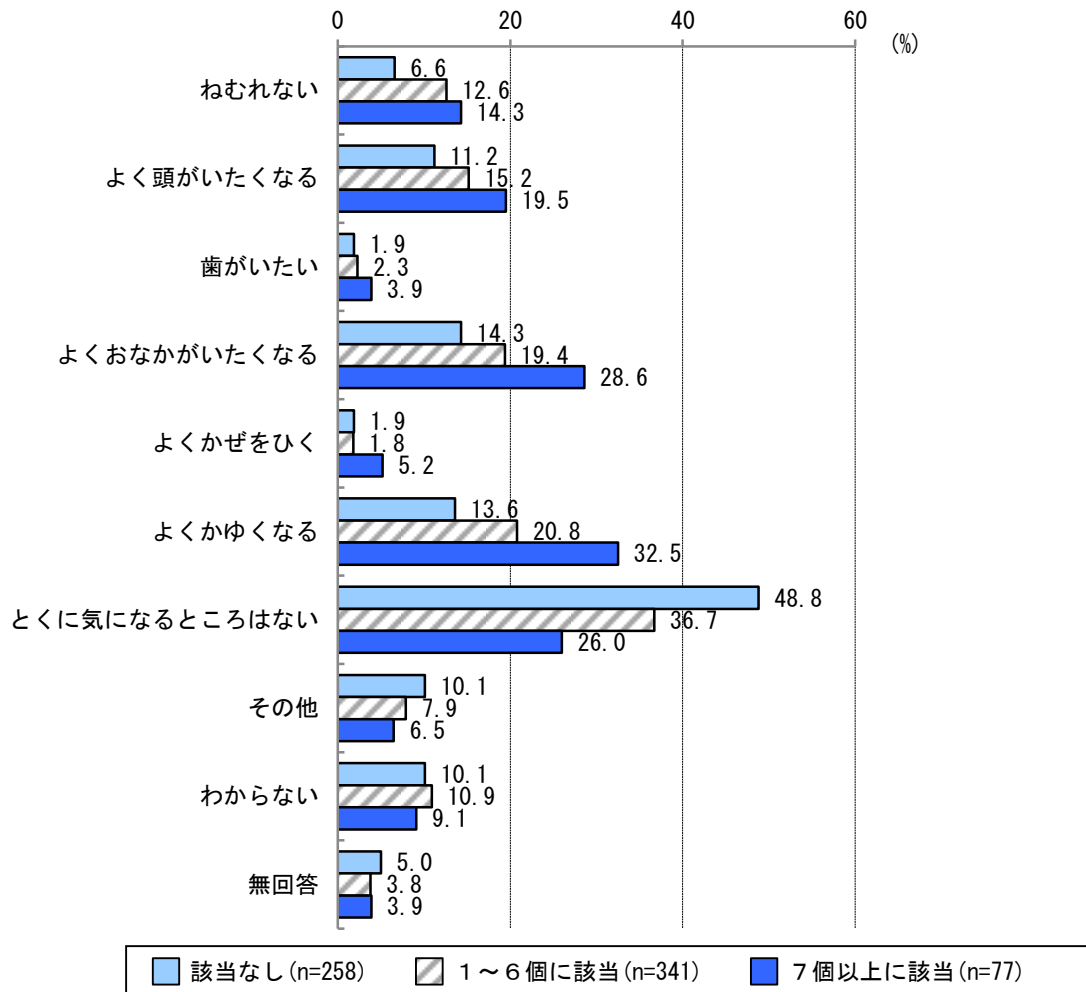


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、「7個以上に該当」群と「該当なし」群間で差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」5.2%（「該当なし」群に対して2.7倍）、「よくかゆくなる」32.5%（同じく2.4倍）、「ねむれない」14.3%（同じく2.2倍）となっている。

<泉佐野市>

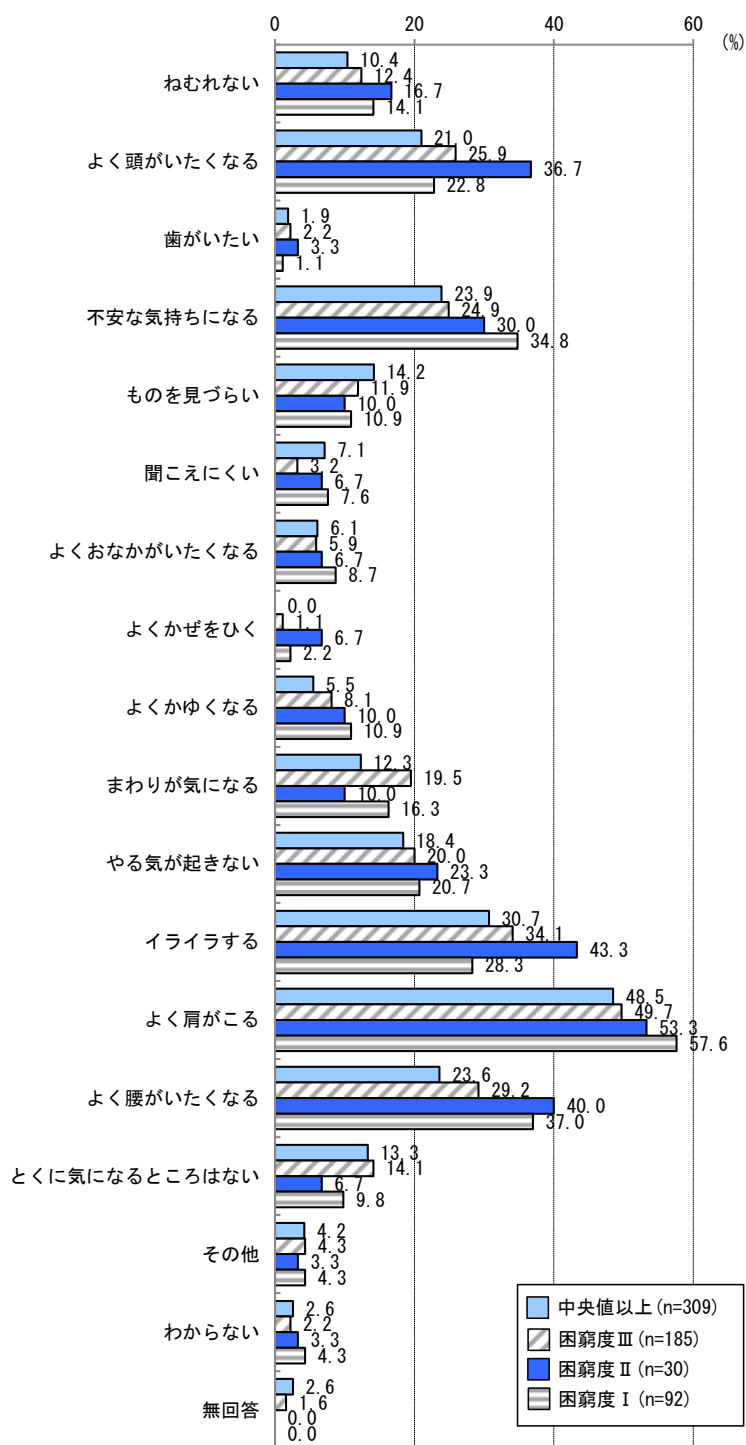
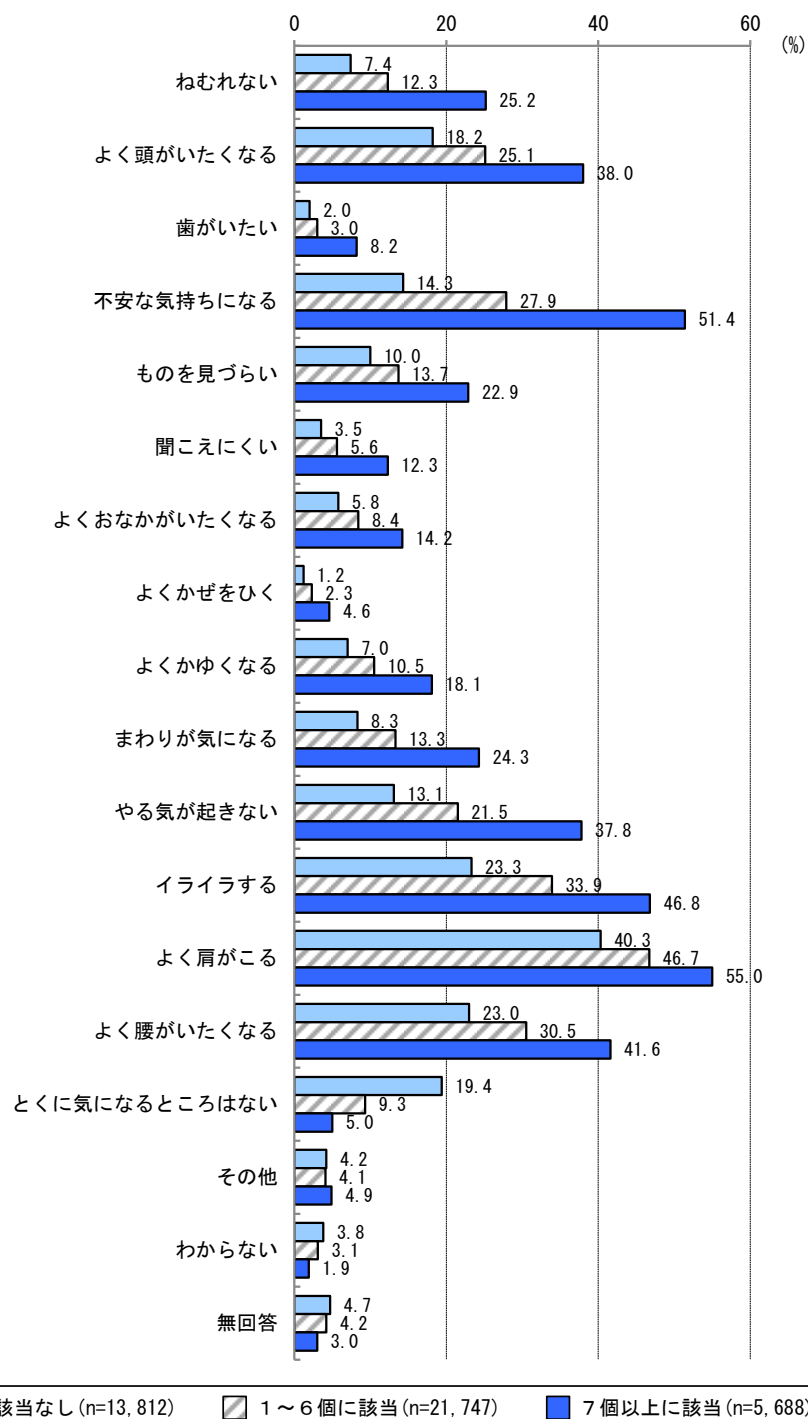


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかゆくなる」10.9%（中央値以上群に対し2.0倍）、「よく腰がいたくなる」37.0%（1.6倍）、「不安な気持ちになる」34.8%（1.5倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

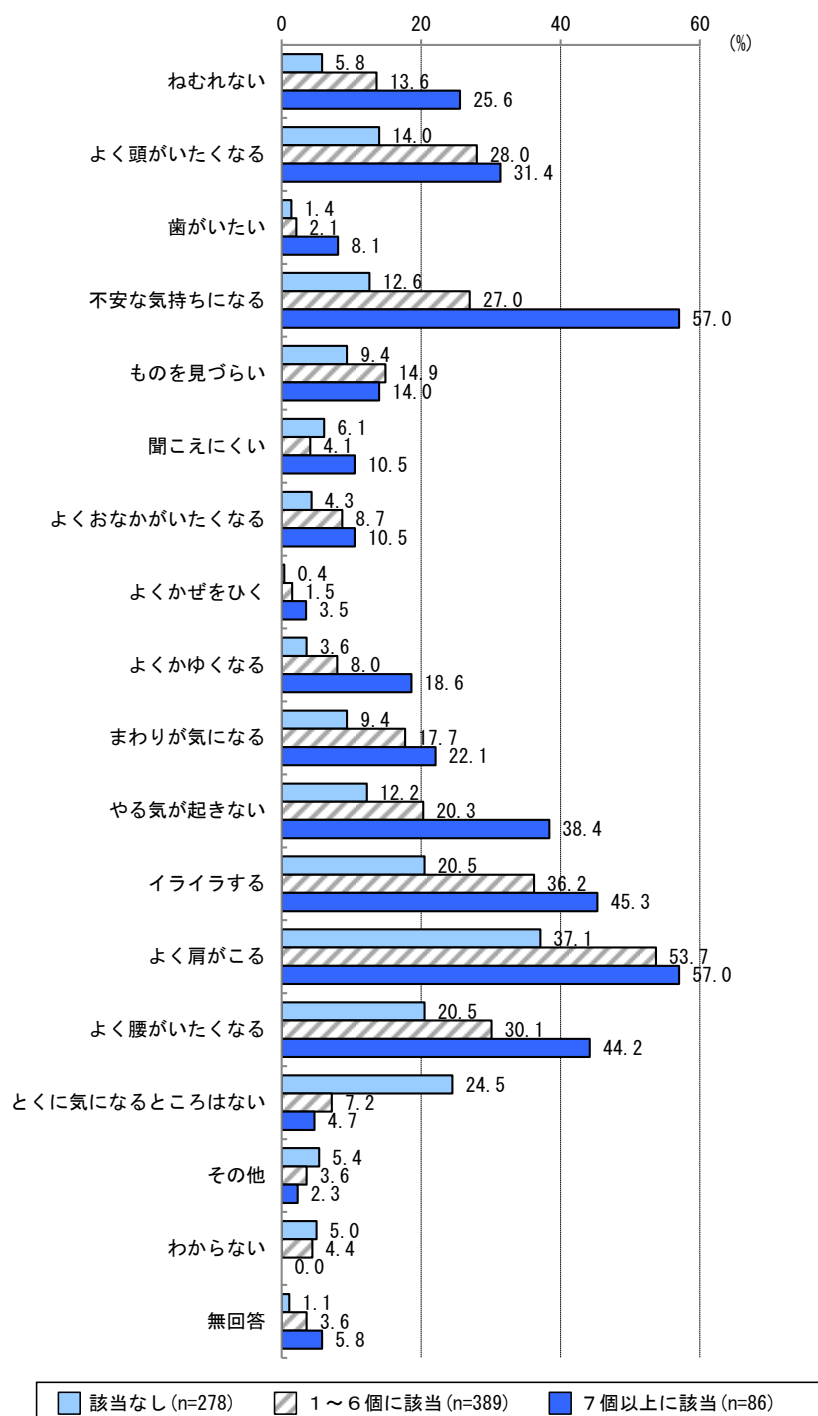
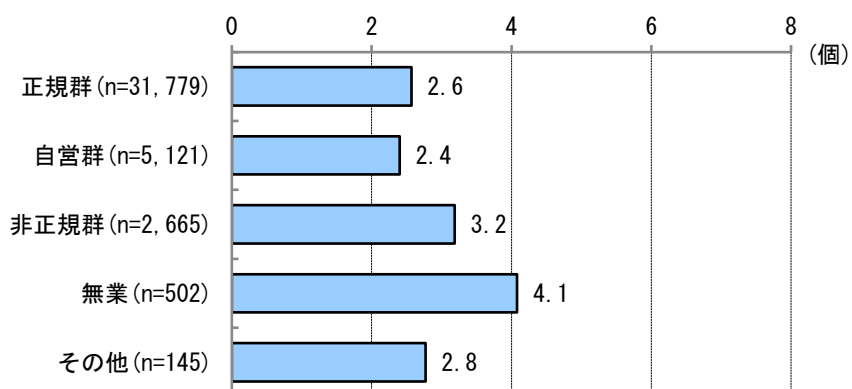


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、多くの項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、「7個以上に該当」した人と「該当なし」と回答した人との差が大きく開いている。「7個以上に該当」群について、「該当なし」との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」3.5%（「該当なし」に対して8.8倍）、「歯がいたい」8.1%（同じく5.8倍）、「よくかゆくなる」18.6%（5.2倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

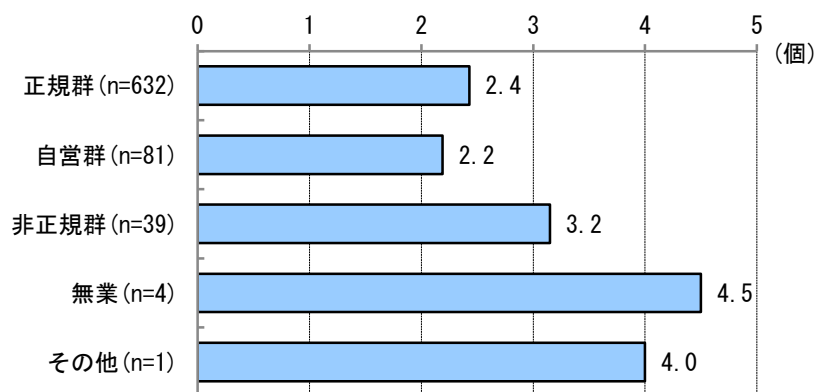


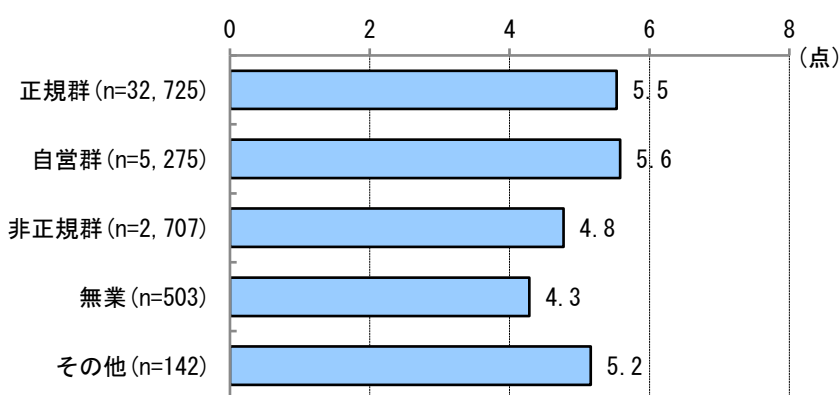
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営業」に対して、「非正規群」、「無業」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいませんか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

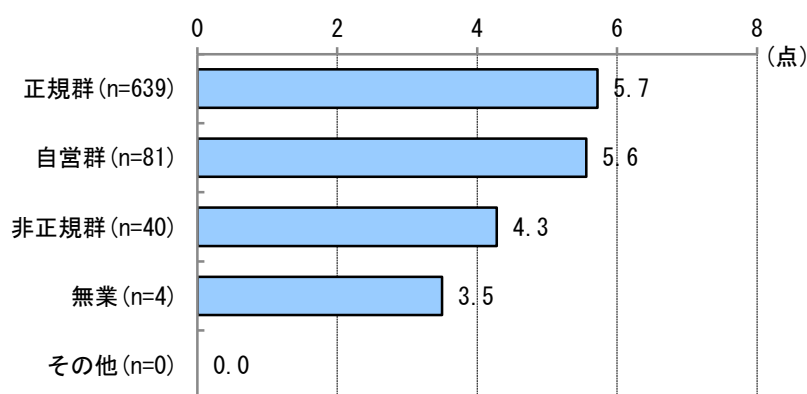
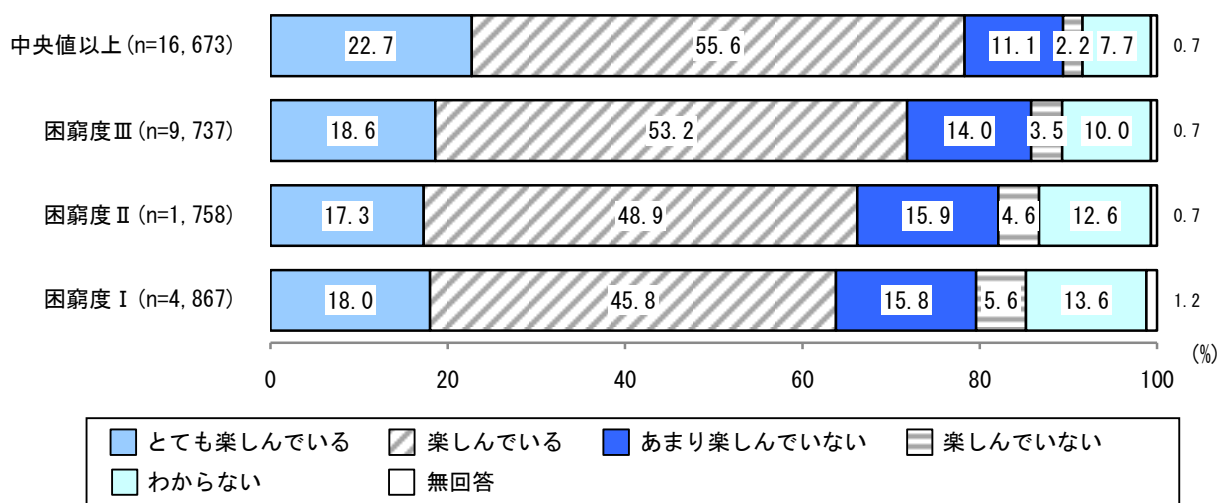


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」(5.7点)、「自営群」(5.6点)が高く、「非正規群」で4.3点と低下し、「無業」で3.5点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

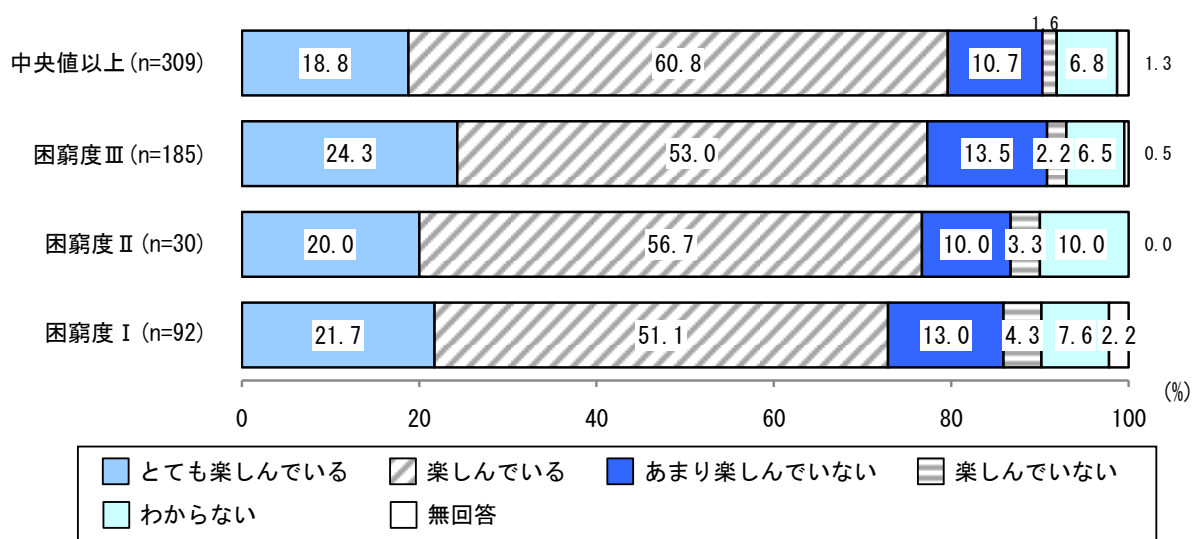
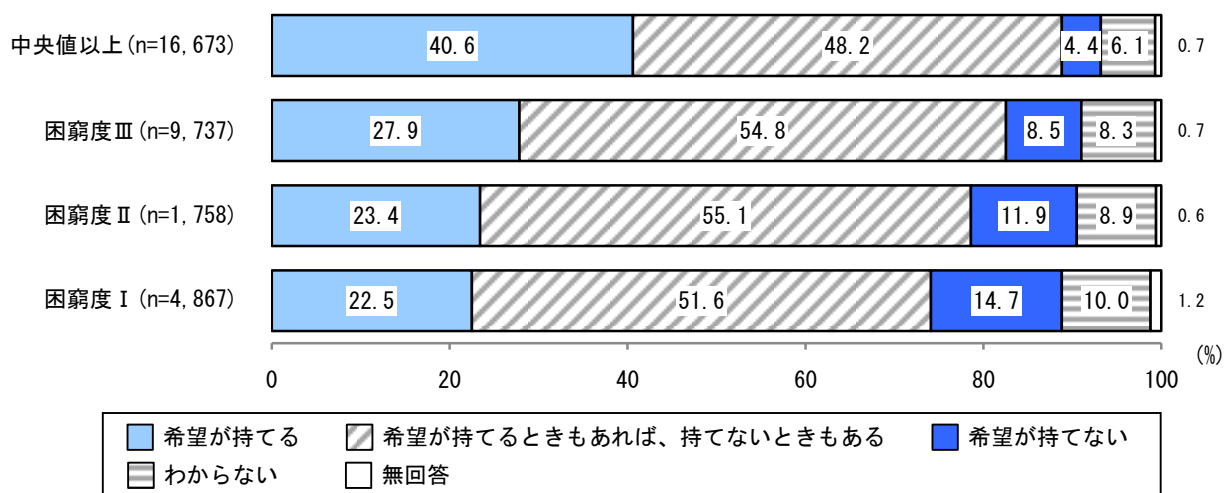


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらか『楽しんでいる』割合では、中央値以上群で79.6%と最も高く、続いて、困窮度Ⅲ群で77.3%、困窮度Ⅱ群で76.7%、困窮度Ⅰ群で72.8%と最も低くなった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群が1.6%と最も低く、次いで、困窮度Ⅲ群で2.2%、困窮度Ⅱ群で3.3%、困窮度Ⅰ群で4.3%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21(2)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

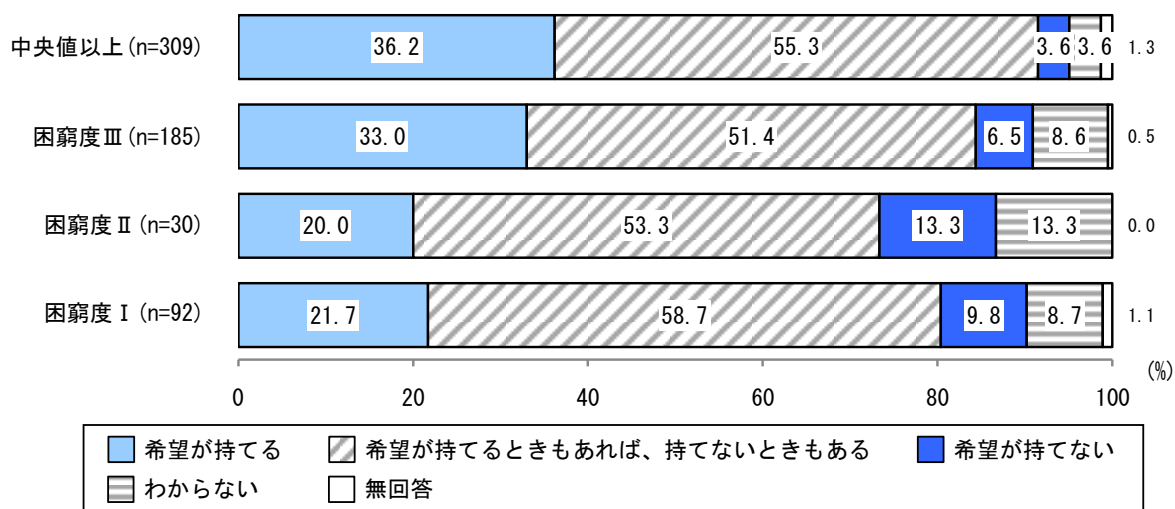
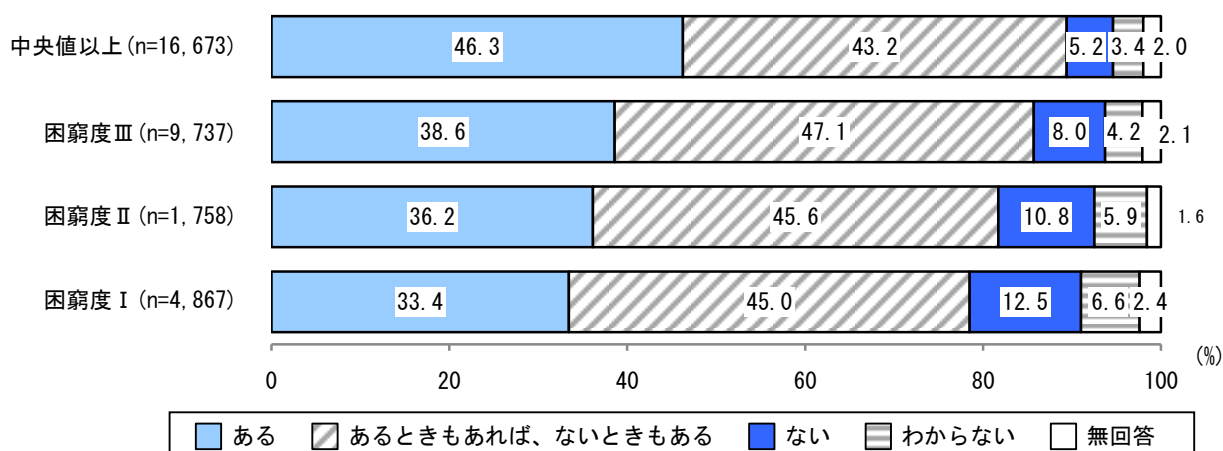


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群では、36.2%であるのに対し、困窮度Ⅲ群では33.0%、困窮度Ⅰ群が21.7%、困窮度Ⅱ群において20.0%と最も低くなった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

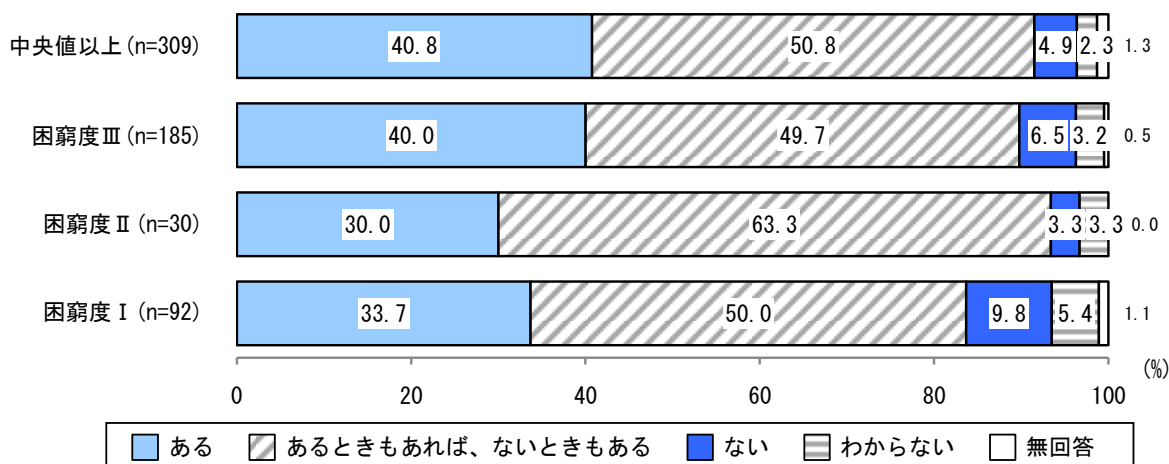
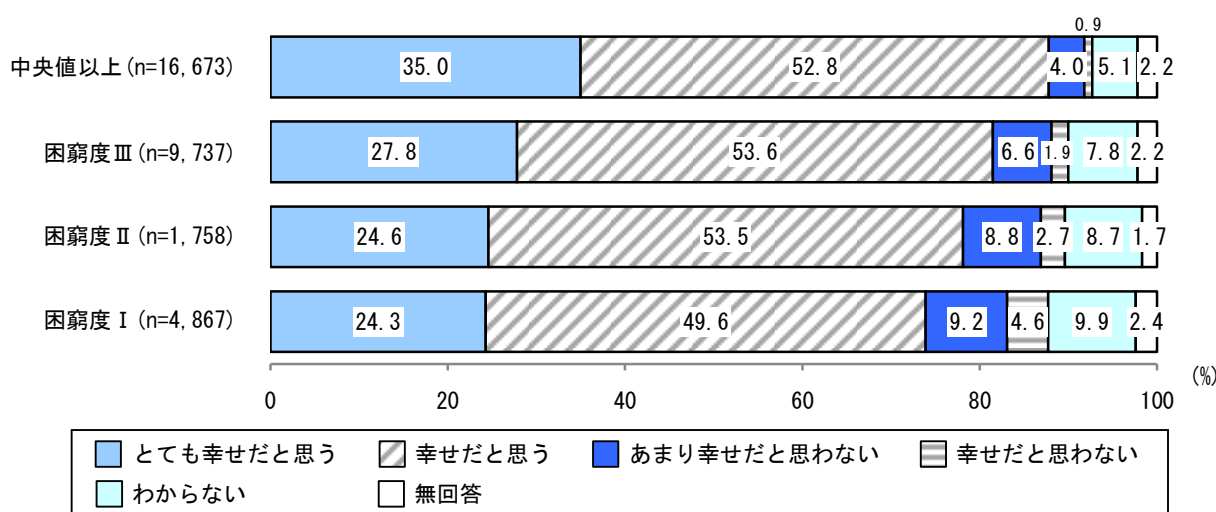


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスを発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群の9.8%が最も高くなっている。困窮度Ⅱ群では、3.3%で最も低く、中央値以上群では4.9%、困窮度Ⅲ群では6.5%となっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

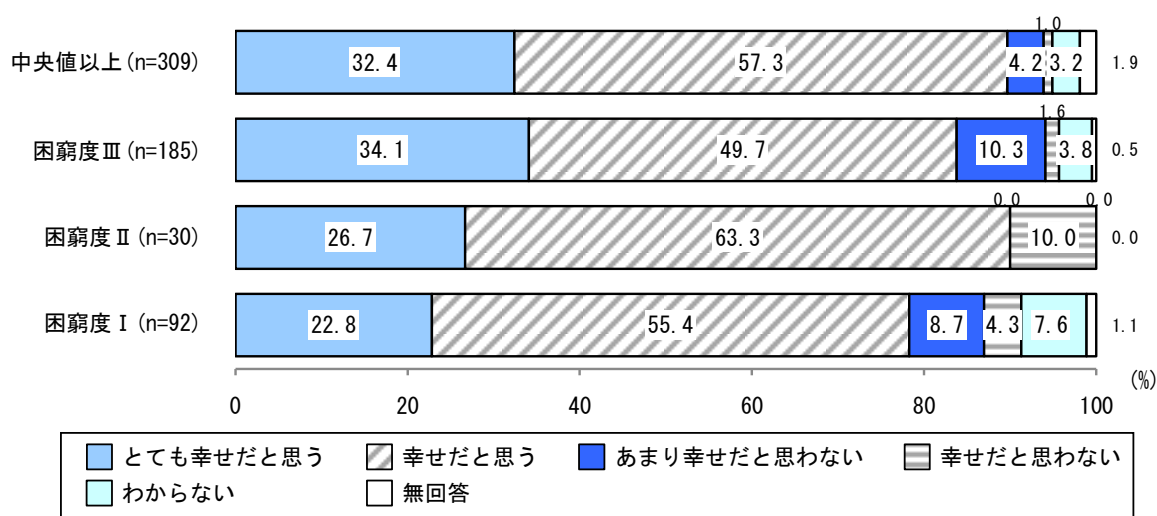


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せだと思う』と回答した割合は、困窮度Ⅰ群（78.2%）で最も低くなっている。逆に、なんらか『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、中央値以上群で5.2%にとどまるのに対して、困窮度Ⅱ群で10.0%、困窮度Ⅲ群で11.9%、困窮度Ⅰ群で13.0%となっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(87.8%対84.8%)が3ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくかゆくなる」(25.3%対17.4%)が約8ポイント高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よく肩がこる」(57.6%対48.5%)が約9ポイント、「よく腰がいたくなる」(37.0%対23.6%)「不安な気持ちになる」(34.8%対23.9%)が10ポイント以上高くなっている一方で、「とくに気になるところはない」(13.3%対9.8%)は、中央値以上群が困窮度Ⅰ群に比べ約4ポイント高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、生活を「楽しんでいない」(4.3%対1.6%)が約3ポイント、将来に対して「希望が持てない」(9.8%対3.6%)が5ポイント以上高くなっており、一方で中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、ストレスを発散できるものが「ある」(40.8%対33.7%)が5ポイント以上、自分が「とても幸せだと思う」(32.4%対22.8%)が10ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、「元気いっぱいだ」で「いつもそうだ」の割合が低くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「ねむれない」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「聞こえにくい」「よくおなかがいたくなる」「よくかぜをひく」「よくかゆくなる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれもかゆみを感じており、衛生状態が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができています。

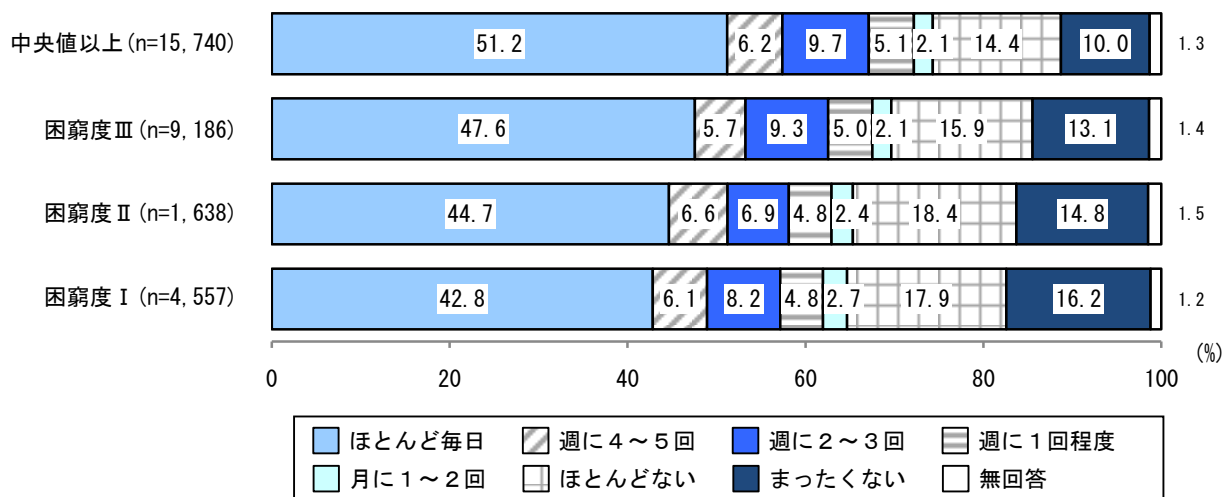
続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「非正規群」は「正規群」「自営群」に比べて「毎日またはほとんど毎日」(94.7%対88.4%、79.7%)朝食を摂っている割合が高くなっている。この結果から、親がパートあるいはアルバイト等の非正規職に就いている世帯では、朝の時間に余裕があることがうかがえる。

最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもを「とても信頼している」(53.9%対27.8%)は25ポイント以上、子どもの将来に「とても期待している」(19.5%対5.6%)は10ポイント以上、子どもと会話を「よくする」(71.5%対66.7%)は5ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(22.2%対17.1%)が5ポイント以上高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、約1点高くなっており、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

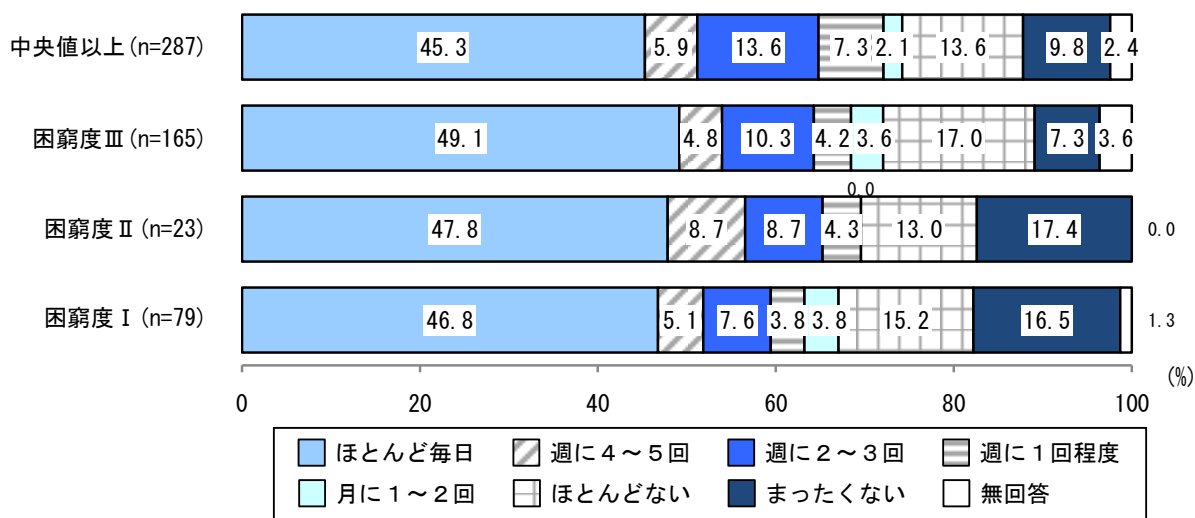
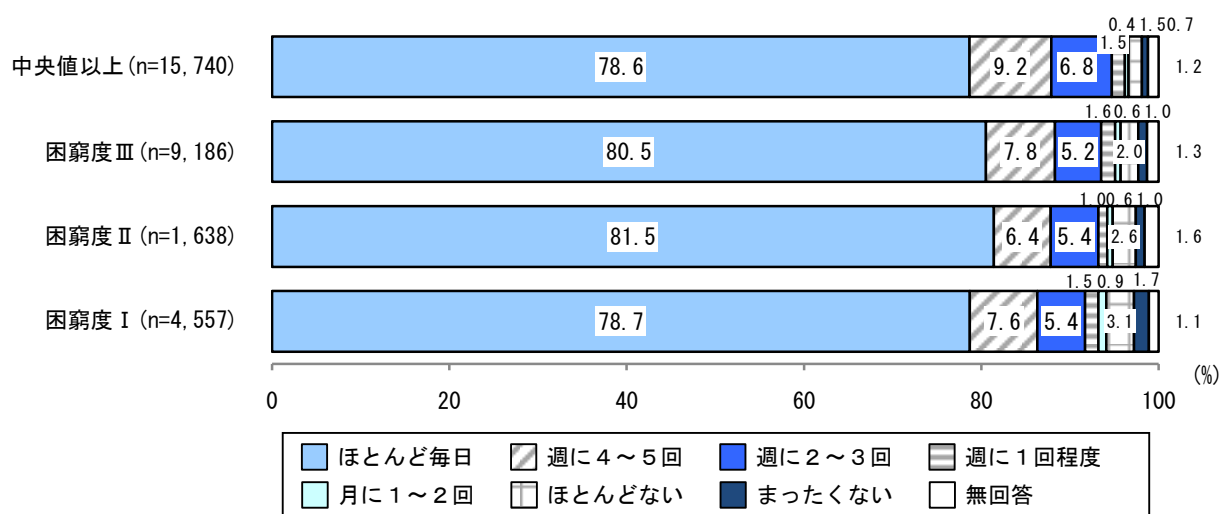


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は中央値以上で45.3%と最も低くなっている。「まったくない」の割合は、困窮度Ⅱ群で17.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

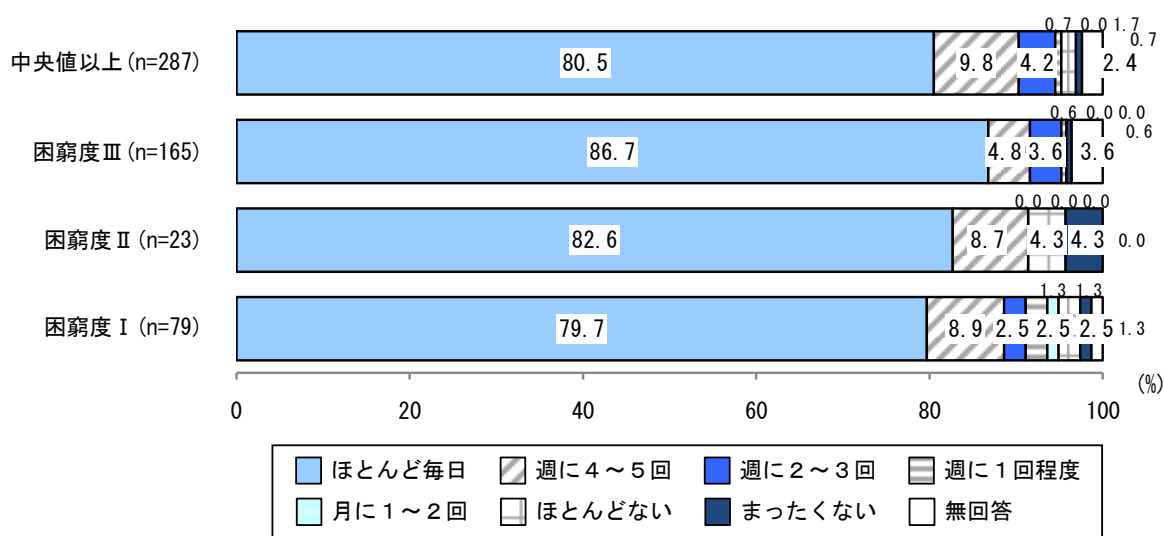
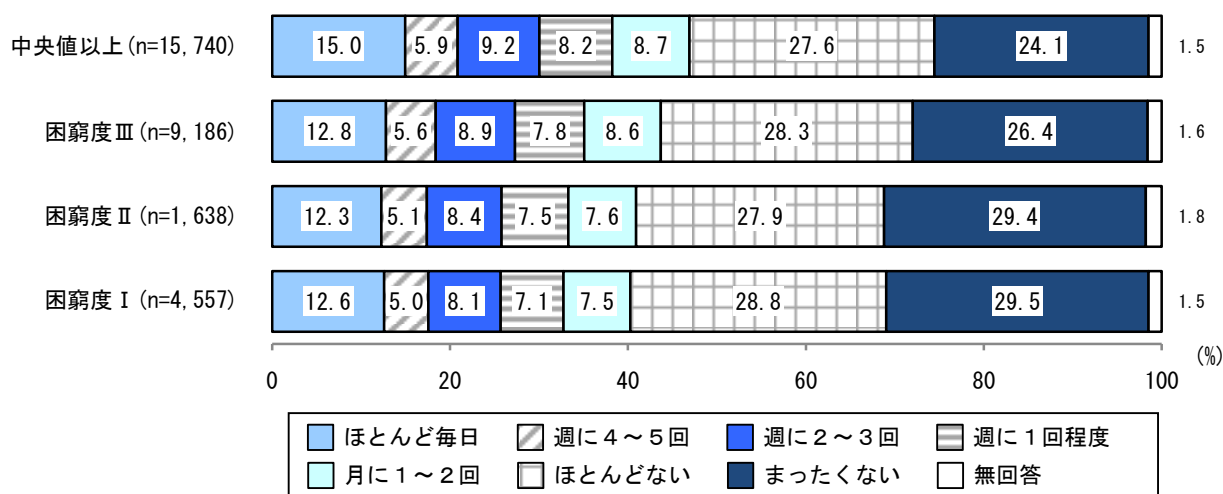


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で86.7%と最も高くなっている。「まったくない」の割合は、困窮度Ⅱ群で4.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8③）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

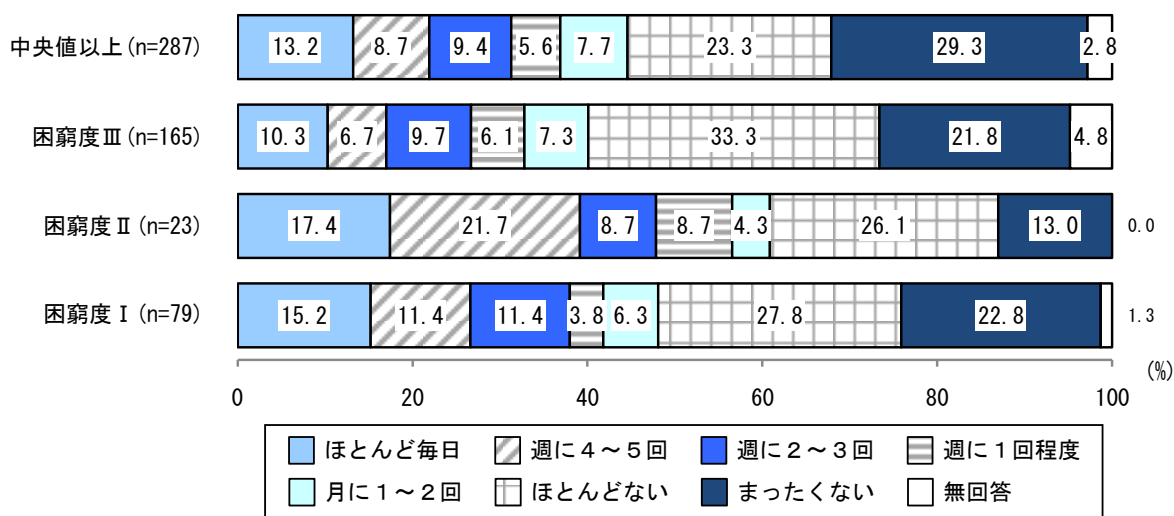
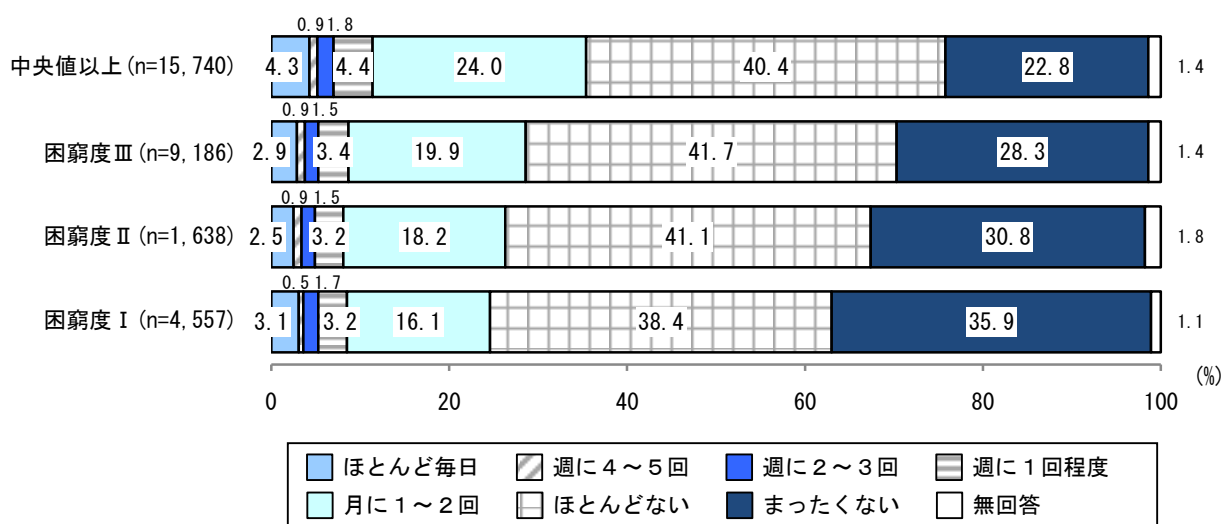


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「まったくない」と回答した割合は中央値以上群で29.3%と最も高くなっている。「ほとんど毎日」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で17.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

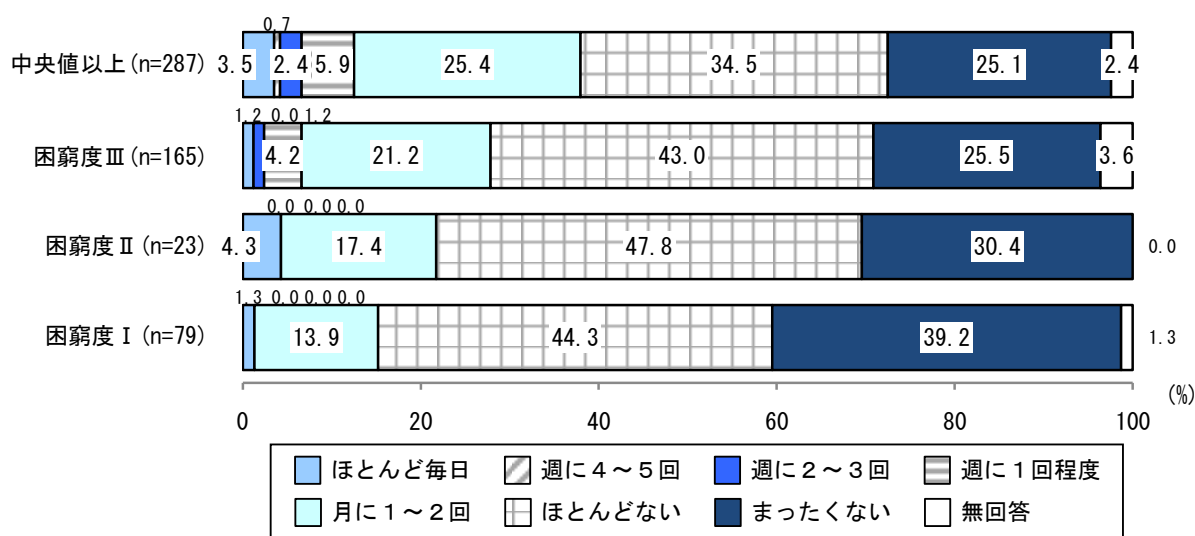
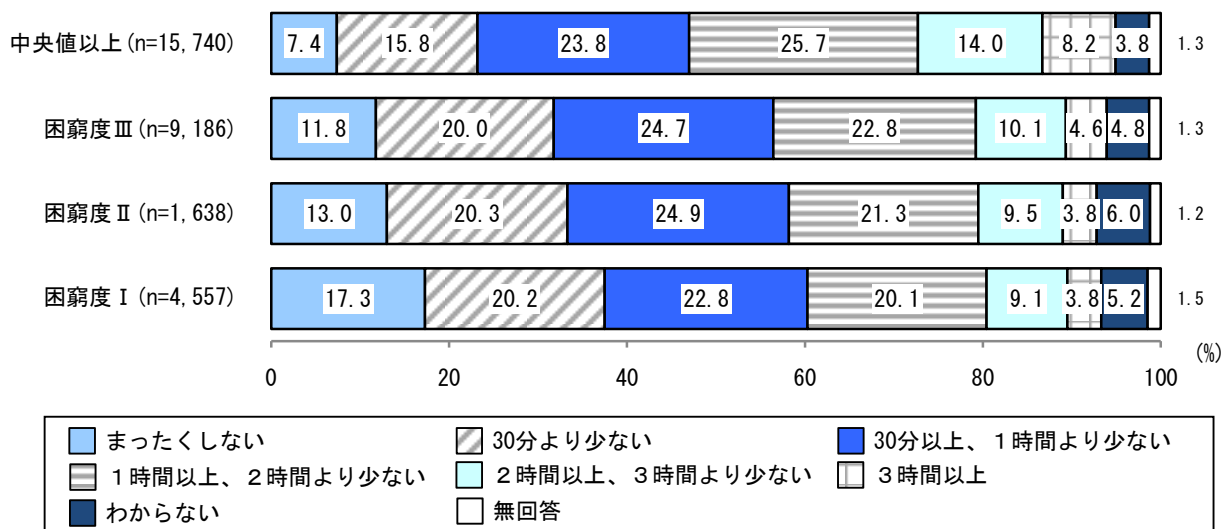


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した割合は困窮度Ⅰ群（39.2%）で最も高く、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答する割合が高くなっている。「ほとんど毎日」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で4.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

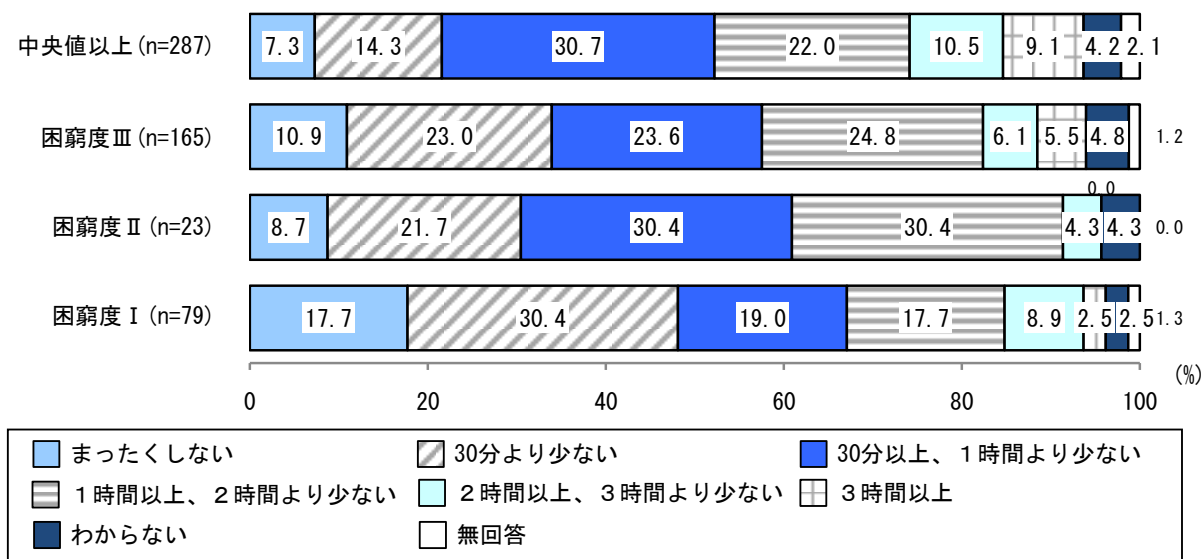
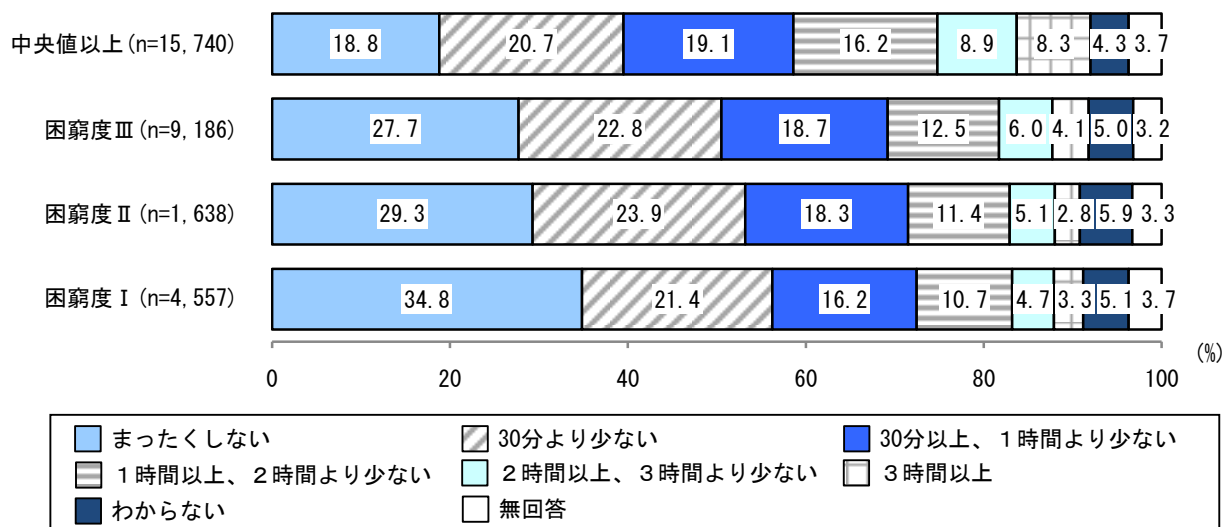


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間を見ると、学校のある日では、「まったくしない」と回答する割合は困窮度Ⅰ群（17.7%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

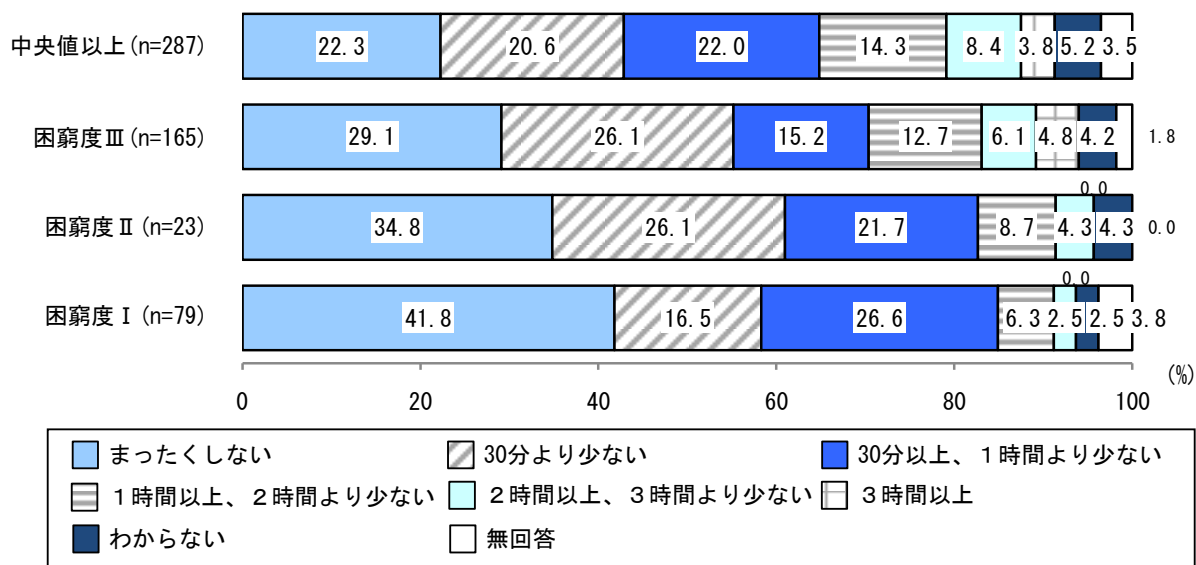
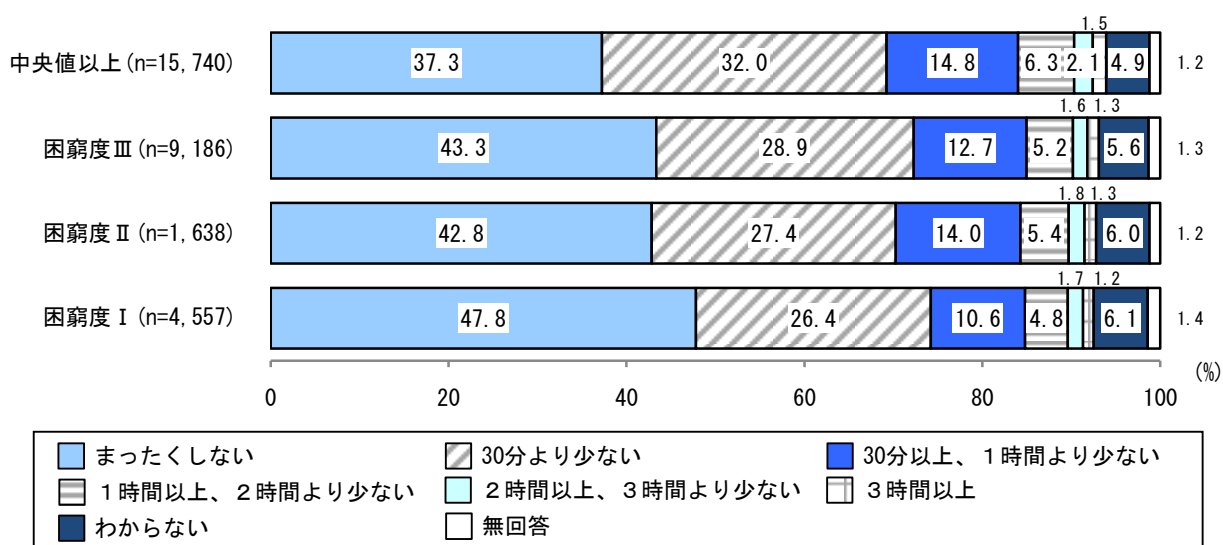


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業時間以外の１日当たりの勉強時間を見ると、学校がない日では、「まったくしない」と回答する割合は困窮度Ⅰ群（41.8％）で最も高く、困窮度が高まるにつれて「まったくしない」と回答する割合が高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

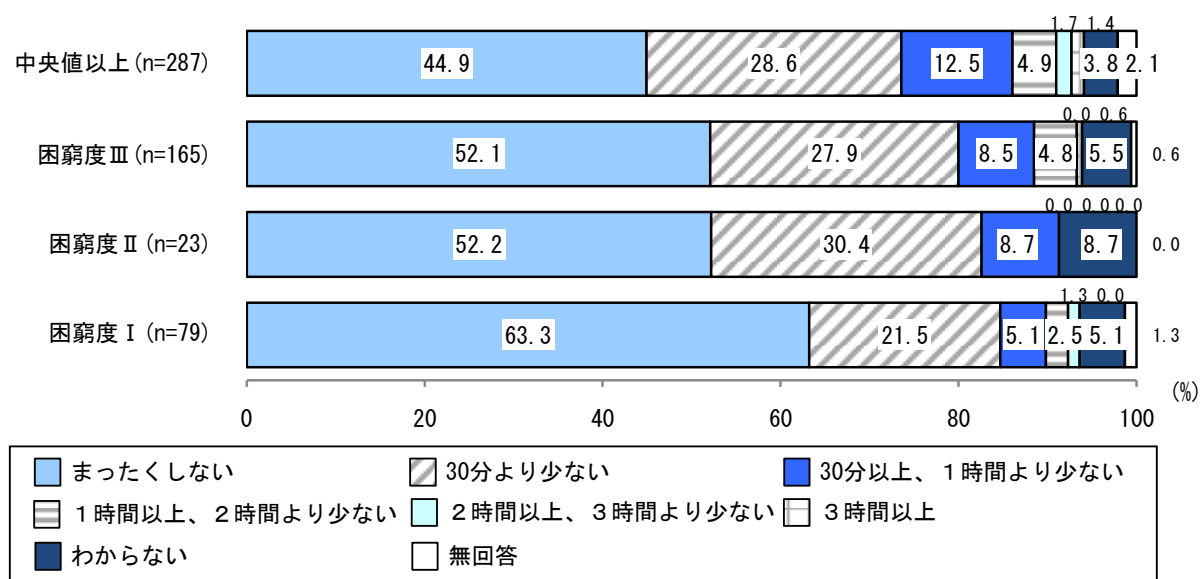
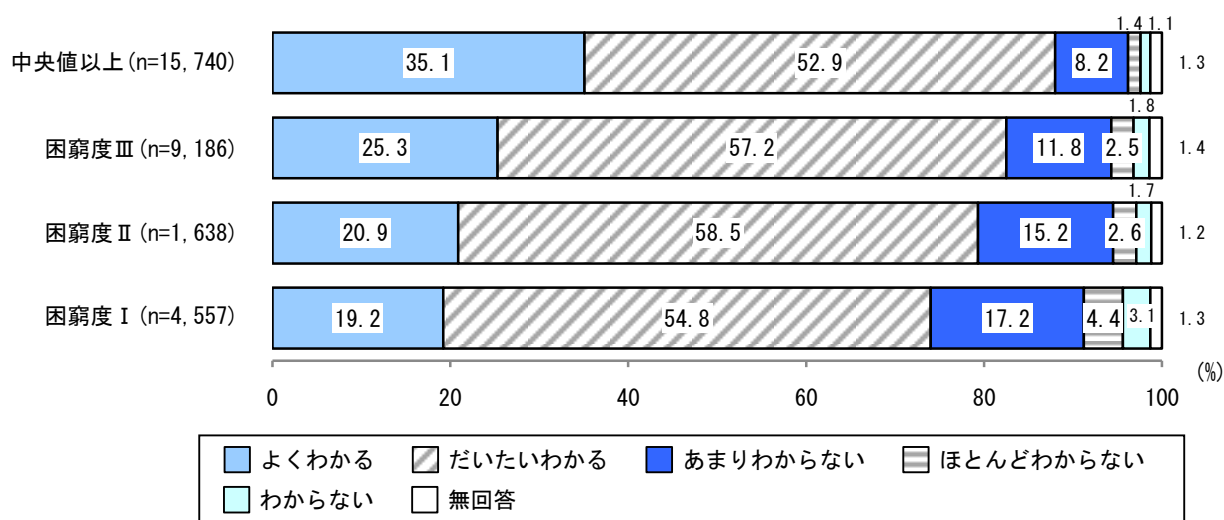


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答する割合は困窮度Ⅰ群（63.3%）で最も高く、困窮度が高まるにつれて「まったくしない」と回答する割合が高くなっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

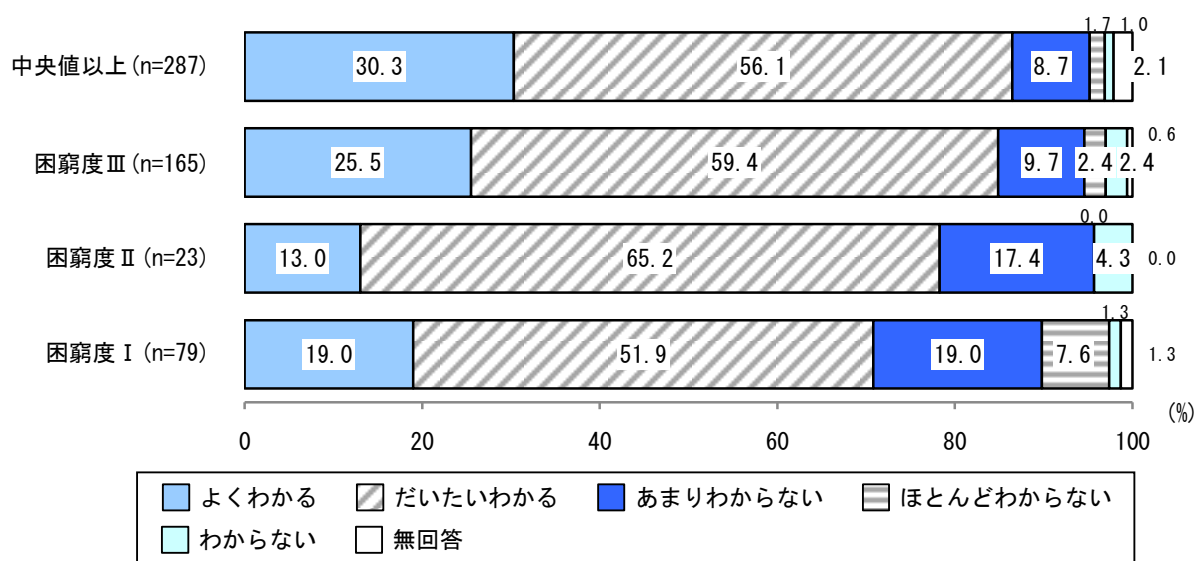


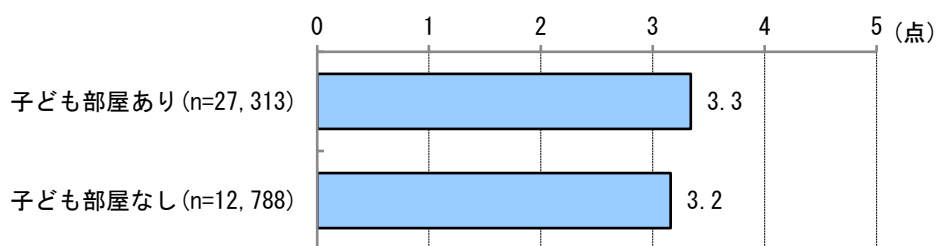
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で13.0%と最も低くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問21×子ども票問13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

＜大阪府内全体＞



＜泉佐野市＞

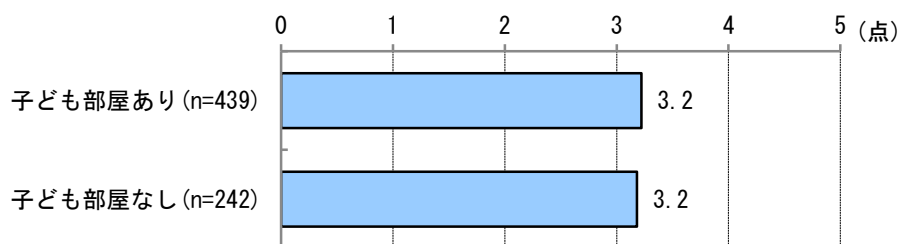
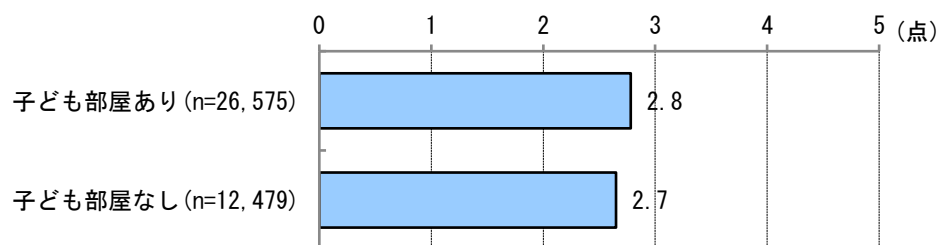


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ても、大きな差はみられない。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

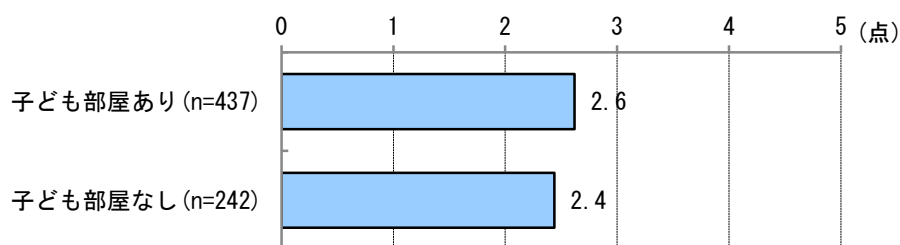
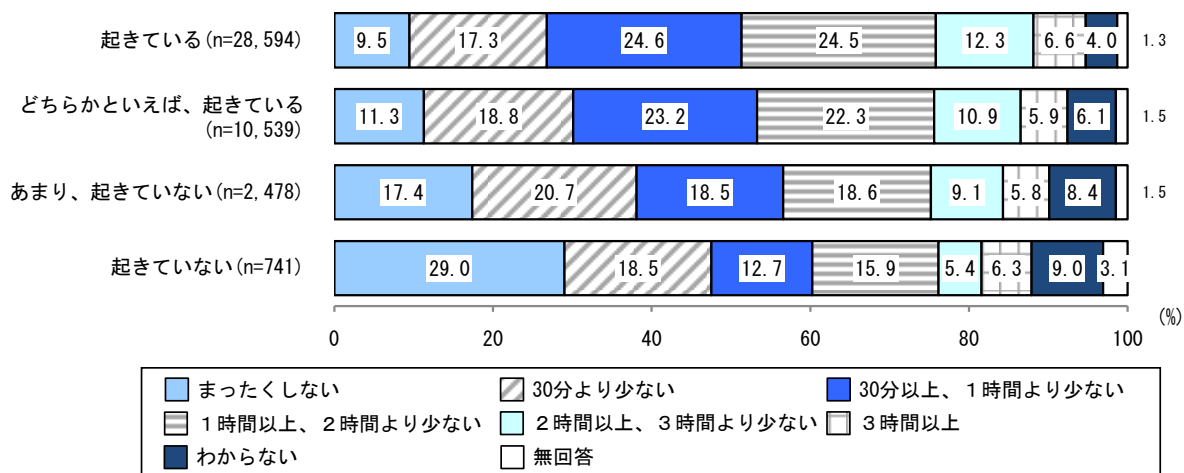


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問 2 × 子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

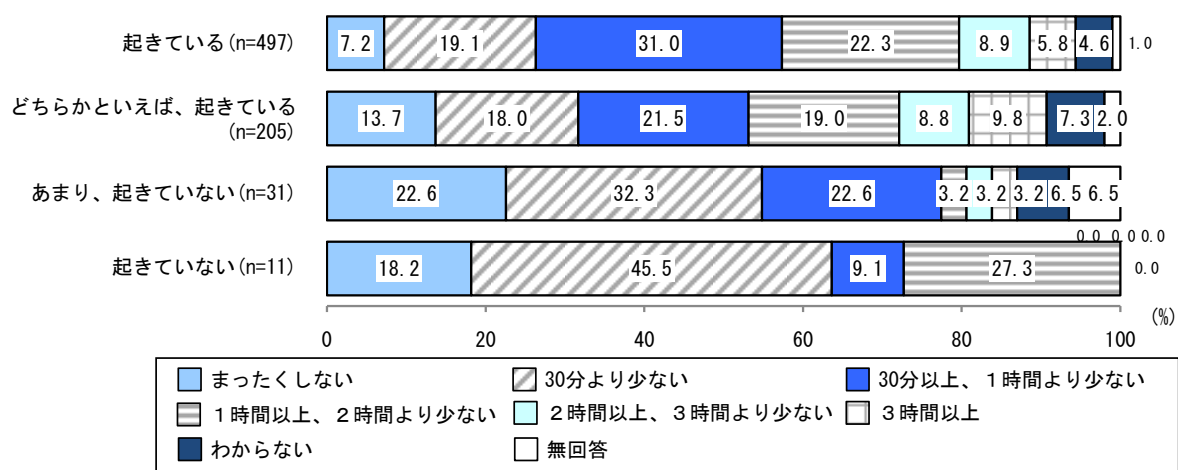
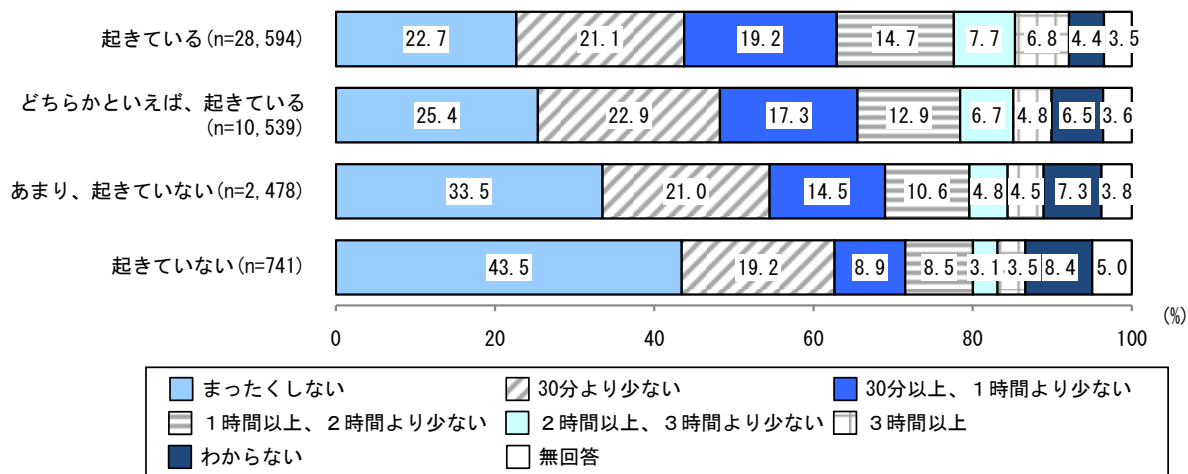


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合はあまり、起きていない人の割合が最も高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」の割合は、起きていますの割合が最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

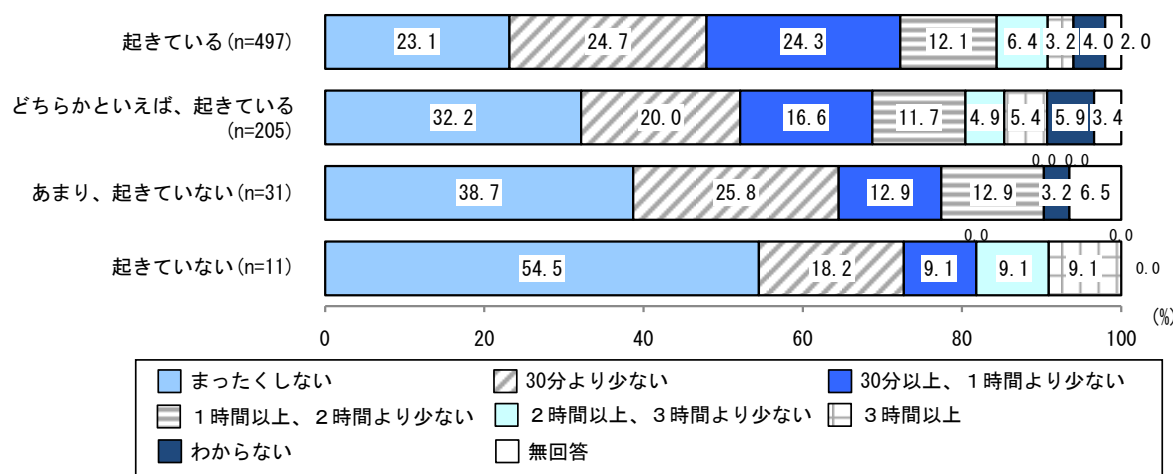
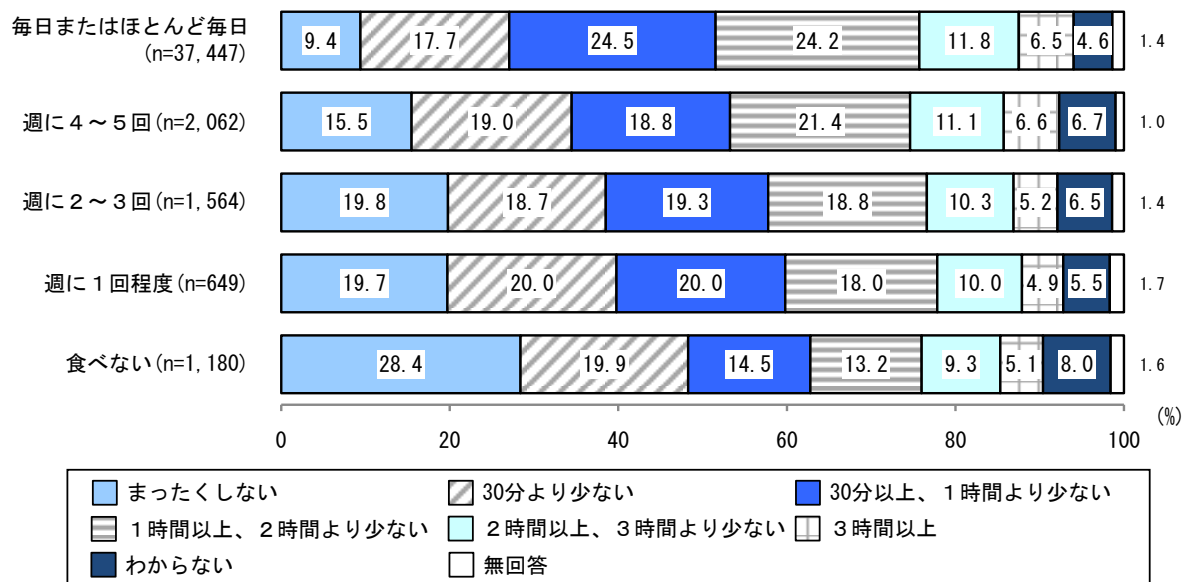


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」の割合は起きている人の割合が最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

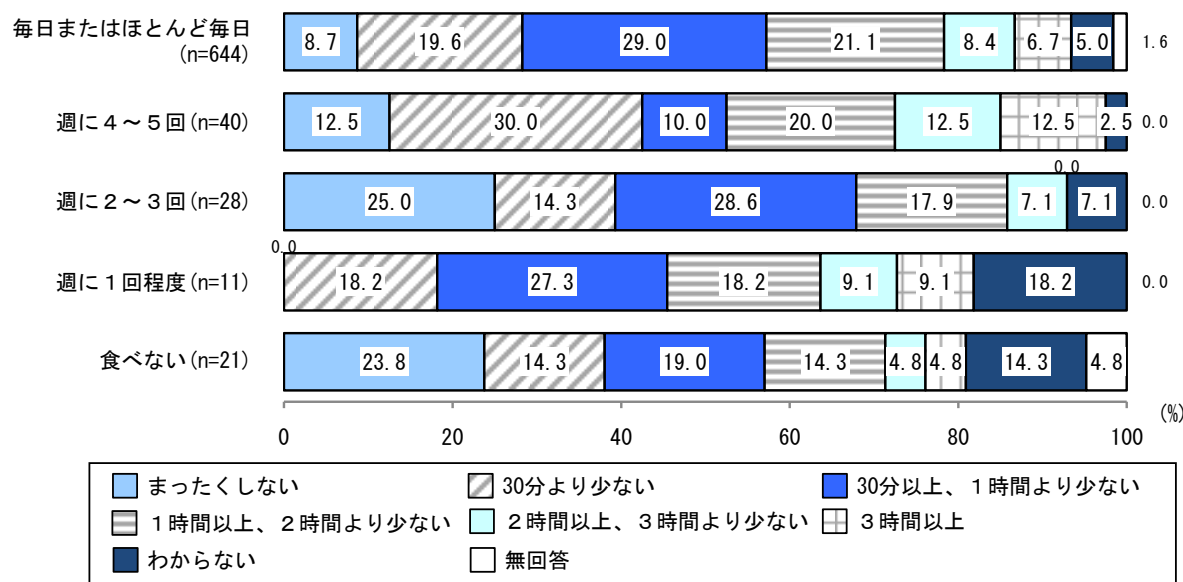
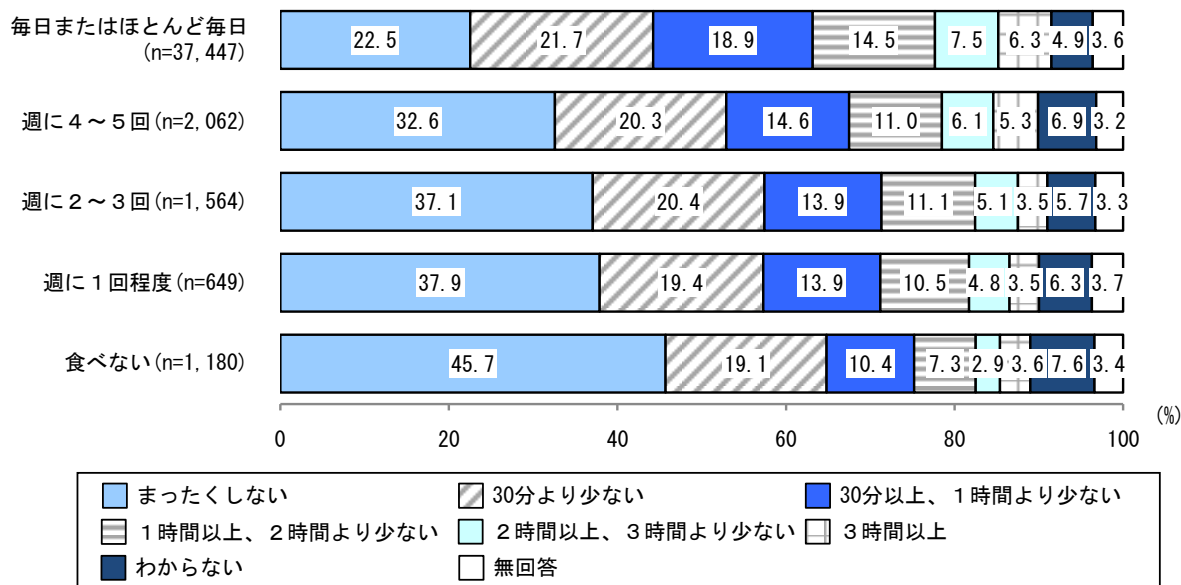


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」の割合は週に2～3回食べる人で25.0%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

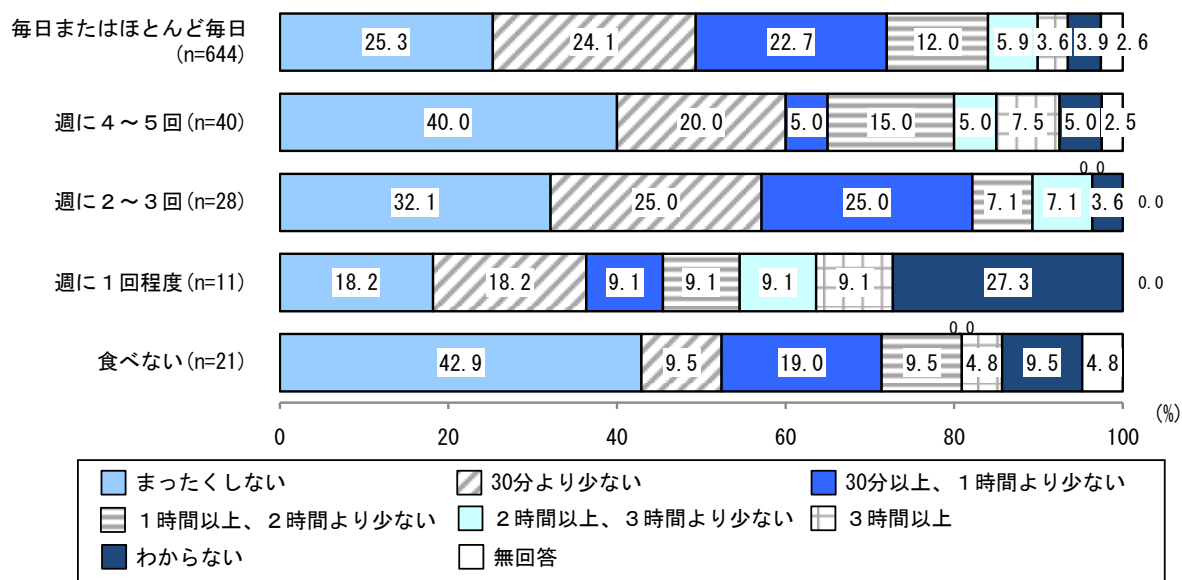
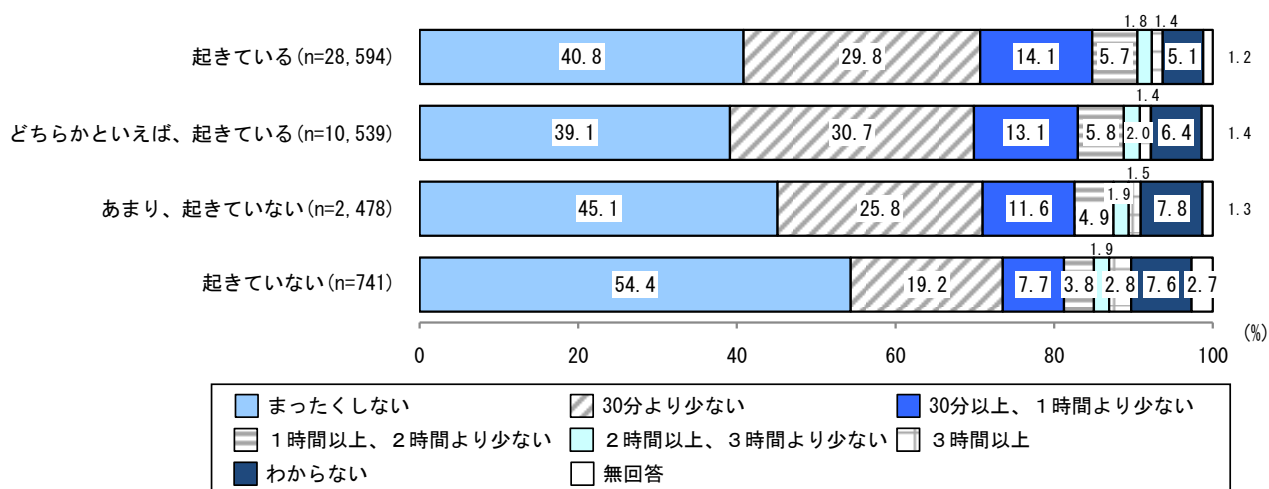


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」の割合は食べない人で42.9%と最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

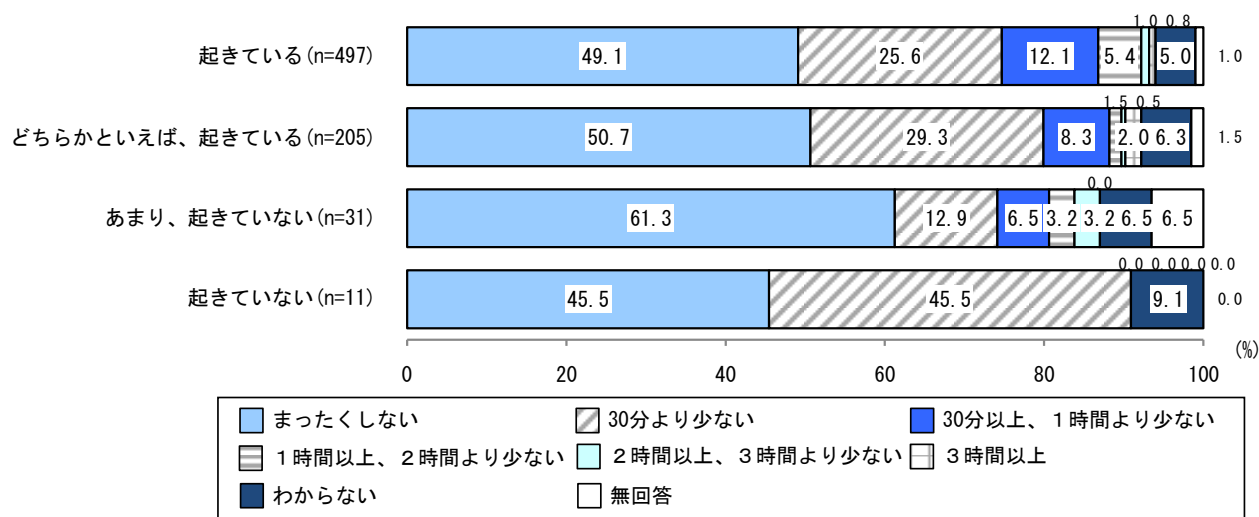
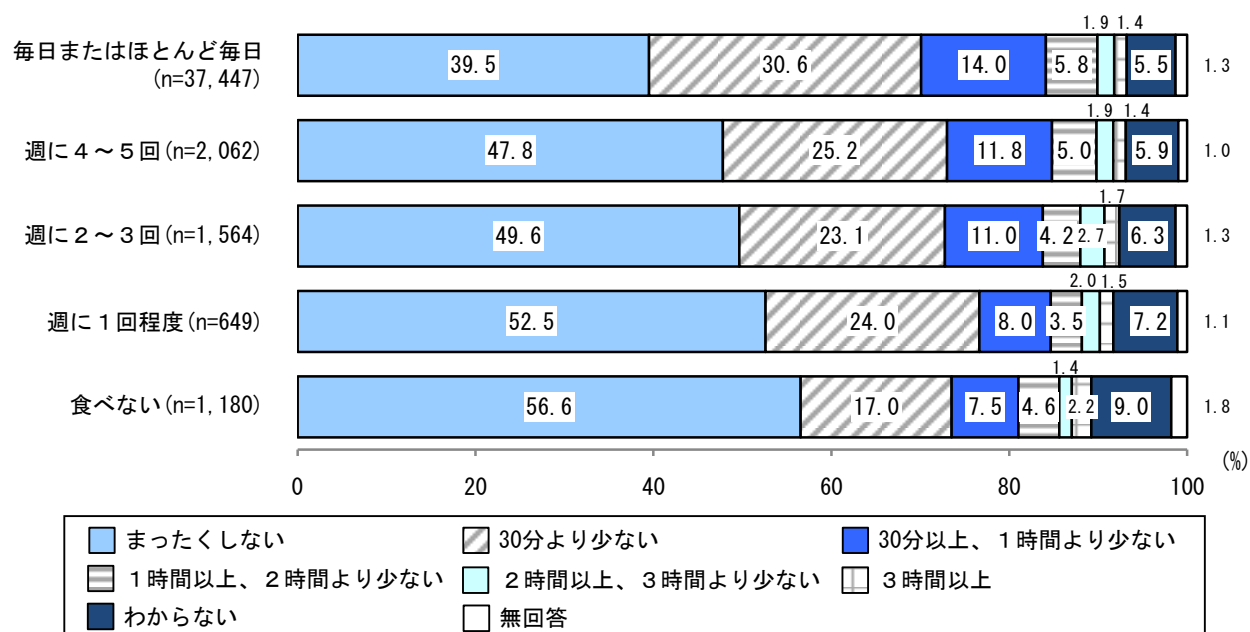


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」の割合はあまり、起きていない人で61.3%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

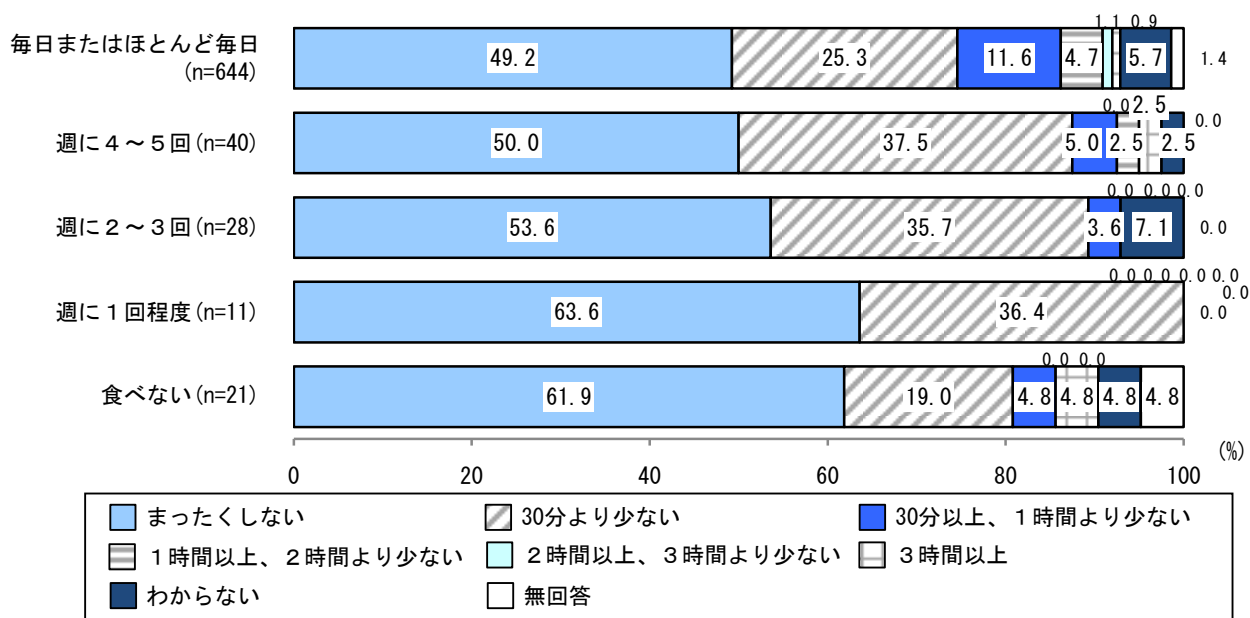
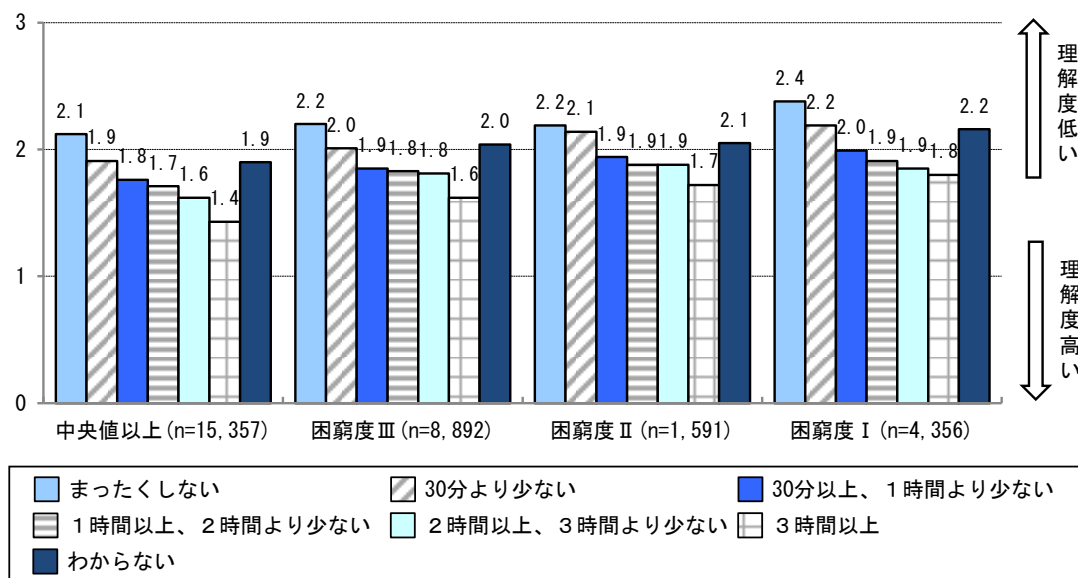


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人は週に1回程度食べる人で63.6%と最も高く、次いで食べない人で61.9%となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

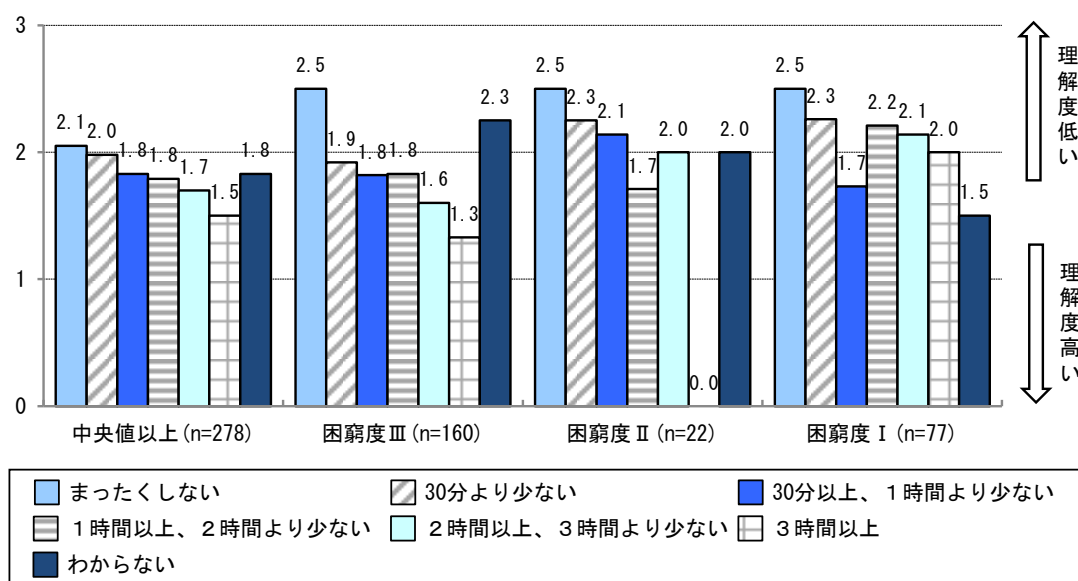
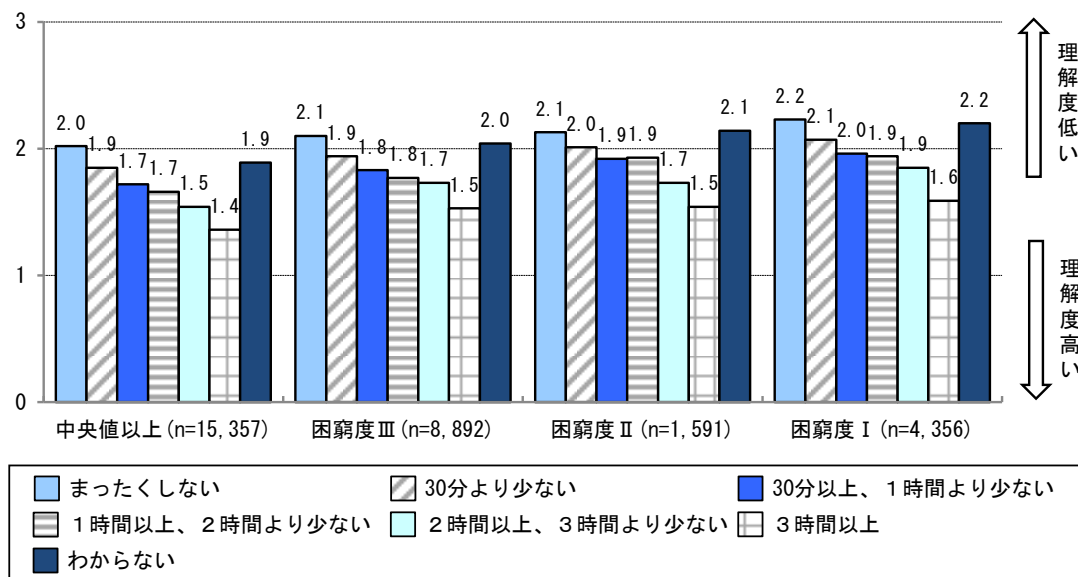


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅲ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

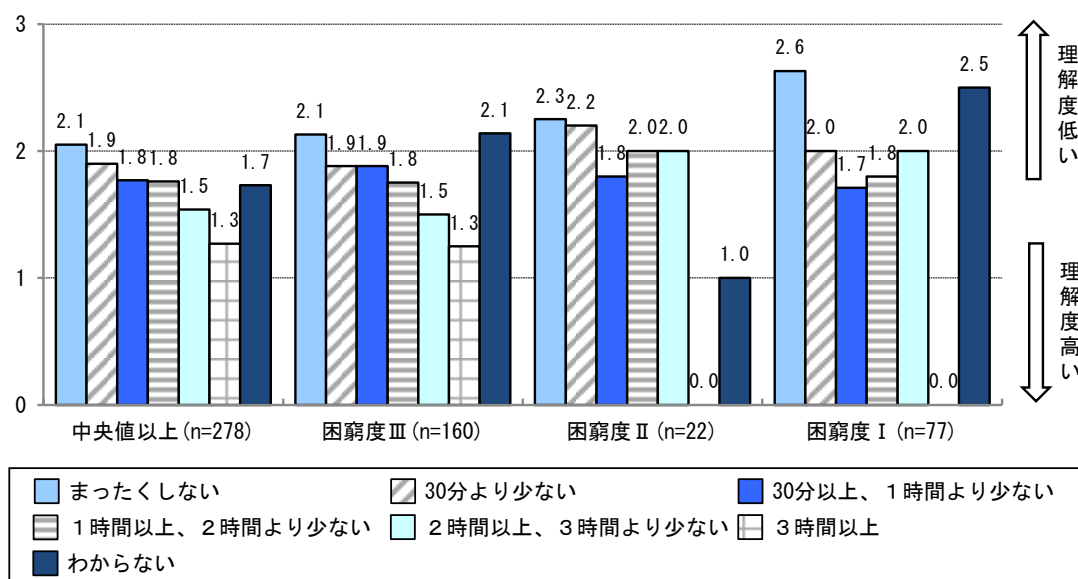
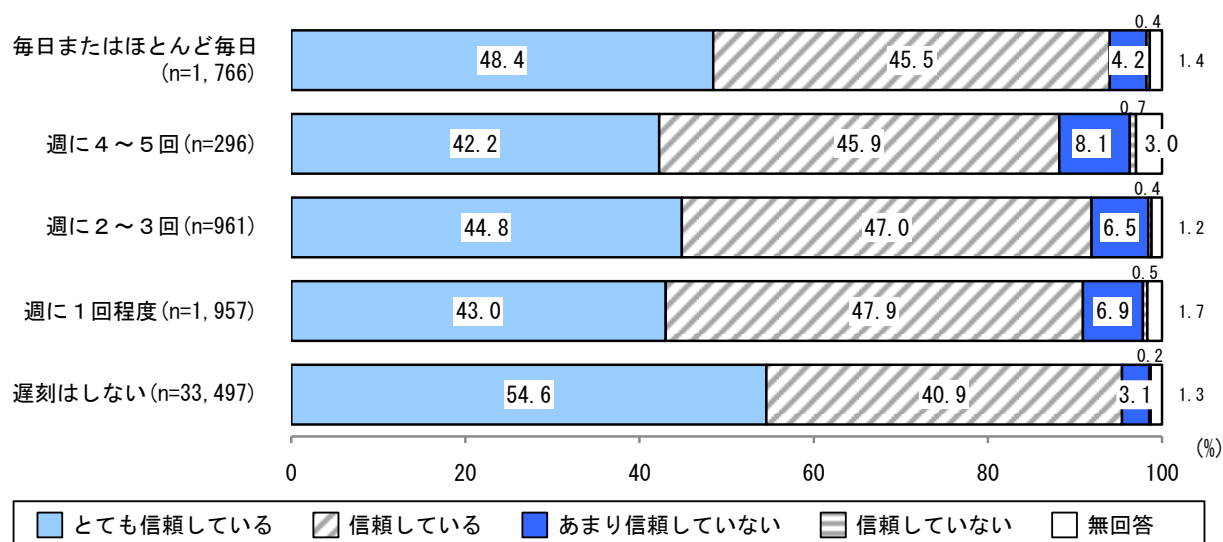


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅲ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

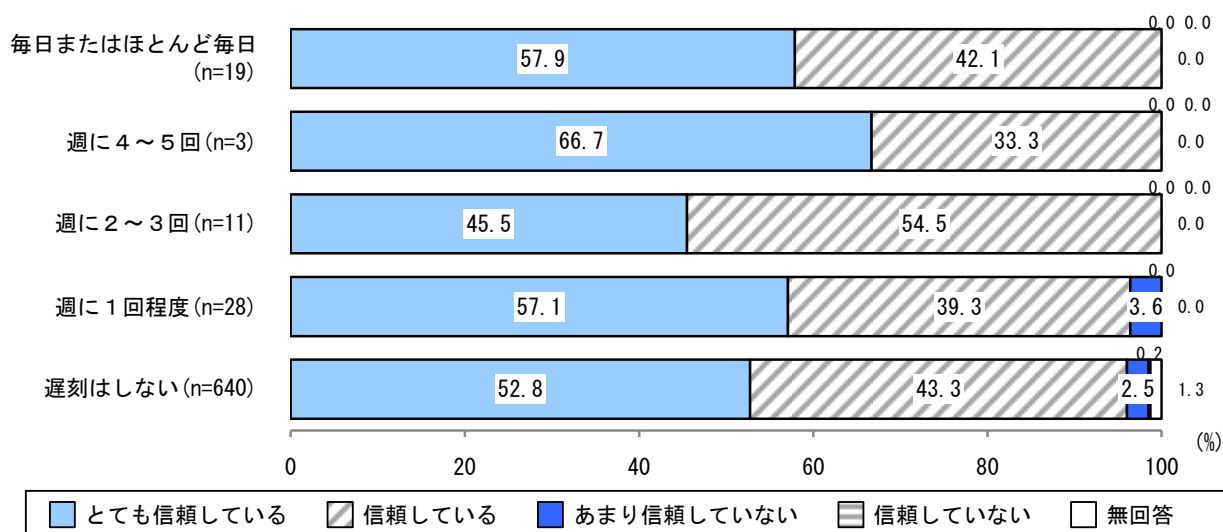
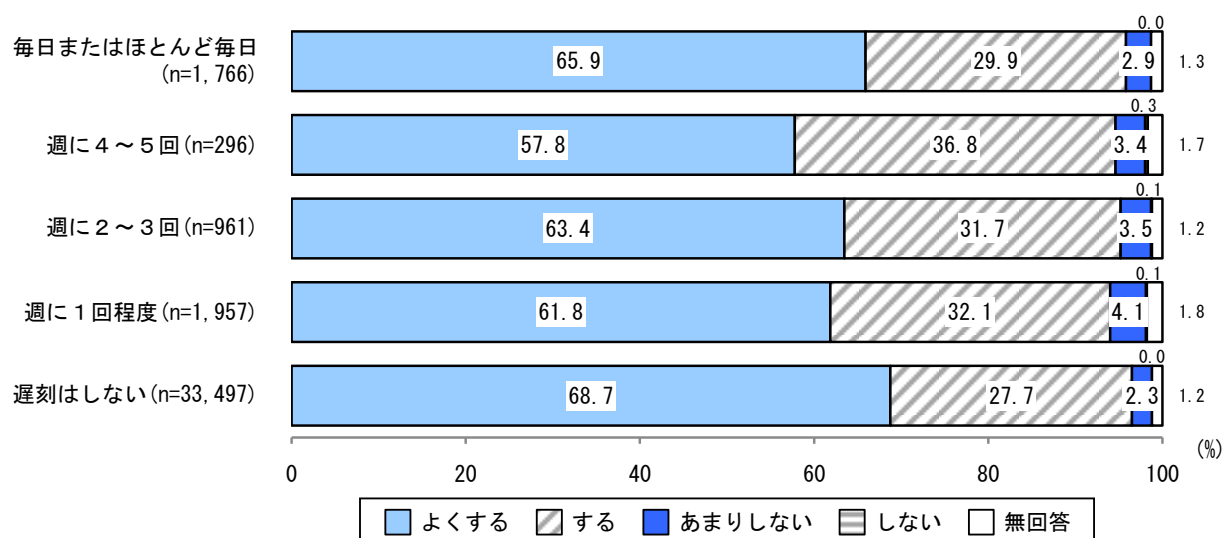


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「週に 4 ～ 5 回」の子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が高く、66.7%である。「週に 1 回程度」の子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が高く、3.6%である。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問7×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

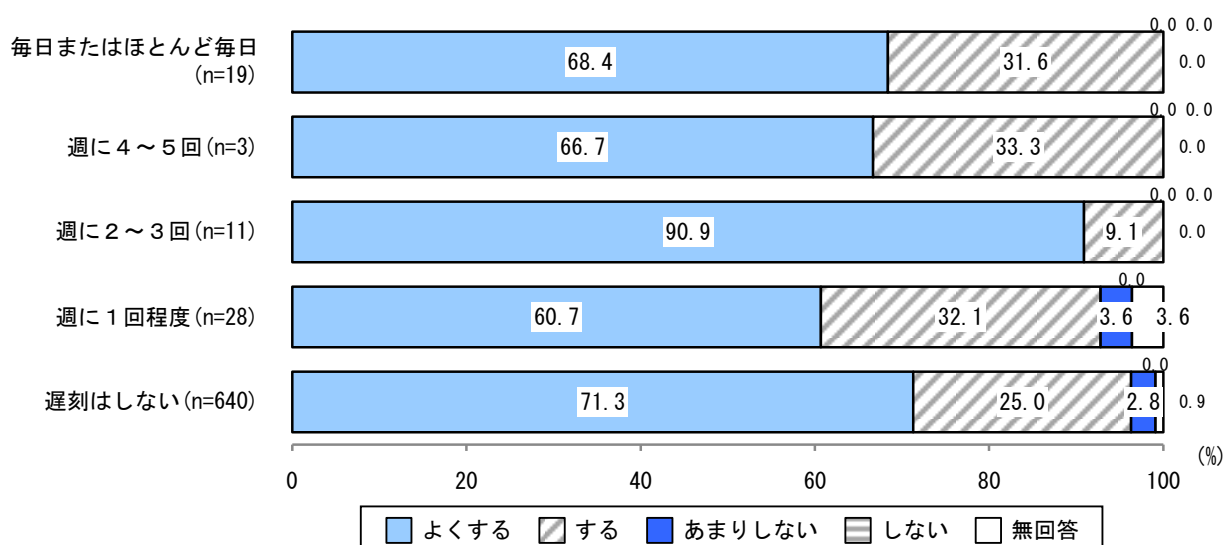
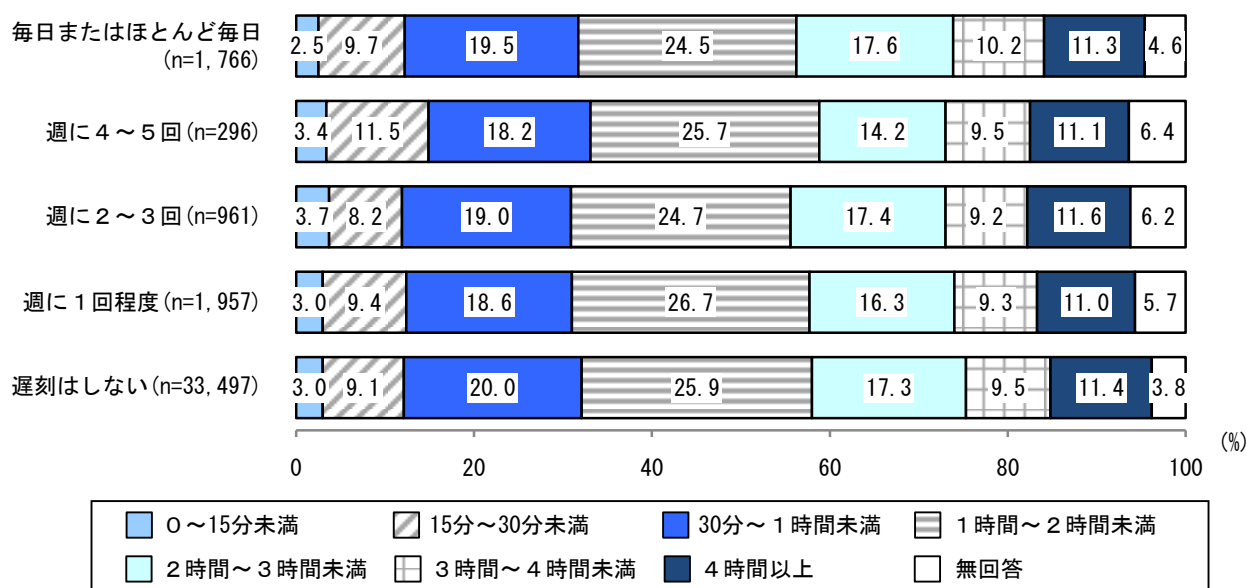


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に2～3回」の子どもにおいては、会話を「よくする」割合が90.9%と最も高く、次いで「遅刻はしない」子どもが71.3%となっている。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

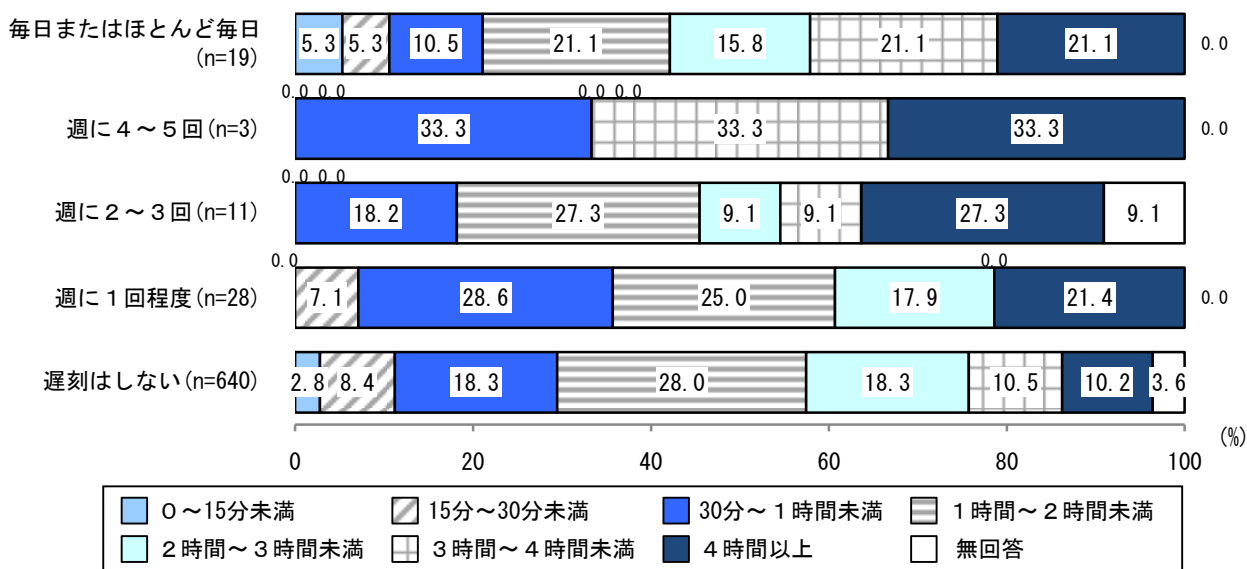
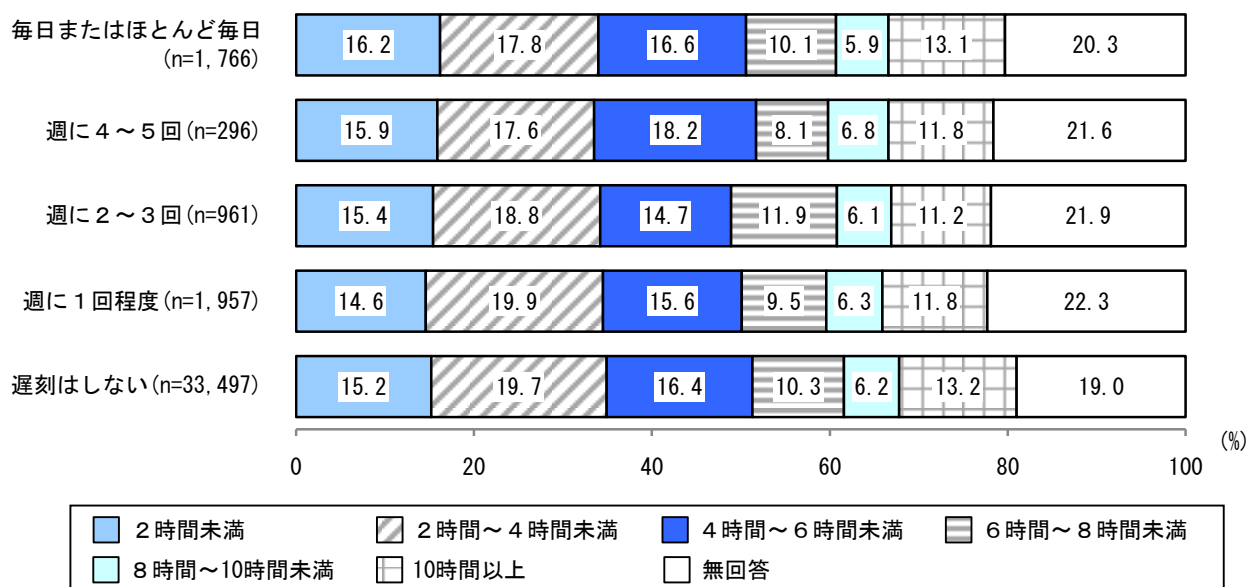


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「0～15分未満」（5.3％）の割合が最も高くなっている。「遅刻はしない」子どもにおいては、「15分～30分未満」（8.4％）、「1時間～2時間未満」（28.0％）、「2時間～3時間未満」（18.3％）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

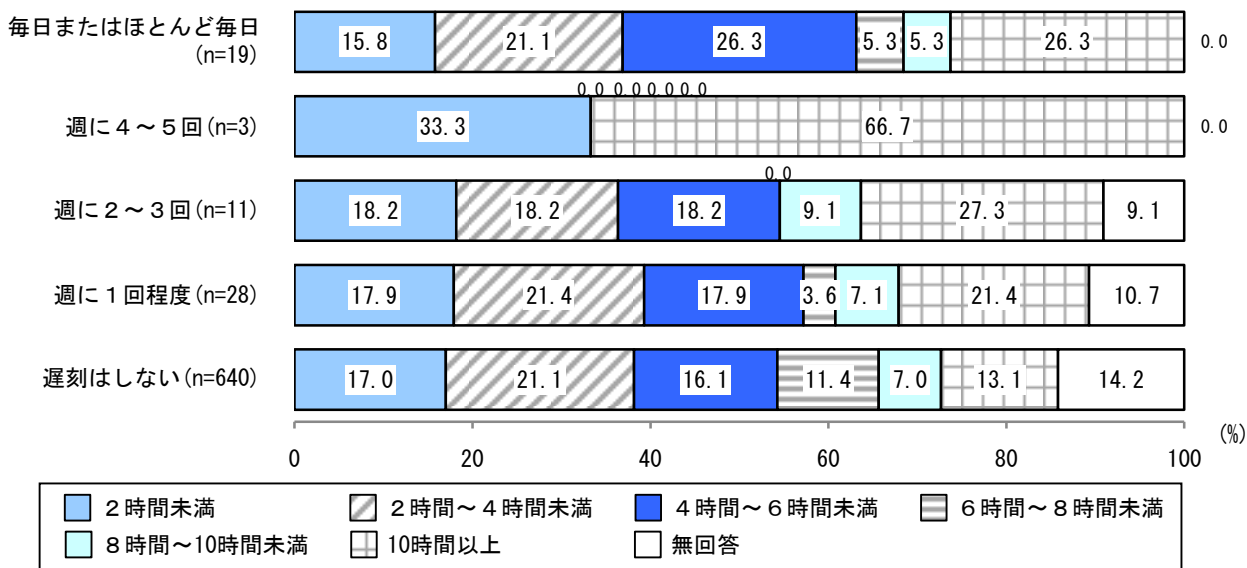
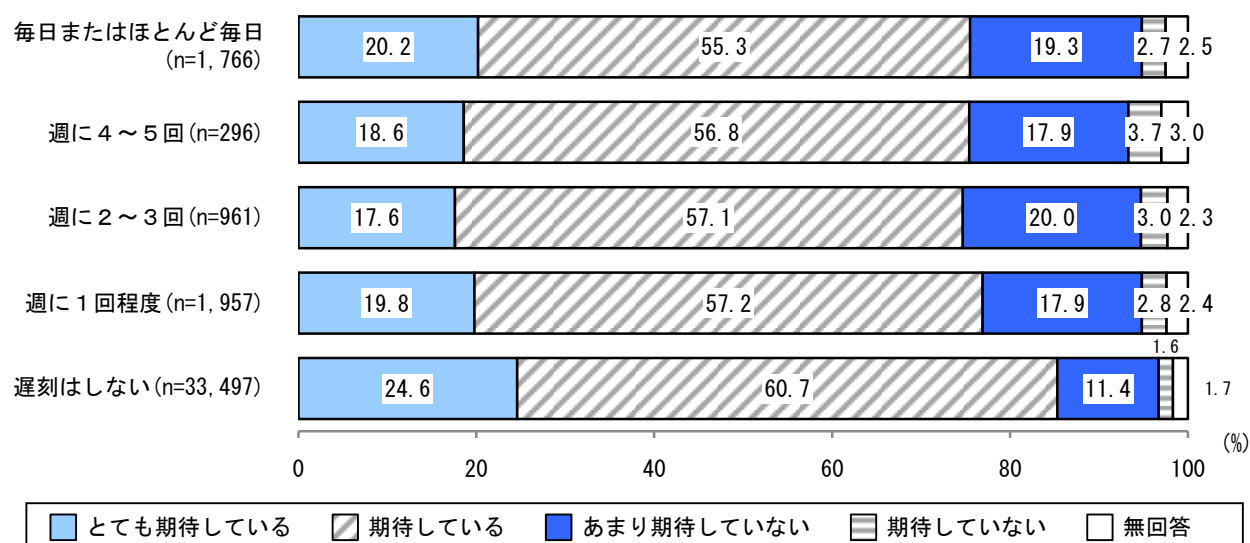


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「4時間～6時間未満」（26.3％）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

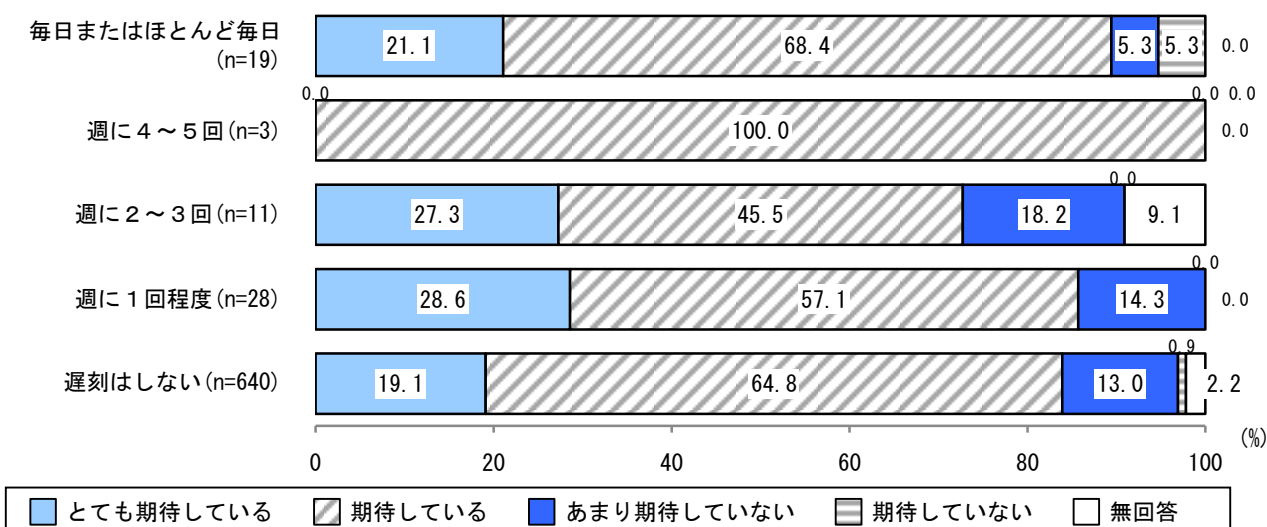
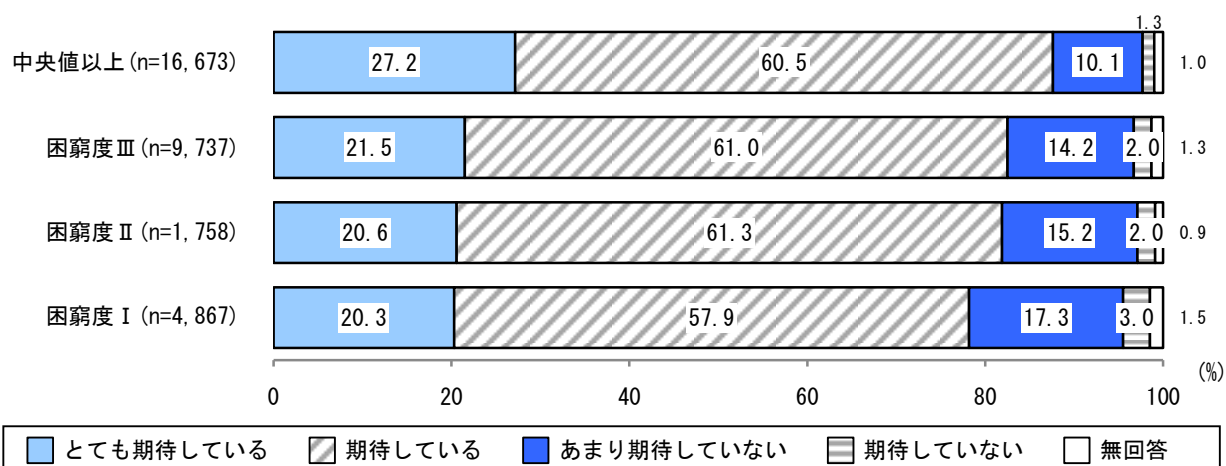


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「週に 1 回程度」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が28.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

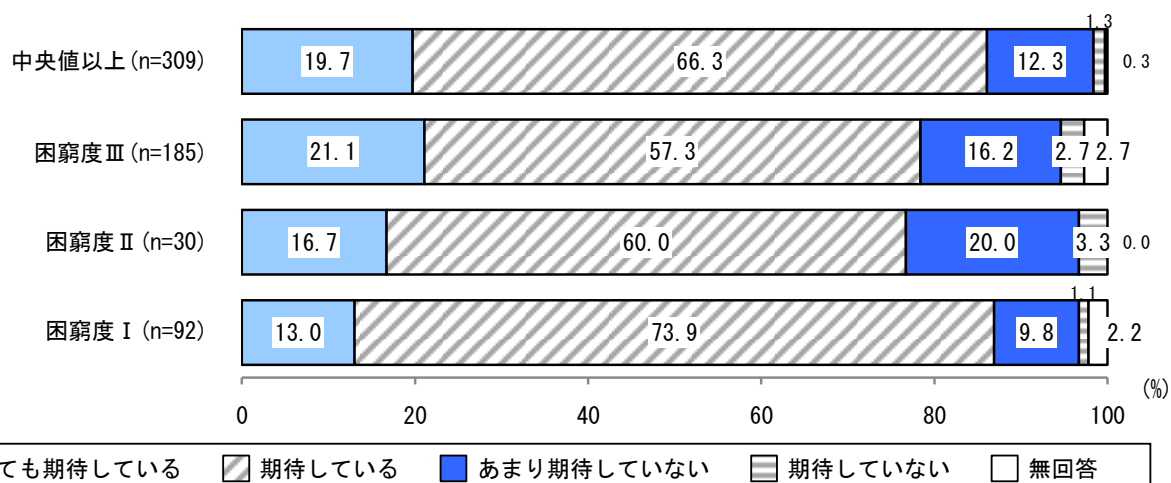
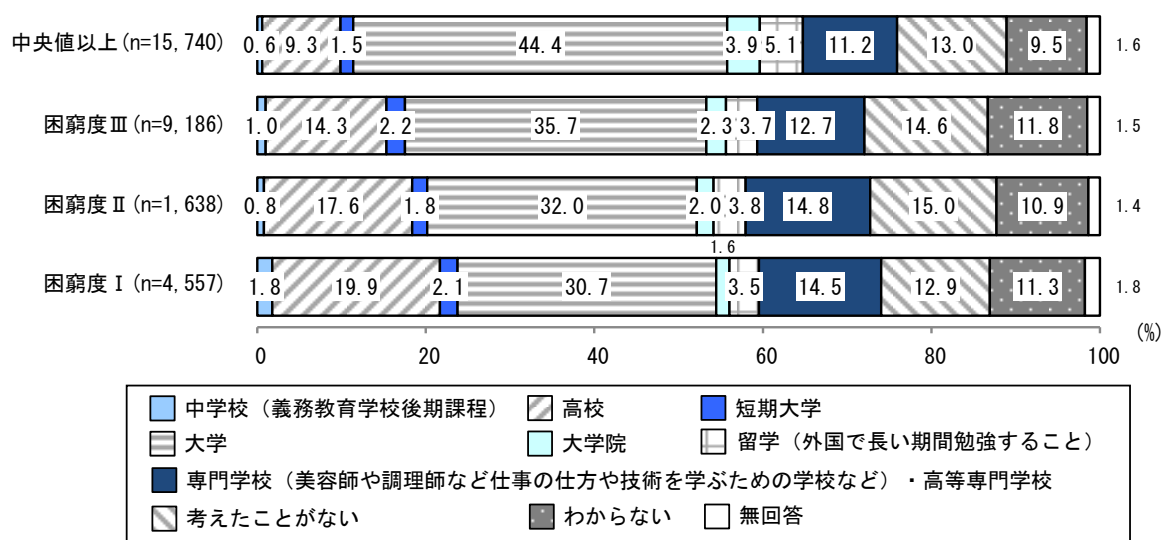


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると「とても期待している」と回答した割合は困窮度Ⅲ群（21.1％）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

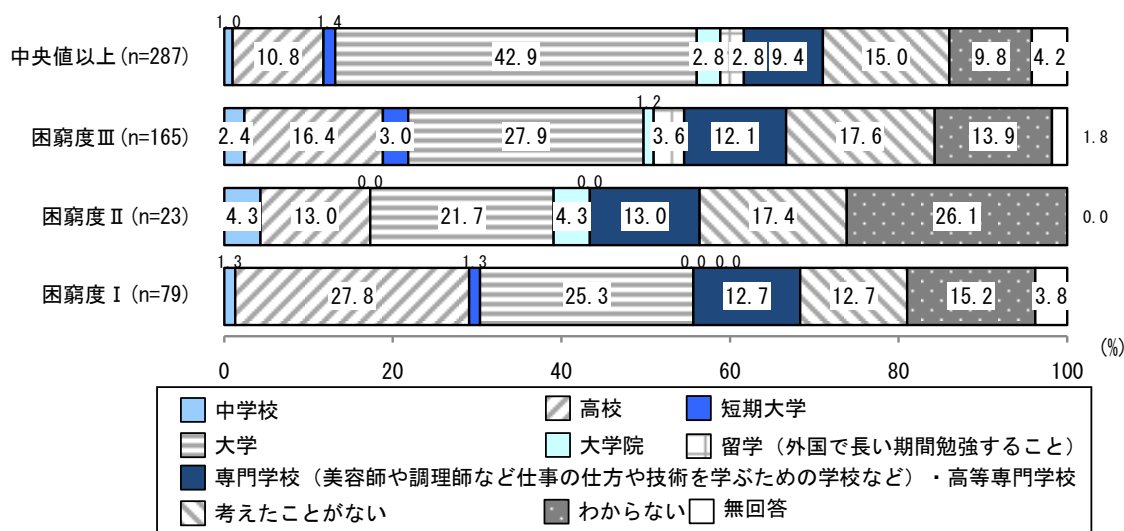
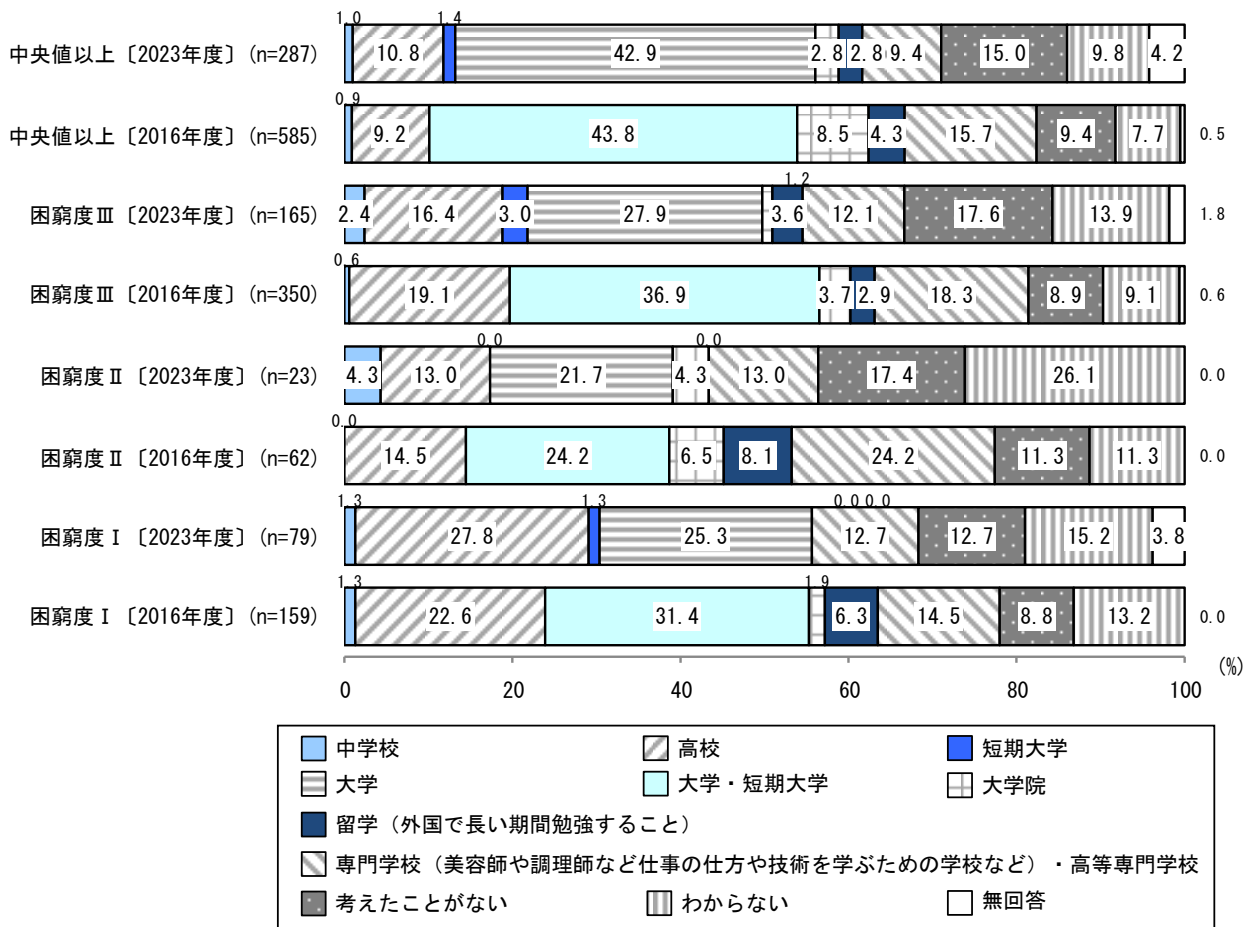


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅰ群で「中学校」と「高校」をあわせた高校卒業までの割合が29.1%と最も高くなっている。「大学」と回答する割合は中央値以上群で42.9%と最も高くなっている。

<2016 年度調査との比較／泉佐野市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016年度調査では「大学・短期大学」

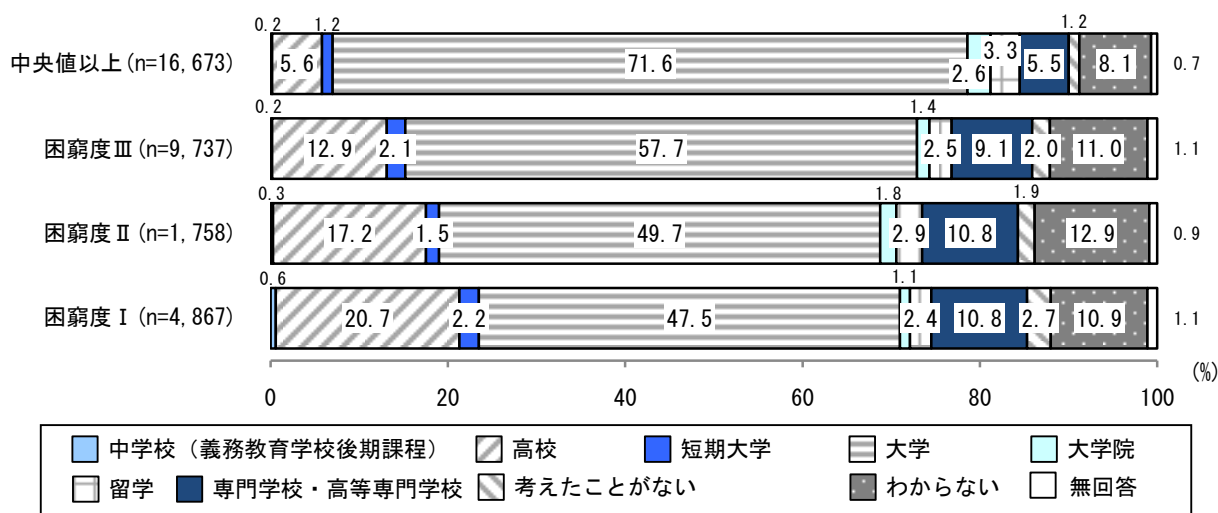
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「高校」と回答した割合は、中央値以上群、困窮度Ⅰ群では2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

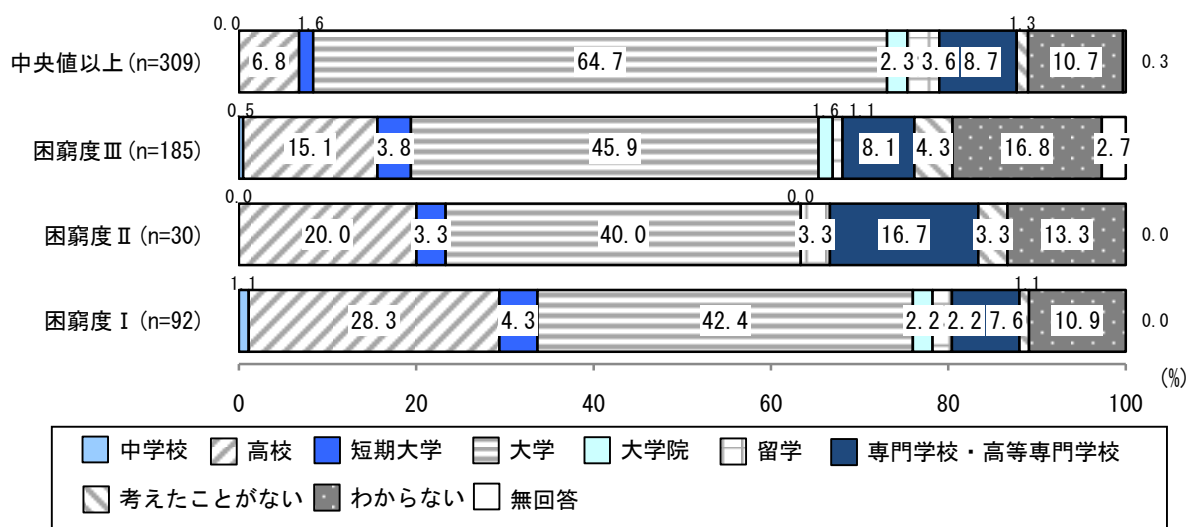
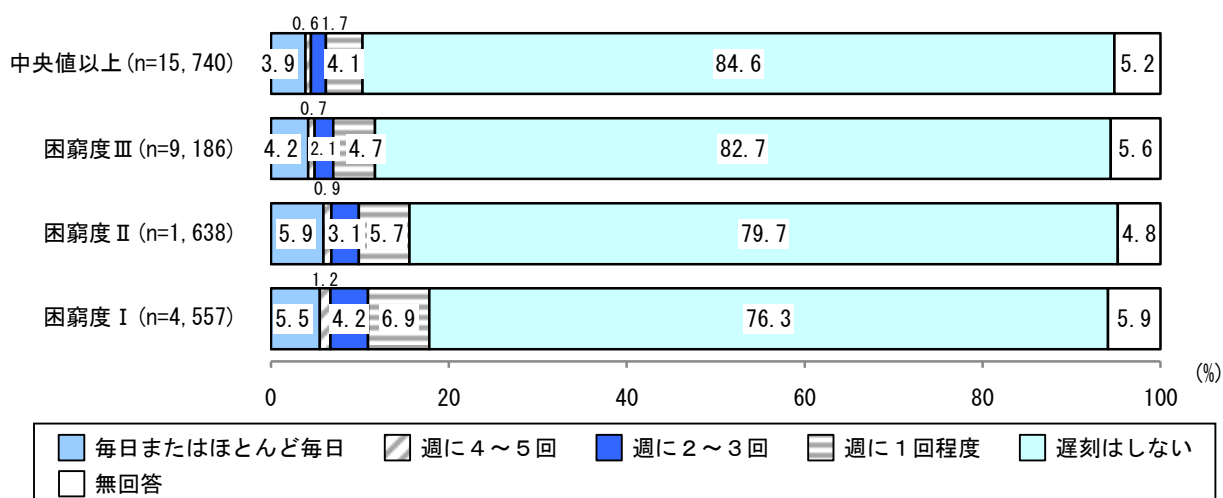


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別の子どもに希望する進学先を見ると、「中学校」「高校」をあわせた高校卒業までの割合は、困窮度Ⅰ群（29.4%）が最も高く、困窮度が高まるにつれ割合が高くなっている。「大学」と回答する割合は中央値以上群で64.7%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

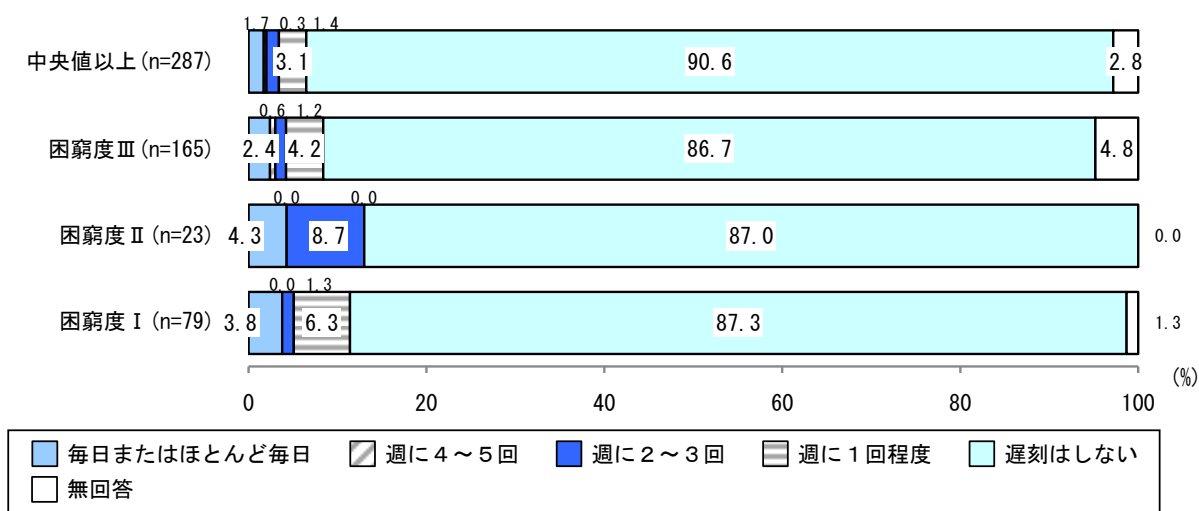
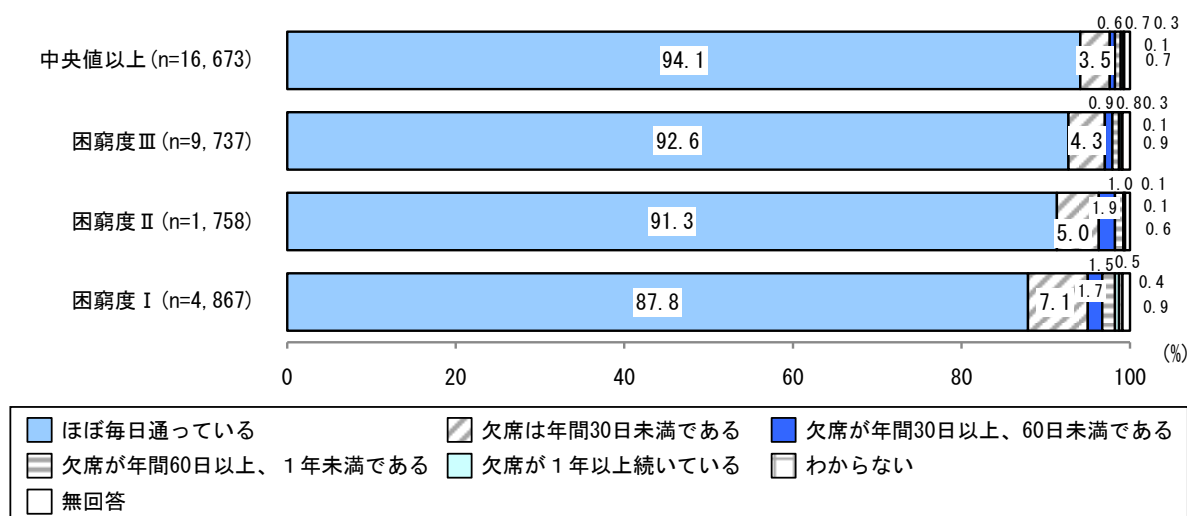


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群で4.3%と最も高くなっている。「週に1回程度」は困窮度Ⅰ群で6.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

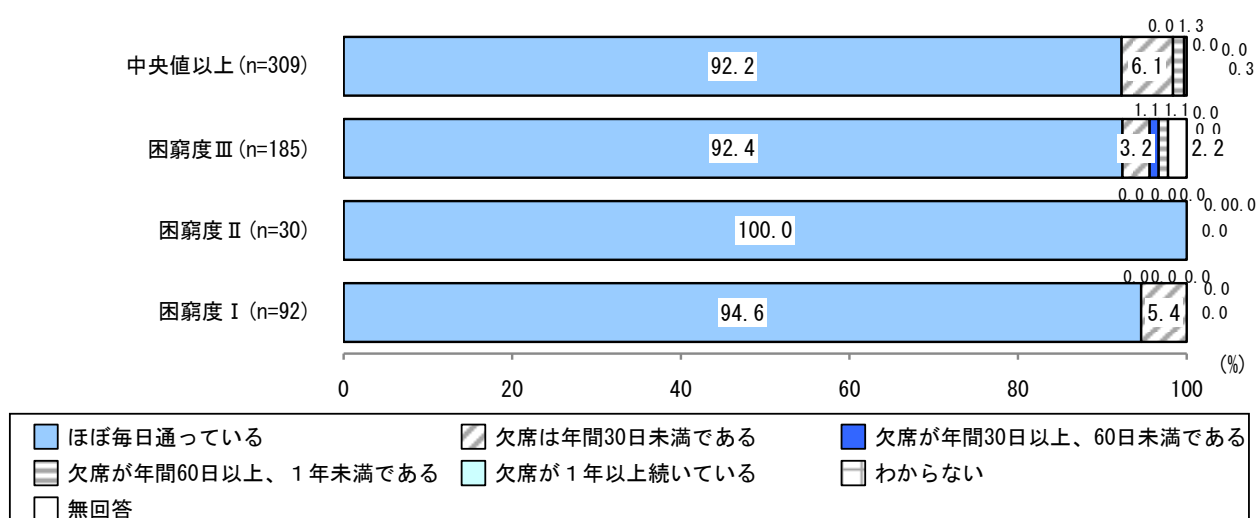
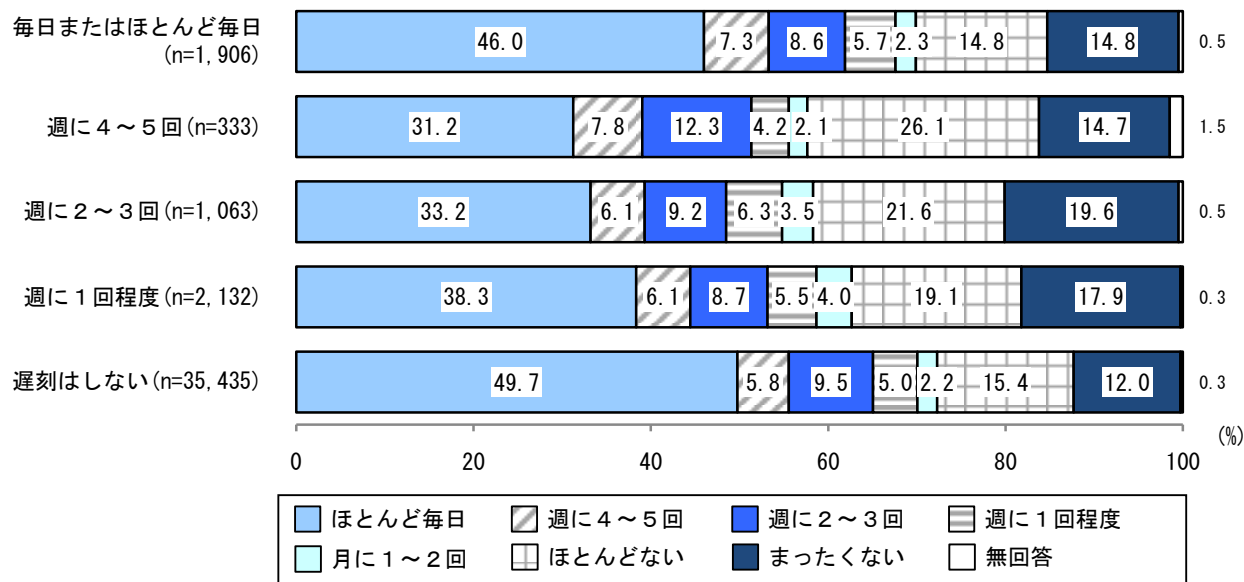


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答する割合は中央値以上群で92.2%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

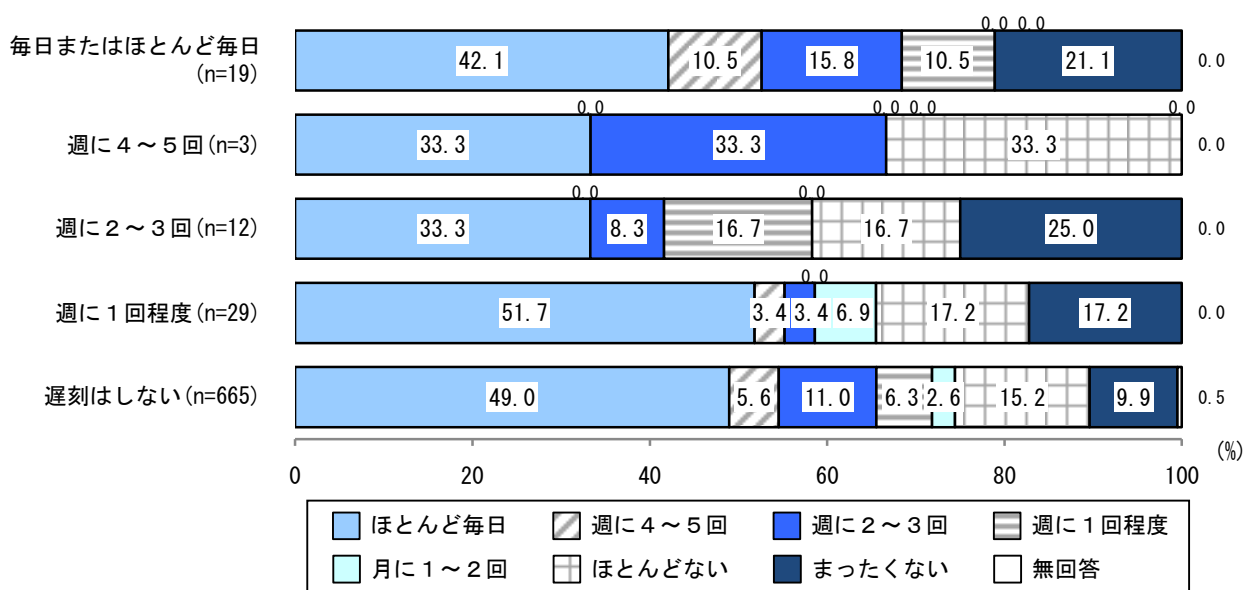
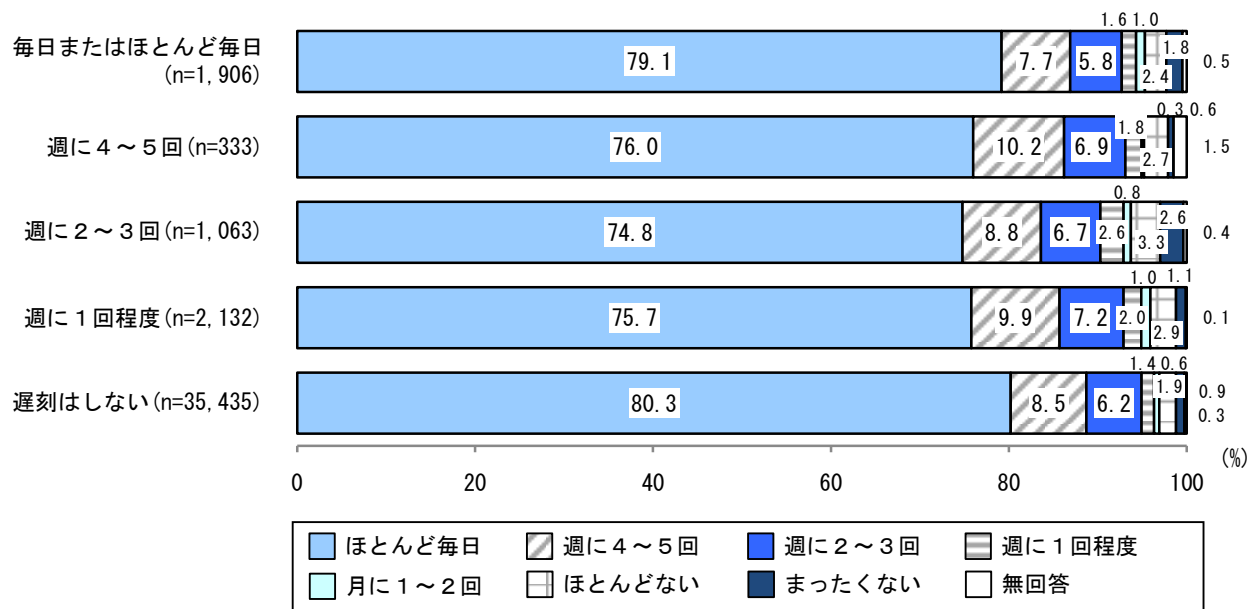


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に1回程度遅刻をしている子どもで51.7%と最も高い一方で、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもで25.0%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

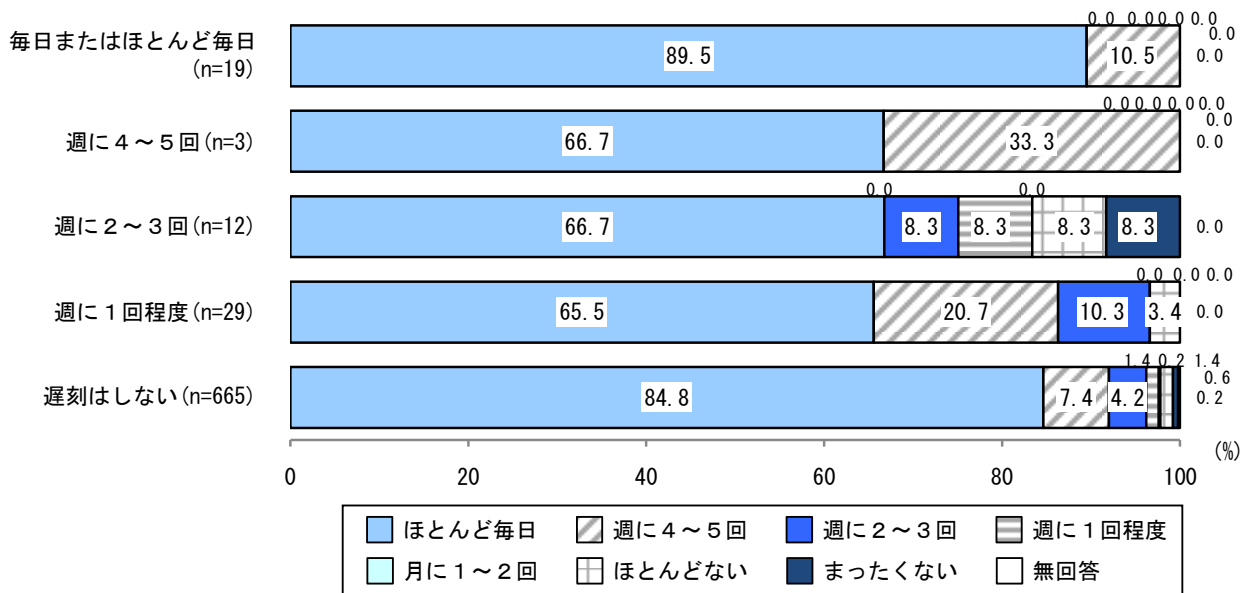
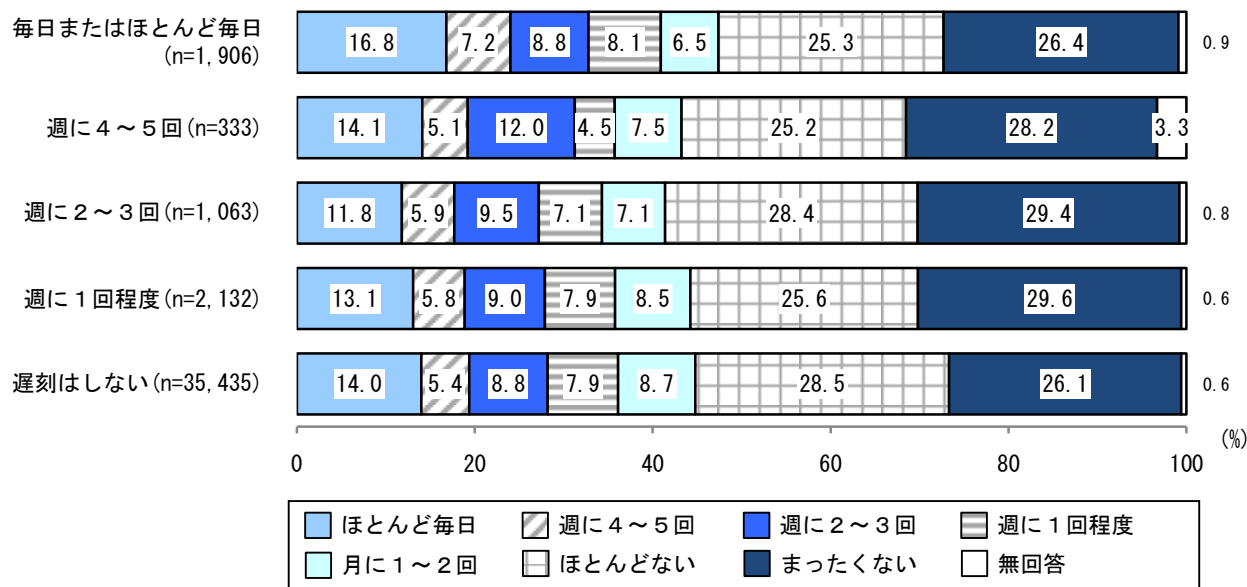


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻している子どもで89.5%と最も高く、一方で、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもで8.3%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

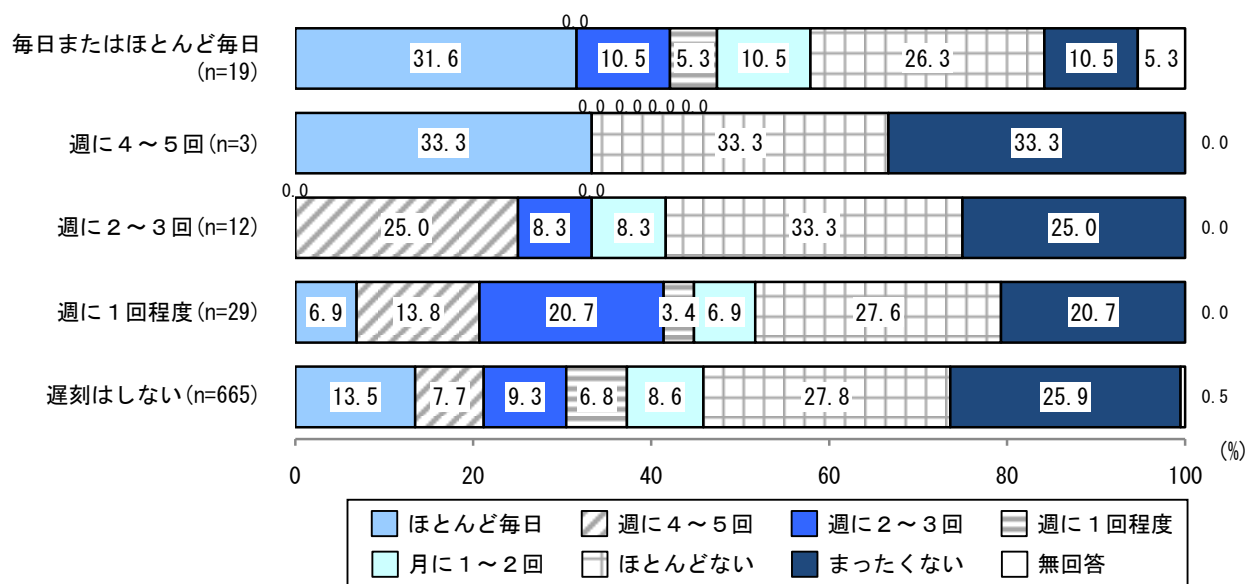
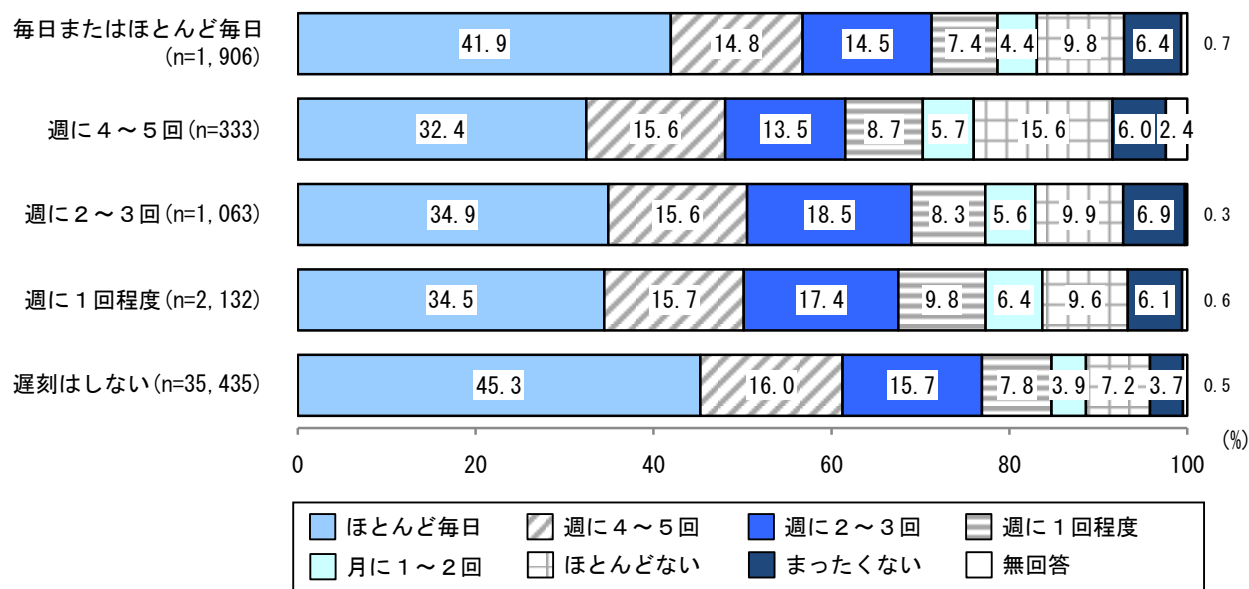


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、週に4～5回遅刻をしている子どもが33.3%で最も高く、次いで毎日またはほとんど遅刻をしている子どもが31.6%となっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

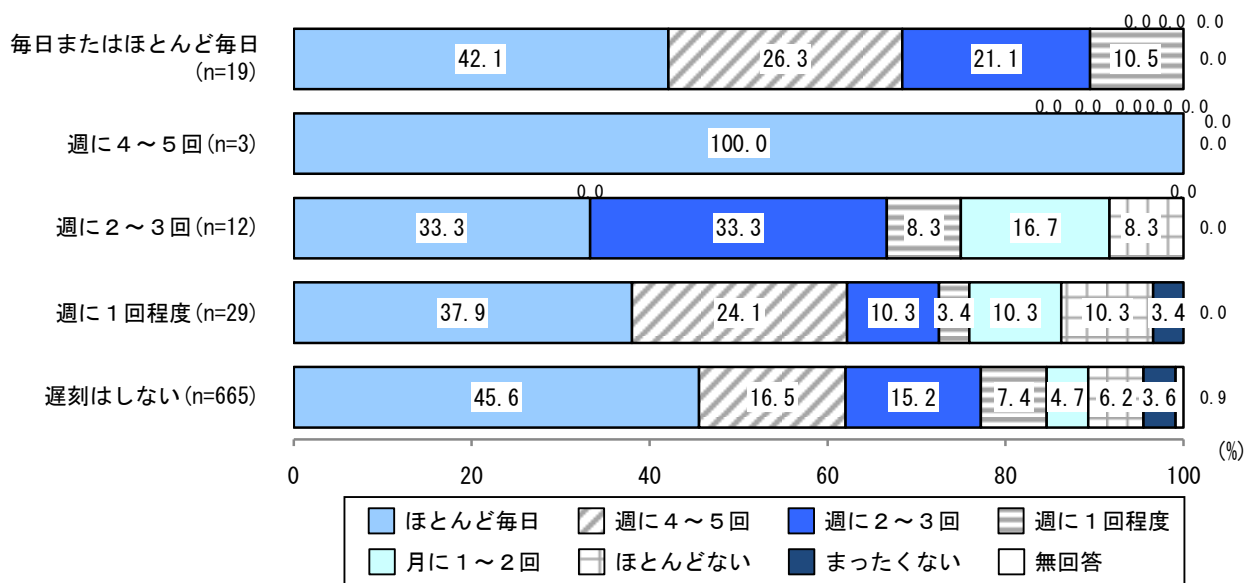
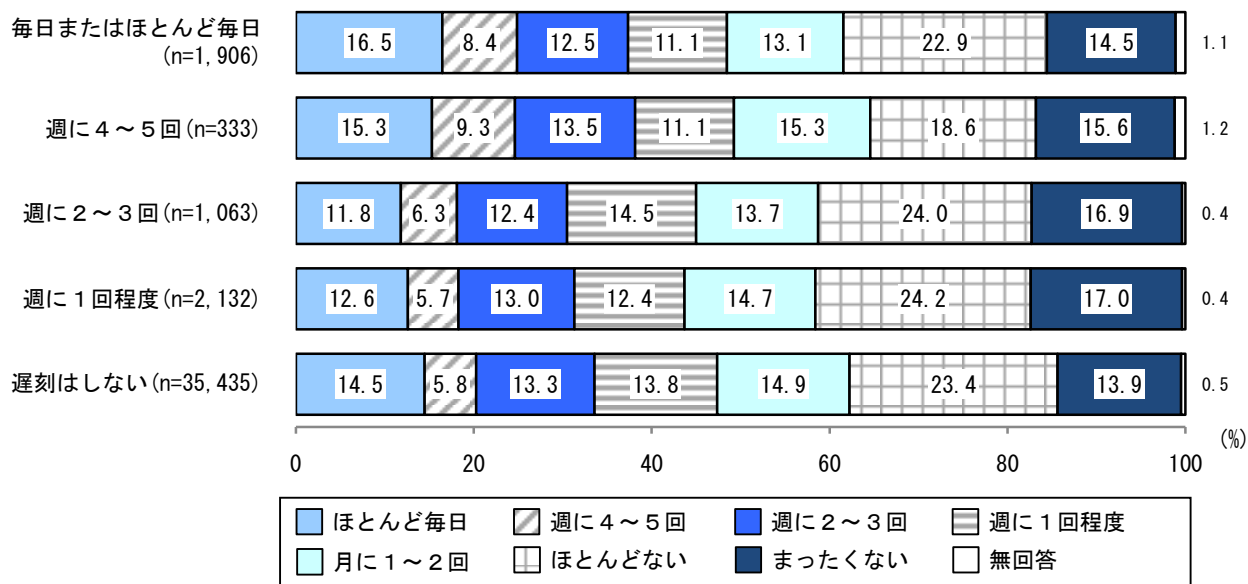


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもで100.0%と最も高く、一方で、「まったくない」は遅刻はしない子どもで3.6%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

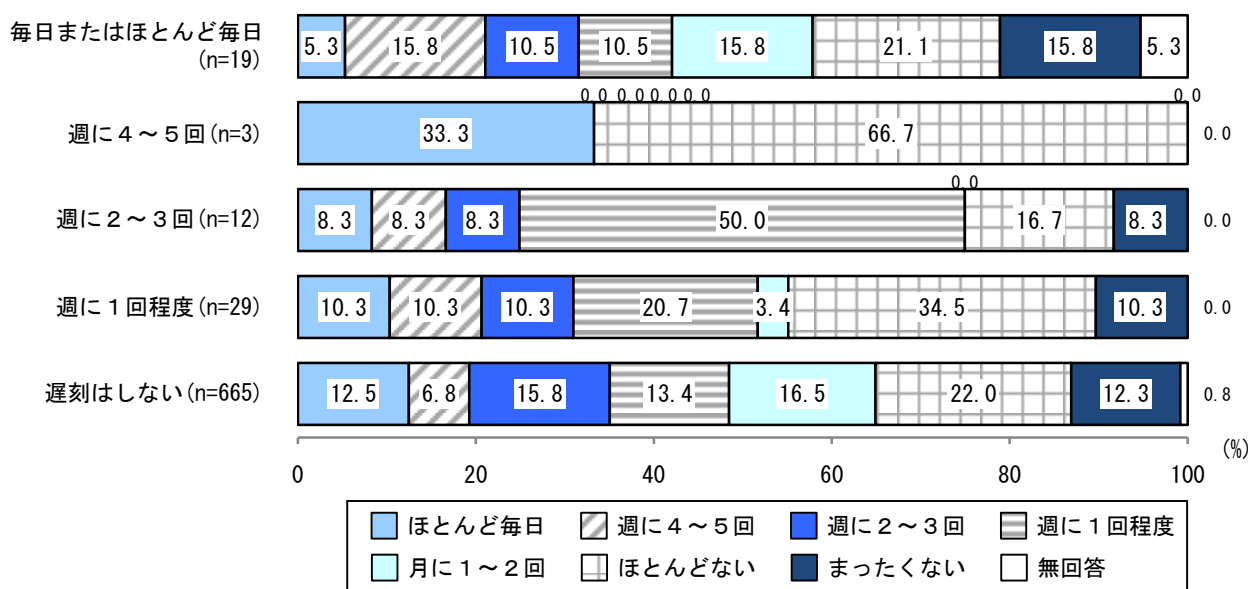
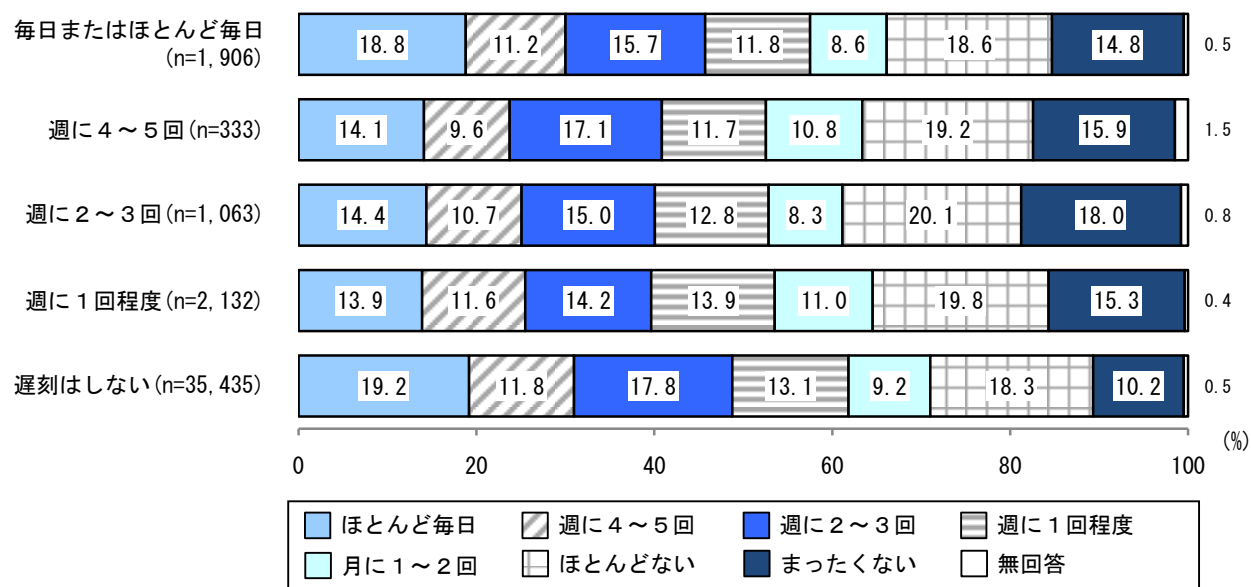


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもで33.3%と最も高く、一方で、「まったくない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもで15.8%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

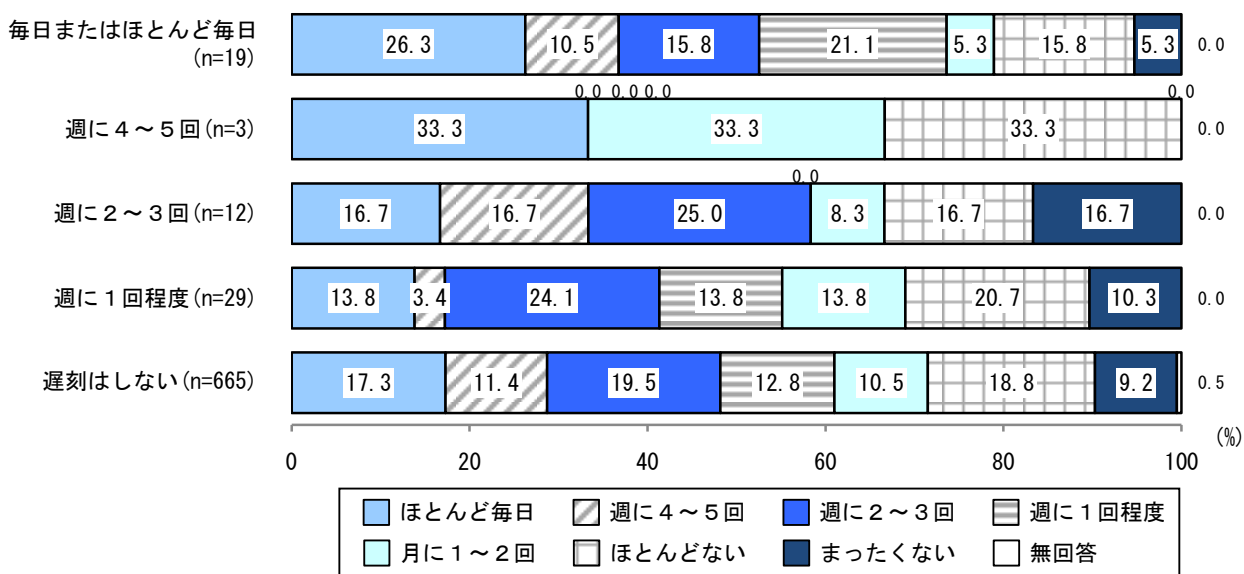
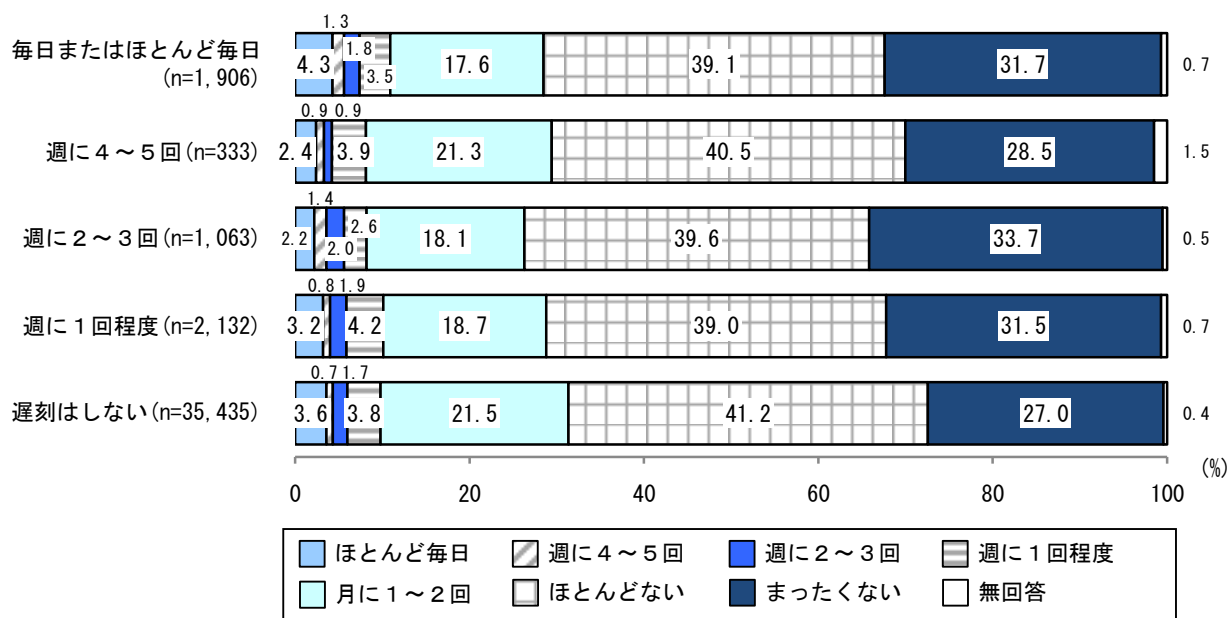


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもで33.3%と最も高く、一方で、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもで16.7%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

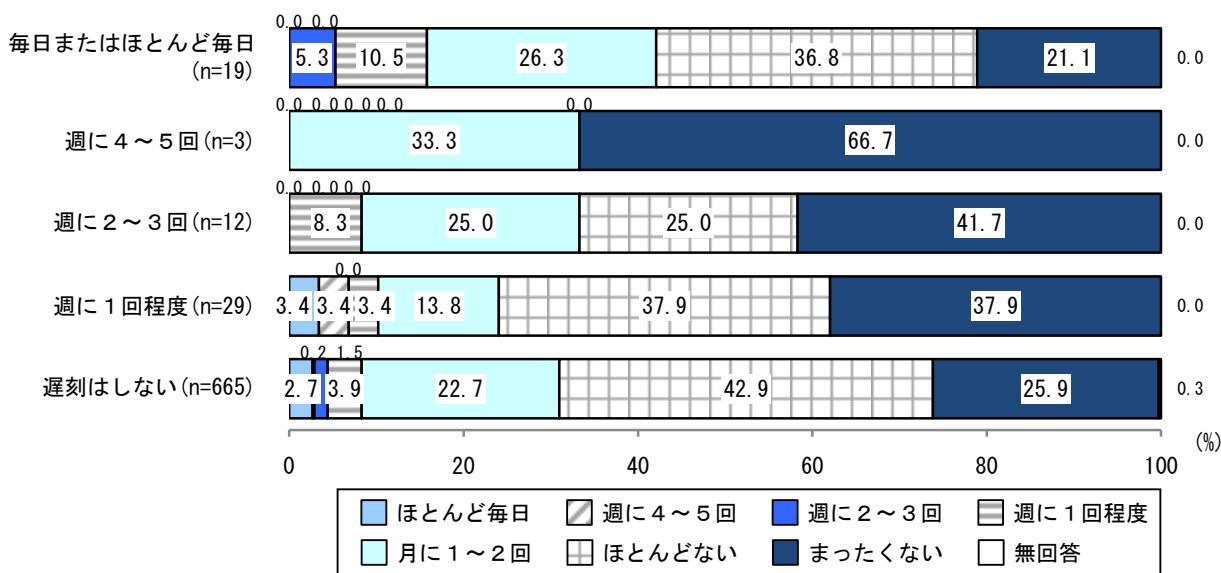
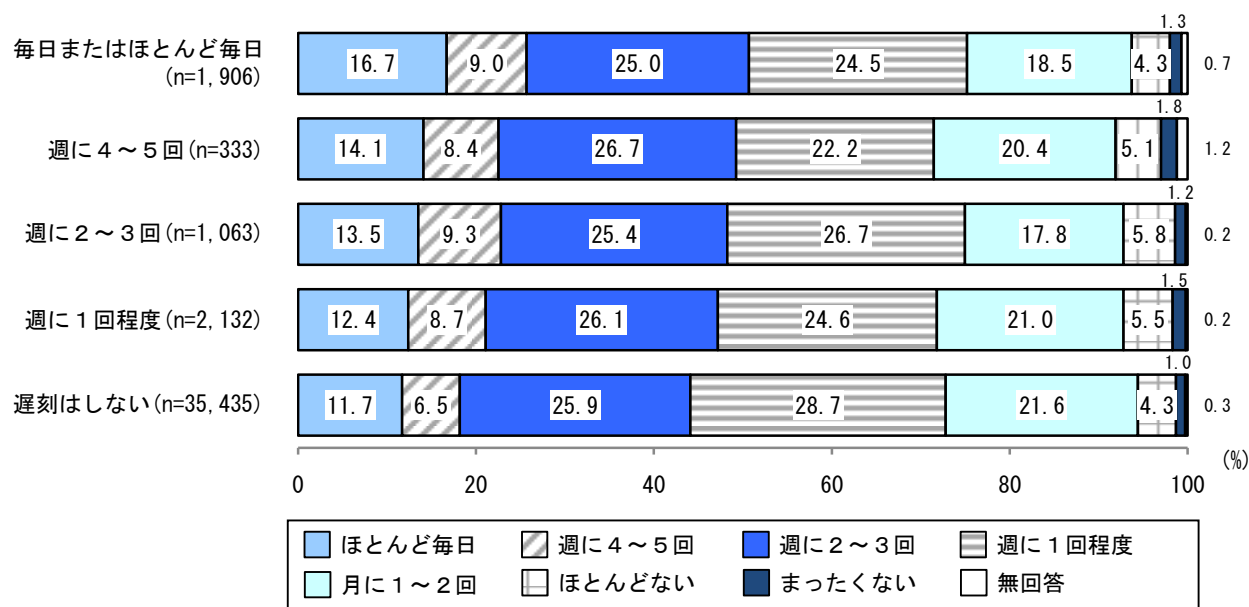


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」の割合は週に4~5回遅刻をしている子どもで66.7%で最も高く、次いで週に2~3回遅刻をしている子どもが41.7%、週に1回程度遅刻をしている子どもが37.9%と続いている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

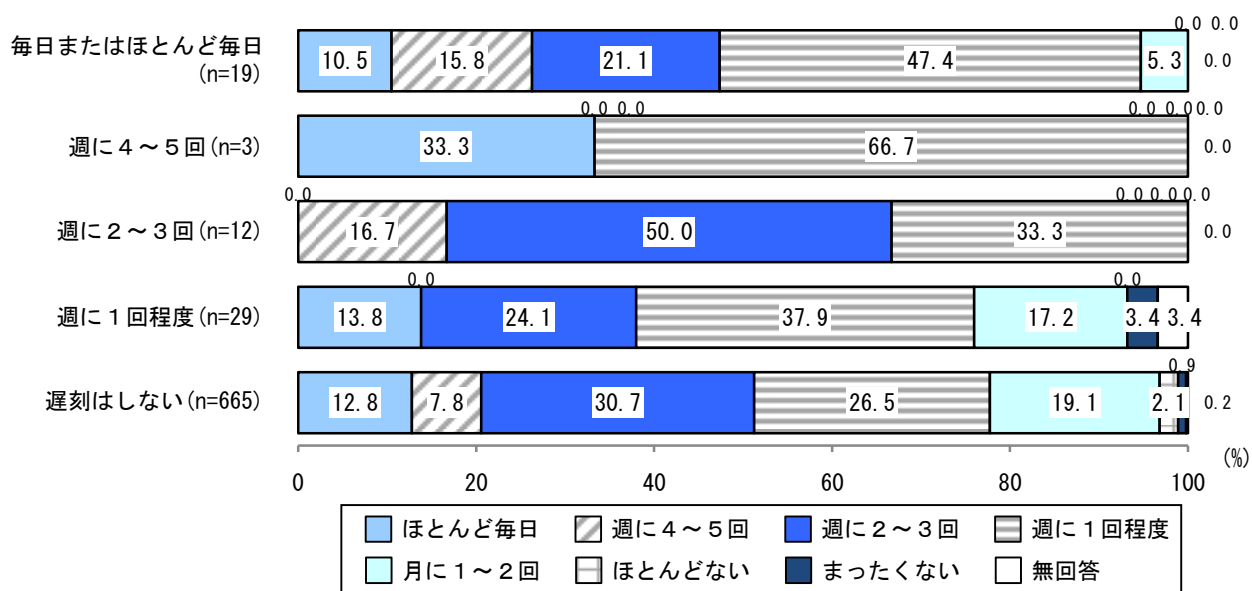
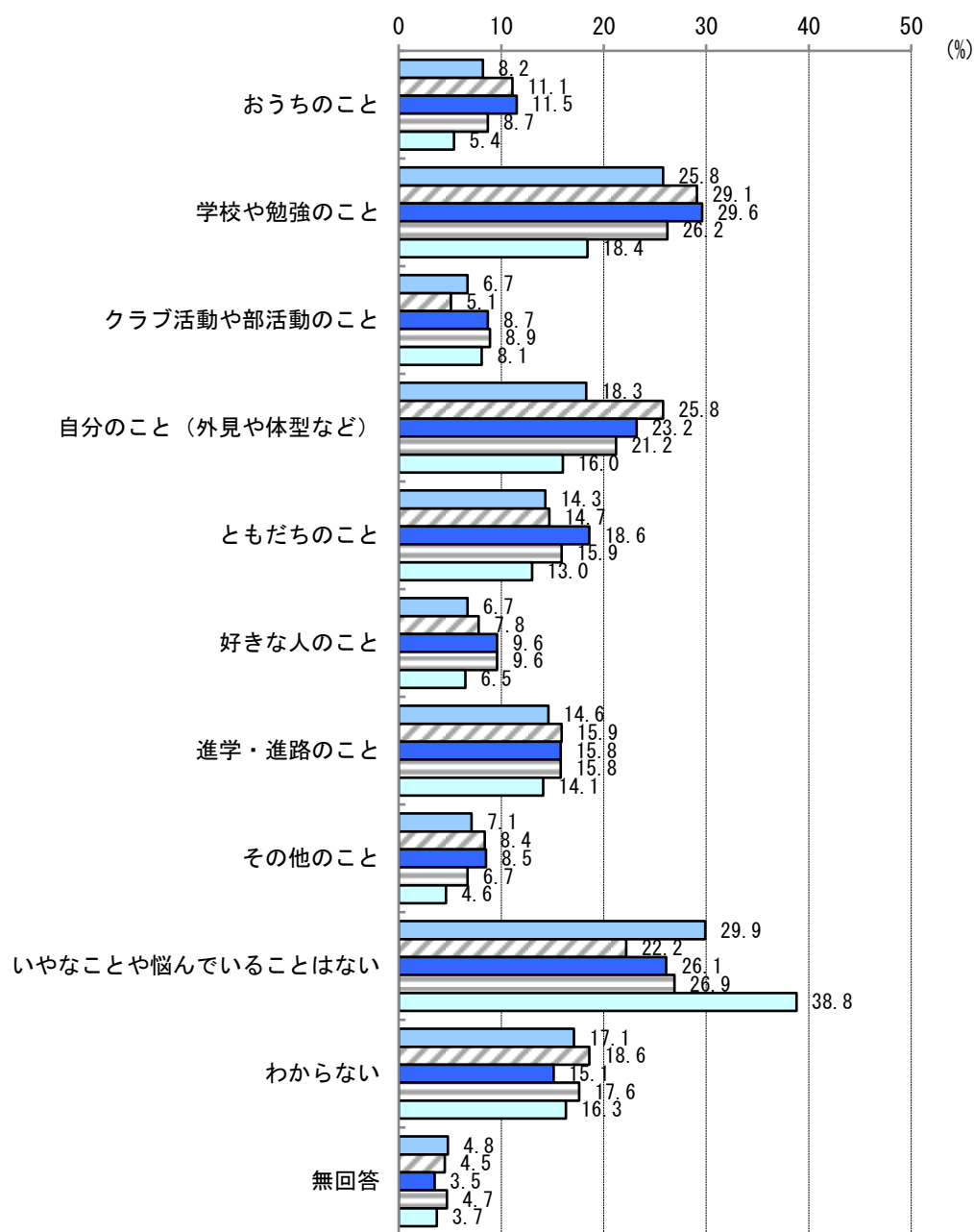


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもで33.3%と最も高く、次いで週に1回程度遅刻をしている子どもが13.8%となっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<泉佐野市>

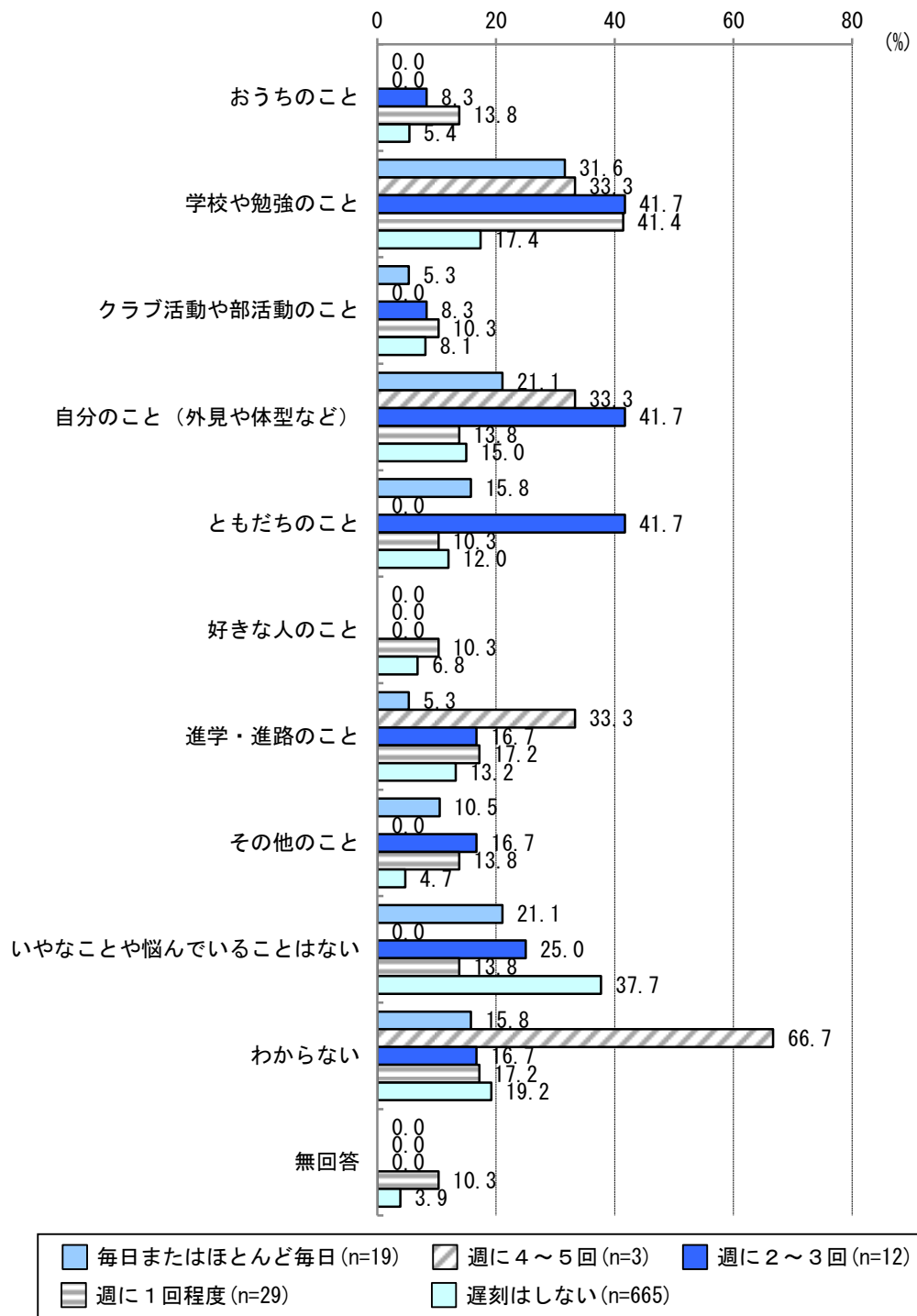
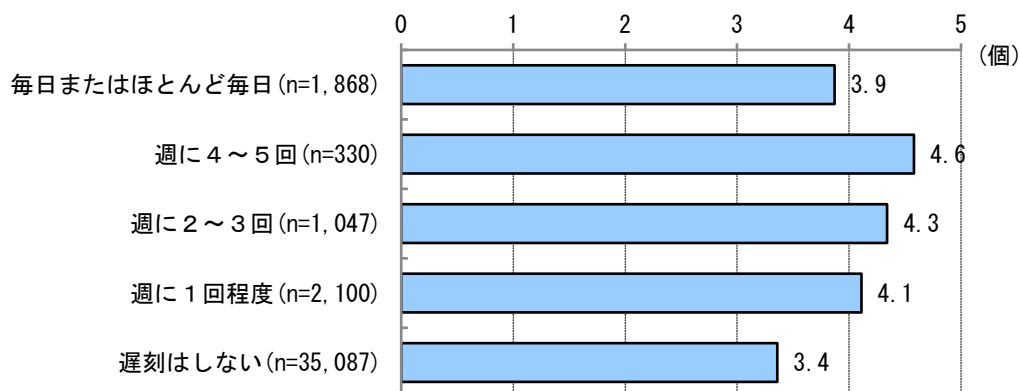


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」、「自分のこと」、「ともだちのこと」の割合は週に2～3回遅刻をしている子どもで41.7%と最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は遅刻はしない子どもで37.7%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問 7 × 保護者票問 19・20)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

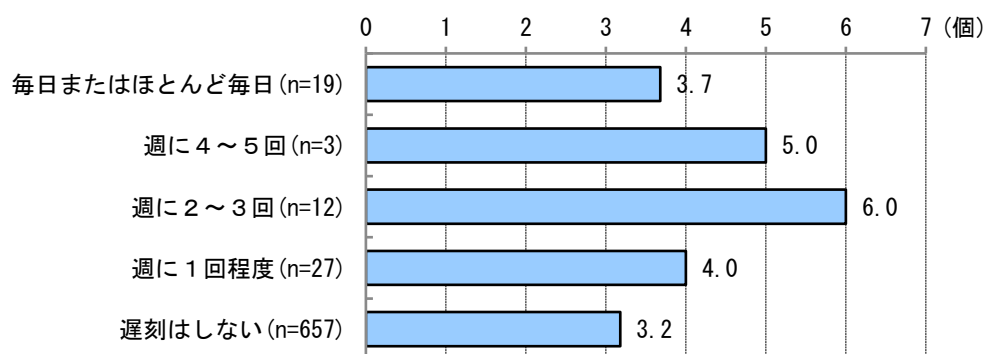
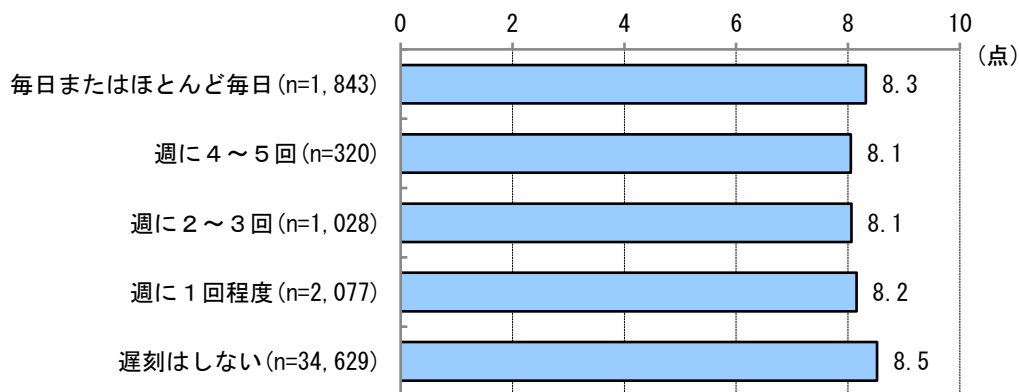


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に 2～3 回」遅刻をしている子どもが 6.0 個で最も多く、次いで「週に 4～5 回」遅刻をしている子どもが 5.0 個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

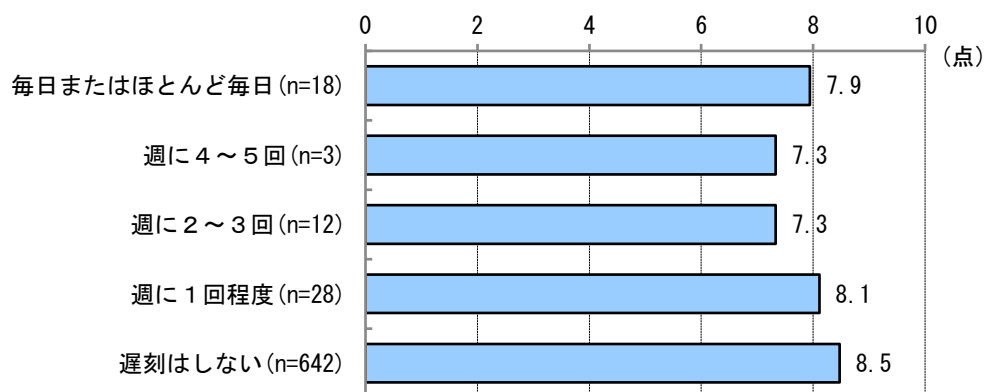
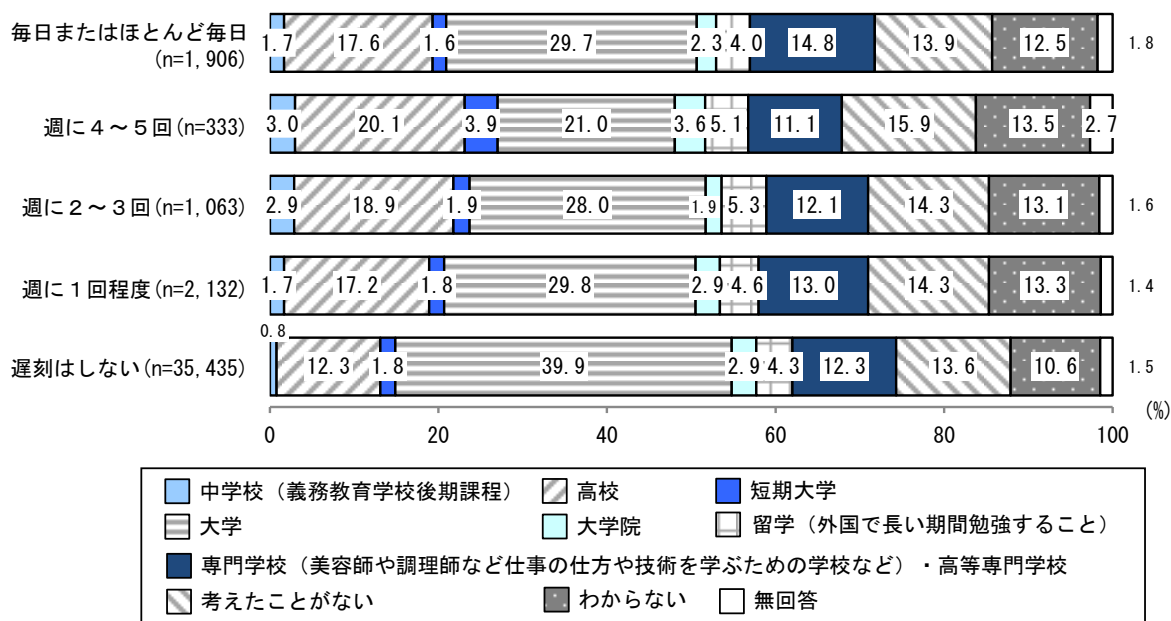


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

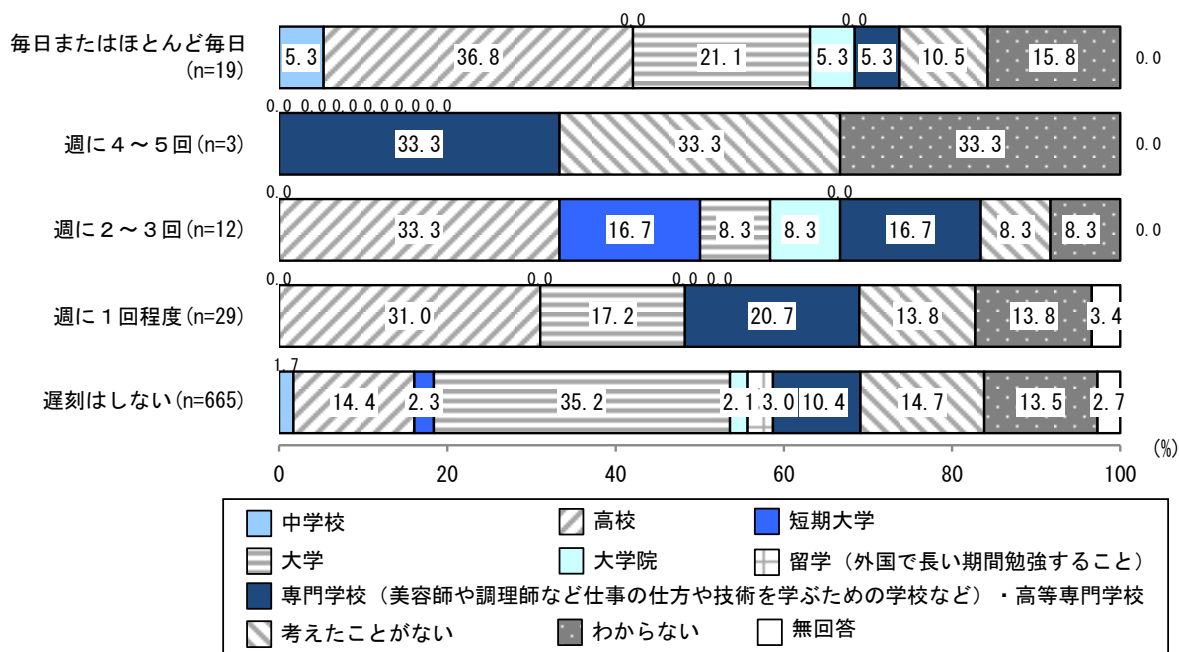
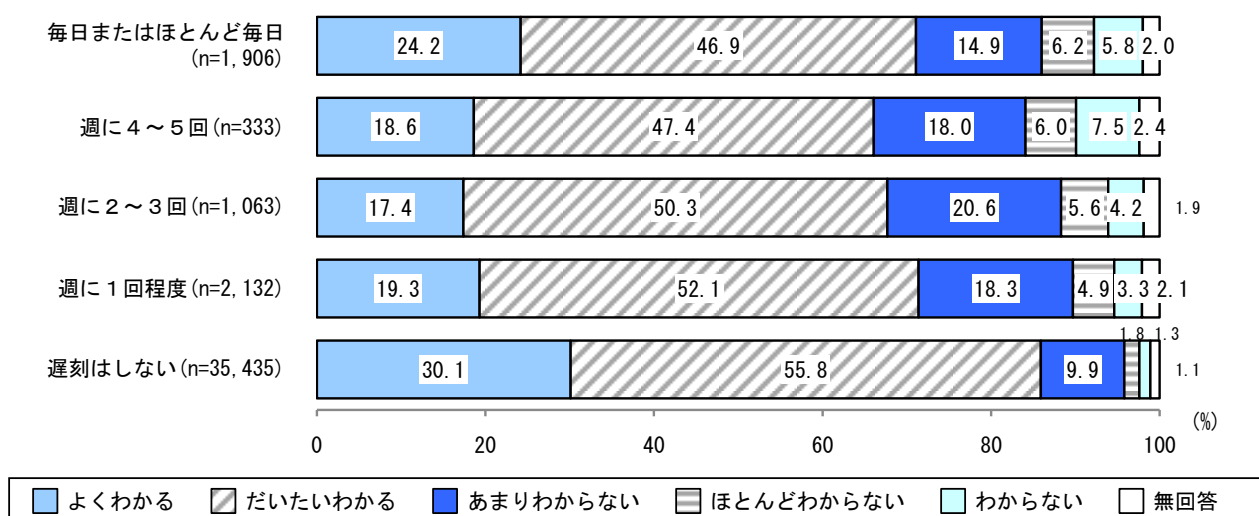


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」と回答した割合は、遅刻はしない子どもで35.2%と最も高く、次いで毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもで21.1%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

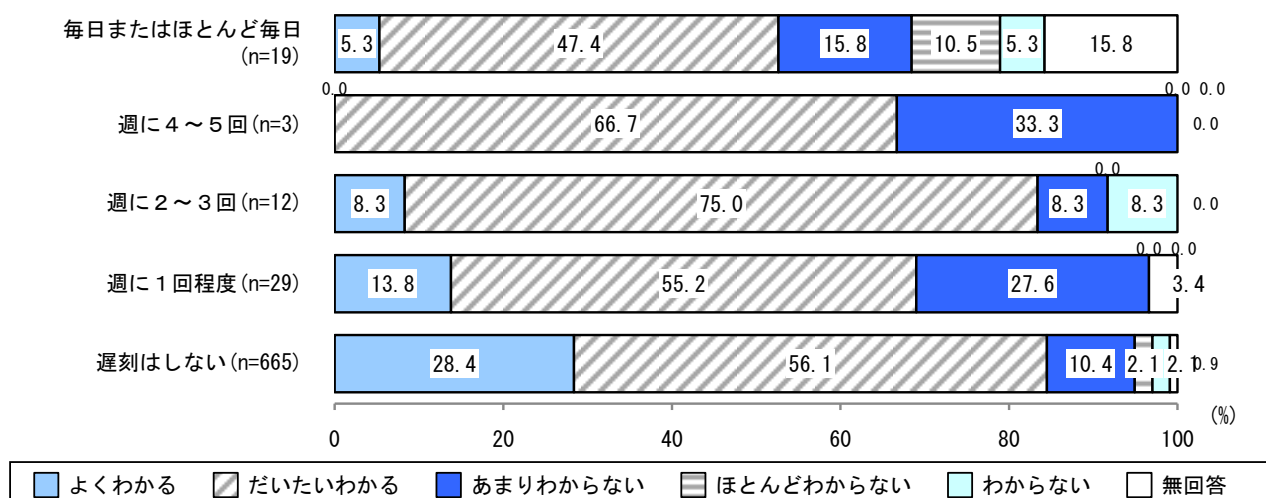
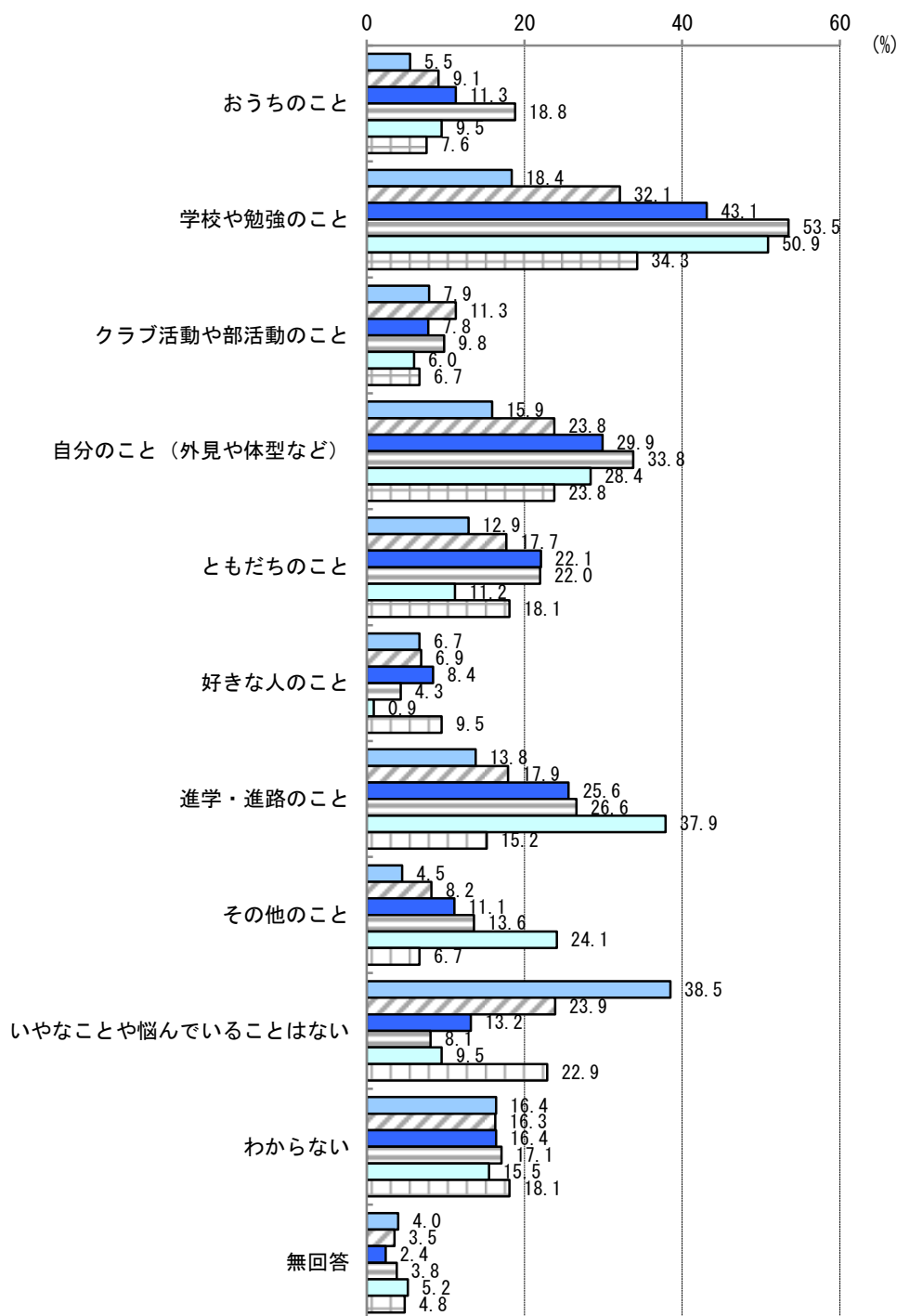


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は遅刻はしない子どもで28.4%と最も高く、次いで週に1回程度遅刻をする子どもで13.8%となっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661) ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371) ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
■ 欠席が1年以上続いている (n=116) ■ わからない (n=105)

<泉佐野市>

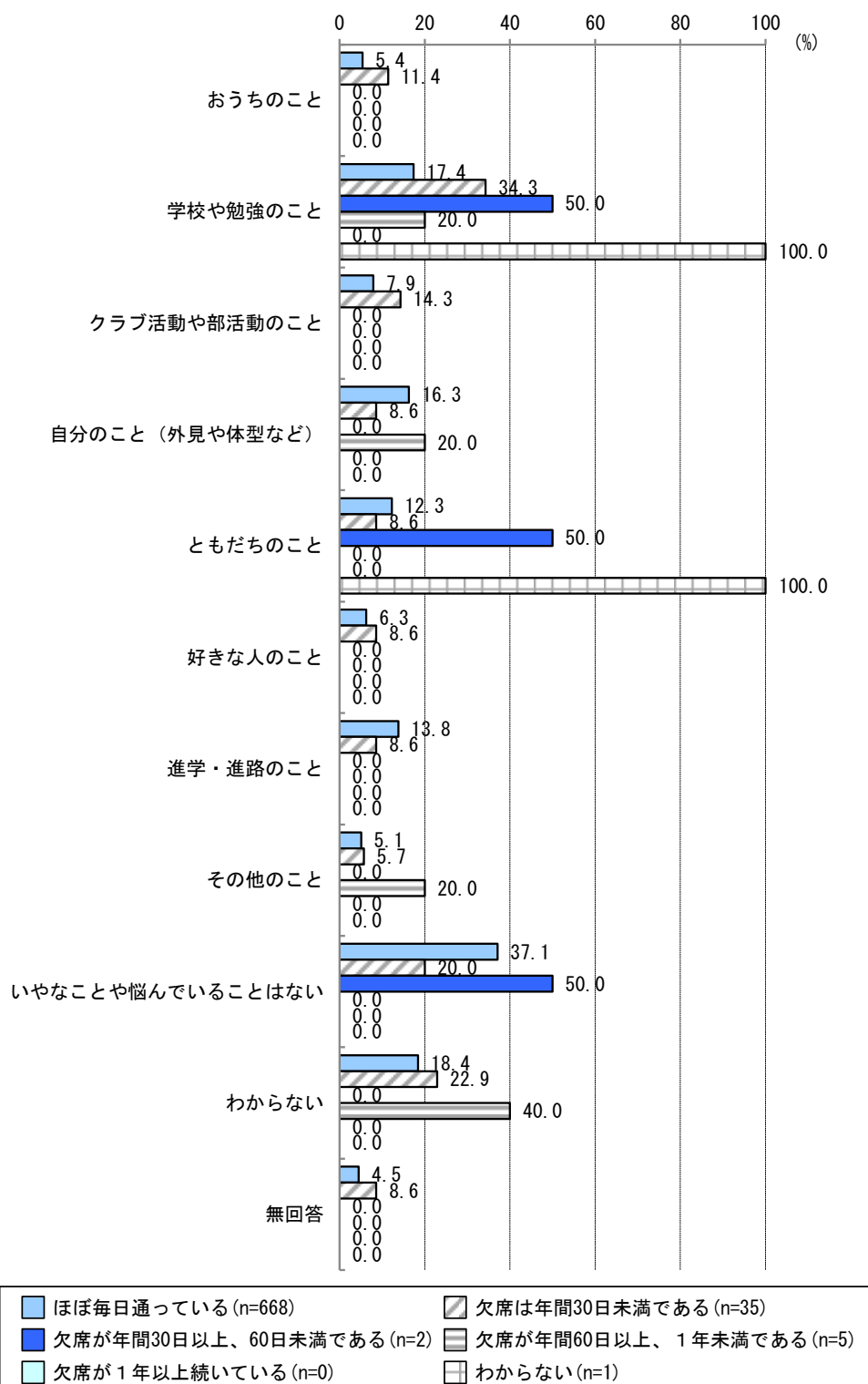
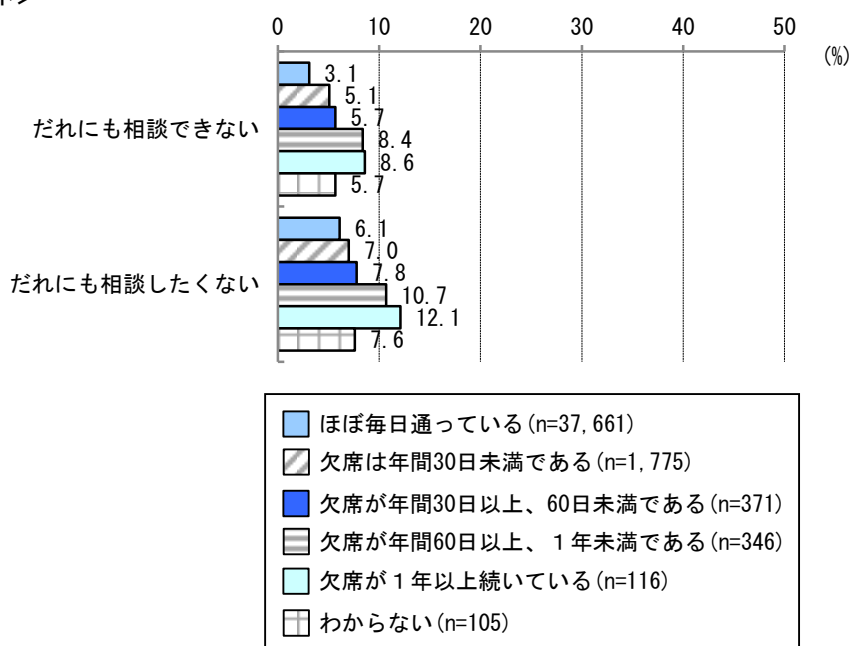


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」「ともだちのこと」「いやなことや悩んでいることはない」は欠席が年間30日以上、60日未満の子どもで50.0%と高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

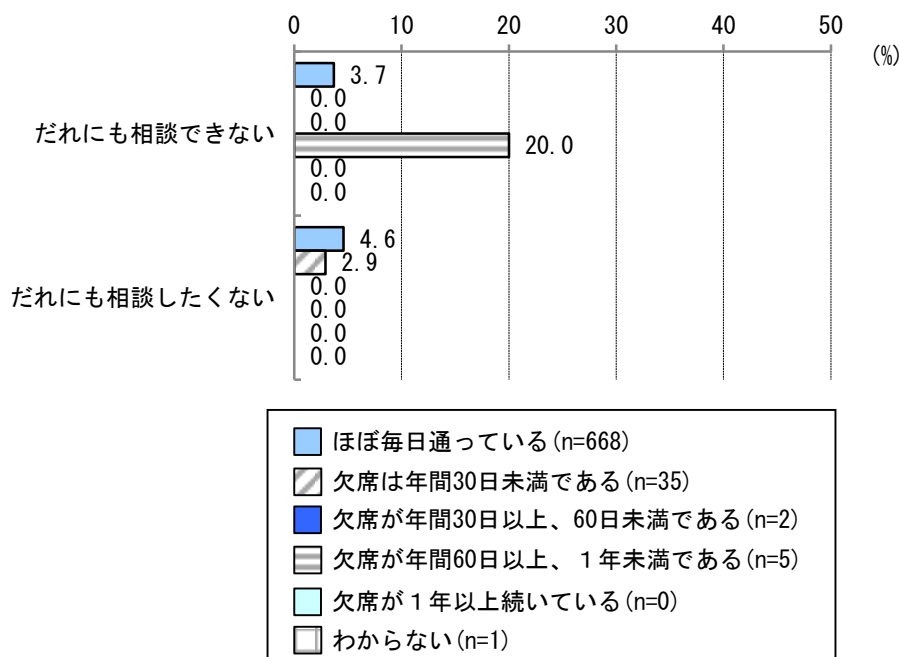
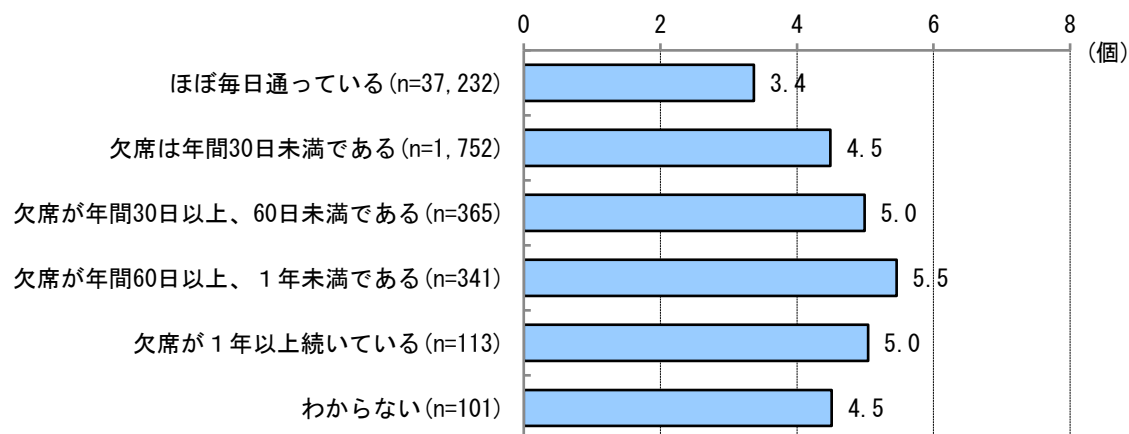


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」と回答した割合は欠席が年間60日以上、1年未満である人の割合が最も高くなっている。「だれにも相談したくない」と回答した割合はほぼ毎日通っている人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

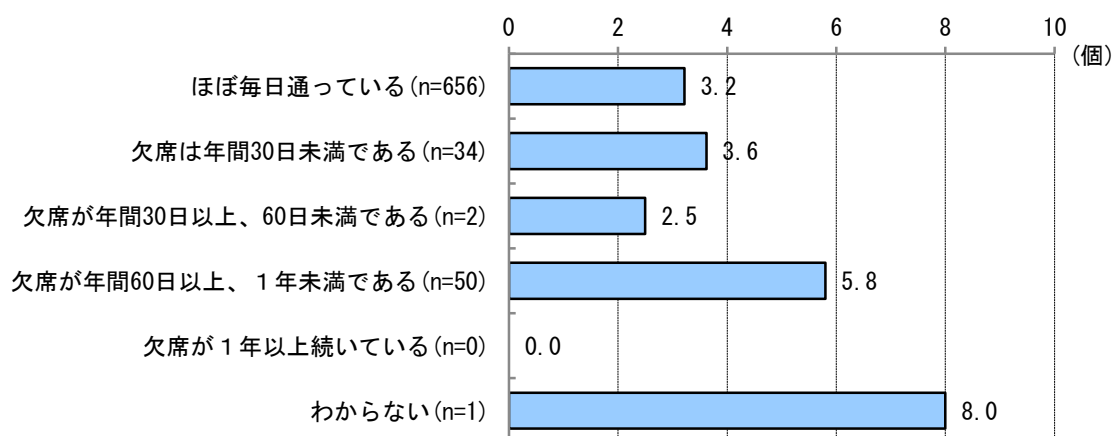
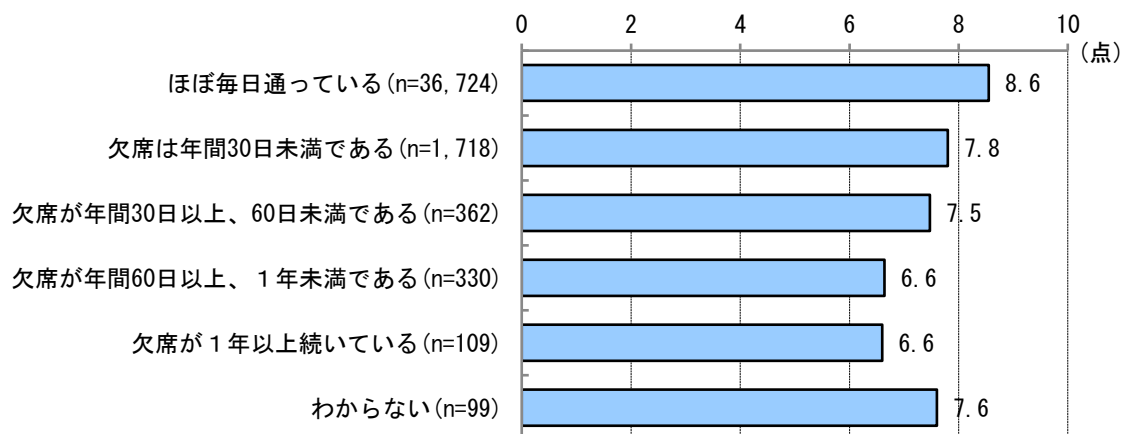


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人で5.8個と最も多く、次いで欠席は年間30日未満であると回答した人で3.6個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

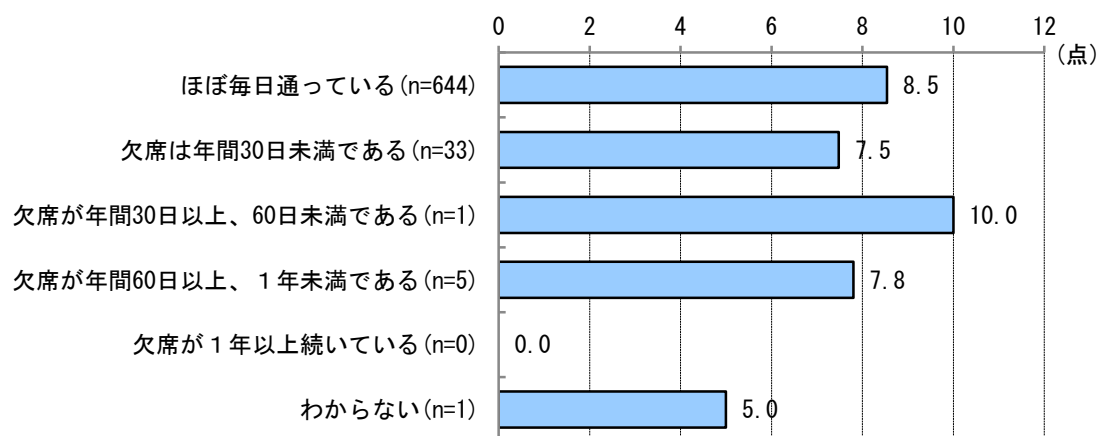
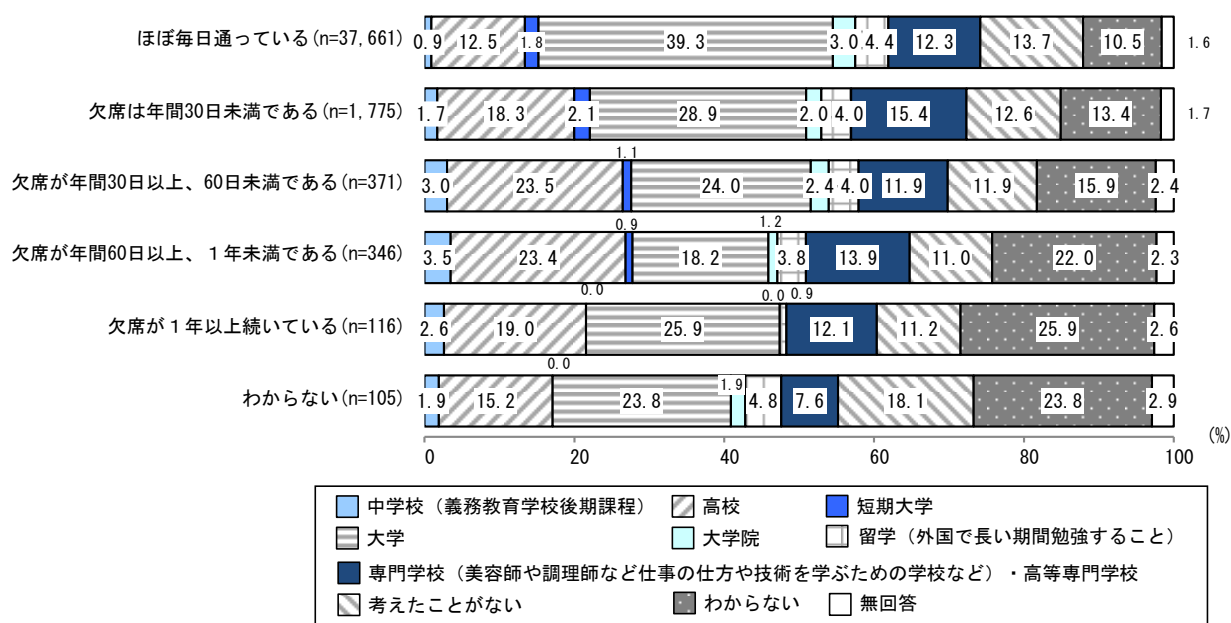


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）を見ると、欠席が年間30日以上、60日未満であると回答した人で10.0点と最も高く、次いでほぼ毎日通っていると回答した人で8.5点となっている。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

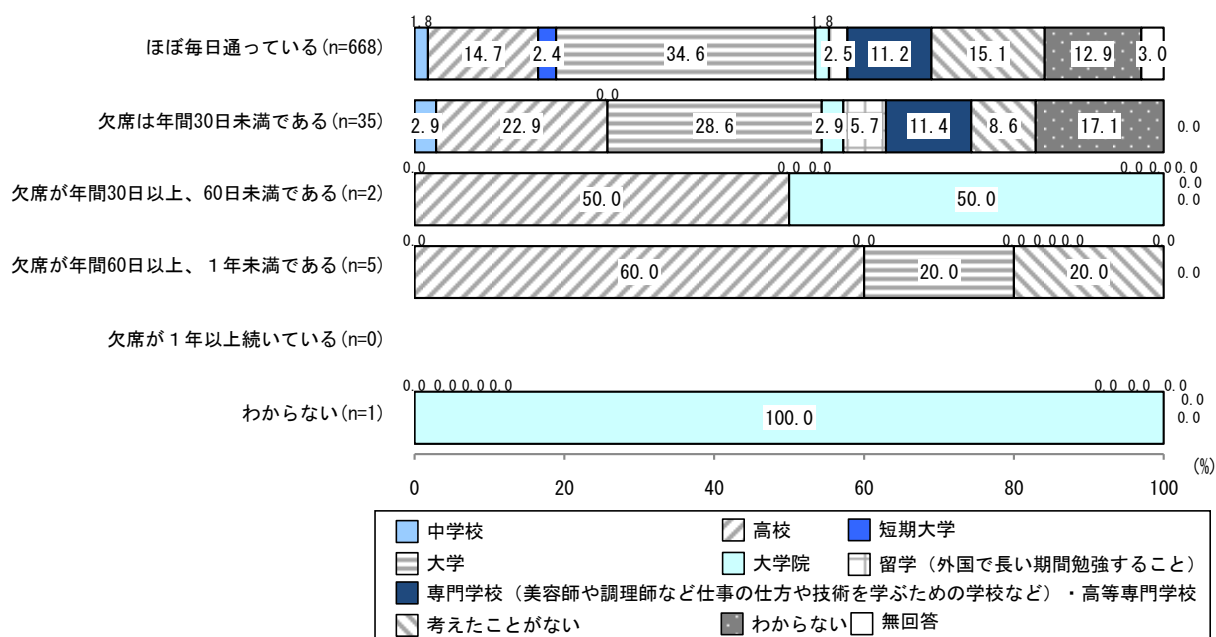
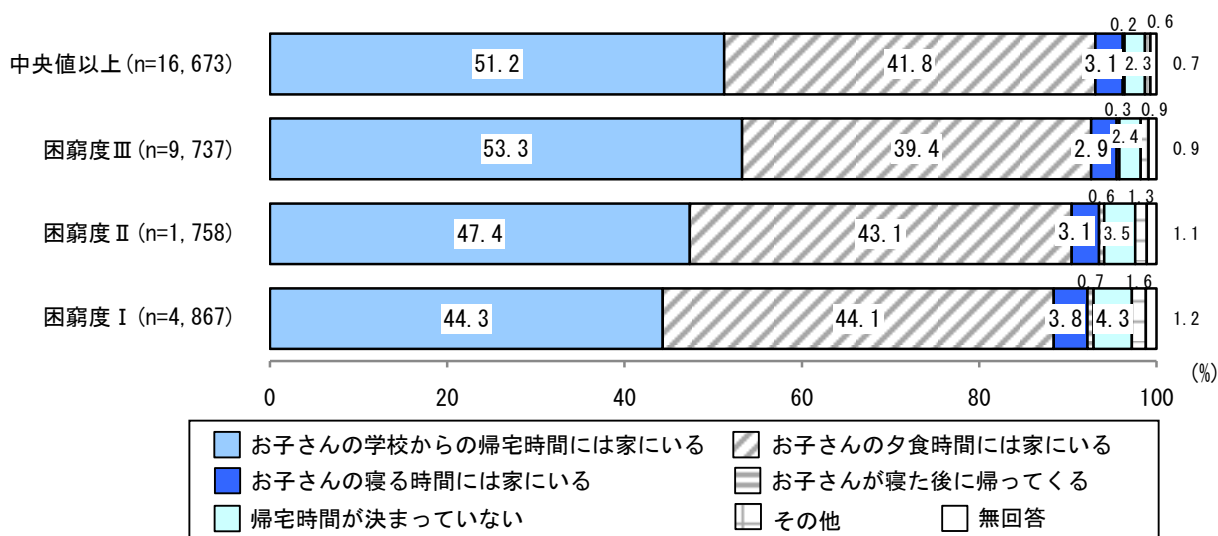


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した割合が34.6%で最も高く、「高校」は欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人の割合が60.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

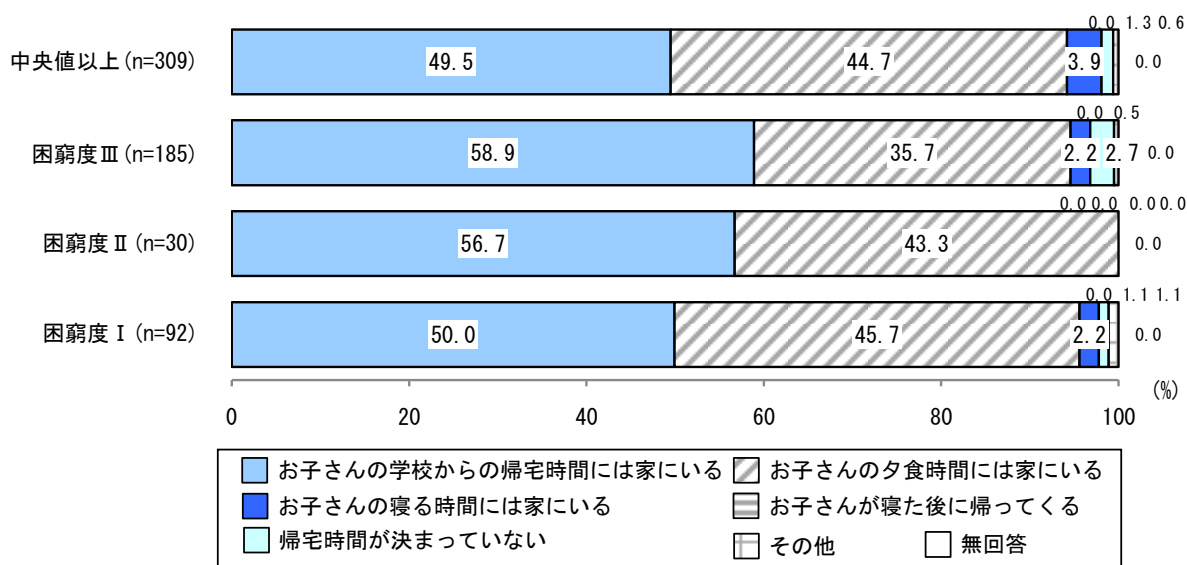
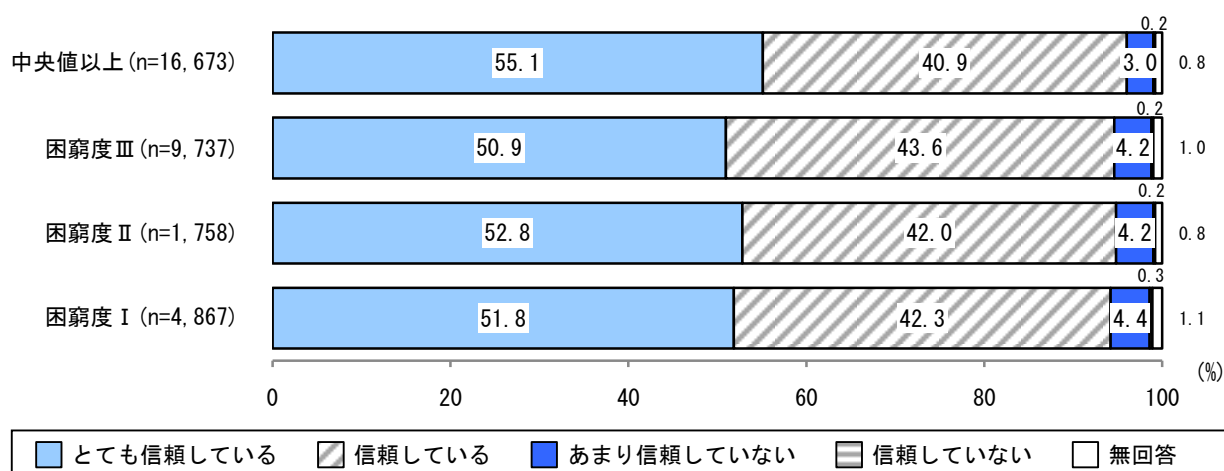


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で58.9%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

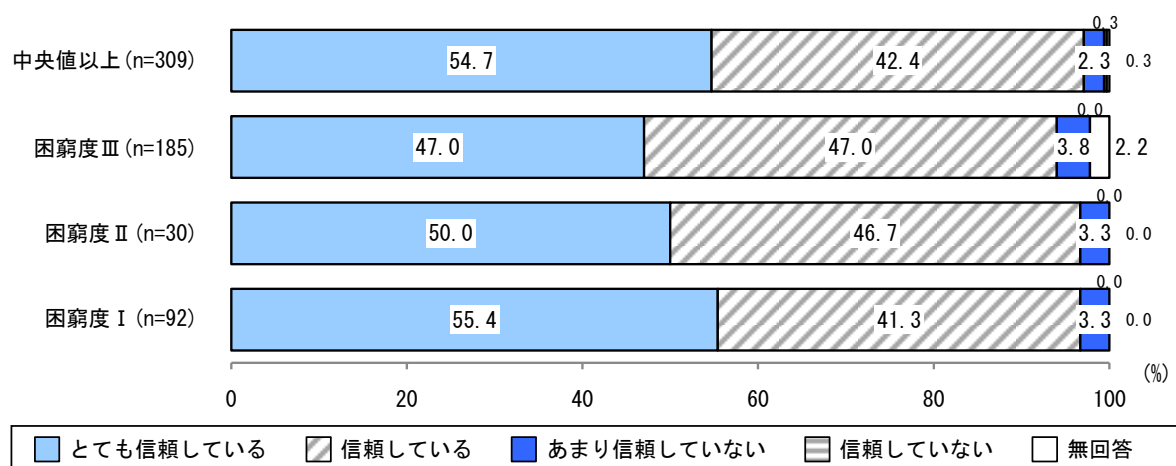
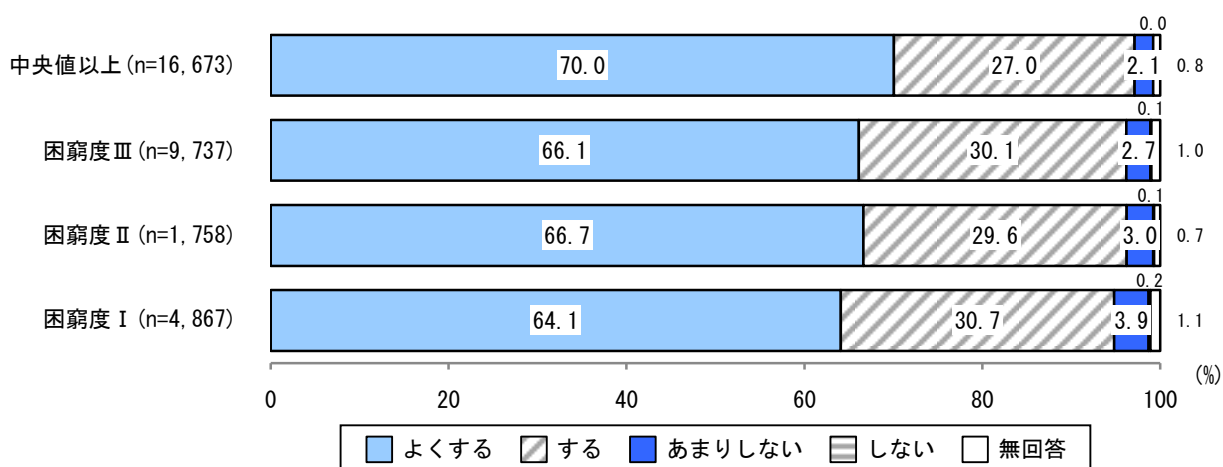


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は困窮度Ⅰ群で55.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

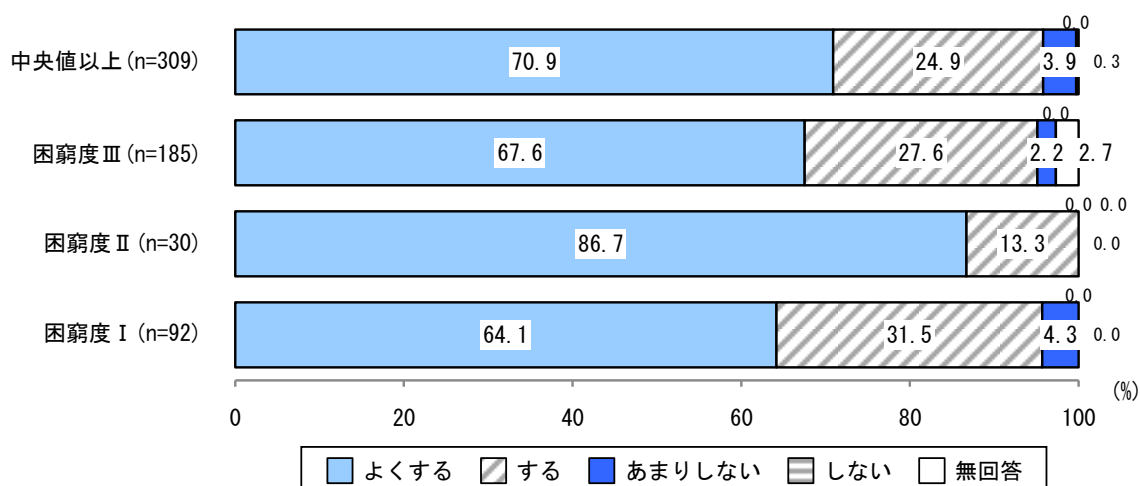
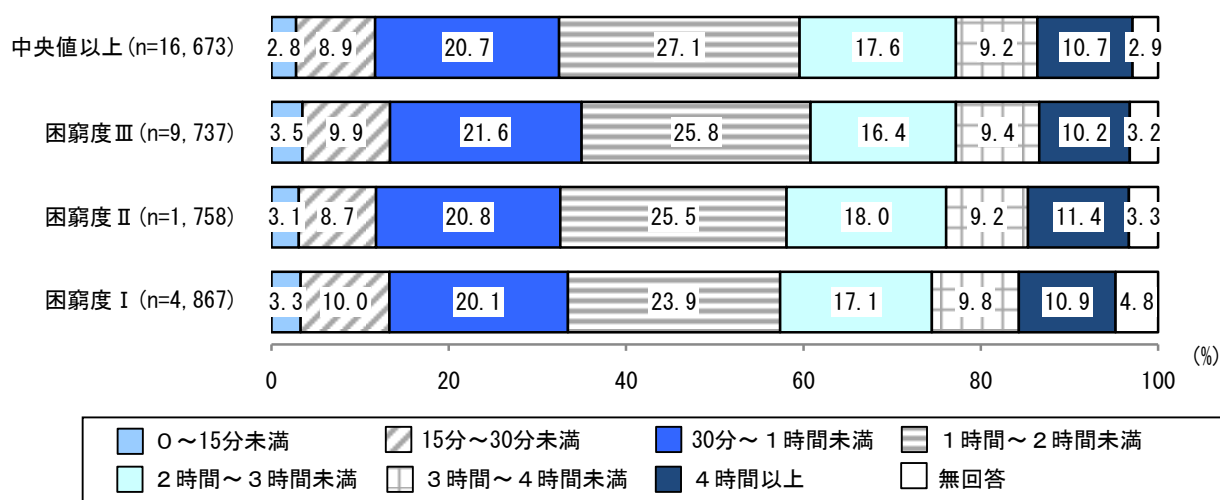


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、「よくする」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で86.7%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

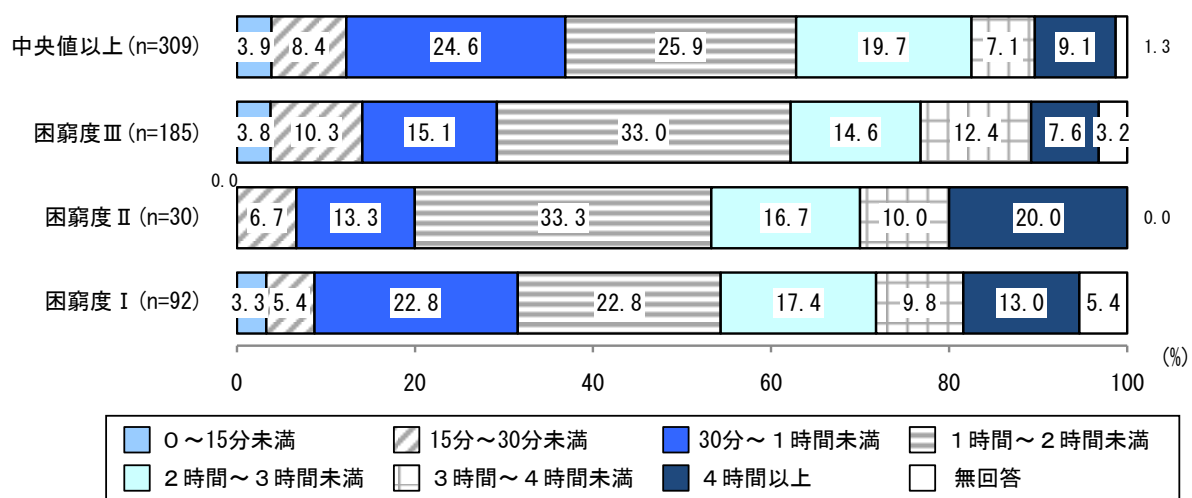
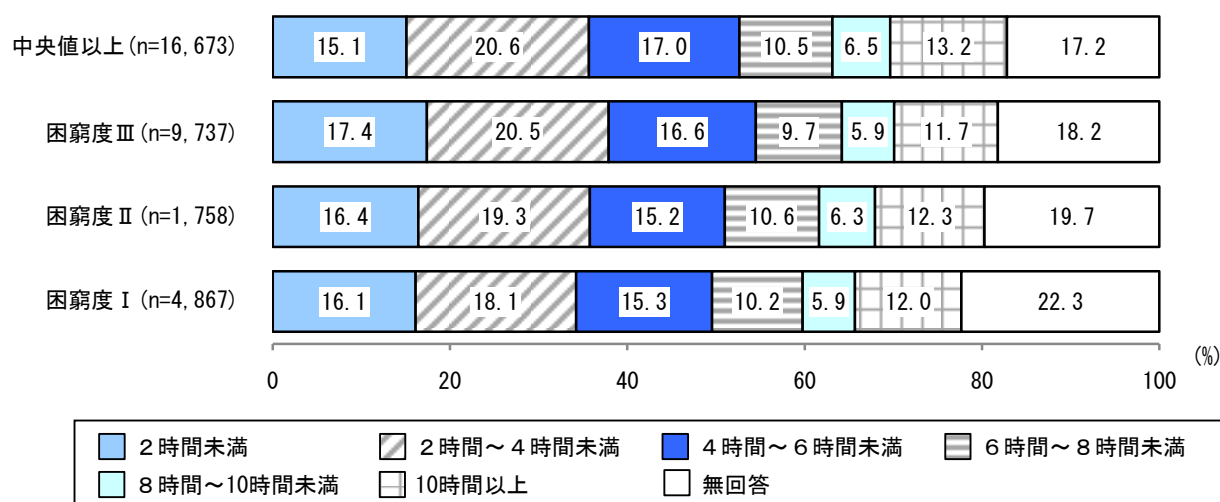


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で20.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

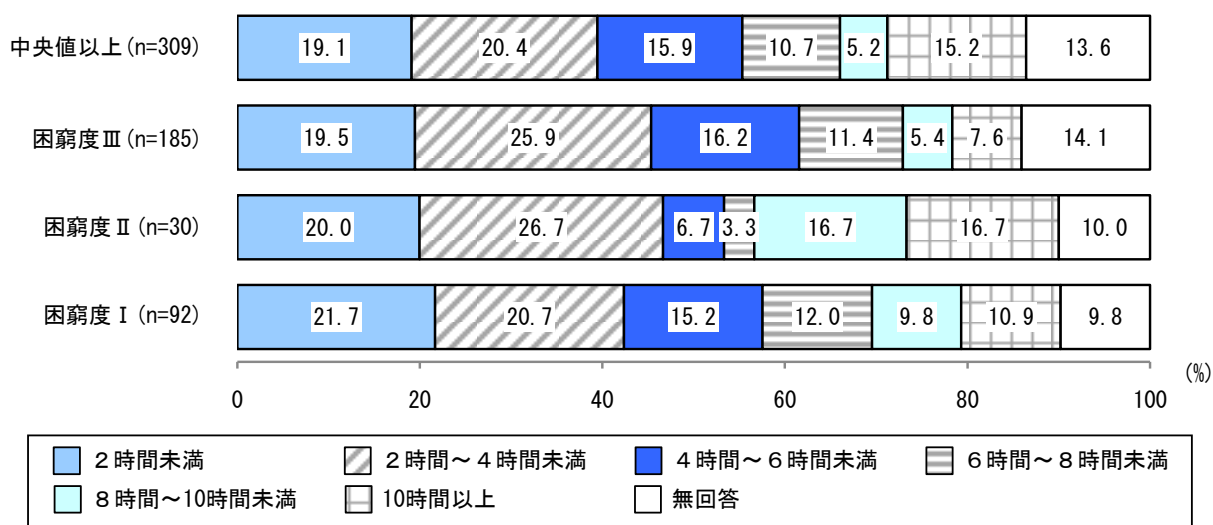
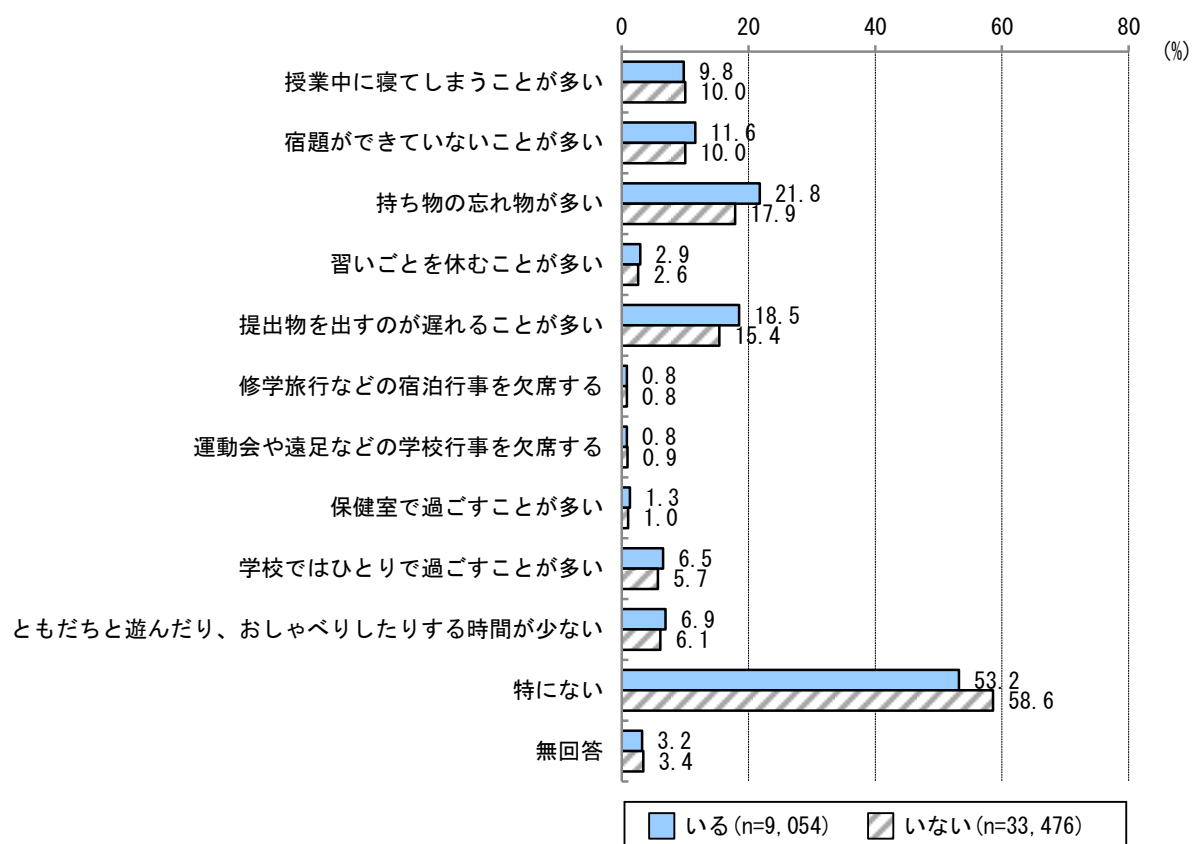


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合は困窮度Ⅰ群（21.7%）で最も高く、困窮度が高まるにつれ、「2時間未満」と回答する割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

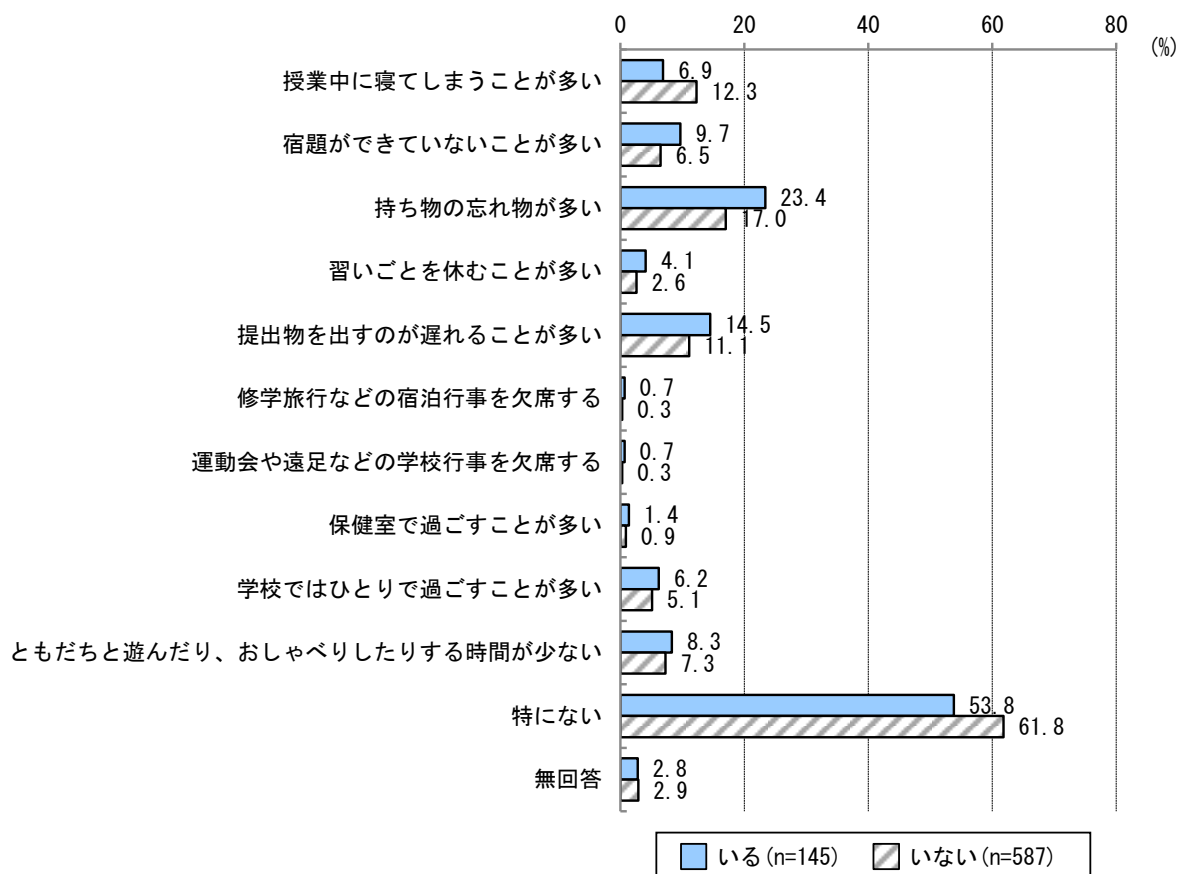
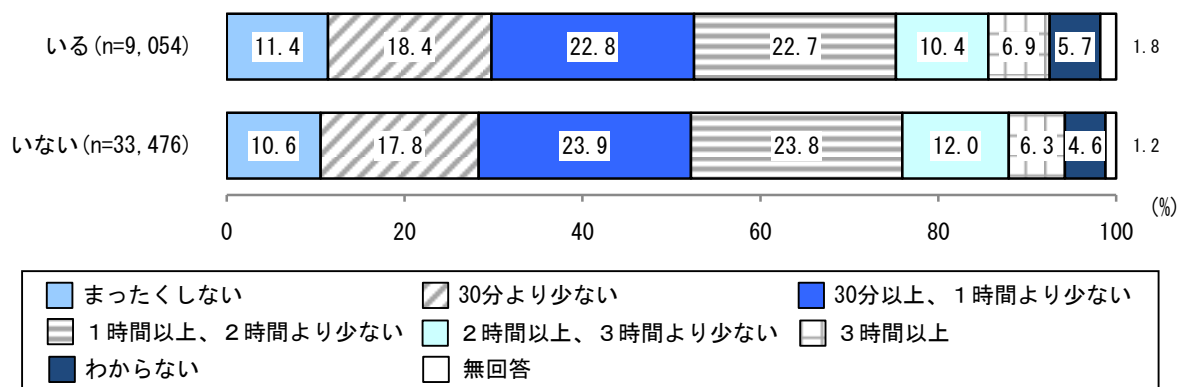


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合は、世話をしている人が「いる」割合より「いない」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

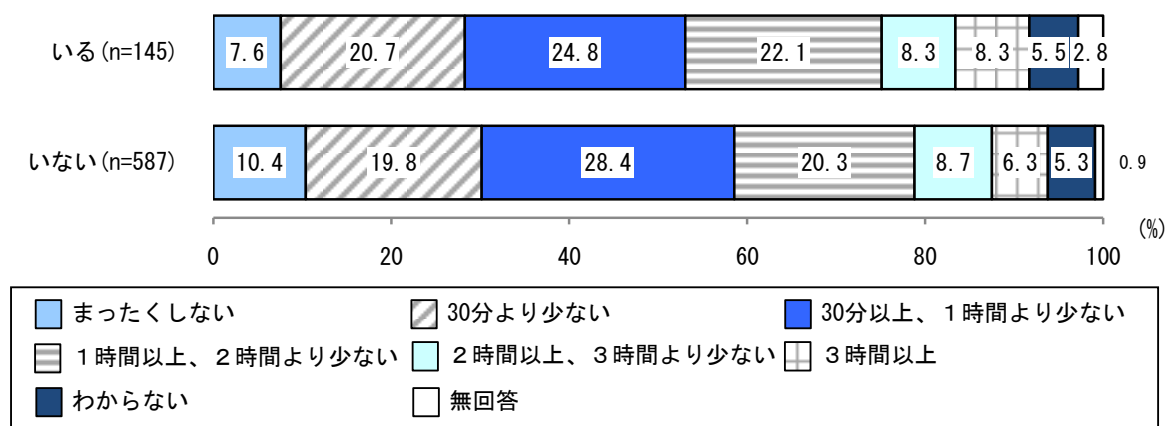
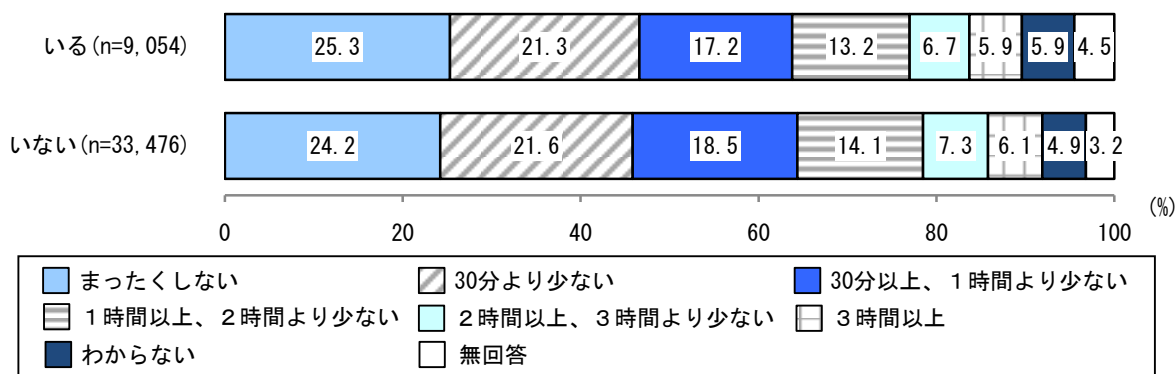


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると「まったくしない」、「30分以上、1時間より少ない」と回答した割合は、世話をしている人が「いる」人より「いない」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

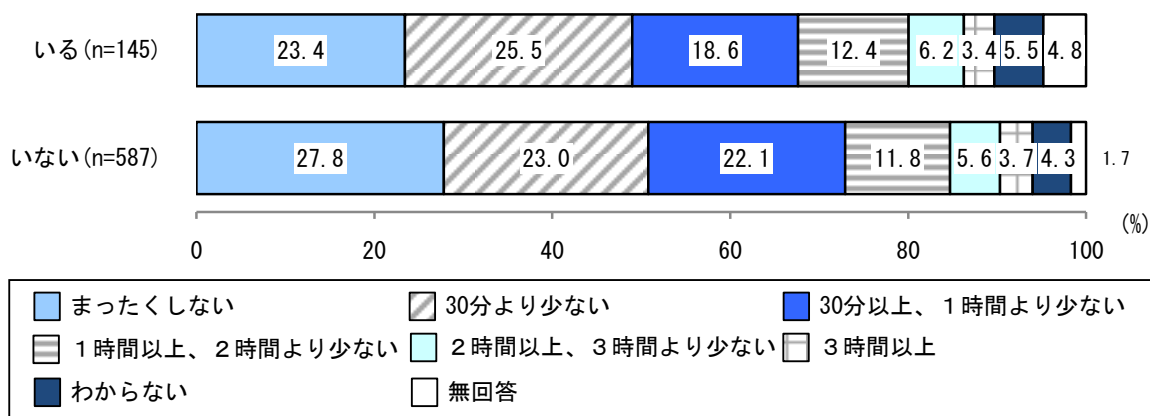


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」、「30分以上、1時間より少ない」、「3時間以上」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いる」人より「いない」人のほうが割合は高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度I群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と一緒に朝食を食べる頻度を見ると、困窮度I群は中央値以上群と比べ、「まったくない」(16.5%対9.8%)が6.7ポイント高くなっている。保護者と子どもの会話頻度を見ると、中央値以上群は困窮度I群と比べ、「よくする」(70.9%対64.1%)が6.8ポイント高くなっている。保護者が抱く子どもの将来への期待度を見ると、中央値以上群は困窮度I群と比べ、「とても期待している」(19.7%対13.0%)が6.7ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは朝食を保護者と一緒に食べる習慣がなく、会話もしなくなっている可能性が示唆された。また、経済的に困難な家庭の保護者は子どもの将来に期待を抱きにくく、経済的事情が子どもの生活状況や保護者の子どもとのかかわり方に影響している可能性がある。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもの様子との関連について確認する。「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ、「おうちの大人の人と一緒に朝食を食べている」を見ると「まったくない」(21.1%対9.9%)が11.2ポイント高くなっている。また、「悩んでいること」を見ると、「学校や勉強のこと」(31.6%対17.4%)で悩んでいる子どもが、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群では「遅刻はしない」群と比べ14.2ポイント高くなっている。一方、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりする」を見ると、「ほぼ毎日」(12.5%対5.3%)が7.2ポイント高くなっている。さらに、学校への遅刻状況は、子どもが世話をしている人の有無によって異なる傾向が見られており、世話をしている人が「いない」群は「いる」群と比べ、学校に「遅刻はしない」(90.8%対84.1%)が6.7ポイント高くなっている。これらの結果から、学校への遅刻状況は保護者との朝食習慣や活動習慣の形成に関連している可能性が示された。また、遅刻頻度が多い場合、学校生活や授業のことについて悩みを抱えやすい可能性が考えられる。加えて、家に世話をしている人がいると、子ども自身の支度だけでなく、世話をする時間も必要になるため、結果として遅刻に影響している可能性がある。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や学習理解度、進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度I群の間の差に着目して述べる。学校がある日の勉強時間を見ると、困窮度I群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」(17.7%対7.3%)が10.4ポイント、学校がない日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(41.8%対22.3%)が19.5ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、困窮度I群は中央値以上群と比べ、「ほとんどわからない」と「わからない」の合計(8.9%対2.7%)が6.2ポイント高くなっている。文化活動では、困窮度I群は中央値以上群と比べ、おうちの大人の人と文化活動をする頻度を見ると「まったくない」(39.2%対25.1%)が14.1ポイント、授業以外の読書時間を見ると「まったくしない」(63.3%対44.9%)が18.4ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、中央値以上群は困窮度I群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「大学」(42.9%対25.3%)が17.6ポイント、保護者の希望する進学先で「大学」(64.7%対42.4%)が22.3ポイント高くなっており、大きな開きがある。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、学習習慣や読書習慣、家庭内での文化活動の習慣がなく、結果として学習理解が不十分になっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の進学先を希望しておらず、これは家庭の経済的事情や子どもの学習理解の低さが関係している可能性があると考えられる。

最後に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性別の学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」

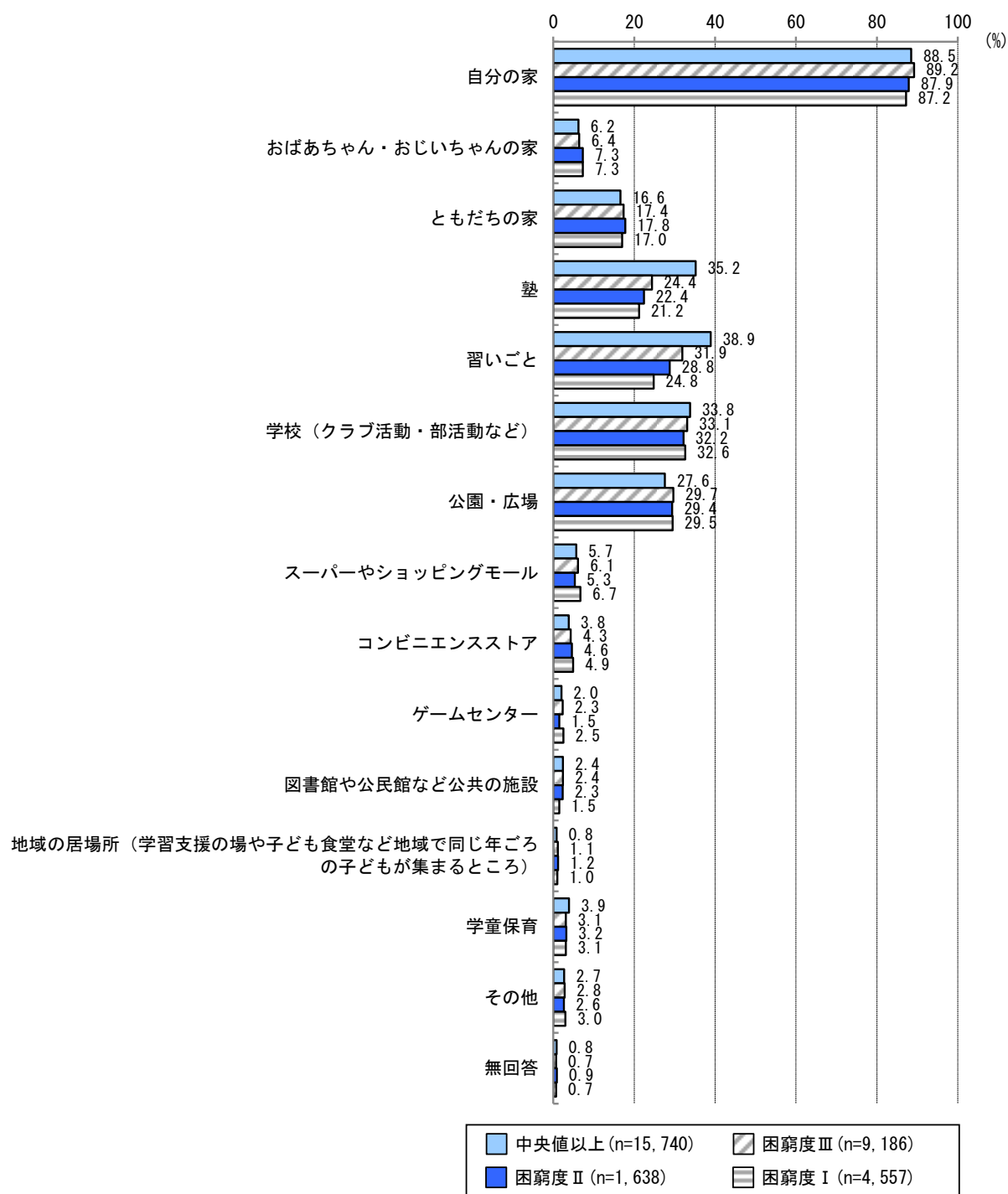
群と比べ、学校がある日の勉強時間において、「まったくしない」と「30分より少ない」の合計（63.7%対26.3%）が37.4ポイント、学校がない日の勉強時間において「まったくしない」と「30分より少ない」の合計（72.7%対47.8%）が24.9ポイント、授業以外の読書時間において「まったくしない」と「30分より少ない」の合計（91.0%対74.4%）が16.6ポイント高くなっている。朝食の頻度別に見ると、朝食を「食べない」群は「毎日またはほとんど毎日」食べる群に比べ、学校がある日の勉強時間において「まったくしない」（23.8%対8.7%）が15.1ポイント、学校がない日の勉強時間において「まったくしない」（42.9%対25.3%）が17.6ポイント、授業以外の読書時間において「まったくしない」（61.9%対49.2%）が12.7ポイント高くなっている。学校への遅刻の頻度別の学習理解度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻しない」群に比べ、学習理解度において「ほとんどわからない」と「わからない」の合計（15.8%対4.2%）が11.6ポイント高くなっている。これらの結果から、起床時間が定まっていないことや朝食を食べる習慣がないことは、学習習慣や読書習慣の形成に影響を与えている可能性が示唆された。また、そのような朝の習慣が身についていないことは遅刻につながり、ひいては学習理解に影響している可能性があると考えられる。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

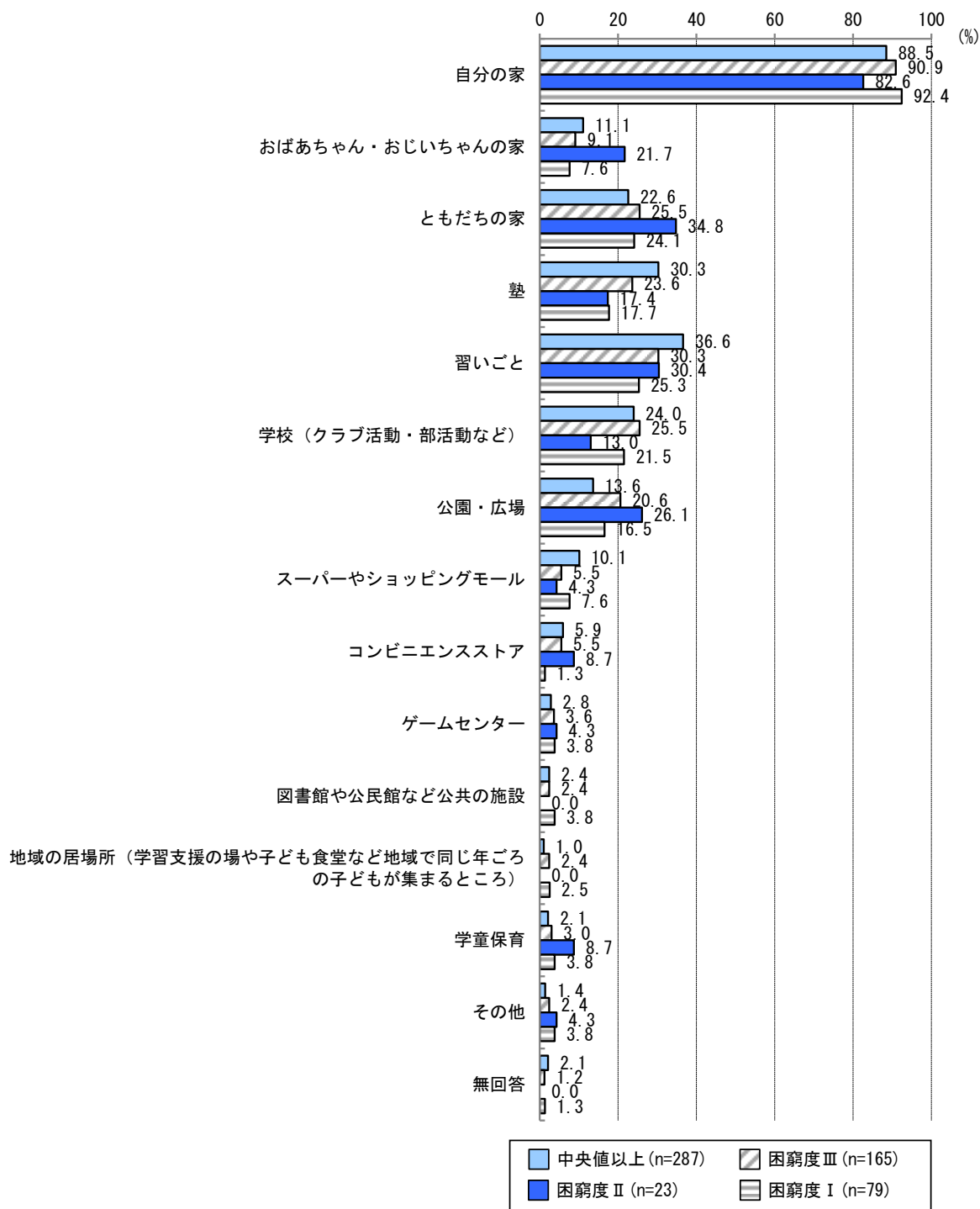
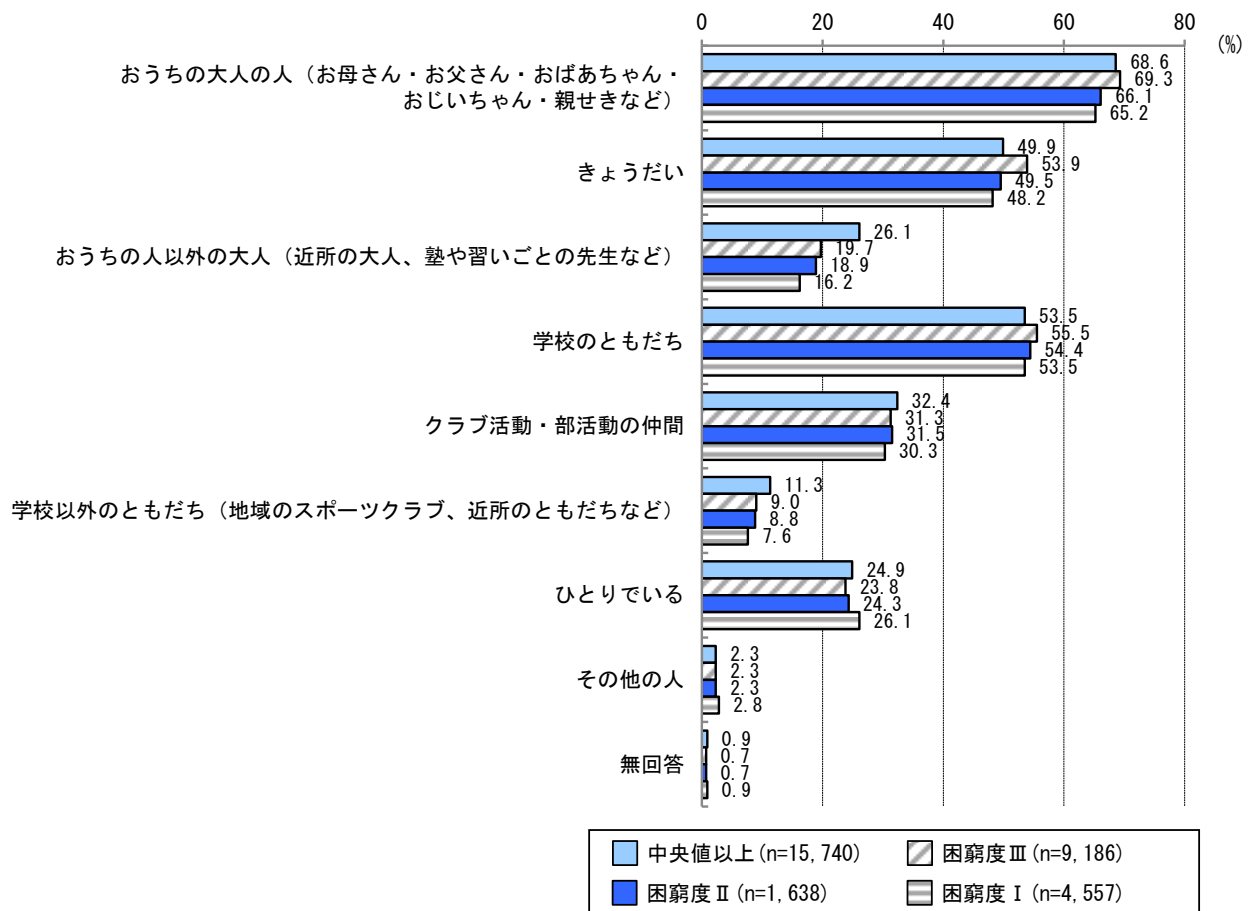


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）」2.5%（中央値以上群に対して2.5倍）、「学童保育」3.8%（同様に1.8倍）、「図書館や公民館など公共の施設」3.8%（同様に1.6倍）となっている。一方、中央値以上群では、「コンビニエンスストア」5.9%（困窮度Ⅰ群に対して4.5倍）、「塾」30.3%（同様に1.7倍）、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」11.1%（同様に1.5倍）などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

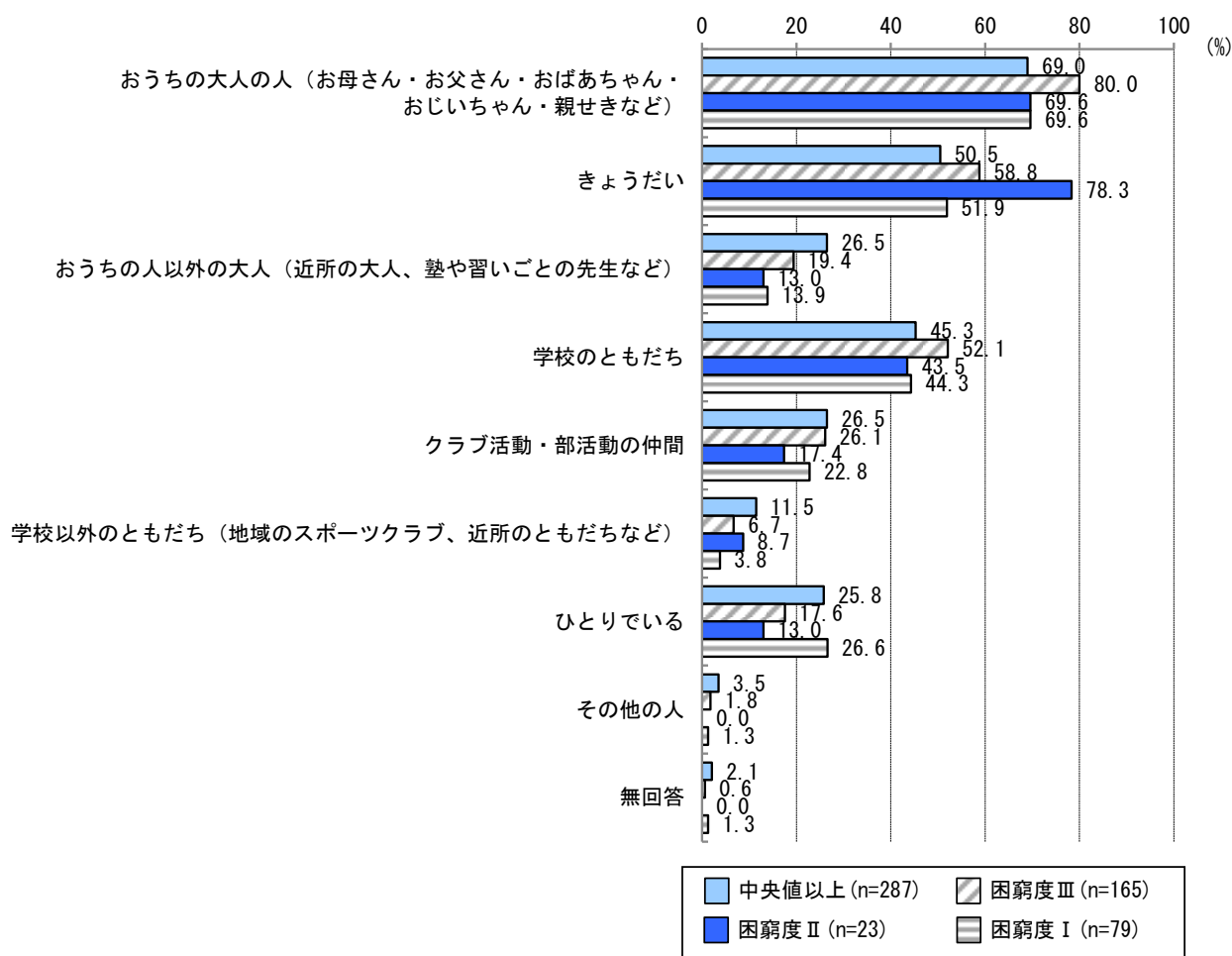
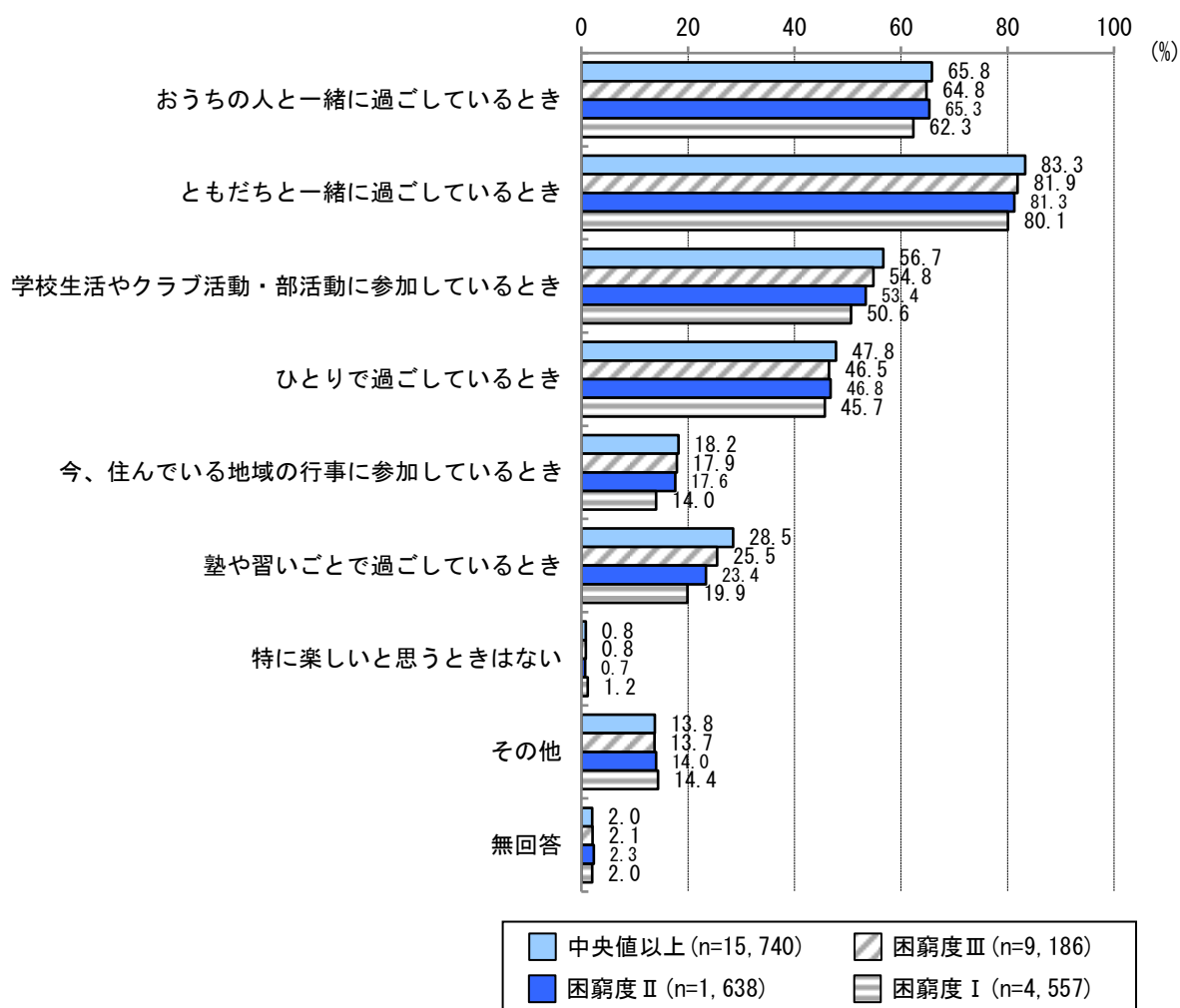


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」11.5%（困窮度Ⅰ群に対して3.0倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」26.5%（同様に1.9倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

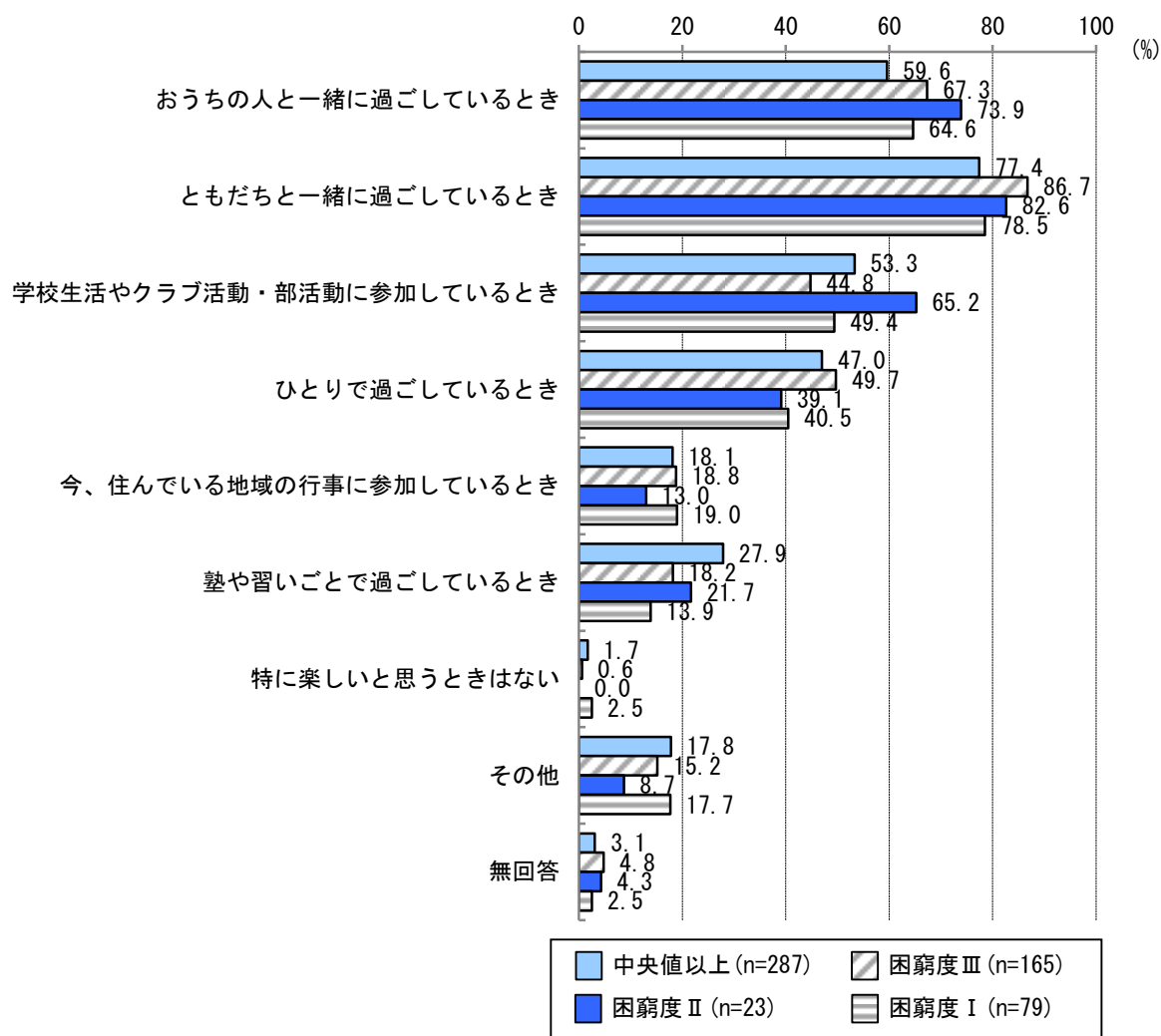
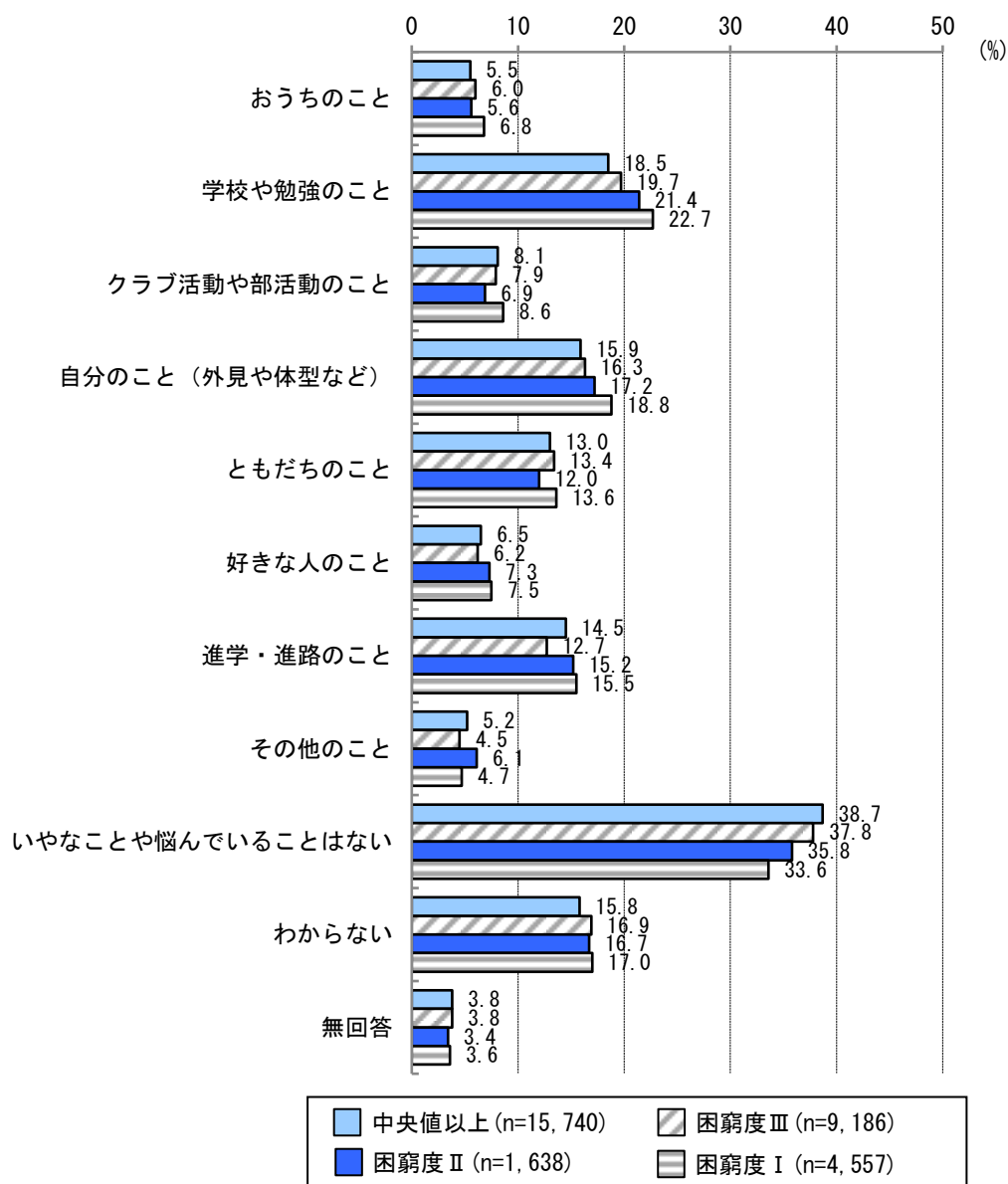


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「塾や習いごとで過ごしているとき」27.9%（困窮度Ⅰ群に対して2.0倍）、「ひとりで過ごしているとき」47.0%（同じく1.2倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」53.3%（同じく1.1倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

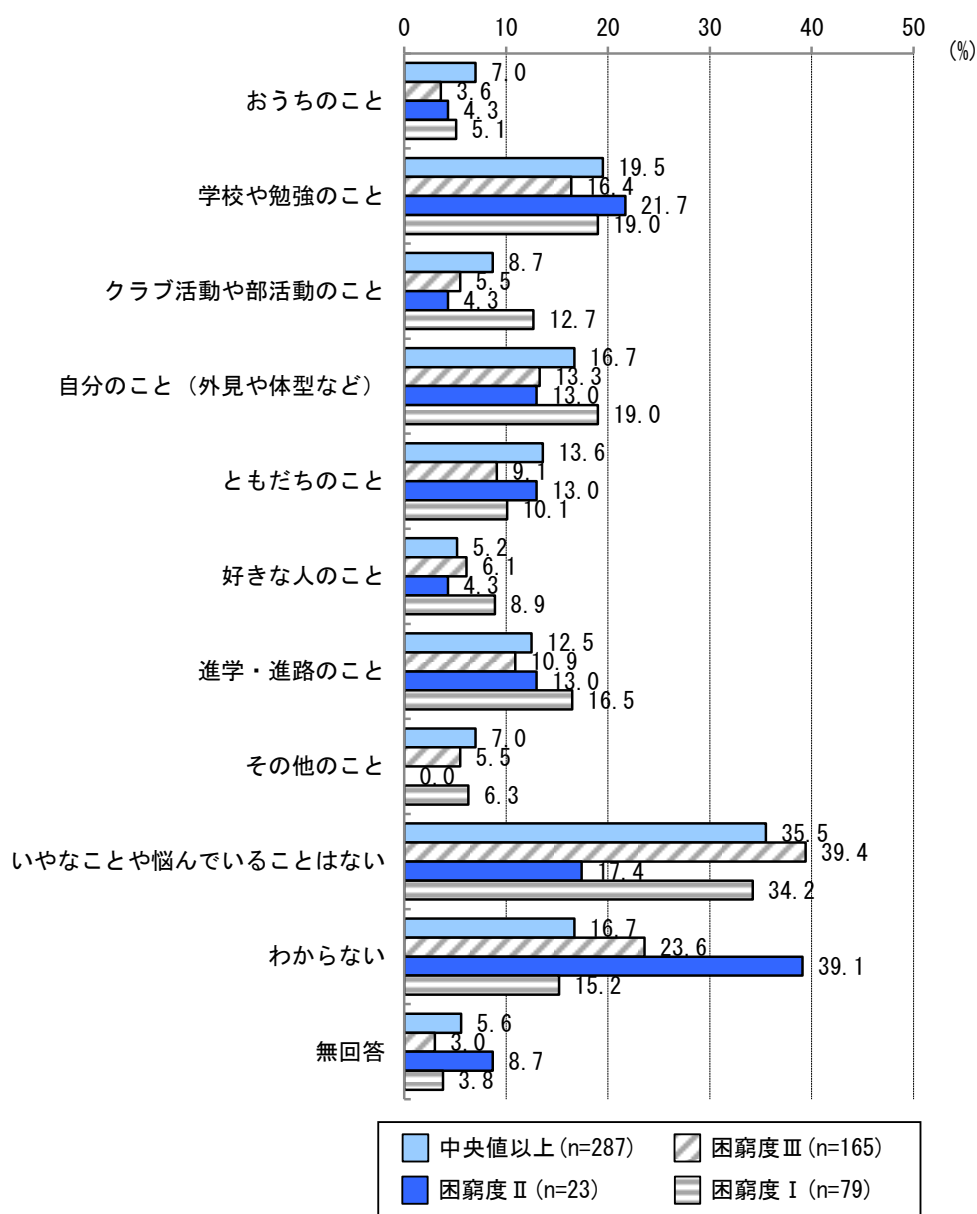
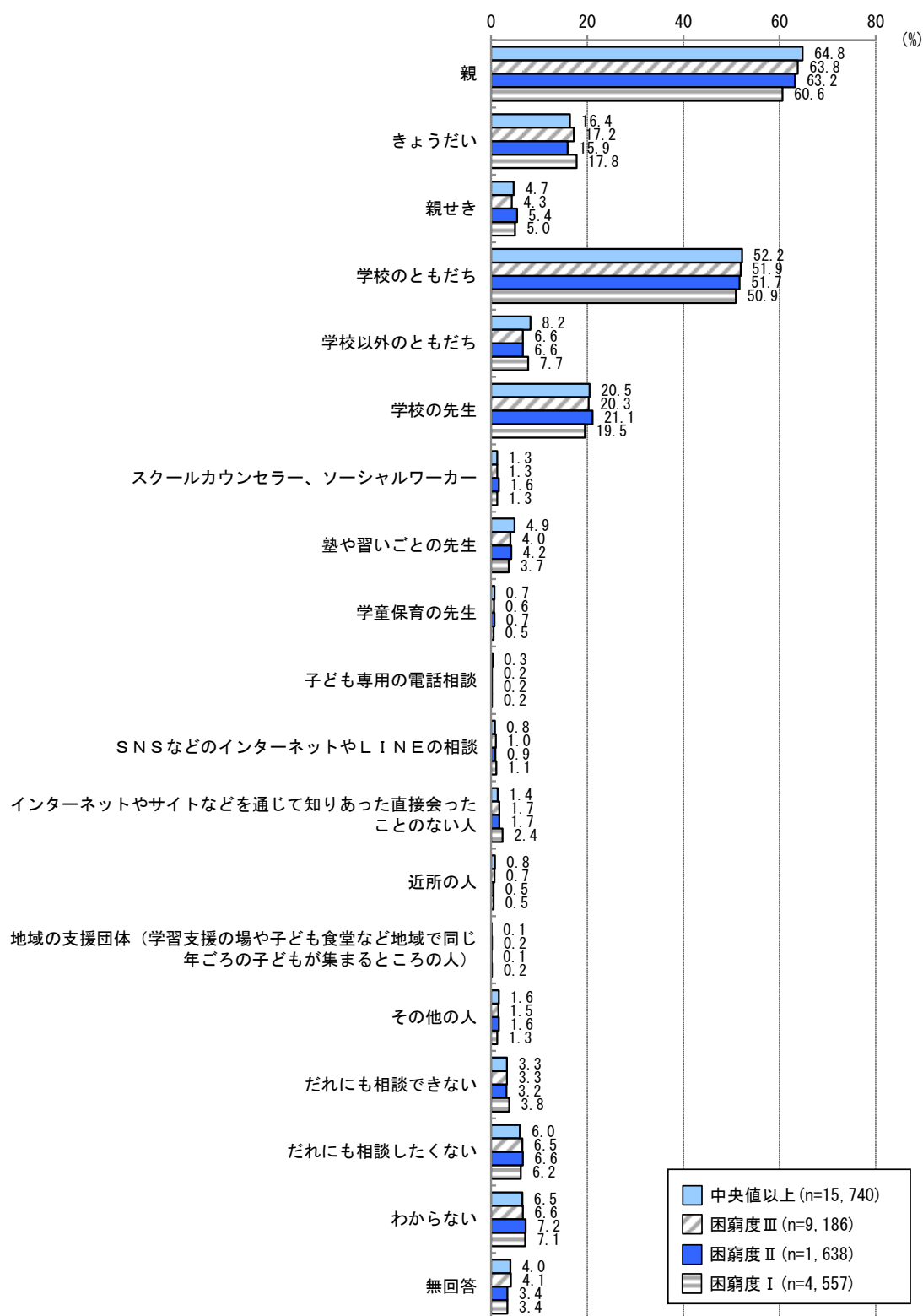


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら困窮度Ⅰ群を見ると、「好きな人のこと」8.9%（中央値以上群に対して1.7倍）、「クラブ活動や部活動のこと」12.7%（同じく1.5倍）、「進学・進路のこと」16.5%（同じく1.3倍）が高かった。中央値以上群では、「おうちのこと」7.0%（困窮度Ⅰ群に対して1.4倍）、「ともだちのこと」13.6%（同じく1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

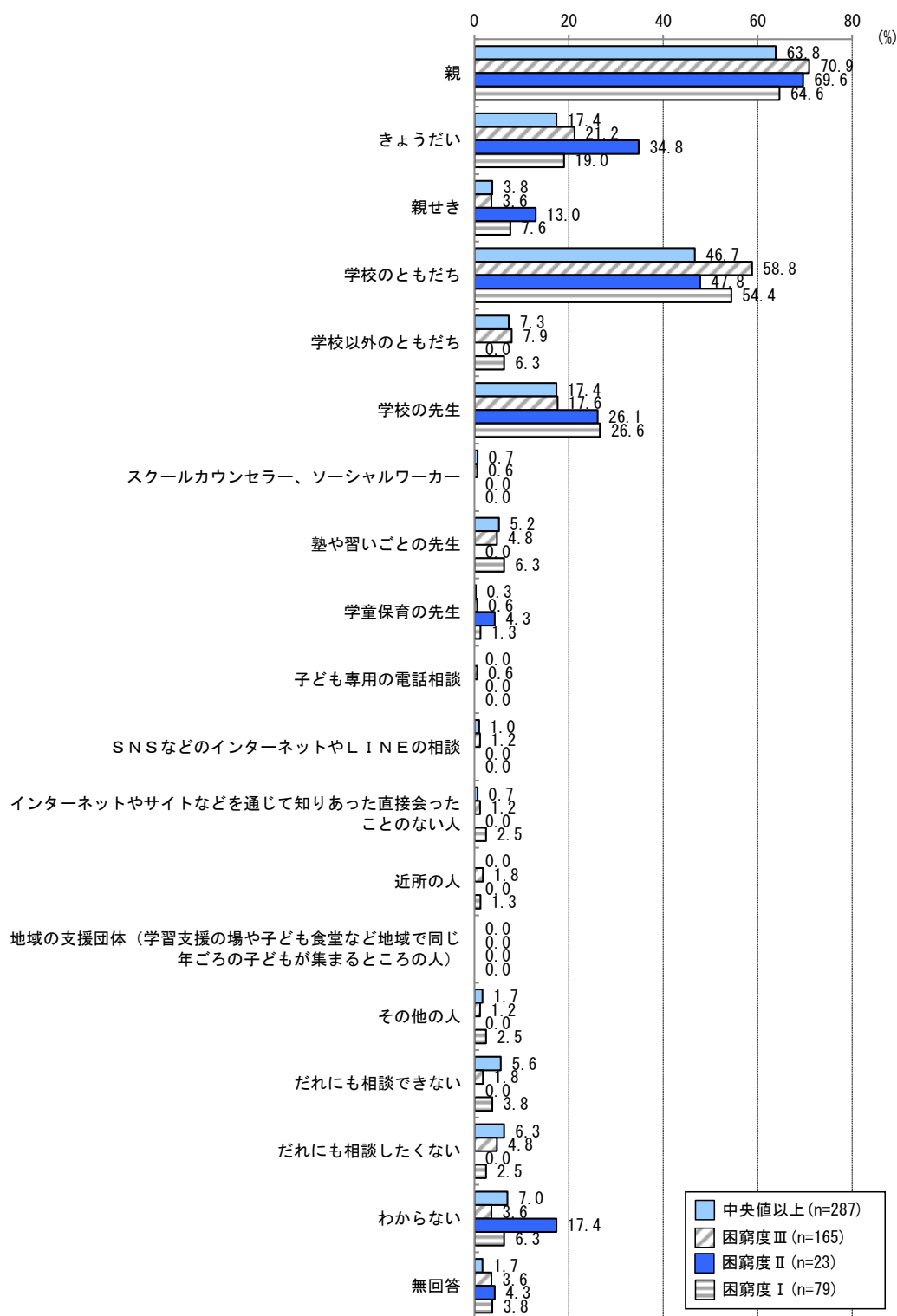
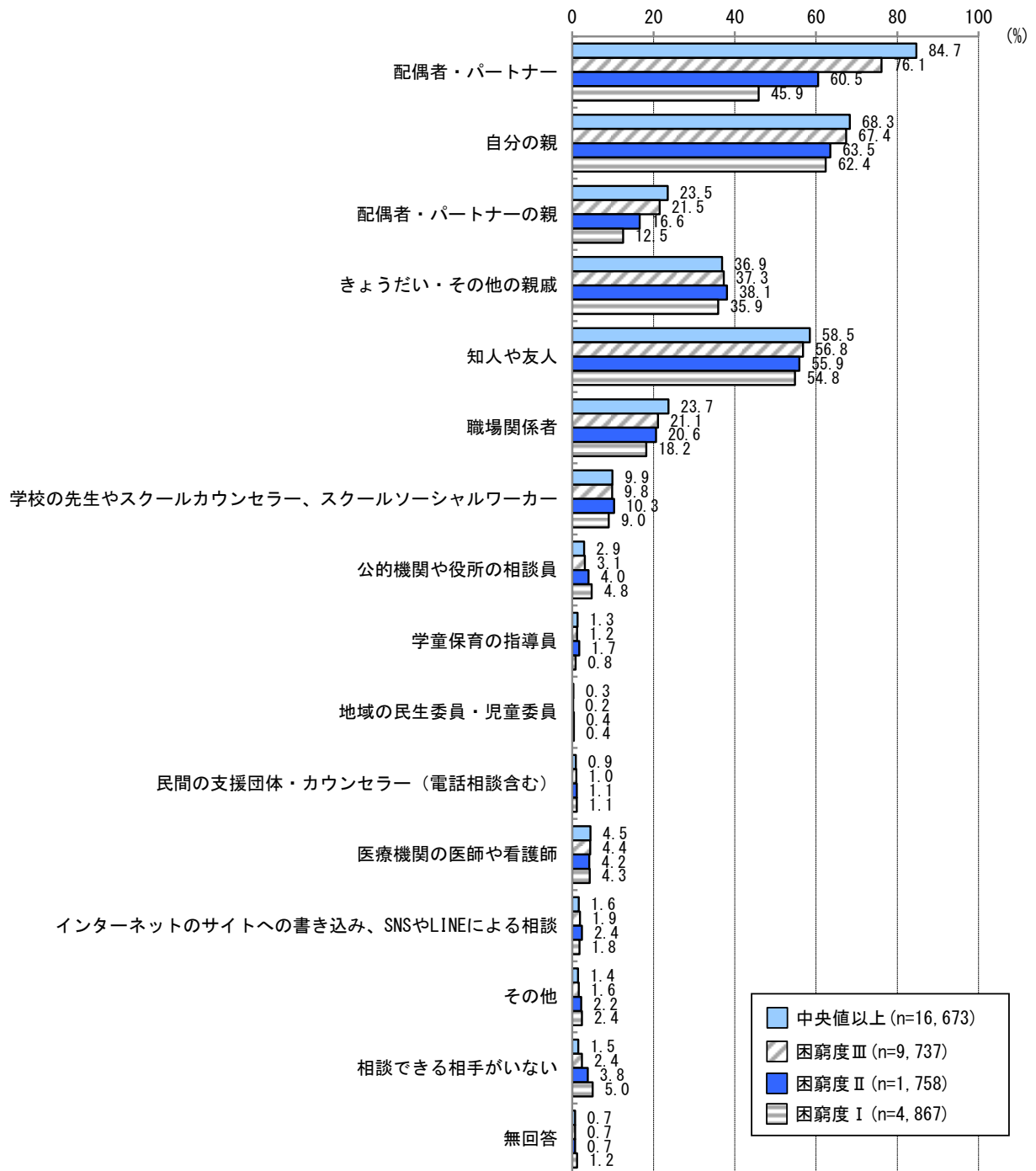


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学童保育の先生」1.3%（中央値以上群に対して4.3倍）、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」2.5%（同じく3.6倍）、「親せき」7.6%（同じく2.0倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

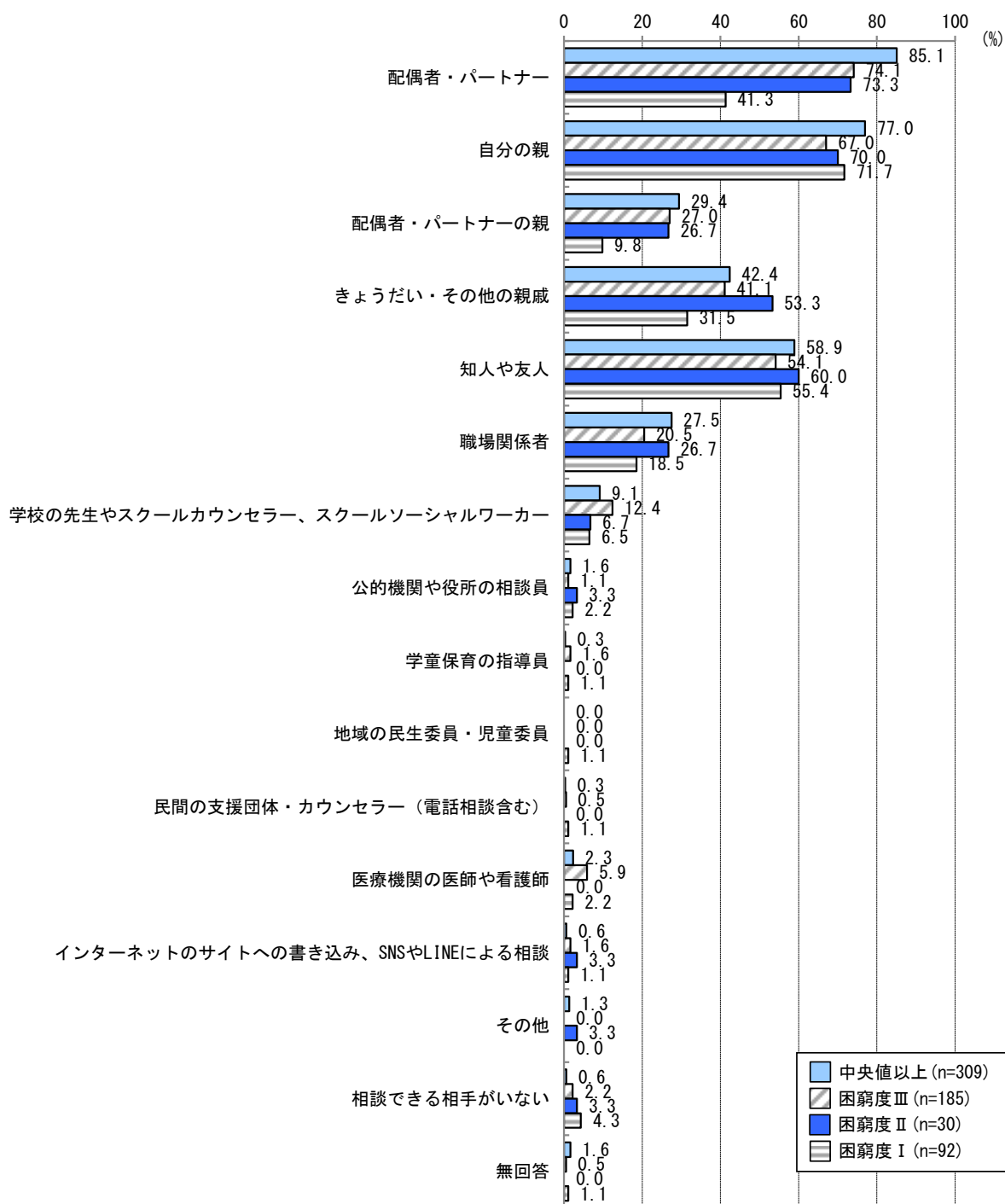
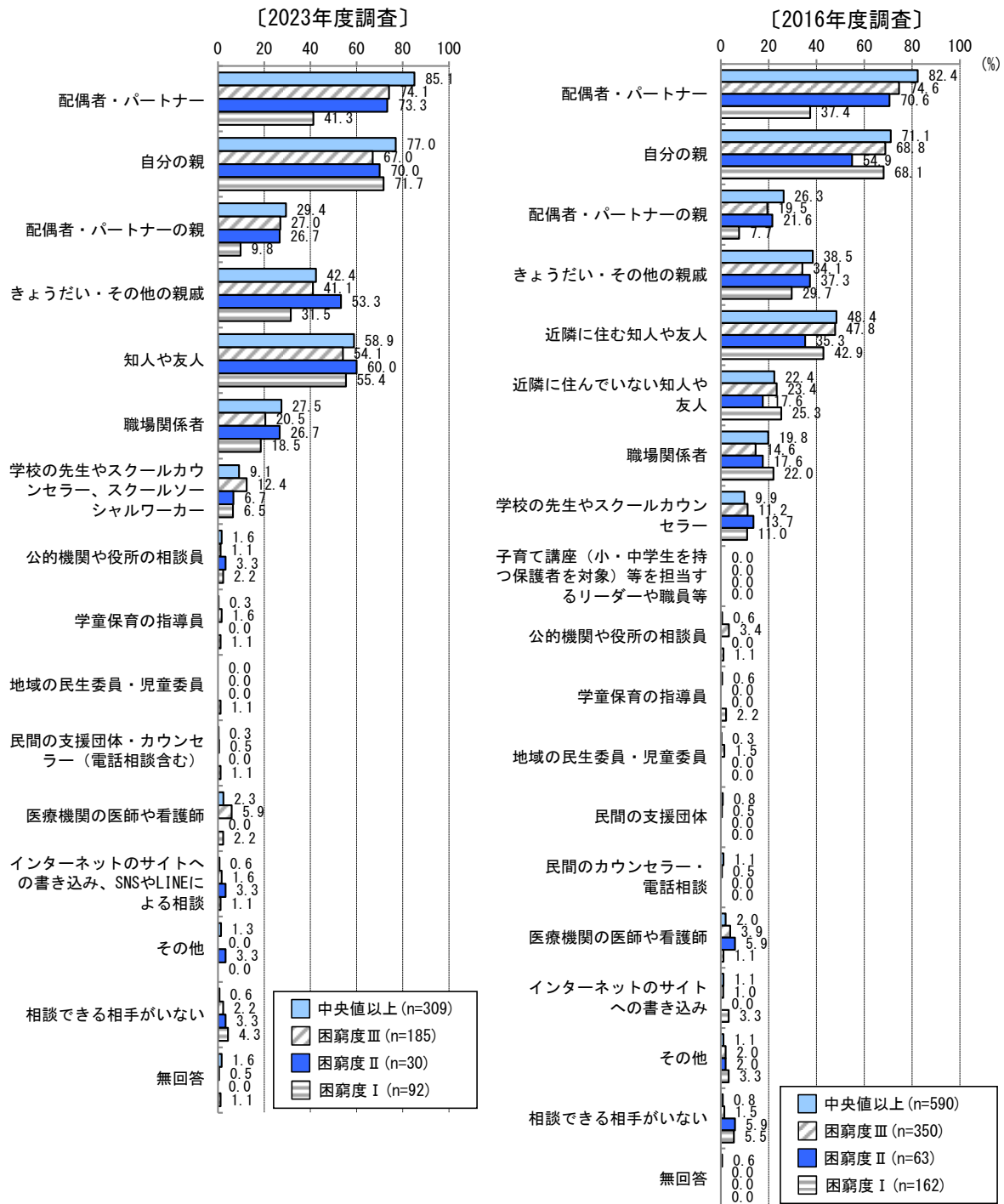


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」4.3%（中央値以上群に対して7.2倍）、「学童保育の指導員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」がともに1.1%（同じくともに3.7倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「配偶者・パートナーの親」29.4%（困窮度Ⅰ群に対して3.0倍）、「配偶者・パートナー」85.1%（同じく2.1倍）、「職場関係者」27.5%（同じく1.5倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／泉佐野市>



※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」

※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除

※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」

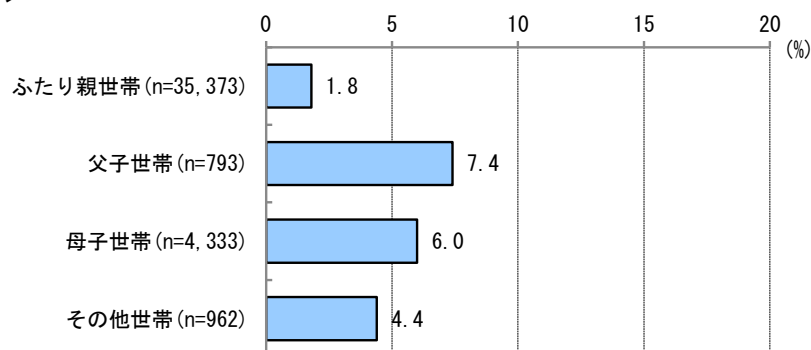
※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「配偶者・パートナーの親」「きょうだい・その他の親戚」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

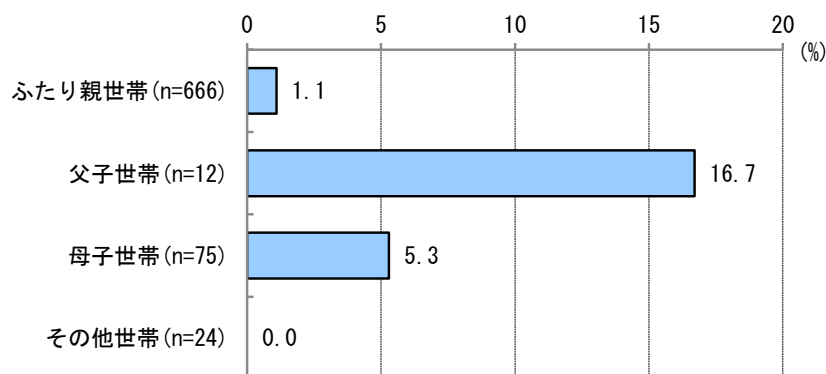


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で16.7%、母子世帯で5.3%いる。

<2016年度調査との比較／泉佐野市>

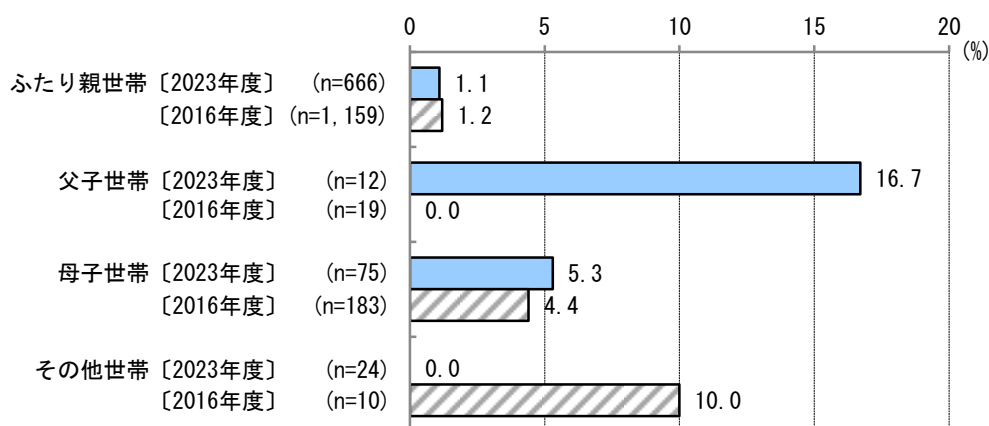
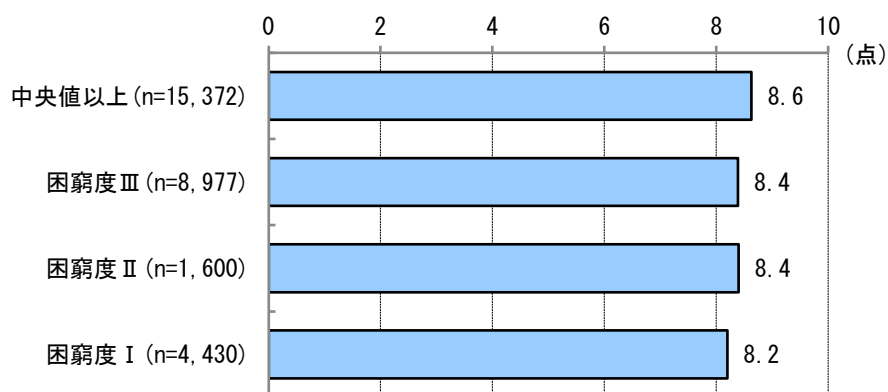


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、父子世帯、母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

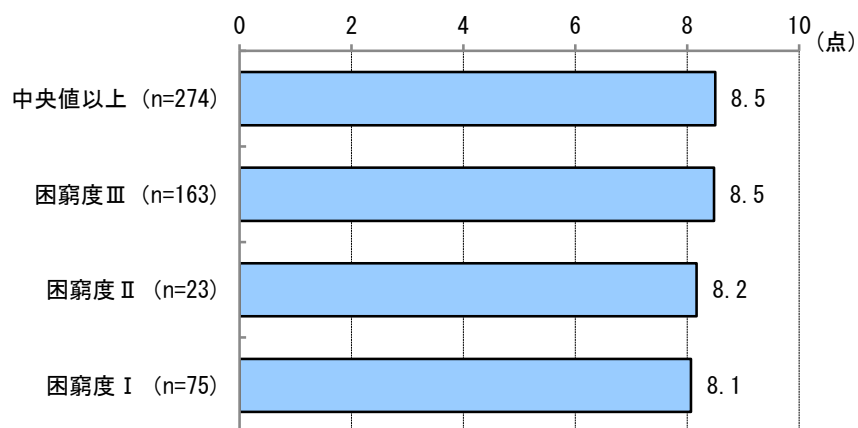
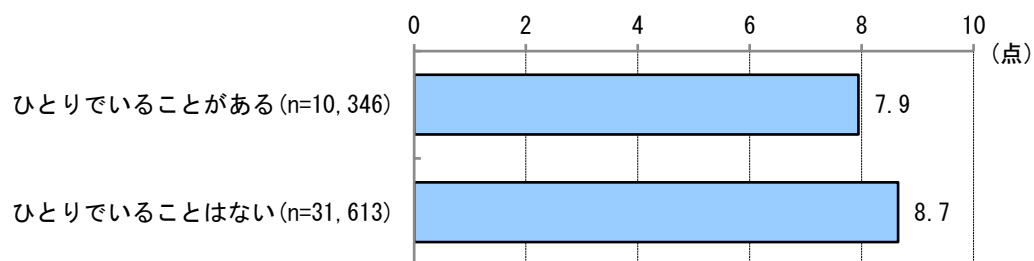


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、概ね困窮度が高くなるにつれ、セルフ・エフィカシーが低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

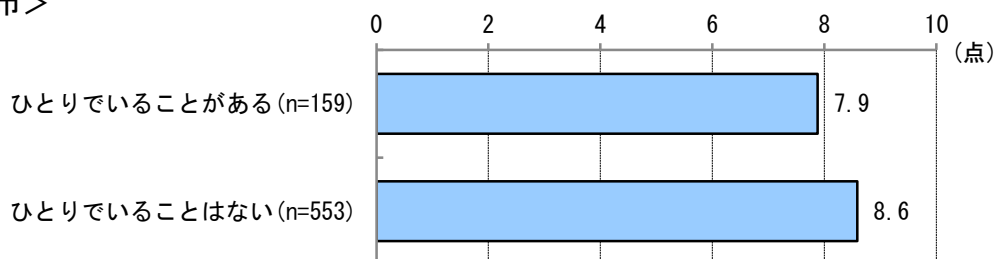


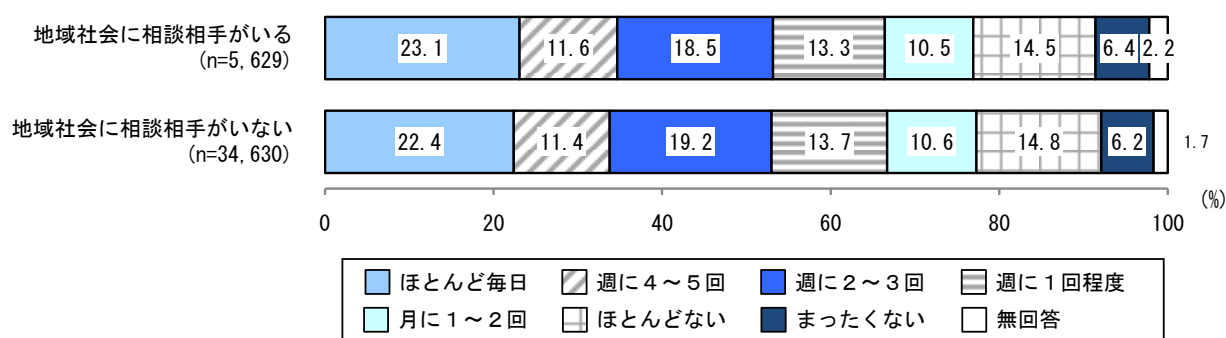
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

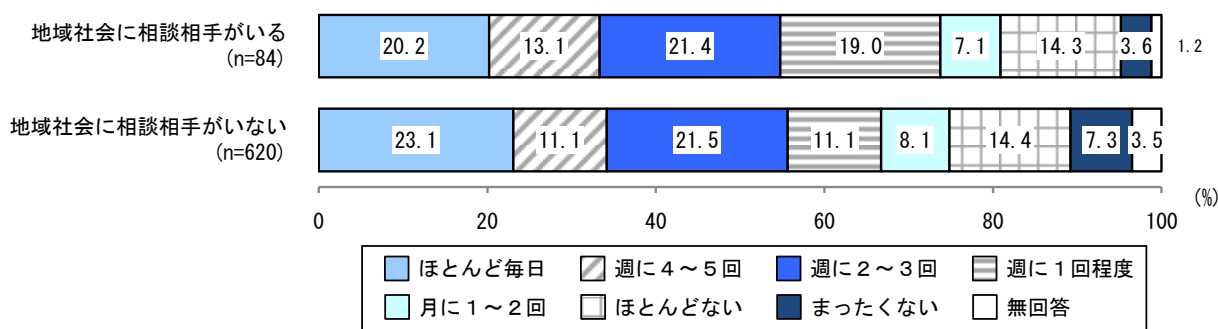
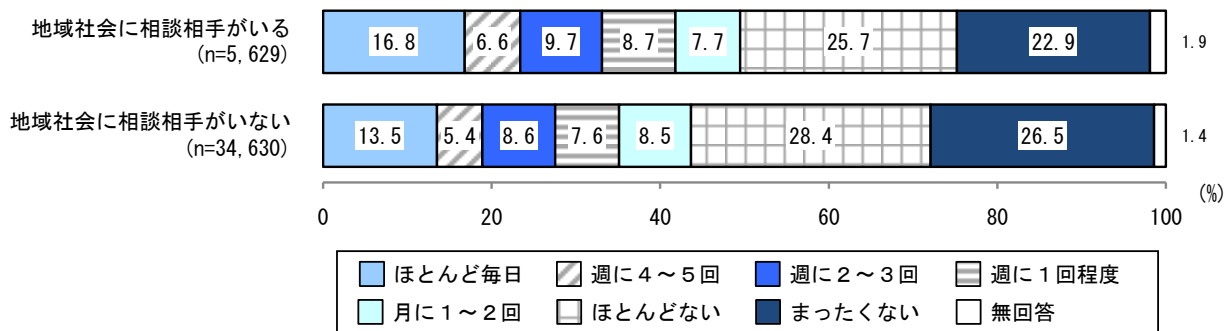


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」「週に2～3回」「月に1～2回」「ほとんどない」「まったくない」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

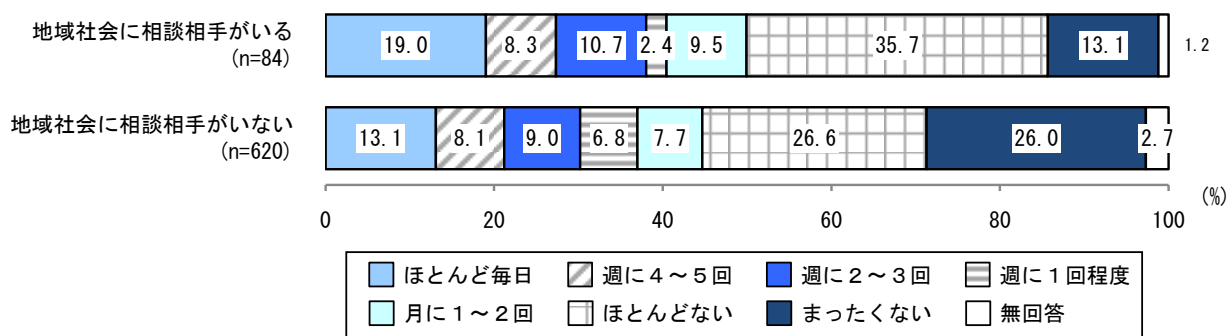
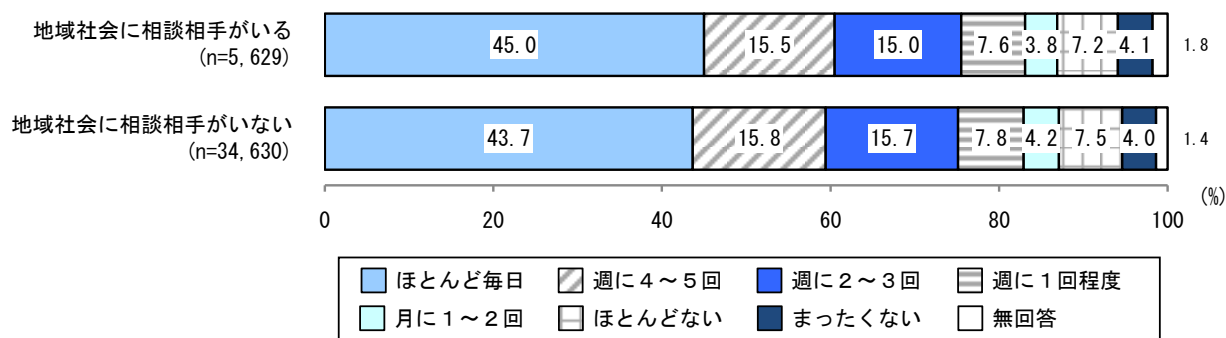


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」「週に4～5回」「週に2～3回」「月に1～2回」「ほとんどない」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

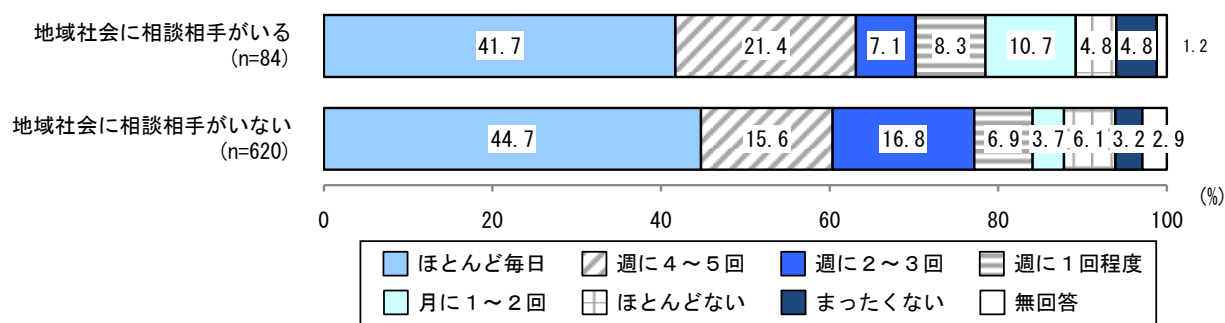
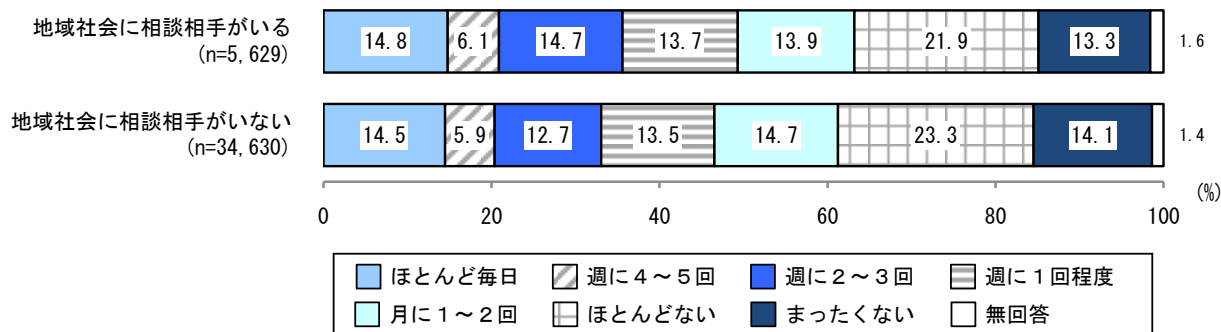


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「週に4～5回」、「週に1回程度」、「月に1～2回」、「まったくない」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

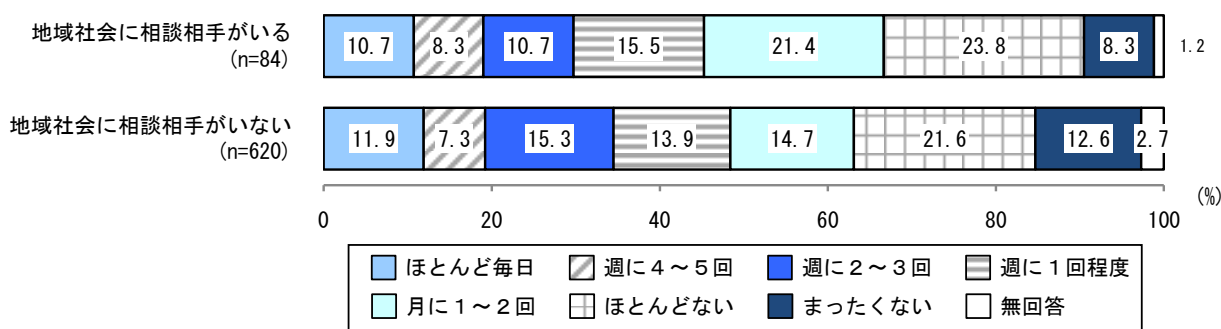
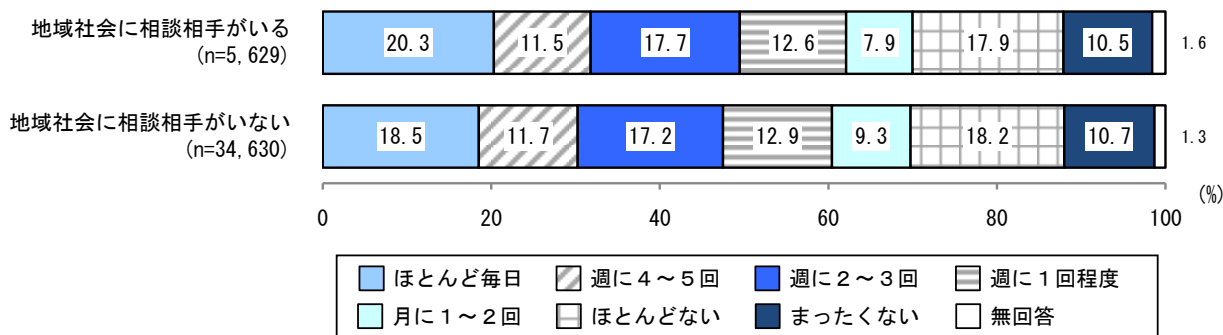


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」「週に2～3回」「まったくない」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

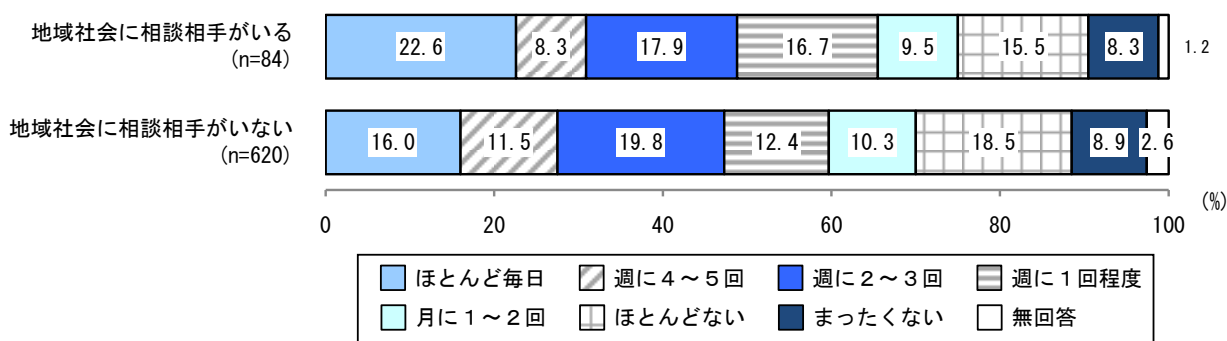
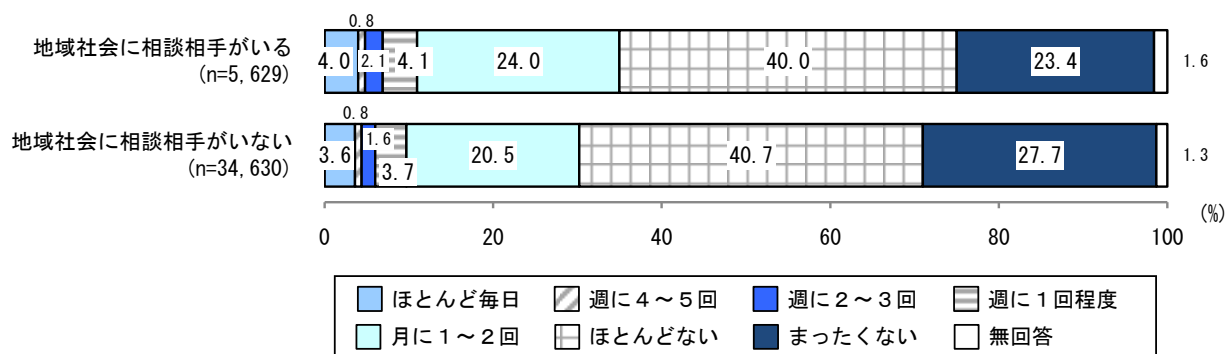


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」「週に1回程度」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

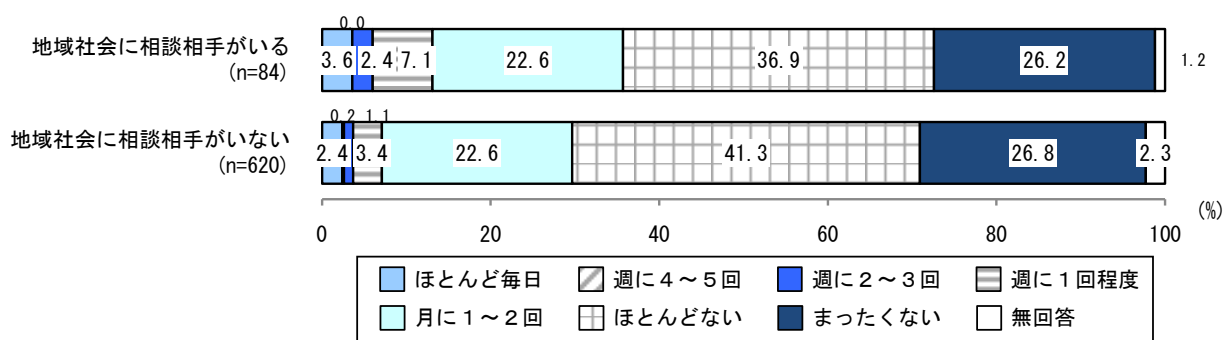
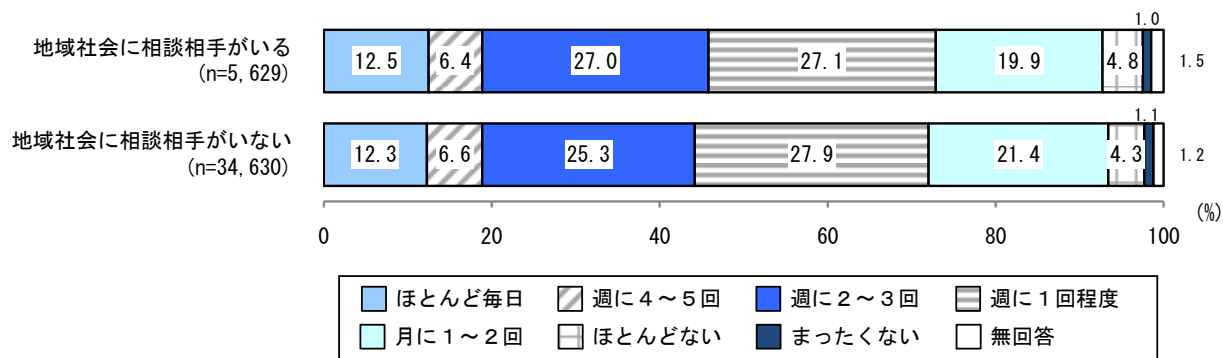


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするかに「ほとんど毎日」「週に2～3回」「週に1回程度」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

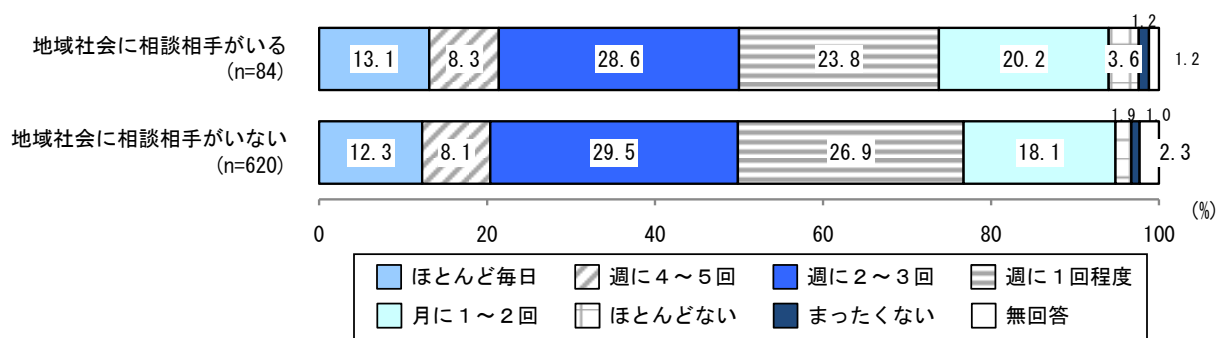
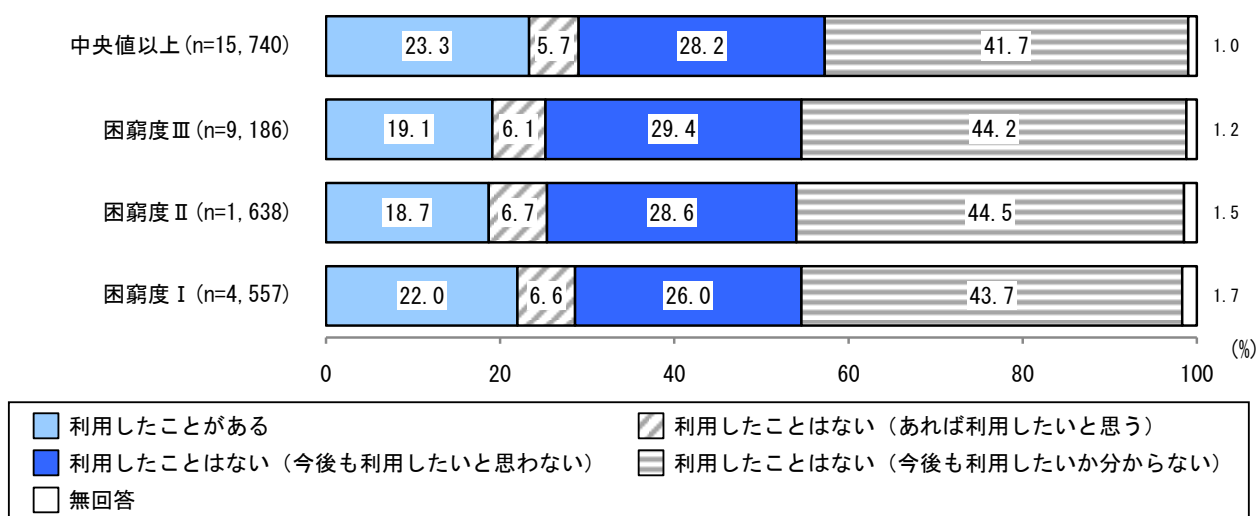


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「ほとんど毎日」「週に4～5回」「月に1～2回」と回答する割合が高くなっている。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

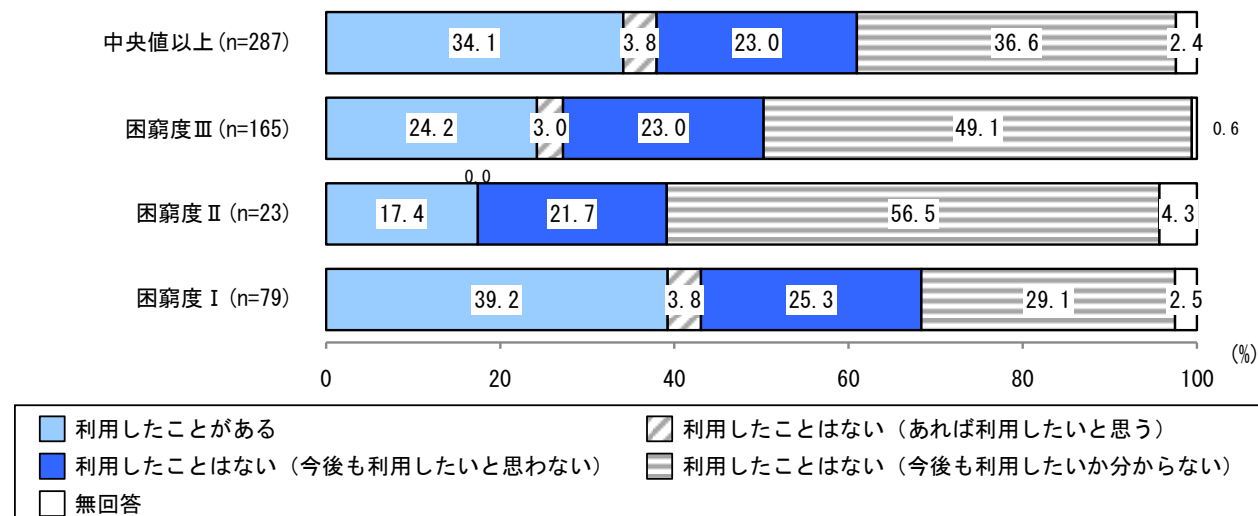
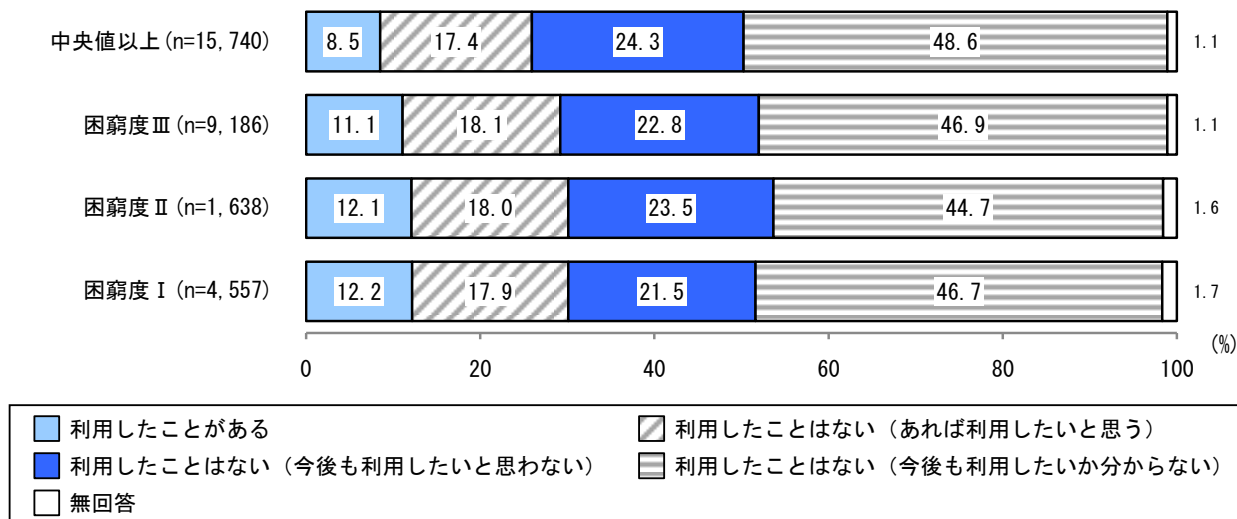


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅰ群で39.2%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

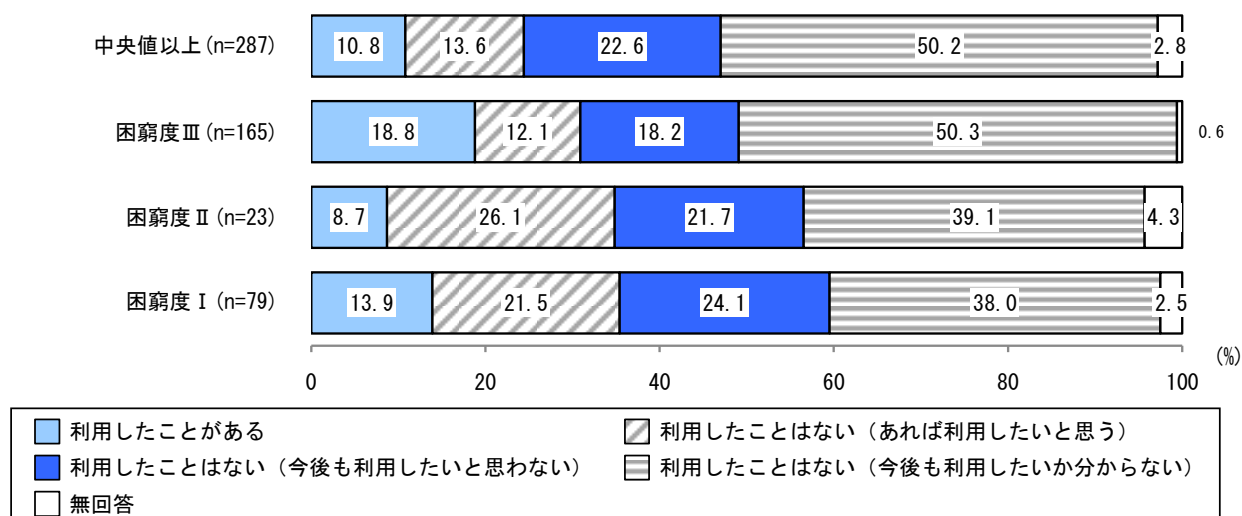
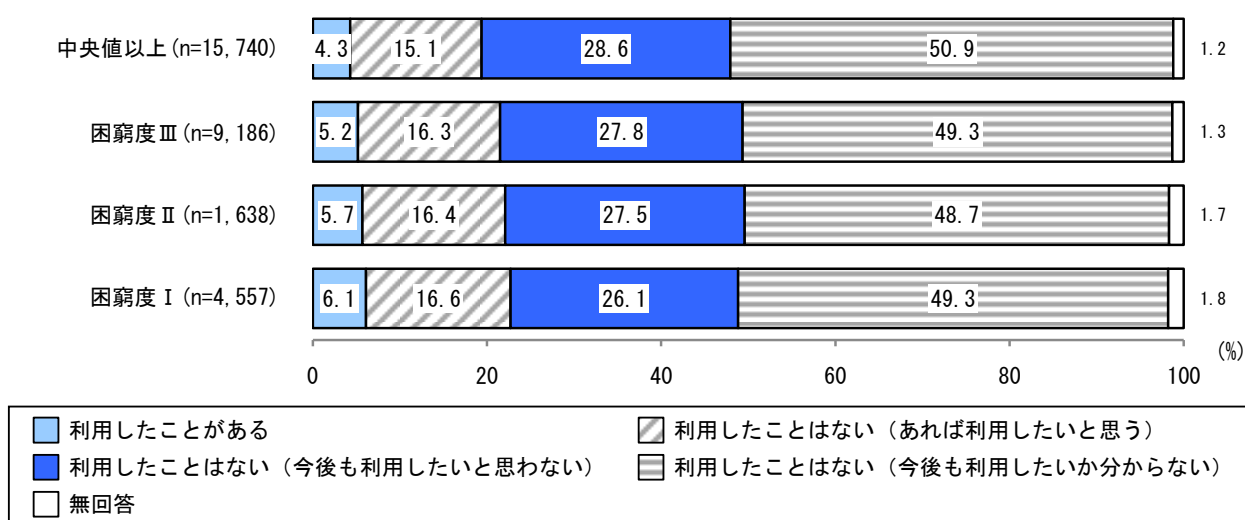


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅲ群で18.8%と最も高く、一方で、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」の割合は、困窮度Ⅰ群で38.0%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

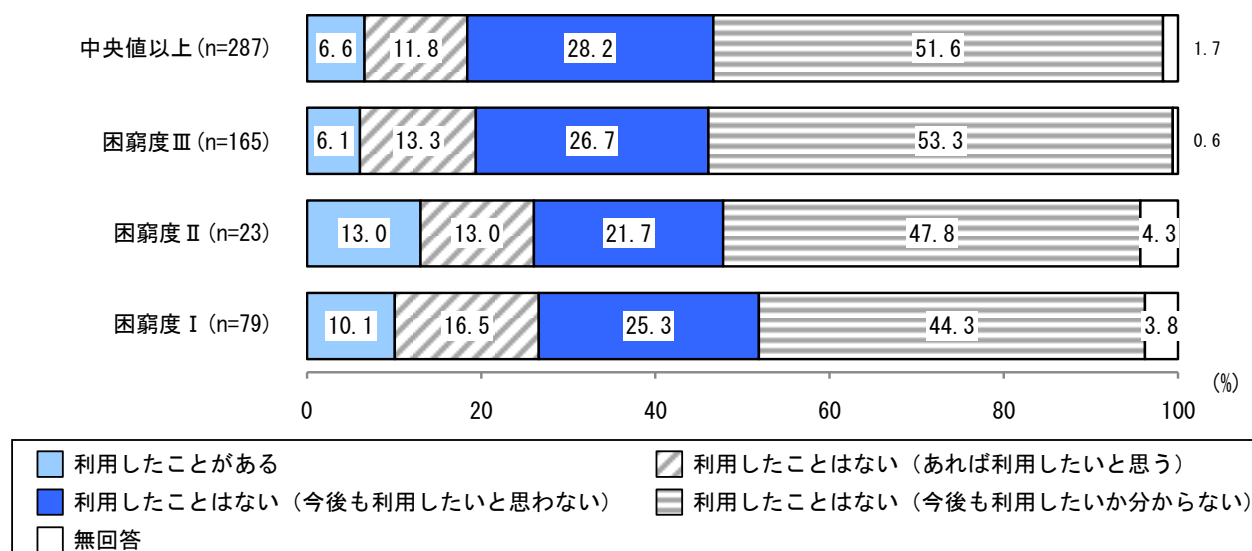
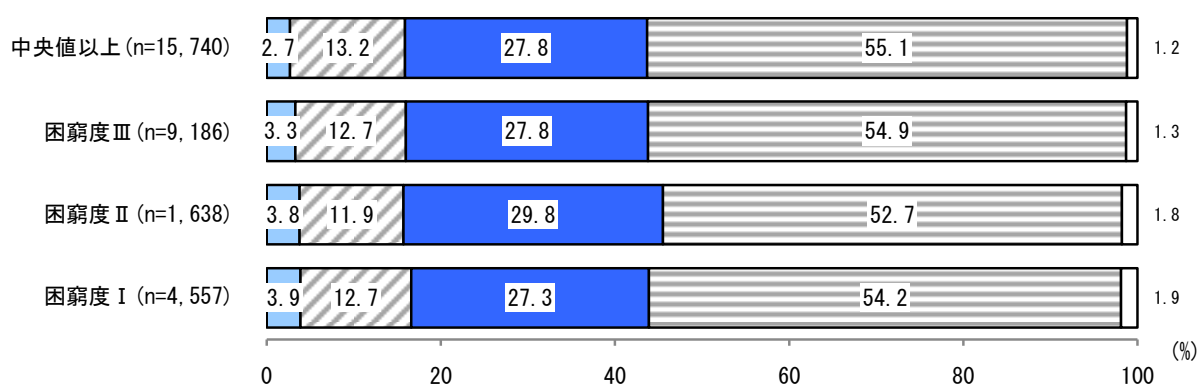


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で13.0%と最も高い。一方で、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」の割合は、困窮度Ⅰ群で44.3%と最も低くなっている。

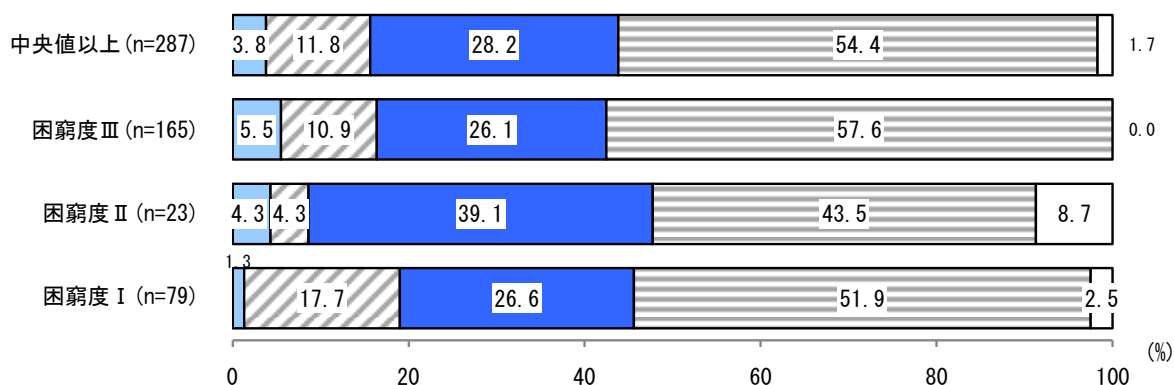
困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



■ 利用したことがある ■ 利用したことはない（あれば利用したいと思う）
■ 利用したことはない（今後も利用したいと思わない） ■ 利用したことはない（今後も利用したいか分からない）
■ 無回答

<泉佐野市>



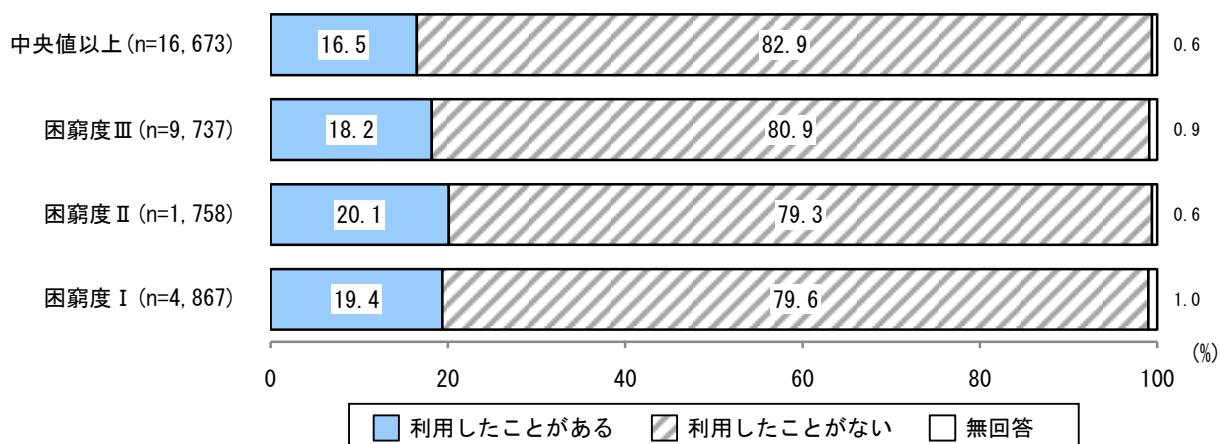
■ 利用したことがある ■ 利用したことはない（あれば利用したいと思う）
■ 利用したことはない（今後も利用したいと思わない） ■ 利用したことはない（今後も利用したいか分からない）
■ 無回答

図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群で5.5%と最も高く、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」の割合も困窮度Ⅲ群で57.6%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

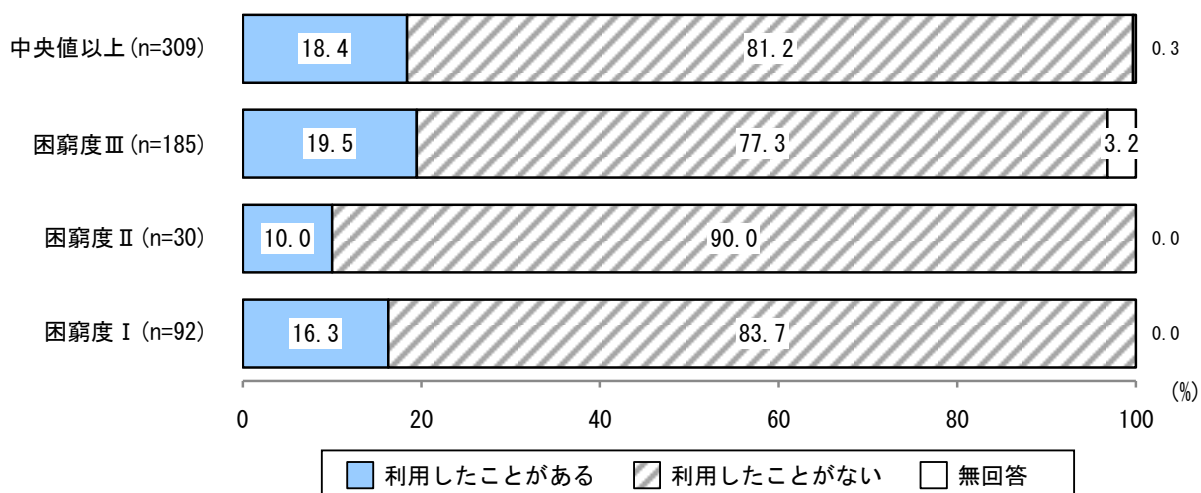
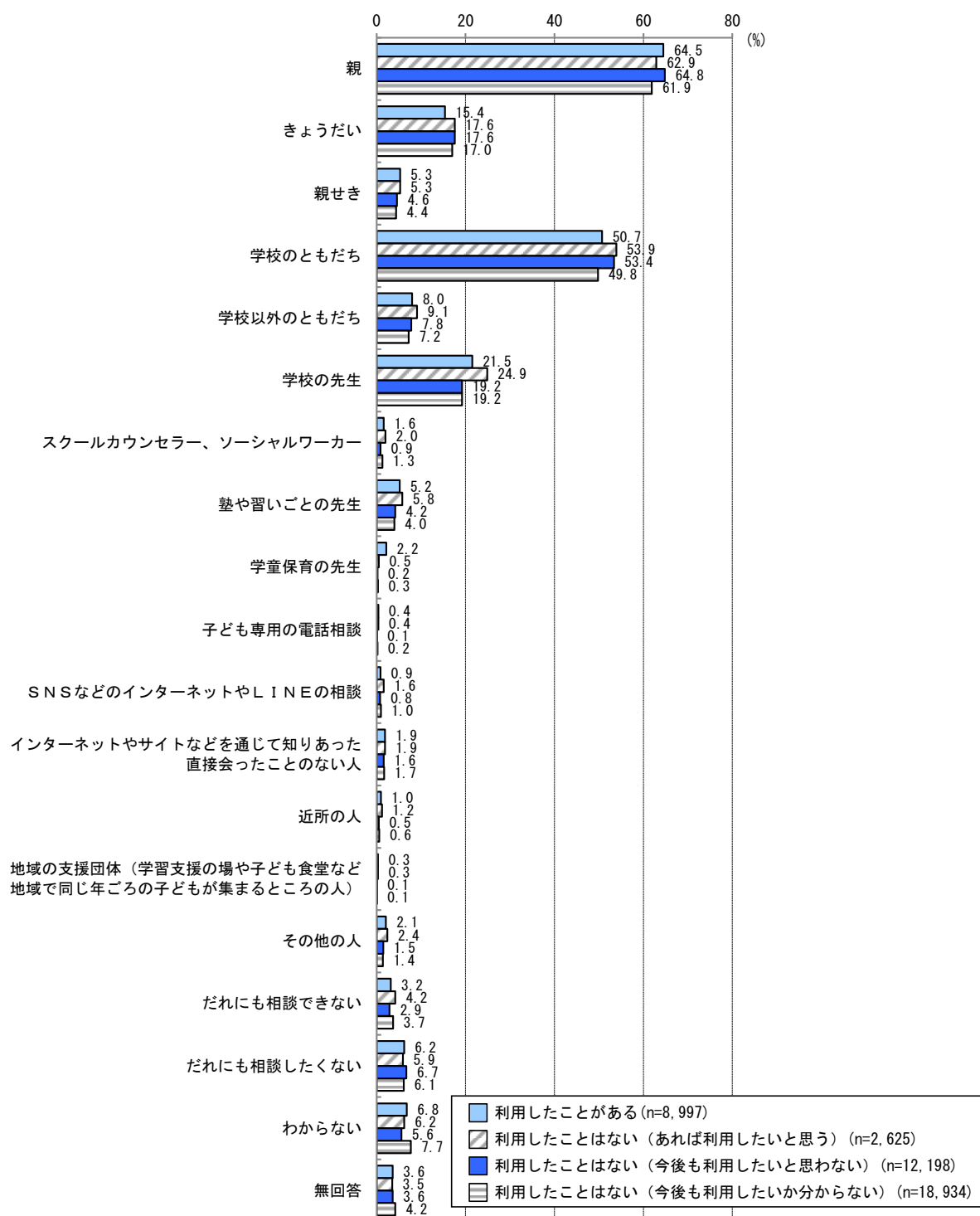


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で19.5%と最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

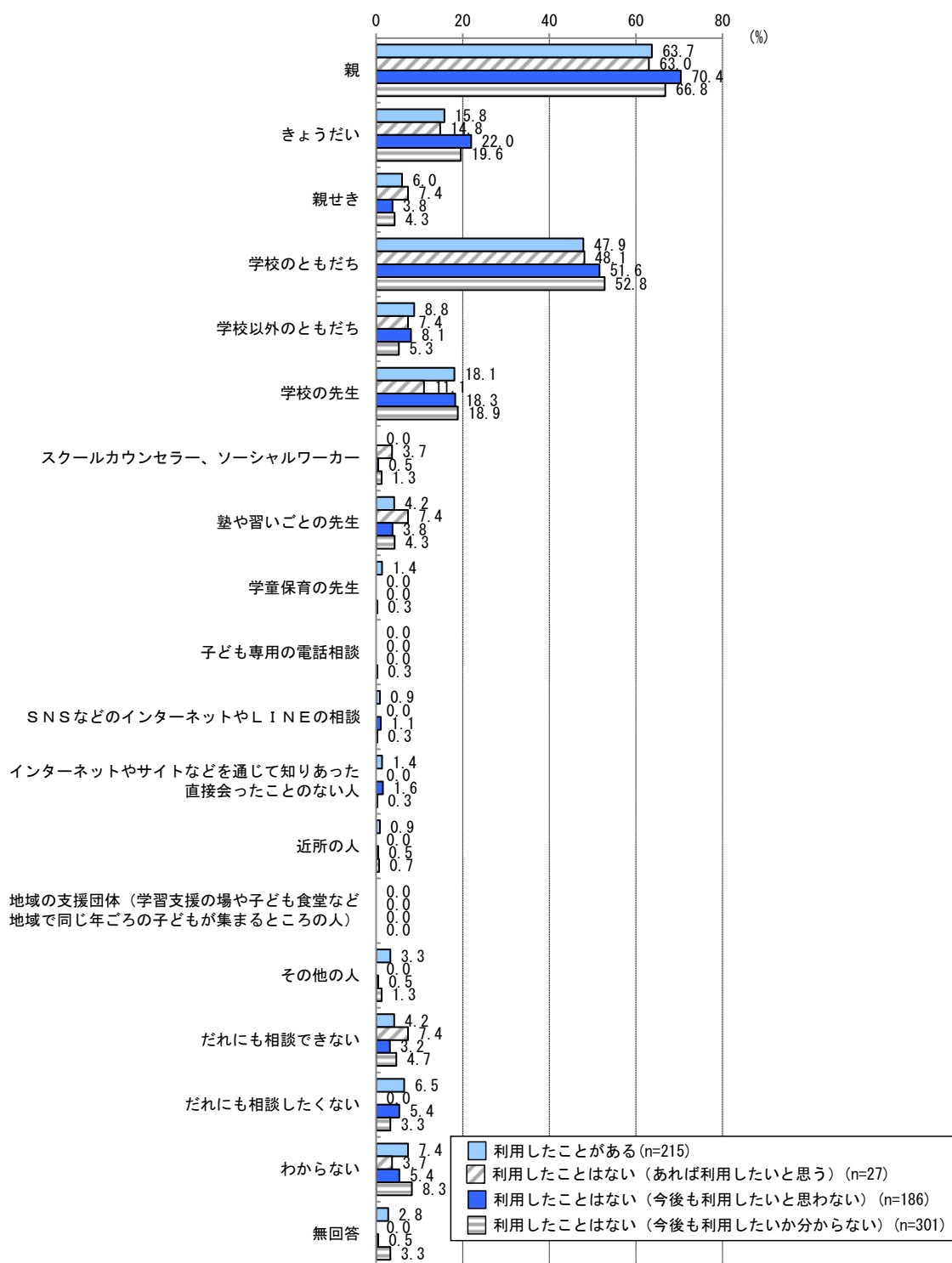
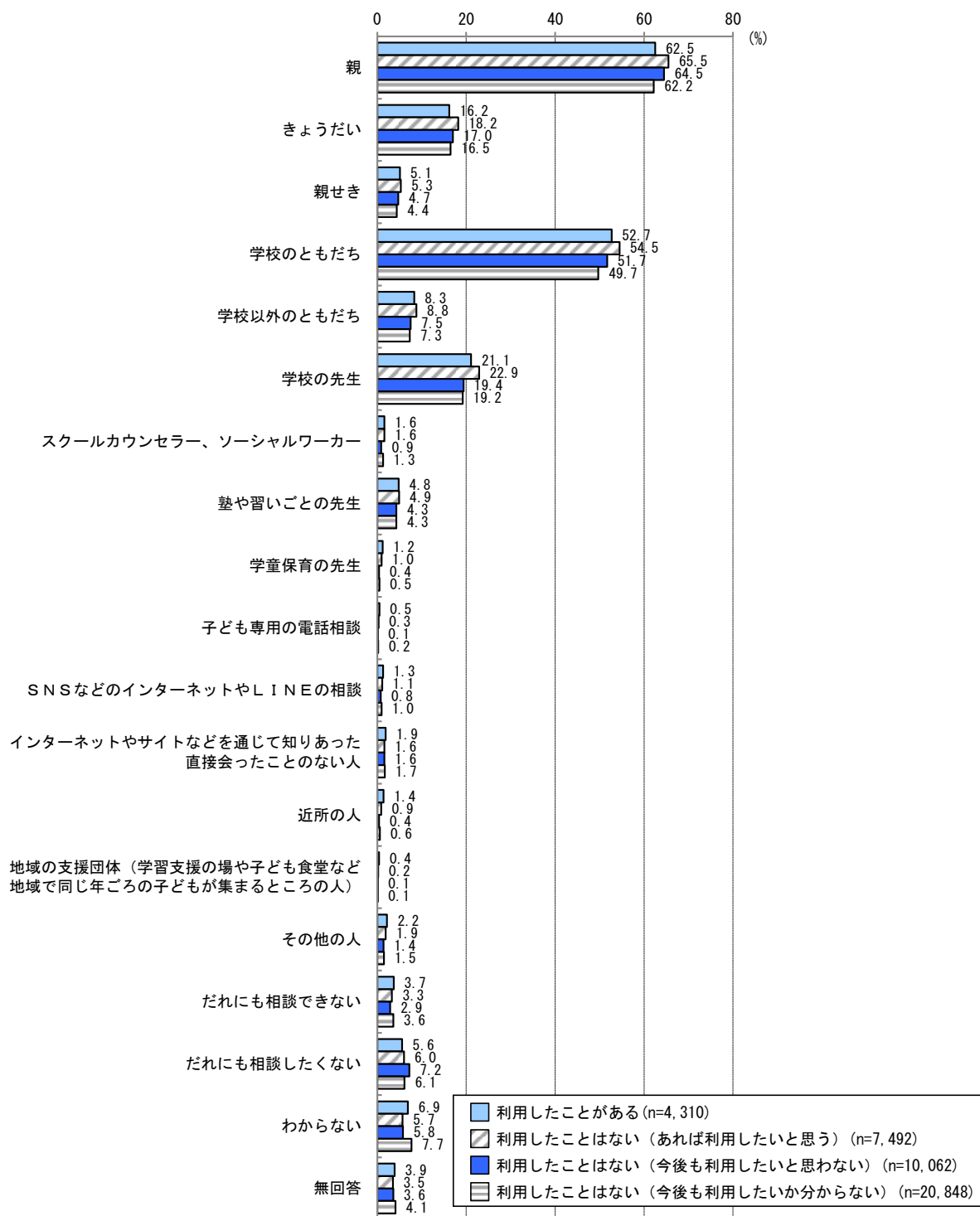


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない（今後も使用したいと思わない）」で70.4%と最も高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25(1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

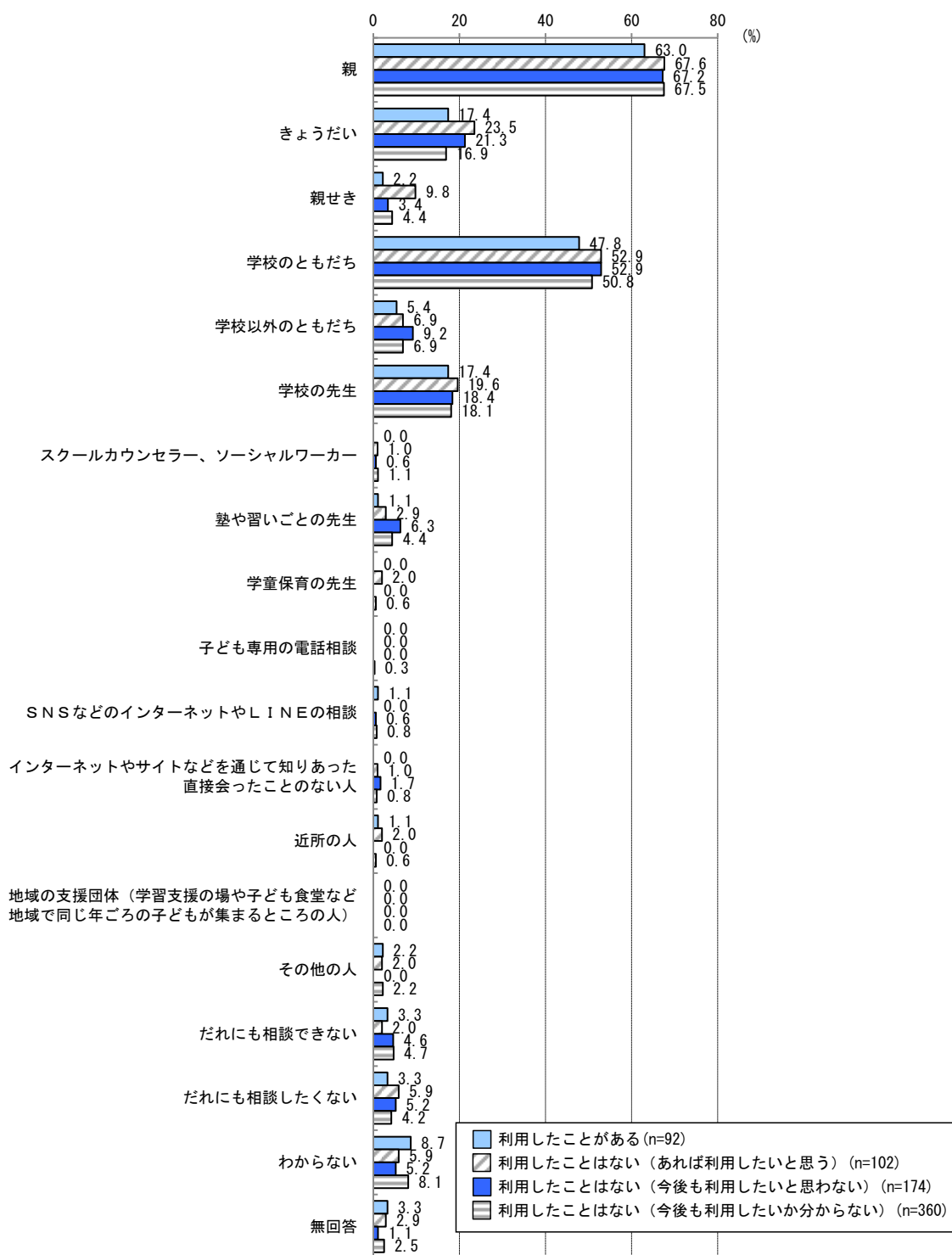
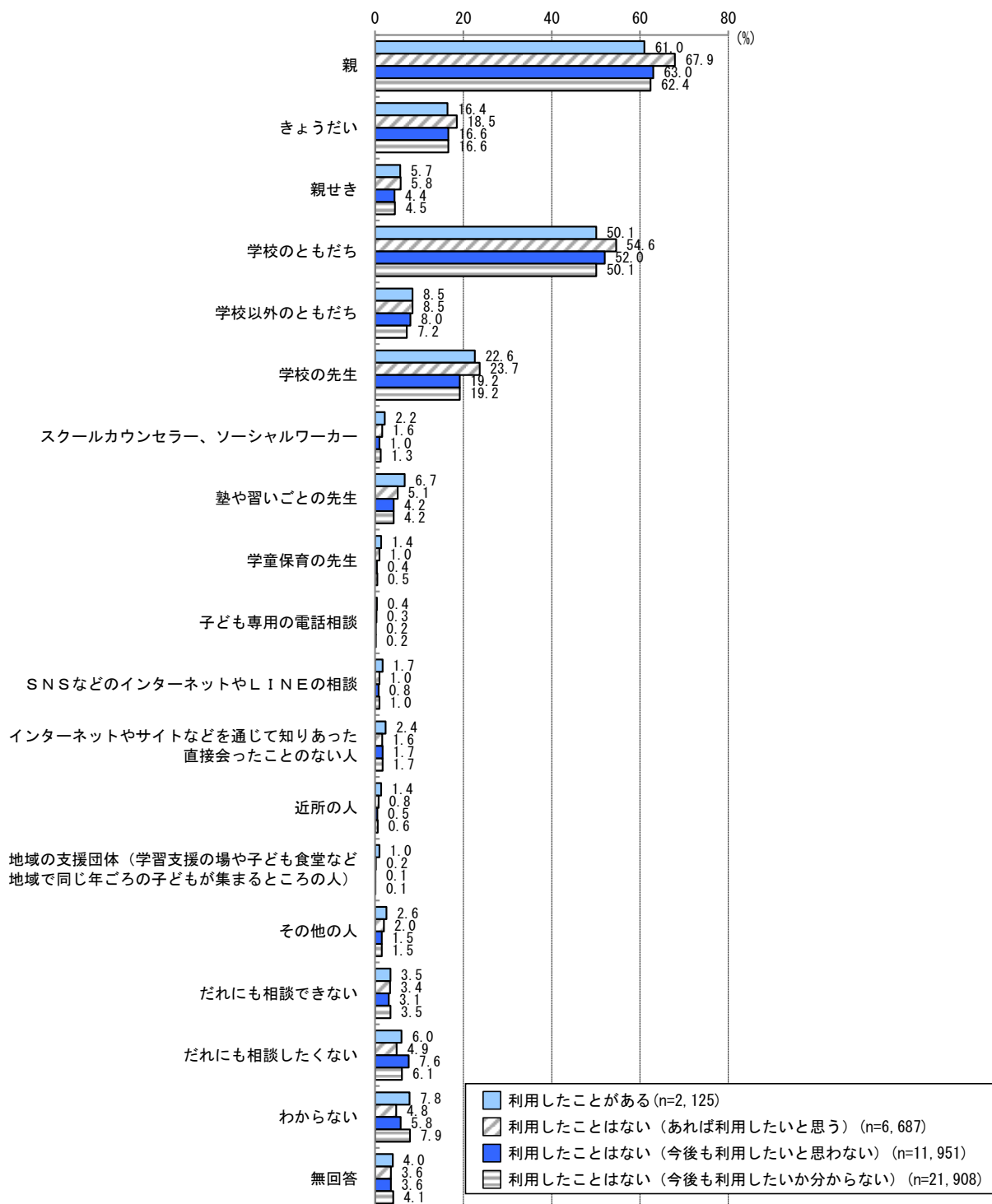


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」「親せき」「学校のともだち」「学校以外のともだち」「学校の先生」「塾や習いごとの先生」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

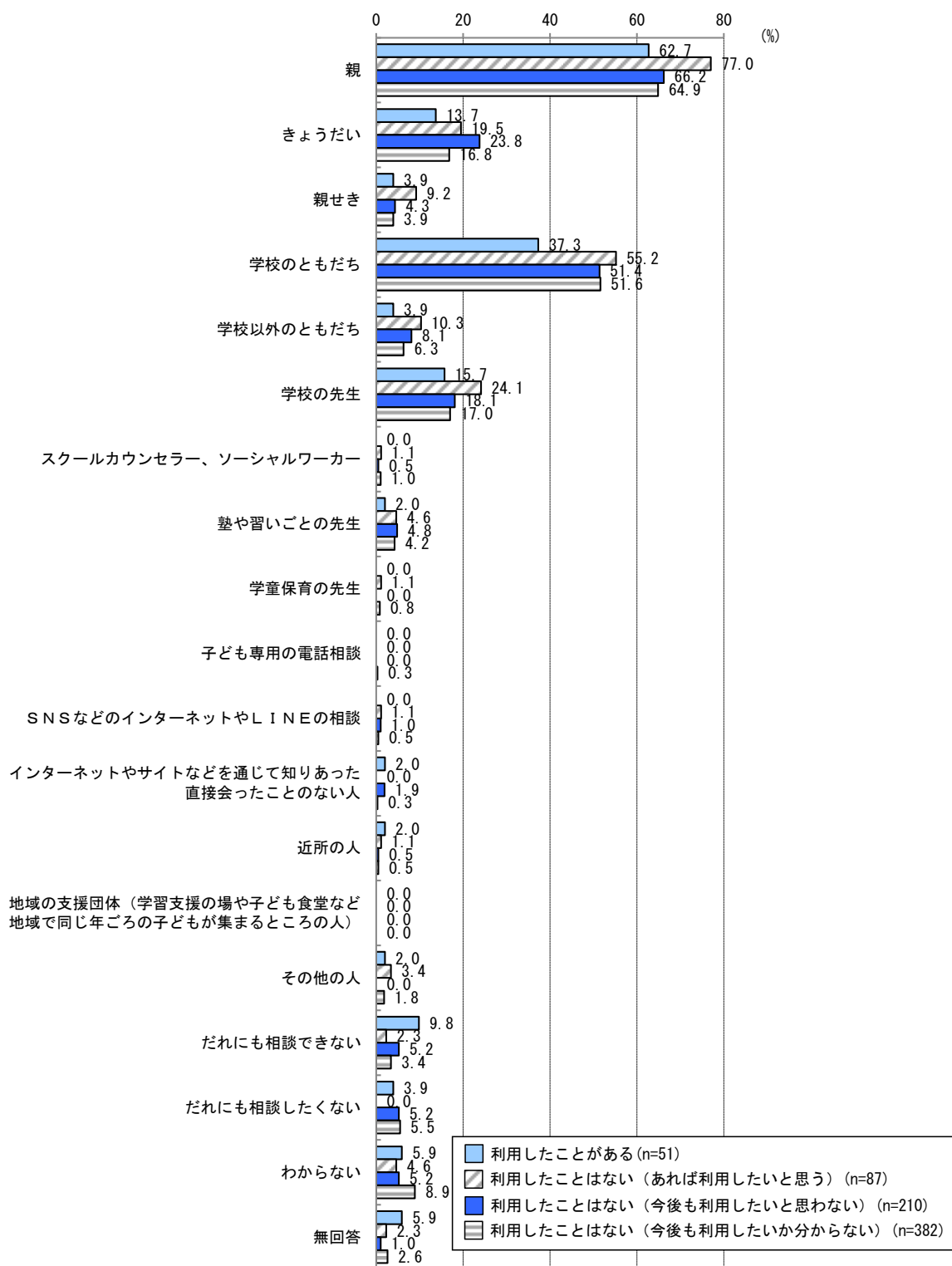
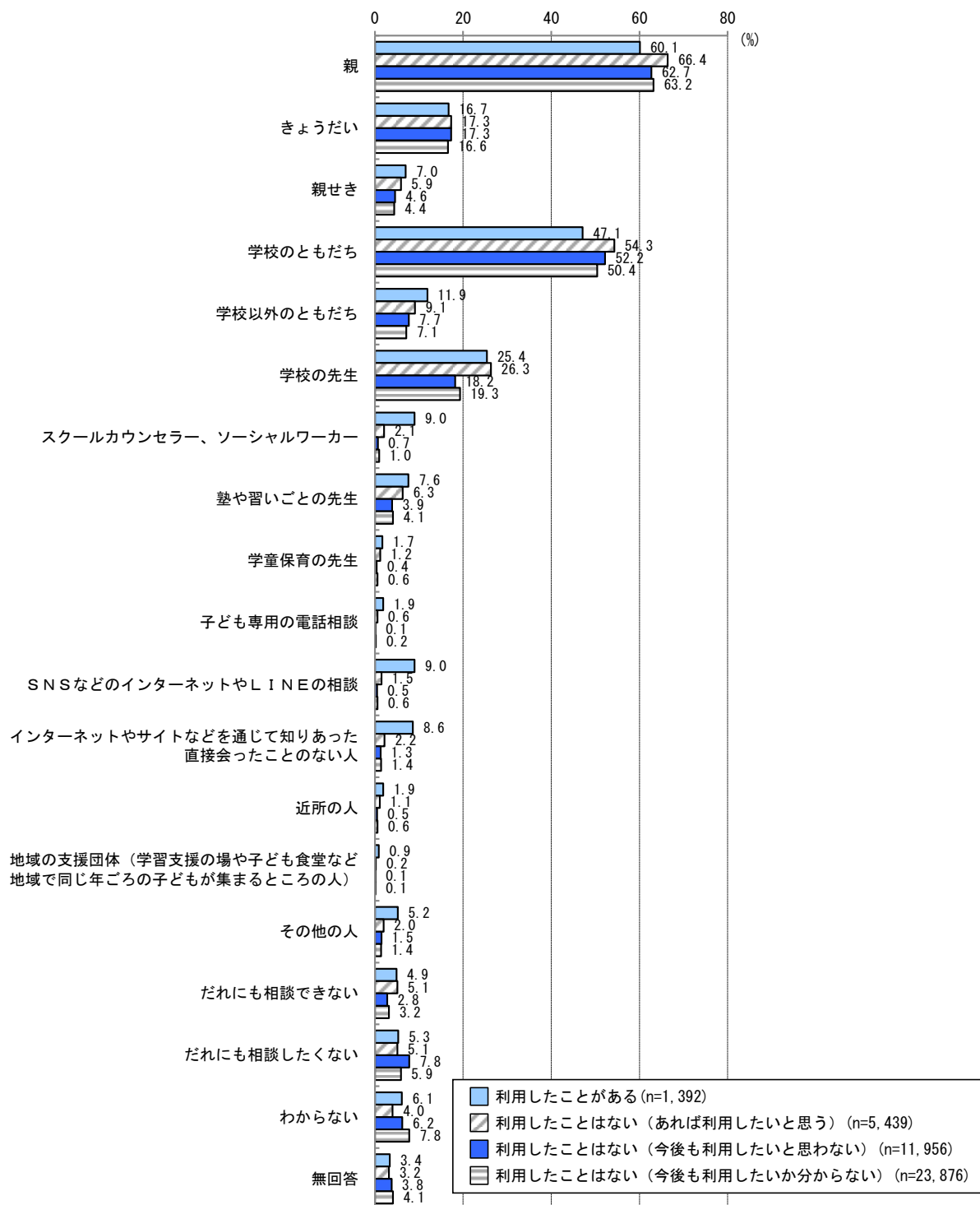


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」、「学校のともだち」、「学校以外のともだち」、「学校の先生」、「塾や習いごとの先生」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

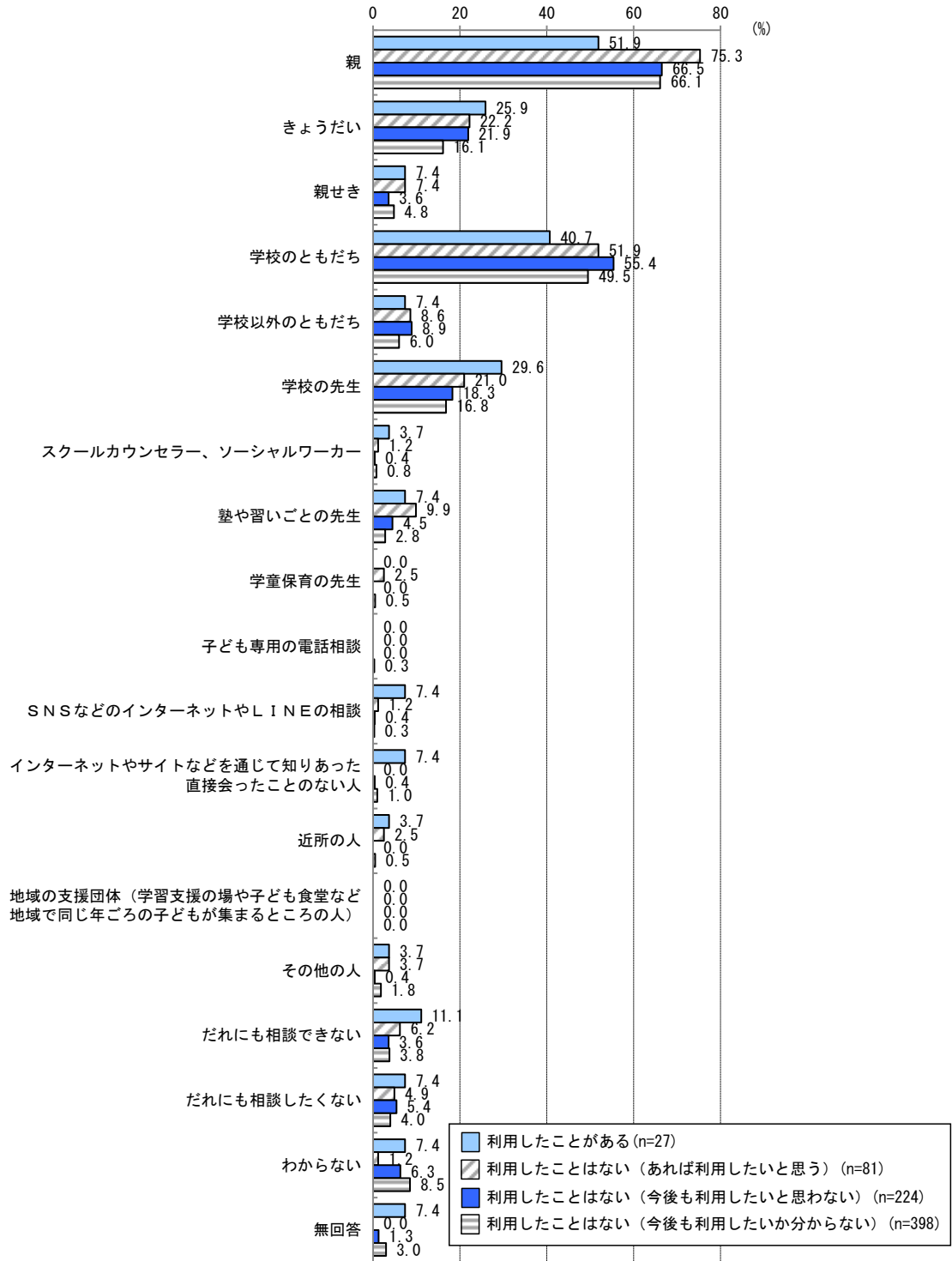
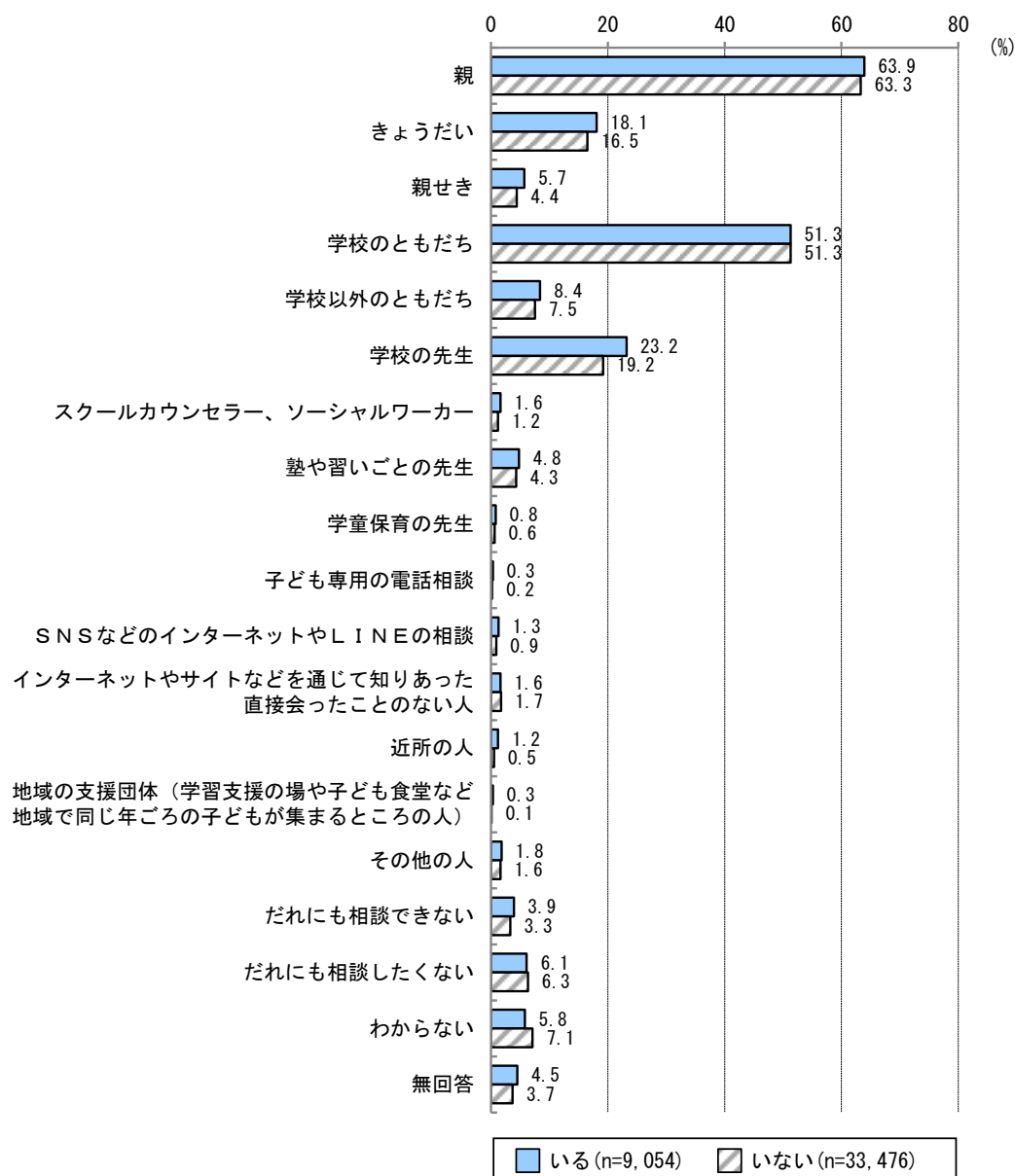


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」「学校のともだち」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

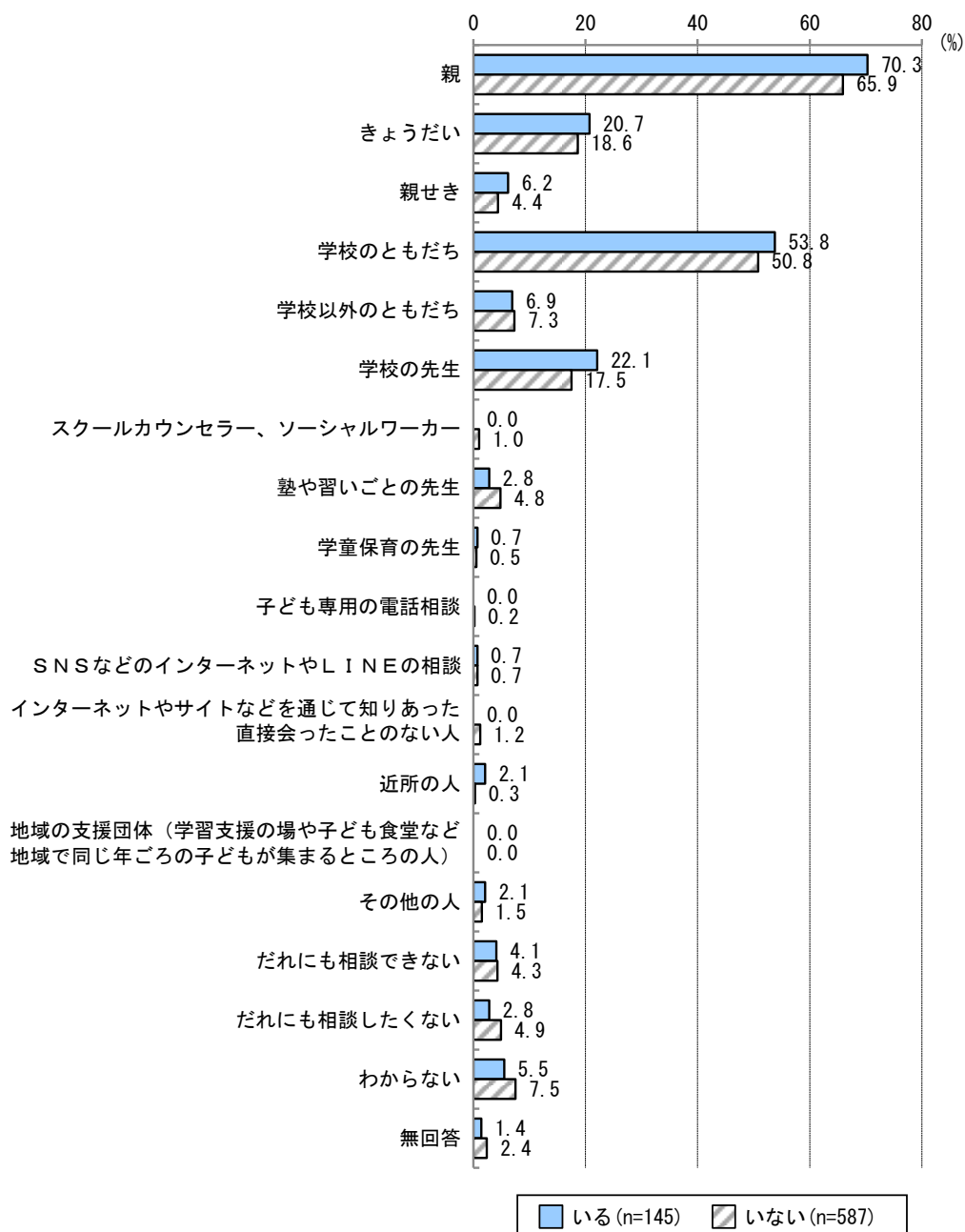
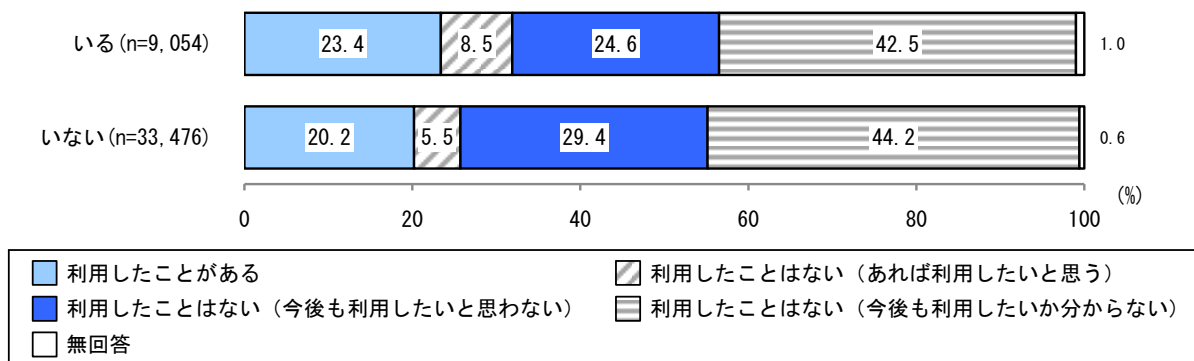


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「親」「きょうだい」「親せき」「学校のともだち」「学校の先生」「近所の人」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

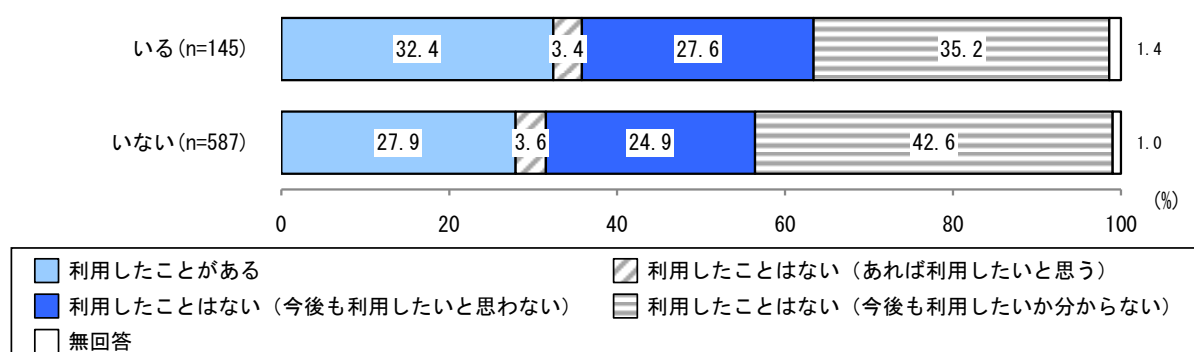
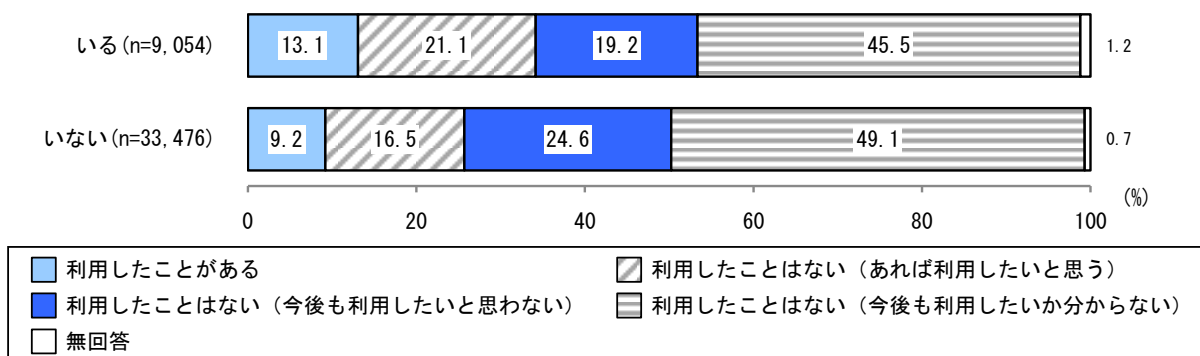


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

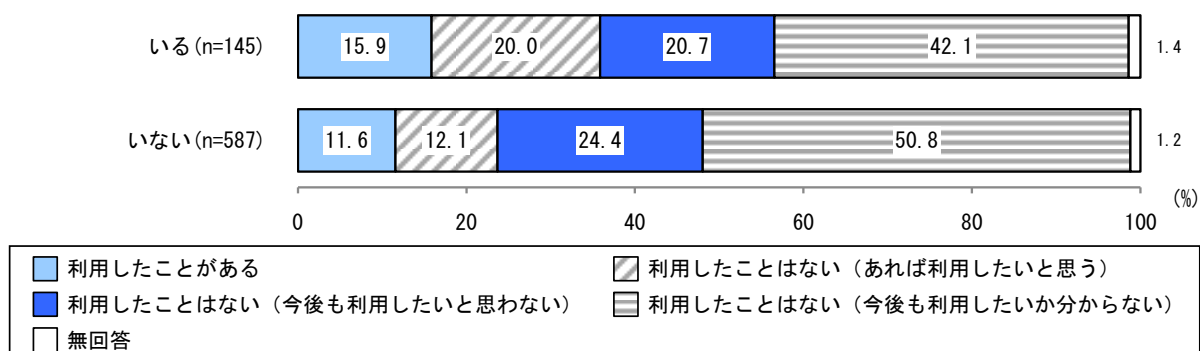
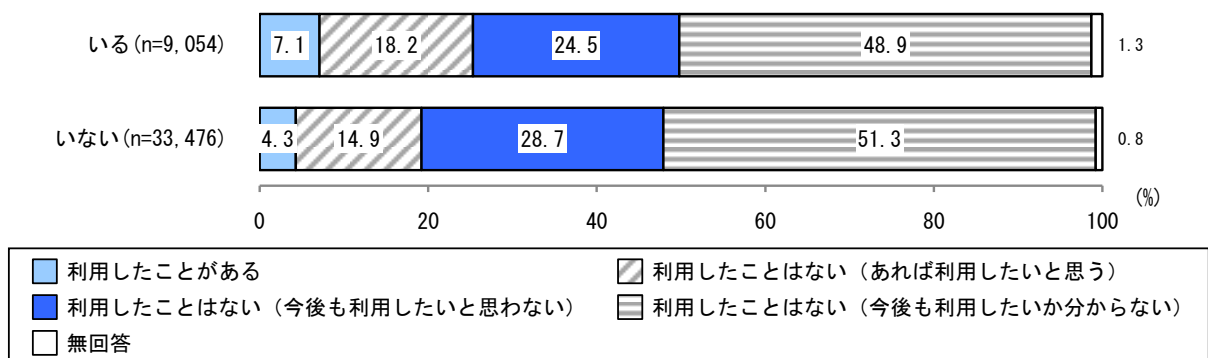


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

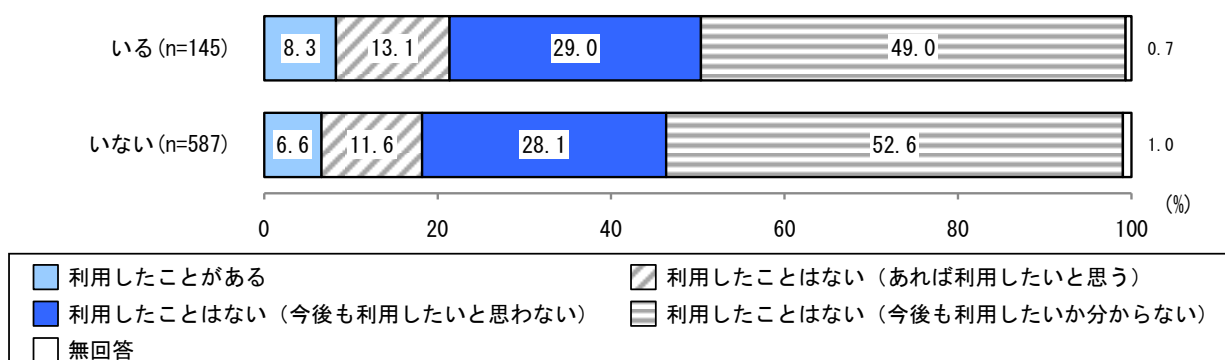
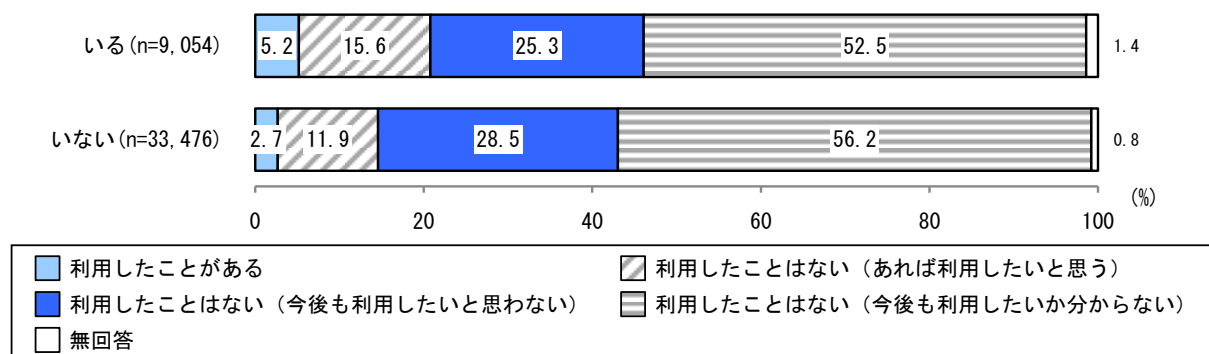


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」「利用したことはない (今後も利用したいと思わない)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

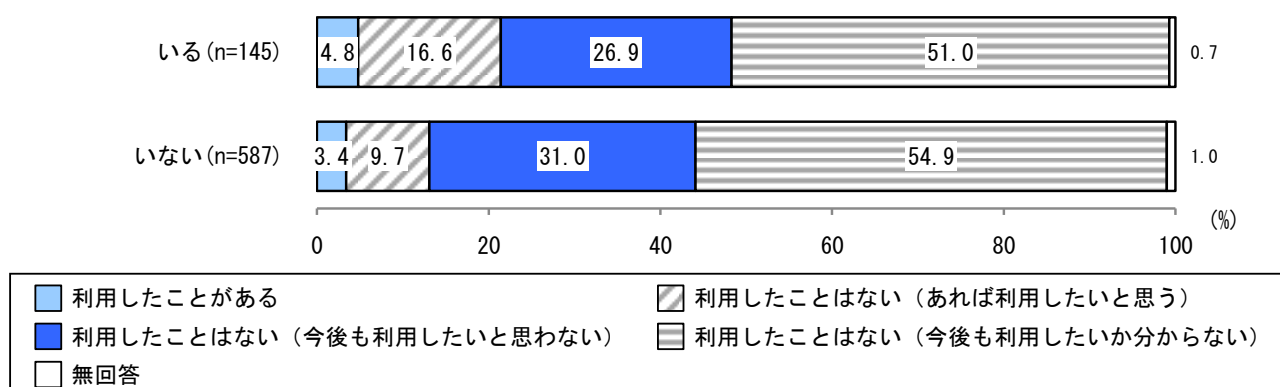
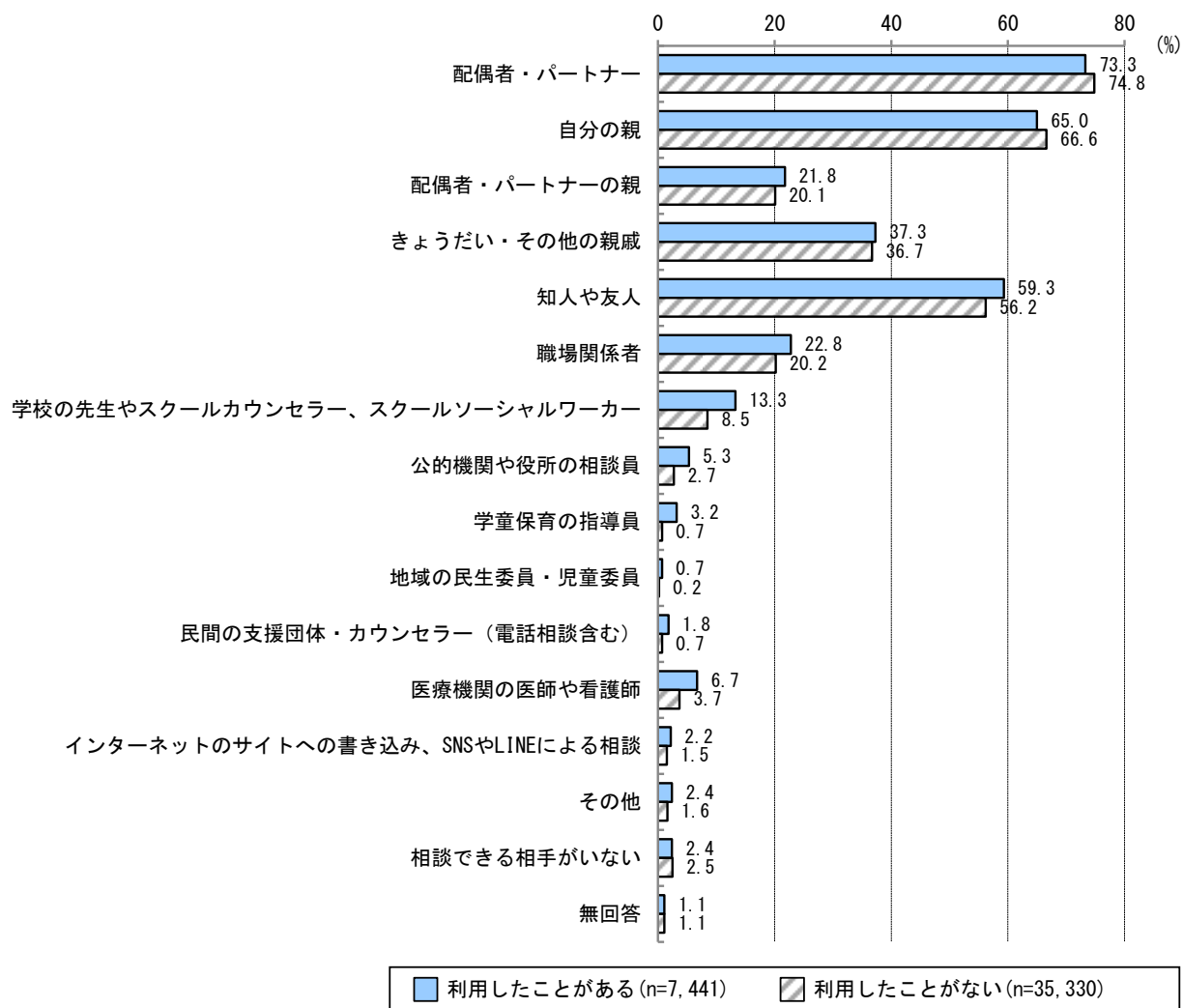


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

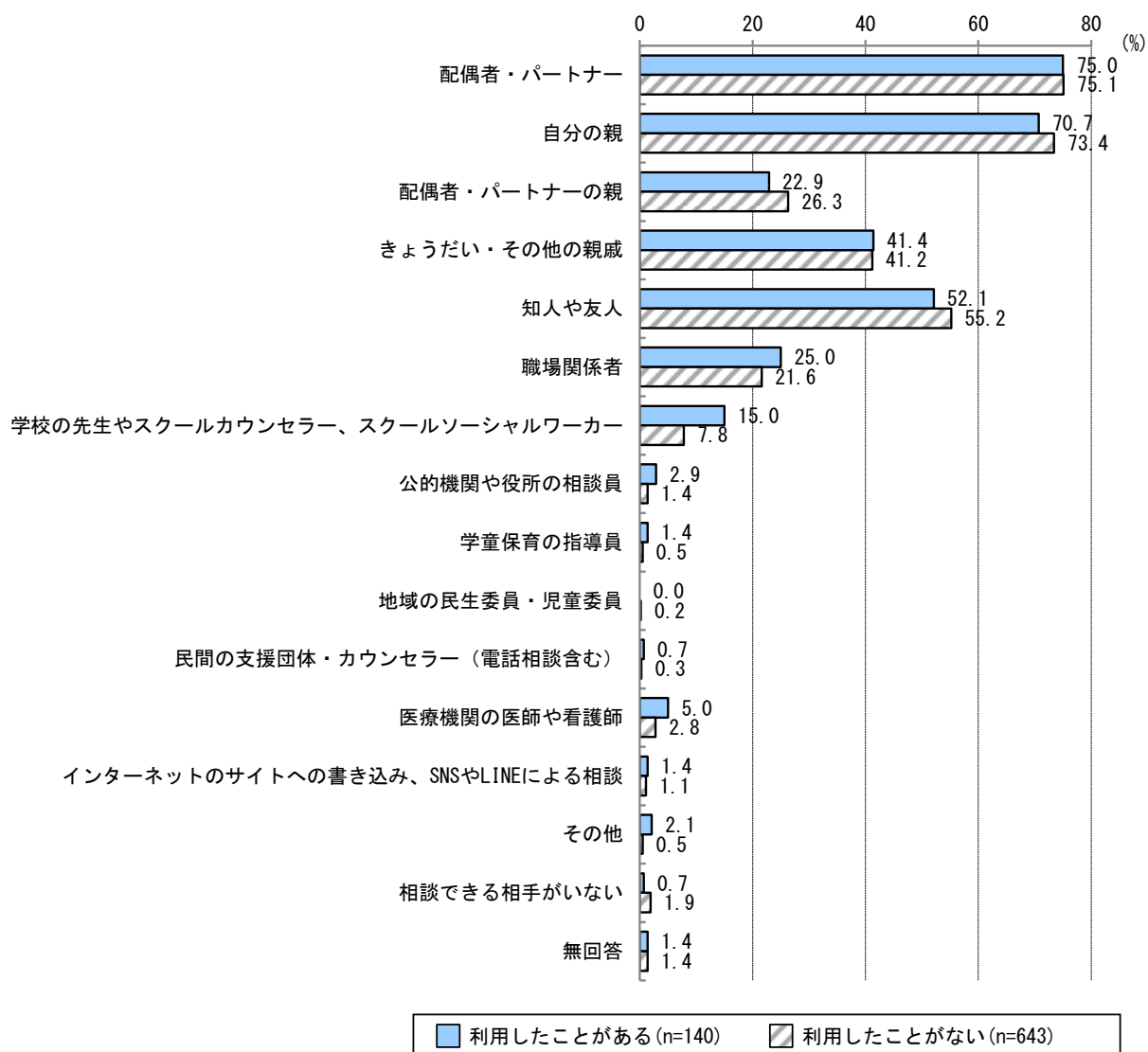
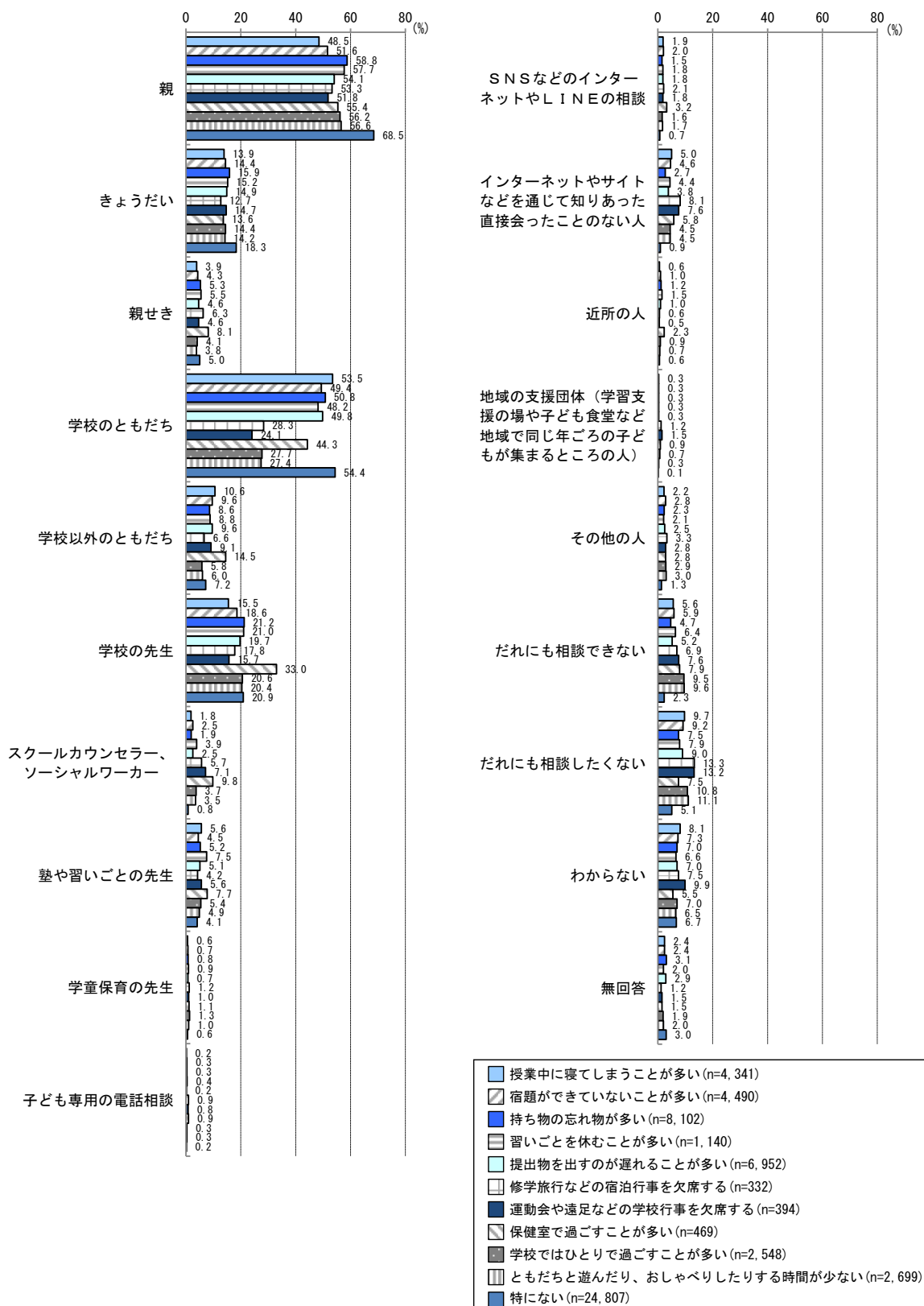


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者やパートナー」、「自分の親」、「配偶者・パートナーの親」、「知人や友人」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

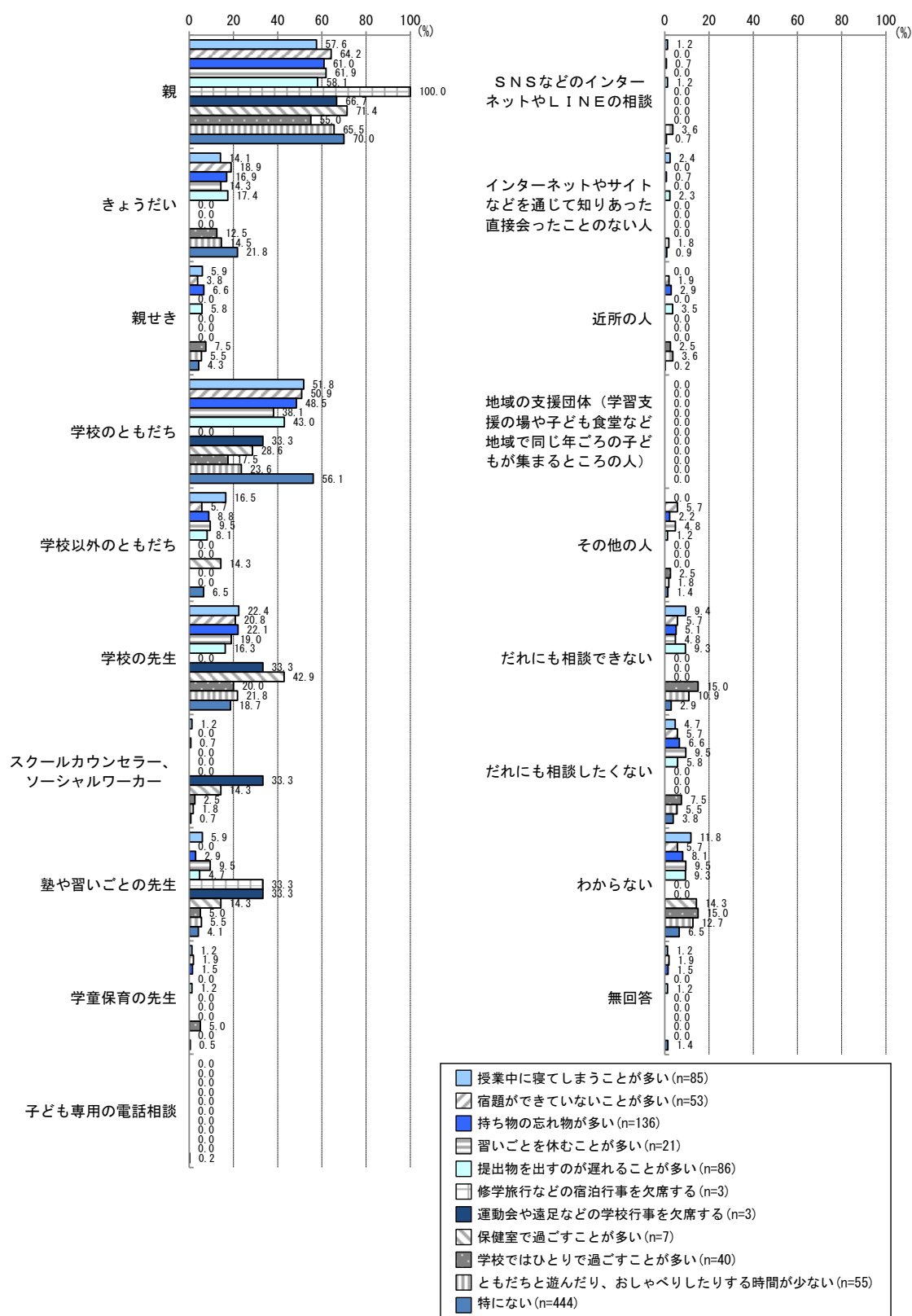
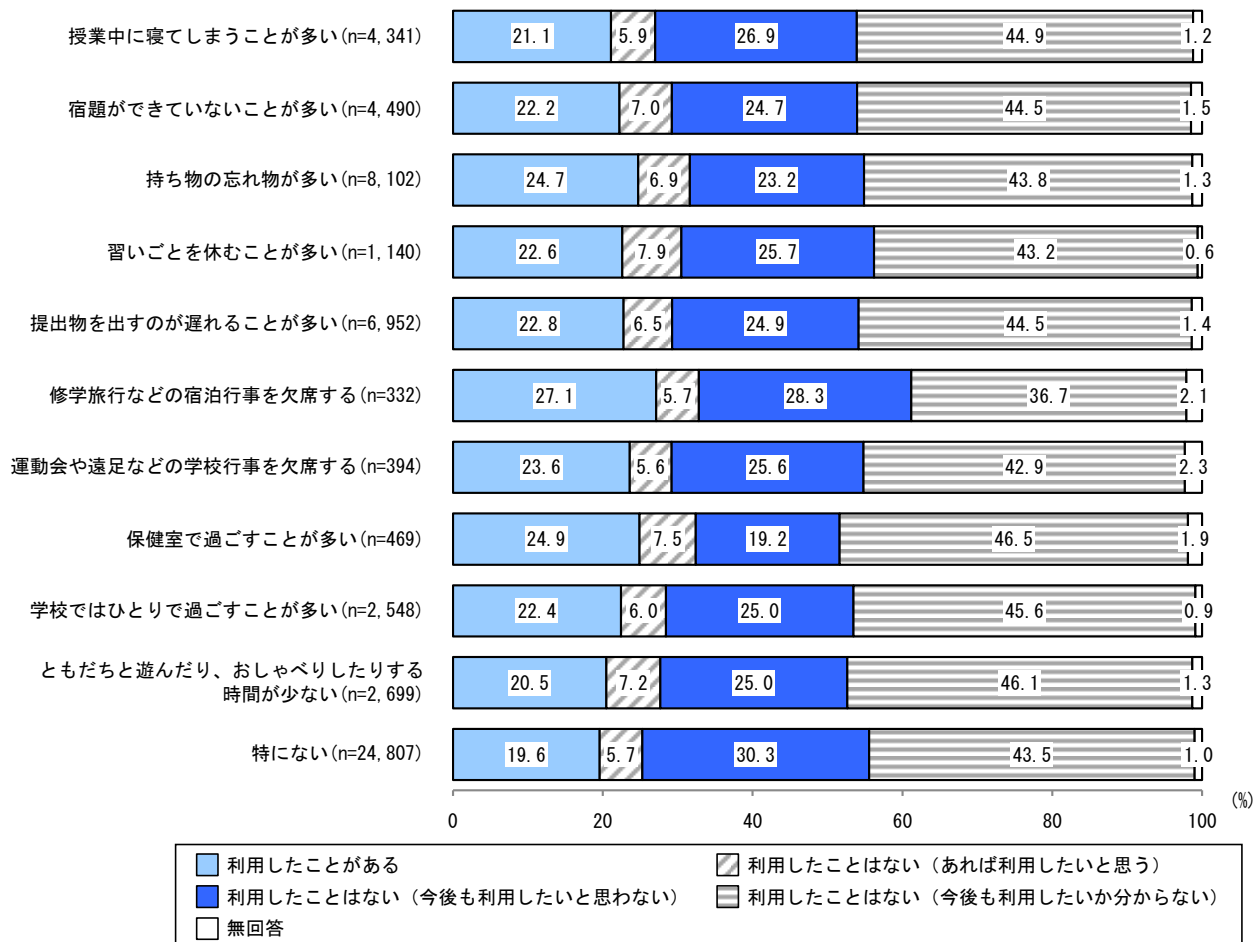


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した人の割合が100.0%で最も高く、「学校ではひとりで過ごすことが多い」と回答した人の割合が55.5%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

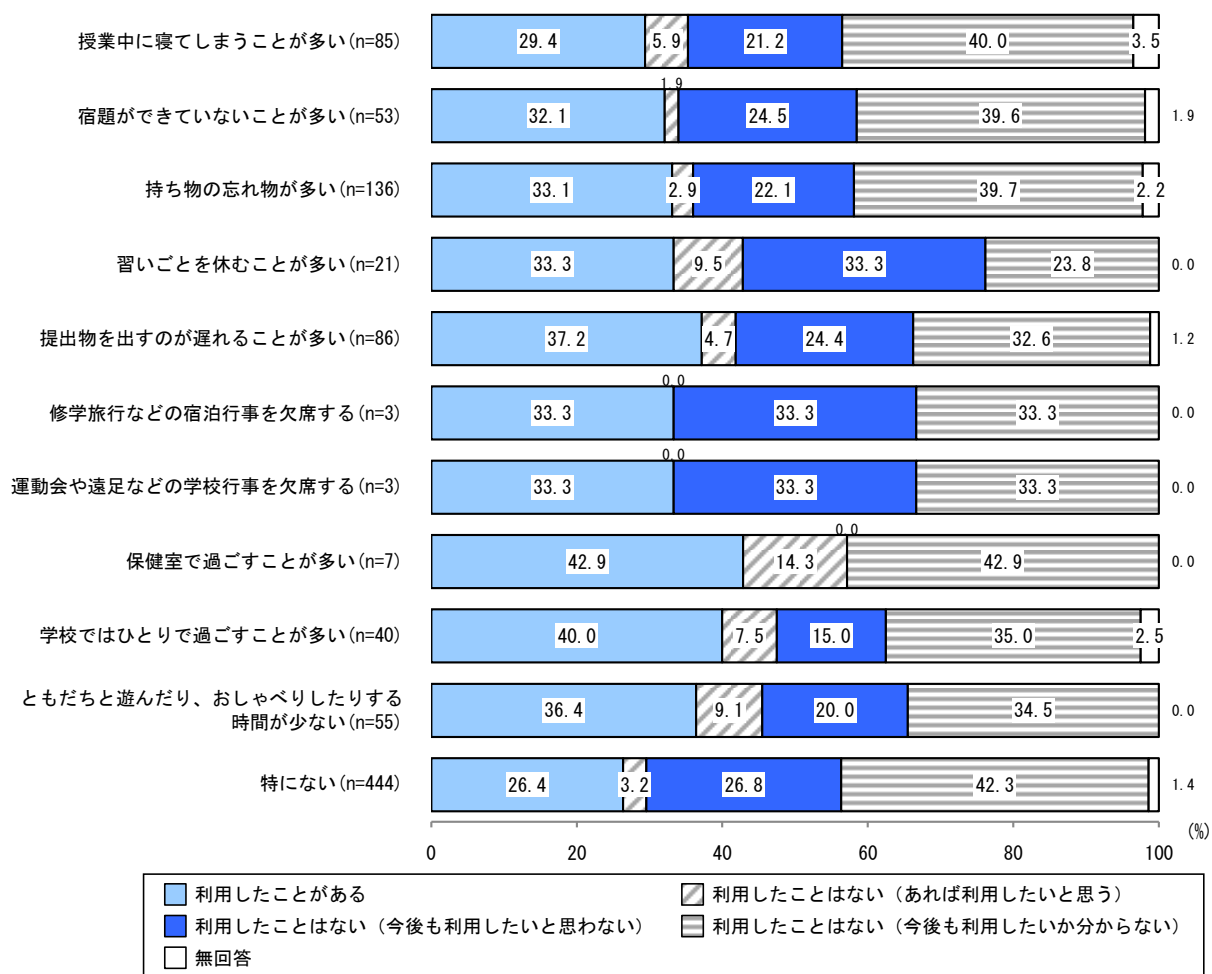
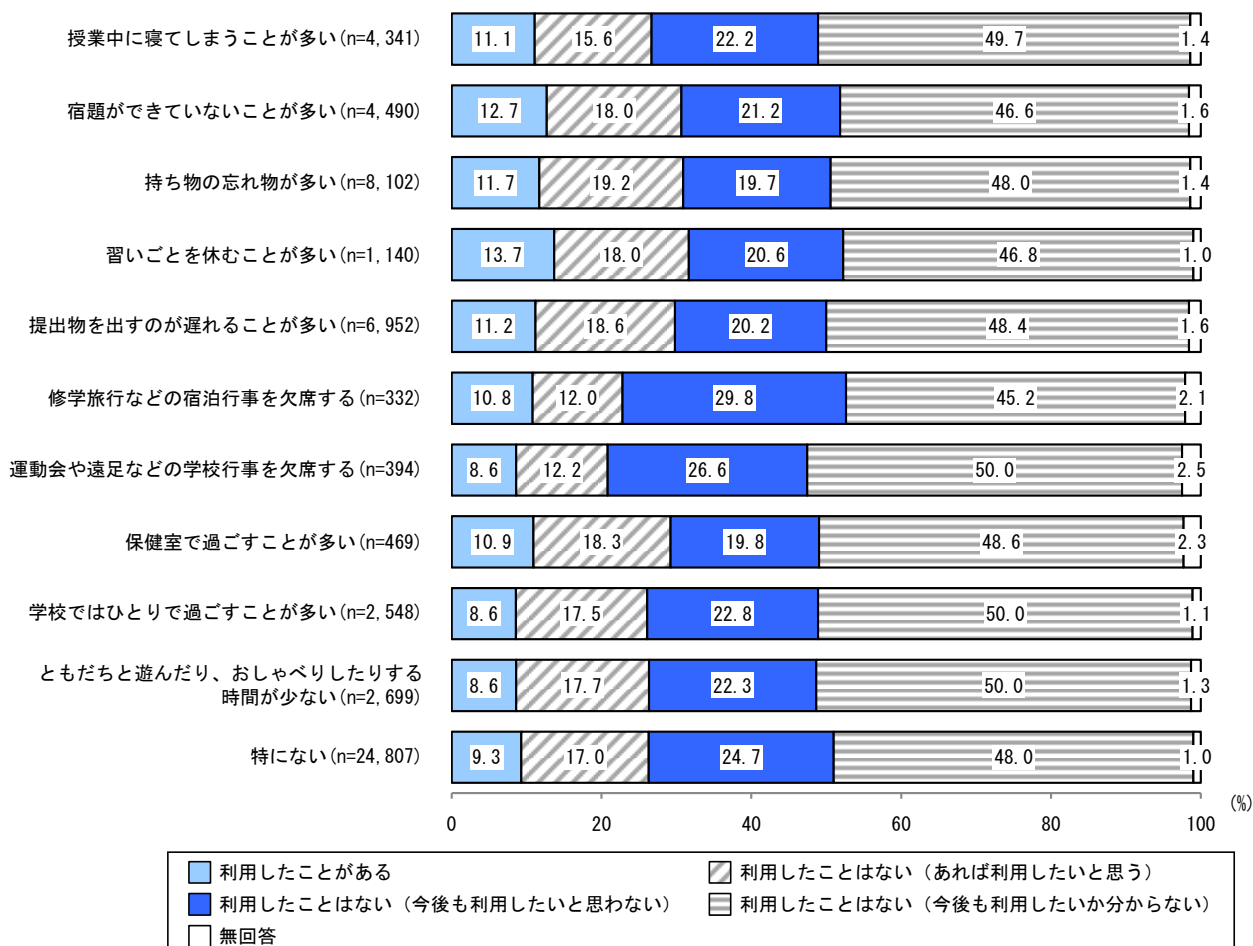


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「特にない」が26.4%で最も低く、次いで「授業中に寝てしまうことが多い」が29.4%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

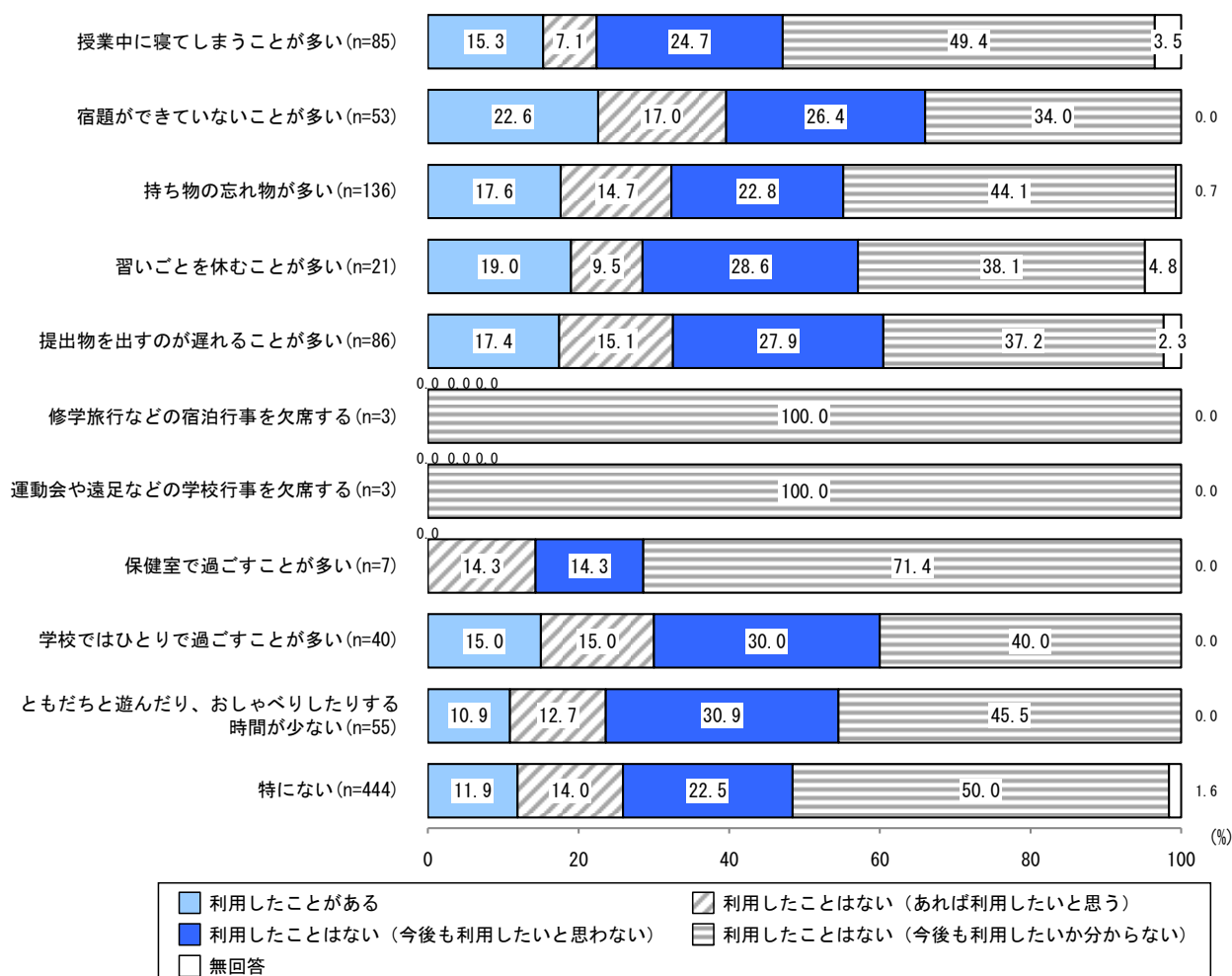
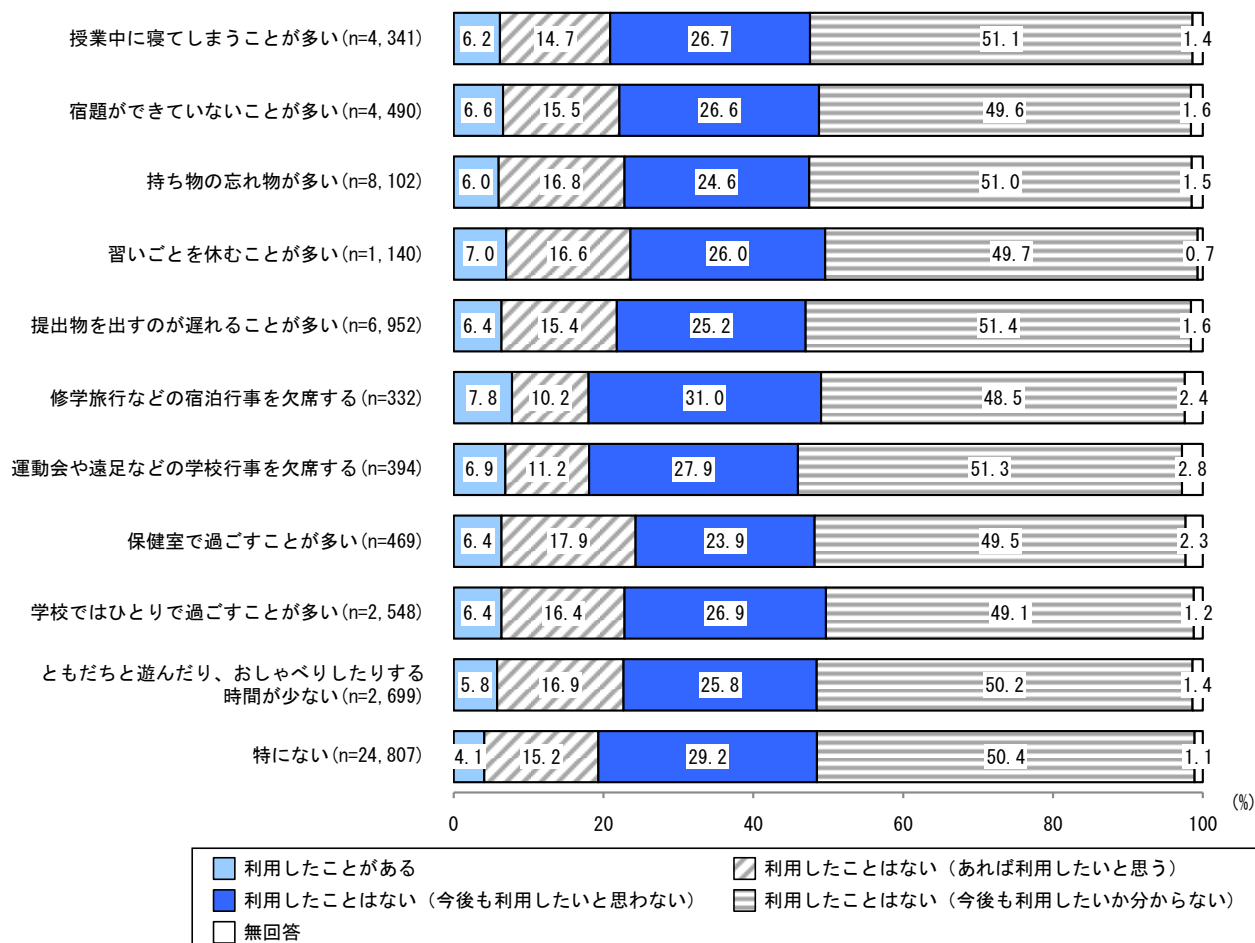


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「宿題ができていないことが多い」が22.6%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

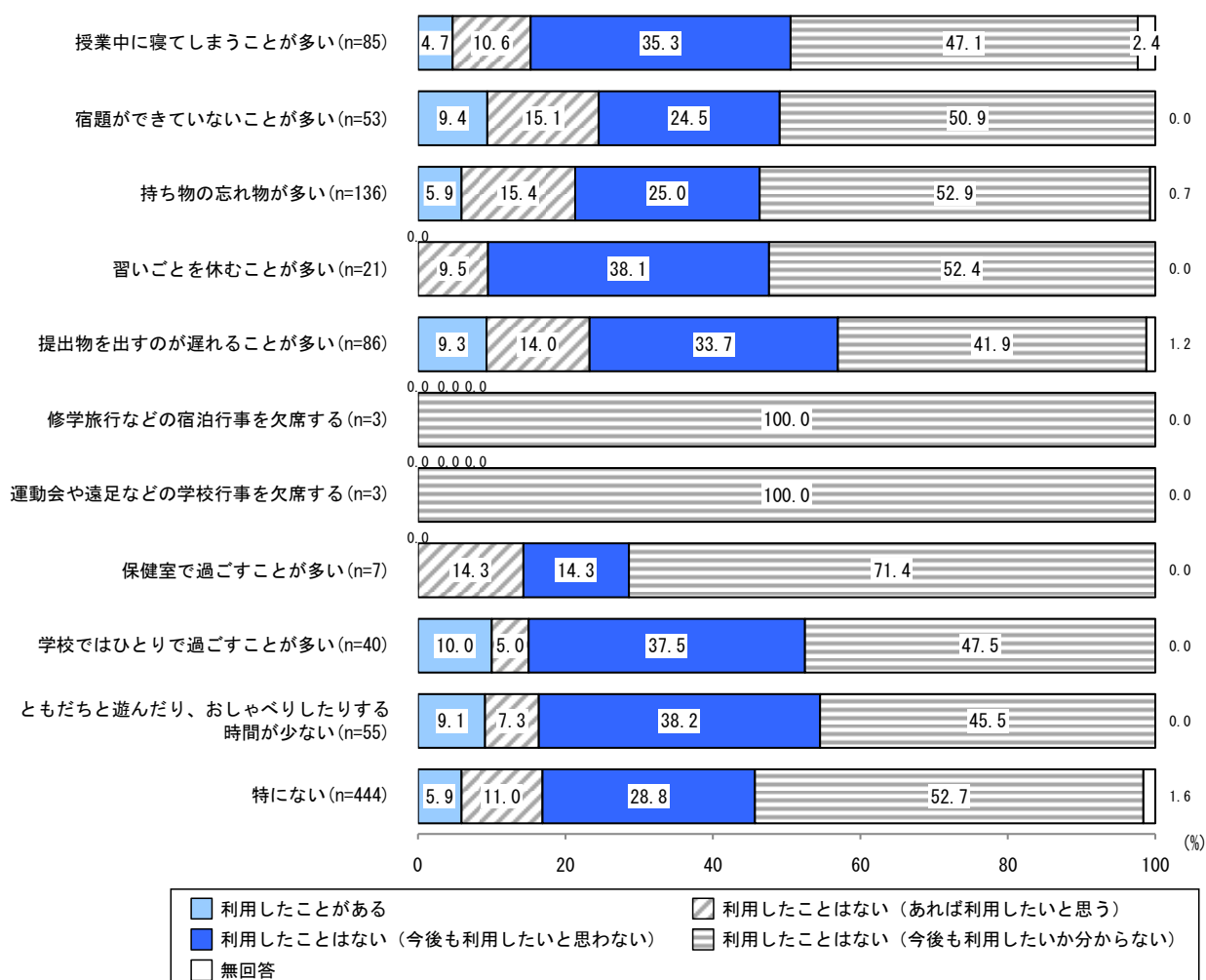
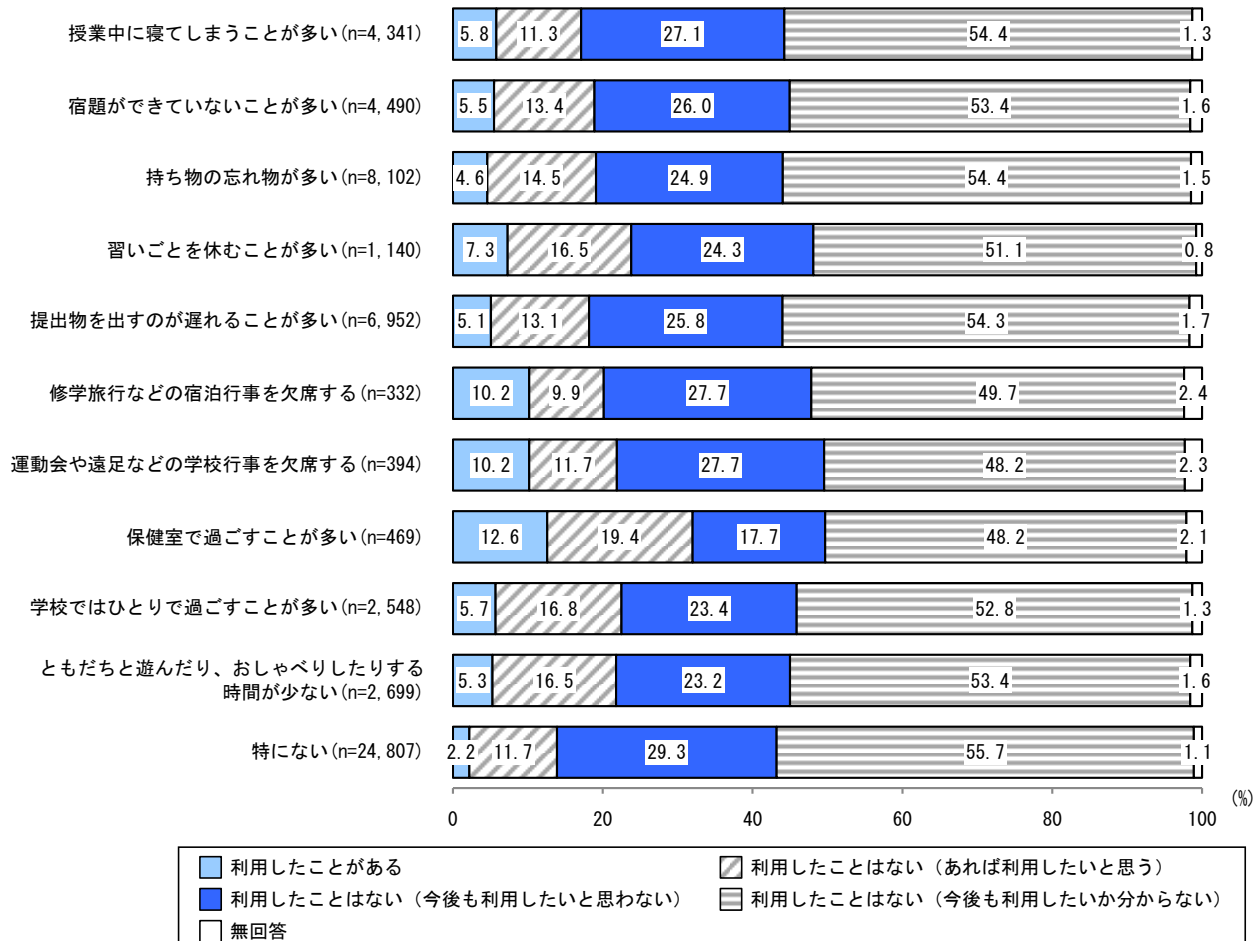


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「学校ではひとりで過ごすことが多い」が10.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

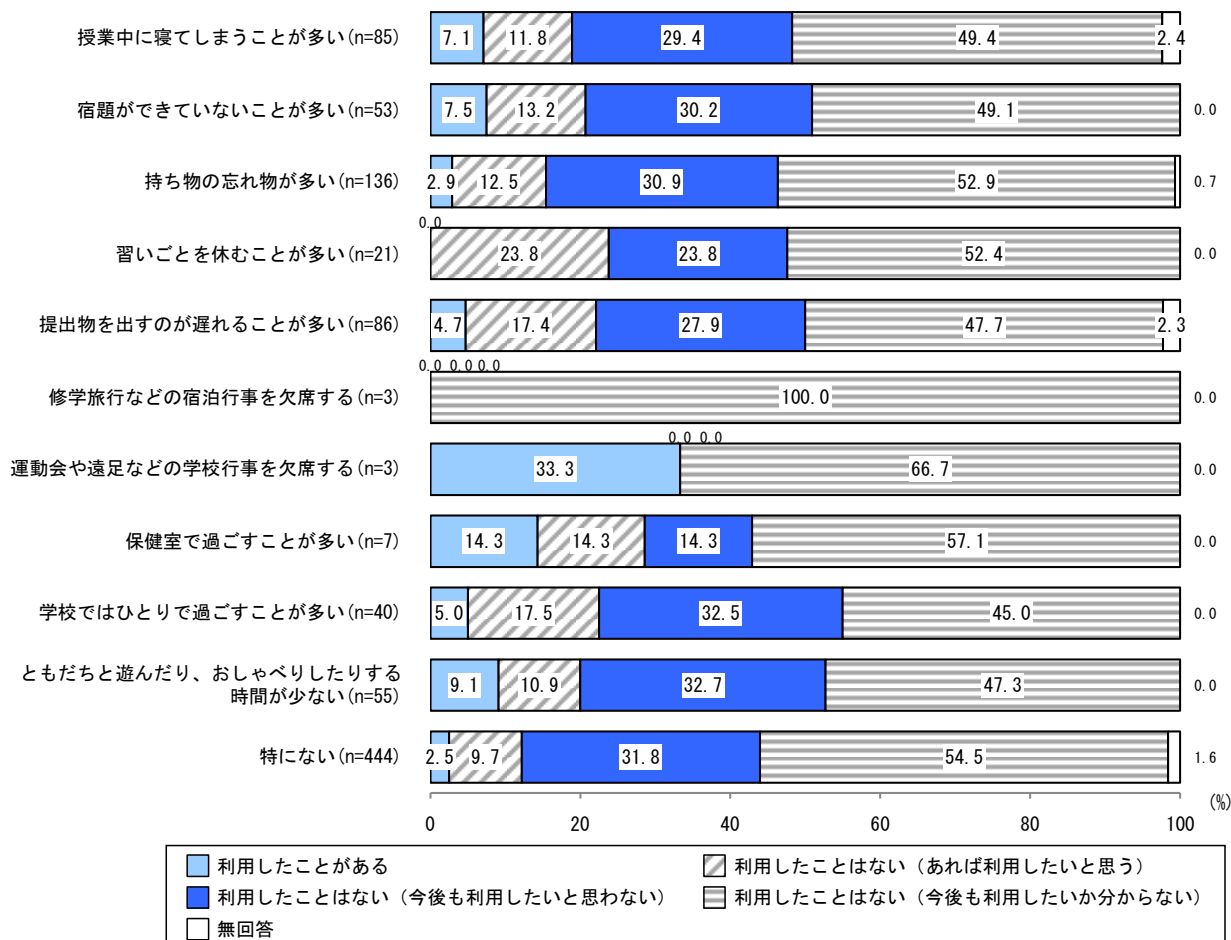
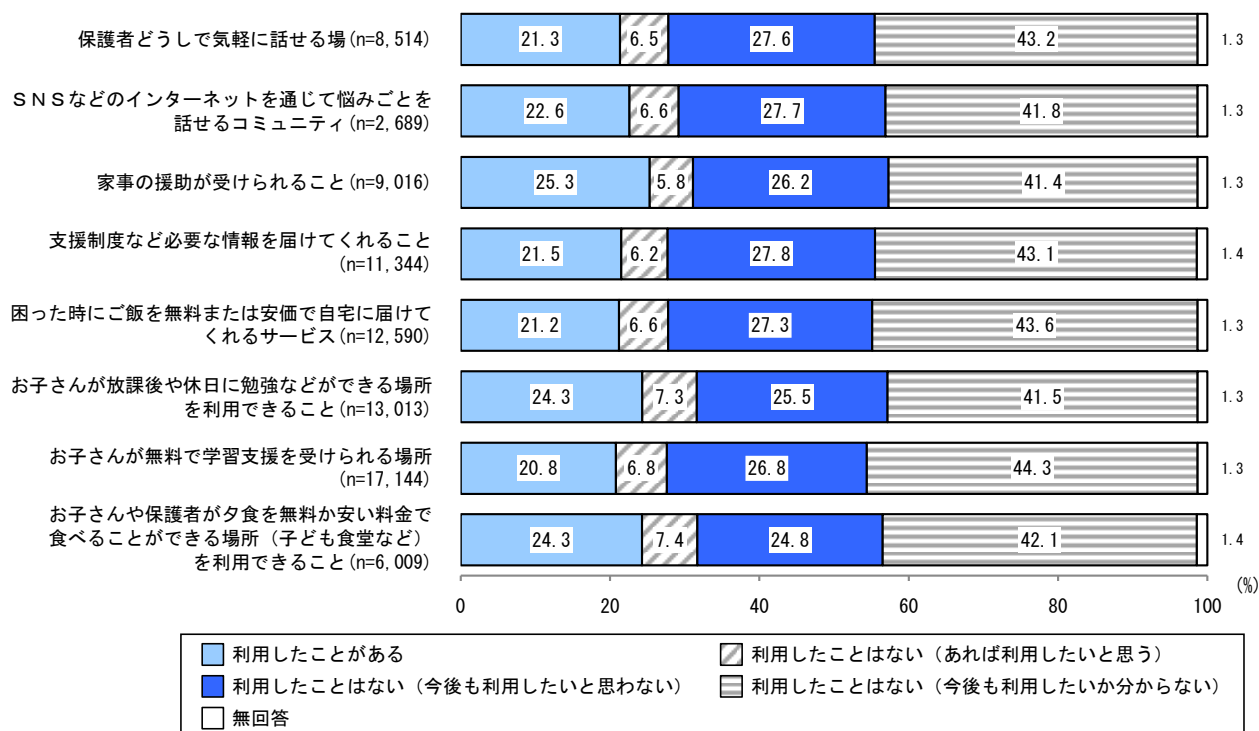


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が33.3%で最も高く、次いで「保健室で過ごすことが多い」が14.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

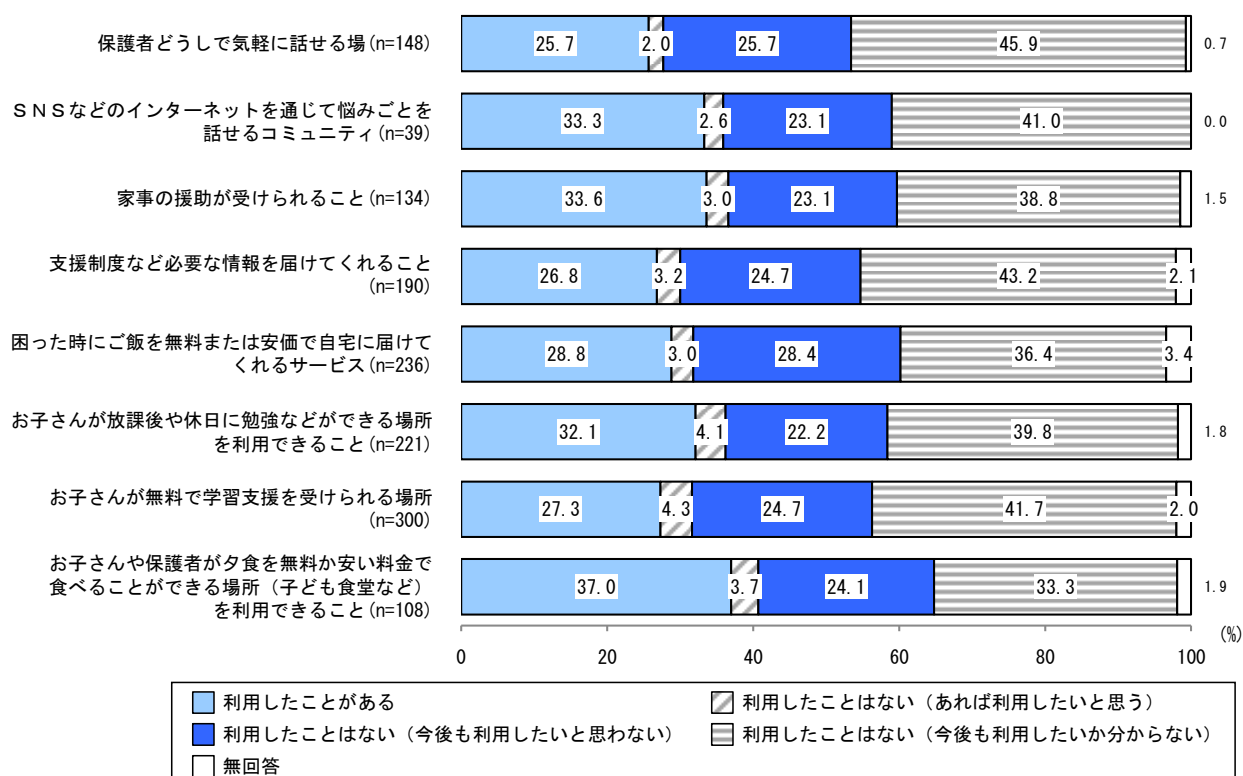
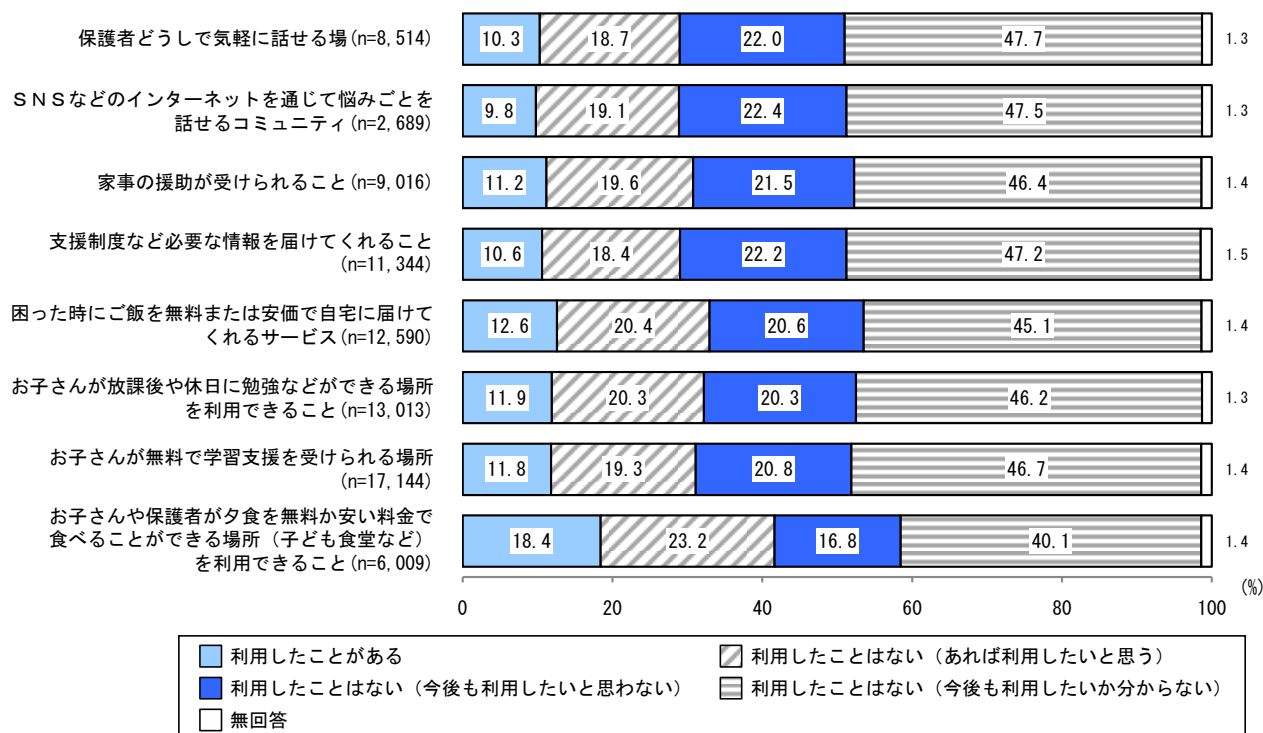


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が37.0%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が33.6%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

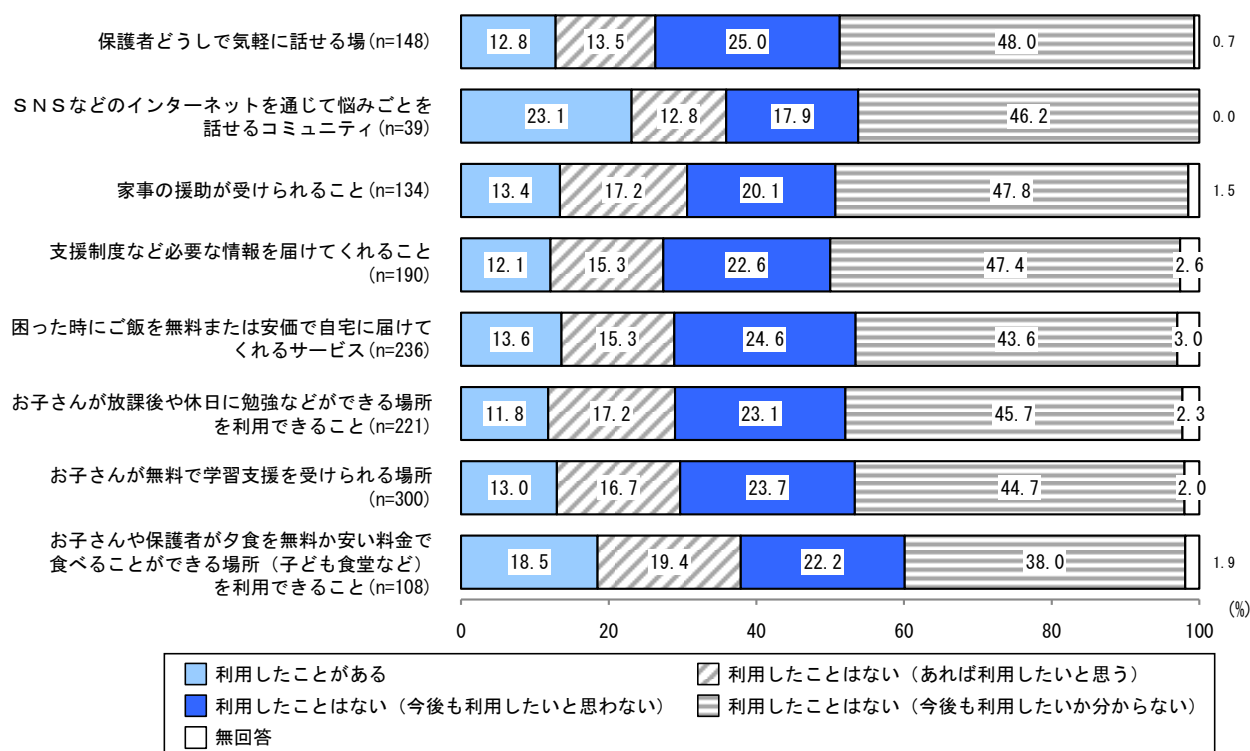
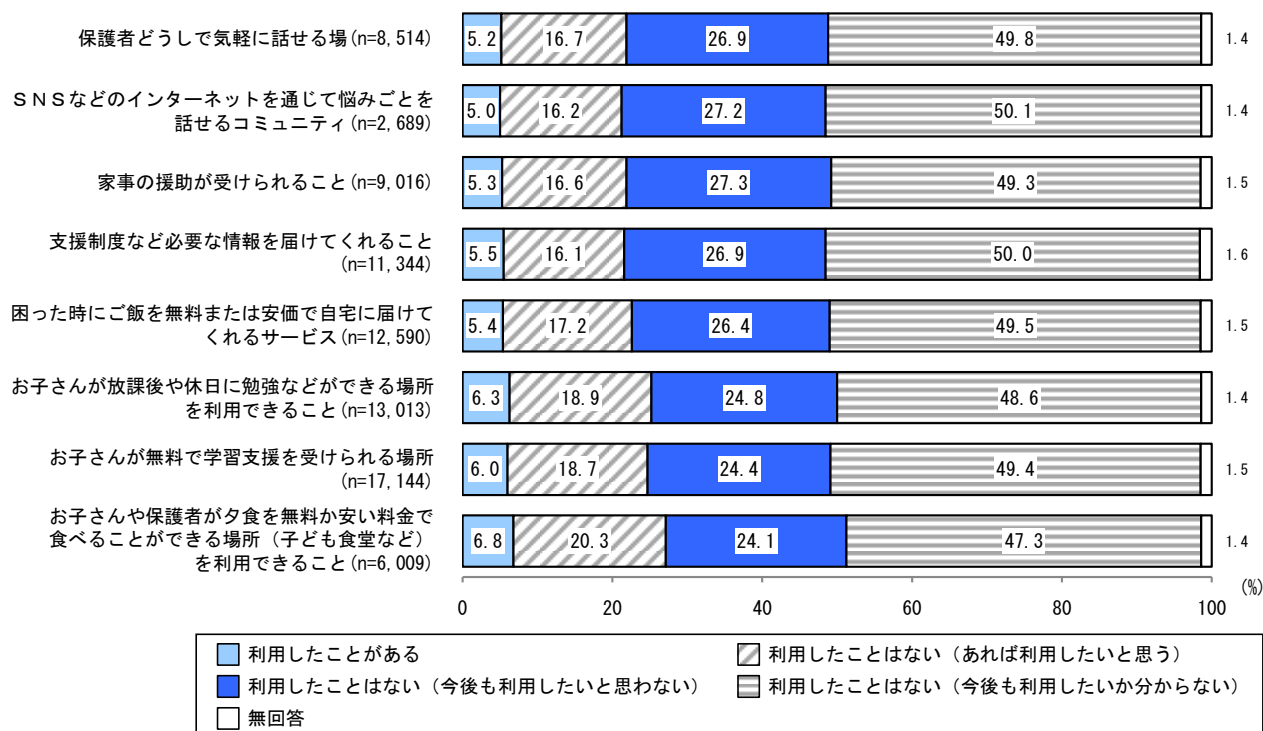


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が23.1%で最も高く、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」では「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が19.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



＜泉佐野市＞

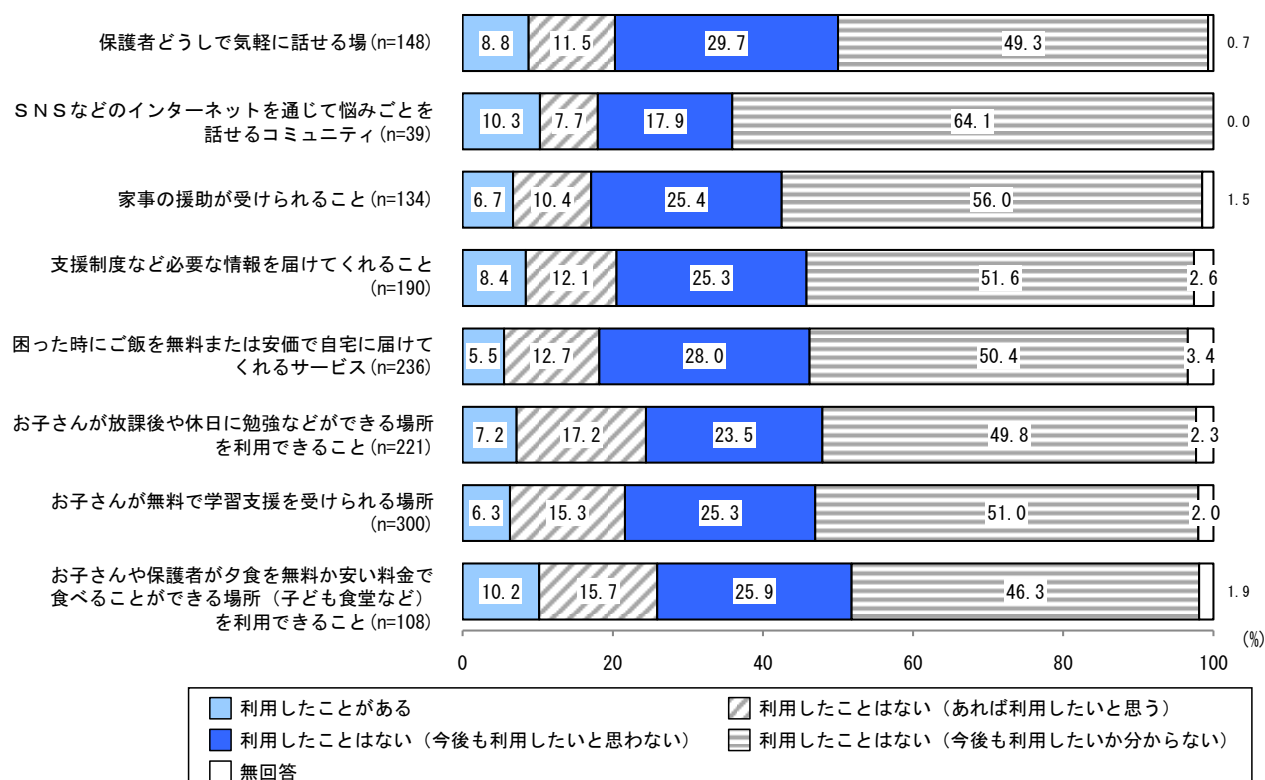
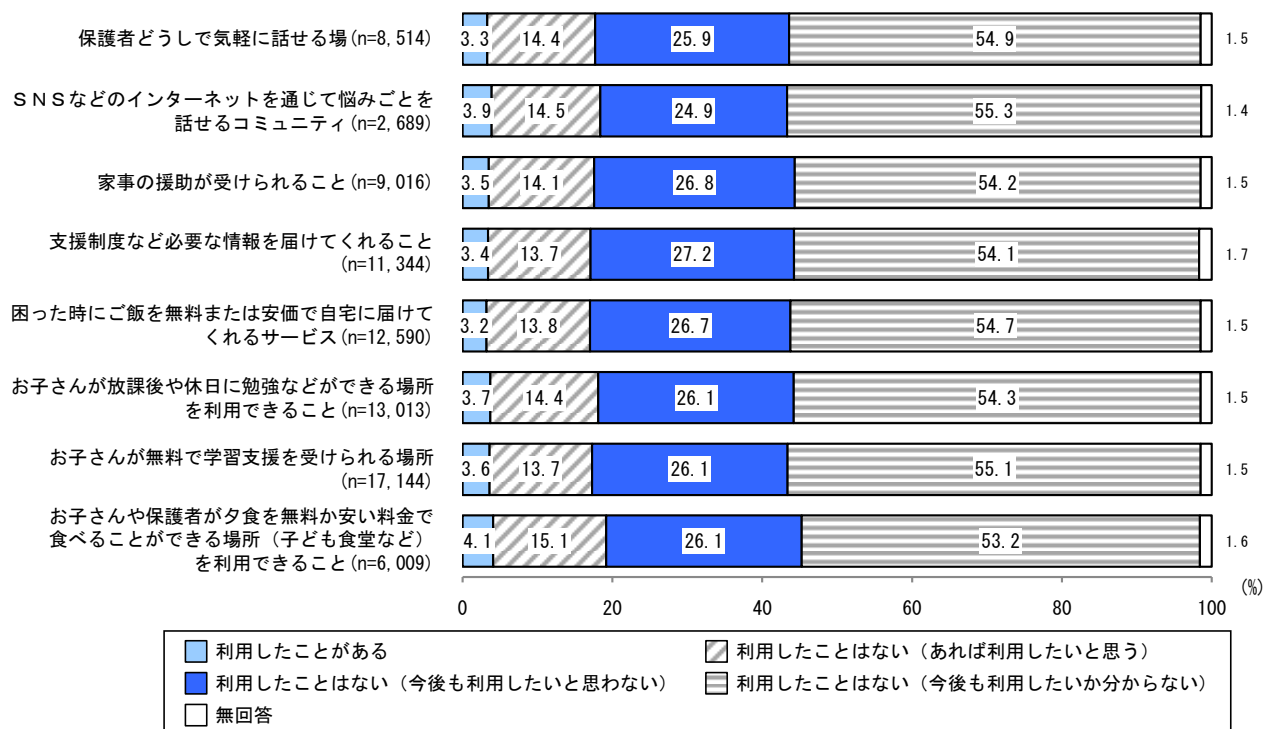


図 191. 身近にあるといいと思うこと等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が10.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

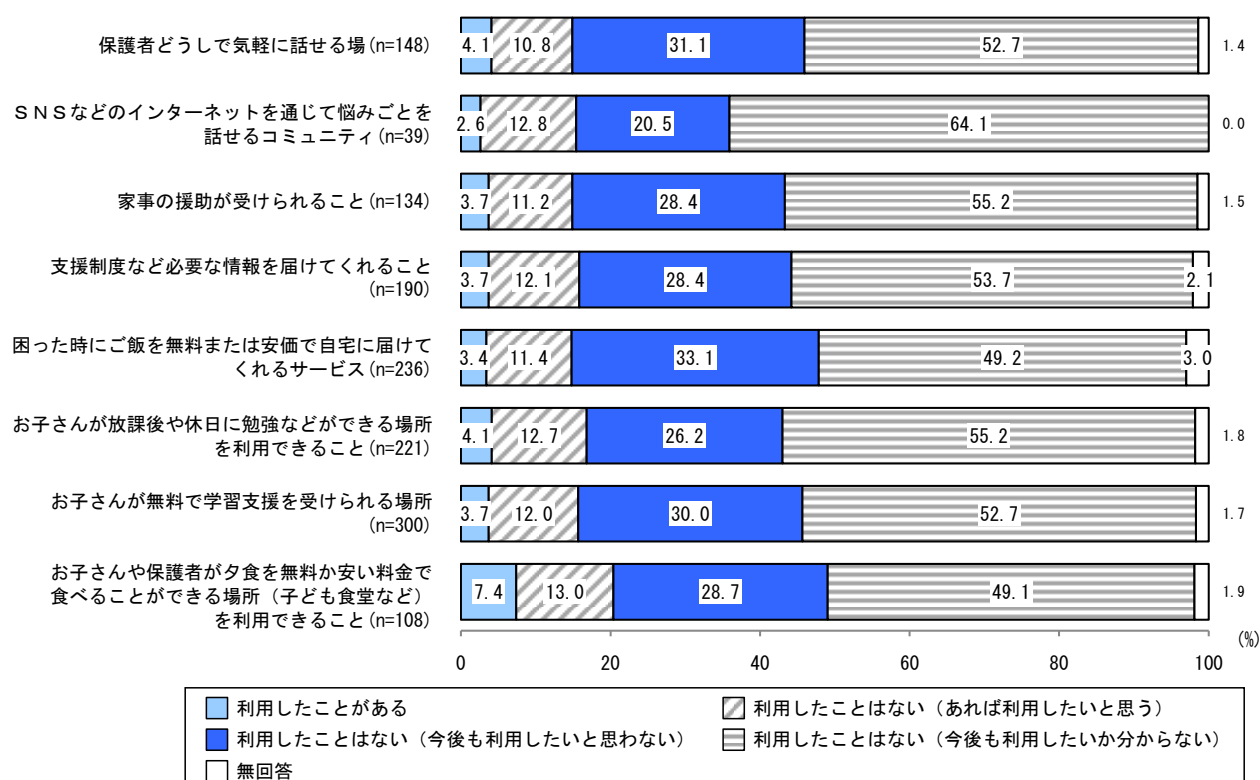
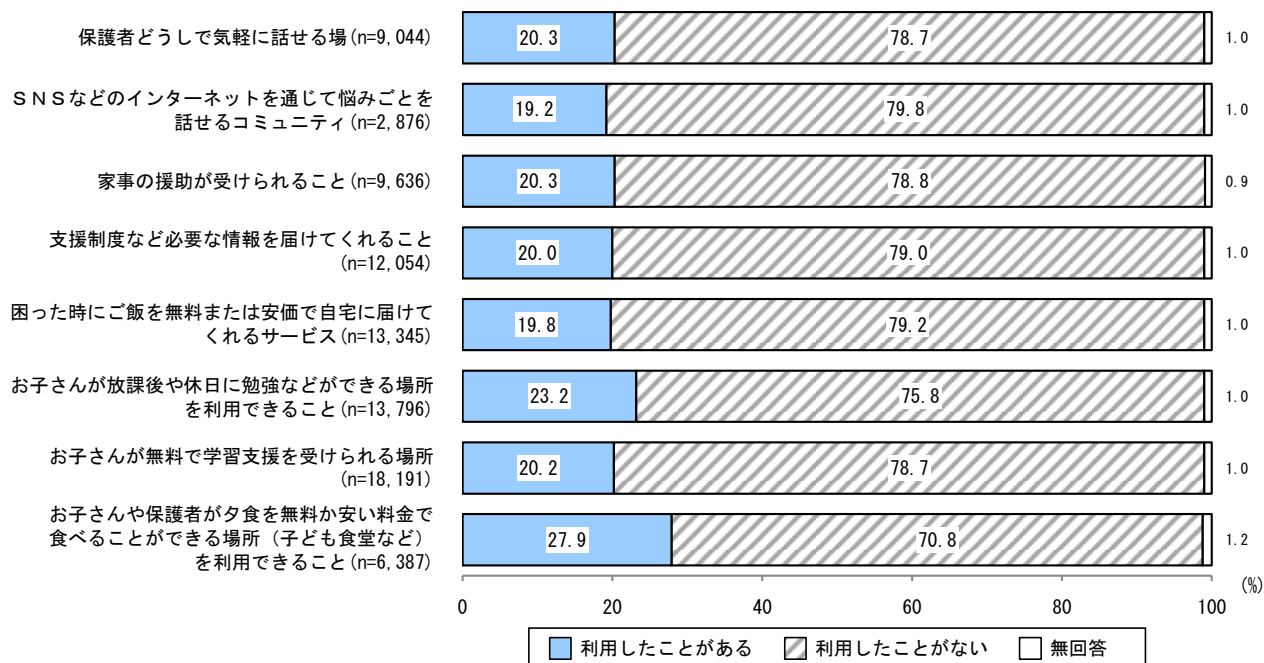


図 192. 身近にあるといいと思うこと等の状況別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」及び「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が最も高く、7.4%、13.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<泉佐野市>

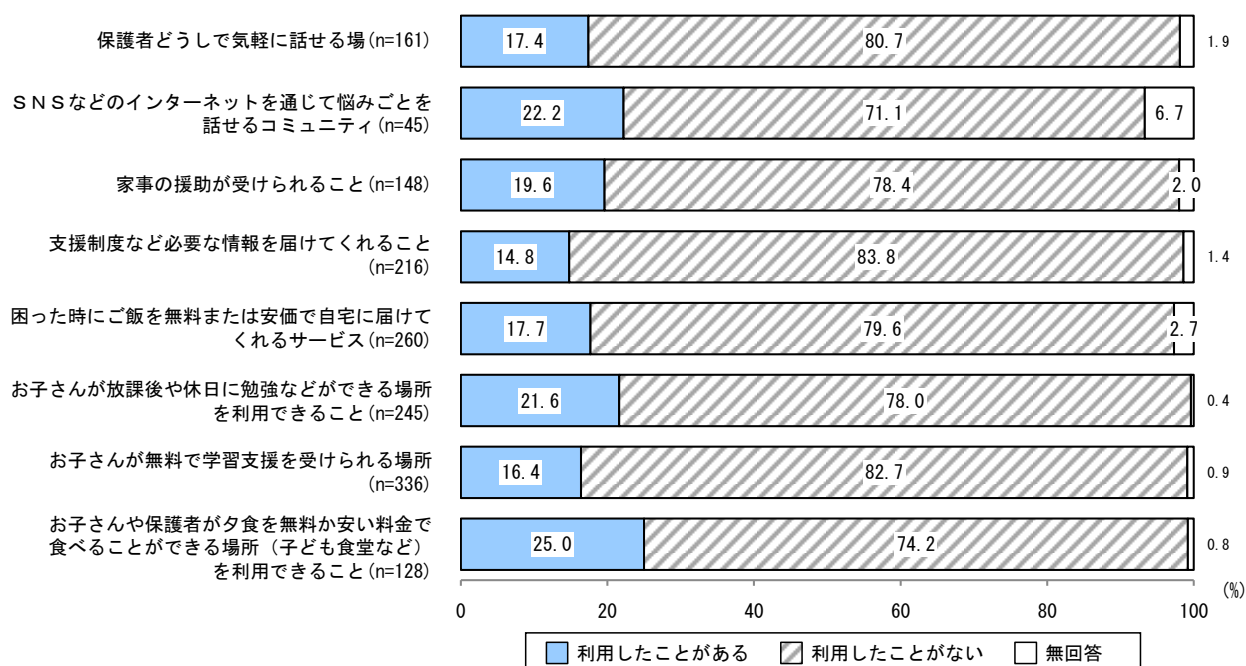
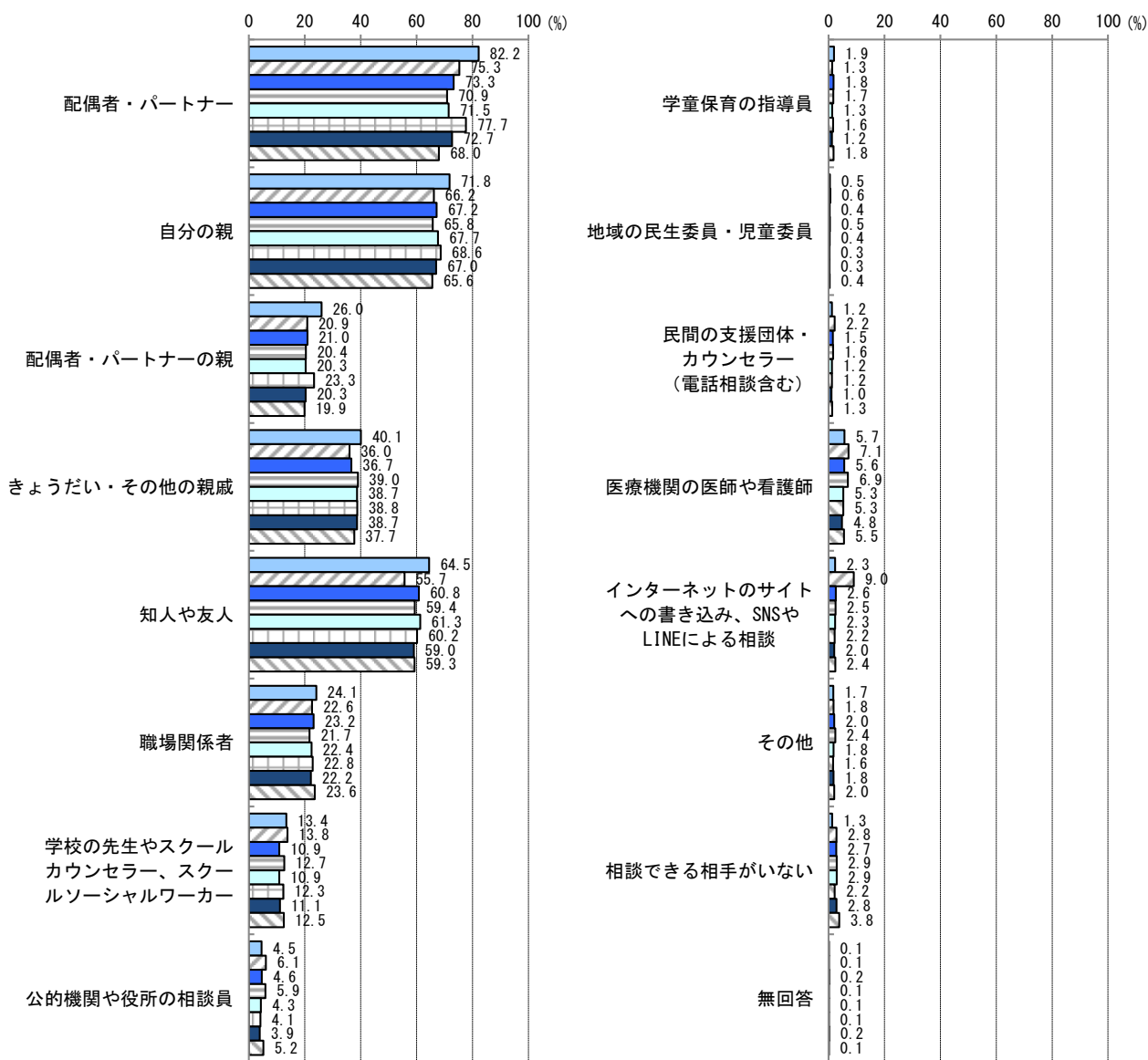


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が25.0%で最も高く、次いで「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が22.2%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9, 044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2, 876)
- 家事の援助が受けられること (n=9, 636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12, 054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13, 345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13, 796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18, 191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6, 387)

<泉佐野市>

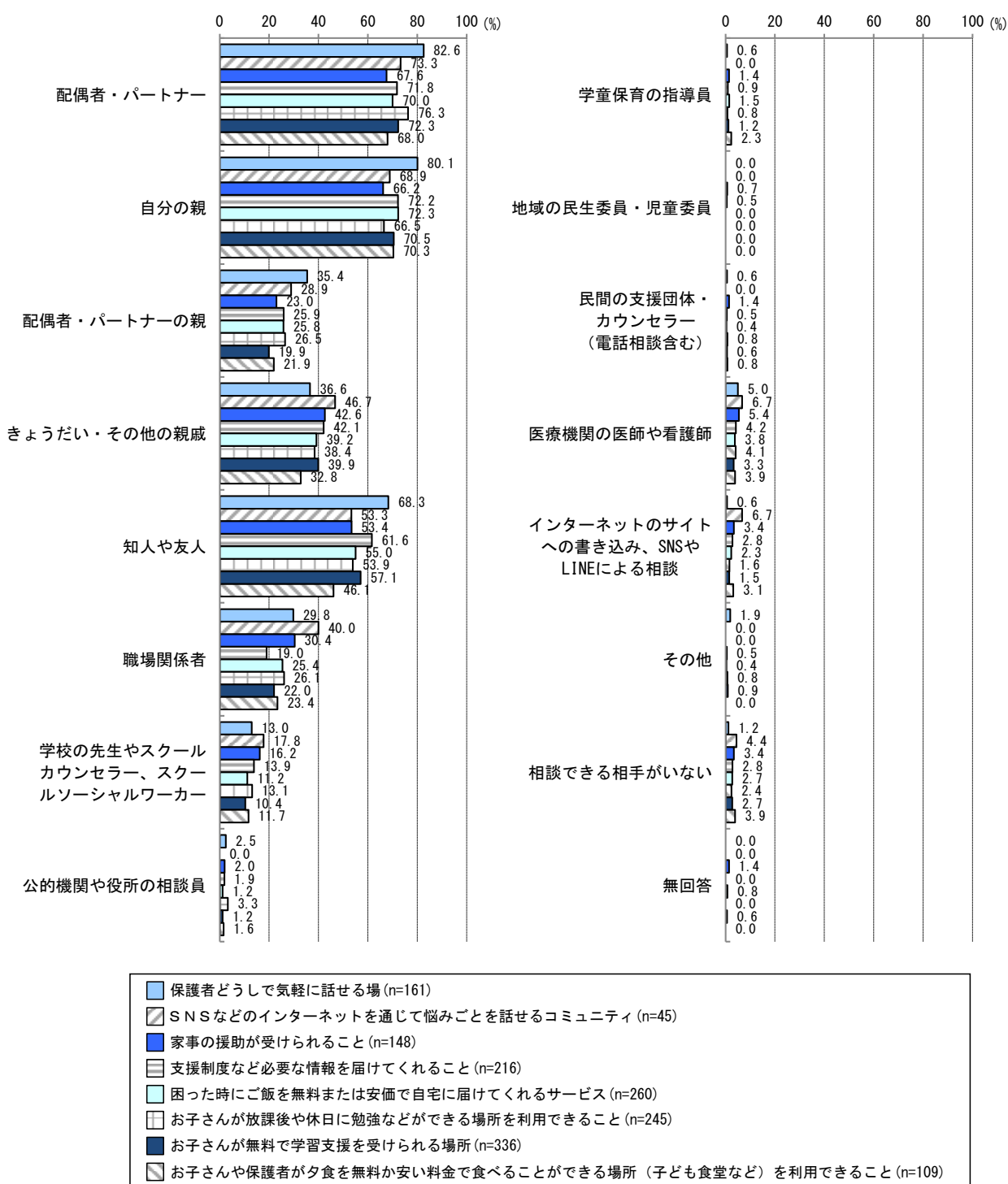


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が82.6%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が76.3%となっている。

<対人関係に関する考察>

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目した分析結果を以下にまとめる。子どもが「放課後に過ごす場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾」(30.3%対17.7%)の利用率が約13ポイント高くなっている。次いで「習いごと」(36.6%対25.3%)の利用率が約11ポイント高くなっている。子どもが「放課後に一緒に過ごしている人物」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「おうちの人以外の大人」(26.5%対13.9%)と一緒に過ごす割合が約13ポイント高く、次いで「学校以外のともだち」(11.5%対3.8%)と一緒に過ごす割合が約8ポイント高くなっている。「毎日の生活で楽しいこと」では中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾や習いごとで過ごしているとき」(27.9%対13.9%)が楽しいと考えている子どもの割合が約2倍である。次いで「ひとりで過ごしているとき」(47.0%対40.5%)が楽しいと考えている子どもの割合が6.5ポイント高くなっている。「嫌なことや悩んでいるときの相談相手」では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校の先生」(26.6%対17.4%)を相談相手に選ぶ割合が9.2ポイント高くなっている。また、「学校のともだち」(54.4%対46.7%)を相談相手に選ぶ割合が7.7ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセスが制限されるだけでなく、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されていることが示唆される。しかし一方で、アクセスが制限されていても、子どもの相談相手として学校の先生や学校のともだちが選ばれている点から、学校環境が十分に社会的交流や人間環境を築ける場として機能していると考えられる。

困窮度別に子どもの世話をしている人の有無をみると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、誰かの世話をしている割合が高くなっている(29.1%対16.4%)。また、子どもの世話している人の有無別に相談相手をみると、世話をしている子どもはそうでない子どもと比べて、「親」(70.3%対65.9%)、「きょうだい」(20.7%対18.6%)、「学校のともだち」(53.8%対50.8%)、「学校の先生」(22.1%対17.5%)、「近所の人」(2.1%対0.3%)と相談する割合が高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」(32.4%対27.9%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所」(15.9%対11.6%)、「勉強を無料か安い料金でみてる場所」(8.3%対6.6%)、「何でも相談できる場所」(4.8%対3.4%)といった居場所を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆される。

一方、困窮度別に保護者の相談相手をみると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「配偶者・パートナー」(85.1%対41.3%)に相談する割合が約44ポイント高くなっている。次いで「配偶者・パートナーの親」(29.4%対9.8%)に相談する割合が約20ポイント高く、「きょうだい・その他の親戚」(42.4%対31.5%)に相談する割合が約11ポイント高く、「職場関係者」(27.5%対18.5%)に相談する割合が約9ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「相談できる相手がいない」(4.3%対0.6%)と回答した割合は約7倍である。また世帯構成別の保護者の相談相手をみると、母子世帯群及び父子世帯群はふたり親世帯群と比べ、「相談できる相手がいない」(5.3%及び16.7%対1.1%)割合はそれぞれ約5倍及び約15倍である。これらの結果は、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示唆される。

また、子どもの居場所の利用有無別に保護者の相談相手・相談先をみると、子どもが居場所を利用している家庭群は、そうでない家庭群と比べて、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(15.0%対7.8%)に相談する割合が約7ポイント高くなっている。こ

これらの結果から、子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。しかしながら、困窮度別に「子どもの居場所の利用有無」をみると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、居場所を「利用したことがある」（18.4%対16.3%）割合は同程度である。このことから居場所の利用は十分な効果を生み出すが、その機会提供の積極化が課題であると考えられる。

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては大阪府つまりほかにも各市町村が実施した数値で検討を行う（大阪府は府が直接実施した25市町村分であり前回比較2016年度実施の30市町村分で行う）。各ページにはグラフコメントやクロス分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目など、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないもので、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

1）大阪府共同調査の意義

本調査では、泉佐野市の調査のみならず大阪府内43自治体を共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として泉佐野市の調査結果を裏付けるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみることで、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2）単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

2016年度と比較して、泉佐野市の可処分所得に基づく困窮度の分布（回答者のみ）はほぼ前回と同じような形になったが、2023年度の調査では無回答の割合が大きく全体では22.6%であった。

泉佐野市でも、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では23.2%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、18.6%であった。この数値は、前回と同様に、中2の世帯が小5の世帯よりも高くなる。前回と同傾向であったことから、前回明らかにしたクラブや塾など小学生よりも中学生の方が家計を圧迫していることに十分対応できていないことが考えられる。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回37.1%が今回30.5%であった。持ち家率は前回83.5%だったのが、今回82.9%とやや下がった結果であるが、持ち家の傾向は大きく変わらなかった。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切り詰めやレジャーを控えるなどの項目は、2016年に比較して該当率が下がっている。それに呼応して、どれにもあてはまらないという回答は前回29.5%、今回34.9%と高くなっている。家計の

赤字の数も減り、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が前回1.9%、今回0.3%と減少しているが、「子どものための本や絵本が買えなかった」が前回3.0%、今回2.8%、「子どもの学校行事などに参加することができなかった」前回0.7%、今回0.5%、「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった」前回0.3%、今回0.1%、「子どもの誕生日を祝えなかった」前回1.3%、今回0.9%、などの項目はわずかな好転が見られるが、「子どもを習い事に通わすことができなかった」前回10.1%、今回10.3%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」前回16.0%、今回16.7%などの項目は残念ながら好転がみられなかった。この結果は、医療面や学校関連での子どものいる世帯での施策は、各自治体において広く実施されその成果と思われる。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、本は前回67.6%、今回60.9%、子ども部屋は前回78.0%、今回63.1%、自転車が前回92.7%、今回85.4%と下がっているものが多い中、極端に上がったのは、スマートフォンやタブレット（前回63.3%、今回76.4%）であり、これらは学校からの配布によって普及率が上昇したと考えられる。

以上から、家計の状況は少し改善がみられるが、医療補助を受けられない究極の場合は少なくなるなど効果的であったが、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

2016年度に養育費の取り決めについては設問を入れていなかったため、泉佐野市での正確な比較はできないが、今回、養育費の取り決めをして受け取っているのは約3割であった。反面、養育費を取り決めているが、受け取っていないのは2割を超えていた。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であり、今回の結果は、養育費関連の施策の成果はあったのではないかと想定できる。

<雇用・健康>

持ち家など居住形態など2016年度と大きな変化はない。学歴については、母親の学歴を上げると、高校卒業が前回34.9%、今回24.5%、約10ポイント減少、大学卒業が前回11.0%、今回21.0%、約10ポイント上昇した。雇用状況では、何らかに仕事をしている母親は、前回93.9%、今回91.8%とほぼ同じである。そのなかで、正規職員が前回19.1%、今回26.4%で約7ポイント増えている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回13.1%、今回17.7%、児童扶養手当が前回10.4%、今回16.6%、生活保護が前回0.4%、今回0.4%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回57.9%、今回74.1%であり、かなり増加し、その理由を今回のみ聞いているが、「自身が該当しない」が90.5%でほぼ皆がそう思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。前回も「あなたが受けることができる権利がある」というメッセージを必要な人にどう届けるのかが大きな課題とされていたが、改善に至っていない。各制度を正しく知らせる

とともに、社会の支援制度にアクセスしやすいよう工夫を施す必要がある。そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」(週に1回も食べていない)が前回1.7%、今回2.8%、約1ポイントではあるが増えている。食べない理由に「用意されていないから」が、前回6.3%、今回5.0%「食べる習慣がない」が前回1.7%、今回6.0%であった。小学生の55名が毎日食べていない。このことは、2016年度も話題になったが、改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが96名いること、夕食では小学5年生で12名もの子どもがおうちの人と夕食を食べていない。これらは2016年の1回目に警鐘をならすべきこととしてとらえられていたが、より重視すべきである。

おうちの人と関わる設問は、2016年と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回32.7%、今回23.1%、「学校(クラブ活動など)」が前回31.6%、今回21.9%と減っており、コロナの影響による社会的交流が減ったことからの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」小学生なら3,4年生(56.4%)、中学生なら1年生(46.8%)でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回17.5%、今回は8.8%、2016年よりも減っている。前は身体や気持ちで気になることを聞き、今回は身体の状態で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「特に気になるところがない」が前回25.0%、今回40.3%(体調)、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が33.6%であった。

悩みについては、2016年度と傾向は変わらない。最も多いのが、「学校や勉強のこと」について「進学・進路のこと」や「自分のこと(外見や体型のこと)」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5が32.4%、中2が23.2%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5が12.4%、中2が12.3%、「学習支援の居場所」は小5が8.0%、中2が4.9%、「何でも相談できる場所」は、小5が3.7%、中2が3.5%の子どもが利用したことがあった。これら併せて居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で40.5%、中学生で27.1%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が14.9%、中2が11.5%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で19.5%、中2で11.5%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」(31.3%)と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外は、利用頻度は「食事提供の居場所」約12.3%、「学習支援の居場所」約6.8%、「何でも相談できる場所」は3.6%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて13.7%、「学習支援の居場所」が小中合わせて11.7%ほどになる。子どもたちの希望があると捉えられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校(クラブ活動など)」が減少していることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ないとする傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後にヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%(日本総研2022)、

中学生5.7%（MURC2021）という値よりはるかに高い、小5が23.5%、中2が13.0%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は81.5%（小学6年生28.5%：日本総研2022）、中2が78.4%（中学生79.8%：MURC2021）である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが、35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間以内が最も多く、定義のあいまいさが子どもにゆだねにくくさせている可能性もあるであろう。今後、イギリスのように定義や支援の基準を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」42.2%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」32.7%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」30.8%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、2023年度の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り2016年と比較する。まず経済面では、できなかった経験、つまりはく奪指標として、2016年度も検討してきた項目でまず確認する。

経済面から確認する。「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」「国民年金の支払いが滞ったことがある」などの項目において、市全体では2016年度よりも減少、特に困窮度Ⅰ群においては大幅な減少がみられる。ただし「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」において、全体では減少が見られるが、はそこまで大きくなく、将来への不安感の解消には至っていない。経済的な大人のはく奪に比べ、子どものはく奪に関して、「お子さんの進路を変更した」、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」など2016年度と比較して大きな変化はなかった。しかし、2023年度時点では、困窮度別（特に困窮度Ⅰと中央値以上）における教育の格差が依然として大きい。また「子どもの将来のための貯蓄状況」において、2016年度と比較して貯蓄している割合において増加傾向にあるが、困窮度別における貯蓄の状況に大きな差がある。また家計を住居の所有状況別にみると、「府営、市営の住宅」において、家計が赤字の世帯の割合が約半数（前回43.4%、今回50.0%）、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約7割（前回71.1%、今回70.0%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学支援制度は、申請すれば利用できるはずである困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、2016年度16.7%あり、これを減らすことを第一目的に考えたほどであったが、2023年度最も厳しい困窮度Ⅰ群において32.6%と増加している。現在利用している人をとってみても、2016年度65.4%だったところ2023年度は63.0%になっている。児童扶養手当は困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、2016年度は33.3%であったが、2023年度は5.7%と減少している。「生活保護制度」について、困窮度Ⅰ群において「利用している」が2016年度1.9%から2023年度1.1%とやや低くなっており、利用は少ない。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、つまり厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で6.4%、新型コロナウイルス

ス感染症に伴う生活福祉資金は1.2%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要があろう。

10代で親になった世帯の厳しさは2016年度同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が半数近く、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見えるような教育的支援が必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）を根本的に見直し、積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、質問形態が違うため安易に2016年と比較できないが、非正規雇用の方が、困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向は2016年と同じである。世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が前回31.9%、今回34.7%とやや高くなった。また困窮度Ⅰ群では、「非正規」群高くなっている点も変わらない。基本的に、さらにひとり親世帯への重点支援を検討すべきである。

健康に関しても傾向は、2016年度と2023年度はほぼ変わらない。つまり困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も2016年度の調査と変わらない。経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションの深さや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の多さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、2016年度の調査と同様に、中央値以上、困窮度Ⅰ群どちらも8割程度がとても期待している、期待しているに回答している。

経済状況が生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身についていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ることや、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。（イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など）

対人関係においても2016年の結果とクロスの傾向は変わらない。変わるところで述べると、放課後過ごす人の回答は「学校以外の友だち」が今回、困窮度Ⅰ群が3.8%、中央値以上群が11.5%

と3倍ほど変わり、前回の差（困窮度Ⅰ群が10.7%と中央値以上群が10.6%）より全体が低く、さらに差も広がった。また場所としても前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では公園・広場（23.3%対17.9%）、ゲームセンター（4.4%対3.4%）、図書館や公民館など公的施設（3.8%対3.1%）、学童保育（1.9%対0.3%）が特徴的で、困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は同じく、公園・広場（16.5%対13.6%）、ゲームセンター（3.8%対2.8%）、図書館や公民館など公共の施設（3.8%対2.4%）、学童保育（3.8%対2.1%）の他、自分の家や友達の家や地域の居場所の利用の割合も高くなった。これらのことから、困窮度が高いほど公共施設や地域の居場所の利用が高い傾向が見られる。塾や習い事は、前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では塾17.6%対38.8%、習い事23.3%対35.0%が、今回同じく塾17.7%対30.3%、習い事25.3%対36.6%と格差が小さくなったが依然として存在する。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

最後に、子どもが保護者以外に話せる機会が必要である。しかし、家庭と学校しかソーシャル・キャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、経済的に厳しい子どもたちをますます孤立させ、ソーシャル・キャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友達に話せないという今回の結果から、自然と話せるような場所や人材、何でも相談できる居場所などの提供を充実させる必要がある。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する対策の結果として、親の就労や学歴、所得状況は改善が見られ、中央値は上昇する結果であった。これは2021年度の厚生労働省の国民生活基礎調査の結果をみても同様の傾向である。

しかし、その分が子どもに回っておらず、物価高の影響等々考えられる。肝心の困窮度Ⅰの世帯あるいは子どもの状況の改善は見られず、悪化している部分もあった。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようとしてこども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

1. 経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。また、貧困層に対する既存の様々な社会経済的支援制度の利用を促すことが重要である。
2. 学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などの活用である。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々

的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどこかの部署でも所持するような共有化が必要である。習い事や無償化に入らない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつその申請しなくても必要な人には使用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する。

3. 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来ることから、価値や理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡 2022）やブレインストーミングのように子どもたちとの対話で進めるフィンランドの教育（北川 2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リングクウィスト・ウエステル 1997）のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できたりする力を養うことができる。
4. 地域資源：支援の場所を周知することである。自治体のパンフなど見やすい形で大阪府下全市に拡充する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったりたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストである。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談件数の数値は決して上がらず、子どもや保護者にとって相談しやすいような居場所などの場の提供が有効である。
5. 連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
6. すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
7. 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。（子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど）
8. 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持ったYOSSスクリーニング（文部科学省・山野研究室2021）の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明らかになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。必要な子どもを早期に発見し、伴走しながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴走することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
9. システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。情報共有によっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
10. 人材育成：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作り

ができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制度になる子ども家庭ソーシャルワーカーの活用などである。

11. 専門職（スクールソーシャルワーカー）：正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。
12. 法制化：これらは連携にとどまらず仕組み作りに力を入れて、制度化する。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように本格的に作成する。
13. 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに支援が必要な子どもが存在するのかわからない。データ連携することでどこに支援が必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してその効果を検証できるように設計することである。これらのシステム費用がベンダーロックにより予算がかかる課題がある。企業、自治体や政府が連携してクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル，川上 邦夫（翻訳）（1997）『あなた自身の社会：スウェーデンの中学教科書』新評論。
- 大阪府（2023）「大阪府子ども（子育て世帯）に対する食費支援事業（第2弾）」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学（2017）「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫（2005）「図解フィンランド・メソッド入門」経済界。
- 厚生労働省（2004）「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省（2017）「平成28年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省（2022）「2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠（2016）『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房。
- 内閣府（2010）「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)
- 西澤哲・西岡加名恵ほか（2022）『『生きる』教育：自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準。
- 日本総研（2022）「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省。
- 三菱UFJリサーチコンサルティング（株）（2021）「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省。
- 文部科学省（2023）「令和5年度就学援助の実施状況」
(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)
- 山野則子編著（2019）『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見てきたもの』明石書店。
- 山野則子（2018）『学校プラットフォーム』有斐閣。

- 山野則子研究室（2021）「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」厚生労働省.
- 山野則子研究室（2021）「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」文部科学省.
- 柳澤靖明・福島尚子（2019）『隠れ教育費：公立小中学校でかかるお金を徹底検証』太郎次郎社エディタス.
- UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	183
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	185
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの.....	187
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均.....	188
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均.....	189
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均.....	190
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	191
図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）	192
図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況	193
図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数	194
図 11. 困窮度別に見た、住居形態	195
図 12. 困窮度別に見た、家計の状況	196
図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	197
図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	198
図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	201
図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016 年度調査との比較）	202
図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	203
図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016 年度調査との比較）	204
図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	205
図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016 年度調査との比較）	206
図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	207
図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	208
図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	209
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	210
図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	211
図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	212
図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	214
図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）	216
図 29. 住居形態別に見た、家計の状況	217
図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	218
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況.....	219
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況.....	220
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	221
図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	222
図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	223
図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	224
図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	225
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況.....	227
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況.....	229
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	231
図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	233
図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	235
図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	237
図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	239
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況.....	240
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況.....	241
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	242
図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	243
図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	244
図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	245

図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況 ...	246
図 52. 困窮度別に見た、就労状況	248
図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴	249
図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴	250
図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況	251
図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況	252
図 57. 世帯構成別に見た、就労状況	253
図 58. 就労状況別に見た、家計の状況	254
図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度	256
図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度	257
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度	258
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度	259
図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	260
図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	261
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度	262
図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）	263
図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）	264
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	265
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	266
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	267
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	268
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	269
図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	270
図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	271
図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	272
図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	273
図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	275
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがた くさんある	276
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	277
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	278
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうま くできる	279
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	280
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	281
図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	282
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	283
図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	284
図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	286
図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	288
図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	290
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	291
図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	292
図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	293
図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	294
図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	295
図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	296
図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか	298
図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか	299
図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人のの人に宿題（勉強）をみてもらうか	300
図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか	301

図 100.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	302
図 101.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	303
図 102.	困窮度別に見た、授業以外の読書時間	304
図 103.	困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	305
図 104.	子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）	306
図 105.	子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）	307
図 106.	起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	308
図 107.	起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	309
図 108.	朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	310
図 109.	朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	311
図 110.	起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間	312
図 111.	朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間	313
図 112.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連	314
図 113.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連	315
図 114.	学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度	316
図 115.	学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度	317
図 116.	学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間	318
図 117.	学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間	319
図 118.	学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度	320
図 119.	困窮度別に見た、子どもの将来への期待度	321
図 120.	困窮度別に見た、希望する進学先	322
図 121.	困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）	323
図 122.	困窮度別に見た、子どもに希望する進学	324
図 123.	困窮度別に見た、学校への遅刻	325
図 124.	困窮度別に見た、子どもの通学状況	326
図 125.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか	327
図 126.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか	328
図 127.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	329
図 128.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと学校のできごとについて話すか	330
図 129.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	331
図 130.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか	332
図 131.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか	333
図 132.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に外出するか	334
図 133.	学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること	336
図 134.	学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	337
図 135.	学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	338
図 136.	学校への遅刻別に見た、希望する進学先	339
図 137.	学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	340
図 138.	子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること	342
図 139.	子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合	343
図 140.	子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	344
図 141.	子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）	345
図 142.	子どもの通学状況別に見た、希望する進学先	346
図 142.	困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯	347
図 144.	困窮度別に見た、子どもへの信頼度	348
図 145.	困窮度別に見た、子どもとの会話頻度	349
図 146.	困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	350
図 147.	困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	351
図 148.	自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況	353
図 149.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	354
図 150.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	355

図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所	359
図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人	361
図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと	363
図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること	365
図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	367
図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	369
図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016 年度調査との比較）	370
図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合	371
図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合（2016 年度調査との比較）	371
図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	372
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	373
図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか.....	374
図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	375
図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校のできごとについて話すか	376
図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	377
図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか.....	378
図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと文化活動をするか.....	379
図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと一緒に外出するか.....	380
図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	381
図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	382
図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所.....	383
図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所	384
図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験	385
図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	387
図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	389
図 176. 勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	391
図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	393
図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	395
図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	396
図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	397
図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所	398
図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所.....	399
図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	401
図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	403
図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	405
図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	407
図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所.....	409
図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所.....	411
図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	413
図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	415
図 191. 身近にあるといいと思うこと等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所	417
図 192. 身近にあるといいと思うこと等の状況別に見た、何でも相談できる場所.....	419
図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無.....	421
図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	423

IV 資料編

<家庭生活・学習に関する考察> 参照データ

子ども__問7 学校への遅刻

(上段：実数、下段：%)

子ども__問26 (1) 自分が世話をしている人の有無

	調査数	毎 日 毎 日 ま た は ほ と ん ど	週 に 4 〜 5 回	週 に 2 〜 3 回	週 に 1 回 程 度	遅 刻 は し な い	無 回 答
全 体	745 100.0	19 2.6	3 0.4	12 1.6	29 3.9	665 89.3	17 2.3
いる	145 100.0	5 3.4	1 0.7	6 4.1	6 4.1	122 84.1	5 3.4
いない	587 100.0	14 2.4	2 0.3	5 0.9	23 3.9	533 90.8	10 1.7
無回答	13 100.0	— —	— —	1 7.7	— —	10 76.9	2 15.4

おおさか ふ こ せいかつ かん じつたいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがくせい む ちようさ ちようさひよう いずみさのし
小学生・中学生向け調査 調査票【泉佐野市】

ちようさ きょうりよく ねが
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、泉佐野市内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。大阪府と共同で実施しています。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆泉佐野市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月29日までに回答してください。

うえぶ かいたう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをござらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさ ひよう かいたう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

きげん れいわ ねん がつ にち きんようび
◆期限： 令和5年9月29日（金曜日）◆

【調査に関するお問合せ先】※学校へのお問い合わせはお控えください。

いずみさのし ぶ こそだ しえんか
泉佐野市 こども部 子育て支援課

でんわ 072-493-2096 (直通) / 072-463-1212 (内線：2384)

※8：45～17：15 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしみり
ファクシミリ 072-469-3363

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように答えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。
(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。
(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅうに4～5かい	週に2～3回 しゅうに2～3かい	週に1回程度 しゅうに1かい程度	月に1～2回 つきに1～2かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちのてっだの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひととあそんだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）	1	2	3	4	5	6	7

問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒に過ごしているとき	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒に過ごしているとき	6. 塾や習いごとで過ごしているとき
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりで過ごしているとき	8. その他

とい 問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりである
8. その他の人

とい 問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい 問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね！

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、学校や学校の行事等で次のようなことがありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 授業中に寝てしまうことが多い	7. 運動会や遠足などの学校行事を欠席する
2. 宿題ができていないことが多い	8. 保健室で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	9. 学校ではひとりで過ごすことが多い
4. 習いごとを休むことが多い	10. ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
5. 提出物を出すのが遅れることが多い	11. 特にない
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する	

とい 問17 今、あなたは、いやなことや悩んでいることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちのこと	6. 好きな人のこと
2. 学校や勉強のこと	7. 進学・進路のこと
3. クラブ活動や部活動のこと	8. その他のこと
4. 自分のこと（外見や体型など）	9. いやなことや悩んでいることはない
5. ともだちのこと	10. わからない

とい 問18 あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。（だれに話しますか。）

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 親	12. インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人
2. きょうだい	13. 近所の人
3. 親せき	14. 地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）
4. 学校のともだち	15. その他の人
5. 学校以外のともだち	16. だれにも相談できない
6. 学校の先生	17. だれにも相談したくない
7. スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー	18. わからない
8. 塾や習いごとの先生	
9. 学童保育の先生（※）	
10. 子ども専用の電話相談	
11. SNSなどのインターネットやLINEの相談	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	そう うっ だも	とき どき そう だ	そ ん な い こ と
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



© 泉佐野市／ゆでたまご

答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 本 (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)	8. テレビ
2. マンガ・雑誌	9. けいたい電話
3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと 一緒に使っている部屋など)	10. スマートフォン・タブレット機器
4. インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)	11. 化粧品・アクセサリ
5. 運動用具 (ボール・ラケットなど)	12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど)
6. ゲーム機	13. 自分で選んだ服
7. 自転車	14. キャラクターグッズ
	15. その他
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考 えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. そう思う	3. どちらかというと思わない
2. どちらかというと思う	4. そう思わない

とい 問23 あなたがふだん 考 えていることについて、次の (1) ~ (3) について教えてください。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある

1. ある	3. どちらかというたない
2. どちらかというたある	4. ない

(2) 自分の^{じぶん}考^{かんが}えをはっきり^{あいて}相^{つた}手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の^{じぶん}将^{しょう}来^{らい}の夢^{ゆめ}や目^{もく}標^{ひょう}を持^もっている

1. ^も 持っている	3. どちらかという ^も と持 ^も っていない
2. どちらかという ^も と持 ^も っている	4. ^も 持 ^も っていない

とい 問24 あなたは、^{しょうらい}将^{しょう}来^{らい}ど^{がっこう}の学^い校^{おも}まで行^いきたいと思^{おも}いますか。

(あてはまる番^{ばん}号^{ごう} 1 つに○をつけてください)

1. ^{ちゅうがっこう} 中 ^{ちゅう} 学 ^{がっこう} 校 ^{こう}	6. ^{りゅうがく} 留 ^{がいく} 学 ^{なが} (外 ^き 国 ^{かん} で長 ^{べん} 期 ^き 間 ^{きょう} 勉 ^め 強 ^{きやう} するこ ^と)
2. ^{こうこう} 高 ^{こう} 校 ^{こう}	7. ^{せんもんがっこう} 専 ^{せん} 門 ^{もん} 学 ^{がっこう} 校 ^{こう} (美 ^び 容 ^{よう} 師 ^し や調 ^{ちょう} 理 ^り 師 ^し など仕 ^し 事 ^{ごと} の
3. ^{たんきだいがく} 短 ^{たん} 期 ^き 大 ^{だい} 学 ^{がく}	^{しかた} 仕 ^ぎ 方 ^じ や技 ^ぎ 術 ^{じゆつ} を学 ^{まな} ぶた ^め の学 ^{がっこう} 校 ^{こう} など)・高 ^{こう} 等 ^{とう}
4. ^{だいがく} 大 ^{だい} 学 ^{がく}	^{せんもんがっこう} 専 ^{せん} 門 ^{もん} 学 ^{がっこう} 校 ^{こう}
5. ^{だいがくいん} 大 ^{だい} 学 ^{がく} 院 ^{いん}	8. ^{かんが} 考 ^{かん} え ^が た ^が こ ^と が ^な い
	9. わから ^な い

あともう少^{すこ}しだよ！

がんばってね！



© 京佐野市／ゆでたまご

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

(1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない (あれば利用したい と思う)	利用したことはない (今後利用したい と思わない)	利用したことはない (今後利用したい か分からない)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所 (一般的な学習塾とはちがう学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

(2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりでいける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってもいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたが世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによつて次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふ 増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

相談窓口のご案内

○親子やきょうだいのことなど家庭での悩みについては

＜いずみさのこどもフリーダイヤル＞

TEL : 0120-510-783

平日 8:45～17:15

＜子どもの悩み相談フリーダイヤル＞

TEL : 0120-7285-25

24時間 365日

LINE <https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/sodanliner3/index.html>



© 泉佐野市／ゆでたまご

＜親子のための相談LINE＞

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

○友人関係など学校での悩みについては

＜すこやかホットライン＞

TEL : 06-6607-7361

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp

【ひとりで悩まないで、相談してね。】

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほ ご し ゃ む ちようさ ちようさひよう い ず み さ の し
保護者向け調査 調査票【泉佐野市】

ちようさ きようりよく ねが
< 調査への協力をお願い >

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、泉佐野市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考え、大阪府と共同で実施しています。お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、小学5年生と中学2年生の保護者です。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてののみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月29日までに回答してください。

う え ぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさひよう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答の入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を調査票が入っていた封筒にまとめて入れ、学校に提出してください。

きげん れいわ ねん がつ にち きんようび
◆期限： 令和5年9月29日（金曜日）◆

【調査に関するお問合せ先】 ※学校へのお問い合わせはお控えください。

い ず み さ の し ぶ こ そ だ し えん か
泉佐野市 こども部 子育て支援課

でんわ ちよくつう ないせん
電話 072-493-2096（直通）／072-463-1212（内線：2384）

※8：45～17:15 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしり
ファクシミリ 072-469-3363

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしただけでください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含まれます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。(①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください) (⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。)

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している (再婚や事実婚を含む。)	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

（1）前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

（2）お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

とう お父さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

かあ とう い がい しゅ かけい ささ かた お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができませんでした
7. お子さんを習い事に通わせることができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

とい 問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15分未満	1. 2時間未満
2. 15分～30分未満	2. 2時間～4時間未満
3. 30分～1時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 10時間以上
7. 4時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ときどき参加している	4. まったく参加していない

とい 問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所 (子ども食堂)
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある

2. 利用したことがない

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 地域の人とつながれるから

2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから

3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから

4. 運営者が相談に乗ってくれるから

5. 低額 (または無料) でご飯が食べられるから

6. 宿題など勉強を見てくれるから

7. お子さんが楽しんでいるから

8. 特になし

9. その他

(3) 問16 (1) の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから

2. 家の近く (小学校区内) にないから

3. 家で過ごしてほしいと思うから

4. 居場所のイメージがよくないから

5. お子さんが「行きたくない」と言っているから

6. 行きたい日・時間に開いていないから

7. 利用したいと思わないから

8. 何をしているかわからないから

9. その他

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。（実子以外も含みます）

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め（お子さんは除く）、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 （運動や文化活動）	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員（※）
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい 問20 つぎ 身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがる}話せる^{はな}場^ば 2. SNS^{えすえぬえす}などのインターネット^{いんたーねっと}を通じて^{つう}悩み^{なや}ごとを話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじょ}が受け^うられること 4. 支援^{しえん}制度^{せいど}など必要^{ひつよう}な情報^{じょうほう}を届^{とど}けてくれること 5. 困^{こま}った時^{とき}にご飯^{はん}を無料^{むりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届^{とど}けてくれるサービス^{さーびす}	6. お子^こさんが放課^{ほうか}後^ごや休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきょう}などができる場所^{ばしょ}を利用^{りよう}できること 7. お子^こさんが無料^{むりよう}で学習^{がくしゅう}支援^{しえん}を受け^うられる場所^{ばしょ} 8. お子^こさんや保護^{ほご}者^{しや}が夕食^{ゆうしよく}を無料^{むりよう}か安い^{やす}料金^{りょうきん}で食^たべるこ とができる場所^{ばしょ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できること

とい 問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

（1）生活^{せいかつ}を楽し^{たの}んでいますか。（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. とても楽し ^{たの} んでいる	3. あまり楽し ^{たの} んでいない	5. わからない
2. 楽し ^{たの} んでいる	4. 楽し ^{たの} んでいない	

（2）将来^{しょうらい}に対して希望^{たい}を持^もっていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てる	3. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てない
2. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てるときもあれば、持 ^も てないときもある	4. わからない

（3）ストレス^{す とれす}を発散^{はっさん}できるものがありますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

（4）あなたは、ご自分^{じぶん}が幸せ^{しあわ}だと思いますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. とても幸せ ^{しあわ} だと思う ^{おも}	4. 幸せ ^{しあわ} だと思 ^{おも} わない
2. 幸せ ^{しあわ} だと思 ^{おも} う	5. わからない
3. あまり幸せ ^{しあわ} だと思 ^{おも} わない	

とい
問22 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが気になる
2. よく頭 あたま がいたくなる	11. やる き 気が起きない
3. 歯 は がいたい	12. イライラする
4. 不安 ふあん な気持ち きもち になる	13. よく肩 かた がこる
5. ものを見づらい	14. よく腰 こし がいたくなる
6. 聞こえにくい	15. とくに き 気になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

こた しつもん こた ひつよう
答えたくない質問に答える必要はありません。

こた まよ ばあい きもち かんがえ ちか えら
答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きが わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください
3に○をつけた場合、

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型ウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。（例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。）

	かい 回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

(1) あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ワンルーム	3. 居室2部屋（2K、2DK、2LDK）
2. 居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	4. 居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上

(2) その住居には、何人でお住まいですか。（□に数字をお書きください。）

	にん 人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

○生活困窮者自立支援相談窓口

https://www.pref.osaka.lg.jp/shakaiengo/seikon_gaiyou/index.html#jiritu

○大阪府立母子・父子福祉センター（大阪市、堺市、豊中市は各市の窓口）

<https://osakafu-boshiren.jp/>

○子育てや親子関係の悩みについては

<親子のための相談LINE>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

にじげんばーコード
[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

【URL】 <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

泉佐野市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

泉佐野市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学